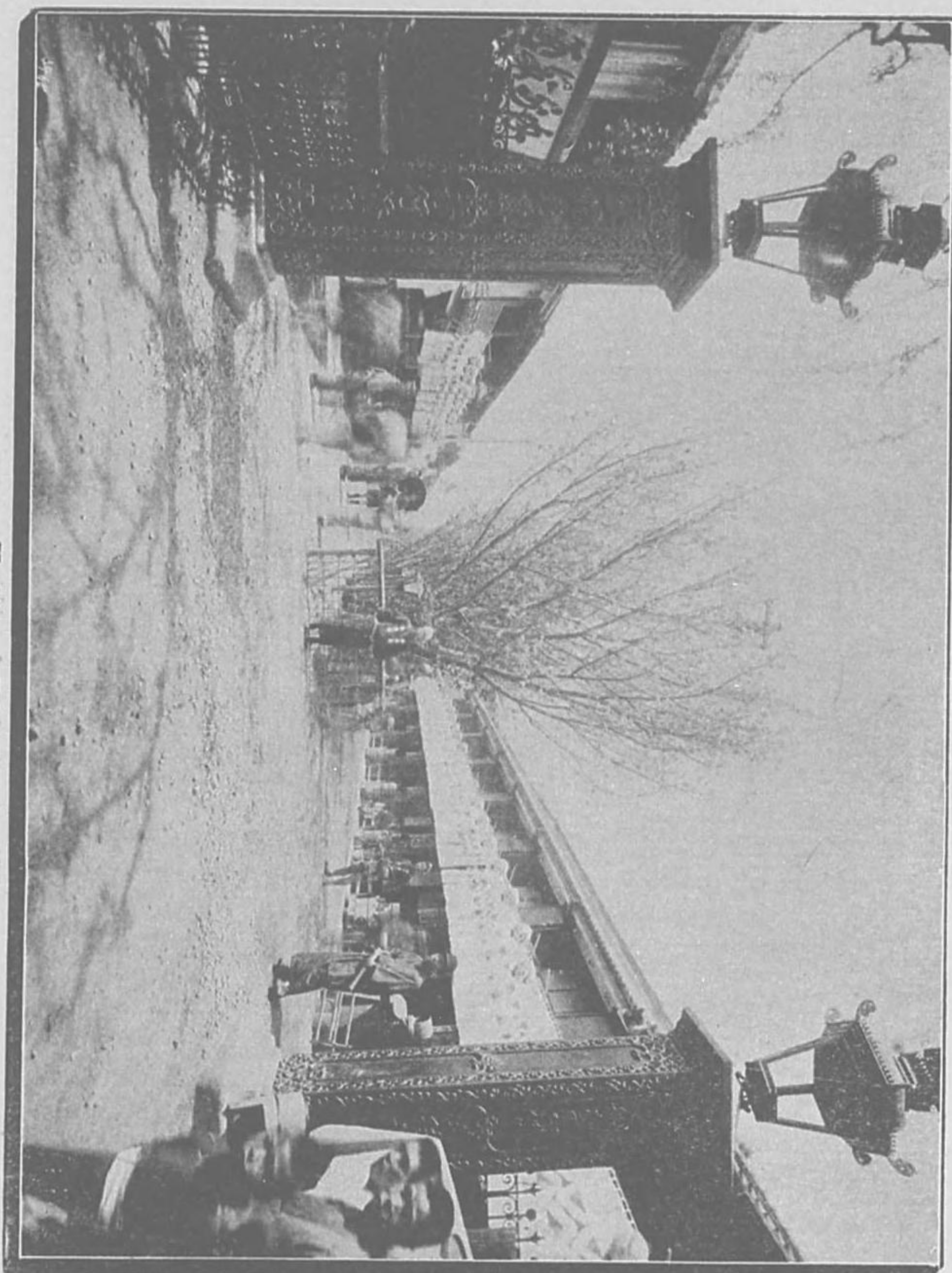


(東京) 吉原江戸町

Edo-machi, Yoshiwara, Tokyo.



(東京) 吉原大門

Yoshiwara, Tokyo.

吉原大門 (東京)

東京淺草公園の北に在りて、吉原遊廓の入口なり、抑も同廓の沿革を按ずるに慶長年中江戸市街の漸く繁盛に赴く頃、駿州吉原驛の遊女屋廿餘人、江戸に移住して廓を各所に開き、多く今の京橋長足町の近傍に群集せるが後ち庄司甚右衛門なる者公許を得て茅屋町の近傍に一廓を設け之を霞原町と稱す今尚ほ同地に大門通りの名を存するは是れが爲なり、後ち明曆三年、幕府替地を今の地に賜はりて、妓樓悉く此に移り改めて新吉原と稱するに至れり、門に二條の鐵柱あり福地櫻痴の筆に成れる『春夢方濃、滿街標雲、秋信先通、兩行燈影』の十六字を彫し柱上には瓦斯燈を以て新吉原の三字を掲げ其美觀目を驚かす計りなり門外には衣紋坂、見返り柳などあり、門内は即ち一の不夜城にして、紫紺緋帯左右妓院の中に列し嬌瘦揚肥各々其嫵妍を闘はし其美、其麗、兼より兼舌の能く盡す所にあらず、尙ほ洩れたるは吉原江戸町の圖下にするす。

吉原江戸町 (東京)

吉原遊廓の一市街にして廓内繁盛の地なり、同廓には京町、摺屋町、角町、江戸町、伏見町、仲之町等の數坊ありて今は大小妓院の數、百有餘軒、娼妓四千餘人を有し、大雁高毳軒を連ね、電燈は屋の内外を照して、夜猶ほ晝を欺き、殊に四月の夜櫻、八月の燈籠などは、共に廓中の壯觀にして、薄治遊廓の春を購はんとするものは言ふも更なり、貴賤男女の單に此の盛觀を見んとするもの群と坊内に群集して、幾んど立錫の地なきに至る、櫻痴居士の門柱に題したる櫻雲、燈影の聯句は應に之を言ふなるべし。

横濱港全景



Yokohama Harbor ; Musashi.

Wisteria Garden of Ushijima ; Musashi.



牛島の藤花園 (武蔵)

牛島藤花園 (武蔵)

武州南葛飾郡牛島村に在り、園四季の花木を養ひ梅あり、櫻あり、菊あり、楓あが中にも、藤花は最も園主の誇る所にして、夏季に至れば、架土蒼然として叢をなし、株々錦を裁し、枝々珠を綴り、紫白色を帯ひて、其美、其麗、形容すべからず、傳へ云ふ此藤は凡そ七八百年以前園主藤岡の祖先が植えたるものにて花房七尺以上に及び木の太さ二丈に及び世に珍しきものなりと云ふ。

The Wisteria Gardens of Ushijima.

These gardens are situated a little east of Mukkojima, on the eastern bank of Sumida River while special attention is paid to the wisteria, other flowering plants, as well as maples, are to be found at the appropriate seasons.

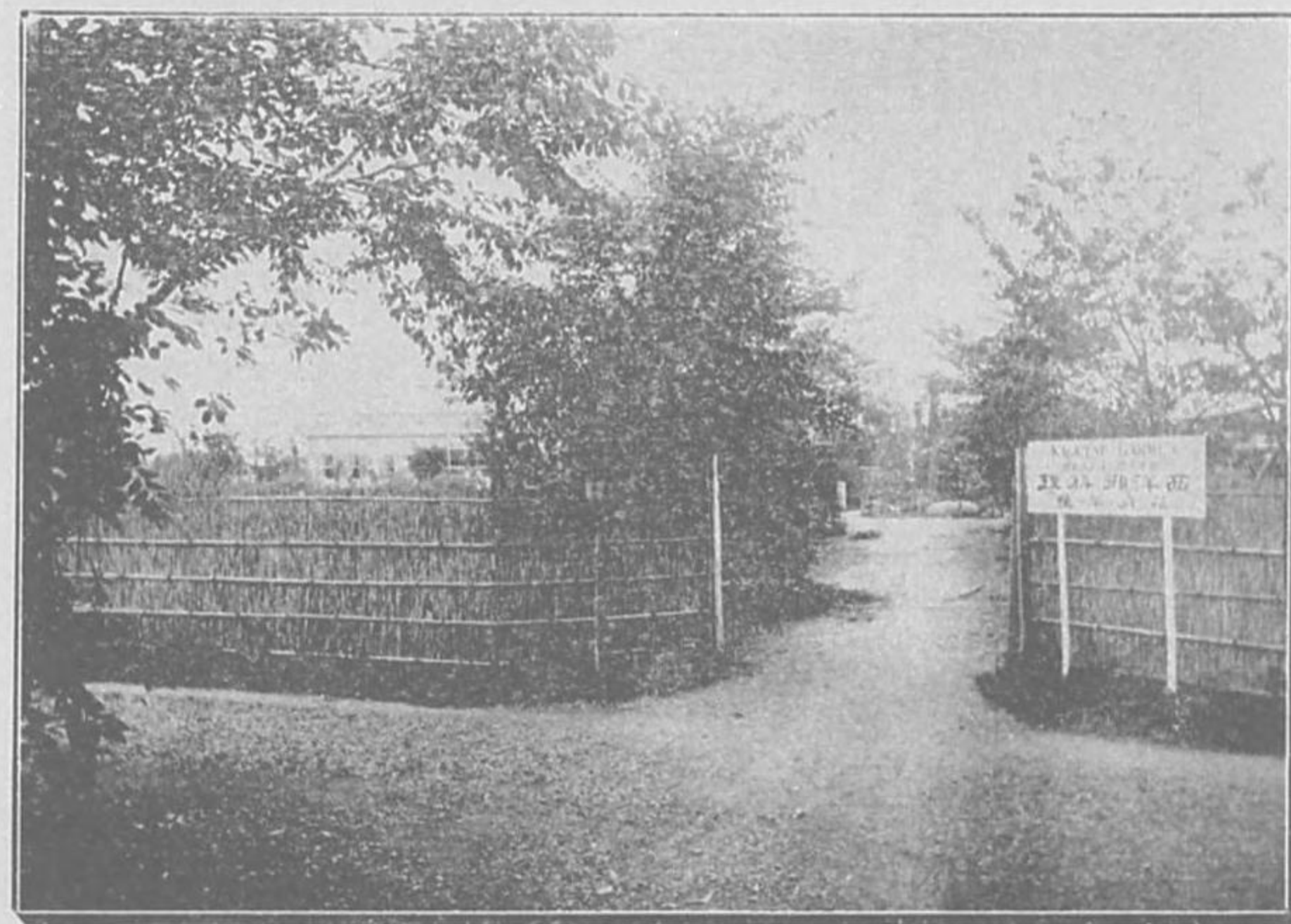
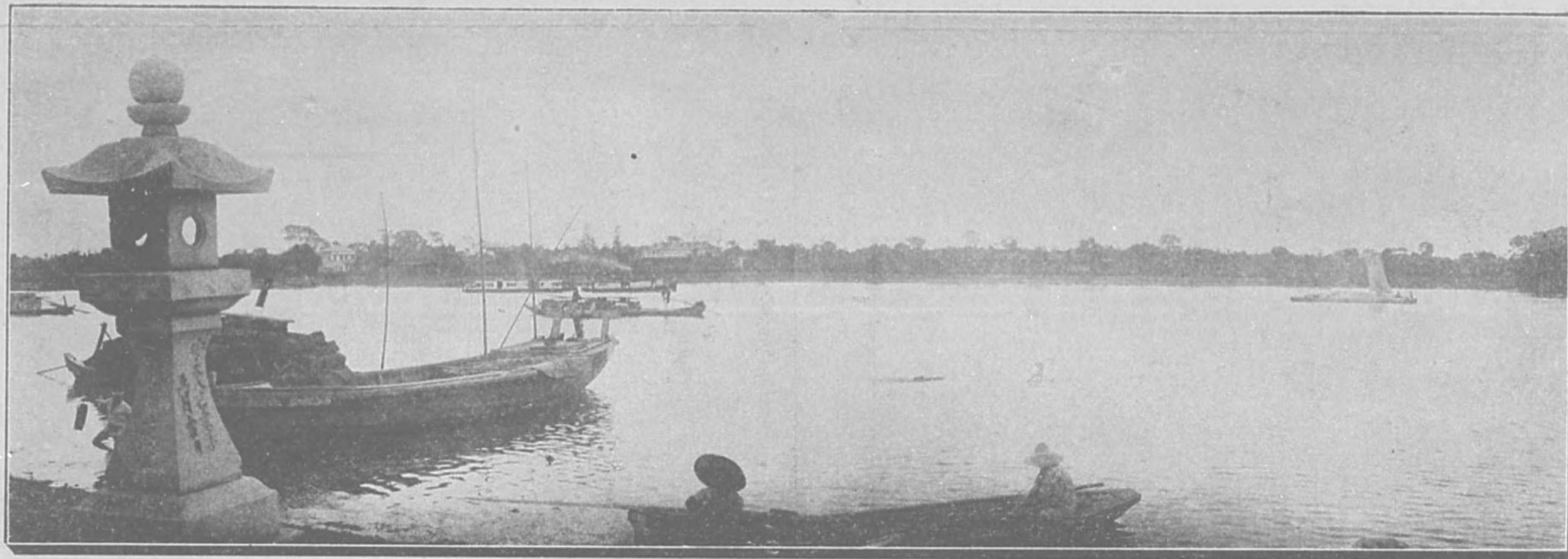
横濱港 (武蔵)

武州久良岐郡に在りて、本邦第一の開港場なり、其廣袤、東西二十三町、南北一里五町、面積方里三分五厘を有し、市坊の數二百三十、戸數三萬、人口十二萬を載す、昔時は寂寞たる一村落到過ぎざりしが、安政六年、海外各國と交易を開くに方り、始めて此地を互市場となし、地を限りて外人の居住を許せしより以來、内外の船舶、日夜港口に出入し、百貨輻輳、戸口年々に増加し、終に今日の昌隆を致せり、市街整然家屋宏壯街衢到る處燈籠を極め、車馬絡繹絶るが如し、公館には神奈川縣廳、地方裁判所、税關、燈臺局などあり、舊外國人居留地は市の南部に在りて、石屋瓦葺の鞠奕なるもの極めて多し、港の深さは八俣より、十俣に至り、自由に大艦巨船を繋留せしめ得べしと云ふ。

Yokohama Harbor.

Yokohama is the capital of the prefecture of Kanagawa and the principal seaport of Japan, although of late years, Kobe has gained an almost equal place. Yokohama was opened to the residence of foreigners in 1859. Its population was in 1899, about 194,000.

見望岸對及園邸檀花月花 (島向京東)



Flower Garden of Kagetsu, Mukōjima; Tokyo.

The Garden of Kagetsu Restaurant at Mukōjima.

The Kagetsu Restaurant is the largest in Shimabashi, Tokyo. The proprietor has opened also a branch at Mukōjima, for the benefit of picnic parties, where special attention is paid to the wants of foreign guests. The garden has been arranged with great care, and the picture shows

one of its interesting features.

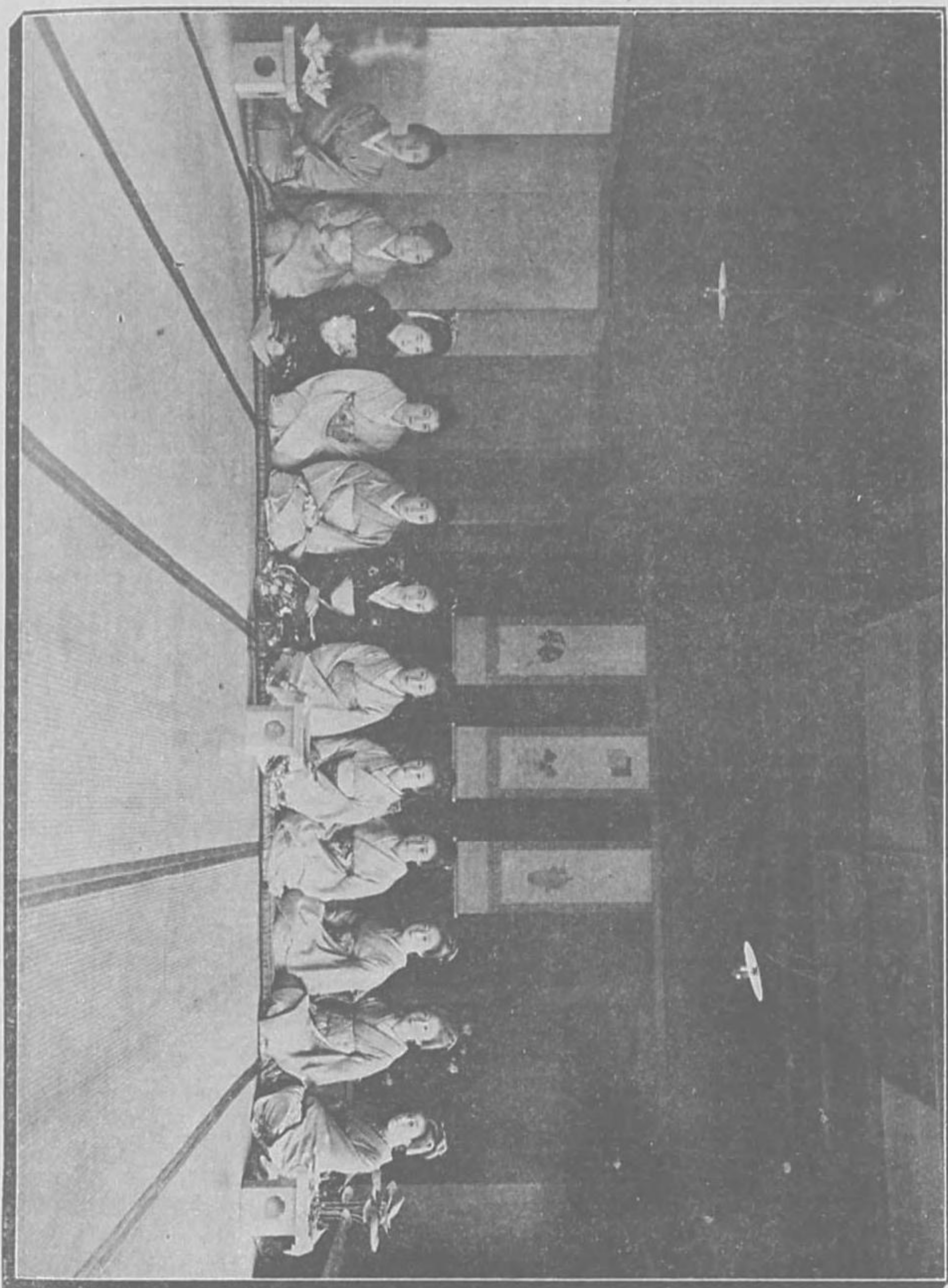
花月花壇 (東京)

東橋を渡りて、長堤十里の風光を愛でつゝ、白鬚祠前に至れば、左方の芳草離々たる田圃を隔て、一の高樓を見るべし、白堊糲糊として綠樹に對し、恰も、墨田河上を行く片帆の如きもの、これ、花月花壇中の一圃なり、見るからに、園内の模様を想ひやられて、自ら足の進むを覺ゆるらん。そも、この花壇は、新橋にて其名高き割烹店花月の主人が、萬金を投じて築きたるものにして、墨田の流に枕し、向嶋の長堤に對し、富士と筑波を遠景に控へて、四時の眺望を集めたる花壇なり。境内殆んど一萬坪に近く、奇草を栽ぬ珍木を植へ、園内には、瀟灑なる日本風の建築もあり、高壯なる西洋造りの層樓もありて、西洋料理の調製は、特に其意を用うるところとかさく。されば四季の遊覽場として適當なるは勿論、多人數の園遊會などを催すには、まことに強強の場所なるべく、外國の紳士が、宿泊するにも亦た、尤も適當せるものならん。主人は、元來園藝の嗜好あるとて、今や専ら其設置に工風をこらし、明年までには、一層完成の境に達せしめんと期しつゝ、ありといふ。墨田河邊の勝地たるは、夙に世人の知るところなり、この勝地にこの名園あり、郊外の清興を求むる貴顯紳士は、まさにこの花壇にあそび、閑靜なる樓上に坐して、待乳山の雪を賞し、木母寺の鐘をきき、隅田堤の花をながめ、鐘ヶ淵の帆影を吟せば、以て都門の塵を半日に洗ひつくすを得べし。



Army of Geishas I

(東京新橋) 百花鏡妍其一



Army of Geishas II

全 其 二

新橋美人 (東京)

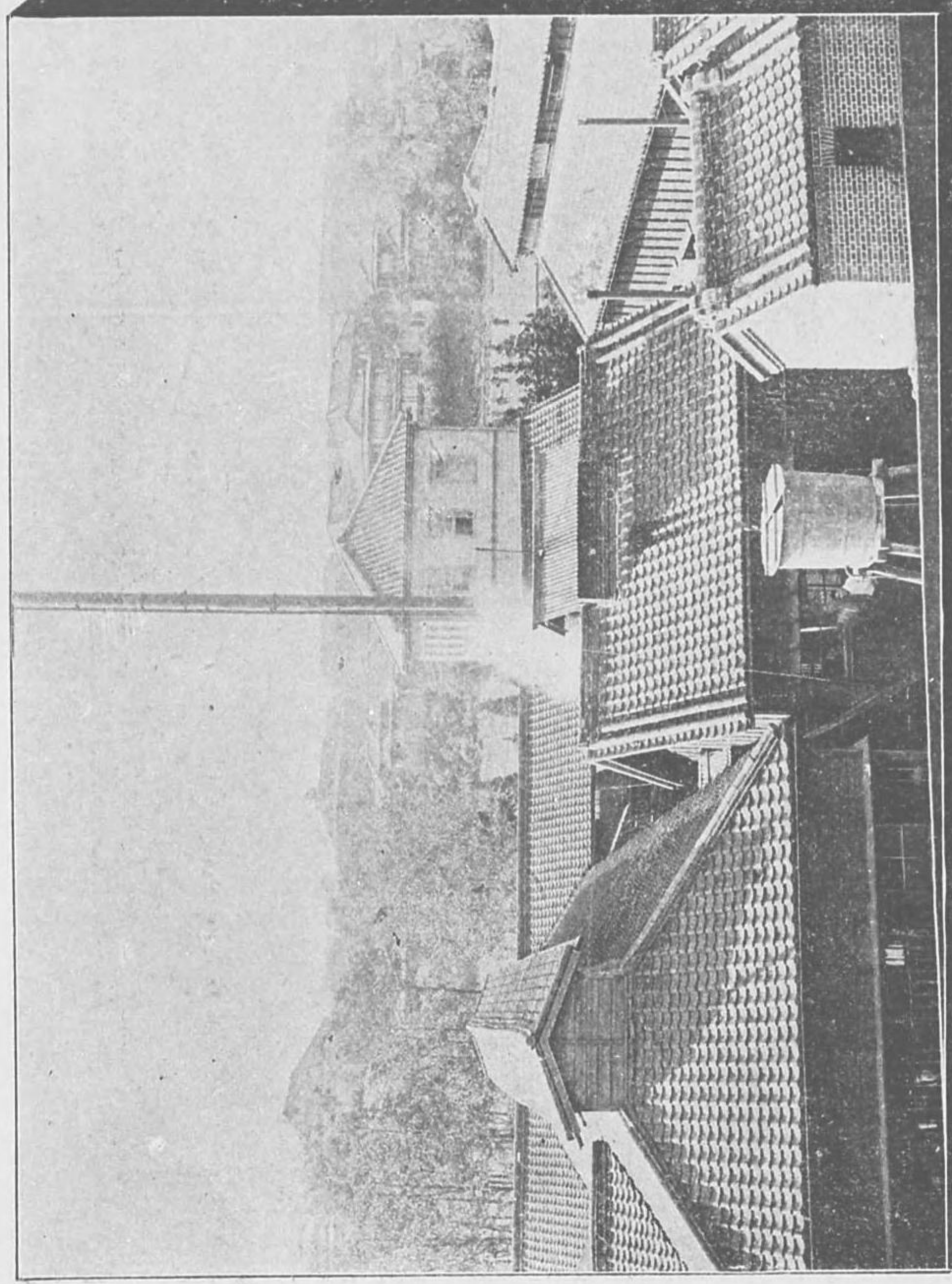
ひかしの、日本の花の大江戸は、いまは、亞細亞の春の東京となり、其繁華は、スエヌ運河以東第一と稱へらる。その大都の春色を添へて、八百八街に不夜城の幕をひらくは、銀座街の上に輝ける電氣燈にあらすして、その裏通りに軒を並べたる、一間の格子戸よりもるゝ御神燈の光なり。夕日の影、愛宕の塔にかゝりて、品川灣の臺場おぼろにかすむころとなれば、橋南橋北に、高く聳わたる護樓の門前に、瓦斯燈の光かゝりて、風流豪華の客をのせたる車は、威勢よくこゝに向ふべし。肉の丘、酒の池、紅燈の光照り添ひて、座客の耳やうやく熱する頃、嬌聲階下にひびきて、やがて、蘭麝の香まづ室を襲ひ、楚々として坐間に列するものは、不夜城門の鍵を双手に握りて、一顰一笑に生殺の力をもつてふ、新橋の美人なり。昔時、東都の妓をいふもの、先づ指を新柳二橋に屈せり、柳橋は瀟酒を以てまさり、新橋は妖艶を以て鳴る、かれは、俠氣の凜たるを以て稱せられ、これは、巧笑の情たるを以て名ありき。されど、今日にいたりては、新橋の名遙かに柳橋の上にて、都門の春光の七分は、その占有するところとなり、東京の美人といへば、新橋藝者といはるゝ、ほごになりぬ。げに新橋は、東京に入る咽喉にして、内地の旅客は勿論、海に航して内外國を往來するもの、必ず足をいささかとどるなり、この要地を占めて、活殺自在の腕を揮ふことなれば、この地の流行は、全國花柳巷の大部を支配し、漁村に唱ふる歌曲も、一度び新橋美人の嬌舌にのれば、忽ち到るところに反響し、髪結びかたより、衣服の着こなしに至るまで、ことごとく一般の模範とならざるなし、まことに、歌吹海の尤も優れたるものといふも、決して誇言にあらざるべし。されば、近年名妓の輩出するものすくなくならず、伯樂しばしばよぎれども、終に馬群を空しくする能はずして、風流の杜牧春を尋ねると運きを恨まず、多情の韓郎秋に柳の衰ふるを悲まざるべし。こゝにあけたる十二名の美人は、橋南橋北の粹を集めて、春の花の常に麗しく、秋の月の長へに明なるを表さんどて特に、土地にさこえし花月の一室に於いて、時様の粧をこらし、風流の態をつくして撮影せしものなり。正にこれ、百花妍をあらそひ千芳艶を競ふもの、亞細亞の春の東京風は、床しき香をふくみて、この紙面に吹きつゝあるなり。

金 千 末 き かし ば 常 小 國 金
代 人 子 子 し ね 子 子 太 郎
龍 子 子 子 子 め ね 子 子 次



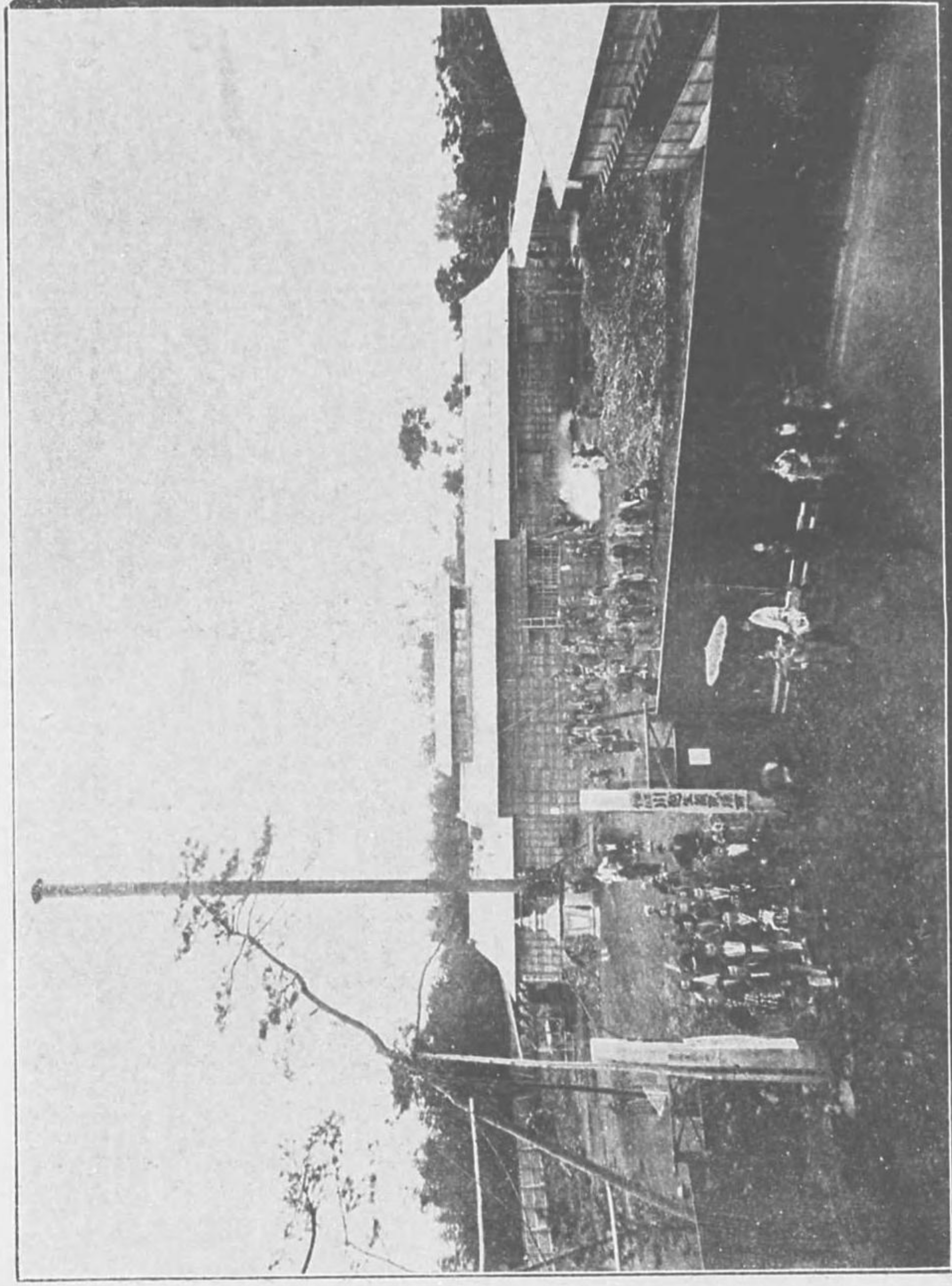
金 千 小 千 さい
代 子 子 子 子 子
龍 子 子 子 子 子
き ね ね ね ね ね
ん し ね ね ね ね ね

(東京) 御法川機械工場及學校



Minorigawa Engine Factory; T. Iyō.

(武蔵) 川越生繭乾燥寮所



Cocoon Drying Rooms at Kawagoe; Minashi.

The Minorigawa Iron Works.

These works are located in Fukagawa, Tokyo. The proprietor makes a specialty of machinery for filatures and cocoon drying, etc., and claims with confidence that the machines purchased from his shops will not prove inferior to the best imported from France

御法川工場 (東京)

場主は御法川直三郎といひ、夙に、本邦唯一の物産たる生絲が、伊佛諸國に劣るものあるを憂ひ、苦心慘憺の結果遂に蠶絲業に關する一切の器械改良をなし、其製造せし鐵製再繰式製絲器械。同揚返器械。同直揚式製絲器は、孰れも精巧完全の良器械として、この工場の特許專賣品たり。生繭乾燥用器械なる多管式蒸氣乾燥器械は、本邦最新なる意匠をこらしたるものにして、其効用の大なる、日本の新業家に二大利益を興へたるものなり。現今、本邦の蠶絲業の主なるものは、概ね以上の器械を用ゐざるなく、其高許は到る處に傳播せり、歐米を巡遊せし來か、蠶絲器械製造所として、御法川工場は世界第一なり、どの贊許を興へしも、決して偶然にあらざるべし。

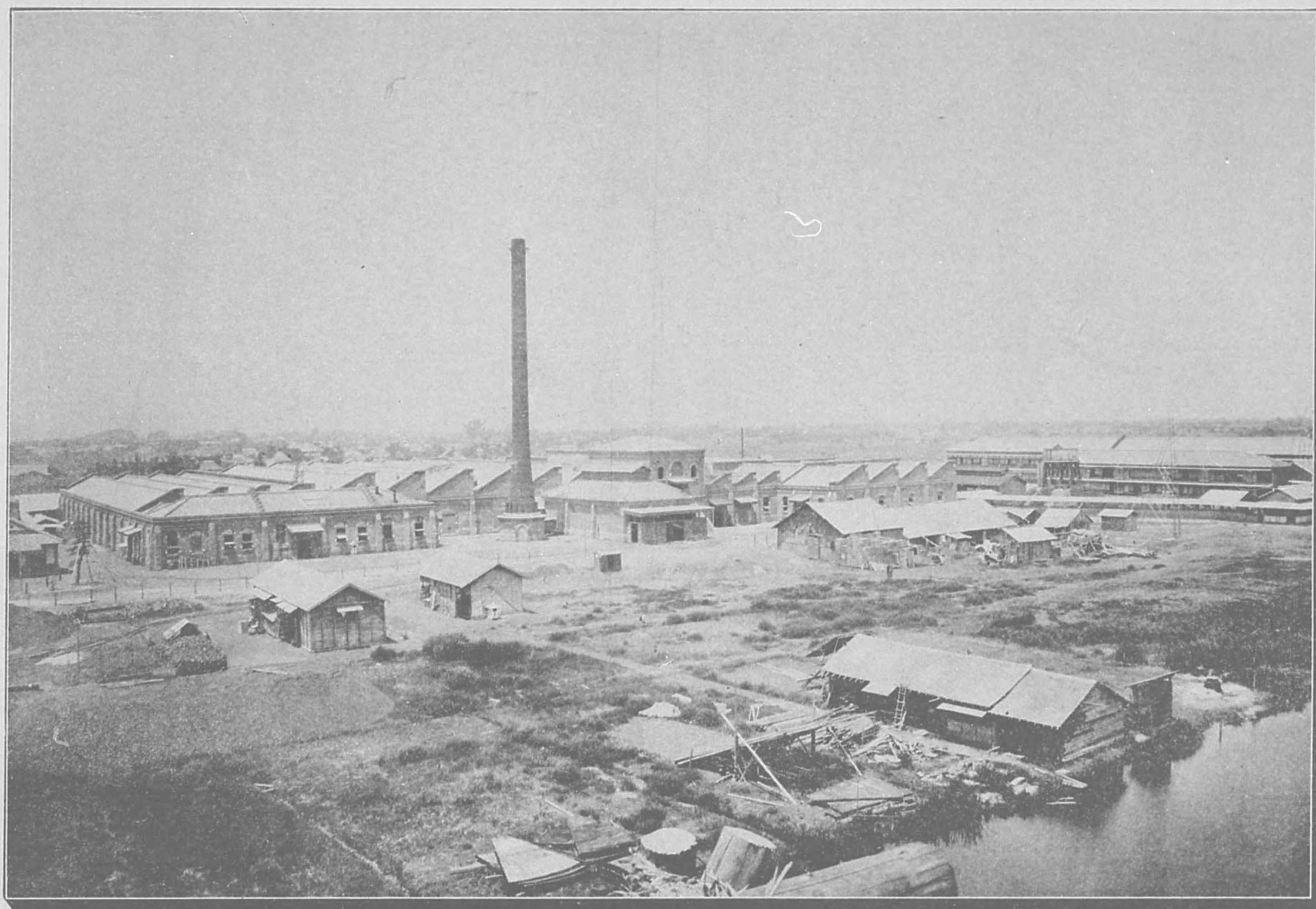
川越生繭乾燥寮所 (武蔵)

埼玉縣入間郡川越町にありて蠶絲製造器械専門の譽高き御法川直三郎の主唱によりて設立されたる者なり、合名會社の組織として同人及び内藤平太郎の二名社員として従事す、同所は、御法川工場にて製作せる、生繭乾燥器械を實地に運轉して、其効果を新業者間に知らしめん爲に、設立されたる模範的の工場なり。然れども、其營業は全く獨立にして、開業以來の成績頗るよく、其乾燥高も甚だ多し、これ勿論、器械の精良なるに由るものにして、模範としての成績十分あがれるのみならず、營業としての利益も亦た多きを證明するものなり、されば、いよく擴張の運に向ひ、今後新たに製絲場をも建築し其工事中なりといふ。

The Kawagoe Cocoon Curing Establishment.

N. Minorigawa and H. Naitō, Proprietors.

This establishment was opened originally for the purpose of testing the apparatus manufactured at the Minorigawa Iron Works of Fukagawa, Tokyo. In view, however, of the success gained, it has been decided to enlarge the establishment, and conduct an independent business.



Tōkyō Muslin Factory.

東京モスリン紡織株式会社 (東京)

明治二十九年四月一日杉村甚兵衛、端善次郎等の創意に基き設立したる會社にして、實に吾國モスリン事業の先鋒たり、資金は一百万圓にして、建物は東京南葛飾郡吾郷村にあり、煉瓦石造の工場、倉庫、瓦斯室等三棟、木造の事務所、工務所、病院、職工寄宿舎、附所、曬場其他十六棟、合計十九棟の厦屋を有し、坪數四千三百坪に亘り、技師、事務員二十餘名、職工一千五百四十餘人を便役す、工場は本館及外館に分たれ、本館には原動部、電氣部、修繕部、紡織部、織部、糊部、仕上ケ部等あり、外館には倉庫、工務室等あり、機關は最新式の三回膨脹機械二個を備へ、別に瀉力を大ならしむる爲め、シューパーヒーターを備ふ、殊に其消火装置に至りては、綿密なる注意を凝らして、工夫したる完全なる設備にして、他の工場に於ける消火装置の、遠く及ばざる所なりと云ふ、曾て聞く處に由れば其製産額は、一日の量、紡織部に於て原糸五千數百英斤、織部に於てモスリン平均二萬六千五百ヤール、即ち一千一百反を製出すと云ふ、然れども同社は日に月に規模を擴め其生産力を増加せるを以て今や殆ど是に倍するに及べるや必せり、抑もモスリンは、佛蘭西獨逸に於ける特製の織物にして、殆ど同國の專賣に屬し、年々輸入の數夥しきものなりしが、今は同會社生産の力によりて、大に輸入を減殺するを得たりと云ふ唯た此事業の興隆に就て特に記憶すべきは其新事業なるが故に従來屢々失敗蹉躓し歐州より特に技師を招き又我國有力の技術家を聘して研究考索する處ありしも幾度か破れて遂に起ざるの悲運に陥りしを端の熱心なる研究に由り數年前漸々良好の結果を得今日此盛運を見るに至れりと云ふ。

The Tōkyō Muslin Factory.

This is the first establishment of the kind in Japan. The company was organized in 1896 by Messrs. Jinbei Sugiura and Zenjiro Hashi with a capital of Y. 1,000,000. The factory is at Adzuma-mura, near Mukojima. Employment is furnished to about 1,600 operatives. The most modern machinery and other appliances have been introduced, so that in the spinning department more than 5,000 pounds of yarn and in the weaving department, more than 26,500 yards of muslin are produced daily. Already the work of this Company has reduced very materially the quantity of muslin imported into Japan. This gratifying success is the result of many years of experiment on the part of Mr. Hashi, who has given much time and thought to the subject.

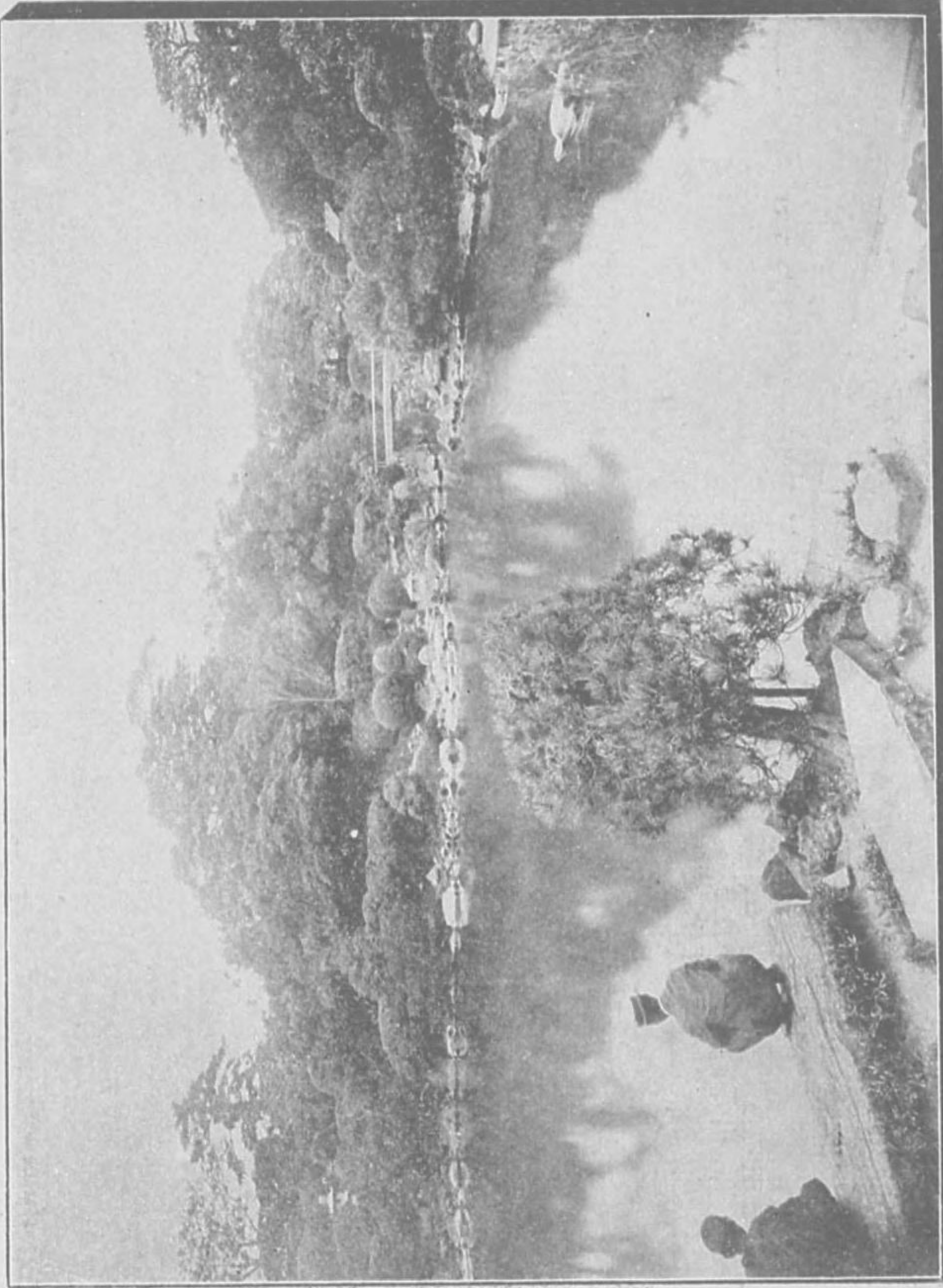
札幌麥酒株式會社 (石狩及東京)

北海道石狩國札幌に在り、明治九年、開拓使廳の尙ほ存せし時、同道に於ける殖産興業の發達と、農事の進歩を奨励せんため、特に創設したる官立の醸造所にして、開拓使廢止後は、更に北海道廳の管轄に歸せしを、明治十九年、豪商大倉喜八郎、之れが拂下を受け、廿一年に至り、濫澤榮一、淺野總一郎等と謀りて、之を株式會社となし、終に現時の盛運を見るに至れり、抑も麥酒醸造の原料たる、大麥の栽培は、詢に能く北海道の地味に適し各村農家、亦、使廳設立以來の奨励によりて、之れが耕作に力むるより、今は同道の特産となり、麥酒醸造の原料、悉く之を同道の産出に取りて、毫も外國産を用ひざるの、殊利を占むるを得たるは、全く同會社に對する天資の恩物とも謂ふべく、同會社が年々歳々利運を加へて、終に今日の昌隆を得たるも、亦偶然にあらざるを知るべし、今や同會社は、新たに分工場を東京本所瓦町に設置せんとし、器械の購入、建築の準備を講じつゝ、あれば、日ならずして、東京市内のビヤホールに、新醸醱の札幌麥酒を試むるを得るに至るべし、同會社は、其本店を札幌北二條東四丁目に置き、現時出張店を東京日本橋南茅場町二十番地に設けたり、而して新たに分工場を設置せんとするの地は、寛永年間、時の閣老水野羽州が、幕府より拜領したる邸宅にして、十一代將軍文恭公の、臨御せられたりと傳ふる庭園なり、將軍手栽の櫻樹、並に御名付の井戸などありて、樹石の配置法に適し、幽逸にして古色掬すべきの觀あり、同社は之を保存して、永く舊規を傳へんとすど聞く。

The Sapporo Brewery.

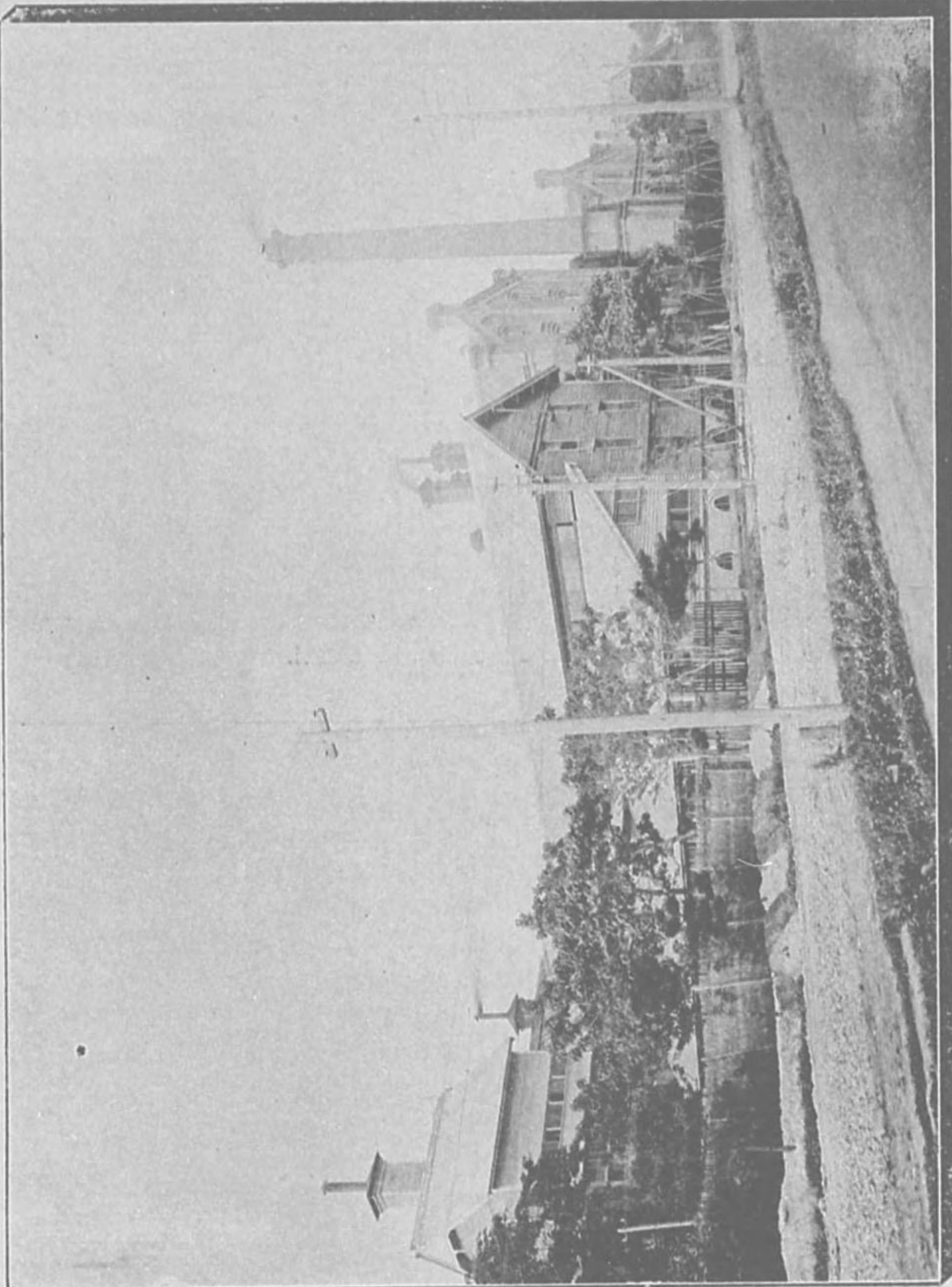
This brewery was originally founded by the colonial administration in 1876, but passed into private hands in 1888, and one year later, the present company was organized. The company has the advantage of securing its material in the Hokkai-dō, thanks to the success of the colonial administration in its efforts to promote agriculture. A branch in Tōkyō is contemplated in the near future.

(東京) 全東京支工場建築地庭園



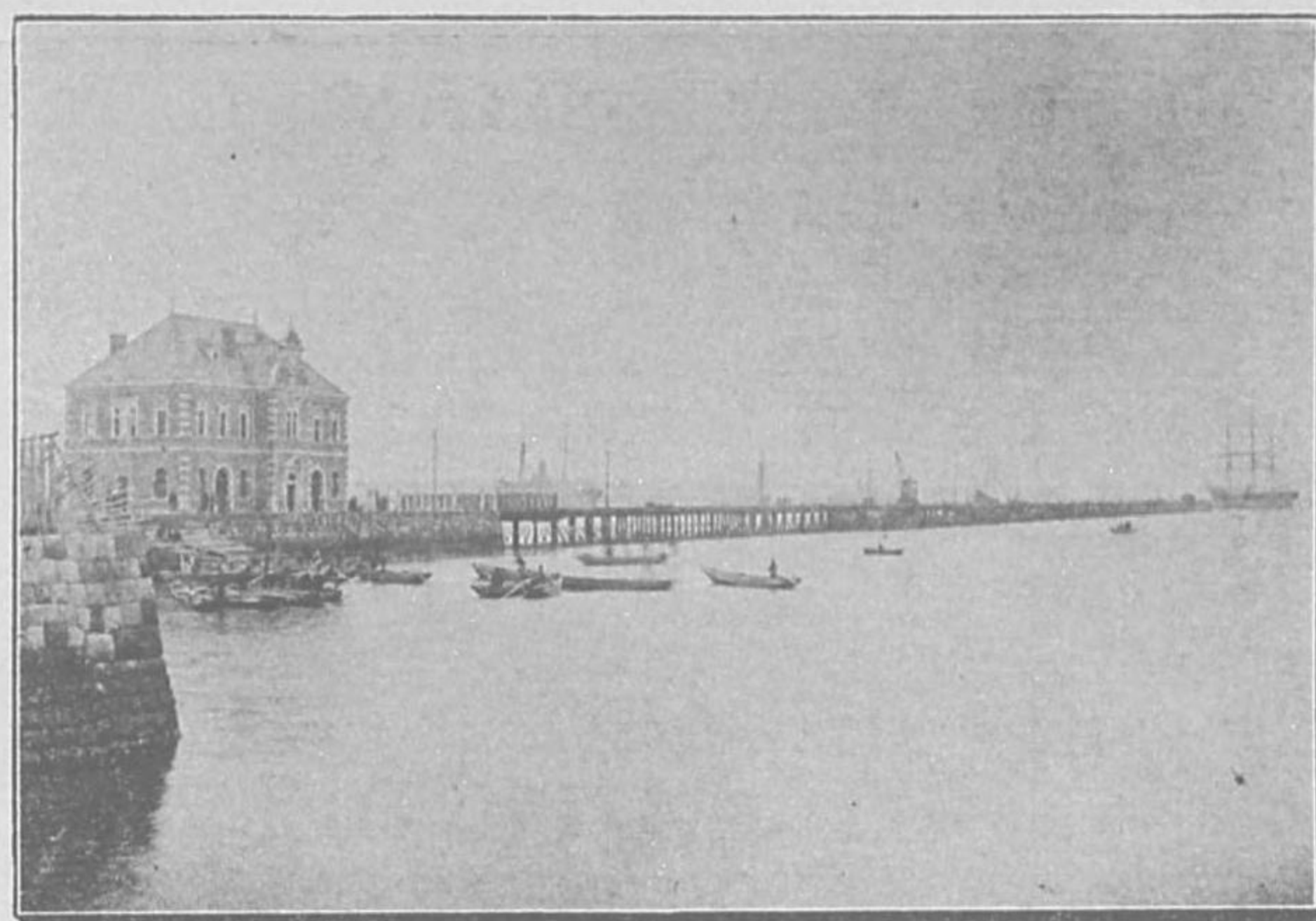
Garden of Tōkyō Branch of Sapporo Beer Factory.

(北海道) 札幌麥酒株式會社工場



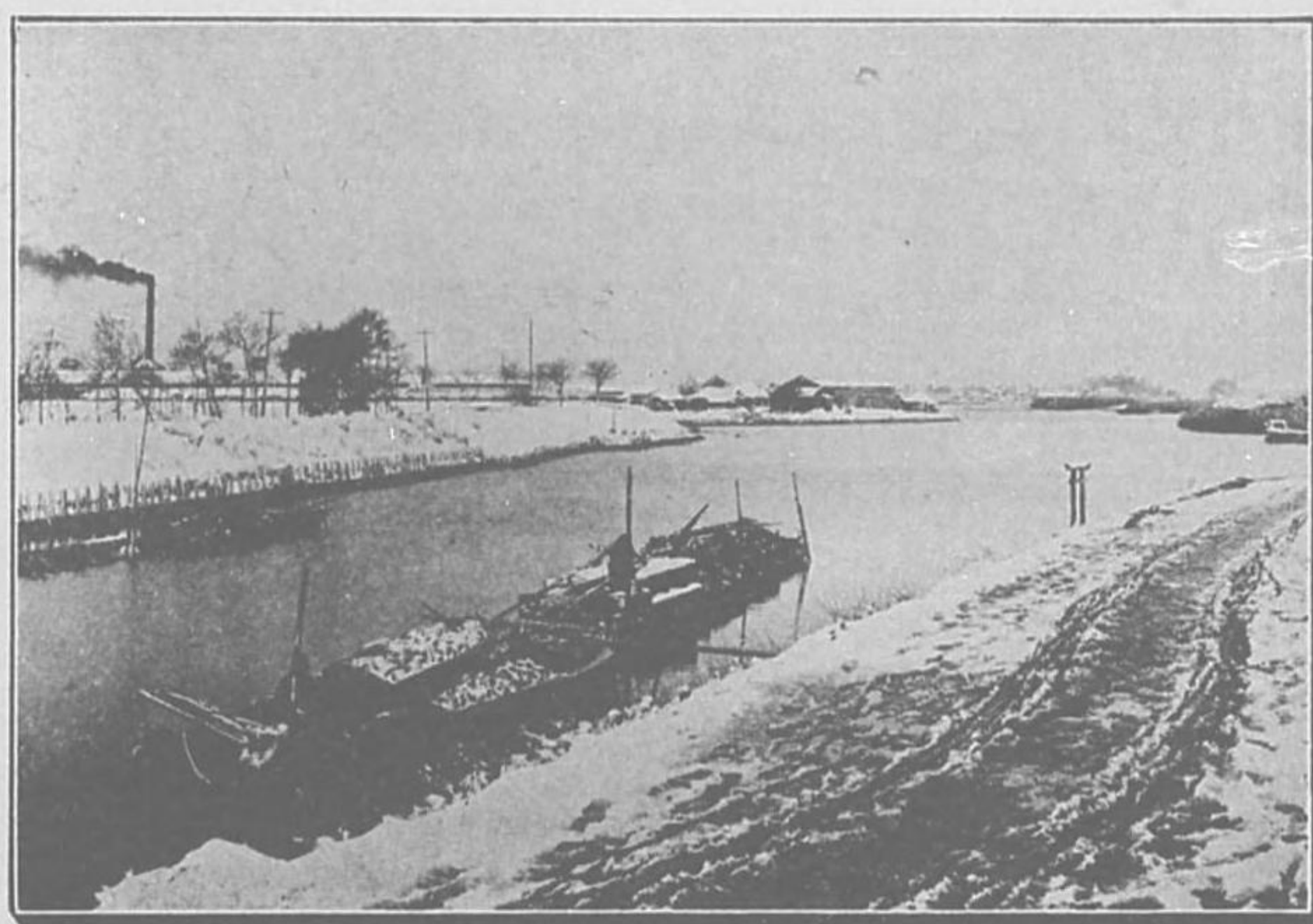
Sapporo Beer Factory; Hokkai-dō.

(武蔵) 横濱波止場



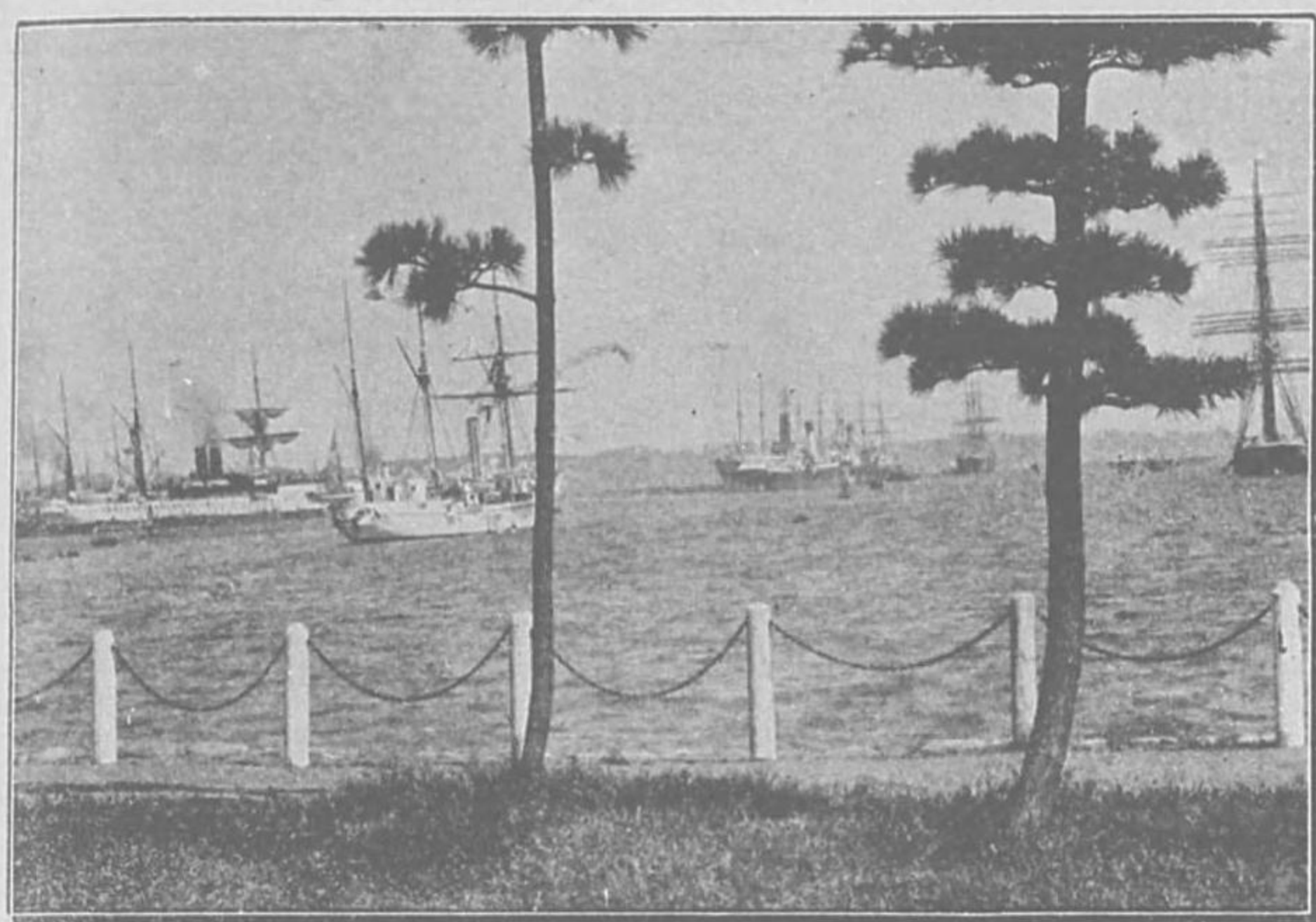
Wharf of Yokohama; Musashi.

(武蔵) 綾瀬川畔の雪景



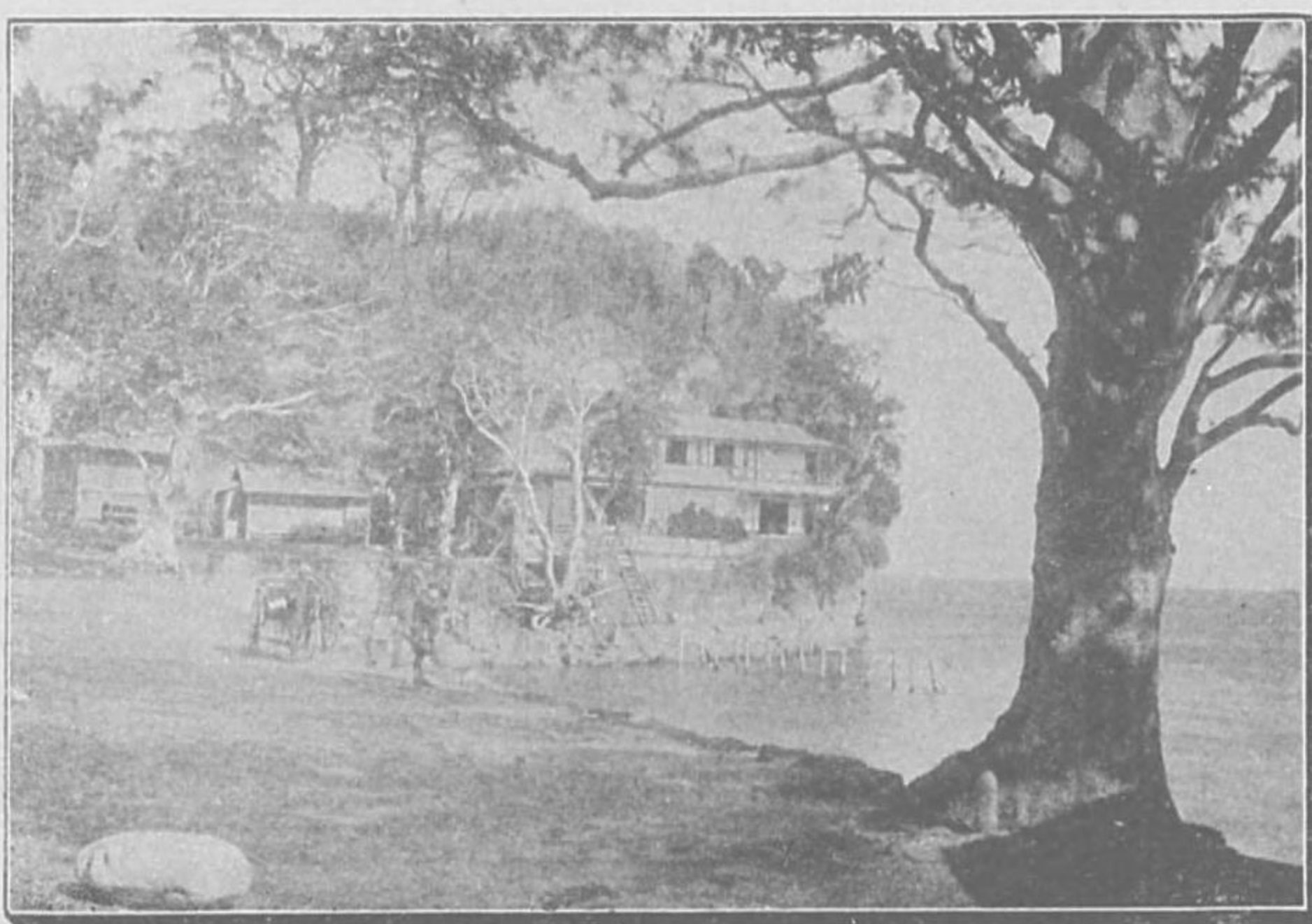
Ayase River; Tōkyō.

(武蔵) 横濱海岸



Yokohama Bund; Musashi.

(武蔵横濱) 本牧沖



Honmoku Beach, Yokohama; Musashi.

横濱波止場

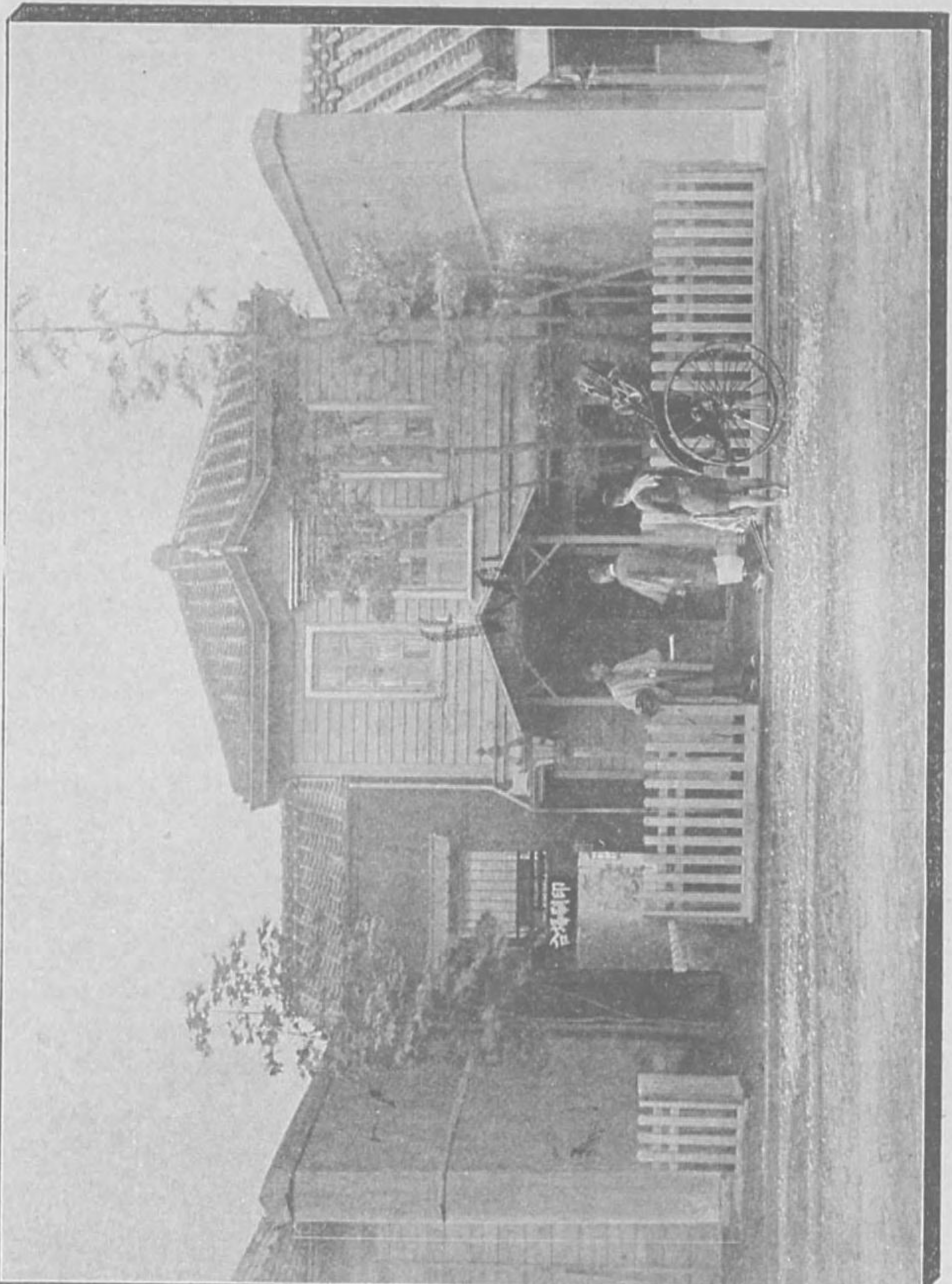
(武蔵)

今は、日本の最大貿易港として世界に名高き横濱港も、元は昔昔茫々として生ひ茂れる小村落たり、而して、其開港場として世に知られしは、安政六年なり、僅に數十年に、蟹介の地變じて大厦高樓の大都市となるまことに驚くべし。地勢は、久良岐郡本牧の鼻より野毛浦に沿ひ、神奈川に連りて一大灣をなす、港内の深さ十俣以て如何なる大船をも容るべし、港の海岸には、長く海中に突出せる波止場ありて、透迤として海波を破り、以て船舶をして、安然に碇泊せしむ、波止場には、英吉利波止場、佛蘭西波止場などありて、内外の大船も自由にこれに繋り。貨物旅客はこれによりて安全なる昇降の便を得。

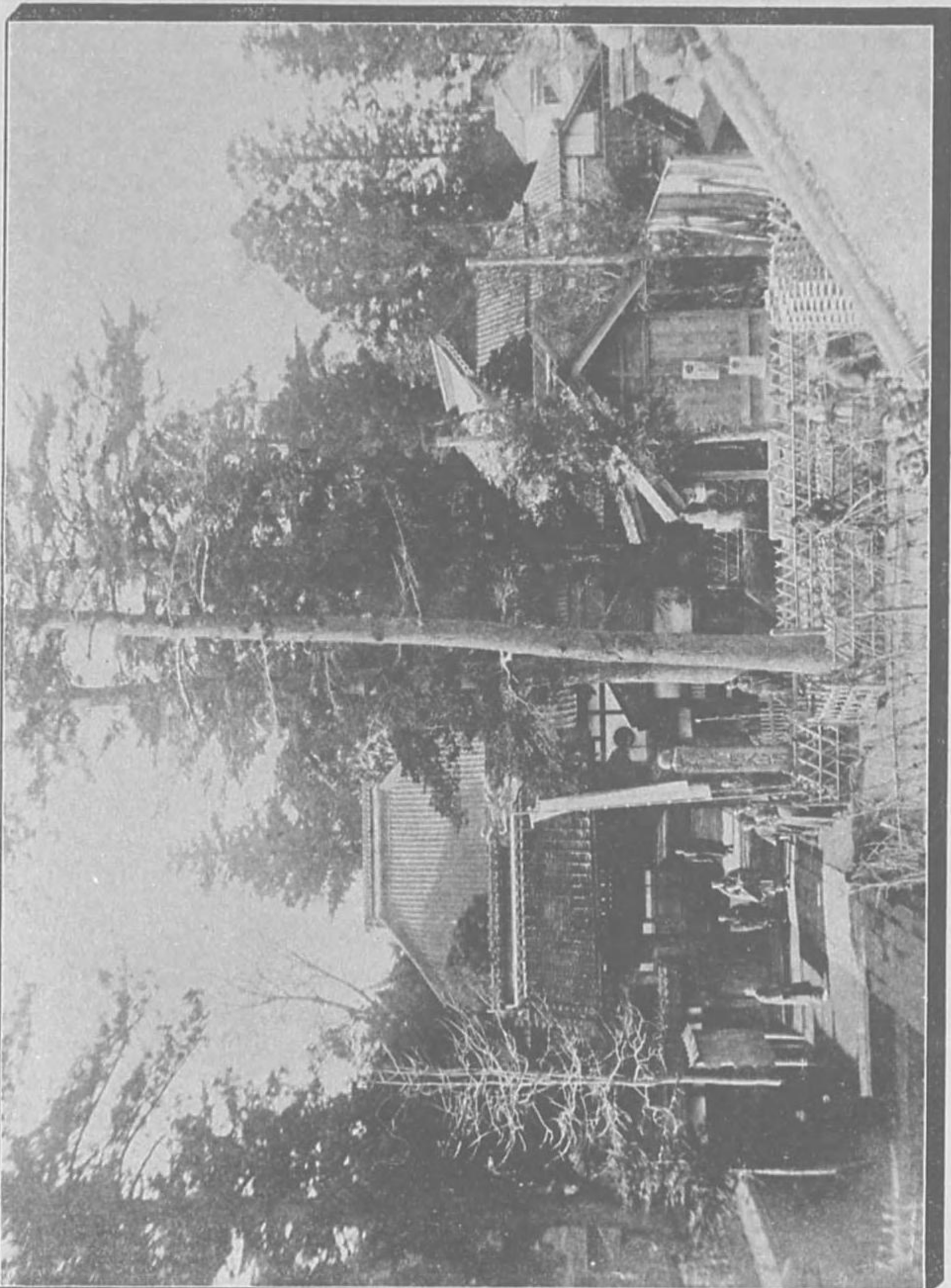
本牧岬

(武蔵)

横濱港を南方に去ること一里弱にして、一條の陸地遶く東京灣上に斗出し、觀音崎海峡上の船客をして、行くものには、故園の名残を寄せしめ、入るものには、喜望の心を盈たさしむるものは、本牧岬これなり。岬角は、懸崖直ちに海面に峙立し、上に老樹立ち茂りて風景畫くか如く、十二天の社ありて、海中より出現せしといふ神体を祭る、海岸の平沙運なるところには、人家立ち並び、海水浴場、割烹店ありて、漫遊の過客に、當地特有の鮮魚を饗す、夏期にいたれば、避暑の客多く來り集まり、海岸の砂白く波穏なるところにて水泳自在に三伏の暑を洗ふ、また、附近の一樂境たり。



Yōju-in Temple at Kawagoe, Musashi.



院 養 壽 (關 武)

入間郡河越町にあり、寛元二年河越邊江守平經重法名養壽院
駿青龍經公天龍門の開基にして、天文四年、扇兒なるもの、
徳風高くして門末の歸依厚かりしより、この寺を相續し、禪
院を改めて、中興の業をなせり。本尊は、三世佛脇立四天王
にして、壁八間横十二間の本堂に安置せらる、寺域は、二千
三百四十九坪にして、末寺千壽院、妙具堂毘沙門堂等あり、
閑靜にして清淨、まことに世に稀なる靈場なり。この寺は、
由緒正しく縁起深き名刹なれば、傳承の寶物等もすくなから
ず、地藏尊の像、佛舍利、金剛の製梁、古鐘などより經卷書
幅など世に珍らしきもの多しといふ。明治五年十月、兩本山
より可栗を拜戴し、現時の住職は、石井鼎鑑にして、ますく
法燈のかやかんを謀りつゝありとぞ。

Yōju-in.
Yōju-in is a Buddhist temple at Kawagoe, a dozen miles north-east of Tokyo. It was founded in 1244, by the local daijinyō, and renewed in 1535 by Senji, a priest much respected by the people of that time. It is one of the larger temples of the Zen sect in Eastern Japan.

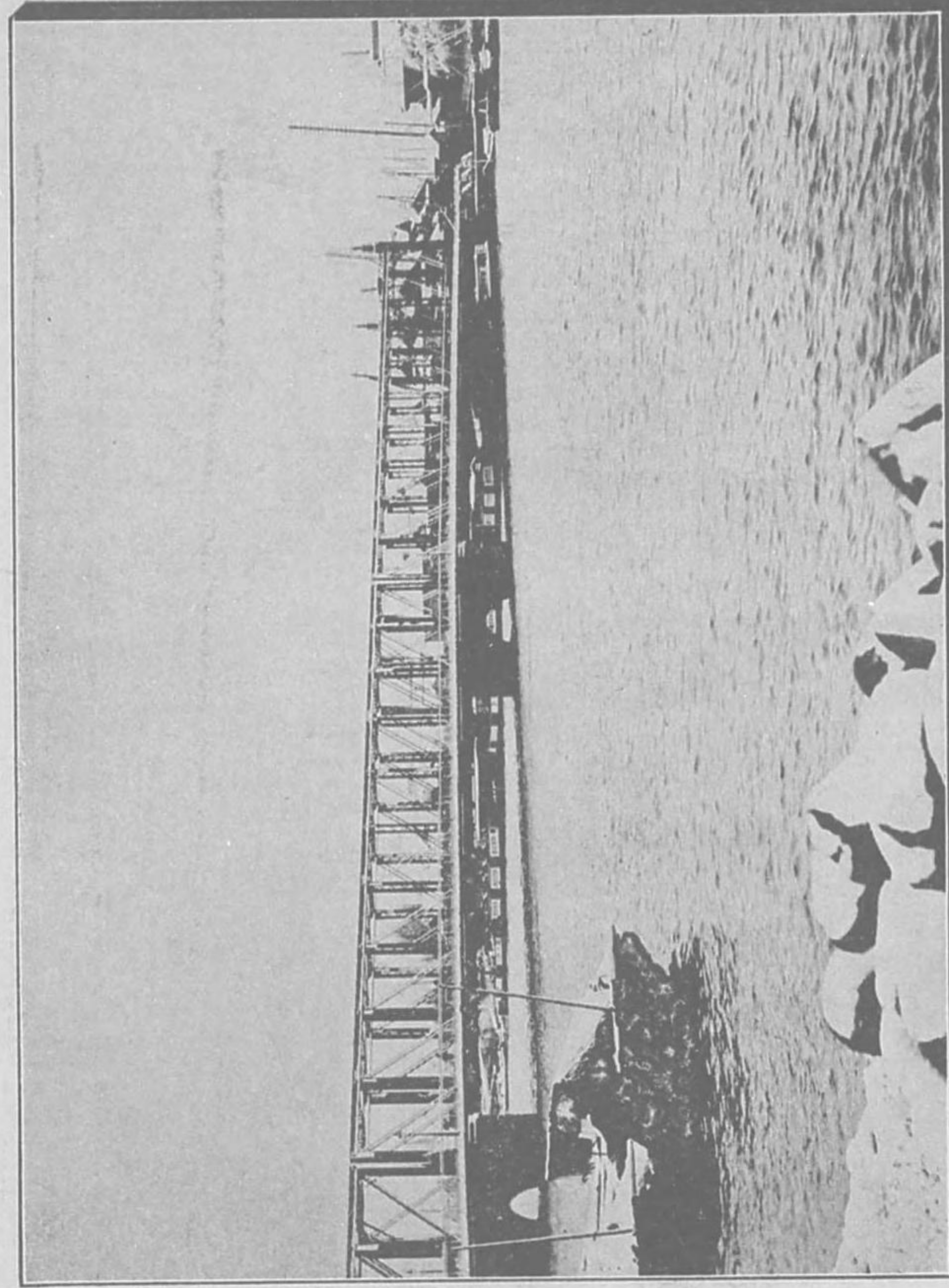
所 版 製 眞 寫 各 興 獨 (意 重)

創業は、明治二十三年五月にして、倉玉瑞穂吉が、研光工風
を積みた上に設立したるものにて、本邦に於ける、寫眞彫刻
版の鼻祖なり、第一議會の開かれしとき、兩院議員の肖像
を時の新聞附録として出版してより、其評世に高く、事業の
進歩と共に、技術のよゝ精巧となり、寫眞化學の作用を以
て、紙寫し寫眞、書畫、器具、動物、其他何物たるを問はず、
縮少ともに自由自在にして、而も其真相を寫して毫も誤ると
なく、迅速に其圖様を作るとを得べく、日本の美術業として
尤も成功したるものなり。製版所は、神田區鎌倉河岸第七號
地にあり、倉主が熟練し熱心なる技術の下に、敏活なる技工
ありて、數多の需要も迅速正確に調成す、本書は即ち同所の
丹誠を凝せるものなり。

社 寫 眞 獨 興 各 (意 重)

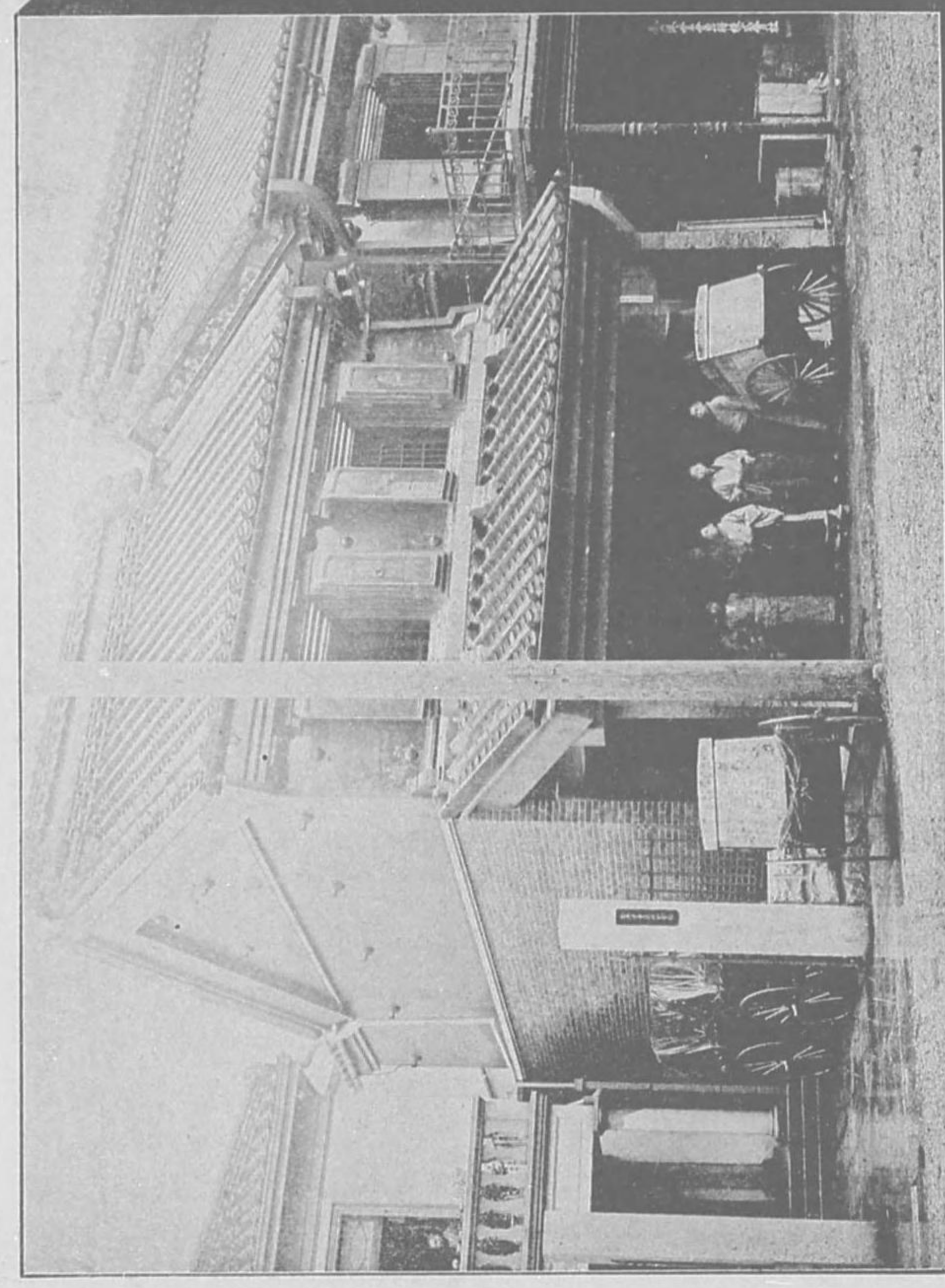
This company was one of the first in Japan to prepare illustrations for books and periodicals, by means of photo-engraving on zinc plates. Those of this book were engraved by the Yōkōsha.

(東京) 吾妻橋 鐵 橋



Adzuma Bridge; Tōkyō.

(東京本町) 金 港 堂 書 店



Kinkō-dō at Hon-chō; Tōkyō.

吾妻橋 (東京)

東京淺草花川戸より、本所中ノ郷に架せる鐵橋にして、長八十間二尺、幅七間四尺、舊橋は明治十八年洪水の際、破壊流失せしを以て、府會の議決を経て新築に着手し、明治二十年十二月を以て其功を竣ぶ、工費實に十三万六千八百四十二圓を要したりと云ふ、其構造の堅牢にして外觀の壯麗雄偉なるは、固より茲に言ふまでもなく、橋上の眺劇亦廣潤にして、右には隅田の堤を望み、左に待乳の山を控へ、前後に富士筑波の二峯を遠見し春のあしたは、清き隅田の流れを見越して向島の櫻をながめ、秋の夕べは欄に凭りて遠く首尾の松ヶ枝に懸れる月光を賞するなほ其形勝得て言ふべからざるものあり、亦東京市内の一名所なりと謂ふべし。

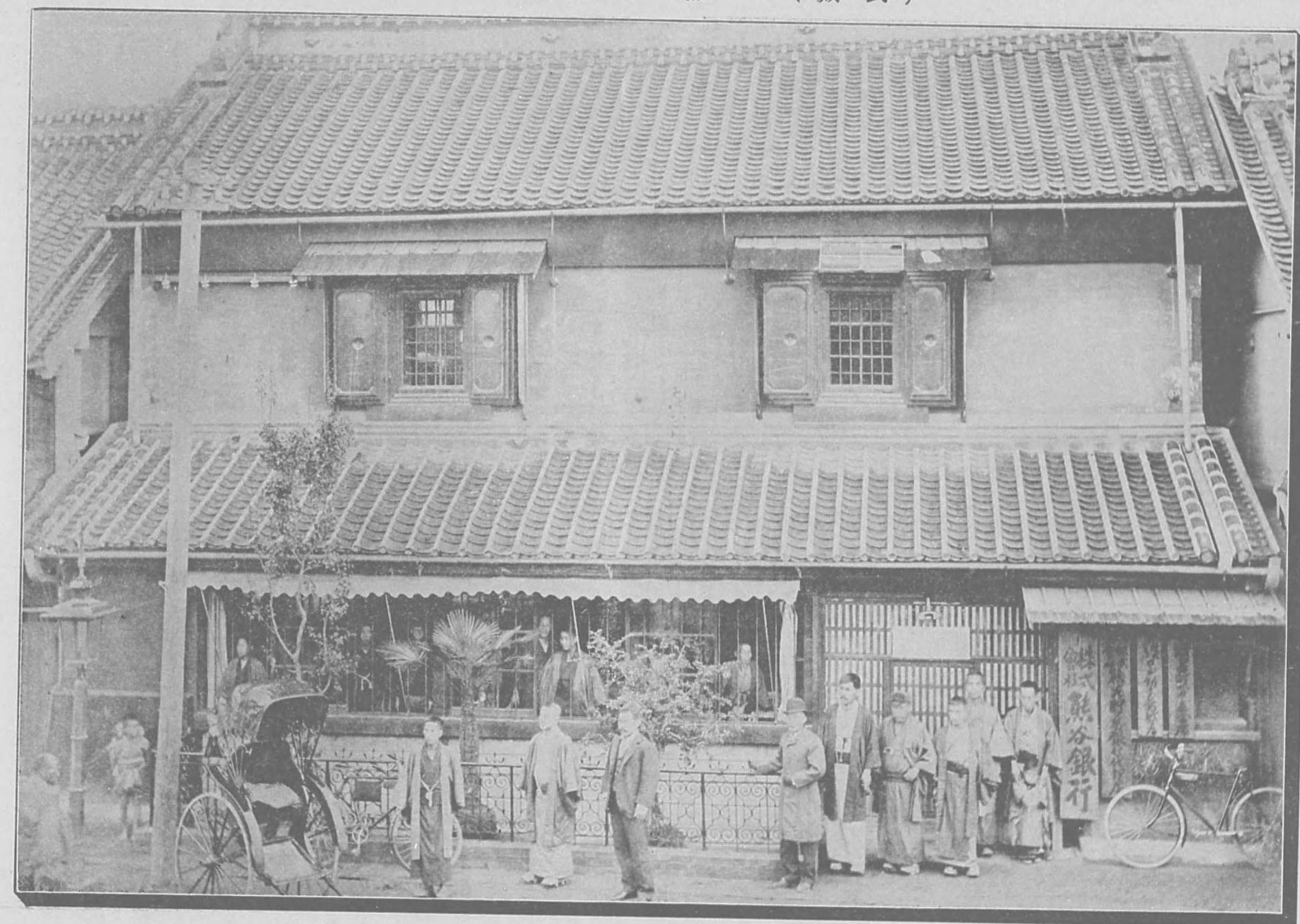
Adzuma Bridge.
This bridge crosses the Sumida River near the north-eastern limit of the city of Tōkyō. The present iron structure dates only from 1887.

金 港 堂 (東京)

東京市日本橋區本町三丁目にあり、明治二十六年の創立にして、爾來業務ますます繁昌して、將來もいよいよ發達の進に向ひつゝあり、其名義は株式會社なるも、其實は、原亮三郎一家の合資會社と同じく、資本金は、五十萬圓、積立金は二十五萬圓の巨額をそなへ、教科書の出版販賣を專業とし、出版の書籍は、編輯の完備と内容の適當なるを以て夙に全國に歡迎され、公私立の學校にこれを用ゐるもの甚だ多し、又た學校用器具の販賣をも營み、これ亦た好評噴々たり、現今に於ける、教科書出版の書肆としては、我邦第一流に位する大會社と稱揚するも誇言にあらざるべく、本書「日本の名勝」の大賣捌所たることは、世の知るどころならん。

Kinkō-dō.
Kinkō-dō is a large publishing house in Hon-chō, Nihombashi-ku, organized as a joint stock company, with a capital of Y. 500,000, under the directorship of Ryōzaburō Hara Esq. This house makes a speciality of educational books.

行 銀 谷 熊 (藏 武)



Kumagai Bank ; Musashi.

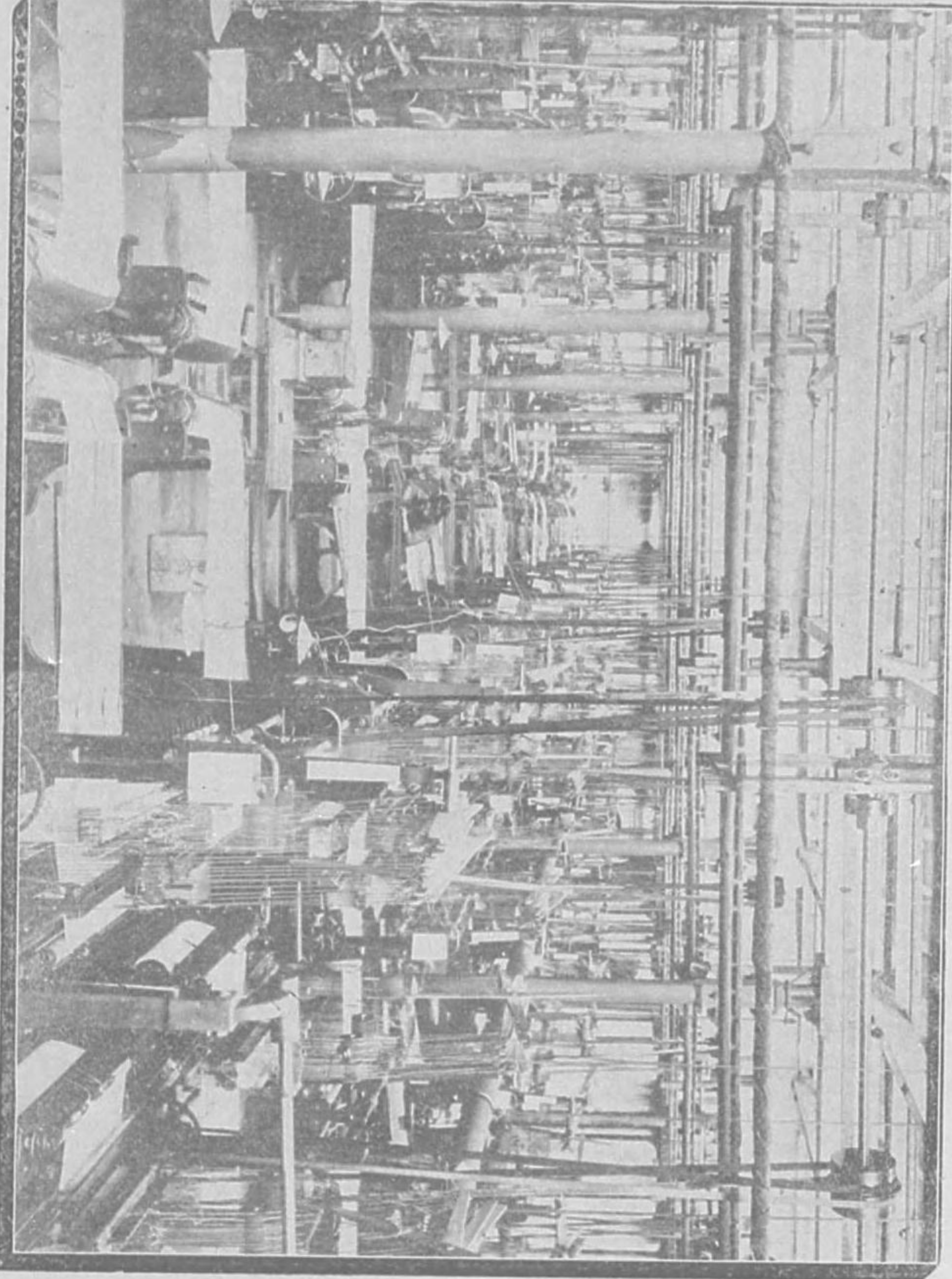
熊谷銀行 (武蔵熊谷)

株式會社熊谷銀行は、明治廿七年六月を以て創設せられたり、當時地方に於ける銀行事業は未だ幼稚なりしを以て、試に、資本金五萬圓を以て營業を開始せしに、忽ち業務の繁昌を來たし、資本増額の必要に迫りたるを以て、翌二十八年七月に、二十萬圓の増資をなせり、一躍四倍の増資は、當時世の耳目を聳動せしも、爾來逐年業務の繁榮を來たし、漸次に株金の拂込を促すに至れり、特に近年に於ける經濟社會の膨張と伴ふて、前途ますます多望となり、現株金拂込済の上は、更に資本増加の必要を見るならんといふ、如是き盛境に達したるは要するに該銀行が確實にして世の信用厚きに因ると論をまたず、第一期の利益配當は、年八分にして、第二期以後は、毎期の利益配當を年一割に止めて、其餘の純益は、ことごとく積立金に算入せり、現在の統計によれば資本金貳拾萬圓、現拂込金拾四萬圓、準備積立金壹萬三千七百六拾圓にして、其業務とする、定期預金、當座預金、特別當座預金、貸付金、代金取立、荷爲替、當座貸越、手形割引等は、金融の繁榮に従ひ、懇切迅速に取扱ひつゝあり、又貯蓄預金は株式會社熊谷貯蓄銀行代理店にて引受け、本店と同様に確實に取扱ひ、爲替取組は、全國の樞要なる各地に通じ、當銀行と取引ある者へは、特に無手数料にて取扱ふといふ。現今の重役は 頭取稻野實一郎 副頭取松本平藏 取締役齋藤周一郎 同石坂金一郎 同兼支配人田口拓 監査役笠間靖 同齋藤藏之助 同柴田忠明等なりと云ふ。

The Kumagai Ginkō.

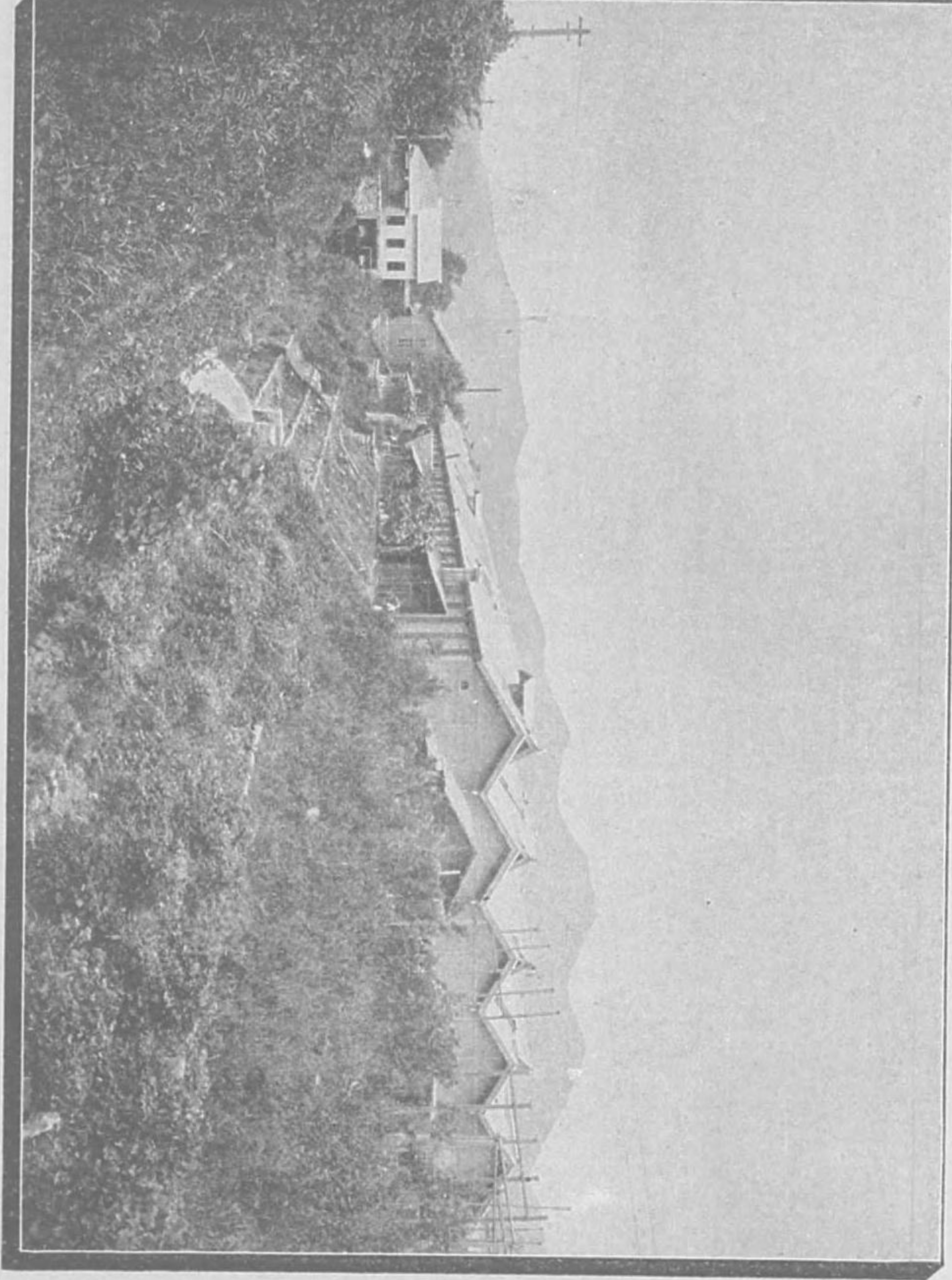
This is a very prosperous bank in Kumagai, one of the principal towns in the prefecture of Saitama. It has a capital of Y. 200,000.

Working Room of Japan Brocade Weaving Company, Kagami



(上野) 日本織物守社機業場内部

J Pan Weaving Company, Kiriu, Shinotsuka



(下野桐生) 日本織物會社

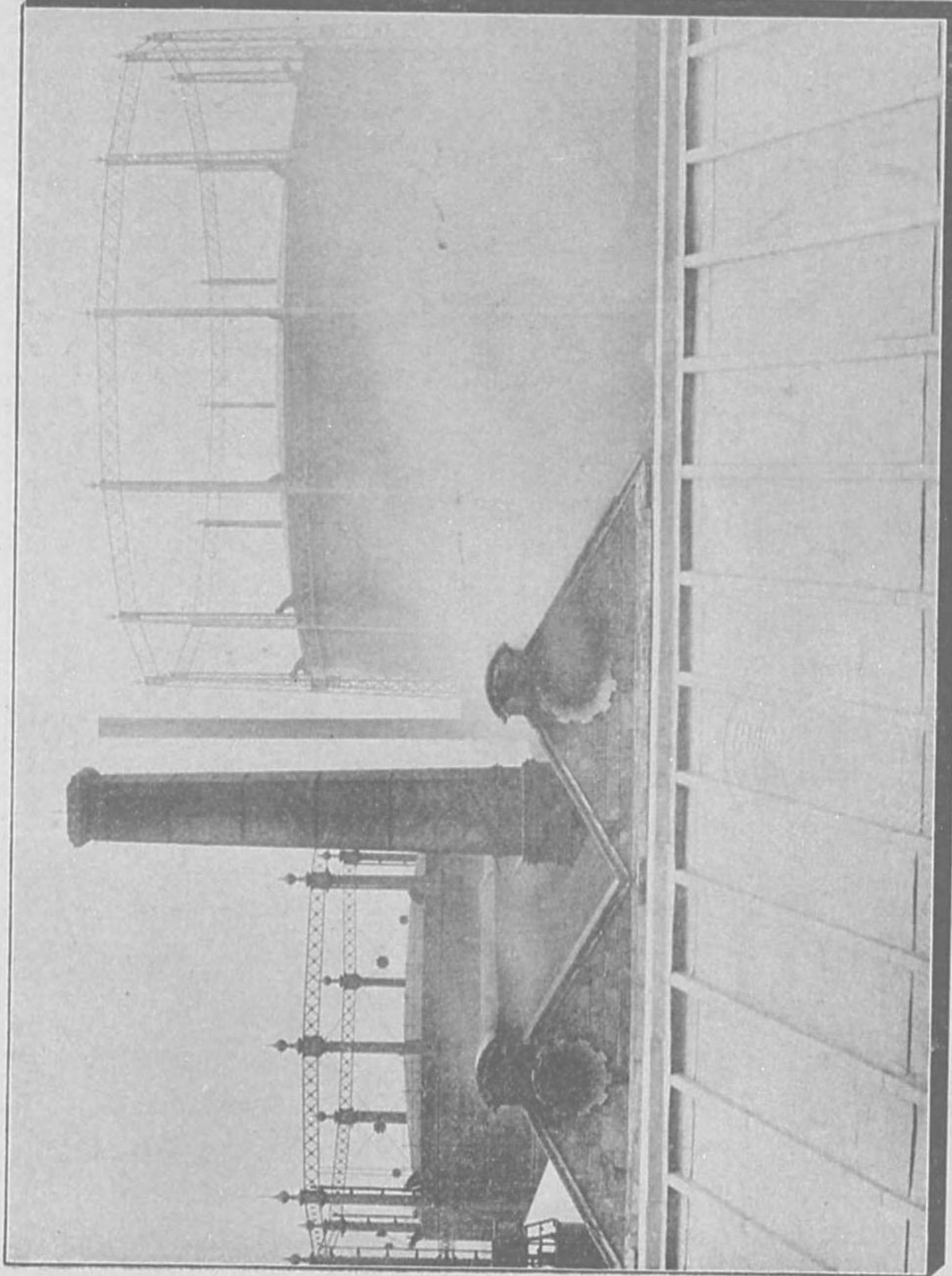
日本織物株式會社 (上野)

織姫織子の製織を以て、有名なる、機業會社にして、上州桐生大字新宿に在り、宏壯なる工場を設け、嶄新なる器械を裝置し、氣燈、瀝罐、水車を備へ、七十五萬の資金を以て、七百餘人の職工を便役す、所謂織姫織子は、其原料帝國最上の生糸にして、染料組織は、佛國里昂の秘を探り、更に帝國獨特の妙技を加へて、別に一新機軸を出す、其製織の美麗にして、堅固耐久の効ある、幾んぞ其比を見ずと云ふ、而して之を織姫と名ひたるは、日本機業の祖神として、古く兩毛の間に尊崇せらるゝ、白瀧姫の、俗に織姫と呼ばるゝより。其神像を寫して、之を商標となしたるに基づく也、抑も此の白瀧姫と謂へる神女は、往昔天平寶字の頃 朝廷に仕ふまつりし官女なりしが、桐生の土 山田なにがし、笏かに之を戀ひ慕ひ、和歌の贈答をなしたること、新聞に達し、終に之を山田の妻に下し玉ひしより、其を、俱して、桐生に歸り、姫が蠶桑紡織の技を普くせしより、之を里人に教へしめて、終に同地産業の基を開きたればとて、爾來之を機業の祖神として、尊崇するに至れるなりと傳ふ、左れば日本織物會社が、發明せる、自製の織子に向つて、機業祖神の名を命じ之を商標に用ひたるもの、其寓意の高き、推知するに難からず、今や其製造の高、一ケ年十五萬反の上に達せりと聞けば、數年ならずして、舶來の南京織子は、輸入全滅に歸せんと疑ふべからず、其國産を殖やし、國力を富ませるの功、亦た大なりと云ふべし。支店は東京日本橋區大傳馬町にあり。

The Japan Weaving Company.

The factories of this company are located in Kiriu, Jō-shū. Its specialty is what is called *Ori-zime* satin which competes in the Japanese market with satin imported from China. The best looms are employed, for the most part imported from Lyon. The output is 150,000 pieces, each piece measuring eleven and two thirds yards.

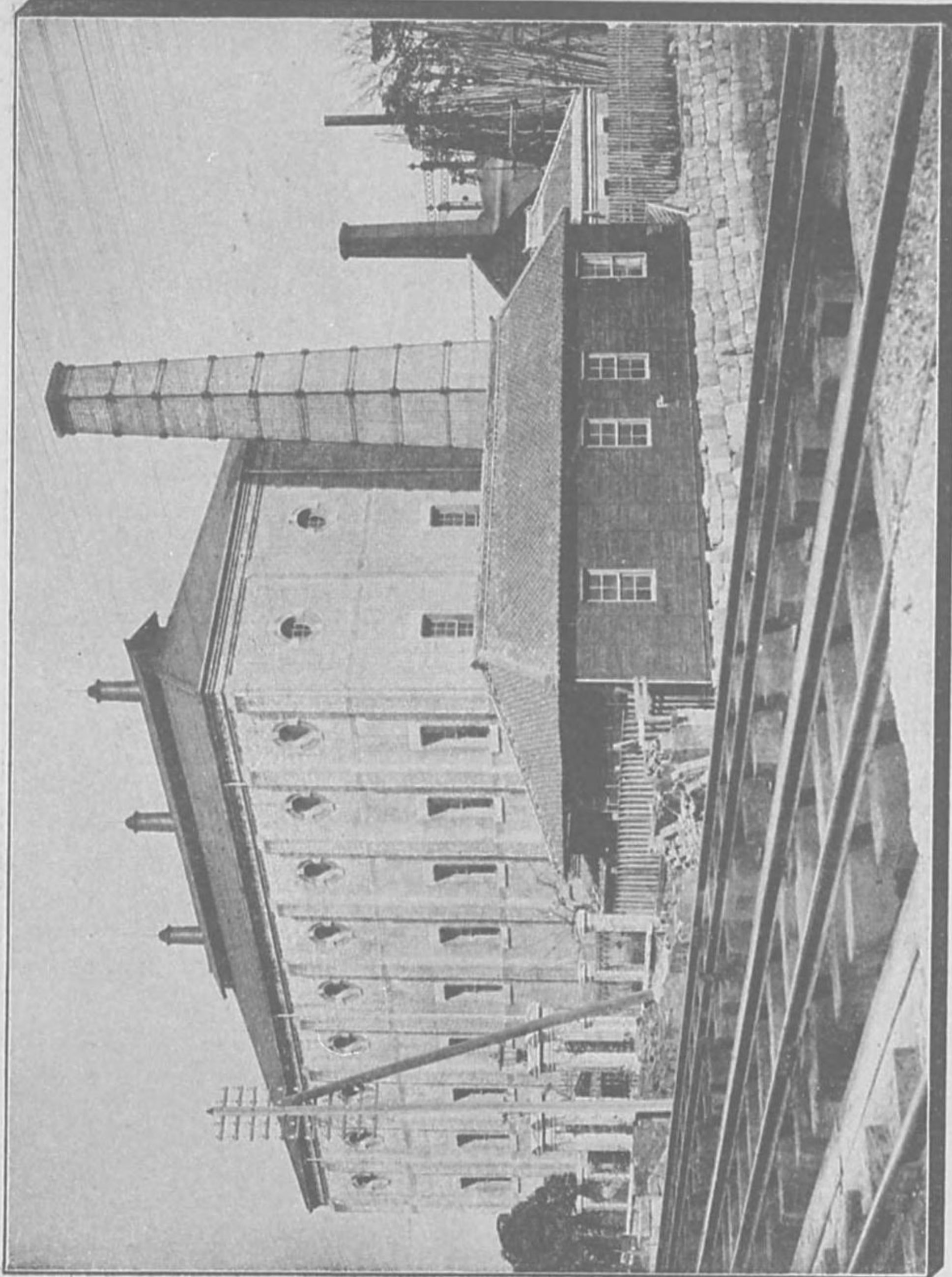
東京瓦斯株式会社



Tokyo Gas Company, II; Tokyo.

Tokyo Gas Company Manufactory, Tokyo.

東京瓦斯株式会社第一工場



東京瓦斯株式会社 (概要)

明治七年東京府にて創立せしを、明治十八年其旗下を受け、廿六年九月現名に改め、最初の資本金廿七萬圓を漸次増加して、遂に四百萬圓とせり。製造所も、芝區濱崎町第一製造所のみならずしが、需用の増加すると共に、北豊島郡南千住町に第二製造所を設け、更に深川區猿江町に第三製造所を起したり。現今製作する瓦斯の容量は、一日平均百二十萬立方呎にして、創業當時に比して、十七倍の多きに及び、尙ます、需用増加の傾向ありといふ。營業年限は、九十九年に於て、鑛管の敷設延長百九十八哩に及び、貳拾萬圓の積立金を有し。現任社長は、取締役會長、濹澤泰二。常務取締役、大橋新太郎。取締役、淺野總一郎。同渡邊福三郎。同袴田喜四郎。監査役、西園寺公成。同渡邊勲。同淺野彦兵衛支配人、藤嶋甲子二。なり。

The Tokyo Gas Company.

The works now owned by this company were originally the property of the city government. They were built in 1874, but were transferred to the present owners in 1885, who have increased their plant, so that it now represents a capital of ¥4,200,000. The gas is distributed from three centres, namely, Shibahama, Senju and Futsugawa. The daily production is 1,200,000 cubic feet. The piping laid down aggregates 198 miles.

科野大宮社 (信濃)

小縣郡常田にあり。舊記を按ずるに、上古崇神天皇の御宇七年に、勅鏡によりて國社を定め玉ひしと云、この祠を創立して、大己貴命と事代主命を勧請せしものなり。平將門の兵亂には、この境内は、兵燹に罹りて頽敗せしが、後に再建のことありて、以て今日に及ぶまで、幾多の變遷ありしも、神威は常にいやちこにして、國內に屈指の古祠なり。社地の四邊には、老杉亭々として並立し、櫻樹の春景を添ふるもの、丘阜の秋月をかくるもの、共にこの社の風景を添ふ。本社拜殿其他の建築いづれも閑雅にして、神威の尊嚴と相應するものあり。

長野市街 (信濃)

善光寺を以て名高き長野市街は、また縣廳裁判所其他の諸官衙の所在地にして、人口二萬七千に達せんとする名邑たり、大門町、後町、諏訪町の如きは繁華の中心として大賈巨商軒を列ね、一見して其繁榮を想像するに足る、近來、鐵道の開設と共に市街はますます開け昨日の田畝も今日の市街たるにいたり、將來ますます發達せんとする形勢あり、市坊三十八、市街の延長東西十二町に及び、南北は廿六町をこゆんとす、けだし、この地は、日本海岸と太平洋岸を接續する北國街道の要衝にあたり、加之に、名高き巨利の詣者をひくあり、生絲の利を集むるあり、其の今日あるは決して偶然にあらざるを知るに足る。

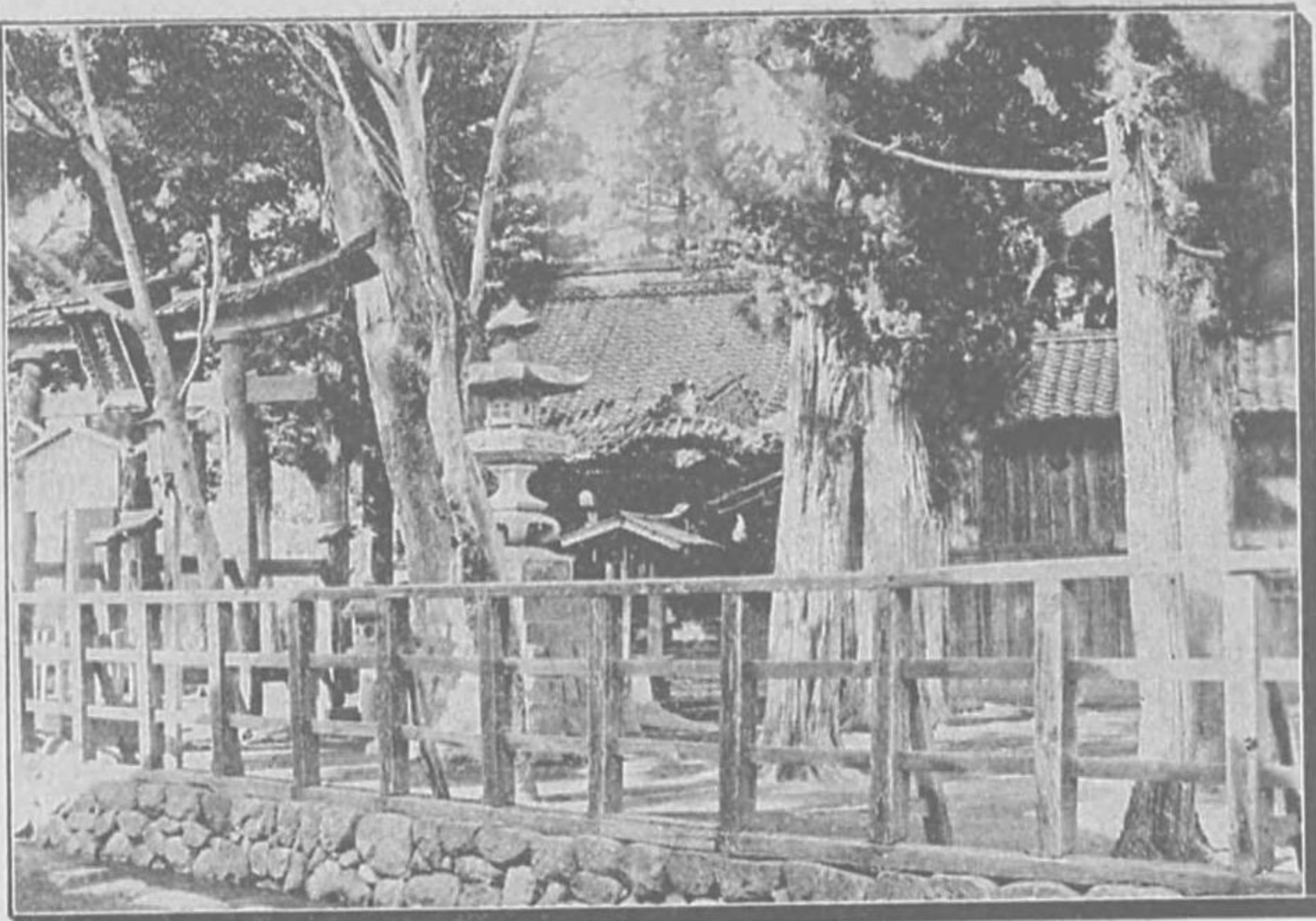
諏訪湖の水滑り (信濃)

信濃の地たる、峩々たる群嶺に四境を鎖され、土地の形勢海を抜くと高きを以て、寒威の嚴烈なること甚だし、諏訪湖の如きも、冬期に至れば、一面に堅氷の封ずるところとなる、特に、この湖は水の深さ割合に淺きを以て其氷結することも強く、其厚さ一尺より二尺に及び、人馬安らかに其上を來往し、附近に於ける交通の便利却て多きを加ふといへり。かゝる形勢なるが故に、冬期出畝の閑るときは、少壯血氣の若者等、湖上に集ひ來りて冰滑りの遊伎を競ふ、一望玻璃盤の如き冰上に立ちて、宛轉自在に滑走する様は、また一場の壯觀にして、暖地に栖息するもの、夢想せざる處なり。

Nagano.

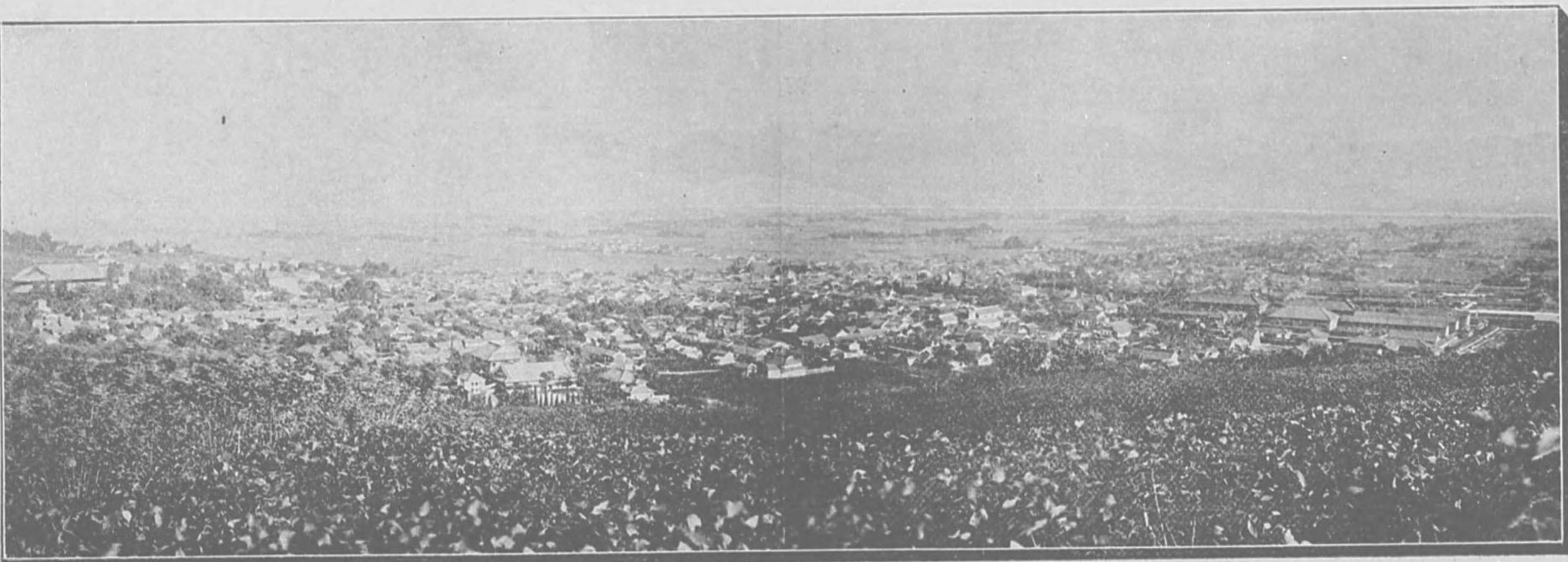
Nagano is situated on the Shinano River. It is the capital and principal town of the prefecture of the same name, which includes the whole of the province of Shinano. It is the seat of the great temple Zenkō-ji which is elsewhere described. The large influx of pilgrims to this temple contributes no small part to the business of the town.

(信濃上田) 科野大宮社



Shinano Shinto-Temple, Ueda; Shinano.

(信濃) 長野市全景



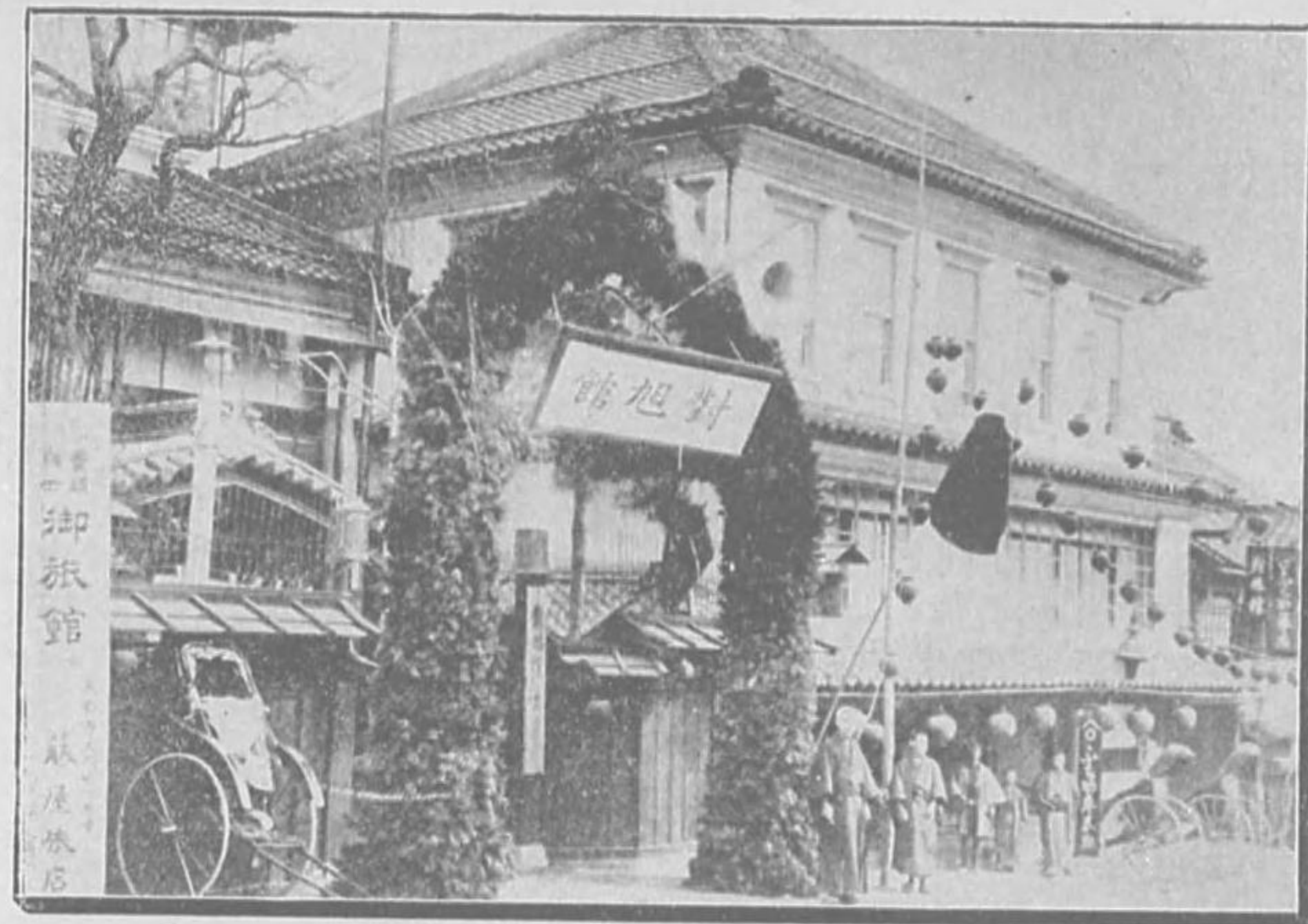
Town of Nagano; Shinano.

(信濃) 諏訪湖の水滑り



Skating on Suwa Lake; Shinano.

(信濃長野) 對旭館旅舎



Taikyoku-kwan Inn at Nagano; Shinano.

(信濃長野) 鈴木洋物店



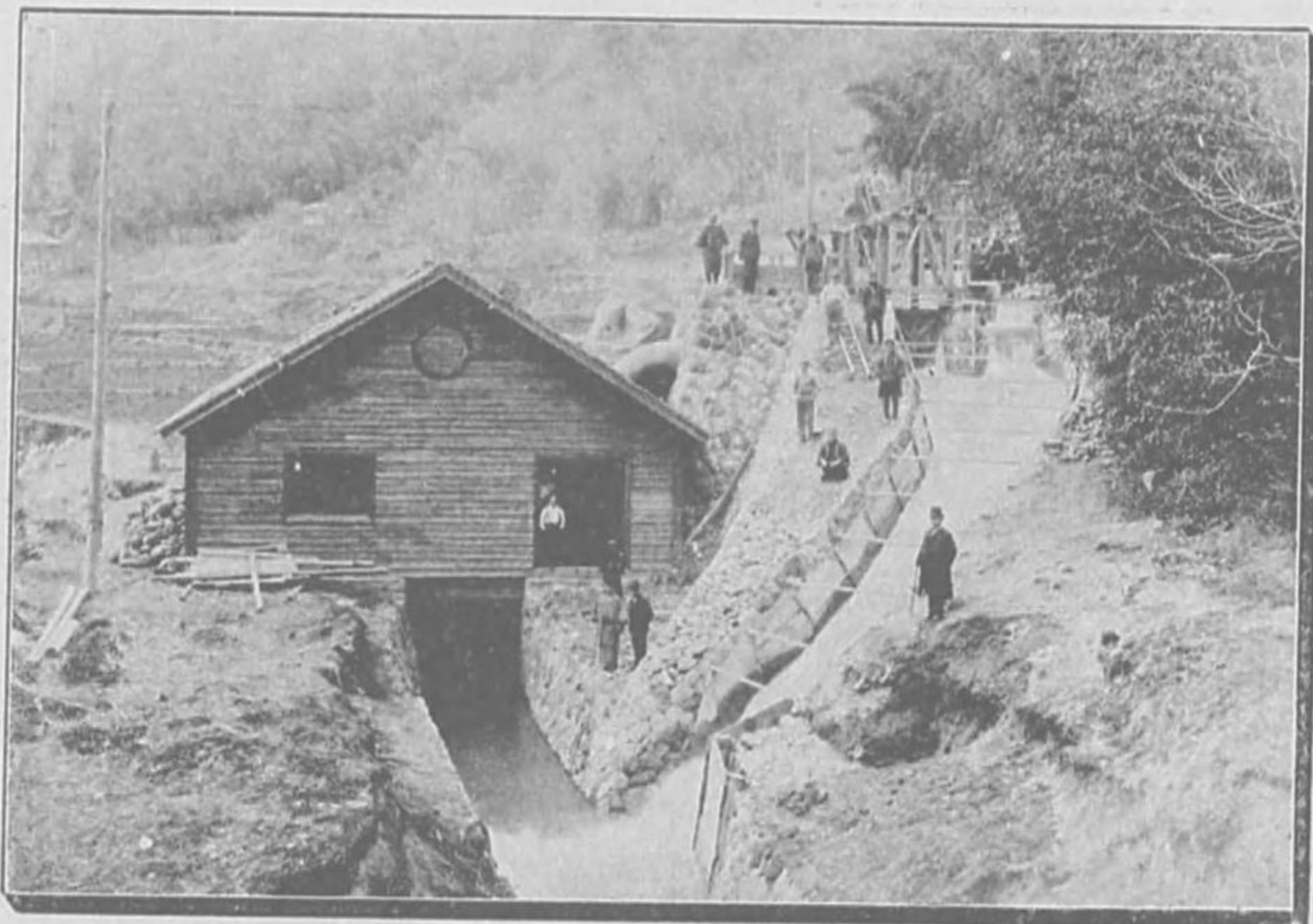
Suzuki Imported Goods Shop at Nagano; Shinano.

(信濃長野) 犀北館



Saihoku-kwan Inn at Nagano; Shinano.

(信濃) 長野電燈發電所



Nagano Electric Light Works; Shinano.

對旭館 (信濃長野)

濱留一帯長野停車場に着すれば、巍々たる三層樓の停車場前に立つを見ん、こは、市に有名なる對旭館藤屋平五郎の支店にして、旅客の爲めに宿泊の便宜を與ふべし、藤屋は、維新前の本陣として知られたる旅館にして、旅客の接待に經驗あるは夙に世に傳稱せらるゝところなり、特に近來はますます、文明の利器を應用し、支店と本店は電話を以て交通し、客室も和洋の區別を設くる等専ら旅人の便宜を計れり。凡ての構造は清潔にして空氣の流通等に意を用ひ一度び樓に登りて欄に凭れば、四近の風景眼中に集まり、以て行程の躰を散すべし。本店は大門町にあり、支店と共に叮嚀親切を主とし、善光寺參詣の信者にはそれ、案内をなす由なり。

鈴木洋物店 (信濃長野)

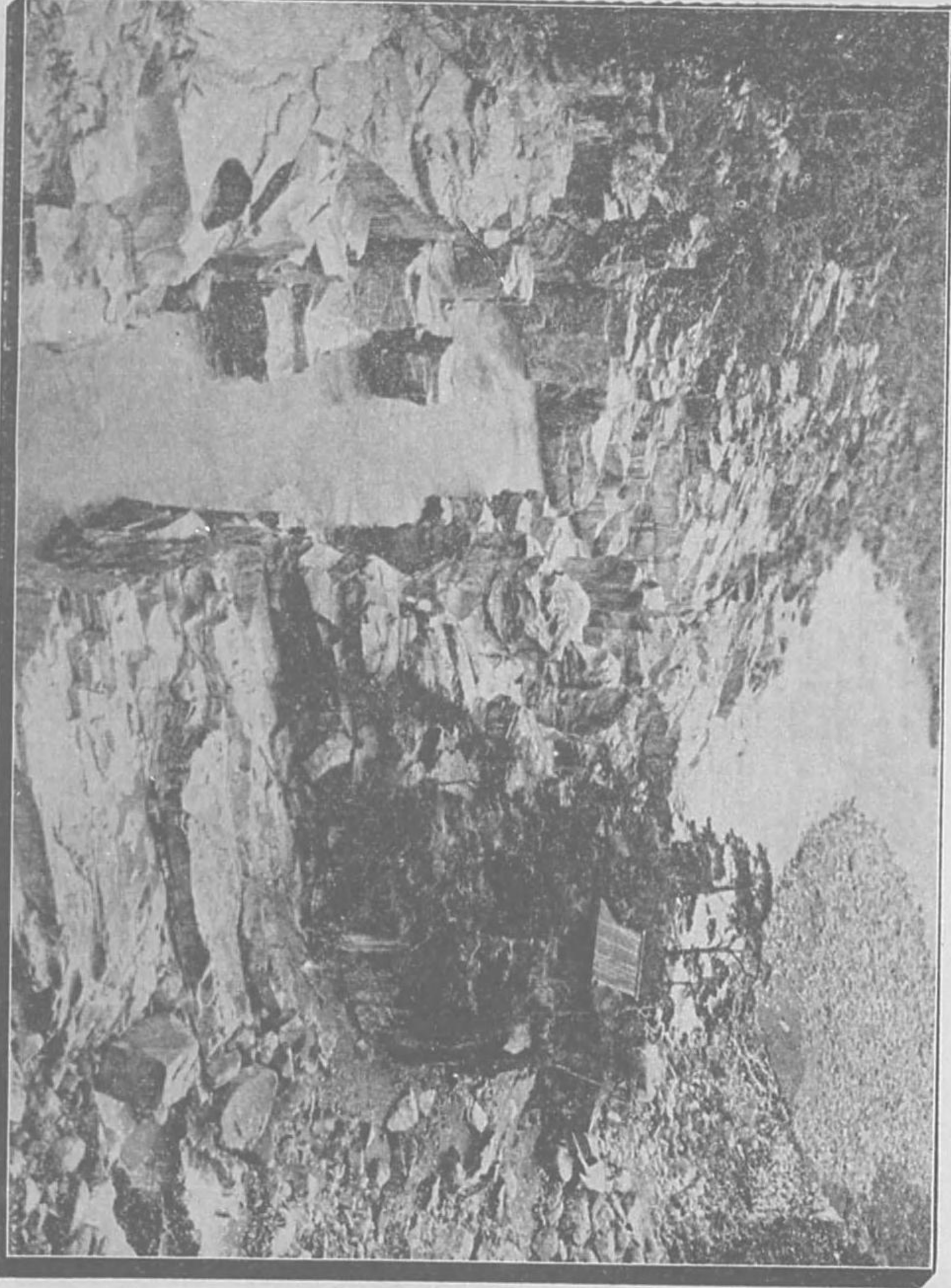
信州の山中にありて、文明の光に輝さわたる市邑は、長野なるべし、百般のこど、日新の利器を應用せざるなく、瀛車通じ電氣輝き、一度びこの市に入れば、殆んど京濱に在るか如き感あらしむ、この盛邑にありて、文明日用の物品を販賣し、以て、全市近郡の需用を供給するものは、鈴木洋物店なるべし、百般のものとして供はらざるなく、都門の貴紳をしてこの市に入らしむるも、又た、不便を訴ふると勿らしむ、加之に、店主は、市の名望家にして、現に市長の任に當る人あれば、其弊も、却つて都門の洋物店に勝り、價の廉にして品の佳なる、夙に、江湖の喝采と信用を博せりとす。

犀北館近山旅館 (信濃長野)

長野市は、北陸東海の連続せる要路を占め、加ふるに、善光寺の靈場あるを以て、旅客の出入するもの尤も多く、隨ふて旅館の設けらるもの甚だ多し、犀北館は、近山某の營むものにして、市中屈指の大旅館たり、旅客を接待するには、凡て、叮嚀親切を以てして絶へて不便不安を感せしめず、心のどけく止宿せしむるとは、昔氣質の質朴温厚を以てし、室内の体裁、日用の器具物品などは、日進月歩のものを利用して、坐臥出入に不便を感せしめず、尤も完全なる好旅館として、一般の旅客の擇ぶべきものなるべし。

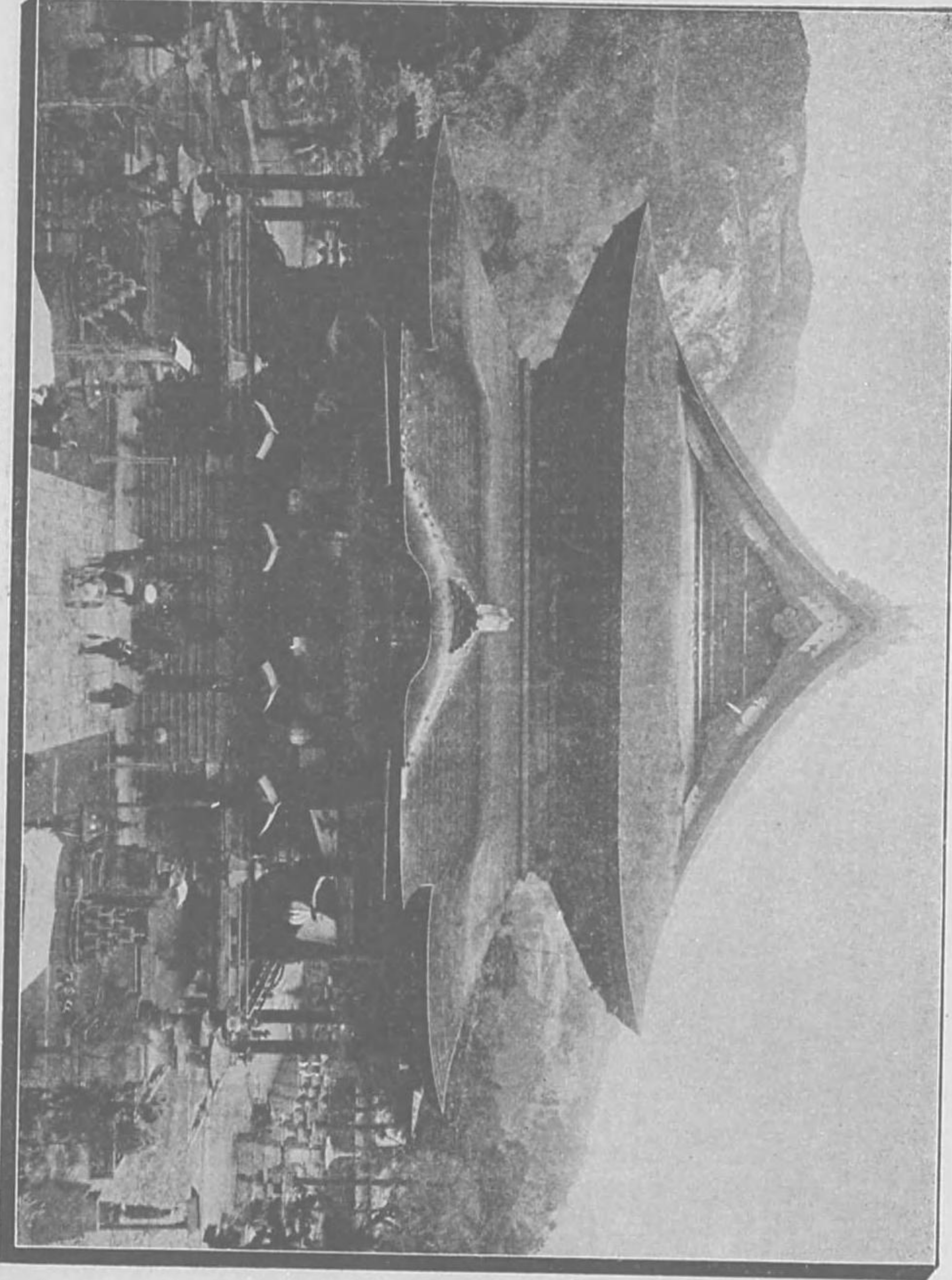
長野電燈株式會社 (信濃)

二十世紀の世界は、電氣の光によりて裝飾せらるゝこととなり、到るところに、煌々の光を見ざるなきにいたらんと、遠きにあらざるべし、長野縣長野市の如きは、地方都邑の中に尤も早く之を實行せるものにて、明治三十年四月、同地方の有力者、小坂善之助、藤井平五郎、羽田定八、前島元助、宮下太七郎等率先して發企し、同年六月に政府の認可を受け翌年五月を以て、この水力電氣の會社を見るに到れり、資本金は、最初四萬五千圓なりしも、事業の進捗と共に、明治卅二年に八萬圓に増加し、現今は二千八百燈を點火するに及びたりといふ、尙工業用の使用にも供する計畫中なりとぞ、現任重役は取締役 會長小坂善之助、取締役 藤井平五郎、前島元助、羽田定八、宮下太七郎、監査役 宮下一清、諏訪部庄左衛門、萩原要吉等なり。



(信濃水曾) 睡覚浦島の古跡

Chief Shrine of Zenkwō-ji; Nagano, Shinano.



(信濃長野) 善光寺本堂

Zenkwō-ji.

The temple of Zenkwō-ji was founded A. D. 664, by an Imperial ordinance. It is situated in Nagano, Shinano. Tradition relates that when, some years before, large numbers of Buddhist images were thrown into the sea by the opponents of Buddhism, one of the figures, a golden image of Amida, shone most brilliantly. A native of Shinano, named Zenkwō, impressed by the miracle, rescued the relic and carried it to Nagano, where it is said to be still preserved. The temple was built to commemorate this event, and is in charge of a priestess of the Imperial Family.

Nezame-no-sato.

This is a noted spot on the bank of Kiso River, not far from the post-station Komagane, on the Naka-sendō. There is much wild and interesting scenery at this point. The name, which means "the place of awaking", has its origin in an old legend which relates that a certain youth became so enamored of the beauty of the river and mountain views, that he forgot the lapse of time. After many years, he happened to look into the mirror-like surface of a pool near the river bank, and was rudely awakened from his long dream by the sight of an old man's face.

善光寺本堂 (信濃)

信州定額山善光寺は、天智天皇三年の草創にして、本尊は欽明天皇の時百濟國より渡來せ、閻浮檀金の阿彌陀佛なり。此像は一たび物部守屋、中臣藤原等の爲めに、浪花堀江に投ぜられしを、信州の人、本田善光、之を水中より引上げて歸國し、尊崇數年の後、終に居村に堂宇を建立したるもの。即ち此寺の濫觴なりと言傳ふ。寺域東西五百間、南北百間、本堂は巍然として山門の中に聳へ、高さ十丈柱の數百三十六本、垂木の數六万本を有し四方に階段を設けて衆人の昇降に便にす。實に吾國希有の大伽藍なり。内陣には真に本田善光、妻彌生、長子善佐の三像を置き、西に本尊阿彌陀佛を安置す。外陣には疊百枚を布き正面には大香爐あり、左側には觀鷲上人手活の松あり、寺内には納骨堂、阿闍梨の池、聖徳太子鏡の御影、御靈屋、接待所、其他未寺多く、今は境内の一部を限りて公園となし、泉池園林の風致を添へて、大に寺内の美觀を増せり。

寢覺の里 (信濃)

信州筑摩郡駒ヶ根村に在り、木曾川の急流此に至り追りて瀬となり淵となり、奇巖怪石重疊起伏し、屹立巨人の如きものあり、匍伏蟻の如きものあり、大なるものは數十丈、小なるものも一二丈を下らず、屏風岩、硯岩、烏帽子岩、釜岩、蓮華岩、狙岩、象岩、獅子岩、葛籠岩など最も奇形を以て鳴る。岸には奔瀉石に激して時ならぬ雪を散らし、水聲々々鼓の如し、一たび此地に臨むものは風神俄かに爽快を覺へ、又俗塵の其身を侵すを知らざるべし真に是れ岐蘇山中第一の奇勝、古へ俳人松尾繼奇、坐つに此地の景を愛して去る能はざりしと傳ふるもの良とにゆへありと言ふべき。

姥捨山長樂寺 (信濃)

觀月に其名高き姥捨山は、信州更級郡更級村
宇若宮にあり、半圓形をなしたる小峯の麓に
一字の寺院あり、放光院長樂寺といふ、寺門を
入れば、姥石といふ巨石ありて、高さ五丈餘
なり、石に傍みて小庵あり満月堂といふ、其
扉は月見堂と稱し、觀月の適場たり、仲秋
の天晴れて、一點の雲なき夜、この堂に上り
て欄に依れば、明月は前面に當れる鏡臺山の
嶺より出で、其影水田に映りて、所謂の田毎
の月の奇觀を呈す、古より、人口に膾炙せる
名所として、吟詠に入りたるも少ならず、
逢ひに逢ひぬ姥捨山に秋の月 (宗祇)
おもかげを姥一人泣く月の夜 (芭蕉)

犀川の急流、兩岸に迫られて湛へて、碧潭を
なし、曲流數折にして忽ち急湍となり、一瀉
奔馳、蒼龍の躍飛するが如く、崖を掠りて流
れ去る。南方より眺望すれば、兩岸の絶壁は
鬼神の斧もて削りたらん如く、巨岩大石參差
として其間に峙ち、翠瀾らんとす松樹は、緑
濕へるか如き弱竹と共に、この奇絶なる景色
を添へ、萬仞の碧潭は、水流盤渦して、湧起
し宛然たる鳴門の小景たり、流は、窮まる如
くにして窮らず、微に倚々たる綠竹の間に隠
れざる、信に信州の絶勝にして、遊觀の客の
訪ぬべき奇景たり。境は、松本町を去ると五
里許、更級郡生坂村にあり、山清路といひ。
又は三清地に作る、

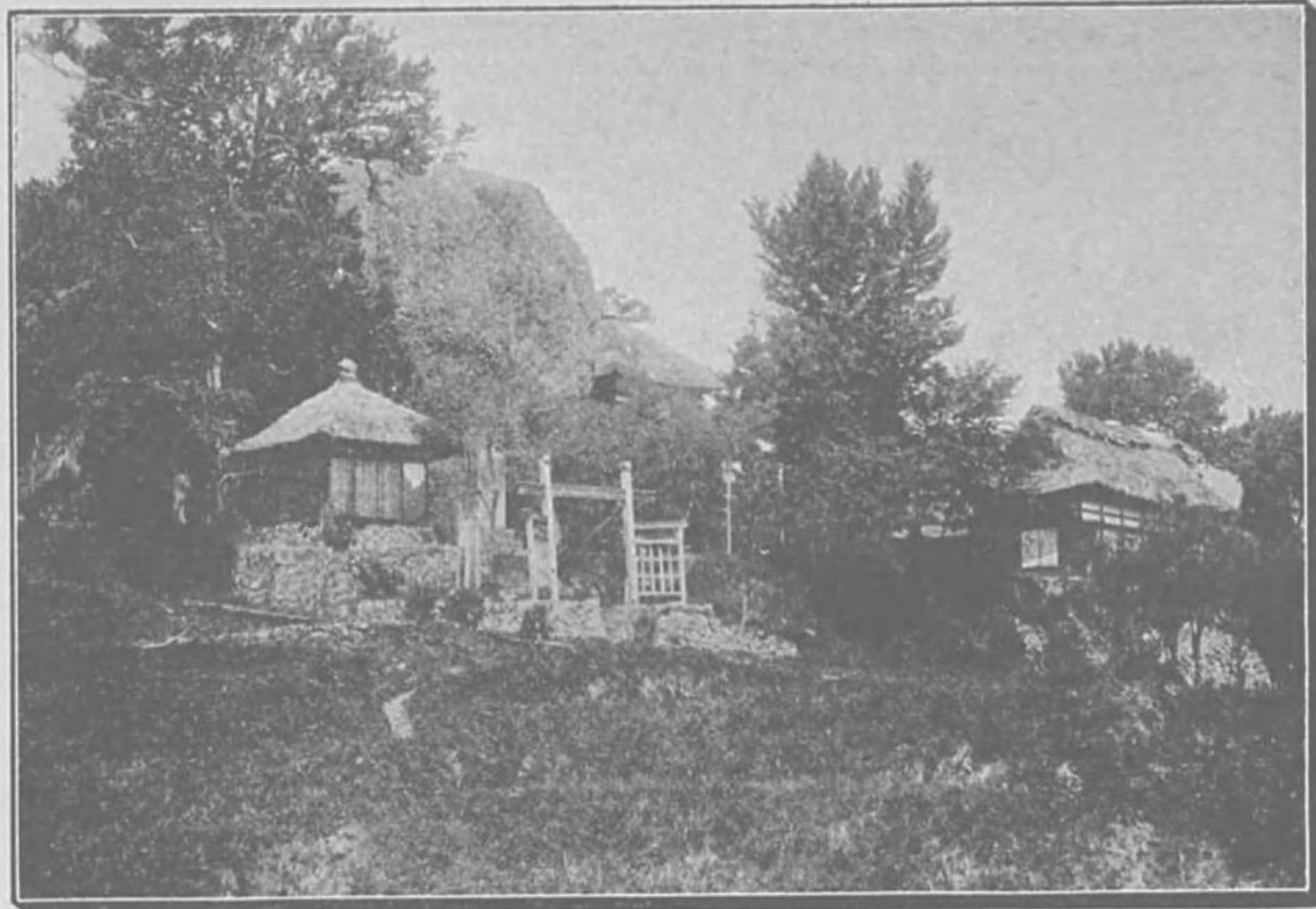
山清路 (信濃)

木曾の棧道 (信濃)

北陸鐵道に駕して長野停車場に下車するもの
は、先づ其繁華に驚ろき、而して、この繁華
が善光寺如來の餘光によるを思はば、更に
その靈顯の著しきを想ふべし。實に長野市街
の繁榮は、全國各地より巡禮の爲めて詣で來
る善男善女によりて其七八部をそへらるゝもの
なり。特に毎歲舊曆三月十五日、十月十五
日の兩日には會式を行ひ、六月十三、十四の
兩日には盛大なる大法會の執行あり、この大
法會には全國の信徒争ふて參詣し、さしにも
廣き長野市街も人を以て埋めらるゝばかりな
り、種々の裝飾を施されたる山車は市の有志
によりて街上を曳かれ、數千の燈は紛々とし
て天上の銀河一時にこの地に流れしかと疑は
れ、其盛況は殆んど筆紙に名狀すべからず、
近來にいたり、行通の便開けたるより、この
狀況更に一層を加へたりといふ。

信州西筑摩郡上杉驛の北半里、駒ヶ根村大字
沓懸に在り、慶安元年、尾張大納言有司に命
じ、岐蘇川の西端巖石を疊みて橋礎となし、
之に長さ五十六間、幅三間四尺の木橋を架せ
しめ、寛保年間重ねて修葺を加ふ今存するもの
、即ち是なり、左に古歌に詠せられし往時
の棧道は、全く其位置を異にし、駒ヶ根村字
立町より、國道を右に折れ溪流に沿ひて山を
攀ること半里、兩岸對峙して自然の橋基を成
せる處、即ち其舊跡なりと言傳ふ、寛文の頃
までは、兩岸に鐵鎖の半ば腐蝕したるもの、
尙は残りと言へり、此圖は現時の棧道を示
したるものなれど、間ひ甚だ遠からねば、躋
勝の士は、新舊併せ見らるゝも一興なるべし。

(信濃) 観捨山長樂寺



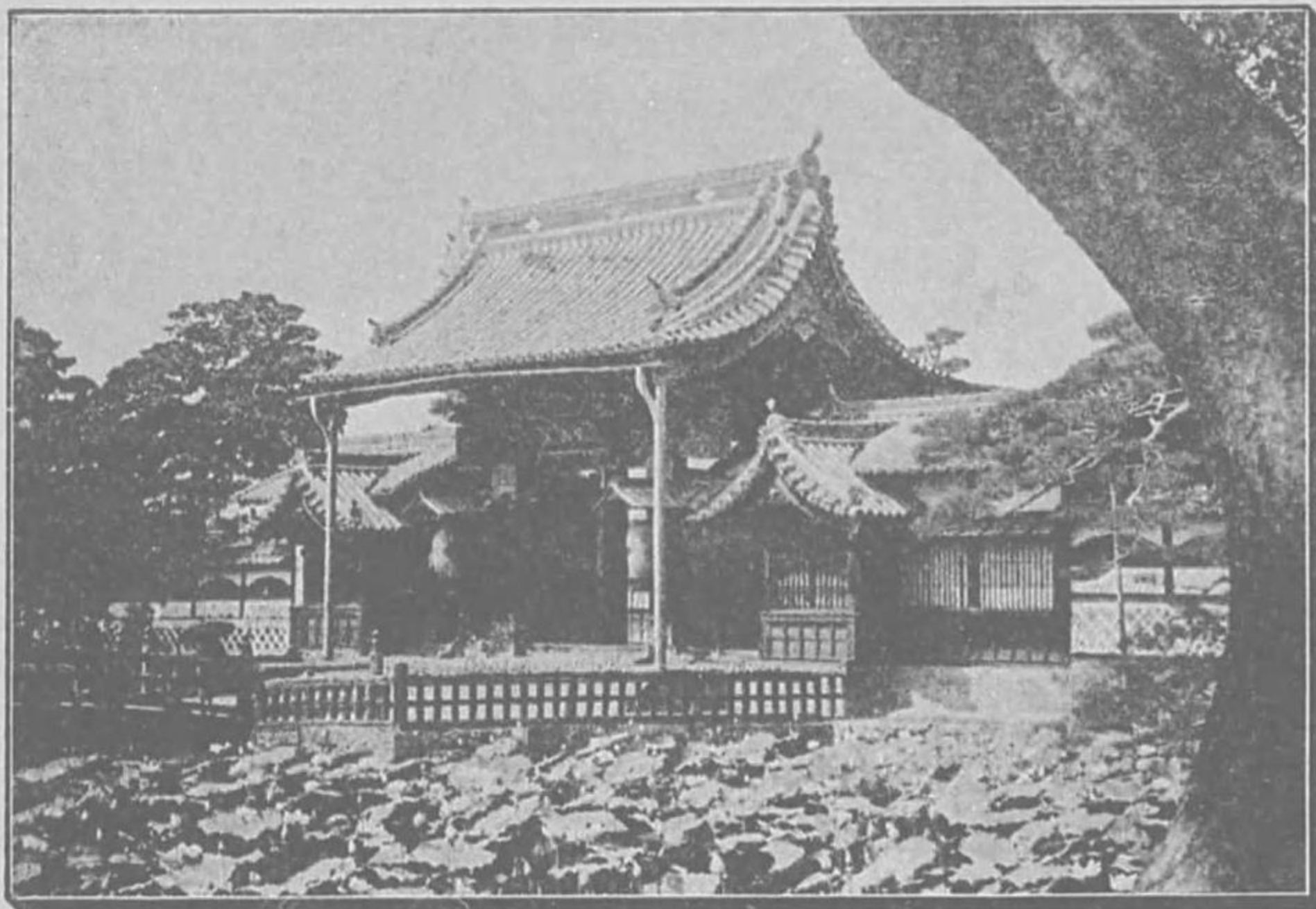
Chōmoku Temple at Obasute Mountain; Shinano.

(信濃) 山清路



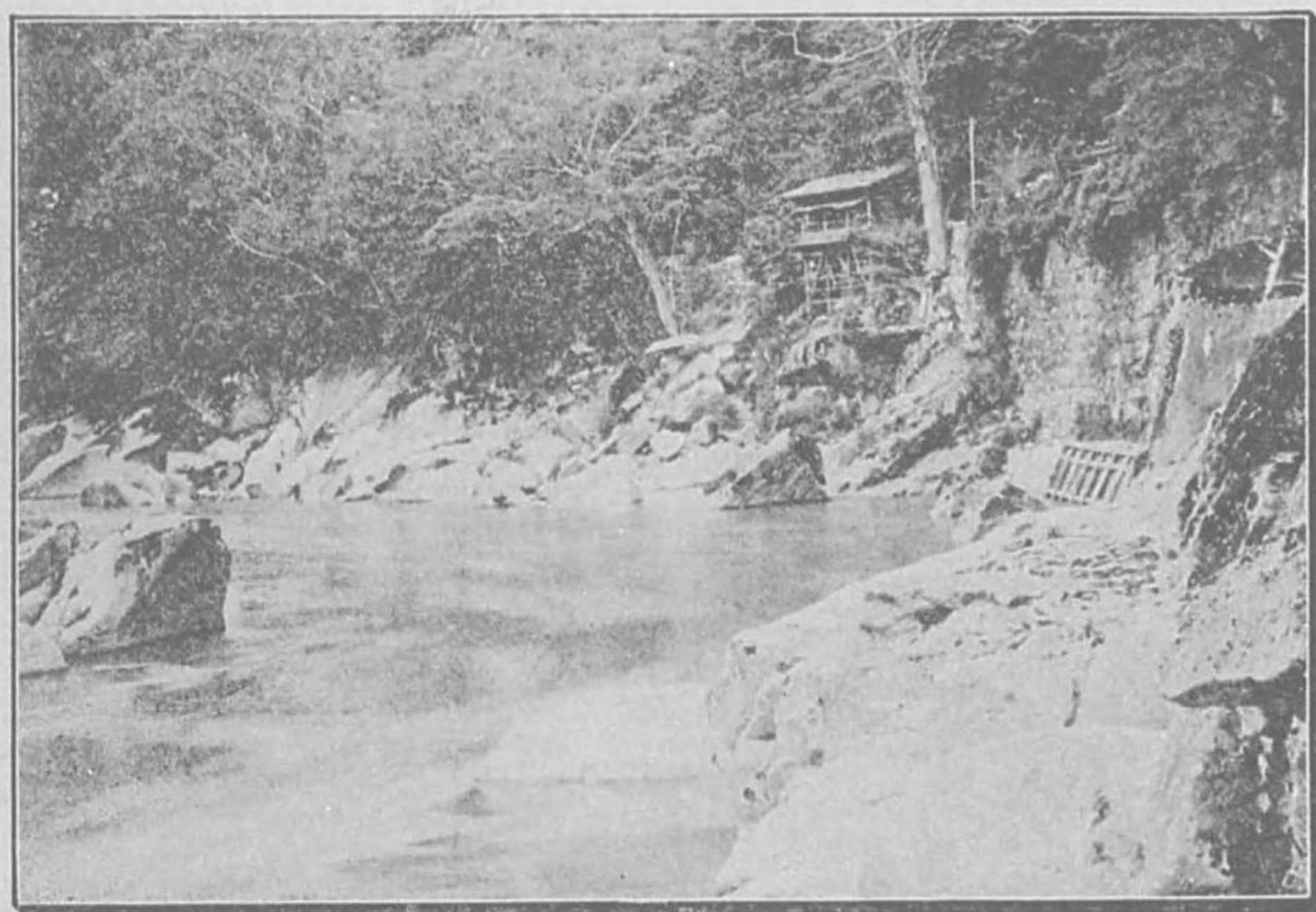
Sanseiji Ravine, Shinano.

(信濃) 善光寺別當大勧進



Residence of Priests of Zenkō-ji, Shinano.

(信濃) 木曾棧道



Mountain Pass of Kiso, Shinano.

(信濃飯田) 大宮諏訪神社



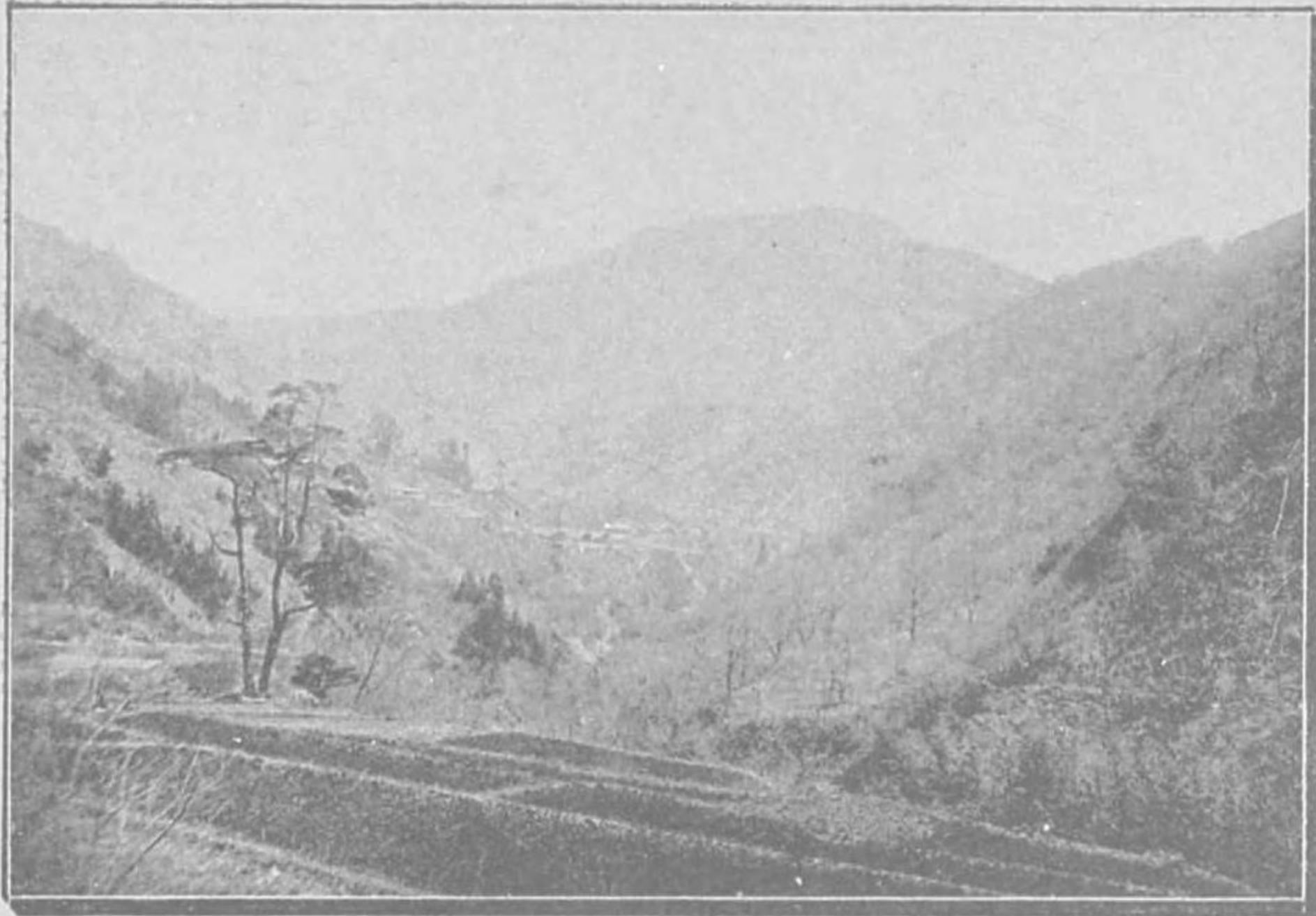
Shintō-Temple of Ōmiya, Suwa ; Iida, Shinano.

(信濃) 諏訪湖より富士山を望む



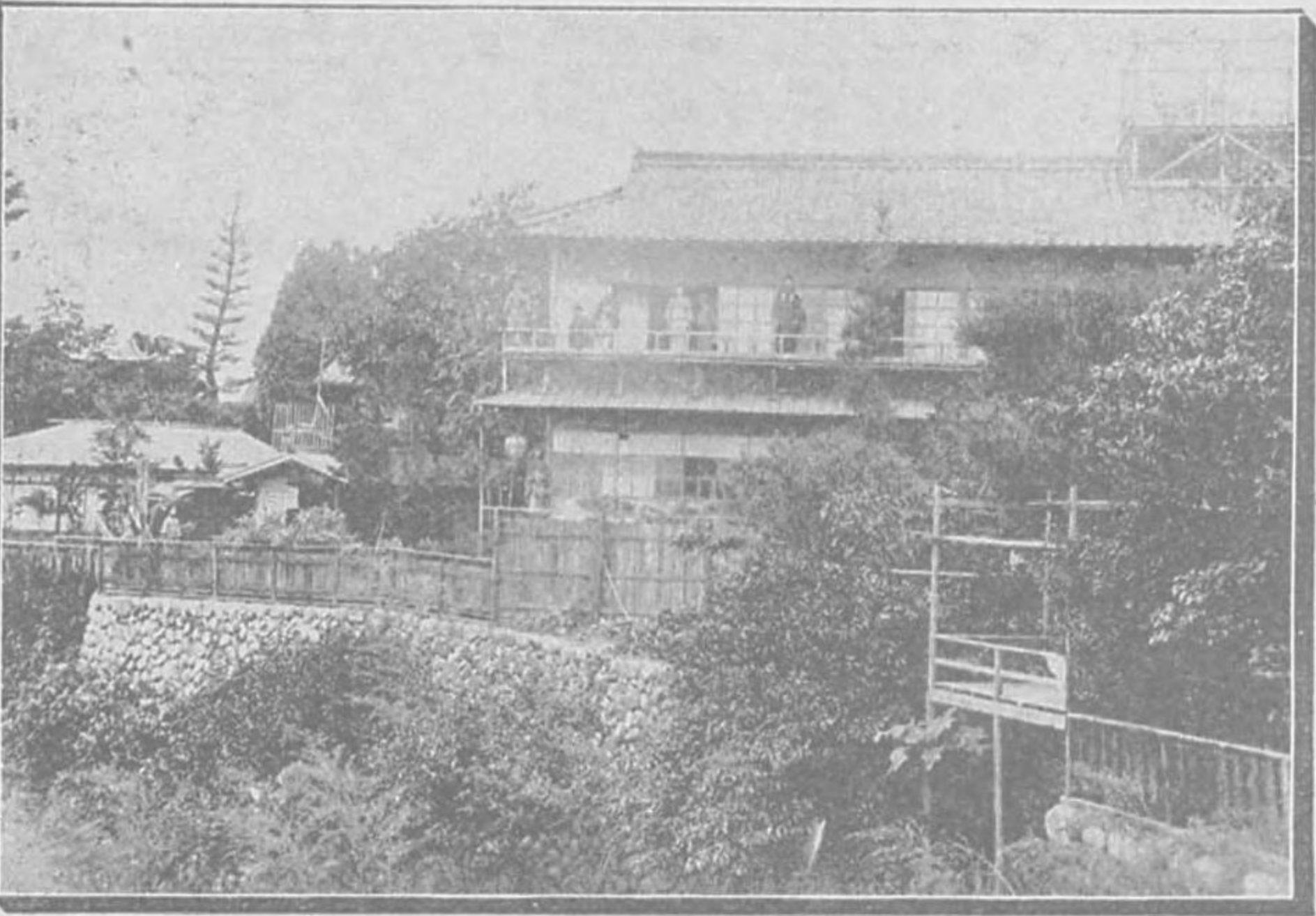
View of Fuji-no-yama, from Lake Suwa ; Shinano.

(信濃園原) 伏屋の里



Fuseya-no-sato ; Shinano.

(信濃飯田) 蕉梧堂旅館



Shōgodō Hotel; Iida, Shinano.

大宮諏訪神社 (信濃)

大宮諏訪神社は飯田市街に隣りせる上飯田の里にあり祭神は健甕名方大神にして御妃八坂刀賣乃命を配祀す其創始は太古信濃國を諏訪の國と稱し今の諏訪郡を内縣と云ひ今の伊那の郡を外縣と唱えし時より外縣の大社として宮柱太しく立て、齋まつまれり其大宮と云ひけむも外縣の大社なるに由れり又鎮坐の地を上飯田乃里と云ひ町を飯田と云ひけるも大神の出雲の國より此信濃の國に入らせ給ひし時此地の形勝なるを見をなせ給ひ暫し神舞を駐めさせ給ひ此地より神饌を献りしより起因せし名稱なり降りて封建時代には代々領主の尊崇甚だ厚く現今の社殿は脇坂淡路守安元の再建にかゝれり神域は高潔にして千歳の老杉雲に交り古松其間に森立し藺蒼として天を覆ひ境は幽邃にして越き亦閑雅なり飛瀑あり斷崖に懸りて球を濺ぎ玉を噴き其水清冽に其音濛々たり拍手の音と共に自から氣澄み心清く坐るに神威の嚴著なるを覺ゆべし。

諏訪湖の眺望 (信濃)

諏訪湖は、本邦に著名なる湖水の一にして、東西一里十四町、南北三十三町、周圍四里廿二町に及ぶ、八ヶ嶽の峻峰巒として東にそびへ、守屋山の峰岳高く南に峙つ、二峰の間より流る、川を衣渡川といひ、濛々として湖に注ぐ、河口に衣ヶ崎の勝あり、このところより遙に富士山の温容を望む、湖水の迫りて河をなすところを尾尻といひ、これより、激流奔瀉して、天龍川と成る、湖上の風光は、これに説くをまたず、四圍の山色さかさまに映じて、藍水いよゝ濃く、漁舟の所々に散在するさま、鳧鴨の泛べるに似たり。この湖を一に鷺湖となす、こは、宋の鴻儒朱子が、信州の鷺湖に群賢と會せしとあるをとりて、國名の信州なるより、引いて命名せしものなるべし。

伏屋の里 (信濃)

上伊那郡智里村より、三坂時に達する山中にある古名所にして、古人の歌に

園原や伏屋におふる箒木の

ありとは見えて逢はぬ君か那

とあるものこれなり、園原とはこの地の名にして、伏屋の里とはその異名なりといふ、箒木の名所として古より其名高く、園原の北方より望めば、山のいたゞきに生ひ茂れる樹木は、いづれも梢を均しくして並び立ち、宛も箒木をさかさまに樹てたる如く見ゆるより、この名稱を得しと言ひ傳へらる、一説に、小縣郡にありといひ、又は、筑摩郡にありといふは、いづれも誤傳なりといふ。

旅館蕉梧堂 (信濃)

飯田町は信州南部の都會にして戸數殆ど四千人人口二方に垂たり、尾濃三遠に通ずる要衝の地にして商業旺盛物産饒多、就中生糸絹織物元結等其最たり、此地は太古諏訪大神の暫し神跡を止めまし、處にして其飯田と稱するも此大神に神餉を献りしより縁起せし名にして諏訪外縣の大社あり、其他歴史上著名の地尠からず、彼の歌に書に詠せられたる園原伏屋の里には今尚箒木日本杉等現存し木賊止の月と共に名高く十勝の奇を以て鳴る天龍峽は其流と共に四方に聞ゆ而して蕉梧堂は此地唯一の旅館にして愛宕の高丘に對し松川の清流に臨み花の晨月の夕は更なり夏の涼冬の雪朝暉夕陰晴好雨奇各其特長を一時の内に集む若此客室に坐して旅思を慰め此好景に對して歴史を追懷せば又誠に旅中の一大快事なるべし。

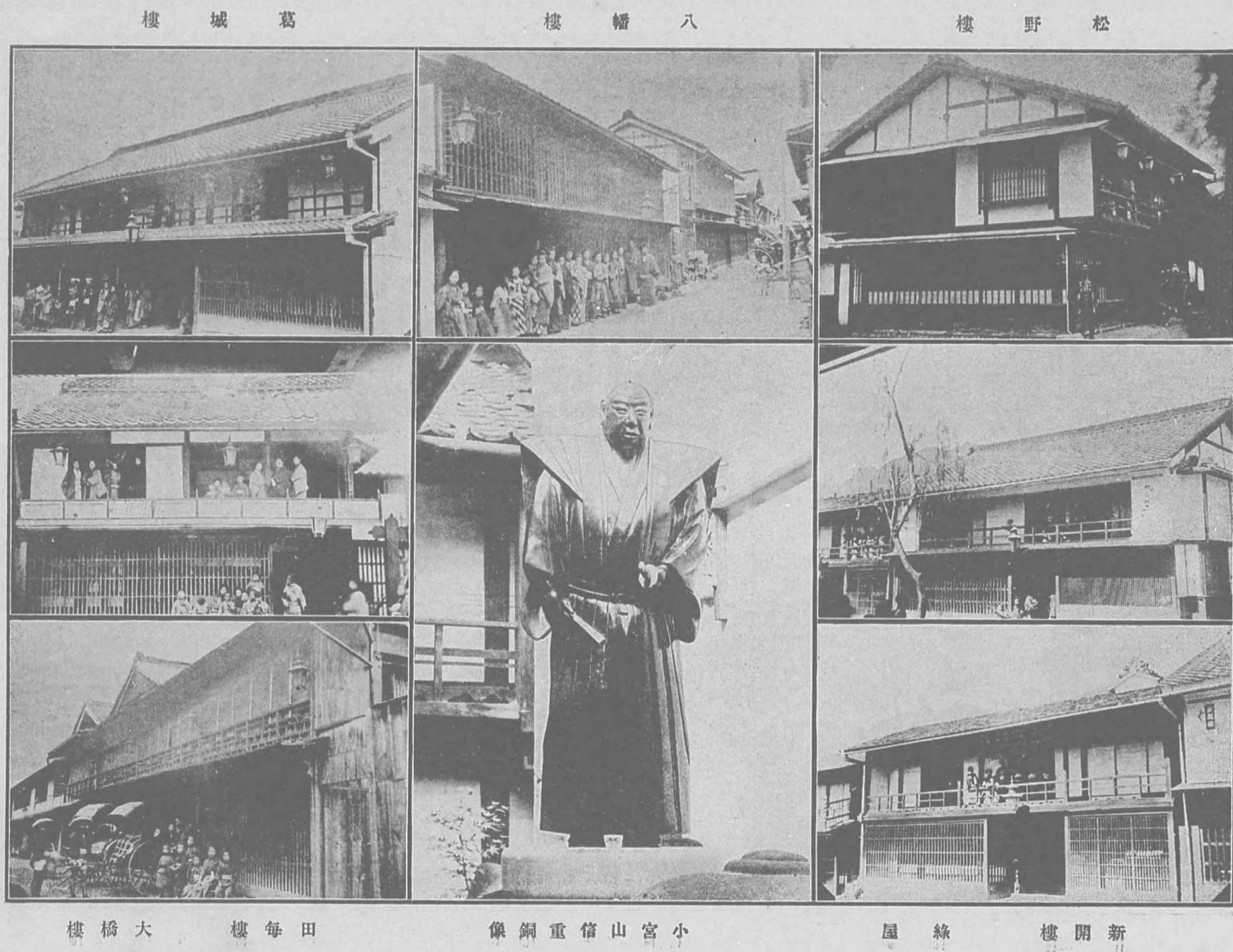
上田遊廓及小宮山の銅像 (信濃)

上田は、信濃國に於いて、長野に次げる繁華の市街にして、地形北國街道の要衝にあたり、養蠶製絲の業頗る盛んに、商業亦た甚だ活潑なり、上田遊廓は、この名邑の花を添へて、風流の遊客が歌吹の海に浮かる、樂境なり。高樓譚軒相連なりて、紅燈の光りあざやかに、弦歌の聲雲にひやく街の中央に、一銅像の立てらる、あり、こは、この花街の設立者たる小宮山清重の績を傳ふる爲めにしたるものなりといふ、彼は上田町に生れたる人にして、明治十一年に卒先してこの地に樓を起し、苦心經營して同志を勸奨し、終に今日に及ばしめたるなりといふ、今や、二十八戸の綺樓相連なりて、街の繁榮其比なく、越の美人、信の麗娘争ふて四時の春色を織る、想ふに、歌舞の聲は、銅像の耳に入りて、地下に満足の笑をたふふるならんか。

長野遊廓 (信濃)

鶴賀新地は、長野市街の東方五町餘の郊外にありて、白堊粉壁別に一廓の歌吹の巷をなせり、古昔善光寺如來の開基せられしときは、この附近は一場の草野にして、參詣の信者も一椀の湯茶すら得る所なかりき、其後、善光寺平居町といへる村落のもの衆生濟度の目的にて一軒の掛茶屋を設けしに、行旅の集まるもの其便によらざるなく、爾來漸次に其數を増加すると共に、其形勢も自ら變じ、酒肴を供へ酌婦を置きしに、終に一轉して妓樓となり、絃聲絶ゆるとなき歌舞の場として幾百年の間繁昌を極めたりしか、明治十年有司の命により市外に移りて一廓をなしたるは即ち今の鶴賀新地なり、廓の体裁は一に東京市の吉原遊廓に摸し、綺樓高臺軒を連ねて、信の名姝越の美人粧をこらして、嫖客を招ねき其繁華は舊に倍してこゝに一の不夜城を現出したりき。明治二十年に火災ありて、市街の半は烏有に歸したりしが、爾後年々に再築せられて、今は廓内に尺寸の餘地をも留めざるに到れり、妓樓の總數は四十有餘軒に達し、藝娼妓の數は千を以て計るべく、三層四層の高樓雲に聳へて歌吹の聲湧くが如く、東北地方に稀なる花柳の名區たり、妓樓中にて尤も名高きものは三ツ一樓、大黒樓、根中樓、二葉樓、柏や、越前屋、中屋、紀伊屋、榮屋、三邦屋等を以て最とし客を遇する親切にして敢て暴利を貪らず、加之に、人情温厚にして他の銷金窩の如くならず風流の士安んじて紅燈綠酒に興を買ふを得べし、

(信濃) 上田遊廓一覽の一



葛城樓

八幡樓

松野樓

大橋樓

田毎樓

小宮山信重銅像

綠屋

新開樓



樓 萬 三



樓 本 高



樓 萬 鶴



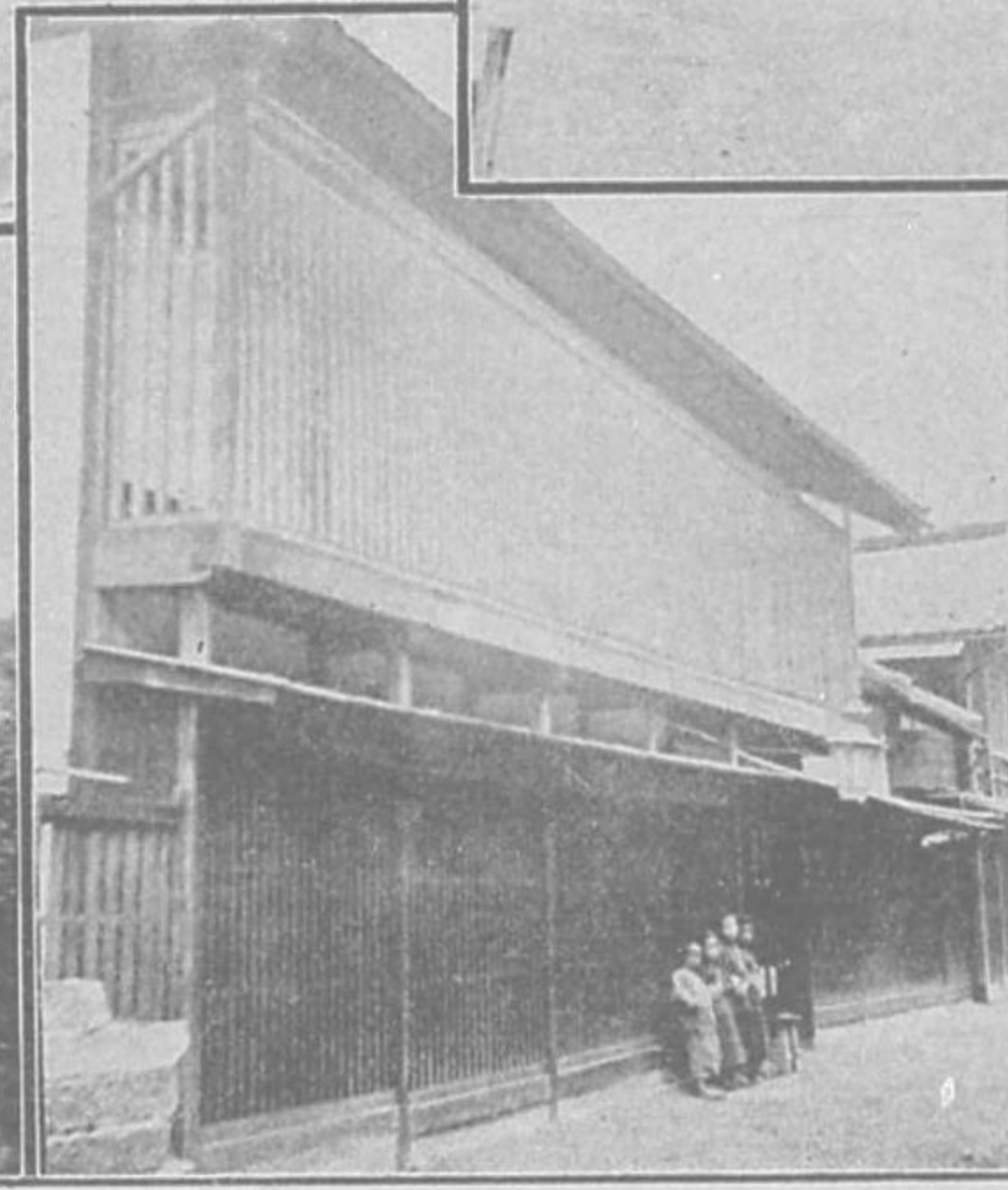
樓 原 北



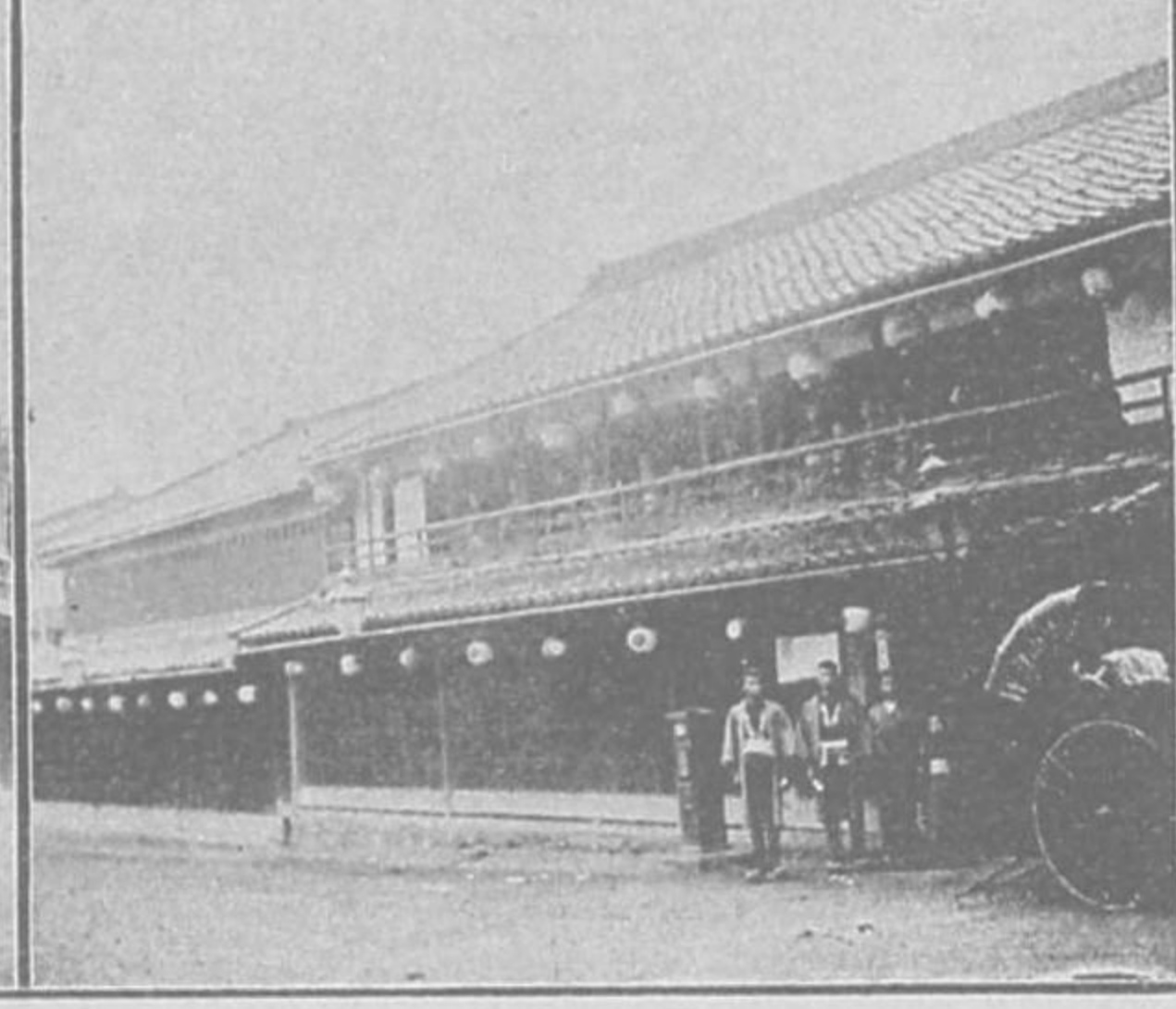
(信濃) 上田遊廓一覽の二



樓 本 青

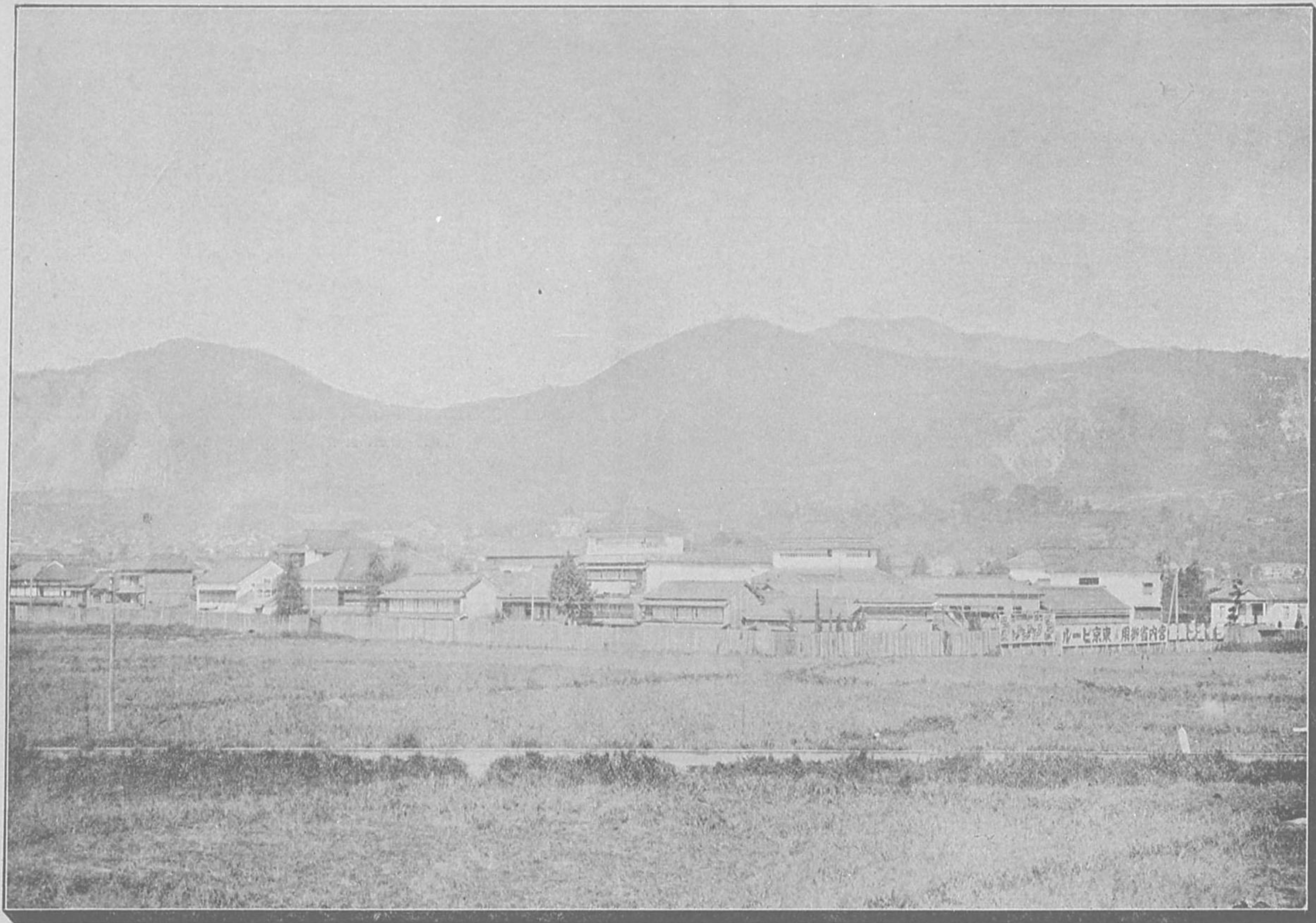


樓 万 元



樓 村 中 大

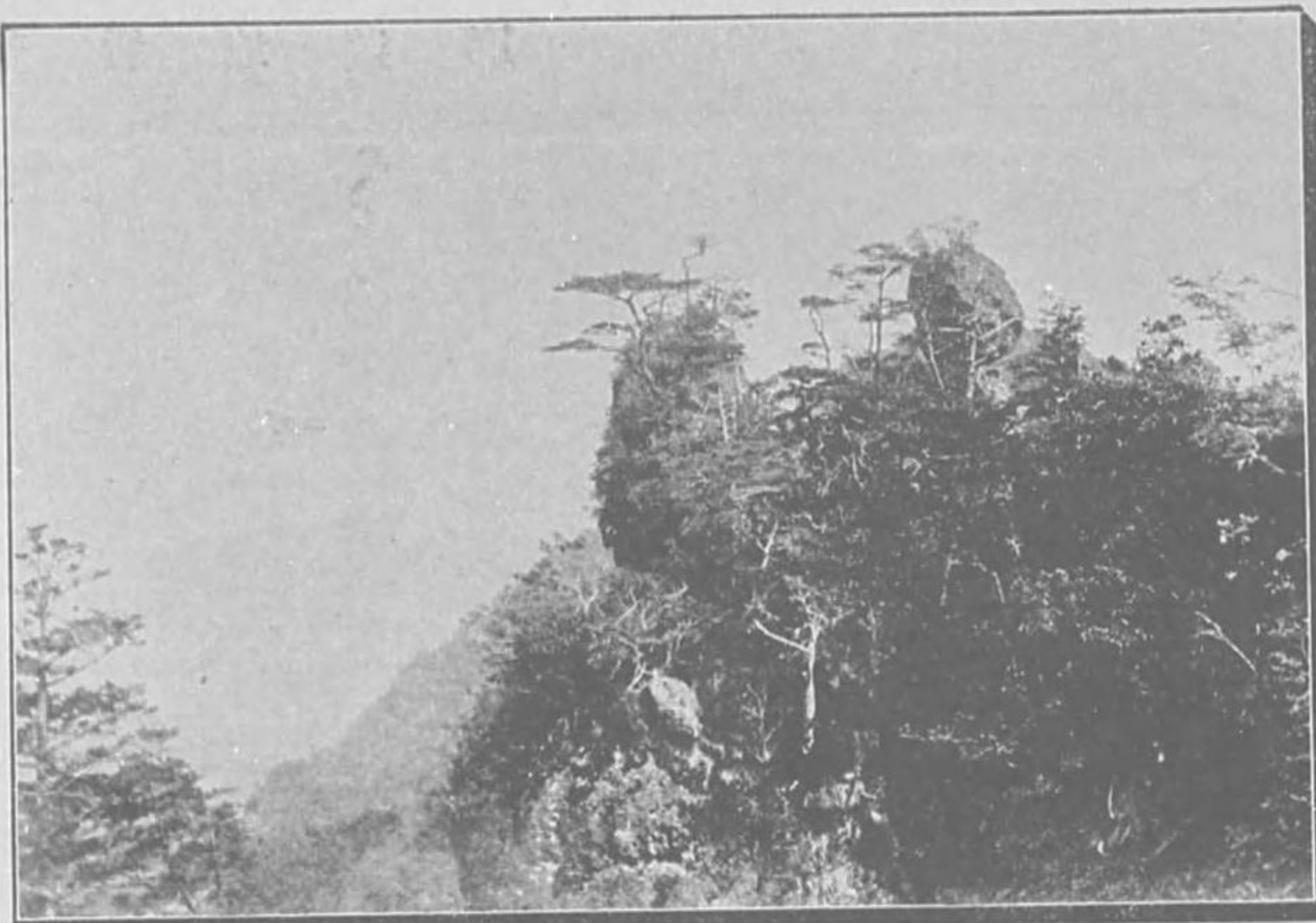
廓遊地新賀鶴 (野長濃信)



Public Houses of Tsuruga-Shinchi, Nagano; Shinano.

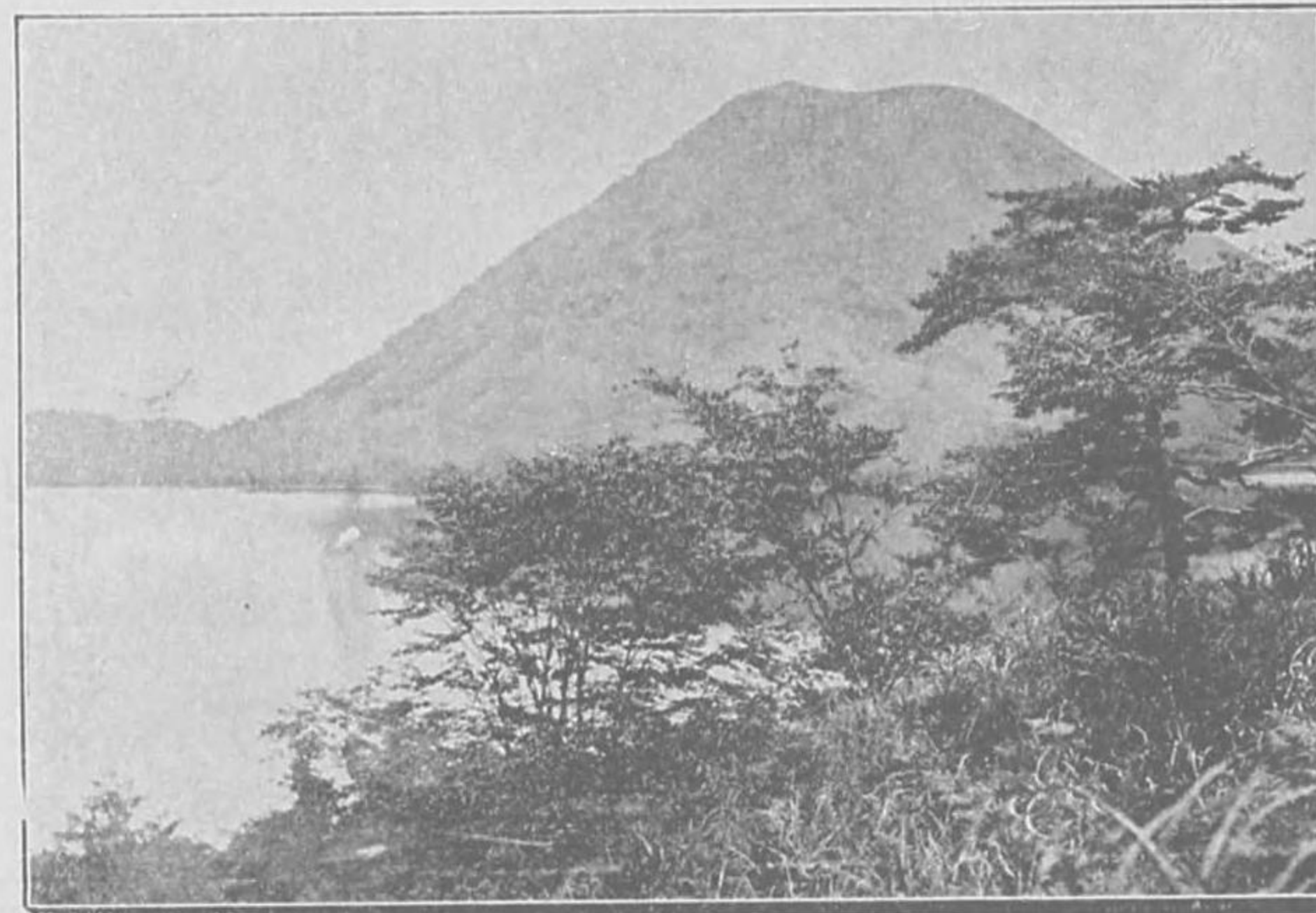


(上野) 妙義 動岩 遠景



Yurugi Rock at Myogi san; Kōdzuke.

(上野) 榛名天神峠より伊香保富士を見る



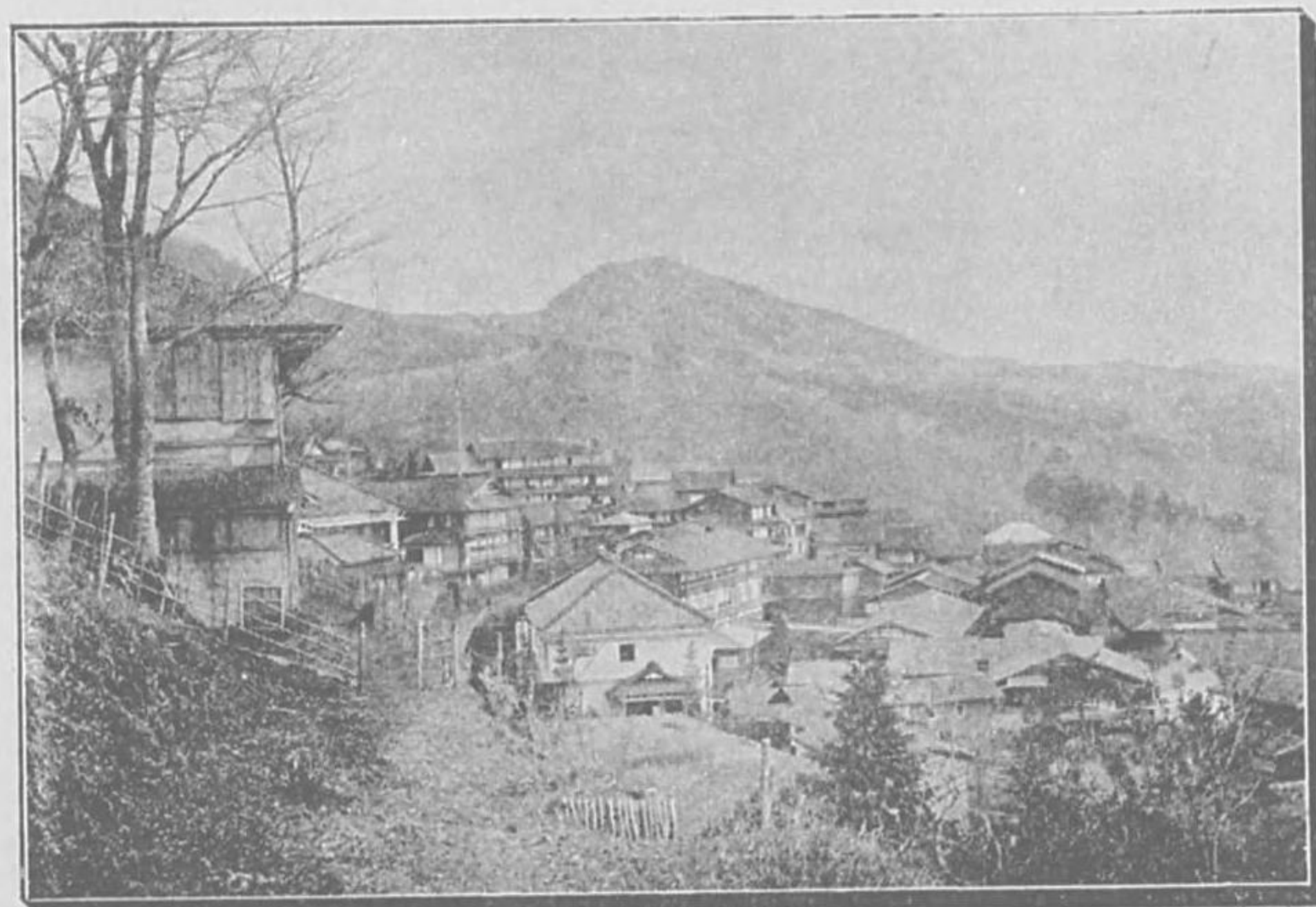
Ikkō, from Tenjin-tōge; Kōdzuke.

(上野水澤) 六角地藏堂



Rokkaku-dō near Midzusawa Kwannon-dō; Kōdzuke.

(上野) 伊香保全景



View of Ikkō; Kōdzuke.

妙義山 (上野)

妙義、赤城、榛名は、上州の三名山と稱へられて、世に其名高きも、就中、妙義山は、尤も奇絶峻絶なるものにして、實に海内屈指の名山たり。山は、金洞、白雲、金雞の三峯に分れて屹立し、山中の奇景名状すべからず、金洞山中には、四ヶの大石門あり、其他の斷崖絶壁恰も鬼神の斧もて削りたりらん如く、頂上に登るには、處々に鐵鎖をつなぎ、これに縋りて僅に進むべし、頂上の眺望は甚だ雄大にして關東の平野眼中に集まり、遙かに東京灣の水を隔て、房總の諸山と對す。白雲山の麓には、妙義神社あり、境幽邃にして古雅に、四邊は奇岩屏の如く連なり、樹木その間に生長して、夏日こゝに遊ばば、六月の炎暑を知らざるほどなりといふ。

天神峠より伊香保を望む (上野)

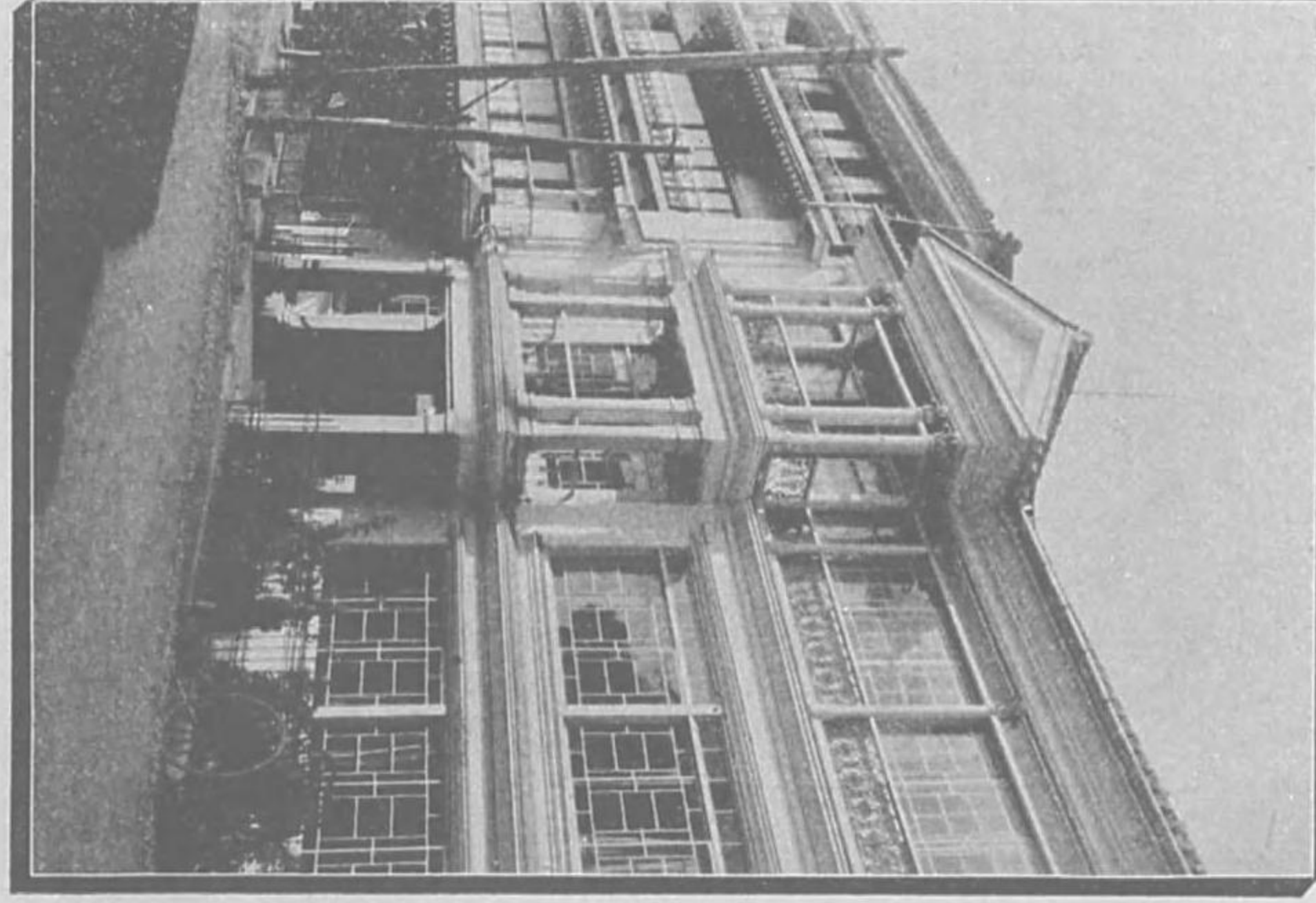
塵俗を伊香保の仙境に避け、山水の風景に嘯いて高樓の欄に凭り、晨に温泉に浴し、夕に山氣を呼吸せば、身心の頓に壯にして爽なるを覺ふべく、於是乎、勝を境外二里半餘の榛名に探るにいたらん、行いて、天神峠にいたり、首を廻らして來りし方を望めば、日夕宿泊せし伊香保の全景は、分明に眼中に入り來るべし、樹秀で山麓へたる丘に傍ふて、數百の人家層をなして連なり、或は高く聳えたる樓あり、或は廣く横はれる屋あり、瓦光粉壁日に映じて、恰も畫圖の如く、宛然たる仙境を望む概あらん、彼の屋を指し樓を顧みて、いづれが我身を容れしところなるを語りも愉快なるべく、神氣更に爽かなるを得るならん、この峠を下れば、少許にして榛名神社の裏門に達すべし。

水澤觀音六角堂 (上野)

伊香保を距る一里、五徳山水澤寺の境内にあり、境内は、静寂にて、幽邃頗る塵俗を脱する趣あり、本堂左方に、板佛と稱するものあり、元享四年三月廿日の日附けありて、左右に梵字を鐫りつけあり。六角堂は其傍にありて、構造頗る奇にして、中に、長六尺の地藏佛を安置す、この像は、銅を以て作られ、六體を六面に安置し、これを輪轉して拜禮せしめ、其構造見るべきものあり、現今は、盜難を恐れて、これを本堂に移したりといふ、伊香保に遊びしものは、一度び杖を曳いてこの尊像に禮拜すべきなり。

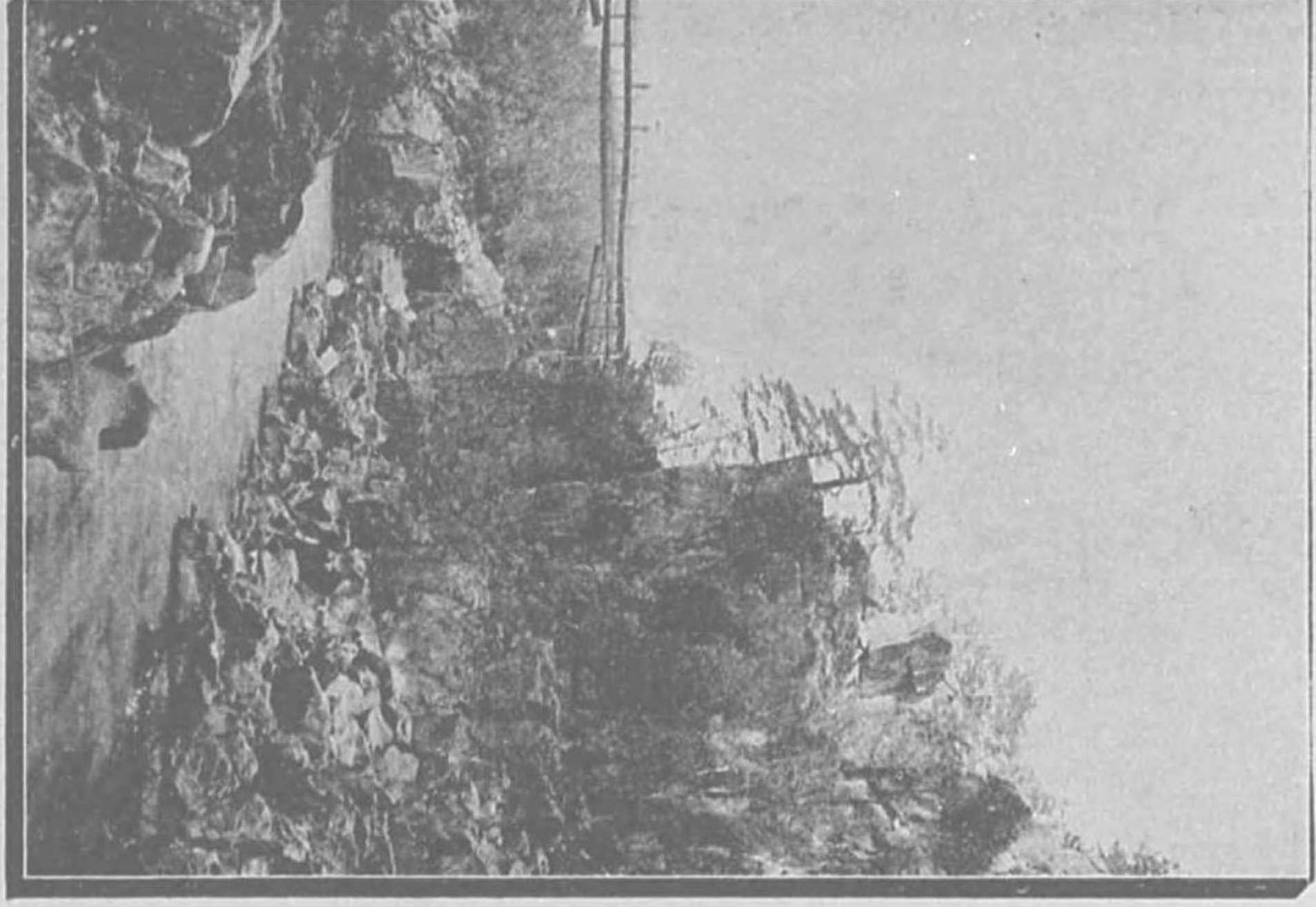
伊香保全景 (上野)

漁笛一聲高崎驛に着して、北に行くと七里十五町、前橋市を隔ると西北六里餘に、伊香保町あり、前橋市より馬車鐵道に乗じて濫川町に着し、崎嶇たる坂路を行くと二里半、遙に峠を放てば、一高山の峙つを見るべく、これを二ツ嶽とす、嶽の東腹にあたりて、南に山を負ひ西は溪に臨み、東北に迢々たる田畝を控へて、一團の人家魚鱗の如く接比するを見る、漸く近づけば、白堊粉壁相連なりて、高樓の屋を抽んずるあり、大厦の瓦光を閃かすあり、樹木參差として其間を點綴し、崖腹に浴ふて、層々として階段の如く、見るからに其地の凡ならざるを覺えしむ、これ、有名な伊香保温泉場にして、市街は、東西三町南北四町餘に連なり、人家は五百餘戸に及び。



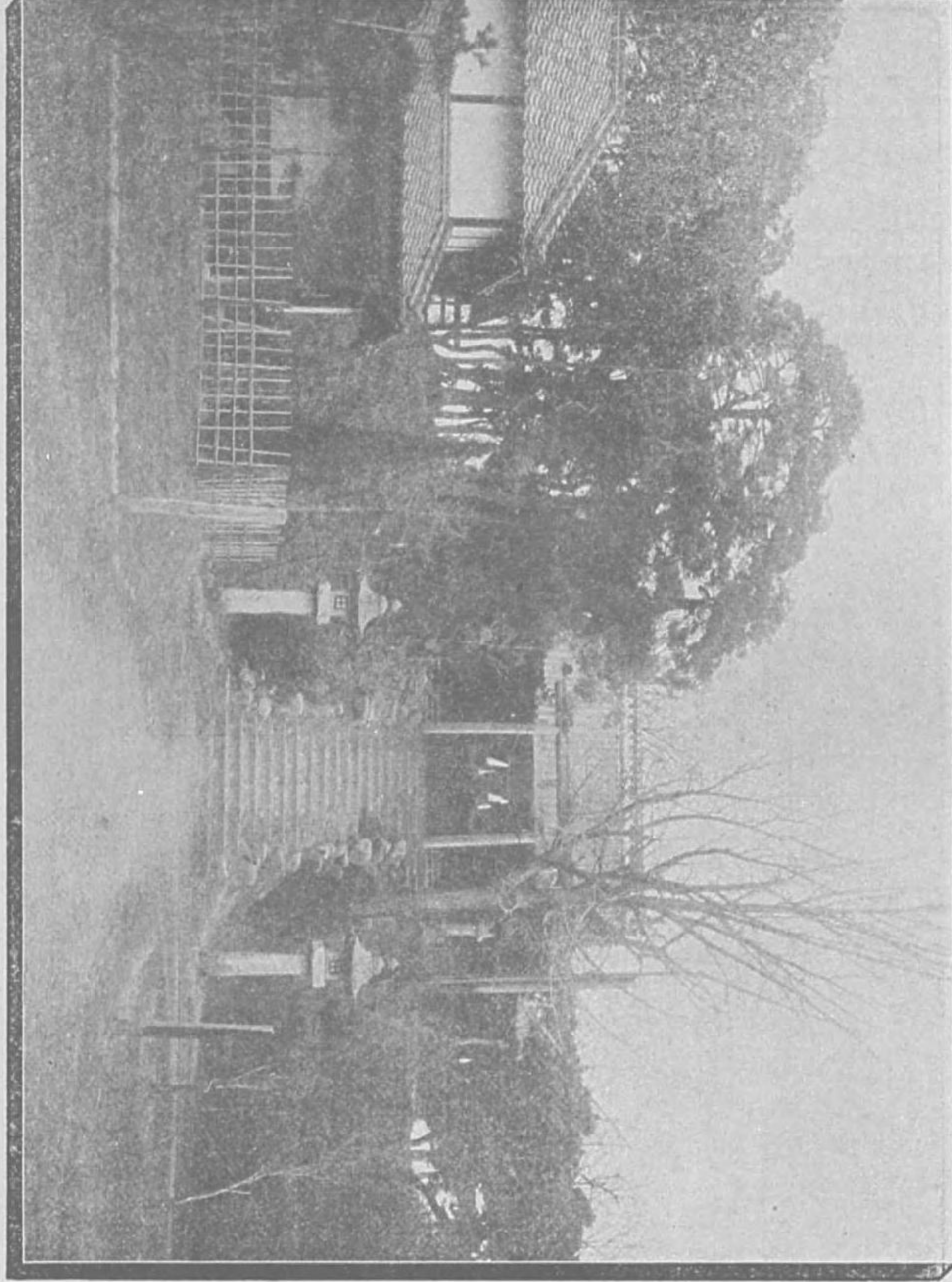
Ogi-ya Hotel at Nagano, Shinano.

(信濃長野) 属屋旅館



Tenryū Stream at Iida, Shinano.

(信濃飯田) 天龍峽



Shiroyama Shinto-Temple at Nagano, Shinano.

(信濃長野) 城山神社

The Shiroyama Temple.

This temple situated in Nagano, the capital of the province of Echigo is one of the largest Shinto temples in that part of Japan. For a long time, it was practically consolidated with the Buddhist temple, Zenkō-ji, but now the two are entirely distinct.

城山神社 (信)

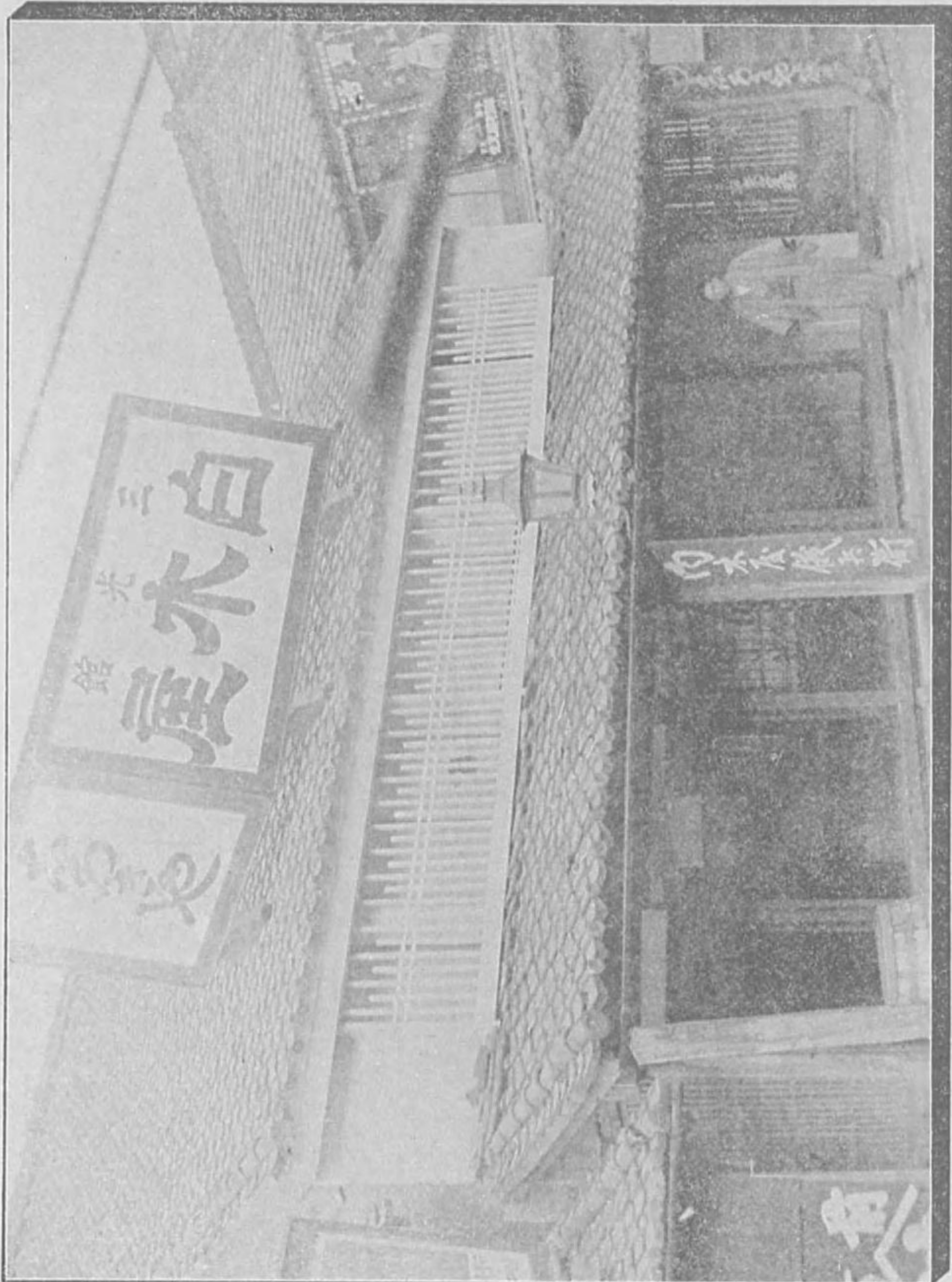
信州上水内郡長野市字城山に在り、縣社にして、建御名方富命、及び彦神別命の二神を奉祀す、由緒古き祠廟にして、日本紀に入れば、持統天皇の御宇五年、龍田風神を須波水内に祭るとあるものに該當し、又延喜式内の、水内郡建御名方富命、彦神別神社と云へるに相應せるが如きも、時代頗る古く且つ中世より、佛地に變じ、善光寺廓内に混入せられたるを以て、確實なる考証を得ること能はざるは惜むべし、社殿は正殿、幣殿、神供殿、奏樂殿、拜殿、社務所等にして、境内千六百坪、別宮には木匠祖神社ありて、手置帆負命、及彦狹智命の二神を祭る、個は明治十四年、信徒相謀りて、新たに創建したるものなりと傳ふ、要するに當社は、同地に在りて、由緒正しき古廟なること疑ふべからず、姑らく記して後考を待つ。

五明館 (信)

信州は、山間にありと雖も、地物産に富みて八産業に勉め、金融の活潑なること其比なく、長野市は、實にその中心として、萬金の集まるどころ、加之に、善光寺の靈刹あり、海内の旅客常に翹集するが故に、旅館の設け亦た多し。就中、五明館の如きは、其最大なるものならんか、館は、通稱を眞屋と号し、善光寺の門前にあり、二層の樓宇高く雲に聳へ、洋風の構造すこぶる宏壯にして、輪奐の美なるはいふを待たず、室内の整頓して、萬事に遺漏なきは、風に内外旅客の信用を博せしものなり。凡そ東山北陸に名邑多しといへども、この五明館の構造に匹敵するものは、殆んど無しといふも不可なく、之を、大部の中に移すも、又、其最佳最宏なるを以て、指を第一に屈せらるゝならんか。

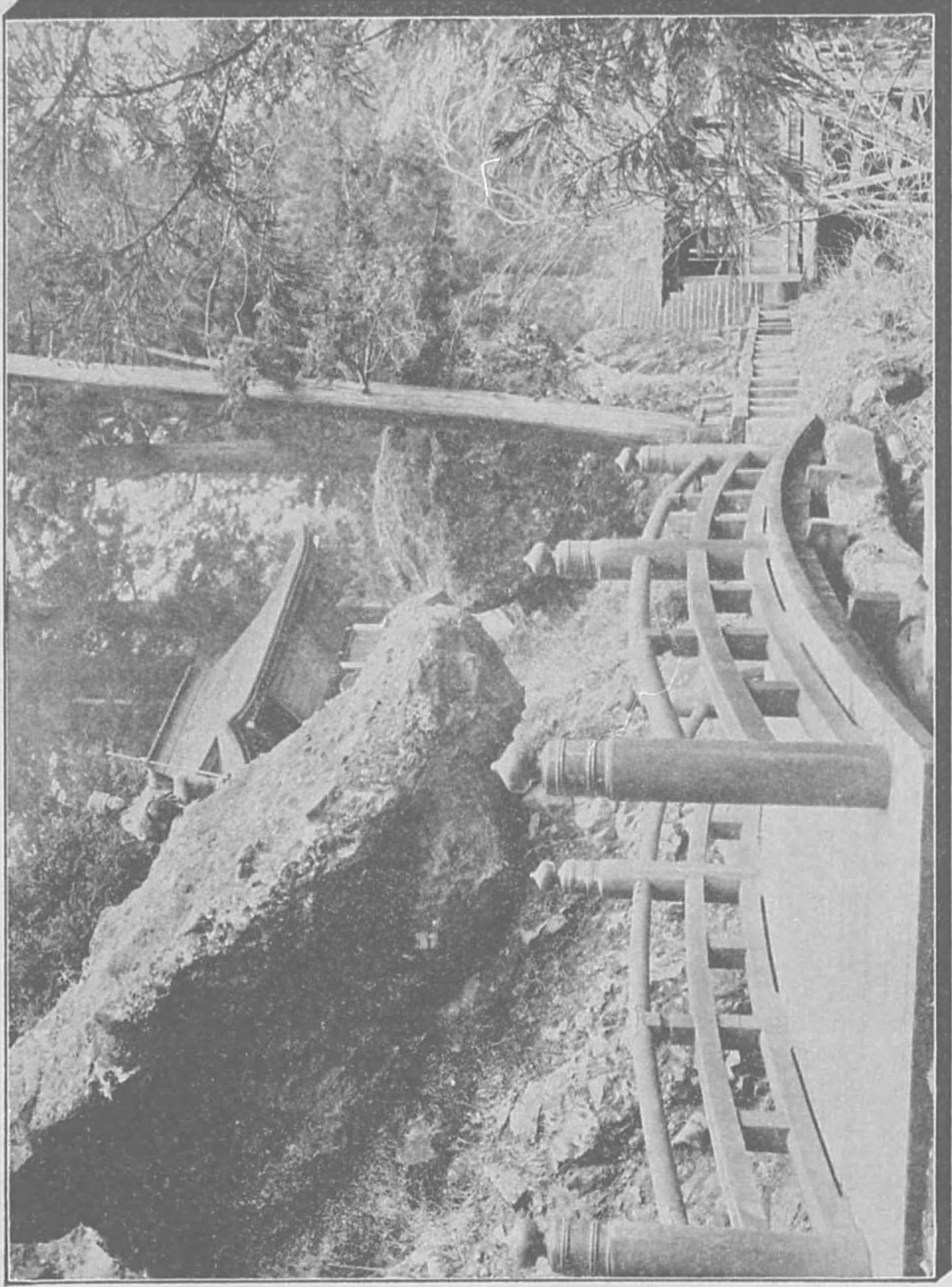
天龍峽 (信)

信州の地は、山嶺重疊の間にありて、風景の奇勝なるを以て知られ、諏訪の湖水、一個の明鏡を開きて、この勝概を映す、湖水の覺るところ、天龍川の奔流となり、千山萬嶽の間を過ぎて遠江に入る、飯田町より少許にして、舟に乗じてこれを下れば、其景色の奇絶嶮絶なると、殆んど天巧鬼士の妙を盡し、轉眼に遠なからしむ、所謂天龍峽これなり、兩岸の嶮峯突兀として聳え、岩峙ち樹茂り、一條の水路この間に通ず、湍急にして水清く、巨岩に激して白雪を噴き、嶮崖に迫つて青藍を湛ふ、山鏡する如くにして忽ち開け、路無らんと欲して漸く通ず、其勝景幽光は、支那に名高き巴蜀三峽もかくやと思はるゝばかりにて、まことに、詩人騷客の吟情を驚殺せしむるものあり。



(信濃長野) 白木屋旅館

Sacred Bridge of Haruna Shinto-Temple; Kodzuke.



(上野) 榛名神社の神橋

榛名神社及神橋 (上野)

上野三名山の二たる榛名山中にあり、山道の左右前後に
奇岩怪石を眺め、山氣の凄涼なるを掬し、漸く神社に近づ
けば、溪谷深くして石いよ／＼奇なり、道の纏くるところに、
一橋あり橋に沿ひ、深溪に隔んで架す欄干の朱色燦として、
四近の綠岩蒼樹に映じ、輝寶珠の金具古色蒼然として、自ら
山色の幽邃なるに副ふ、橋上に立ち下瞰すれば、千仞の谷
深くして、雲霧の湧出するを感じ、仰けは巨岩屋の如く頭を
壓して聳ゆ、これを渡り盡せば、四脚門ありて、石壁數十級を
經て神社にいたる、崎宇壯麗にして、万木千岩の間立ち、
壇の脚にして神なるは、轉た神靈の嚴なるを感せしむ、廟前
の古鐵燈籠は、南朝の忠臣新田左中將の奉獻せるものなりと
いふ。

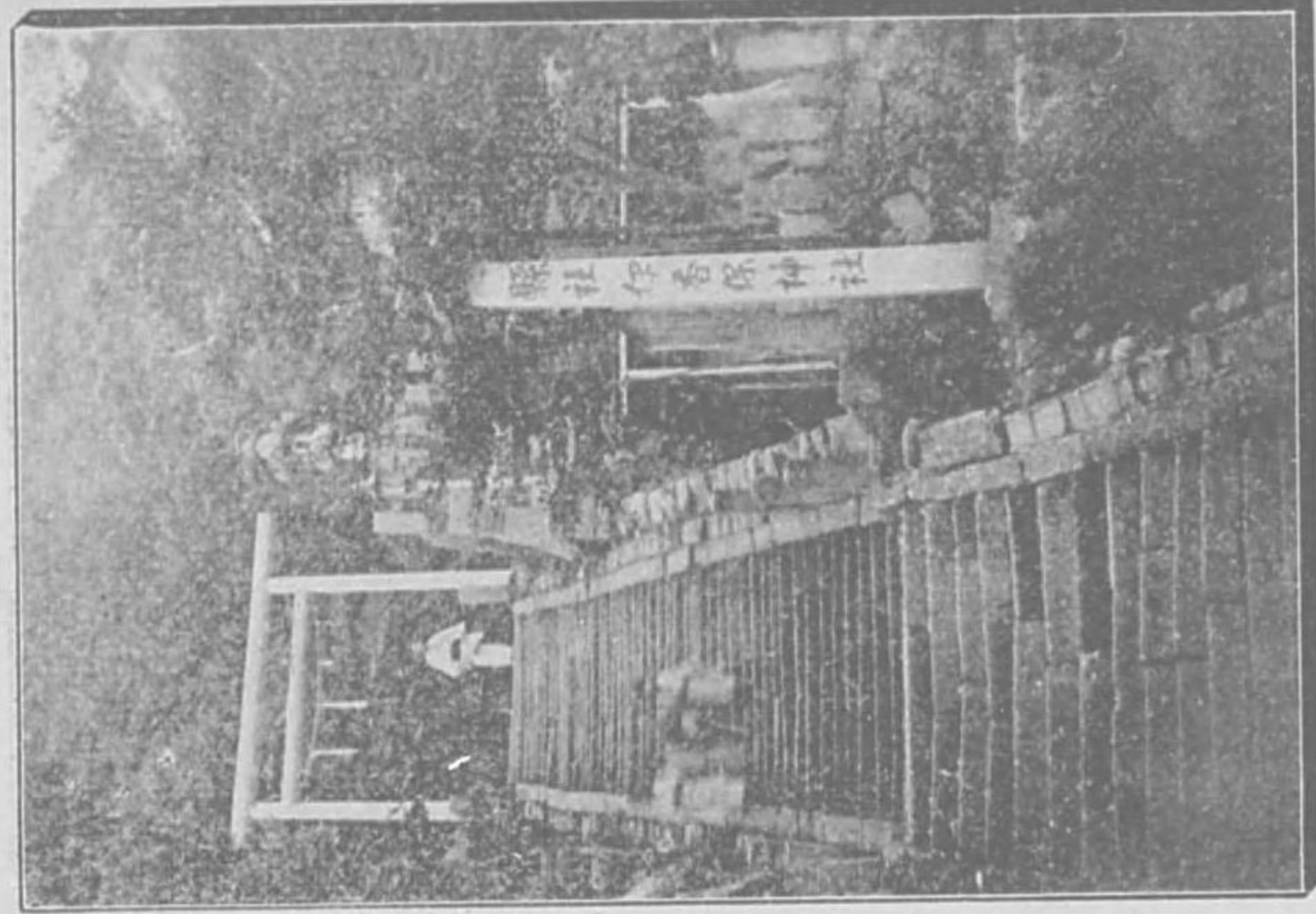
Haruna Jinsha.
This Shinto temple is near the well-known watering place, Itao, in the province of Kodzuke. The high elevation, not far from the summit of Mt. Haruna, renders the view very extensive; indeed it is said to include all the eight provinces of Kwantô; that is, "east of Hakone". There is an iron lantern before the Shrine, which, according to tradition, was presented by Nitta Yoshisada, one of the generals of the Emperor Godaigo, early in the fourteenth century.

白木屋旅館 (信濃)

The Shirokiya Inn.
This inn is in Daimon-cho, Nagano. It offers accommodation to those who visit the temples of Nagano, and other travelers.

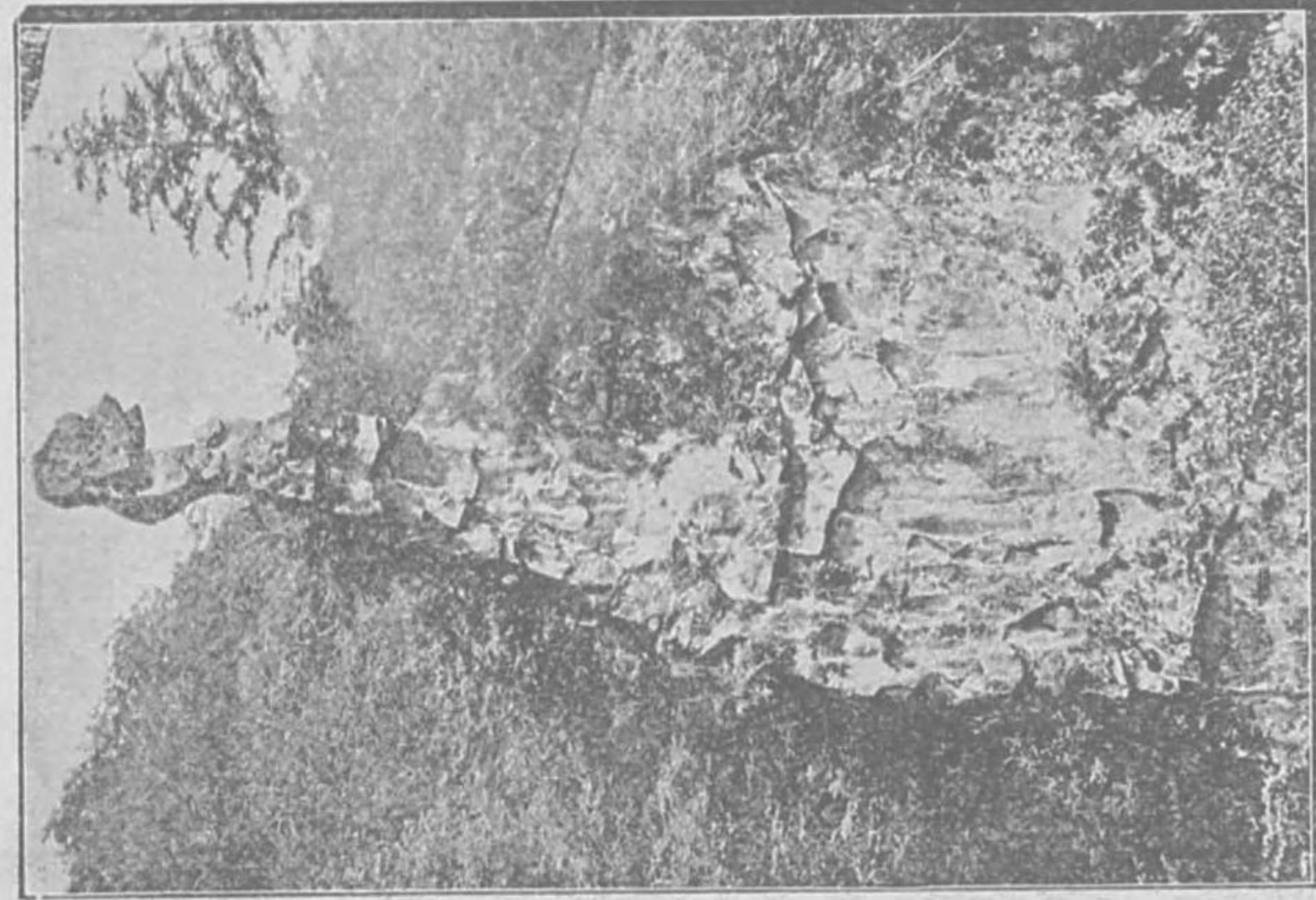
長野市大門町にある旅館なり。長野は信州の名品にして、特に善光寺の靈場あるが爲めに、參詣の群集四時常に輻湊し、凡ての饗業も、これ等信徒の爲めに非常に非常の繁榮を來し、わたり。旅館の如きも其數非常に多く、諸國の旅客を引くとどて、待遇等の事も他の都邑に對して、一段の進歩せるものあり。白木屋の如きは、其の體一にして、元は規模小なりしも、客を過するもの厚きより、宿泊のもの常に填充し、遂に必要に迫られて、新たに宏壯なる家屋を建築し、今や同地の大旅館として數へらるゝに至れり。改築以前すら世の信用をいよくと厚かりしに、かくの如く立派なる客室を備へたと云れば、將來の繁榮想ふべきなり。

(上野) 伊香保神社



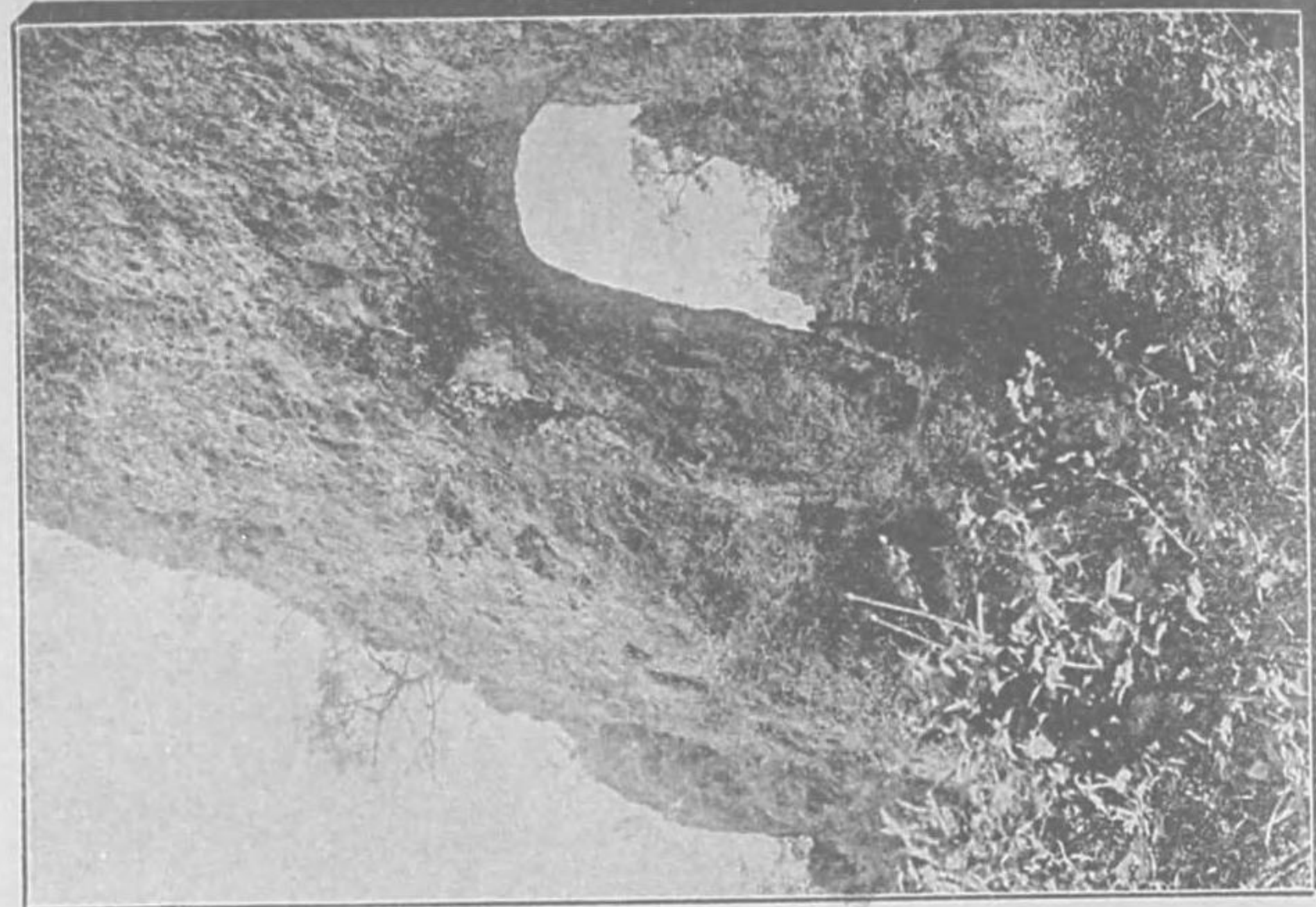
Iyagasaki-jinja; Kōdzuake.

(上野) 九折岩



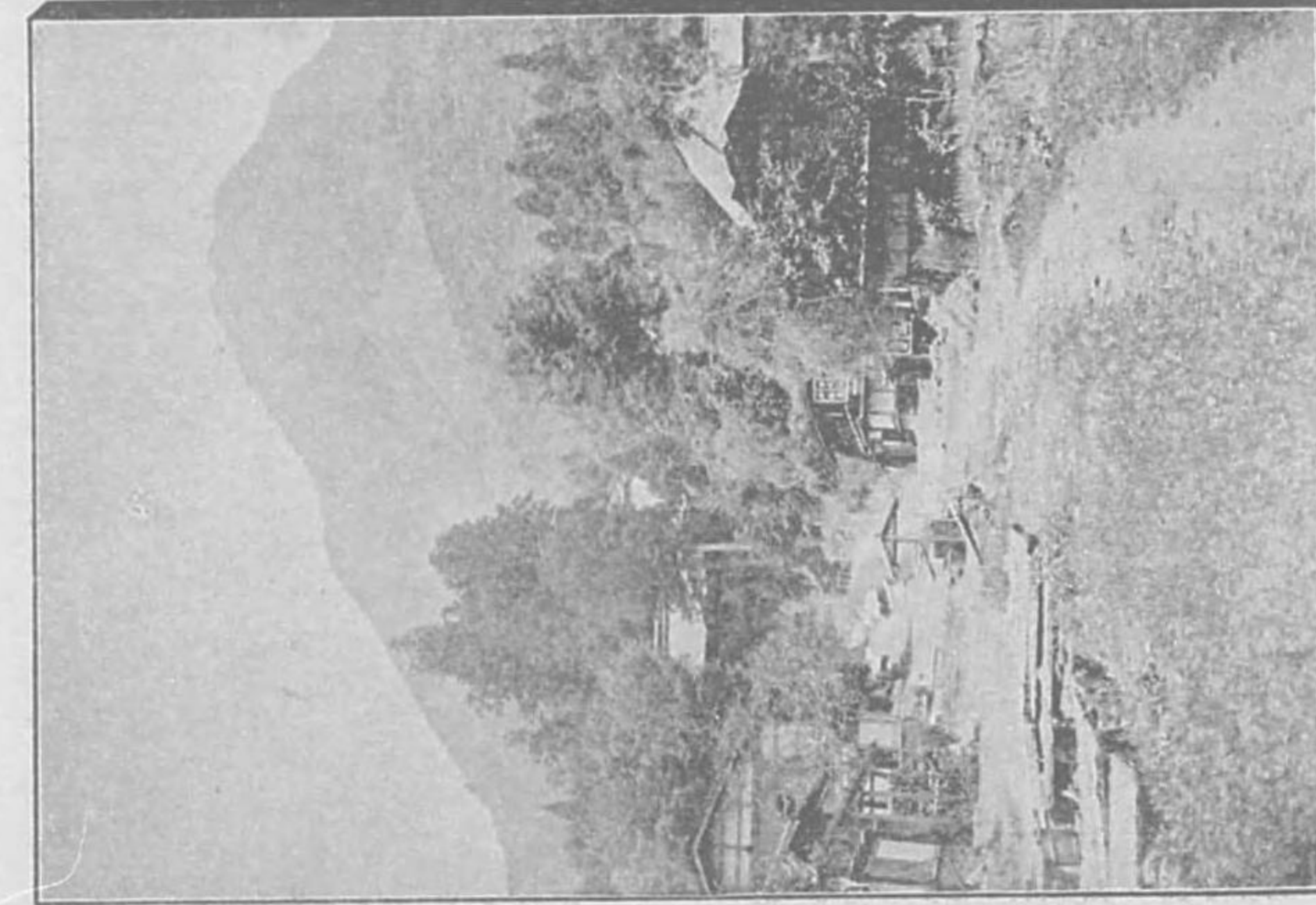
Tsudzura Rock; Kōdzuake.

(上野) 妙義山第一の石門



Stone Gate No. 1 at Myōgi-san; Kōdzuake.

(上野) 水澤観音前



Approach to Midzunasawa Kwanon Temple; Kōdzuake.

伊香保神社 (上野)

伊香保温泉場の南方にあり、崎嶇たる坂路を攀ぢて参詣すべし、この社の境内は、海面を抜くと殆んど三千尺に近きを以て、眺望頗るよく、東北の方は、伊香保の市街を榛藪の間に眺め、遙かに雲際に着りて、三國嶺の青黛を望むべし、社殿は、往年焼失して、其後再建に及ばず、今尙假屋を建て、神体を安置せり、主神は大日貴命にして、維新後郷社と崇めらる。殿宇の構造は勿論見るに足るものなしと雖も、遠近の眺望を社境の内に集むるとなれば、浴客の杖を曳くもの多し。

九折岩 (上野)

榛名山は、上州の名嶽にして直立三千五百尺、山中には、樹木生ひ茂りて、奇岩怪石亦た多し、鞍掛岩、電雷岩、鶴石、獅子岩、等其他の巨石、柱の如く直立せるあり、梁の如く架くるものあり、或は高く老樹の頂を凌ぎ、又は、長く溪流を横き、千態萬状つくさるる中に、九折岩といへるは、或は、葛籠岩と書き、其名の示せる如く、恰も數個の葛籠を堆積したるもの、如く、兀として高く聳ぬ、將に倒れんとする状をなし、觀るものをして、心慄し骨冷なるを覺らしむ、この岩は、天神峠より榛名神社の裏門に至る途上より、一條の溪流を隔て、左手の方に望むべし。

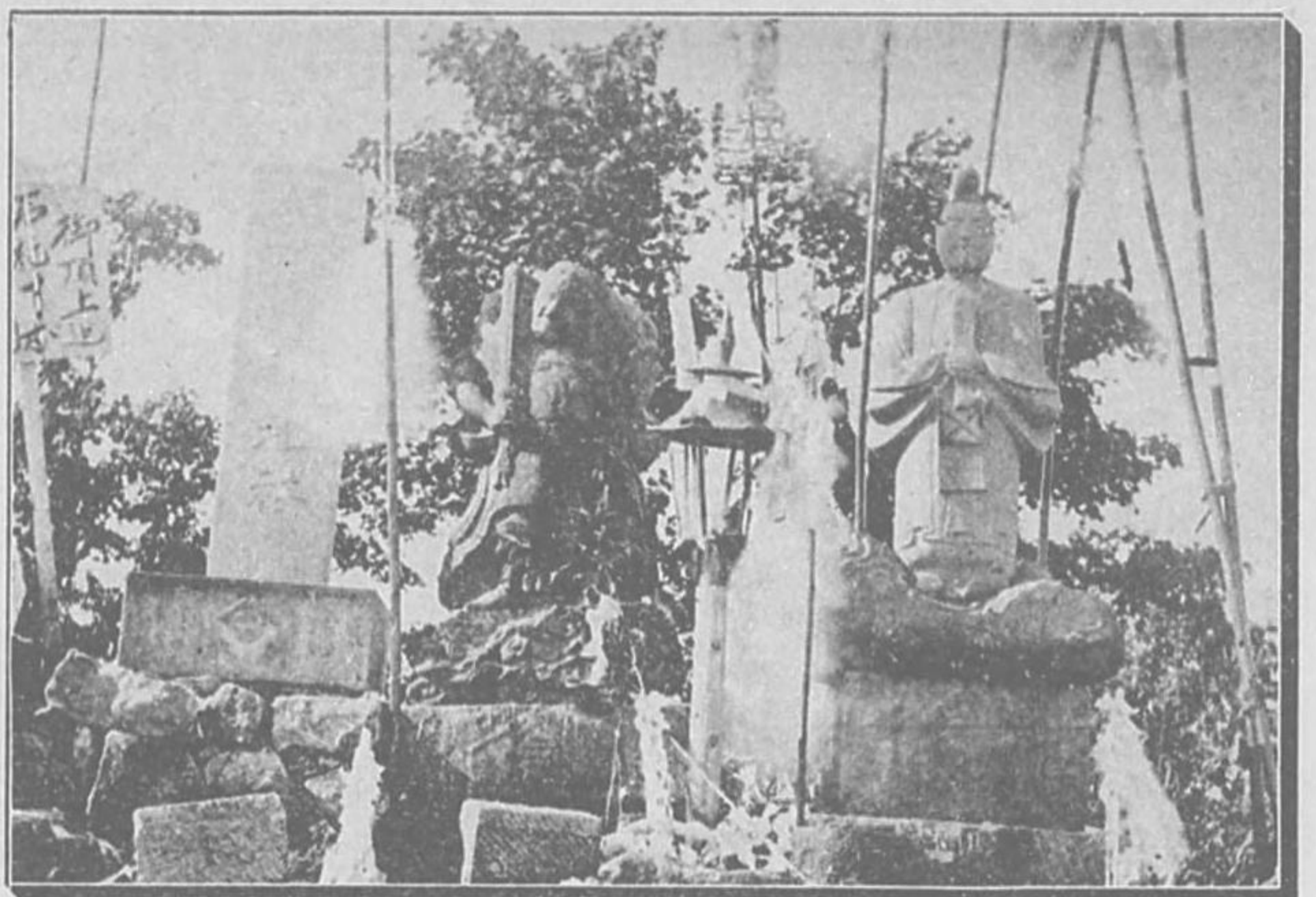
妙義山の石門 (上野)

妙義神社への参詣路より、左折して金洞山中に分け登れば、十數町にして一の華表の趾あり、これより踏ますく嶮にして岩のよしく秀で、數町にして第二石門あり、巨崖の如き岩高く峙ちて、中腹に一の大孔あり、自ら天然の石門をなす、其奇觀は、目を驚かすに足る、數町にして第三の石門あり、嶮岨なることは山中第一にて、鐵鎖によりて僅に登るべし、尙進めば、第三第四の石門ありて、いづれも怪奇いふべからず。この四大石門は、山中の尤も奇絶と稱せらるるものにて、特に、第二石門は、其岩石の巨大にして、洞門の壯偉なること、他の三石門に勝れり、妙義山の景色は、凡て秀抜ならざるはなけれども、其尤もなるものは、この石門なりといふべし。

水澤観音 (上野)

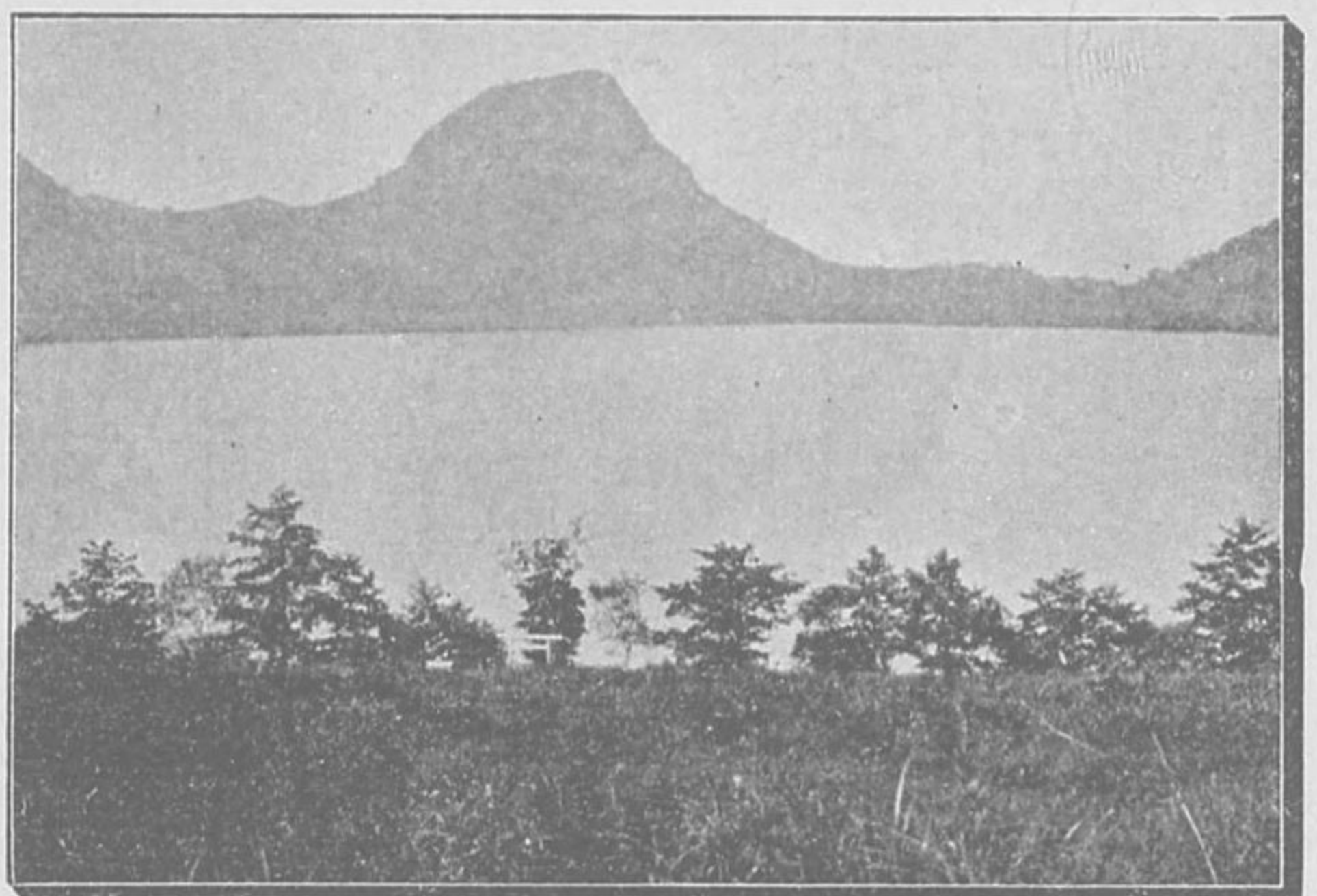
水澤山は、一に淺間山ともいふ、伊香保の東南一里許、水澤村の上にあり、東北の端特に尖りて聳ぬれば、遠くより望むべく、東京の九段坂又は墨田堤よりも望むを得といふ、水澤観音は、この山の東麓にありて、五徳山水澤寺といふ、天台宗の古刹にして、僧房は坂の下にあり、山門本堂は、寶曆の頃の再建にして、地僻なりと雖も、其壯嚴頗る見るべしものあり、本尊の千手觀世音は、坂東三十三番札所の第十六番にして、巡禮者の來り詣するもの多し。

(上野伊香保) 平親王附門の墓



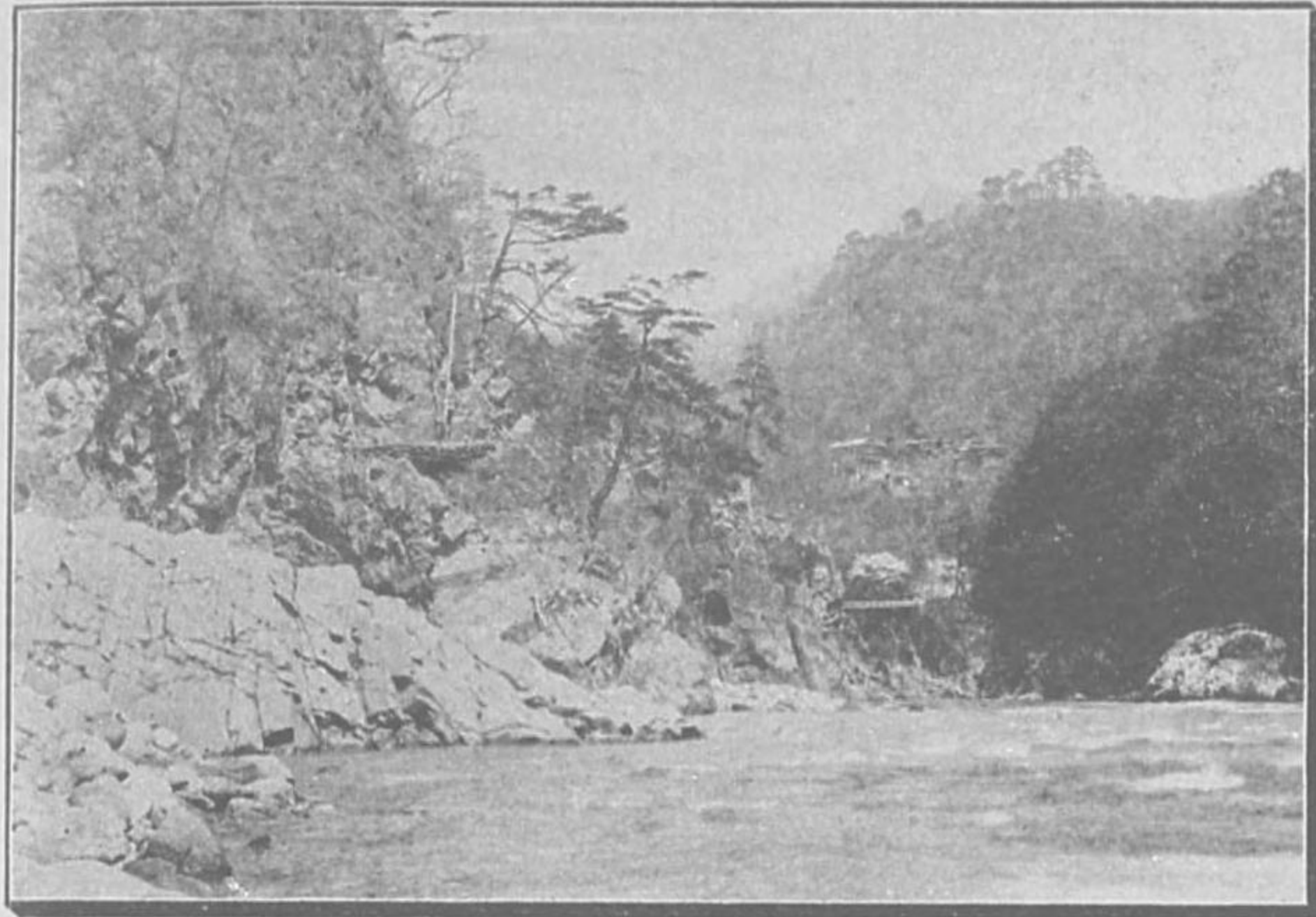
Tomb of Masakado, at Ikao; Kōzuke.

(上野) 榛名湖の一



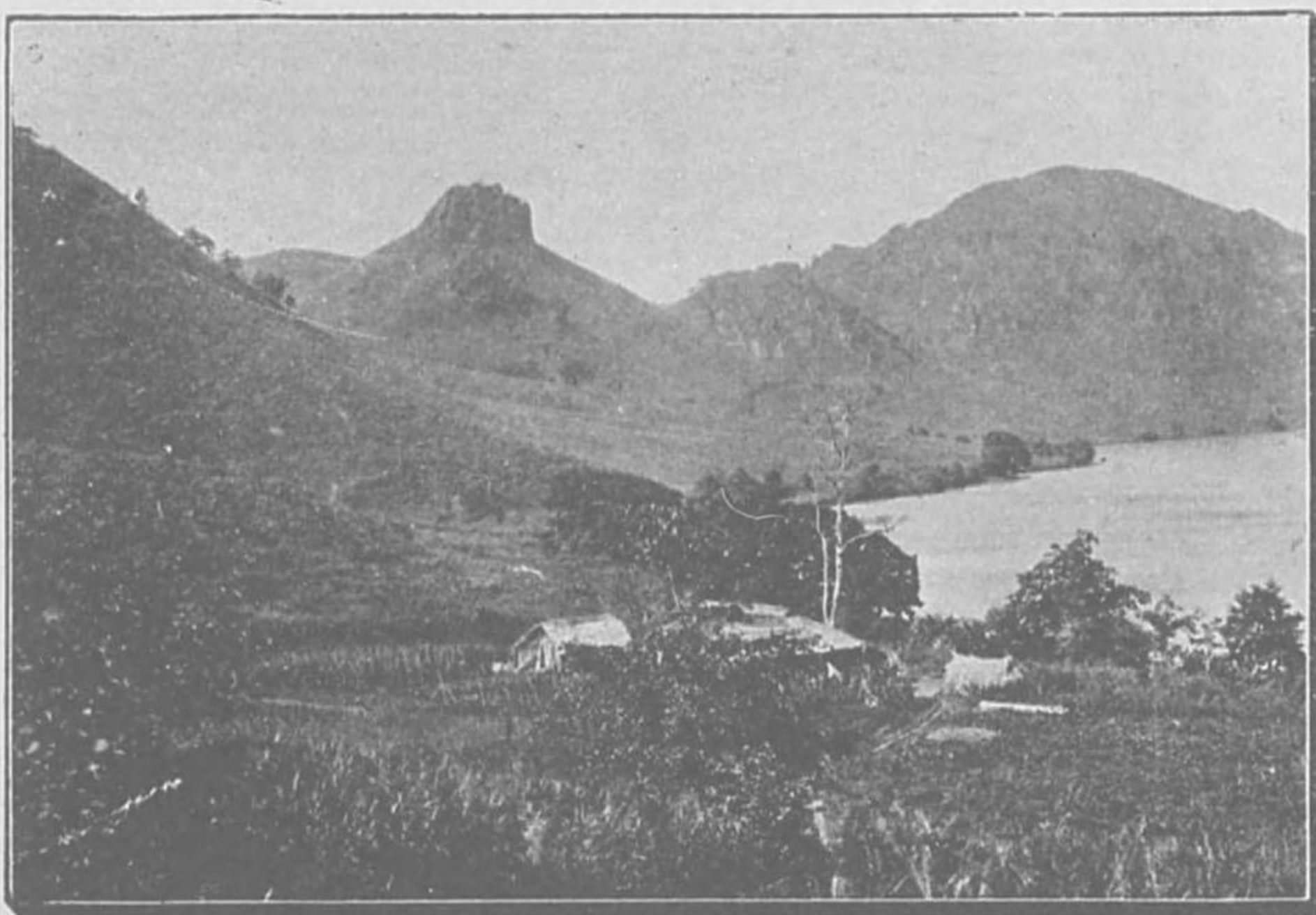
Haruna Lake, II; Kōzuke.

(上野) 川原温泉湯



Kawara Hot-Springs, Kōzuke.

(上野) 榛名湖の二



Lake Ikao, Kōzuke.

川原温泉 敬業館 (上野)

吾妻郡長野原町にあり、地は金雞山の半腹にありて、吾妻川の清流に臨み、土地高燥にして幽邃に、まことに仙境たり。泉質は、硫黄泉にして、凡ての皮膚病に神効ありと稱せらる。この温泉場の発見せられしは、建久年間にして、其後ますます名高く、明治十八年の頃、泉質の試験を受けしより、浴客の數も多くなれりといふ、この地、風景の佳絶と境の幽靜を以て名高く、春は、櫻桃の花を以て稱せられ。夏は清涼の氣掬すべく、秋は、金雞山頭の名月、冬は、垂天洞畔の雪景など、孰れも雅客の胸を擣するに足るものありとかや。旅館は敬業館を最とす。

榛名湖 (上野)

一に伊香保沼といふ、往古の噴火口に水の滲へしものにて、碧水藍の如く幽邃閑雅の光景は、その昔し萬丈の火焔を噴出せしを想はざらしむ、周圍は一里一町に及び、東岸には伊香保富士巍然として聳へ、氣高き峯影を倒に湖水に映しつゝあり、伊香保温泉より榛名神社に通ずる天神峠よりこれを望めば、湖上の風景恰も畫圖の如く、四邊を圍繞せる山岳の影と共に双眸の中に入るべし。湖の東南の汀には花菖蒲多く生ひ茂りて、初夏の頃は紫白の氈を布きたらん如く、其美觀は人跡まれなる山中に於いて、特にその勝れたるを覺ふ六七月の天は、あちこちに飛び交ひて、其昔しに噴きし火光の名残をこいひ。
五月雨に伊香保の沼のあやめ草
かる人なみにくちやはてなん (古歌)

關善平旅館 (上野四萬)

四萬温泉は、鹽類泉にして、無色にして透明なり、之を味ふにすこしく鹹味をおふ、入湯すれば、皮膚病、貧血病、胃弱等に特効あるを以て、四時来り浴するもの絶えず。旅館の大なるものは、關善平の營むもの、夙にこの地に名高く、投宿の紳士貴女すくならずとかや、旅館は、高壯にして清潔、浴槽の構造より室内の配置まで、専ら、旅客の便利を計るに意を用いたれば、更に遺憾あることなく實に、この群山重疊の間に於ける、一の樂境といふべし、通例山秀いで谷深き境には、適當なる旅舎なきものなるに、この地にこの如き良宿あるは、まことに浴客の幸福といふべきなり。

福田旅館 (上野澤渡温泉)

澤渡温泉は、吾妻郡にありて四萬温泉を南にさると三里にあり、四萬川の流に臨みて、三方に山をめぐらし、東南は遠く開けて眺望に富み、まことに一仙境たり。福田旅館は、この地の有名なるものにて、客を遇するとも亦た厚し。夏日の避暑地としては、近郷有数の勝地たるに、附近の概勝に富みたる、夙に八勝の撰あるほどなれば、この地に遊ぶものは、まづ、身をこの善良なる旅館に投じ、清泉に浴して後に、叮嚀なる案内をされつゝ、四近の風景に逍遙せば、心身の鬱たちまらに一洗せらるべし。

田村茂三郎旅館 (上野四萬)

四萬温泉宿中の白眉は、田村茂三郎の營むものなり、館主は、夙に新文明の教育を受けし人として、萬般の設備に少許の遺憾なく、家屋の構造の完全にして高壯なるはいふまでもなく、十數個の浴槽をそなへ、新聞雜誌の縦覽所を設立し、更に、氣象臺を設けて、四時の天候をはかり、寒暖晴雨を精密に記し、以て入浴客の参考にするなど、以て萬般の設備の完全なるを推すべし。この旅館には、別に、清心館といへる別荘ありて、本館と共に、天然の風景を眼前にひかえ、人為の構造を室又は庭園に施し、欄に凭り窓に臨む旅客をして、身の仙宮に在るを覺わしむといふ、けだし温泉宿にして、この如きは、世に稀なるものなるべし。

草津温泉、大東館 (上野)

吾妻郡にあり。この温泉は古來より其名を知られ、來り浴するもの亦た多きも、土地のあまりに僻在せる爲めに、今日に至るも、著しき變化なし。泉質は、酸性泉にして、多量の遊離硫酸と硫酸礬土を含有し、華氏百五十度に近き温度を有す。境は、白根山の裾尾にて高原をなすところに一條の溪流ありて、その岸上に數多の人家集まりて一村をなせるものなり、元來古來より知名の温泉場たるを以て、浴舎も亦た多く、中に就て、大東館の如きは、浴槽、客室の設備完全にして、この地に遊ぶもの、常に足をどめて安樂と清遊を得る好旅館なり。



Tamra Inn at Shima; Kōdzu'e.



Seki Inn at Shima Hot-Springs; Kōdzuke.



Daitō-kwan Hotel; Kusatsu Hot-Springs, Kōdzuke.



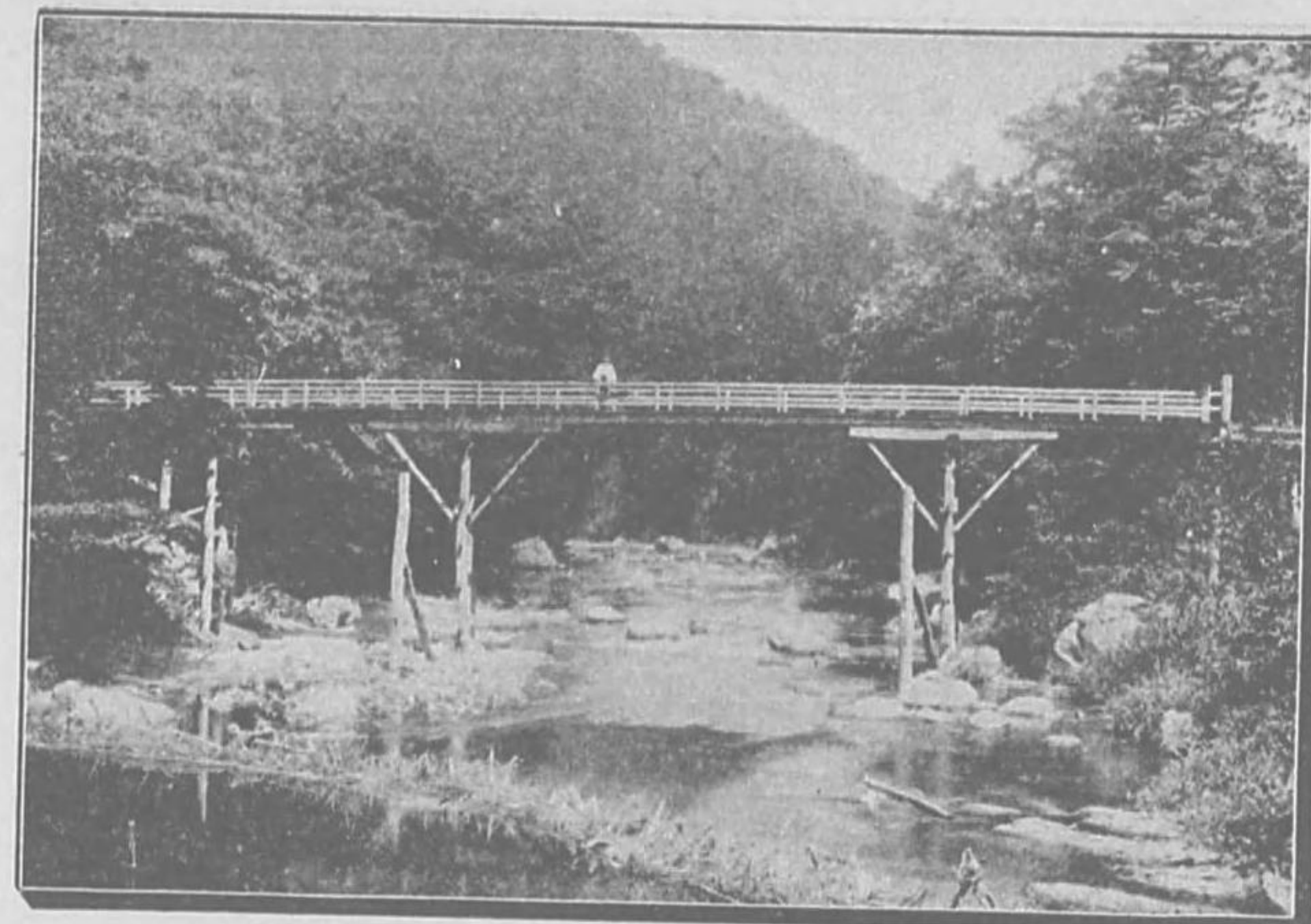
Fukuda Inn at Sawatari; Kōdzuke.

(上野四萬) 田村旅館

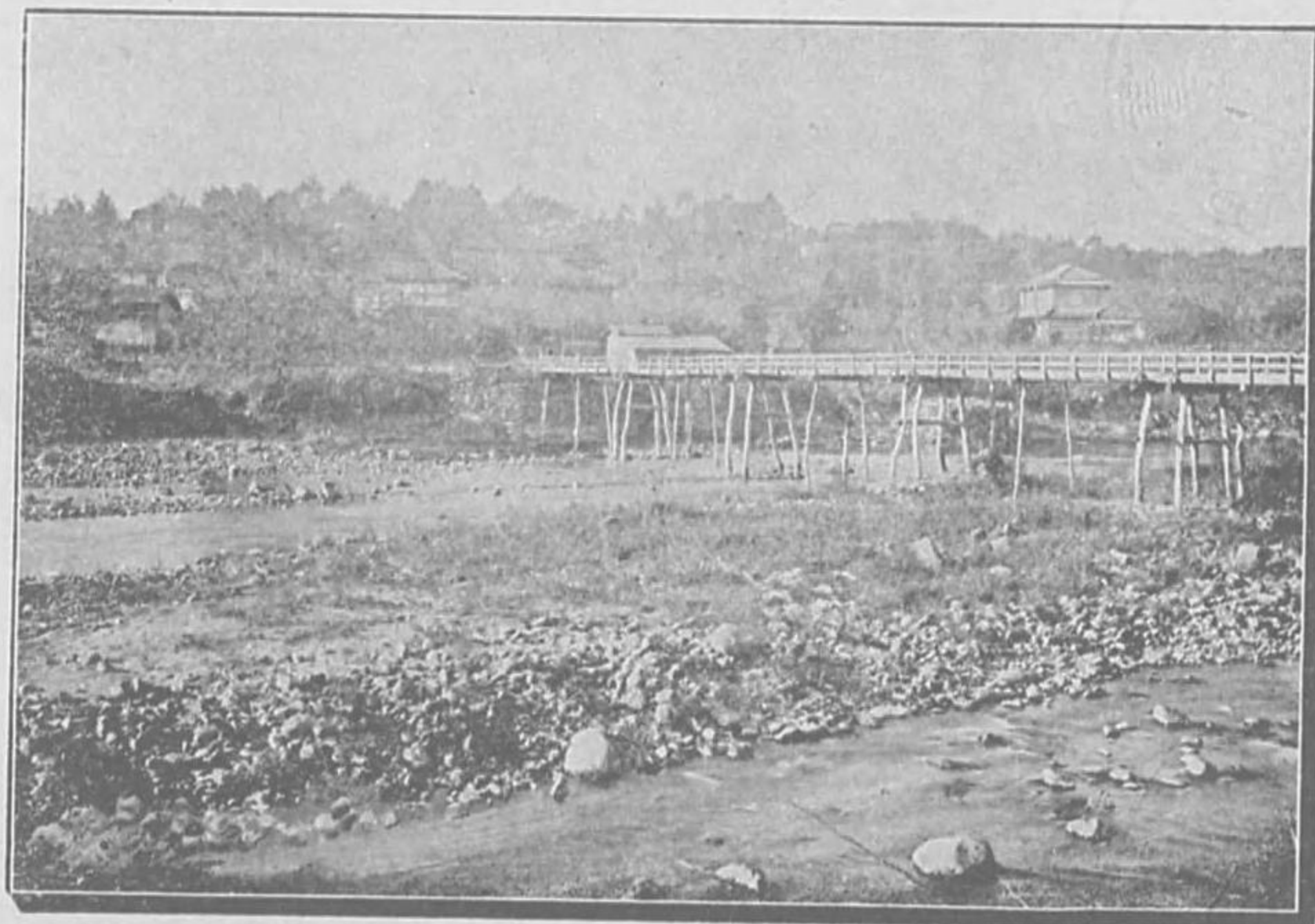
(上野四萬温泉) 關善平旅館

(上野草津温泉) 大東館

(上野澤渡) 福田旅館



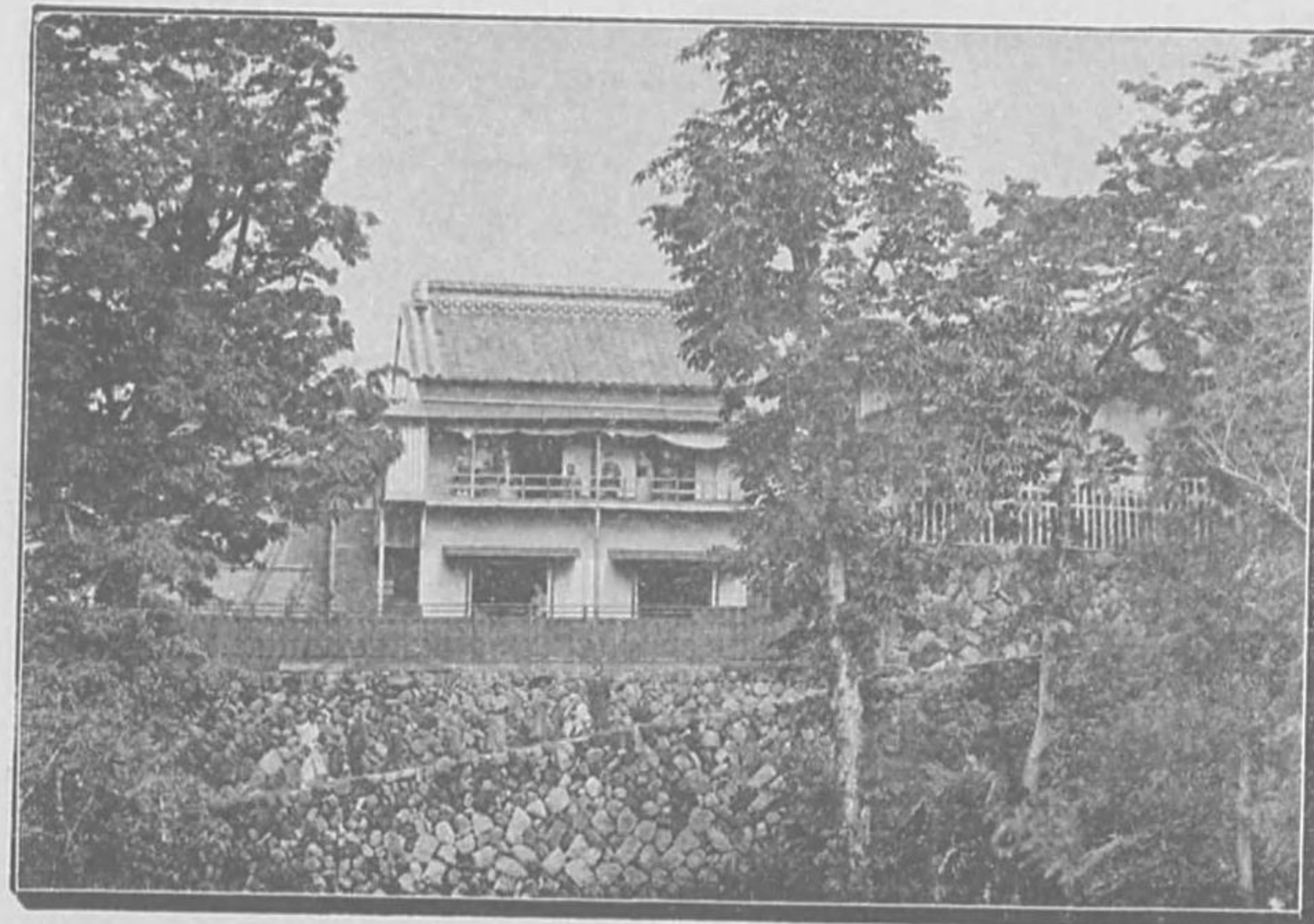
Shioaki Bridge at Shiobara; Shimotsuke.



Isobe Hot-Springs; Kōzuke.



Yoshimi Inn at Yumoto; Ni kō.



Jinsen-tei Hotel at Ikao, Kōzuke.

鹽湧橋 (下野)

鹽原温泉は、鹽谷郡にありて、山水の奇絶を以て其名順に世に布き、今や、下野の温泉を説くものは、先づこの地に指を屈せざるはなし、岩あり瀧あり、樹秀で、深清く、天然の奇勝は全くこゝに極れるかと思はる、鹽湧橋は、鹽釜より鹽の湯に至る入口にありて、箒川の流に架し、長さ十五間にして幅二間半、明治十七年新道開鑿の時に架設されたるものなり、橋下の水清くして玉を溶かしたる如く玲瓏として鏡面を開く、俯して窺へば、水底の白砂一々數ふべく、老樹蔭々として岸に聳へ、綠影水に落ちて、時に細漣に動搖するさま、得もいはれぬ眺にして、この處を過ぐるものは、欄によりて低徊去る能はざるに乏たる。

磯部鑛泉 (上野)

炭酸性の冷泉なり、浴舎は、これを水槽にみちびき火力を以て之を温め、旅客の入浴に便にせり。信越鐵道線路に乗りて、磯部停車場に下車すれば、三四町にして達する便宜あり。山水の絶勝に於て、他に譲るところありと雖も碓氷川の清流北方を洗ひ、妙義、金洞の奇峰近く眼前に峙ち、淺間の噴烟遠く白雲を棚引かすをも望むべく、心神爲に爽快なるを得べし。一面は平潤ある耕野にして、菜畦稻田迢々として連なり、交通の便に富むが故に、萬般の供給に事をおかず、諸公署及び縉紳の別墅頗る多くして、四時常にきはへり。

湯元温泉吉見屋 (下野)

日光神橋より六里、中禪寺より三里の山間にある温泉場なり、土地高くして、四面山嶽を以て圍繞され、寒氣尤も甚だし、毎年四月八日(陰曆)を以て浴槽を開くも、殘雪尙皚々として、白根山の頂を埋むといふ、九月八日に至れば、浴場を閉ぢて、皆山麓に下るを例とす、されば、夏期の避暑地としては、尤も適當なる温泉場と謂ふべく、湧出の温泉も亦九頗る佳良なり浴舎十一軒ありて日光町民の所有にかゝり、二層三層の高樓にして、一戸にて數棟を有するものあり、絶えて浴客の紛擾に苦しむとなし、吉見屋は、この地の尤も高壯なる浴舎にして浴客の待遇に意を用ひ、其信用夙に世に傳はれり、近傍の名勝亦た豊なれば、觀光の客には、この上なき仙境と謂ふべし。

仁泉亭 (上野伊香保)

伊香保の地の高燥にして、附近の眺望亦た佳なるに、更に温泉の靈なるあり。市街の南方なる上の山の溪間より湧出し、樋によりて各温泉場に導かれ、滌々たる飛泉となりて浴槽に溢る。泉質は炭酸にして無色又少許の臭氣なし、胃病の人は、これを服用するも効ありといふ。温度は、泉源に於いては華氏の百三十度を有し、浴槽に入りて、適宜の度をなせり。この靈泉に浴せんとて來り遊ぶものは、四季を通して絶ゆることなく、大館巨椋争ふてこれを引けり、就中、仁泉亭(千明はる)は尤も有名なる温泉宿なり。

高尾の塚 (下野)

塩原の地は、水清くして山高く、風景の絶佳なること、古より飽穉せらるゝ名塚高尾(二代目萬治高尾)は、實にこの塚より出でたり、高尾のこと、傳説のいふところ種々にして、事蹟の眞を知り難しと雖も、塩原の地に生れしことは、正確なる證左あり、而して、絶代の佳人たりしことも、亦た疑ふべからず。ひたし、高尾は其艶妖の風姿を以て勝れるのみならず、絲竹管絃の技に秀で、文雅の才もありしが如し、萬治二年の暮、病んで没す、妙齡僅に十有九、辭世として傳へられたる「寒風にもろくもくづる紅葉かな」の一句は、今に恨人の腸を断つものあり。塚は、塩原なる塩釜の君嶋某の邸内にあり、正面に高尾塚の三字を刻し、裏面に山本北山の撰文を刻す。飽穉長へにこの勝地に留まりて、千歳の下、尚よく訪客の吟魂を傷ます、風流の客は、往いてこれを吊ぶべきなり。

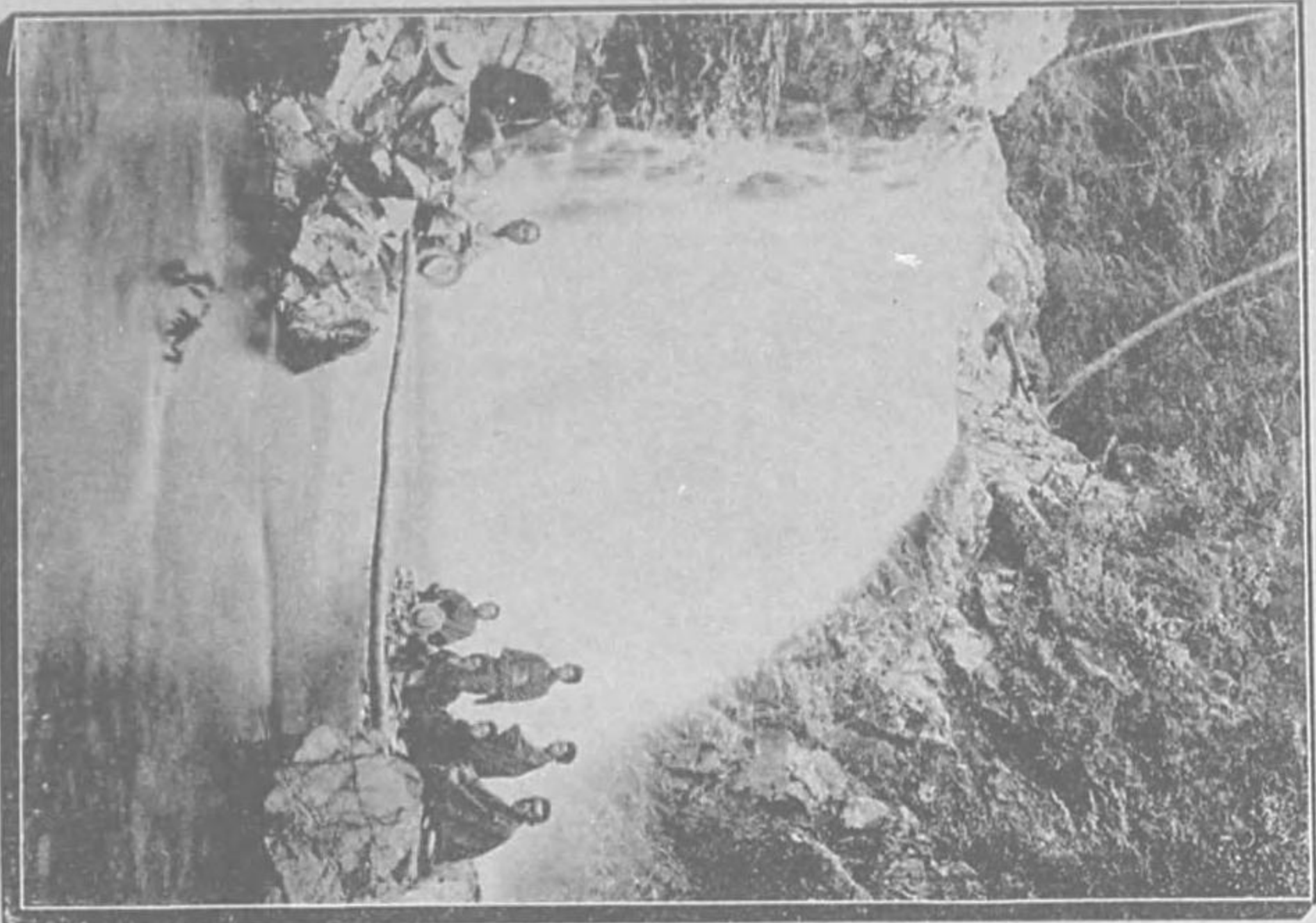
四萬温泉大泉瀧 (上野)

上州の地由來温泉に富む、温泉のあるところは、大概山高く水清く、天然の勝概先づ耳目を一新ならしむ、四萬温泉は上州吾妻郡にあり、地は峰巒起伏せる間にありて、新湯川の清溪其地を洗ふを以て、附近の景色頗る豊あり、就中、大泉の瀧は、其最なるものにして一條の素練高く樹木鬱々たるところにかへり、奇岩怪石岩滑にか、泡沫紛飛して霧をなし、濺聲轟々として四山皆鳴るの概あり、秋時紅葉の頃にいたれば、風景一入絶佳にして、素練たらしむるに、五色の彩色をつけ、看者をして恍として歸るを忘れしむといふ。



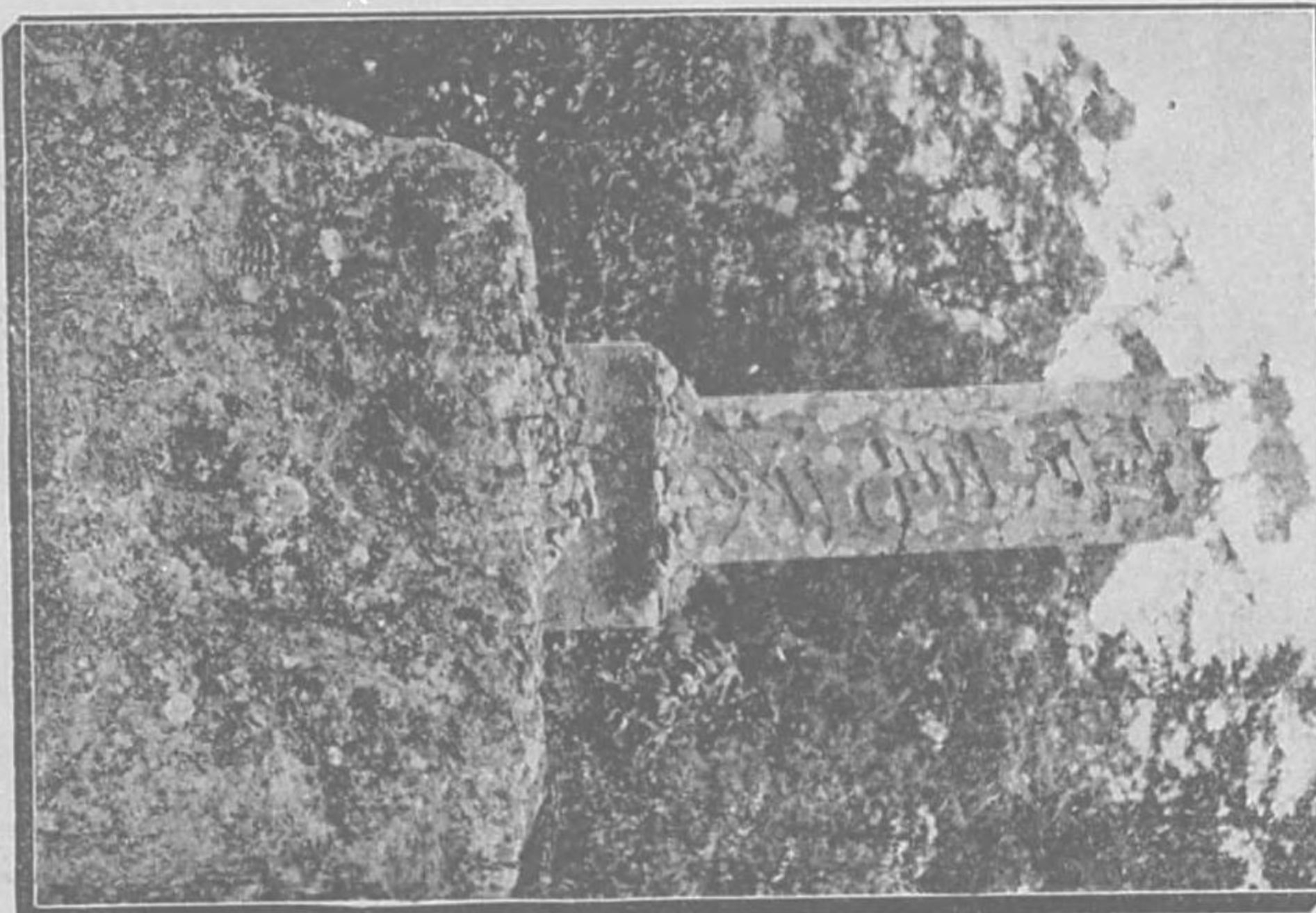
(上野前橋) 三井紡織所の裏面

Mitsui Cotton Factory, Maebashi, Kōzuke.



(上野) 四萬温泉大泉の瀧

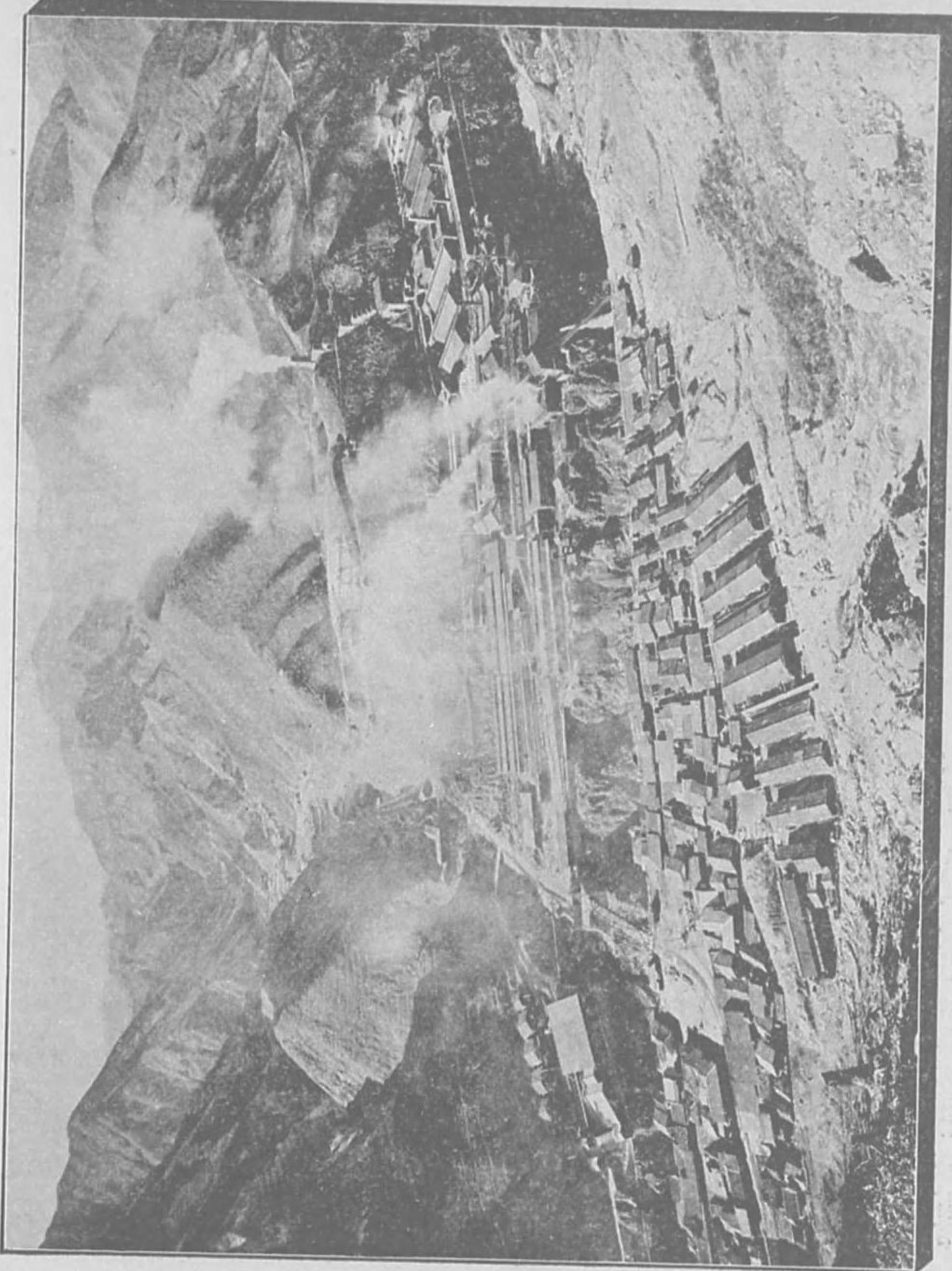
Yuzumai Water-fall at Shima Hot-springs, Kōzuke.



(下野鹽原) 名塚高尾の塚

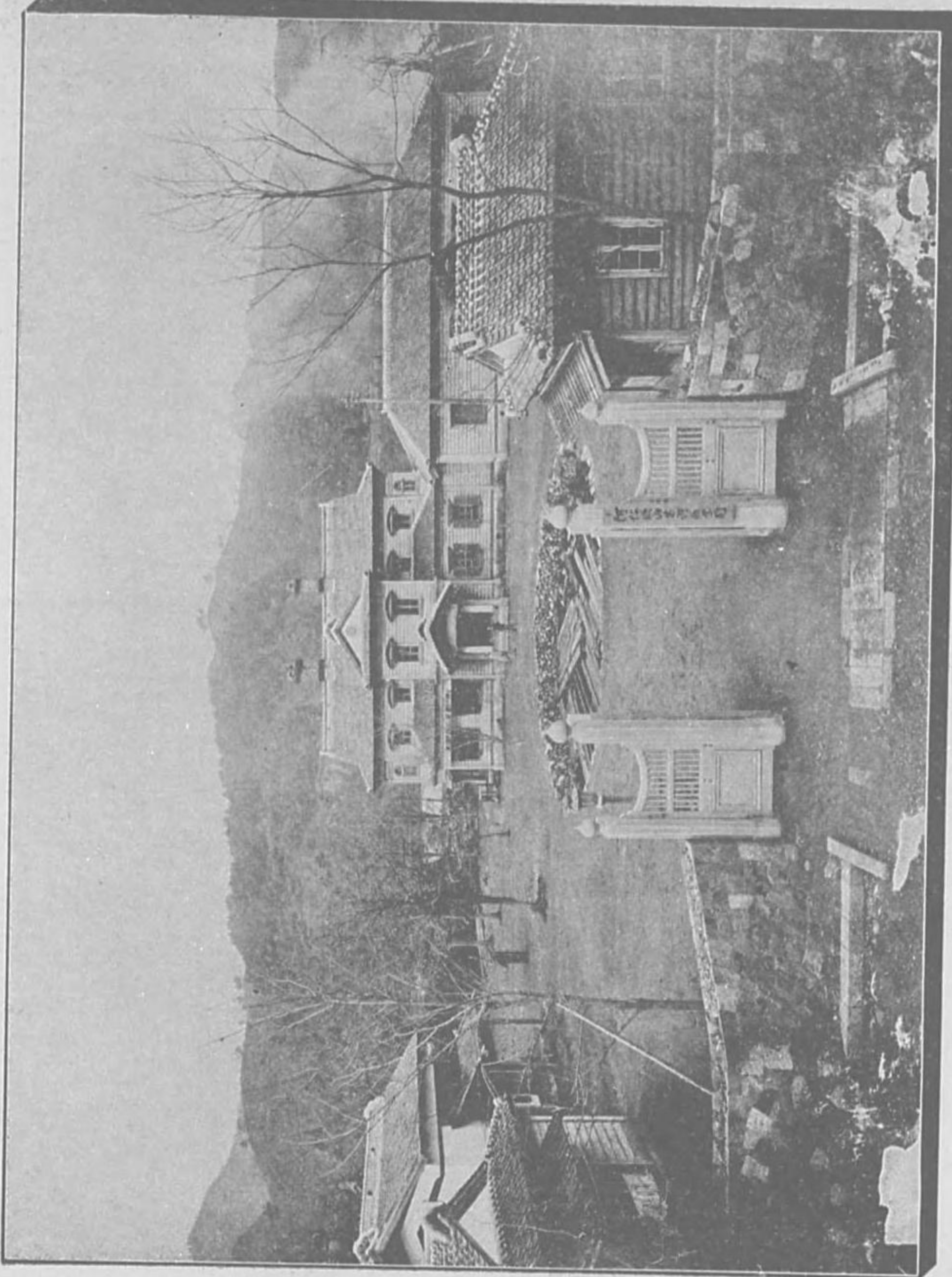
Monument of Takao at Shiobara, Kōzuke.

（下野）足尾銅山の片影



Ashio Copper Mine; Shimotsuke

Office of Ani Mine Works; Ugo.



（外野）阿仁銅山の片影

阿仁銅山 翁後

羽州北秋田郡に在りて、亦古河市兵衛の所有に係る、其規模、足尾銅山に比すれば稍や小なるも、磨練の機械、偉大の装置を用ふるの一事に至りては、彼我殆んど伯仲なく、彼爲めには、實に足尾銅山に次ぐ所の財源たり、今彼が全國に於て有する所の、鑛區の概目を列擧すれば、阿仁、足尾の外、羽州山本郡内に於て、本良、八森の銅坑、及び東磐石坑、同州雄勝郡内に於て、陸内銀坑、最上に於ける永松銅坑、東田川に於ける大島銅坑、陸中に於ける不老倉、及び水澤銅坑、越後藤原に於ける草倉銅坑、筑前鞍手に於ける勝野炭坑の類にして、其他現時休業に係るもの六區、試掘に係るもの二區ありて、全鑛區の面積、實に一千四百四十餘萬坪、人員を従するもの二萬餘人、水力動力を使用するもの實に四千馬力に及ぶと云ふ、盛なりと謂ふべき也。

足尾銅山 下野

東京の發商古川市兵衛の所有にして、鑛坑は野州下都賀郡足尾に在り、明治十年政府より讓受ひたる鑛區にして、當初は其鑛鑿の法、一に舊式に即り、其採取の高亦甚だ多からざりしが、明治十五年以來、歐米新式の機械を應用し、探鑛合金には、電気蒸氣の馬力を用ひ、鑛區の出入來往には電気鐵道を利用し、電燈を點し、瓦斯を引き、苟も文明の最新の利器として目せらるゝ所のものは、一として應用せざるなく、殊に坑内掘揚器械、及び揚水機の如きは、其高巧實に人目を驚かせり、日光に遊ぶものは、多く道を轉じて足尾に至り、同所探鑛の有様を實見すること、今は殆んど例となり、亦野州の一名勝として、數へらるゝに至れり。

The Ashio Copper Mines.

These mines, not far from Nikkō, belonged to the Government until 1877, when they were sold to Ichibei Furukawa. The best modern appliances have been introduced for the development of the Ashio ores.

The Ani Copper Mines.

These mines, in Akita Prefecture, also belong to Mr. Furukawa. They stand next in importance of the Ashio Mines.

足利御靈殿 (下野)

足利郡渡良瀬川の北岸に足利町あり、町の西
北の山上は、足利城の址にして、かの足利尊
氏の惣興せし所なりといふ。町の北方の裏手
に、鏡阿寺といへる眞言宗の古刹あり、こは、
足利氏の祖先義兼の開基せるものにて、其法
號をとりて命名せるなり。義兼は、正治元年
己未三月に卒去し、遺骸をこの寺に葬り、其
靈殿は、今も尙現存しつゝあり殿宇の構造
は、宏壯ならずと雖も、古色掬すべきものあ
りて、今昔の感を促がすに足るものあり、古
昔は、この境内に本堂伽藍巍々として並び立
ち、末寺の數も十二坊ありて、其壯麗なるを
近郷に冠たりしといふ。

太平山神社 (下野)

栃木町大字平井太平山の半腹にあり、天長四
年勸請の古祠にして、靈現顯著を以て參拜の
信者多し。この地は、平野に偏せる丘陵な
るを以て、屢々關東兵馬の屯所となり、其由
來は神社の古記に詳記されれば、考古家の
資料たるの價値ありといふ。境内の眺望は甚
だ絶佳にして、北には白根日光高原の連山あ
り、東に、八溝山加波山足穂山筑波山あり、西
南に淺間秩父足柄の連山あり遙に富士の高峯
に對し。巴波川思川の長流、利根渡良瀬の大川
皆な眸に入り、白帆風に孕んで草野の間を縫
ひ行く光景は、終日見れども飽かざるべし。
丘亦た風趣に富み、老樹稍高く岩石苔滑にし
て、泉溪の音松風に和して、自ら深山仙境に
遊ぶ心地せしむ、近來公園地となりて、一層
其規模をまし、春花秋月いづれも適せざるは
なしといふ。

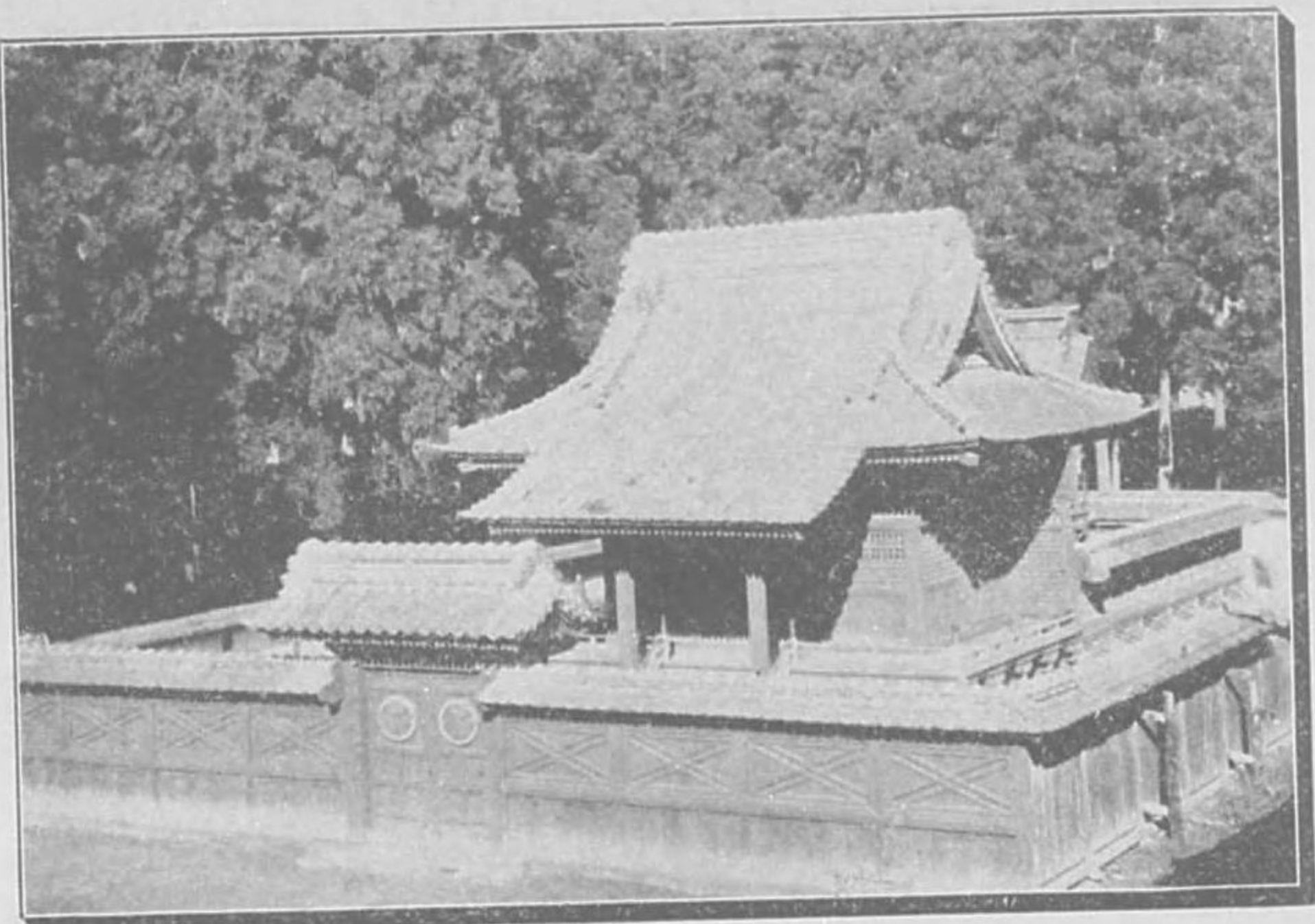
足利學校 (下野)

下野國足利郡足利町にあり、舊記によれば、天
長年間に小野篁の創始せしものといひ、又は
足利義兼の創始なりともいふ、一時衰頽せし
も永享年間上杉憲實この校を再興して廣く書
籍を集めて文學講明の途をたてたり、徳川氏
の治世に及び學田を寄附して士民を教導せし
め維新の後は廣く衆庶に觀覽せしむるととな
れり。境内は清潔閑雅にして、古松亭々として
聳へ自ら風に鳴りて講誦の聲をなす。校内に
は孔子の木像を安置し。子思、孟子、曾子、
顔子の木牌左右に列ねらる、一度びこの校に
趣き見れば敬虔の念胸中に生じて、古昔の書
生が道を求めてこの地に集まり、聖像を拜し
て只管に講學に餘念なかりしとを追懷し、自
ら衣襟を整ふにいたるべし。

裏見の瀧 (日光)

日光山には、瀑布の數多くありて、孰れも壯
觀からざるなし、就中、裏見の瀧は、奇を以
て勝るものなり、日光神橋を西南に距ると一
里十五町字荒澤に在りて、一條の素練は、斗
出せる岩角より直下し、高さ十丈にして幅は
二間に及ぶ、傍に、相生の瀧及び布引の瀧あ
りて、其側に荒澤不動の石像あり、飛沫を侵
して瀑に近づけば、怪岩斗出して瀑はその上
より投ぐるが如く前方に瀉ぎ下り、觀覽の者
は、直に崖下に進んで、瀑布の裏を窺ふを得べ
し、これ裏見の瀧の名の起りし所以にして、
奇絶の名の高きに負かず、造化の巧を弄する
も、こゝにいたりて極まれりといふべし。

(下野足利) 足利家靈殿



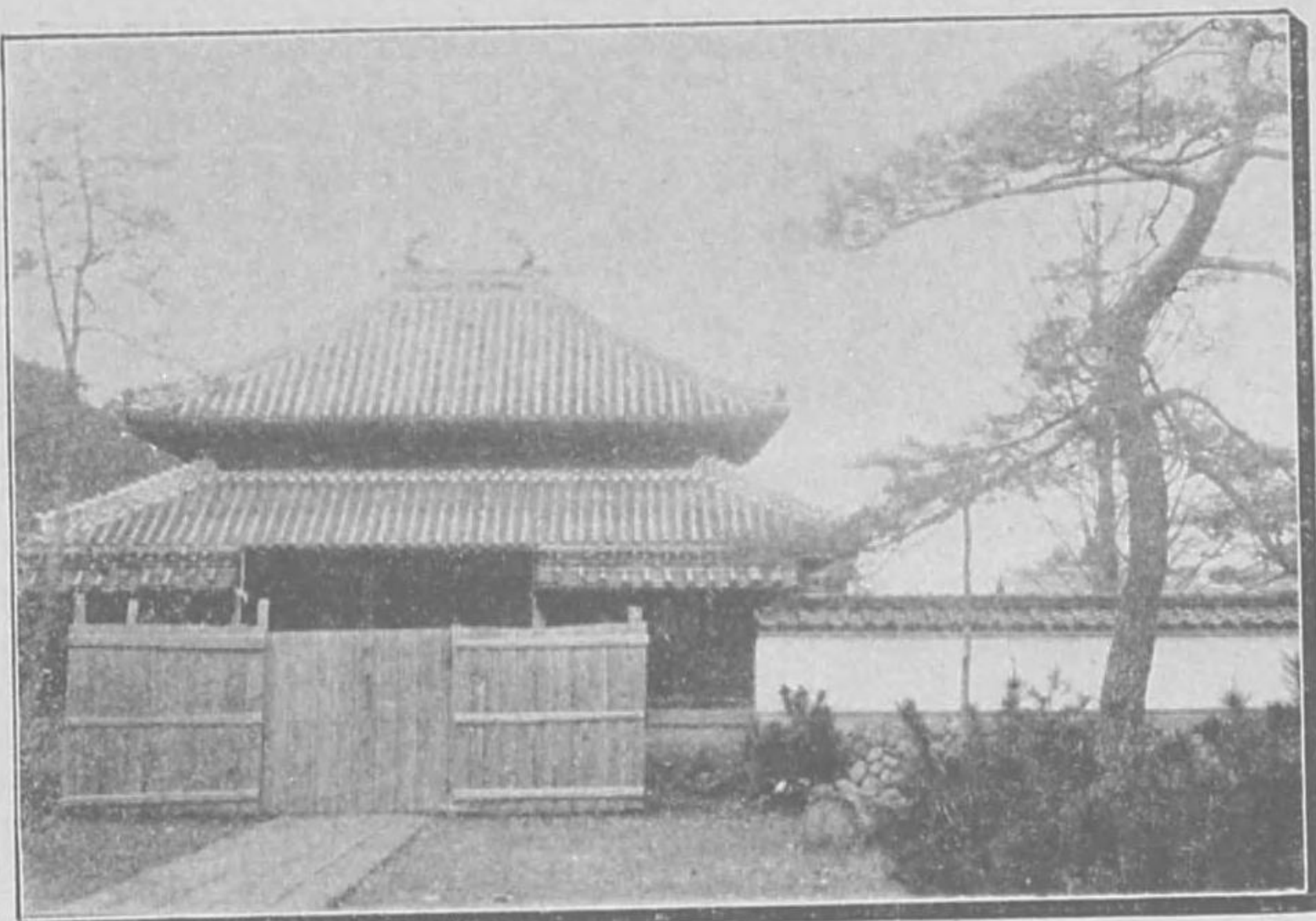
Monument for Ashikaga Family; Shimotsuke.

(下野) 太平山神社



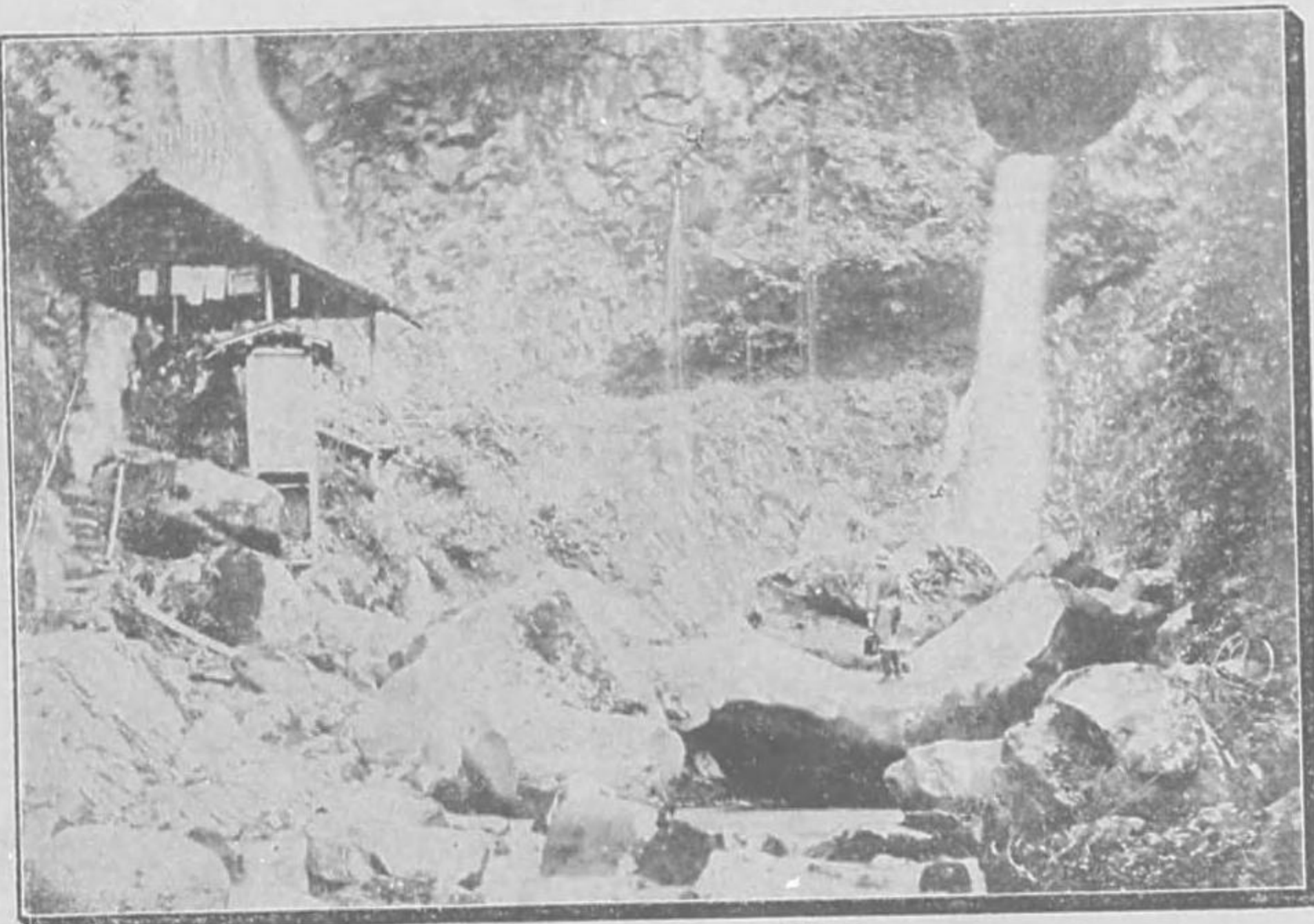
Shintō-Temple of Ohira-yama; Shimotsuke.

(下野足利) 足利學校



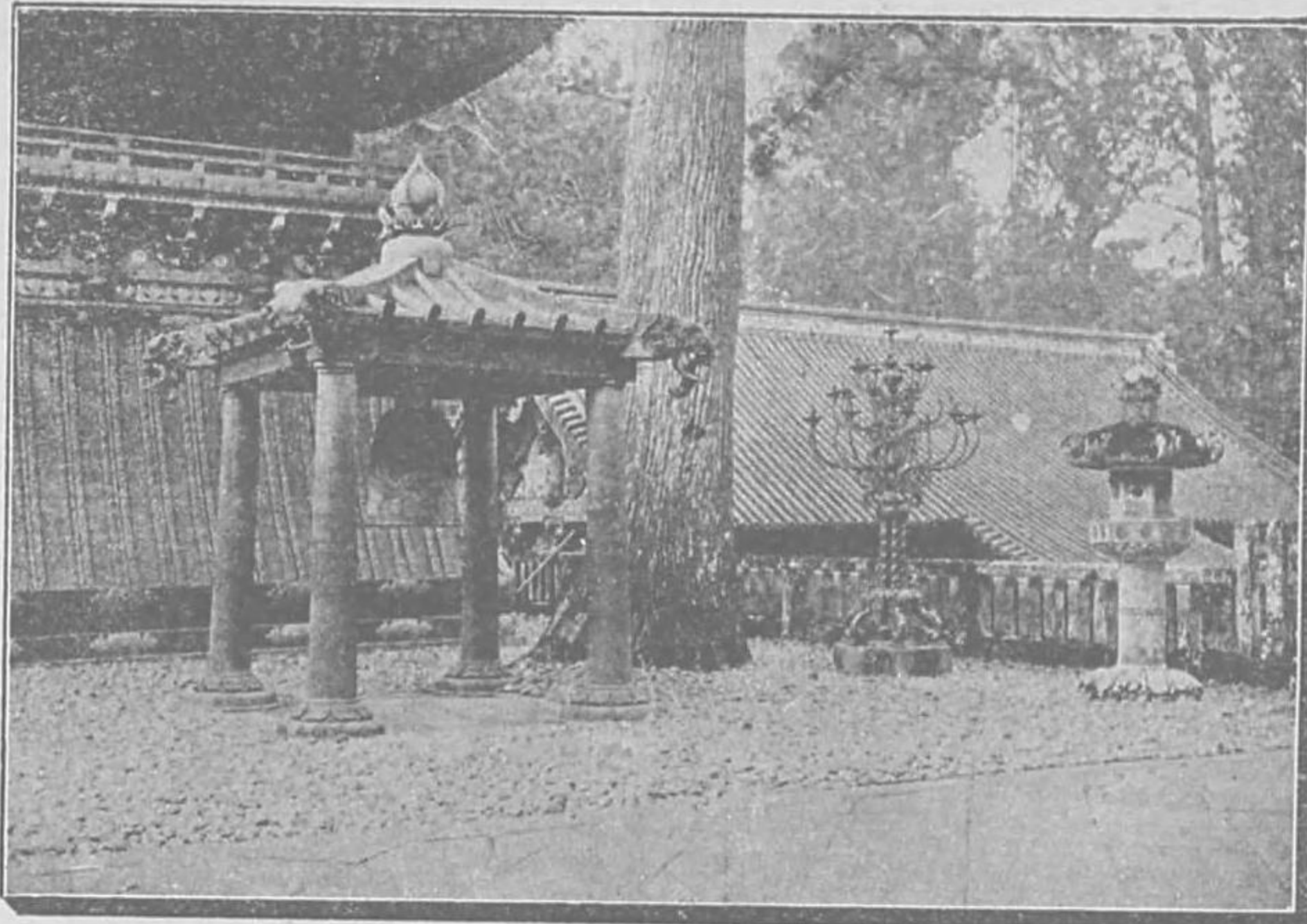
Ashikaga School, Shimotsuke.

(日光) 裏見の瀧



Water-fall of Urani; Nikkō.

(日光) 蟲喰鐘及百華燈



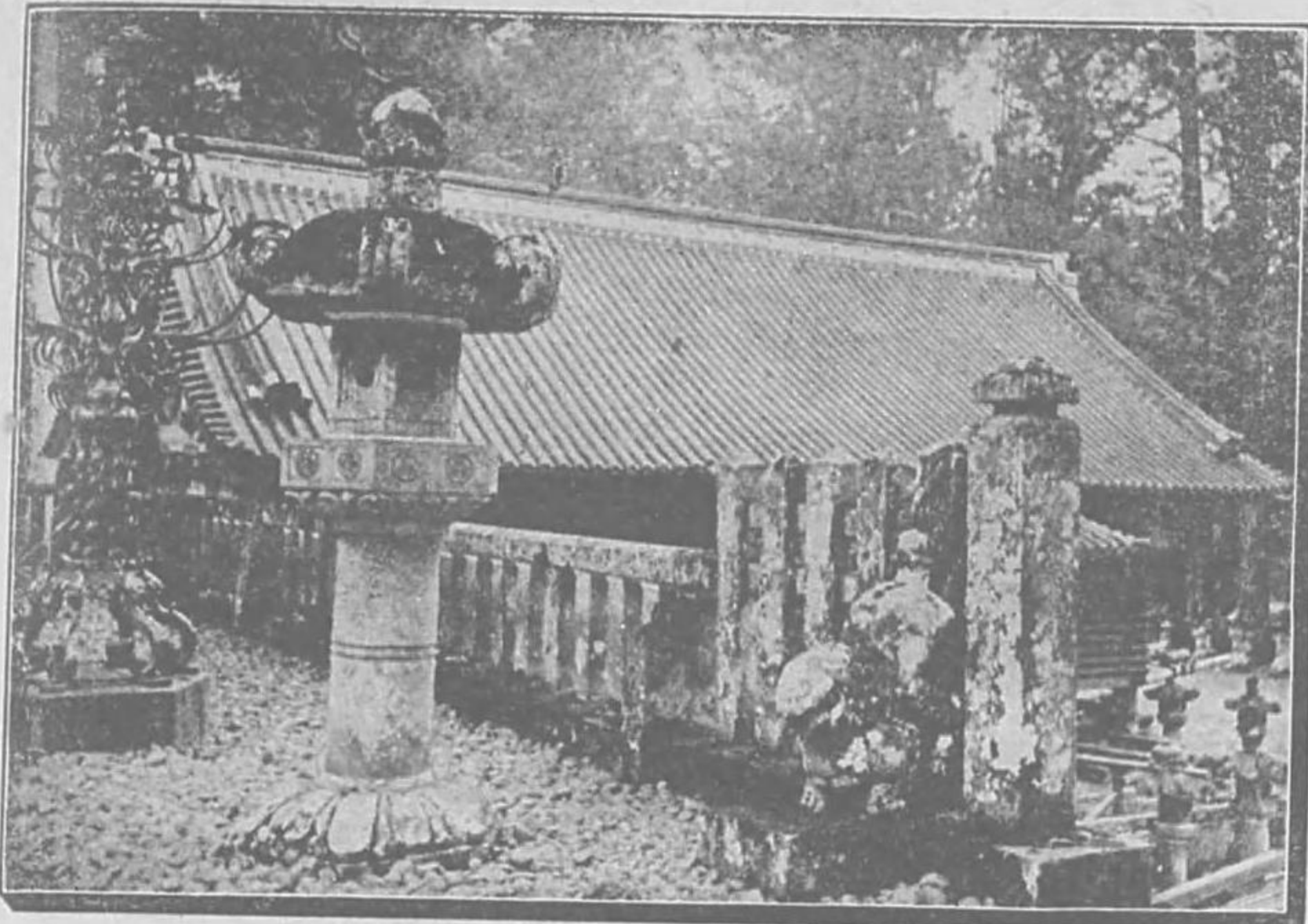
Mushukui Bell and Candelabra; Nikkō.

(日光) 大日堂



Dainichi-dō at Nikkō.

(日光) 飛越の獅子



Leaping Lion in Stone; Nikkō.

(日光) そうめんのか



Sōmen Water-fall, Nikkō.

虫喰鐘及百華燈 (日光)

東照宮の神威は、海外にまでも及び、祠前に奉獻せる諸種の器物に、異邦の珍多し、陽明門の前面右方に當りて、一個の洪鐘あり、古色蒼然として、形状奇古、自ら尋常のものにあらざるを覺えしむ、こは、朝鮮國王より献上せしものにして、四趾の覆屋を造りて之を供ふ、鐘の龍頭の下に、一竅ありて、自然と虫の蝕したるに似たるより、里俗にこれを虫喰鐘といへり、朝鮮國大臣の撰みたる「日光山鐘銘」ありて、盛んに東照宮の功績を謳歌したるものありといへり。百華燈も、同じく陽明門前にある燈籠にして、銅柱に板缸を附着するに數段にして、毎枝に、美麗精工の燈缸數多を附す其狀宛も百花の狀を呈するより、この稱號あり、共に絶世の珍たり。

大日堂 (日光)

日光の華石町を経て、行くと二町餘にて、左方に下る坂路の下にあり、大日如來を安置する小堂にして、傍に、一字の寮と地蔵堂あり中庭に方四五間の池あり、水極めて澄明にして、堂の影これに映り、境の幽邃を添へて仙境の想あらしむ、往昔は、三面は樹木生ひ茂りて一面だけ開け、こより諸方の重巒連峯を望む眺望頗る奇絶なりしも、近年三面ともに樹木を採伐し、や、其景致を損せしは、信に惜しむべしとなす、左れども、日光八景の隨一たる佳景は、依然として其價値を認むべく、近く潺湲たる溪流の流るゝは、乃ち、含滿ヶ淵の上流にして、境の幽雅を添へて常に松籟の聲をたぐる遊觀のもの、必ず筇をとどむべきところなり。

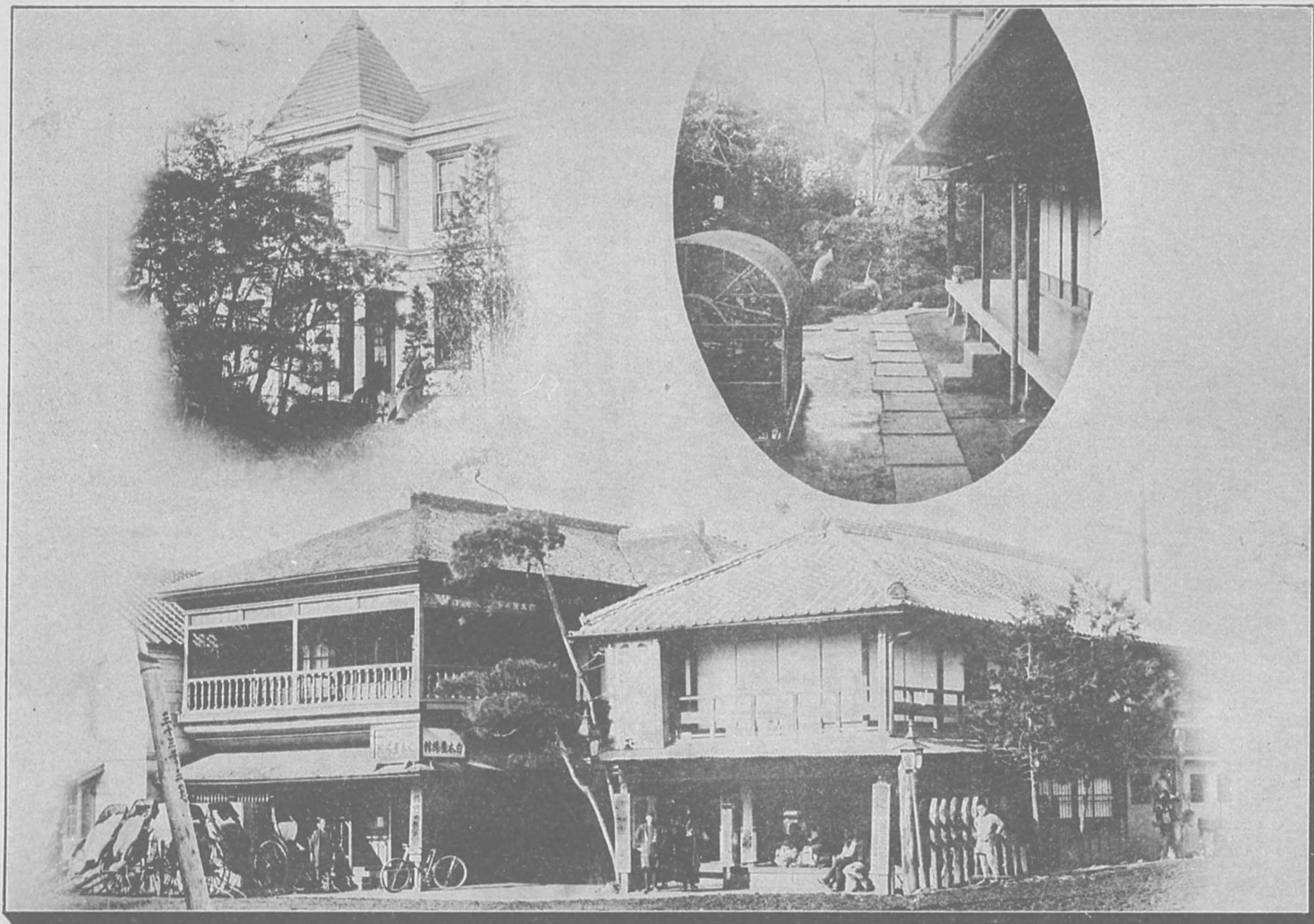
飛越の獅子 (日光)

古色蒼然として、構造雅致なる青銅の華表をくゞりて、前面に、石階あり、磨き立てたる石の瑞籬左右に、階の上端に列なる、こゝに至りて忽ち目に入るは、一の猛獅なり。勢ひさながら生けるが如く、四足の筋肉怒張して、鈎爪地に入らんとし、牙を噛み齧を逆立せしめて、奮迅躍立、將に、瑞籬を飛び越さんとする狀あり、飛び越しの獅子てふ名は、まことに其實に背かずといふべし、階下にある伊達侯献上の、高さ八尺五寸の南蠻鐵大燈籠と對照して、この所の奇觀たり。

素麵の瀧 (日光)

日光山の秋は、萬段の錦繡を裝ひなる紅葉を以て稱へらる、素麵瀧は、その秋色を添へなす鳴虫山の北の麓にあり、向河原より三町餘にして達すべし、瀧の高さは二丈餘、數千條の水恰も素麵をかけたる如く、岩石を傳ひ層々段をなして流下するさま、其觀まことに奇なり、日光は、由來瀑布に富む、而も、この瀧の如く、美麗にして温雅なるものはすくなし、水深からずして、瀑勢亦た激ならざるが故に、夏日此瀧に遊ぶものは、裳をかゝけて銀線萬條の上を昇降し得べく、其心地よさと名狀すべからず。

店 旅 屋 木 白 (宮 都 宇)



Shiroki-ya Inn at Utsunomiya; Shimotsuke.

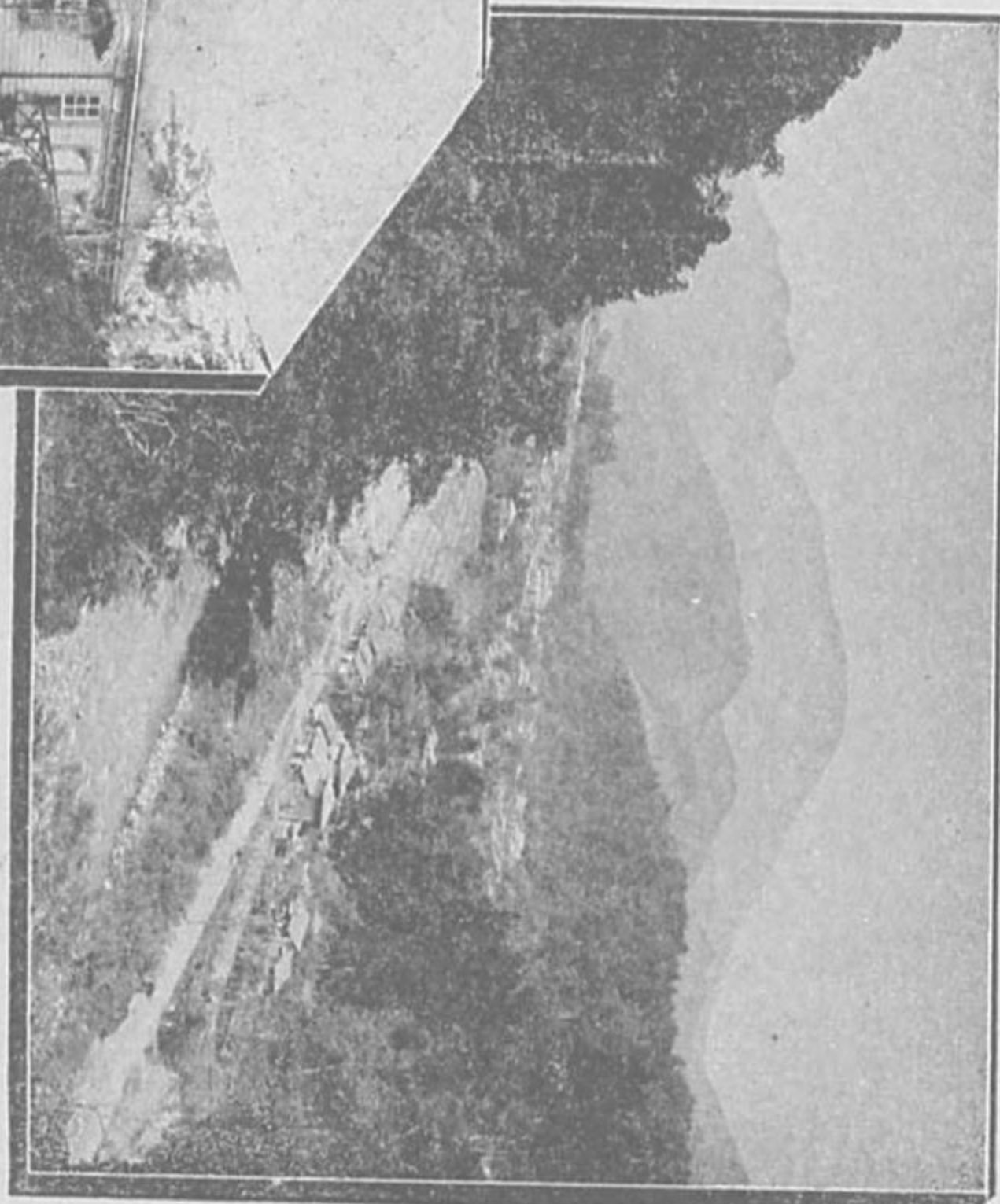
Shirokiya Inn.

This inn is excellently situated in Utsunomiya, Tochigi Prefecture, and offers every accommodation to its guests. Foreign food is furnished when desired. There is also a billiard room. For the convenience of its patrons, a branch has been opened near the railway station.

白木屋旅館 (宇都宮宮)

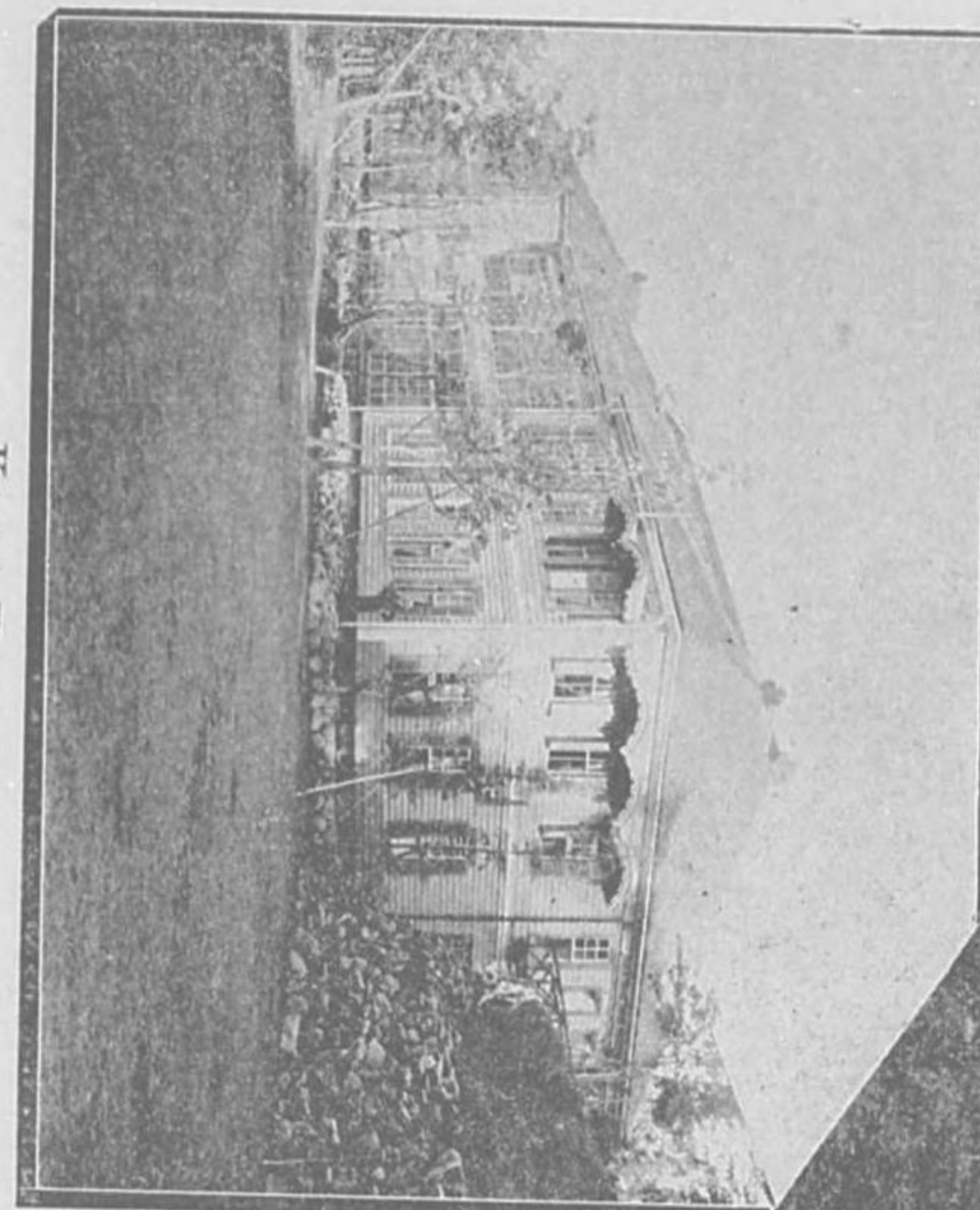
宇都宮は、下野の名邑にして、大小の諸官衙皆此地に存在し、交通運輸の便頗る多くして、商業の繁昌せること、この附近に尤も有名なり。白木屋旅館は、市内の尤も樞要なる地にありて、諸般の用務を辨するに都合よく、加ふるに、客舎廣くして、器具其他の準備いたらざるなく、頗る好旅舎の名あり、館は、其構造の宏壯なると共に、四近の眺望に富み、空氣の流通よろしくして、旅客の意に満たざるものなし。支店は、宇都宮停車場に間近き門前に在りて、汽車の昇降に便利あるのみならず、本店と同じく、各種の設備いたらざるなく、料理は、和洋折衷にて、旅客の好みに應じて調進し、廣潤なる庭園には、玉突き場の設けありて、宇都宮市を過ぎる旅客には、この上もなき好旅館といふべきなり。

View from Kanaya Hotel, Nikkō.



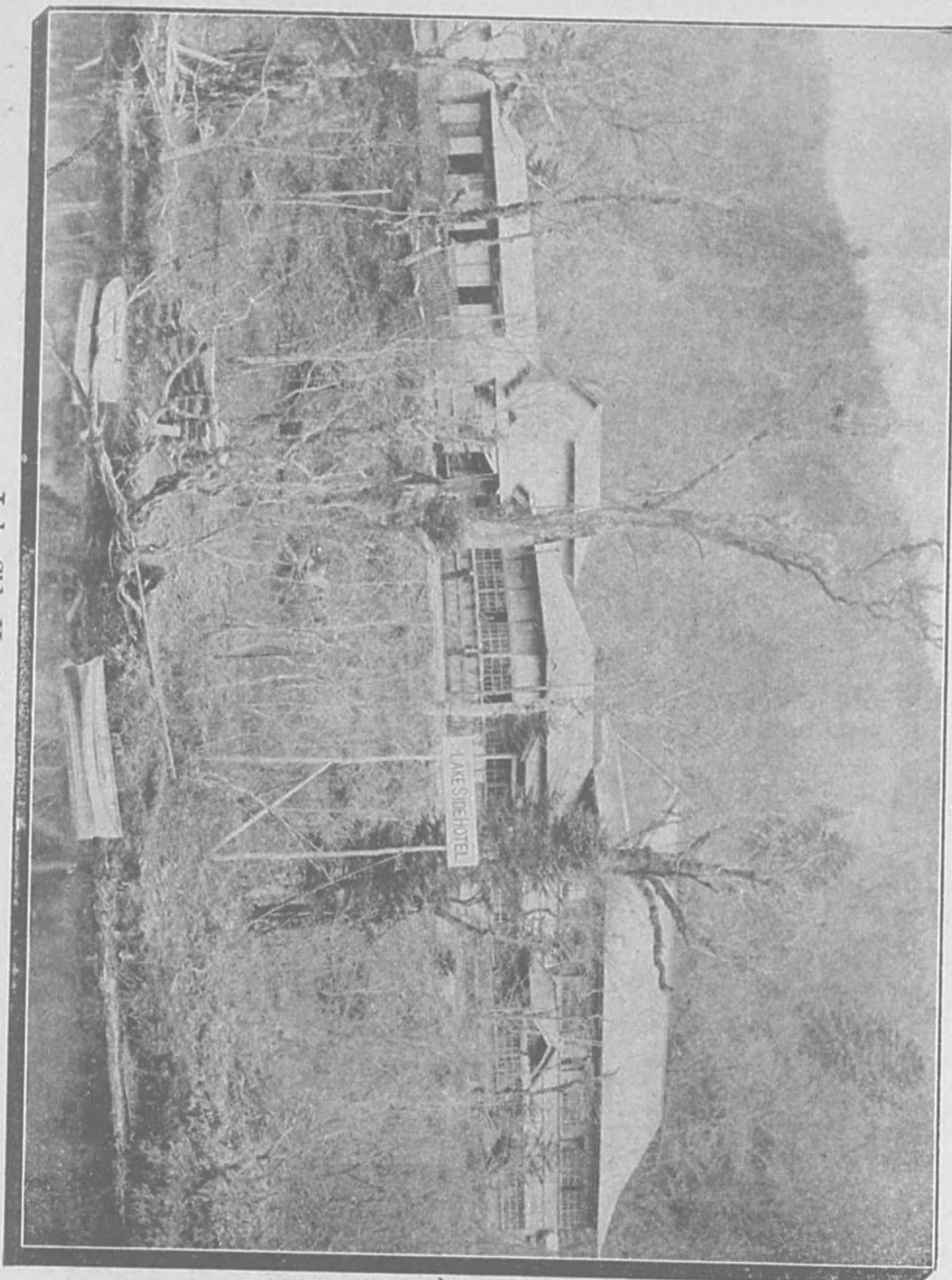
(日光) 金谷ホテル庭園の眺望

(日光) 金谷ホテル



Kanaya Hotel, Nikkō.

(日光) レイクサイドホテル



Lake Side Hotel at Nikkō.

金谷ホテル (下野)

日光の勝は、人皆な稱せざるなく、山水の風景、人工の宮殿祠宇と相待ちて、今や、海外の旅客も、争ふてこの地に遊ぶに至れり。この勝區に在りて、土地の秀麗と相適する旅館を設置するも亦多く、金谷ホテルの如きは、其中屈指のものあるべし、建築壯大にして、客室の構造完備をつくし、起臥飲食の具ことごとく清新雅潔にして、待遇のと亦た至らざるなし。特に、其庭園は、丘によりて設けられ、泉石樹木の配合は、天然に加ふるに人工を以てし、閑雅瀟洒尤も愛すべきものあり、日光に遊ぶ貴顯紳士及び海外の客にとりては、尤も適當せる好旅館といふべし。

레이크、サイド、ホテル (下野日光)

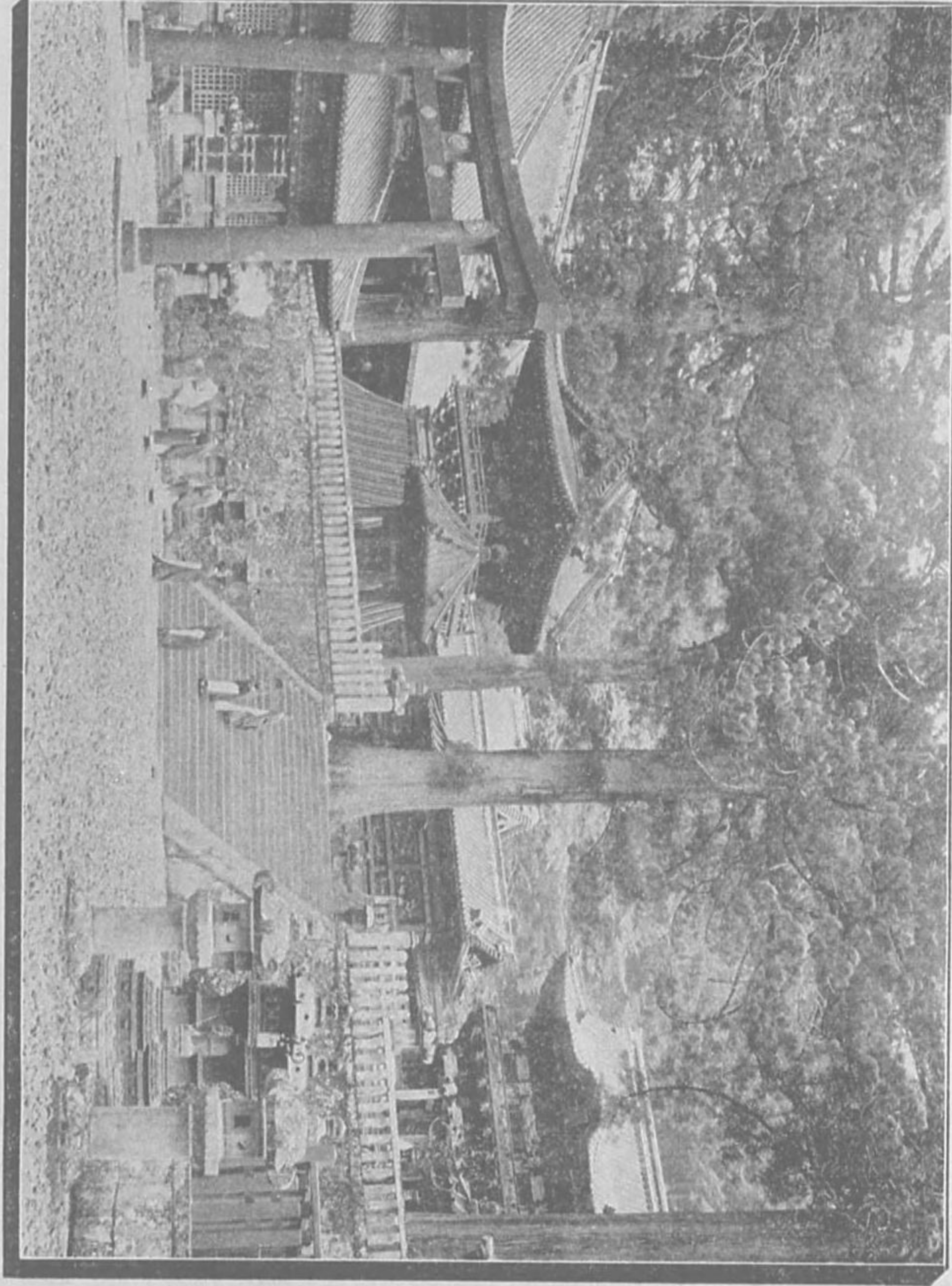
京濱の間に在留せる海外の賓客、又は内國の紳士が、消閑の好適地は、西に箱根あり東に日光あり、而して一は芦の湖々畔、一は中禪寺湖々頭に於いて、三伏消夏の勝區を得ざるなし、特に、中禪寺湖々畔は、風景の明媚なると、むしろ芦の湖に勝るものあり、且つ、日光山中の奇勝探見の事ありて、いよゝゝ其よろしさを加ふ。레이크、サイド、ホテルは、其名の示せる如く、中禪寺湖の畔にありて、結構宏大にして、諸般の設備いたらざるなく、山に對し湖に臨みて、窓間の眺望亦た絶佳あり、地の靜淨にして、空氣の新鮮あるとは、元よりこの地の特長なれば、觀遊の客にとりては、此上もなき好ホテルなるべし。

The Kanaya Hotel.

The Kanaya Hotel in Nikkō is conveniently situated on a hill overlooking the stream which flows through the town. The grounds are carefully laid out, and add not a little to the attractions of the hotel. Guests are assured that every attention will be paid to their convenience and comfort. The table and other accommodations are in European style.

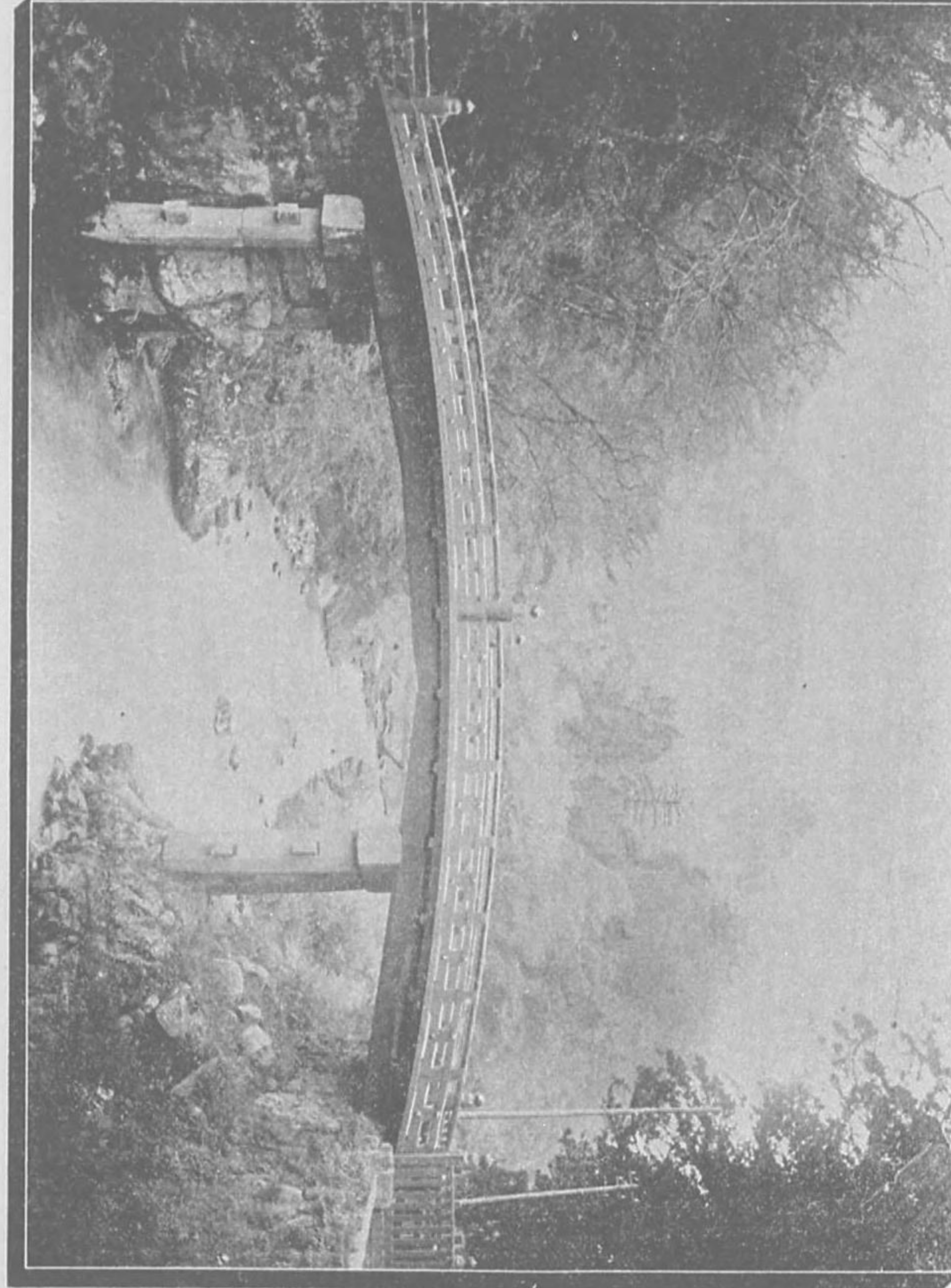
The Lake Side Hotel.

The Lake Side Hotel of chūzenji is prepared to receive foreign guests, and offers every accommodation to its patrons. Situated, as its name indicates, on the shore of the lake, it is in the midst of beautiful scenery, and is delightfully cool in summer.



(下野日光) 陽明門前

Red Lacquered Bridge at Nikkō, Shimotsuke.



(下野) 日光神橋

神橋 (白巻)

舊名を「山背の蛇橋」といへり、昔し勝道上人といへる聖ありてこの河岸に來り、心を凝して佛を念せしに、深砂大王出現して青赤の二蛇を放ちて橋となし其背に山背を生せしめしにより、この名あり、日光に東照宮を祠りし後に今の神橋を架設して同時に舊名を失へり。橋の長さは十三間、幅三間にして河中の巨岩を穿ちて石柱を立てたり、欄干より橋板に至るまで、總て朱塗りにして、勾欄と擬寶珠には金鍍したる金具を附け、其光彩目眩する斗りにて、附近の山光水色と相映じ、奇觀壯麗いふべからず、橋の兩側には柵を設けて人の通行を許さず、參詣の人は假橋を渡りつゝこの神橋の偉麗を眺むるを得べし。

The Sacred Bridge at Nikkō.

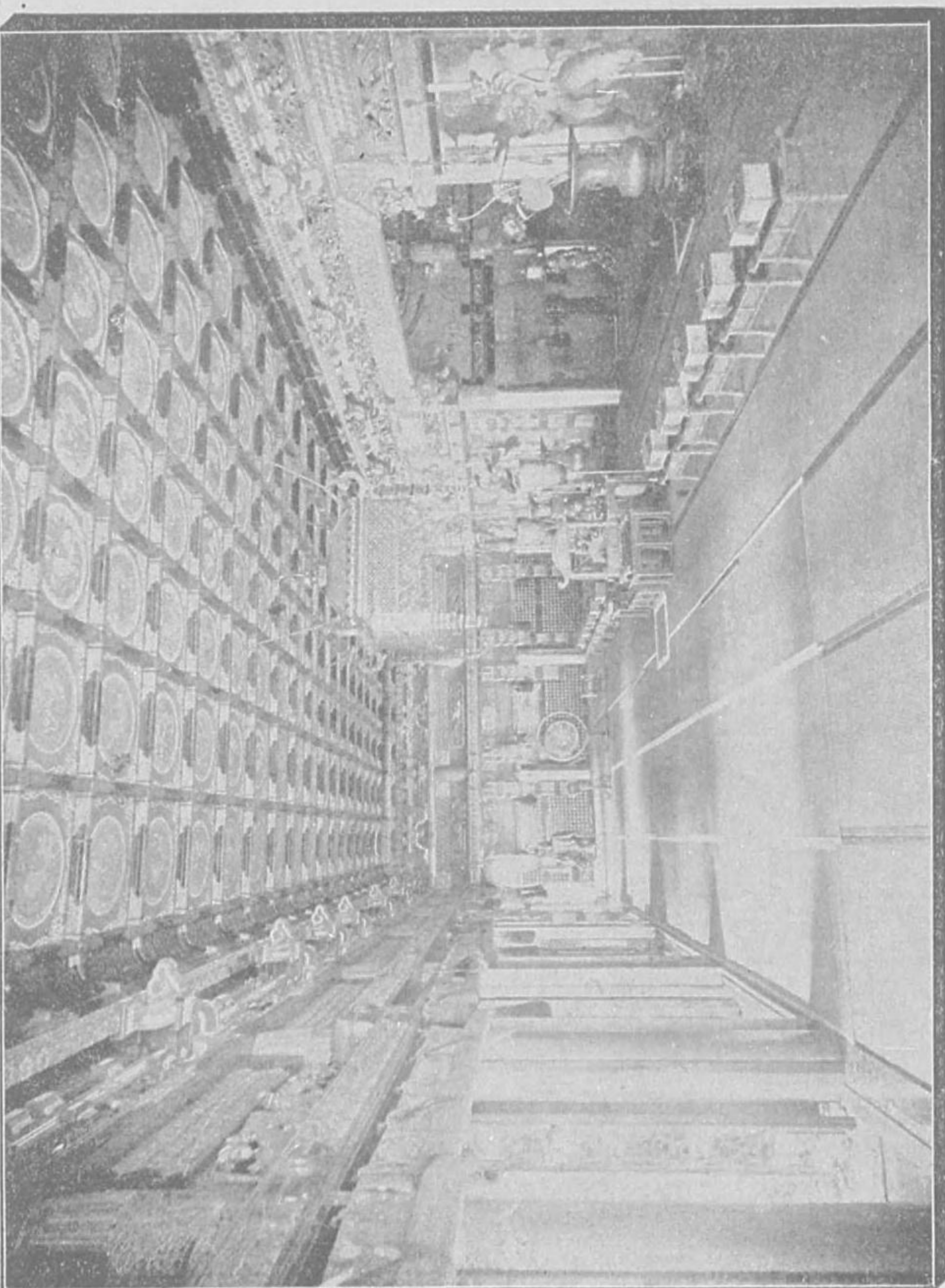
This bridge is familiar to all who have visited Nikkō. It crosses the river before the great temple, but is not opened save for the Emperor or his special representatives.

陽明門前 (白巻)

參差として相列なる百八十基の燈籠を左右にながめ、いかめしく立てる青銅の華表をくぐりて清らかなる石階を登りつくせば、四近の景狀清潔にして閑雅、地に片塵をといめせしめて心自ら澄み來るべし、瑞籬の中には、鼓橋、鐘樓ありて左右相對し、結構な凡庸の比にあらず、側には、朝鮮國より貢獻せしといふ虫喰鐘、琉球より奉納せしといふ蓮燈籠ありて阿蘭陀國より寄進せし廻り燈籠と共に、孰れも海外の珍什にして、徳川氏の威風を想はしむると同時に、好奇愛珍の目を飽かしむるに足るべし、正面にある門は、即ち世にも名高き陽明門にして日光廟の壯麗のここに集めたり。

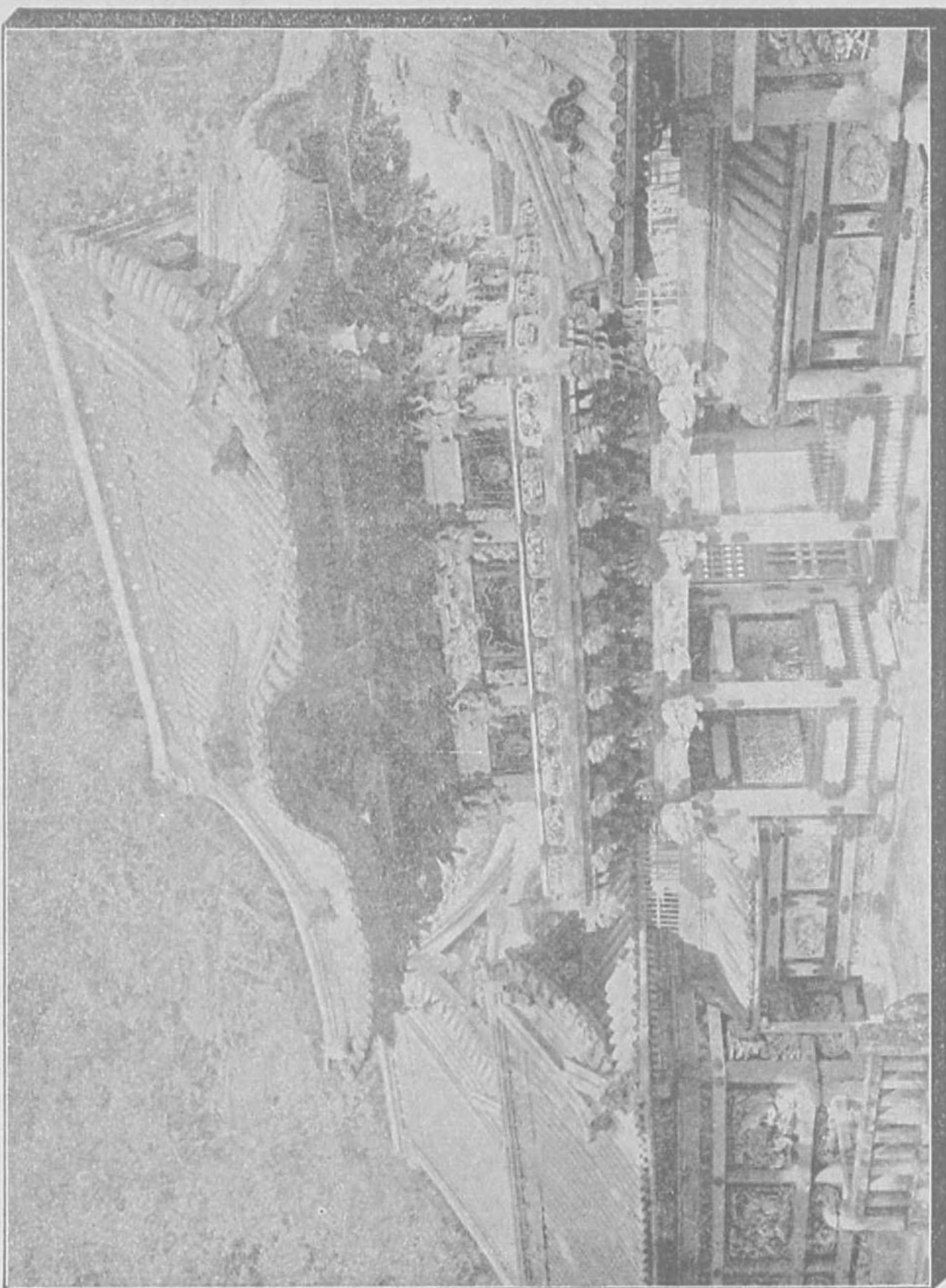
Front of Yōmei-mon.

In front of Yōmei gate, there are eighty stone lanterns, the well-known bronze lantern and the candelabras presented from Loo-choo and Corea during the Tokugawa era.



陣内屋敷家光(下野日光)

Yōmei Gate; Nikkō, Shimotsuke.



門明陽(下野日光)

陽明門 (日光)

日光廟の壯麗は日本に冠たりと稱せられ日光廟の輝は陽明内に集めらる。陽明門は日暮しの門といふ、堅四間、檜二間の構造にして、一層樓高く聳へ、蒼くに、銅製の瓦を以てす。梁、楯、桁、柱、なごには、總て精巧なる人物、花鳥、禽獸を彫刻し、其技神に入り妙を極め細欄目を眩するばかりなり、擔頭には光燦然たる金鈴をかけ、微風に揺動して鏗々の音を發す、天井に畫ける身り龍、降り龍は、有名なる狩野守信の筆にして今にも飛躍するかと疑はる。左右に出でたる廻廊には北鳥を隙間もなく彫刻して、其巧妙美麗なること、筆紙のよく畫すべきにわらず、參詣のもの、一度びこの門下に立ちてこれを見れば、孰れも其壯麗美觀に恍惚して、朝より晩に至るも尚ほ去る能はざるなり、終に『日暮しの門』の異名あるにいたれり。

Yōmei-mon.

This is the main gate to the tomb of Iyeyasu, built by the Third Shōgun, Iyemitsu. It is famous for the splendor of its architecture and carvings, and for the paintings which adorn the ceilings.

三代將軍陣内陣 (日光)

三代將軍家光の廟は、二荒山神社の南方にありて、結構の壯麗なること殆んど東照宮にゆづらず、二玉門を過ぎて更に幾多の樓門、慶堂を觀、七十二級の石階を陞り、盡せば葺椽あり鎧樓ありて正面に夜叉門あり、これを入れば、廻廊ありて彫鏤の精巧を施したる唐門に導ひくべし。門の左右に黒漆を以て塗つたる廊あり一周して其中に拜殿と本殿を圍む、拜殿の階段は臘色の研出しを施し、欄干は朱を以て塗り之に黄金を鏤し、其壯麗はいふまでもなし、本殿は二重屋根の構造にして方五間餘の殿宇なり、内扉は常に鎖して人の窺ひ見るを許さざるも、屋宇の巍々たる構造の奇巧妙麗に富みたるの威嚴に面のおたり達へ心地すべし。

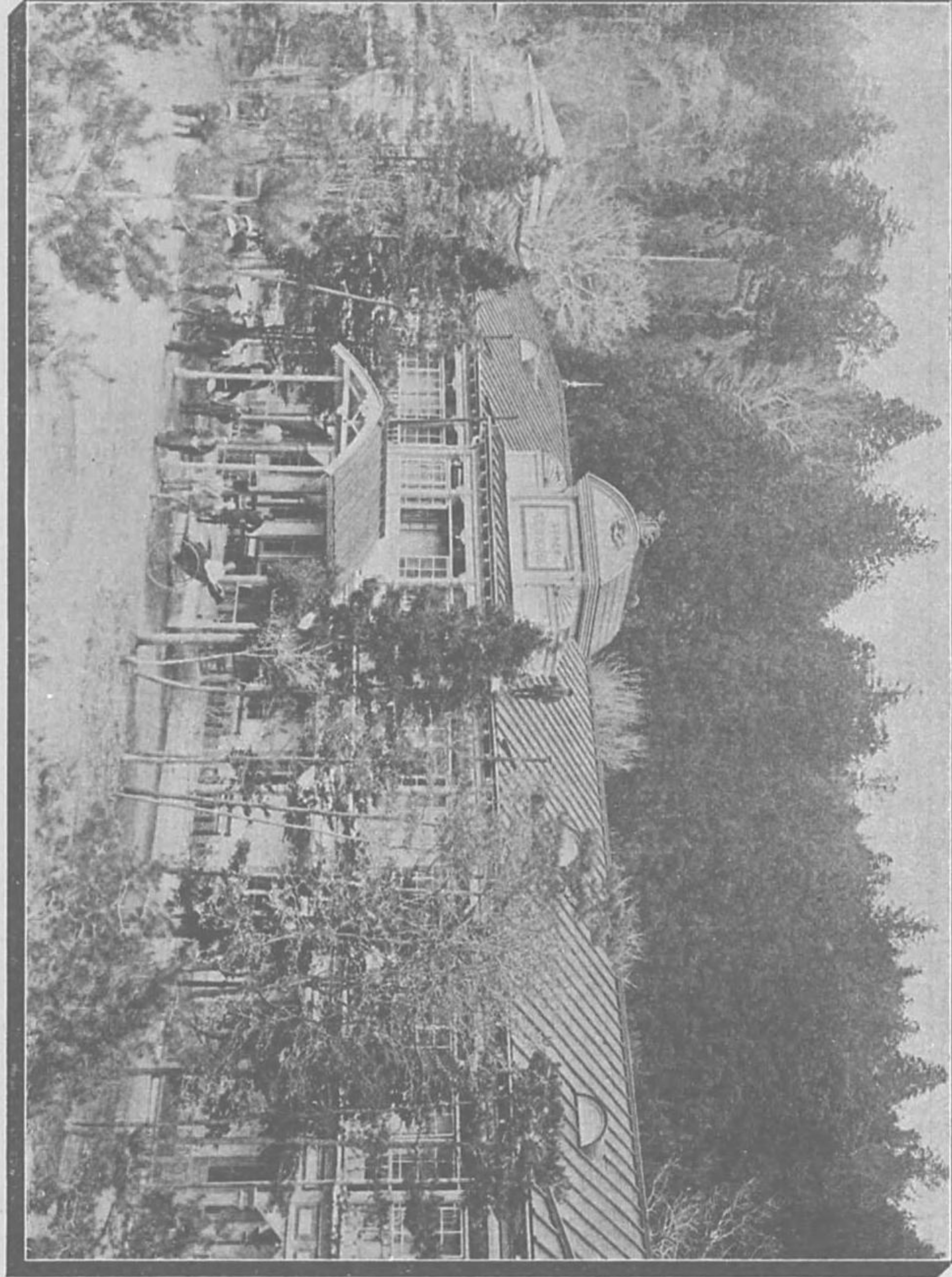
The interior of the Temple of The Third Shōgun at Nikkō.

Iyemitsu, the Third Shōgun, was the grandson of Iyeyasu. It seems to have been largely owing to his administrative ability that the authority of the Tokugawa family was made permanent. It was also due to his patronage that the Nikkō temples took on their special character as the memorial shrines of the dynasty.



(下野日光) 湯元温泉遠景

Nikkō Hotel, Shimotsuke.



(下野) 日光ホテル

日光ホテル (日光)

日光は日本の名勝として内外人の賞揚して措かざるどころ也。山には奇峯峻巒あり、水には、飛瀑瀟瀟あり、之に加ふるに、神祠の燦爛宏壯なるありて、四時遊觀の人を絶えず。旅館の設け亦た随つて多し、就中日光ホテルは、旅館中の最大なるものとして、及び壯麗完備なるものとして知らる。日光ホテルは神橋の近く一二町の處にあり、後ろに樹木茂れる山を負ひ、街より、少しく入りたる高燥の地に建てらる。洋風の高館として聳へ、外觀の美よく地の名勝たるに適す、樓上樓下の裝飾は完備清潔いたらぬ隙なく、四近の眺望亦た極めて可なり、思ふに、内外の紳籍にして見山に遊ぶものは、このホテルによりて尤も満足なる宿泊をなすを得ん。

The Nikkō Hotel.

The Nikkō Hotel is kept in foreign style. Guests will find excellent accommodations and every attention will be paid to their comfort and convenience.

湯の湖 (日光)

日光中禪寺湖より、山路をたどること西方三里にして、一の幽境あり、これを湯の湖といふ。地は海を抜くと四千尺餘の高さにありて、群嶺重疊の間に、一碧瑠璃の如き鏡面をひらく。後方には温泉ヶ岳巍々として聳へ、峰影さかさまに湖上に落ちて、輕舟とさき遊客をのせて細漣を破る。實に天然の好風景にして、夏日この湖畔に遊ばば、三伏の蒸暑と共に胸中の塵をも洗ふに足るべし。湖畔に温泉あり、泉質は硫黄泉にして無色透明、以て痼疾を癒やすに足るべし。浴戸は、温泉ヶ岳を背にし、湖水に面して其數十戸以上あり、靈泉に浴して後欄によりて湖上の風光に對せば、山の翠、水の明共にいふべからざる快樂を興ふべく、實に人境を離れたる幽境といふべきなり。

Yu-no-ko.

This is the lake at Yumoto, seven miles higher up the valley than Lake Chūzenji. The name, "Hot water Lake", is derived from the hot springs near its head. The elevation is said to be 5,000 feet above the sea.

(下野日光) 家康の寶塔



Tomb of Iyeyasu at Nikko.

(下野日光) 中禪寺湖



Chuzen-ji Lake; Nikko.

(下野日光) 華嚴の瀧



Kegon Water-fall, Nikko.

家康の寶塔 (日光)

拜殿を入りて、正面に壯麗なる鐵拔門あり、これを潜れば、徳川氏十五世の基業を定めし家康の墳墓あり。直徑四尺、高さ一丈餘に垂んとする黃銅の五輪塔は儼然として峙立し、八角九階の階壇いがめしく、塔下に築かれたり、四近の躰裁、極めて靜肅森嚴にして、一度び、こゝに禮拜せば毛骨の栗然たるを覺ゆしむ、おはれ、この五輪塔下に、三百年間江戸幕府の基を護りつゝ、英邁達觀なる家康の遺骸は眠りつゝ、ありしなり、以前は坂下門内は、貴賤を問はず、一切參拜を許さざりしなり。

中禪寺湖 (日光)

中禪寺湖は、東西二里、南北三十町にして、周回九里九町に及べる大湖なり、湖は、日光を経て、遠く山を上りたる境にあり、即ち、華嚴瀑布の水源なり。群嶺重疊して四方をかこみ、綠翠滴る如きもの、孤峭天を摩するもの、就れも湖上に影を落し、水深く色濃く、一碧宛も明鏡を開きたる景色は、其絶佳なるその他如くどころにあらず、湖畔に中宮祠あり、祠頭に立ちて湖上を望めば、上野島の温容眉目の間に迫り、其他の名勝ことごとく、雙眸の中にたさむべし、岸上には、旅館多し、孰れも、勝景に對して樓を起し、以て觀風遊覽の旅客に便にす、夏期の避暑地として無比の仙境たり。この湖の水の清冷なる、一の塵芥も合まざるにより、古昔は、鱗虫の生息するものなかりしと云ひ傳ふ。

華嚴の瀧 (日光)

日光町より中禪寺道に就き、馬返村に達すれば、山路漸く峻にして、劍ヶ峯に至れば、峻いよ、峻にして、恰も馬背を行くが如し、大平より四五町をすぎて左方に入れば、萬雷の地を撼して鳴るを耳にすべく、須臾にして華嚴瀑布の前に出づ。瀑布は、中禪寺湖水の牽りて流れとなり、峻崖に迫りて直瀉するものにて直下七十五丈、幅八間に達す、瀧の東方二十間を離れて断崖より斗出する巨岩あり、木に攀ぢる鳥蔓にすがりてその下に下り行けば、僅に直下の底邊を窺ふべきも終に其瀑壺に達すべからず。兩崖は樹木生ひ茂りて奇岩怪石其間に峙ち見るさへ肌を粟するばかりなるに、一條の大瀑白雲を破りて下り來るさま、目眩し脚戦くを覺へ、眞に海内無數の名瀑たるに背かず。この邊に岩燕多く、飛瀑の前を掠め水烟を破つて翺翔するさままた、一種の奇觀たり。

The Kegon Water-fall.

This Water-fall is on the stream which forms the outlet of Lake Chuzenji, not far from the lake. The height is said to be 350 feet. The breadth is fifty feet.

相馬の馬祭り (磐城)

字多郡中村町は、陸前濱街道に通ずる要地にありて、相馬氏代々の舊城下として、世に知られたる名邑なり、南に、大江川の流ありて宇田川橋これに架せられ、東南北は、田野開けて遼々として、涯なし、この地古例舊慣多かる中に、尤も世に知られたるは、年々に舉行せらる、相馬の馬祭りにして、儀式すべて他と趣を異にし、數多の人民は、甲を環し冑を裝ひ、騎馬にて行列を作り、整々として練り行くなり、これを見るに、恰も、戰國時代の武士が盛装して陣に臨むが如く、槍刀いかめしく横たへて、甲冑の音鏗爾として鳴り、奇觀壯態人目を驚かすものあり、この日は、遠近の老若男女堵の如く群集し來り、中村市街は立錐の地もなき雜關を極むといへり。

中村合名會社 福島支店 (岩代)

中村合名會社の祖先が、始めて織物呉服の業務を開きしは、今を去ること七十餘年前天保年間にして、幾多の難關を越えて毫も屈撓せず、明治七年に至りて基礎漸く確立し、爾來日新歩の進歩をなして、八年十月に至りて卸小賣營業の披露をなし、終に明治二十六年に至りて、本店を東京に移し、新たに滋賀縣に支店を設け、福島縣の商店も一支店と改稱せり、翌年法令によりて中村合名會社と改稱して、愈々其業務を擴張し一切の織物は、一として販賣せざるなく、染物も、嶄新なる意匠をこらして、鮮麗に調製し、江湖の需用日に多きを加へつゝあり、京阪各地に代辦店多く、各々花客の便利と利益を計るといふ。

安達ヶ原公園 一ツ家 (岩代)

二本松町を東に出で、阿武隈川の流をわたりて大平村に遊べば、この地に、安達ヶ原公園あり、境閑靜にして地清潔に、亭々たる老松に、微風琴瑟の音を鼓し、心神の寛なるを覺ふべし。園内に黒塚の舊趾あり、怪岩奇石起伏して、一見怪奇の景狀を呈し、傍に、恰も土窖の狀をなせるものは、口碑に傳ふる、黒塚の鬼婆の棲息せしところとか、この近くにある觀音寺には、今日も、鬼の飯を炊ぎしとてふ釜、人を屠りしてふ刀などを藏せりといふ、かゝる怪奇の場所も、開明の光に照らされて、今は瀟洒たる遊園地となり、兒女歡喜の樂地となりしこと、訪ふものは、そらるに滄桑の變に感ずるなるべし。

(磐城相馬) 馬祭り



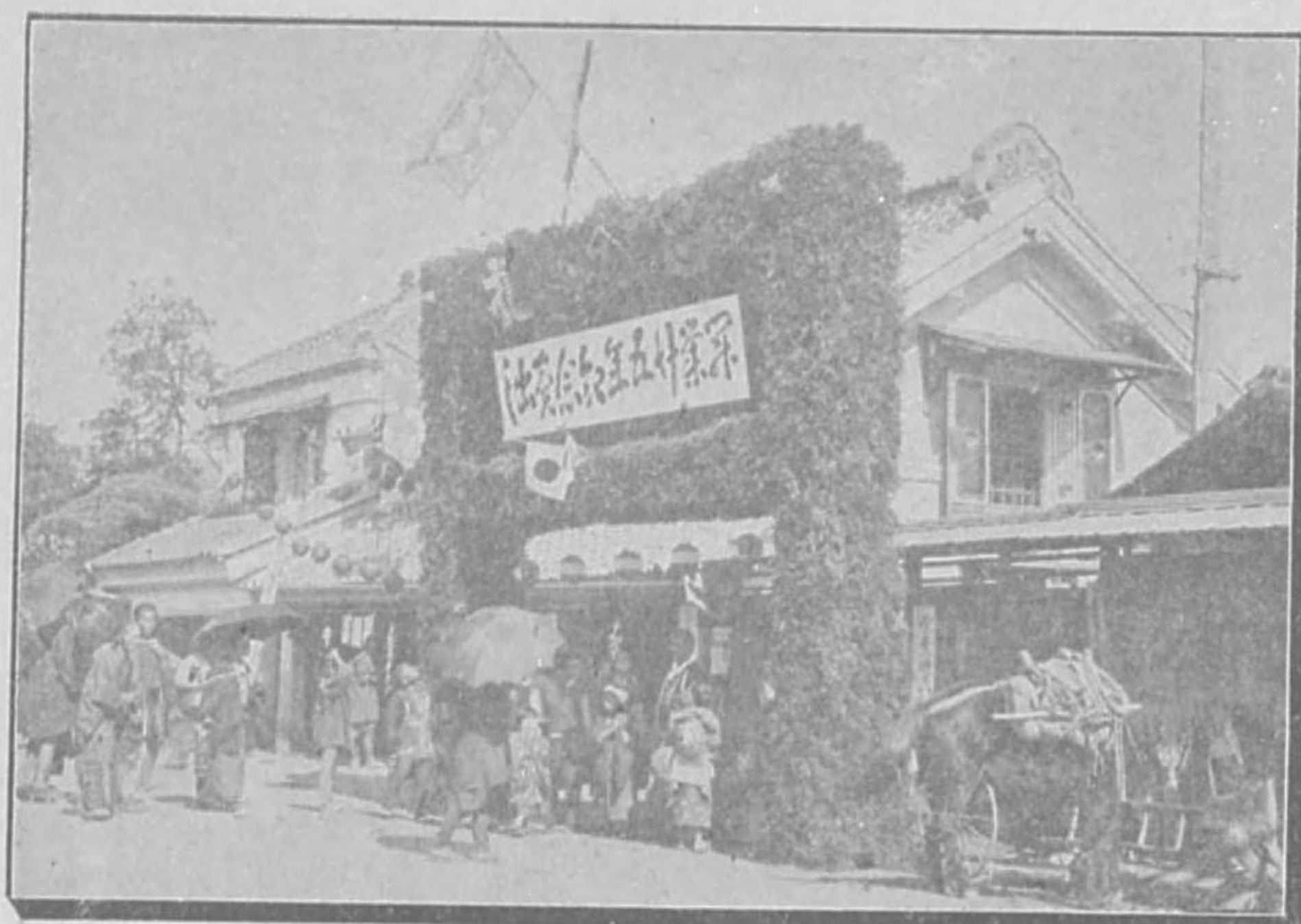
Horse Festival at Soma; Iwaki.

(岩代) 安達ヶ原公園



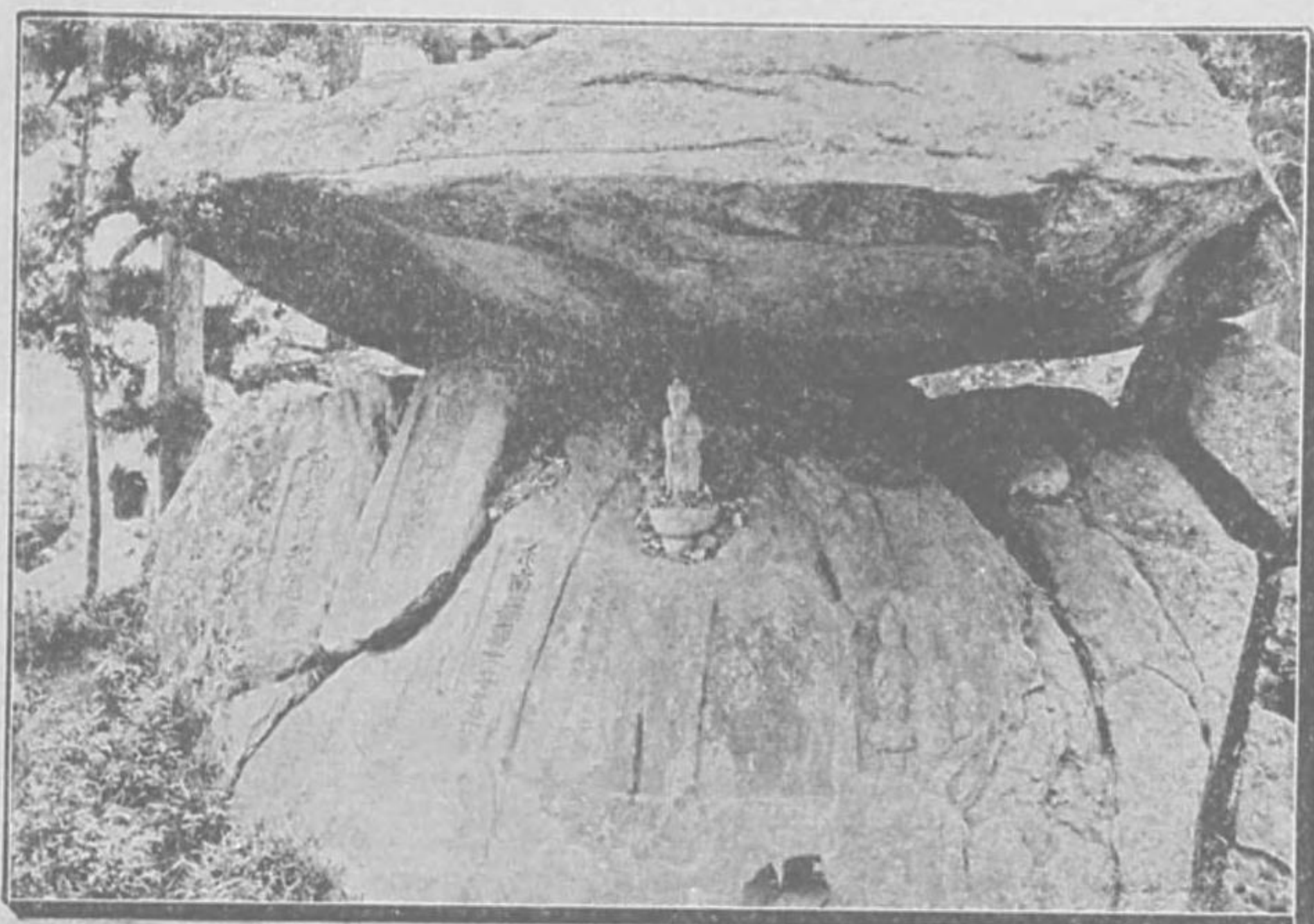
Park of Adachi; Iwashiro.

(岩代) 中村合名會社福島支店



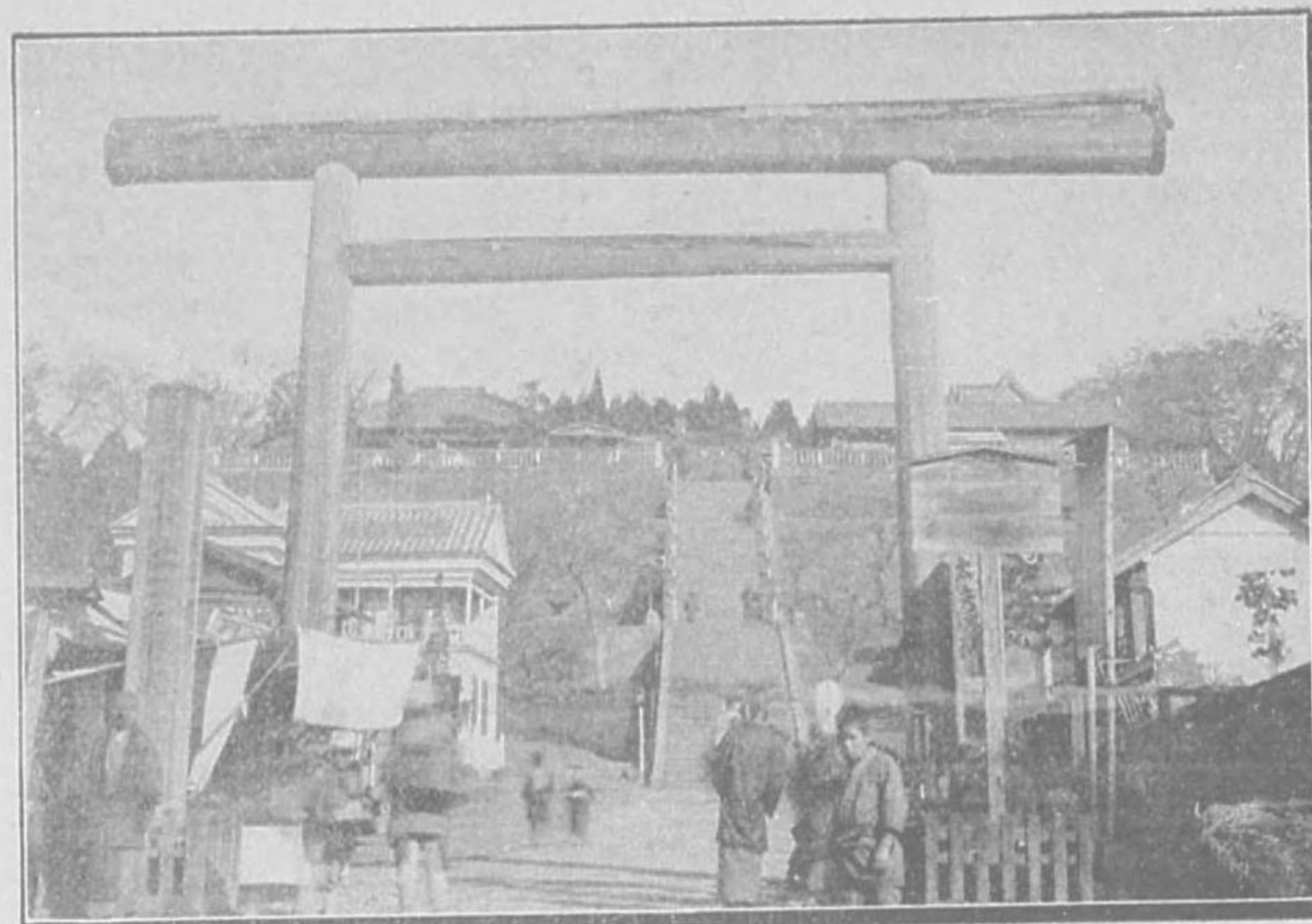
Fukushima Branch of Nakamura Consolidated Company; Iwashiro.

(岩代) 安達ヶ原一ツ家の古跡



Ruins of Hitotaya at Adachi-ga-hara; Iwashiro.

(下野宇都宮) 二荒山神社



Shintō-Temple of Futana-san; Utsunomiya, Shimotsuke.

(磐城) 遠刈田温泉金寶閣



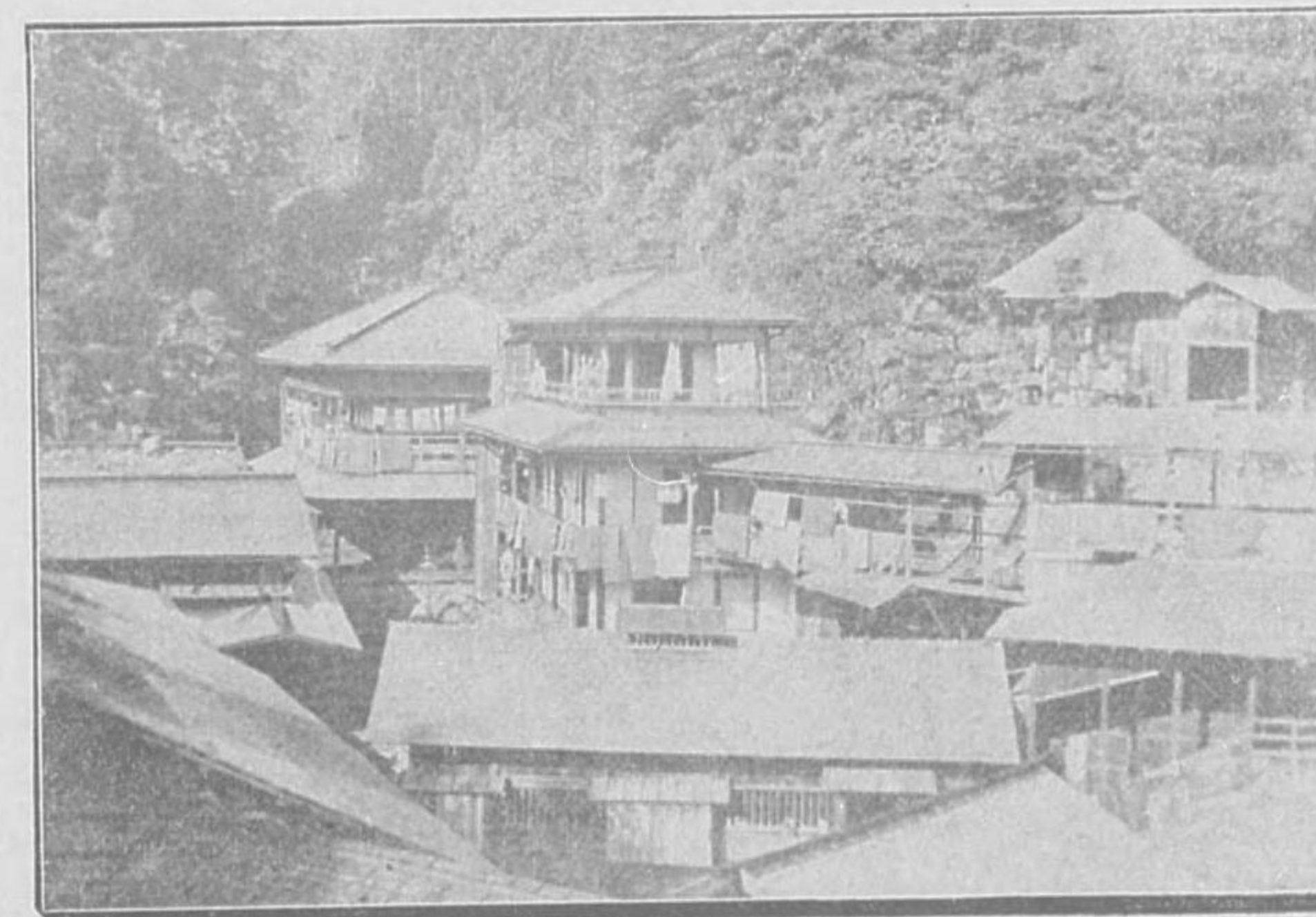
Kimpō-kaku at Tōkatta Ho-Springs; Iwaki.

(磐城) 鎌先階樂園



Kairaku-en at Kamasaki; Iwaki.

(磐城) 鎌先温泉一條旅館



Ichiji Inn at Kamasaki Hot-Springs; Iwashiro.

一荒山神社 (下野)

大日貴命を奉祀せる神社なり。東方に青銅の華表聳ぬ、これより入れば。總朱塗にしたる大拜殿あり燦爛人目を驚かす、本殿は八棟造りにして廻らすに濱椽を以てし、拜殿と同じく總朱塗にして、欄間承塵には鳥獸草木を彫刻し、五采の色彩絢爛として見るもまばゆきを覺わしむ。社前におる青銅の燈籠は、其高さ七尺許りにして、世俗に、化燈籠と稱するものこれなり、この祠は、創造の際には、さまで輪奐の美麗を極めざりしも、徳川家康をこの地に祭るに及び、三代將軍家光、命じて之を改築せしめ、以て今日の觀を呈するにいたれり。祭典は、毎歲四月十七日にして、其式頗る古雅なりといふ。

遠刈田温泉金寶閣 (磐城)

刈田郡宮村にあり、松川の清流潺湲として境を洗ひ、不忘山、青麻山等の峰巒聳として屏をなす、往復の道路や、嶮岨にして、車轍を印する能はざるも、馬背の便をかりて、安全に往來訪ふべし、交通の不便は、この地に世の汚塵をいれず、境幽に地靜にして、旅客の心を慰むるに足るべし、温泉の源は五ヶ所ありて、透明無色の靈泉を噴出し、攝氏五十度以下の溫度を保ちて、諸病に効ありといふ、故に、年々來り浴するもの頗る多く、平均八萬人の多數に達するとかや、客舎の數も多き中に、金寶閣佐藤源兵衛旅館は、其名尤も世に知られ、客の待遇、室の清潔と共にこの地の白眉と稱せらる。

鎌先温泉一條旅館 (磐城)

刈田郡にあり、群山重疊して四境を圍み、交通の便いまだ完全ならず、傳へいふ、古昔一樵父ありて、この附近に薪を採り居しに、渴を療せんとして、鎌にて岩根を掘試みしに、水は出でずして滾々たる熱泉噴出せしよりこの温泉を鎌先と名附けたり云々、温泉宿は數軒あり、就中一條旅館は其最たるものにて、館主の祖先は、今川義元の臣一條長吉の末裔なりといふ、かゝる舊家なれば家屋の構造も他に抽んで、浴客の來り宿するもの多し、泉質は、芒硝泉にして、鹽味と酸味を帶び、諸病に効能多きを以て、地の不便なるにも關らず年々平均五萬人の浴客ありといへり。仙臺を去ると十六里、白石町の西方一里半の境に在り。

波立の絶景及波立寺 (磐城)

檜葉郡久之濱村に在りて、波立薬師堂の名を以て知らる、妙心寺派の臨濟宗にして、大同年間の開基なり、關東に屈指の靈場にして、本尊の瑠璃光如來は、昔し海中より出現せしものなりといへり。本堂は五間四方の建築にして、莊嚴目を驚かす、境内の眺望は、頗る絶佳にして、東方は奇岩亂立せる海を望み、西南には、鬱たる深林を控たり。西行法師の歌に「東路のこぬみか濱にひとよねてあすや拜さん波立の寺」とある、木奴美ヶ浦の絶勝は眼下に接近して、境内の風光を添ふ。

赤井嶽薬師 (磐城)

磐城郡の赤井村に在り、寺號を常福寺と稱し眞言宗の古刹なり、位置は、平町の西方に峙てる赤井嶽の中腹にあり、堂宇は、薬師堂、奥之院、鐘樓、方丈、其他数棟ありて、いづれも結構見るべきものあり、本尊は、南天竺龍智菩薩の作なりといふ薬師如來にして、境内は、山腹に在り、遠近の眺望に富み、磐城、檜葉の連山呼ばば應へんとす、近く麓を離れて流る、夏井川は、恰も素練を曳くが如く、時どしでは數百の龍燈この川を逆上りて、薬師堂の近傍に集まることありと云ふ。

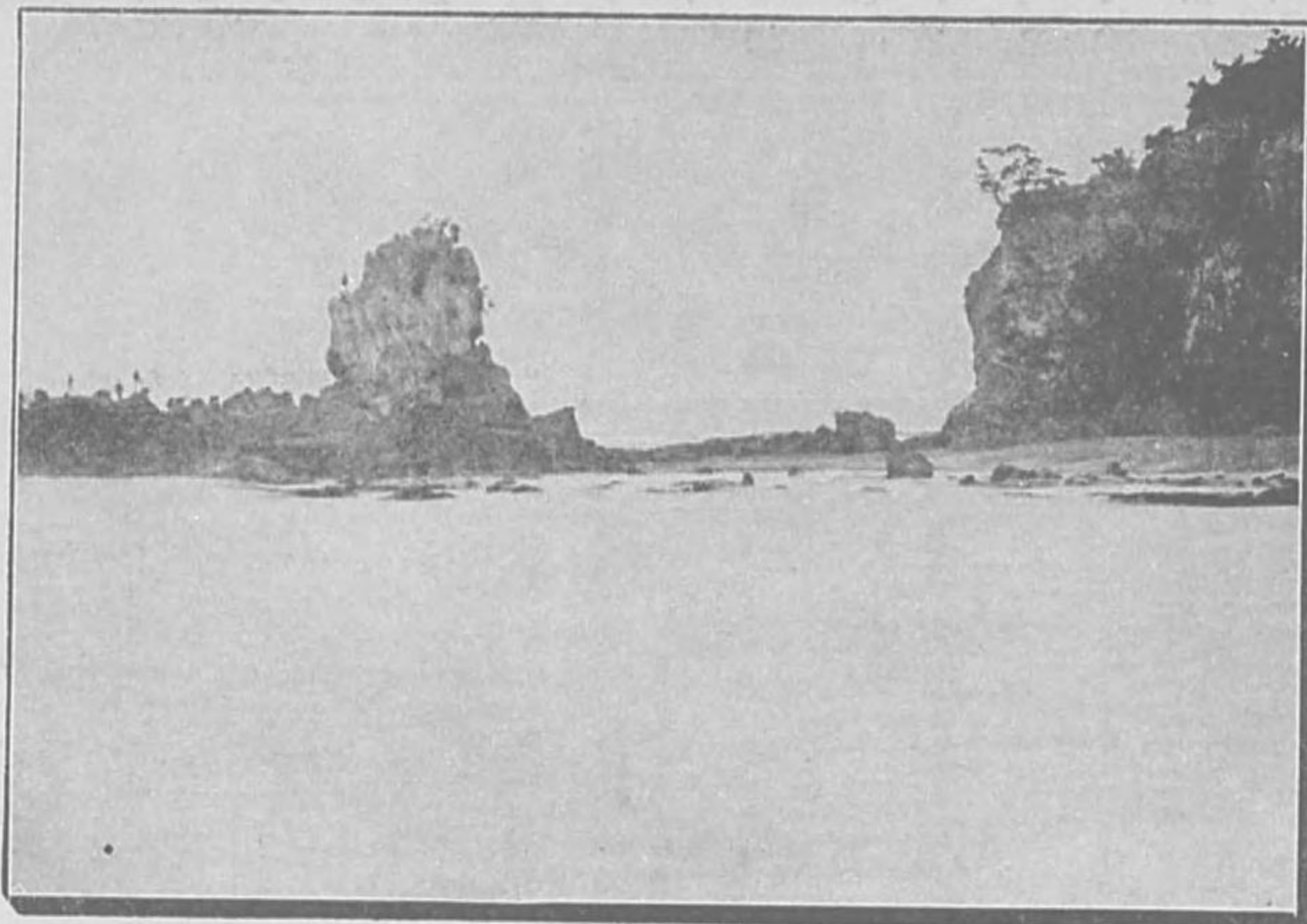
東洋館海水浴場 (磐城原釜)

磐城國相馬郡原釜の世に紹介されたるは、數年以前なるも、海水の清澄あると土地の閑靜あるとは、早く江湖の喝采を博して、今は、東海岸に有數の海水浴場として、其名高くとゞろけり。東洋館は、専ら海水浴客の利便を計る爲め設けられたるものにして、海に濱したる白砂青松の間に、巍然たる二層の高樓を建て、浴場あり別亭あり、加之に、この地は有名なる漁場なれば、鮮鱗佳魚は毎に客膳に上るべく、實に、人世の樂地たり。特に、館の位置は、殆んど孤島の如き海中にあるを以て四近の眺望すこぶる豊にして、海岸に連れる山色、白砂をくまされる青松奇岩みな一目の下に集まり、北の方渺茫として涯なき萬項の海波を隔て、金華山の翠黛を髣髴の間に望むべし。

松川浦水莖山 (磐城)

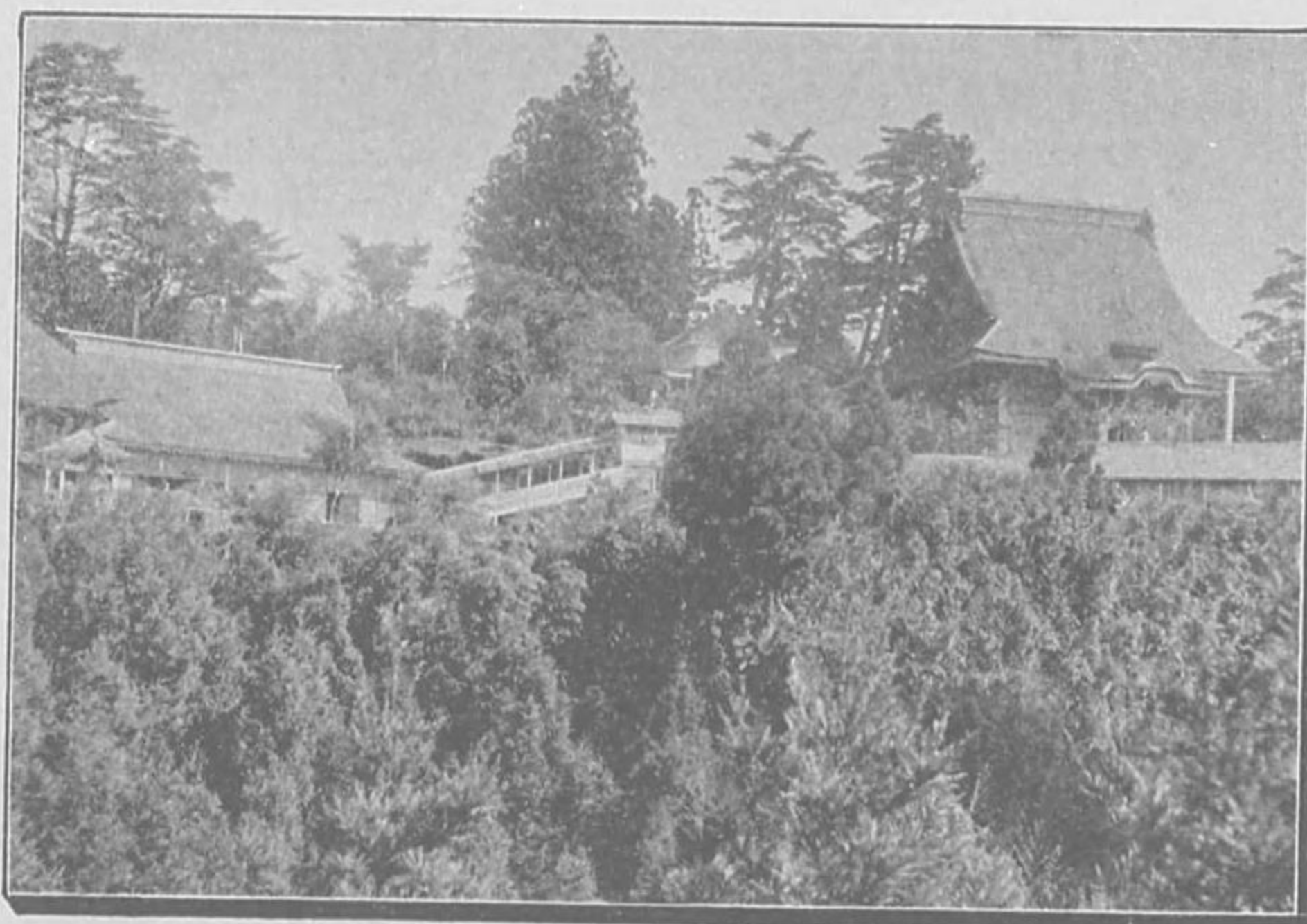
宇多郡の東方に松川浦の勝景あり、宇多川の河口に沿ふて、南は磯部より北は尾濱に連なる長浦にして、所謂松川浦十二景はこの間に散在せり、浦の門頭にある鶴の尾岬より岸を四方に放てば、奇岩參差として相連なり波浪澎湃として崖を洗ひ、松青きところは砂白く、波靜なるところは鏡の如し。太平洋の渺茫たる、陸地諸山の模糊たる、ことごとく眸にあつまり、天際に青一髪を横はるは、金華山、松島の遙かに勝を競ふものなるべし。水莖山は、十二景の隨一にして、久我大納言の歌に、うつし繪も及はんものか櫻さく
水莖山の春の面影
とあるは、正に其絶景を咏じたるものにして他の十一景と共に、東海岸に一大勝景を描き出せるものなり。

(磐城) 波立の薬師及附近の景



Site of Namitate-no-yakushi Temple; Iwaki.

(磐城) 阿波井嶽薬師



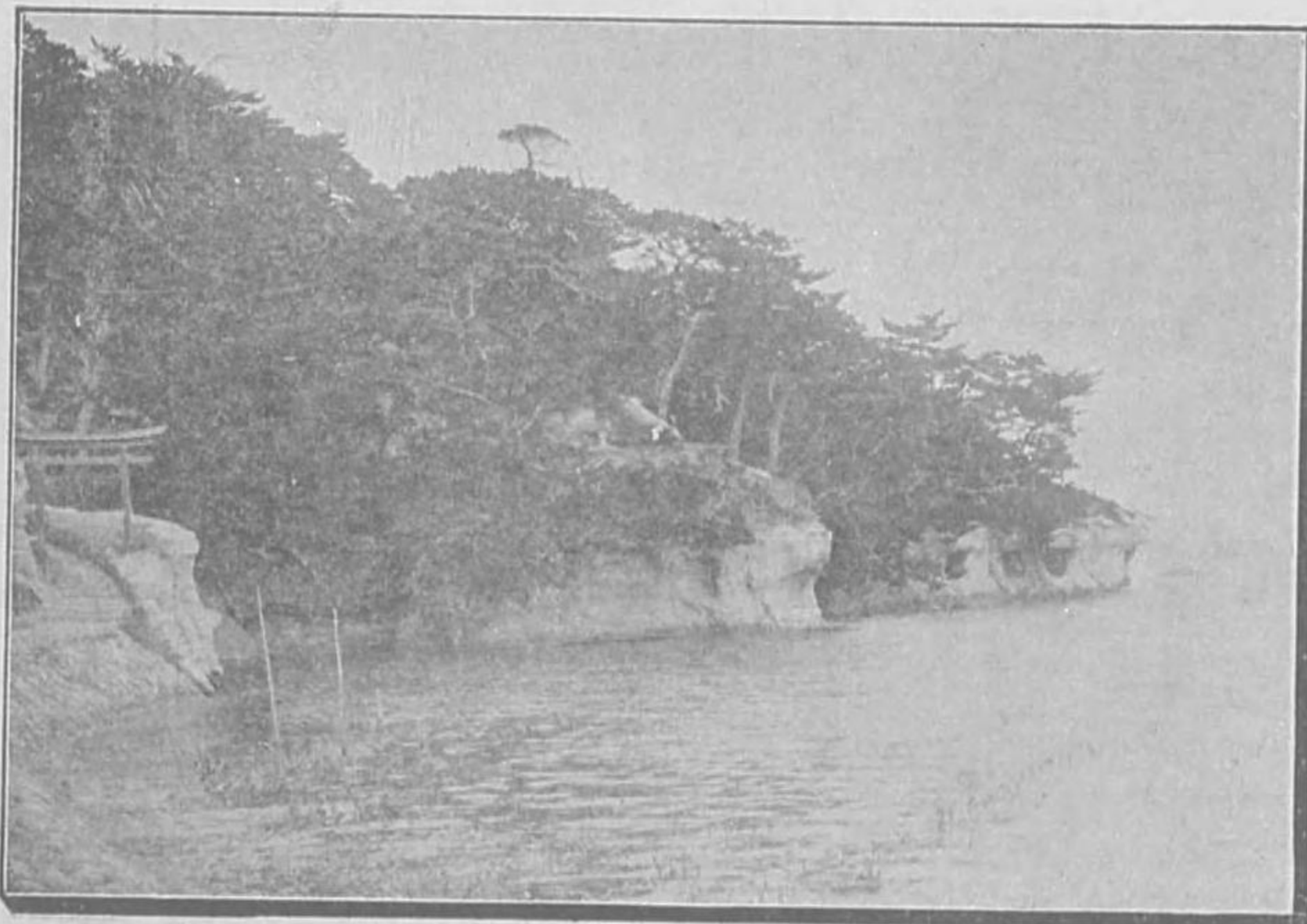
Yakushi Temple of Akawi-dake, Iwaki.

(磐城原釜) 東洋館旅店



Tōyō-kwan Inn at Harakama; Iwaki.

(磐城) 松川浦水莖山の景



Midzuguki Mountain of Matsukawa, Iwaki.

飯坂十綱橋 第一卷

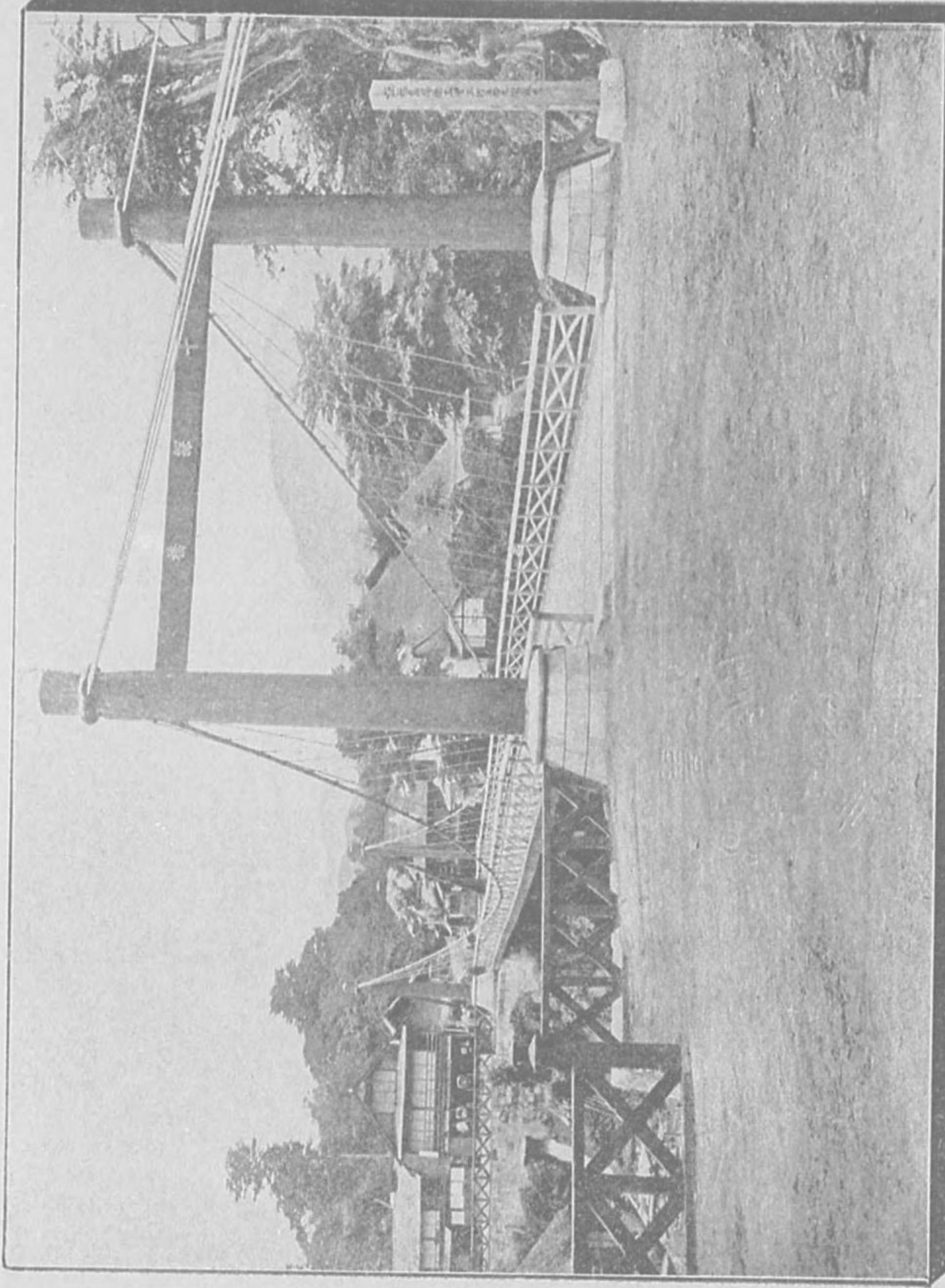
橋の長さ三十八間、二基の柱梁をも用わずして、銅製の鋼を以てこれを吊り架せり、其構造の奇にして巧なる、恰も飛虹の流を断るに似たり。橋下には、奇崑怪石亂立して其狀頗る怪奇なるに奔流矢の如く瀉いで、盤渦となり、飛沫となり、橋上より之を眺むれば、骨動き肉探ふを覺へしむ。夏日に至れば、附近の四民涼を逐ふて橋上に集まり、兩岸には、種々の露店軒を並べて、衆人歌謡の聲は響々たる水聲と和し、又別趣の景を呈す。飯坂温泉に浴するものは、必ずこの橋上に風景を訪ひて心身を爽にすべきなり。

陸奥の十綱の橋にぐる繩は
たなすも人にいひはたすかな

(古歌)

Toami-bashi is a suspension bridge at
Tisaka, Fukushima prefecture, having a
span of 230 feet.

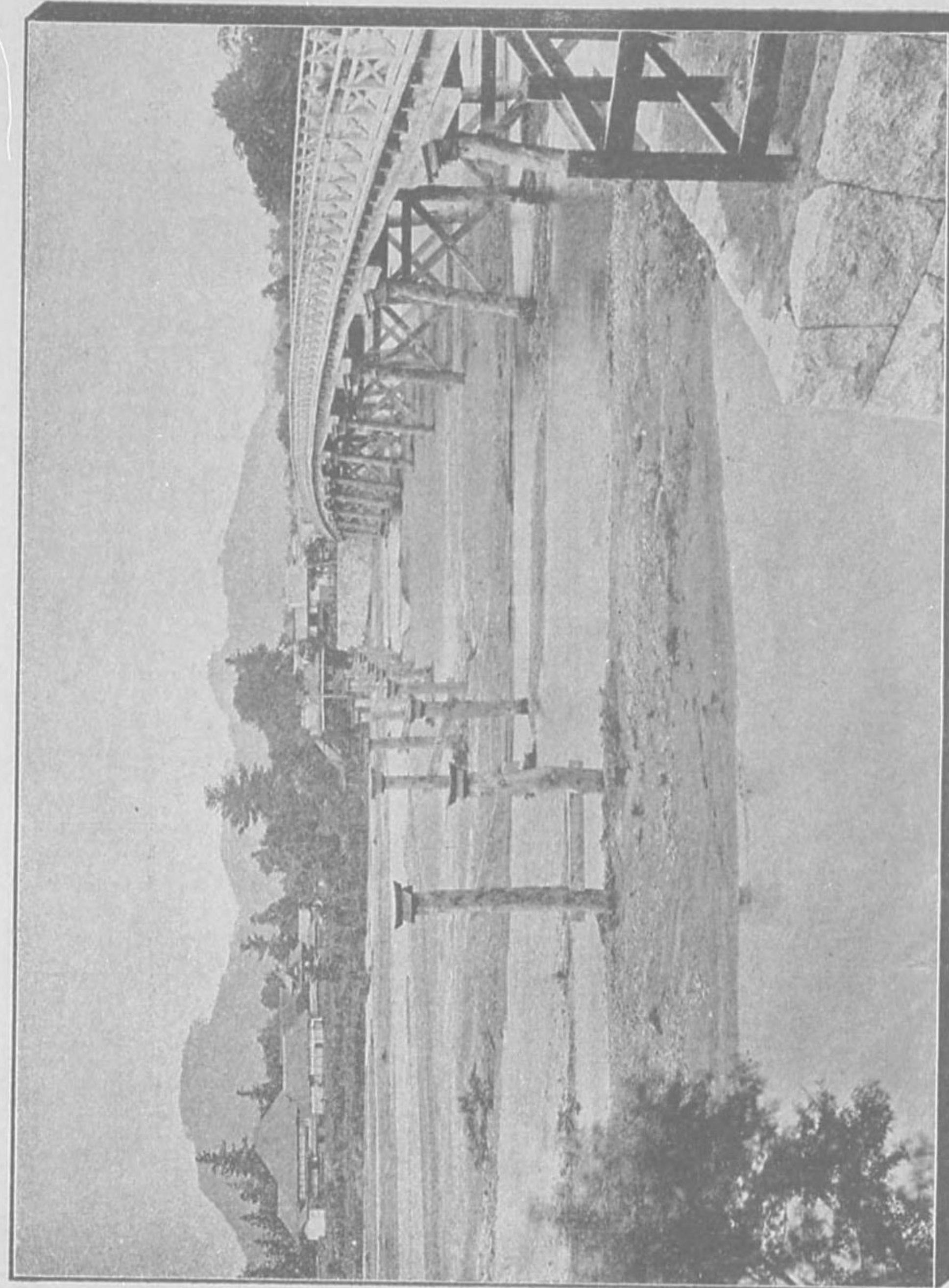
十綱橋 (古代飯坂)



Tozuna Hanging Bridge at Izaka, Iwashiro.

Shimobu Mountain and Bridge, Iwashiro.

信夫山を望むより信夫橋 (時代)



信夫橋は、福島町を流る、洲川に架せるものにして、往年時の縣令たりし三島通庸が巨額の縣費を投じて架せるものなり、橋は凡て石材を以てなれる十三眼橋にして、結構の壯大なるを、附近に冠たり、この橋上に立ちて眸を放てば、一の仙臺の眼前にあるを見るべし、こは有名な信夫山の公園なり、園は福島町を北に去る半里程にあり、一丘平野に横たはりて、緑樹鬱鬱として相連なり、三春の行樂はいふまでもなく、夏秋冬ともに遊覽の目飽かず、吾妻山の噴烟阿武隈川の清流は、ともにその景色を添ふべし。福島に聞ておたる八景の勝概はこの丘上より一目の下に集め見るべく、其一たる信夫橋夕照は、特に賞すべくして、若し橋上に立ちて遙にこの丘の翠色に對せば、身は宛も壽中の人たるか如き感あらん。

信夫橋より信夫山を望む 第二卷

伊佐須美神社 (岩代)

崇神天皇の御宇十年に勸請せられたる古祠にして由緒ふかく靈現顯著なるを以て世に知られたり。社殿の周囲は千歳の老樹すきもなく生ひ茂りて、十數宇の殿堂に、いよいよ神寂びたる趣を添ふ社の前庭にある一株の神木は薄墨櫻の名を以て世に高く、三春花開くの時唱へらるる、郊原ありて、本社御旅所あり、宮川の流は遼遠として東を流れ、西方高田村の人家を隔て、遙かに明神嶽の巍として雲際を聳ゆるを見る、四隣眺望の佳なるは近郷稀にあるところなり、祭神は、伊弉諾、伊弉丹の二神にして、古來より傳へ來れる寶物は、火災の爲めに大部分を失ひし由、惜むべきことなり。

白虎隊墳墓 (岩代會津)

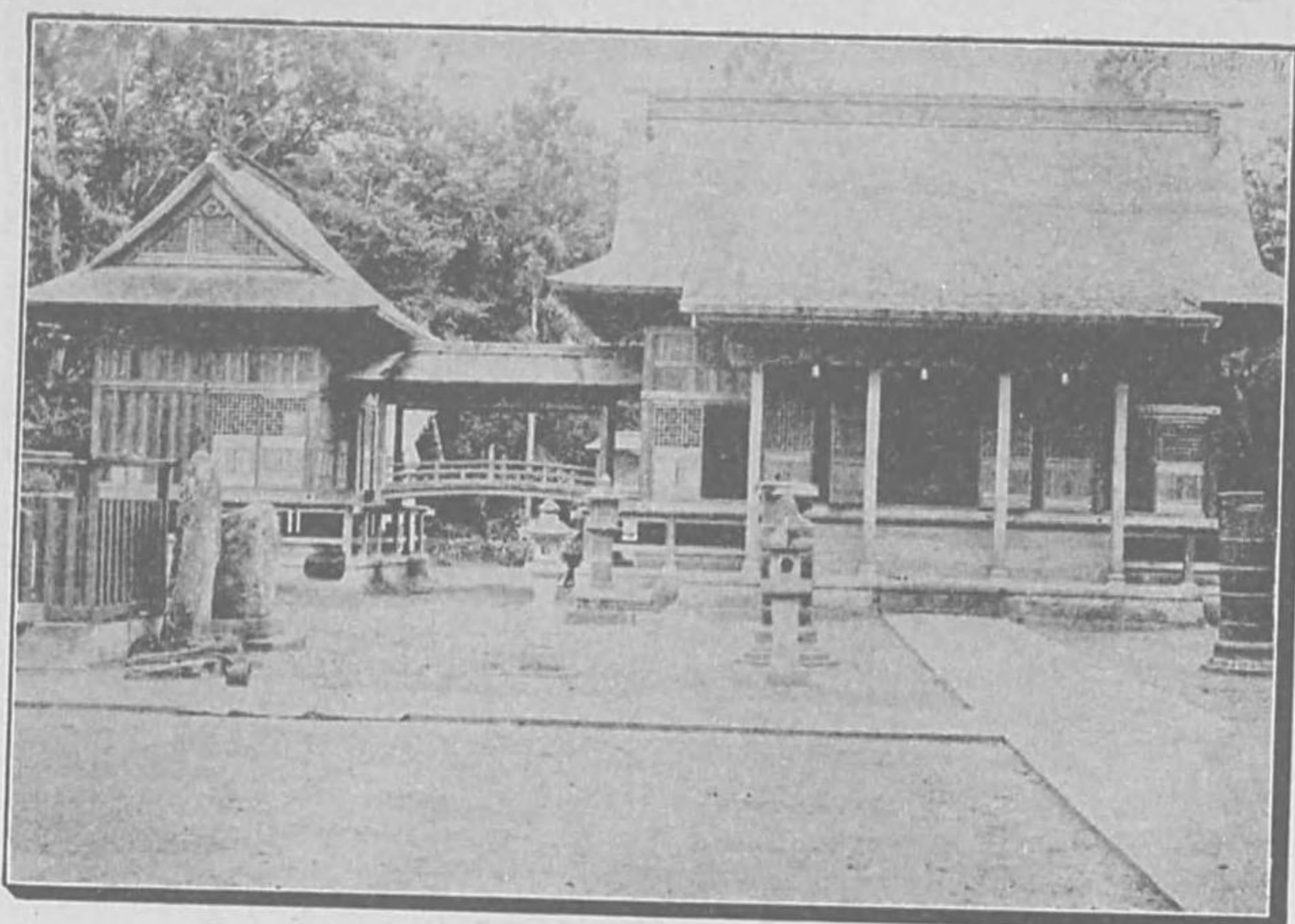
白虎隊の墳墓は、若松市を距ること少許なる飯盛山にあり、明治戊辰の時に、官軍の四境より會津城に迫るや、さすがに武勇を以て名高き會津士人のとどて、全藩の老幼婦女子に至るまで、敵愾の氣を制し兼ね、一州の勇を以て全國の兵に抗したるは、今も世に傳へて成れる一隊にて、年齒概ね十六七を出でざるに勇戦奮闘、しばし大敵を惱まし、孤城漸く支へ難きに及びては、生殘るもの廿人に足らず、苦戦して引き上げ來りしは、正にこの飯盛山なりと、山上より遙に城邊の烟焰を望み吾事畢れりと絶叫して從容割腹せし當年の壯烈は今も、猶昔のごとく行人をして感慨に咽はしむべし、飯盛山は其容をかへず、遙に望めば若松城の炊烟高くあがる、墓前に香を燒きて勇少年當年の恨を慰むるも、亦れ勇士の情ならんかし。

柳津の虚空藏 (岩代)

寺號を圓藏寺と稱す、古來より著名の巨刹にして、一般に、柳津の虚空藏として知らる、本尊は、福満虚空藏菩薩にして、平城天皇の大同年間に、法相徳一大師が、靈夢に感じて創立せしものなりといふ。爾來、累代の領主孰れもこれを尊奉して、寺領莊田の寄進多く維新の始め、稍衰微の微ありしも、寺主の盡力によりて、堂塔の輪奐其美を失はず、以て今日に及び、境内の廣さ七千七百坪に近く只見川を前にして、丘陵に沿ふて堂宇を建て連ねたれば、外觀の壯美は、境内の風光と共に、東國無比の靈場たるを示せり。特に河水に沿ふところには、奇岩怪石亂立し、舟橋を架して遊觀に便にし、山水の眺望尤も幽邃なり。境は、河沼郡柳津村大字柳津にありて、陰曆正月七日及び八月卅日に、盛大なる會式を行ふ。

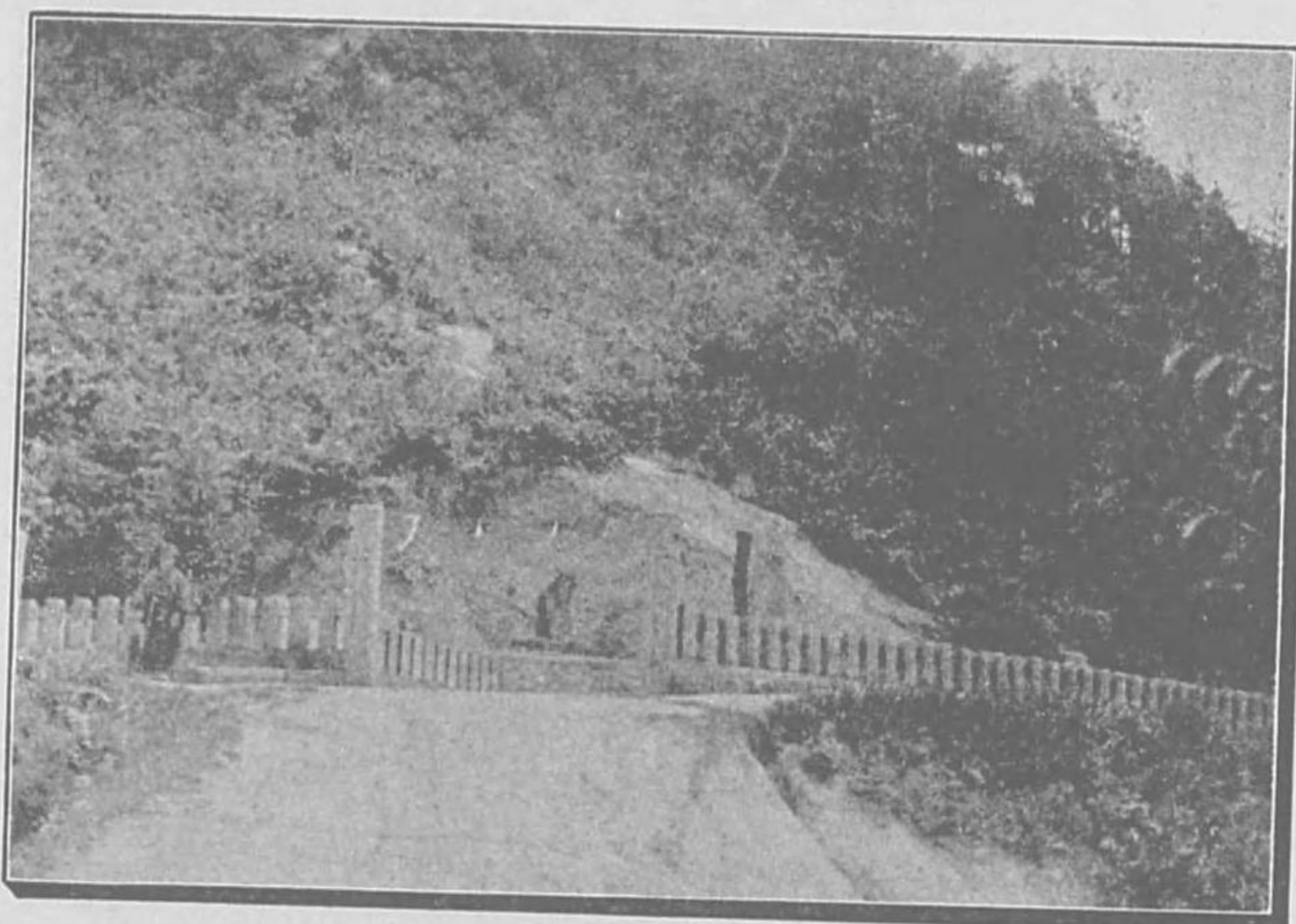
佐藤庄司一門の墓 (岩代)

信夫郡手野村に一字の伽藍あり、琉璃光山醫王寺といふ、開基は空海上人にして、後頼敗に及びしを、元暦元年佐藤元治これを中興せり。寺の墓地に、佐藤庄司三代の墳墓あり、佐藤氏は、東國の豪族として、古昔に其名聲高く、源義經を扶けて之を輔佐し、二子忠信繼信を、源家再興の犠牲に供せしは、普く人口に膾炙するところなり、數基の墳墓は、蒼苔蒸せども、其名は今に朽ちずして、參拜の人をして、懷古憑吊の感に堪へざらしむ、この由緒あるを以て、寺の寶物に、義經の遺品繼信忠信の幼時に所持せし燕右芽、其他のもの多し、墳墓を拜して、更にこの遺物を覽れば、又別拜の感慨あるべし。



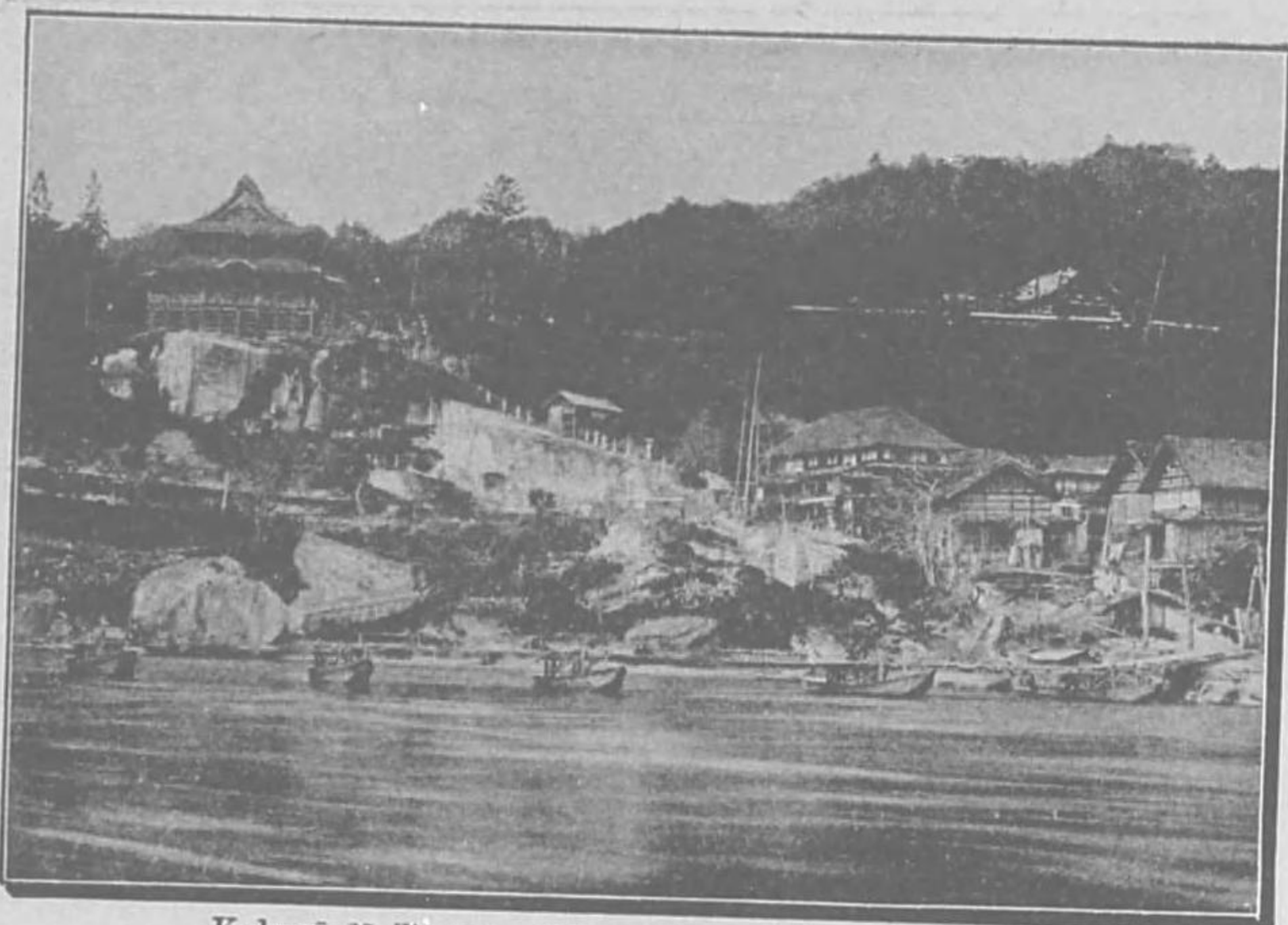
Worshipping Chamber of Isasumi Temple; Iwashiro.

(岩代) 伊佐須美神社拜殿



Burial Place of Byakko-tai at Aidzu; Iwashiro.

(岩代會津) 白虎隊墓



Kokuzō-dō Temple of Yanaidzu; Aidzu, Iwashiro.

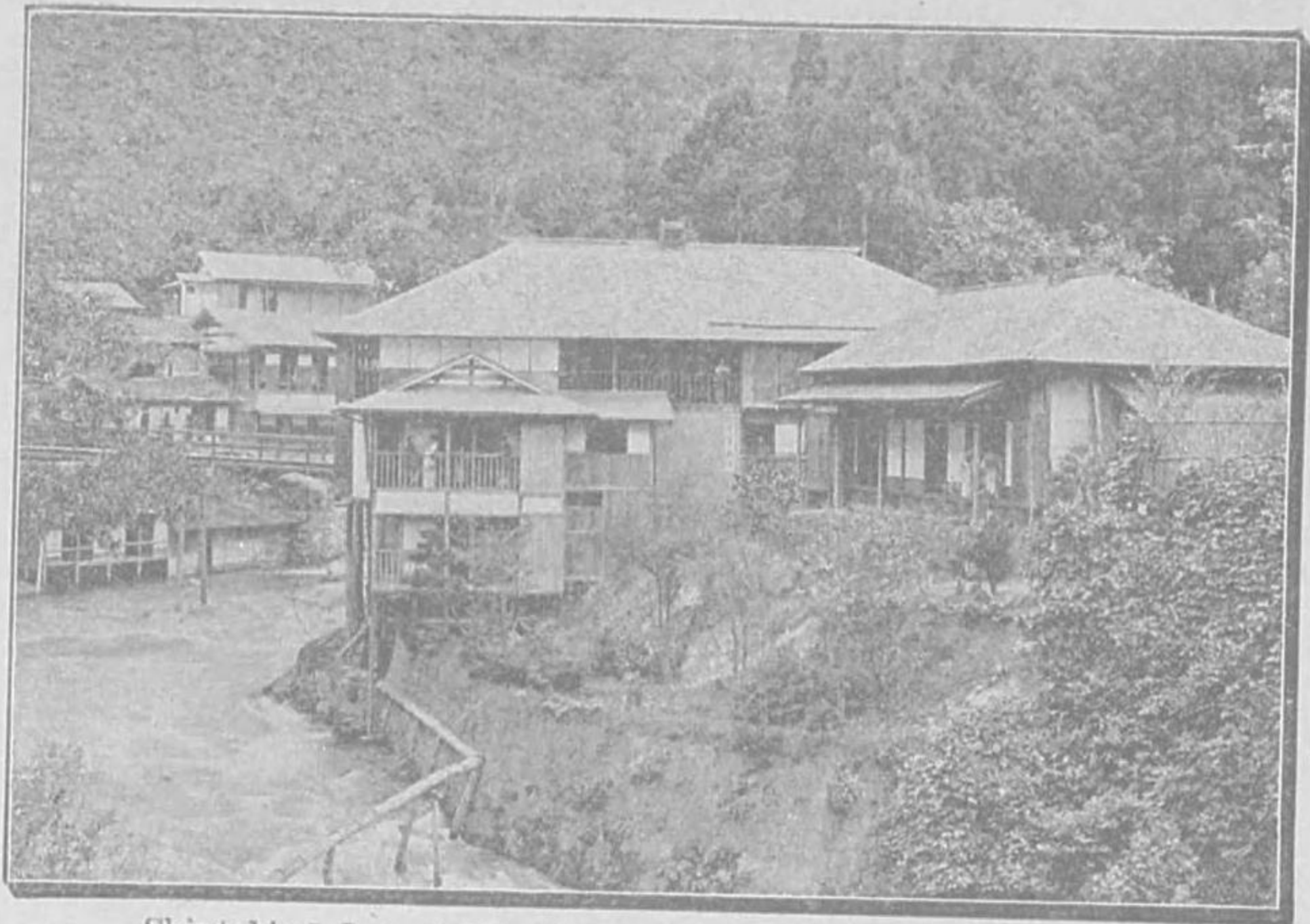
(岩代會津) 柳津虚空藏堂



Tombs of the Satō Family, near Iizuka; Iwashiro.

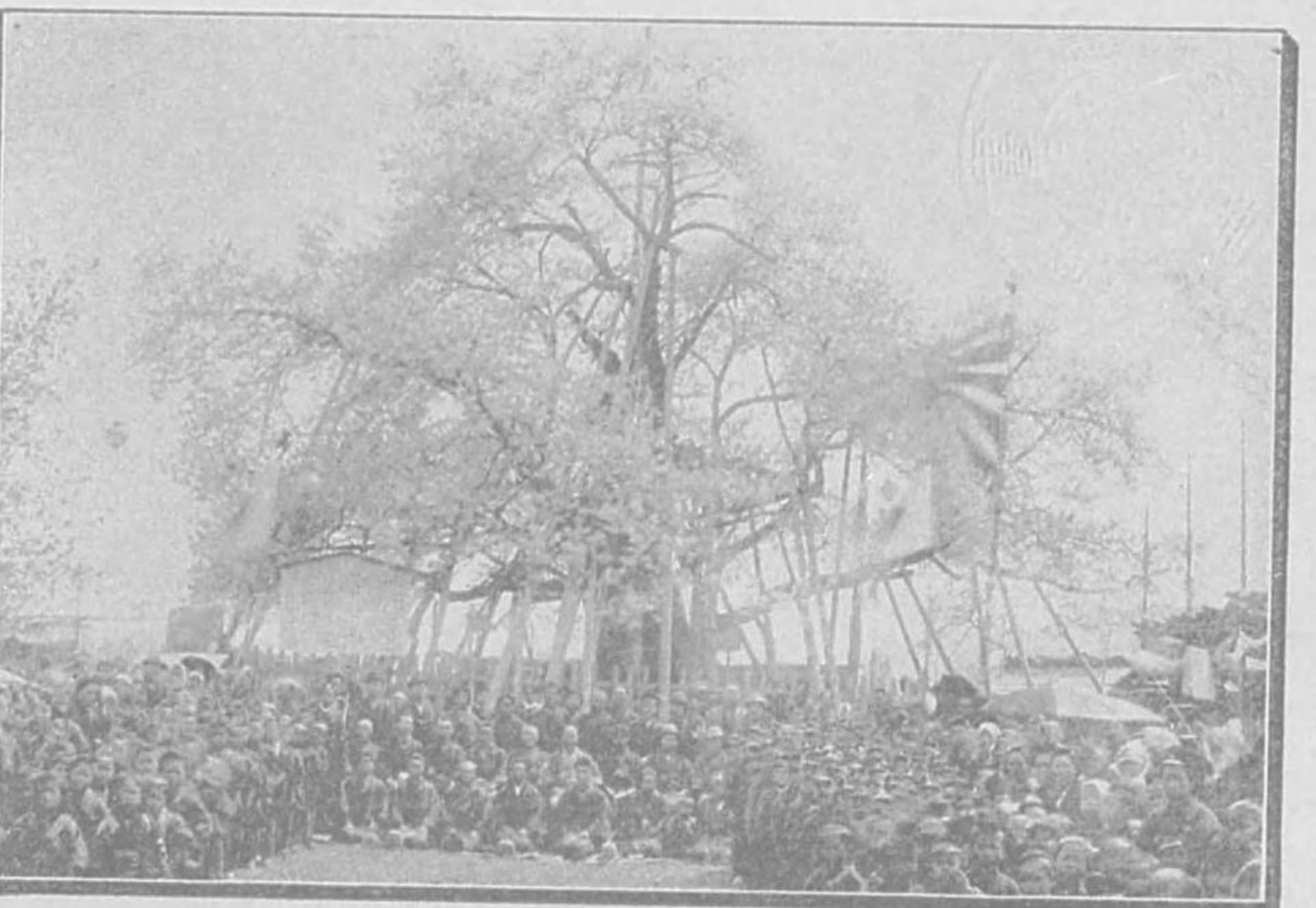
(岩代飯坂附近) 佐藤庄司一門の墓

(岩代津) 東山温泉新瀧樓



Shintaki-rō Inn at Higashiyama Hot-springs; Aizu, Iwashi.

(羽前伊佐澤) 久保櫻



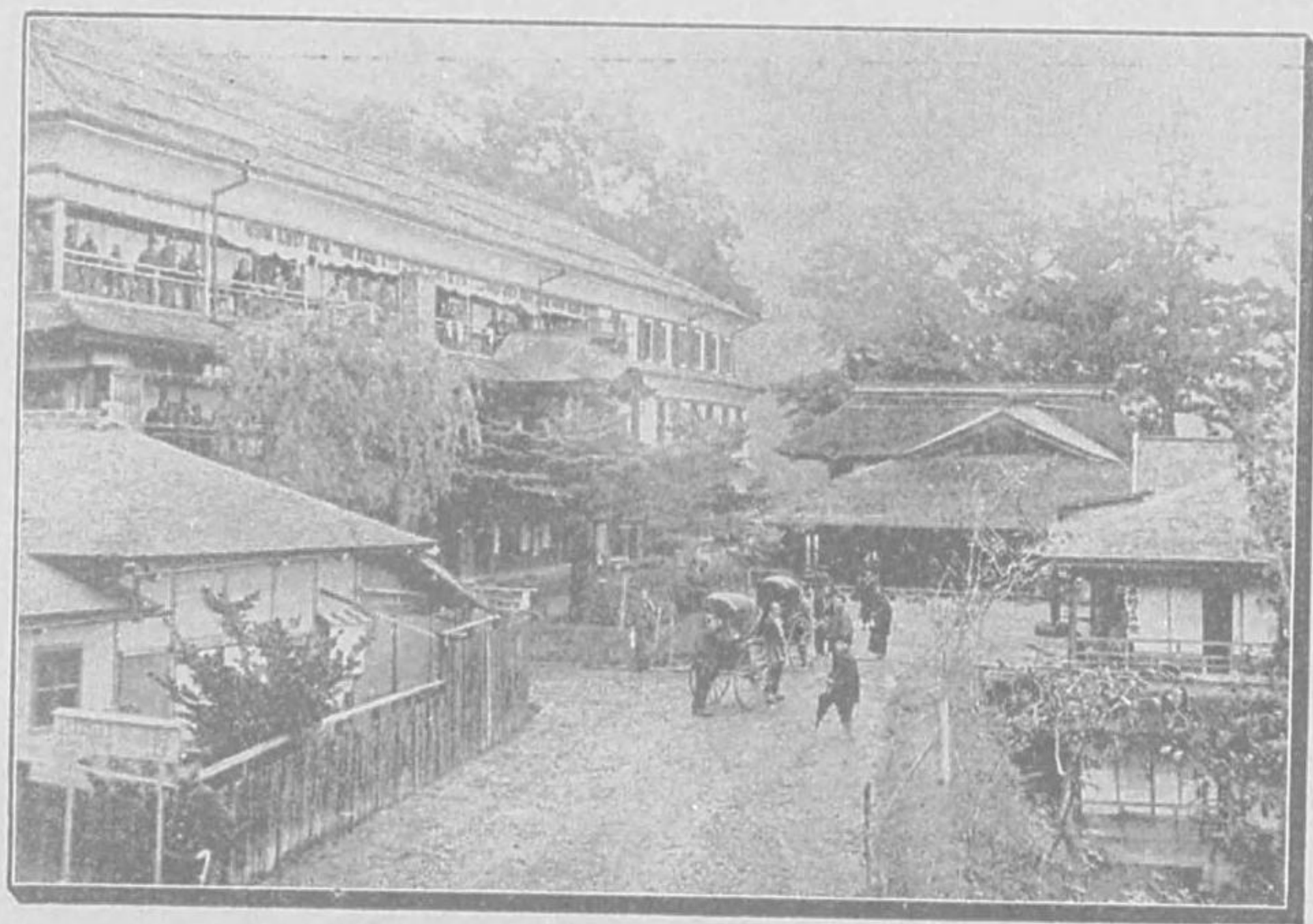
Kubo Cherry tree, at Isasawa; Uzen.

(羽前米澤) 上杉神社



Uesugi Shintō Temple at Yonezawa; Uzen.

(羽前青根温泉) 翠嶂館



Suishō-kwan Inn at Aone Hot-Springs; Uzen.

新瀧樓

(岩代東山温泉)

東山温泉は、會津附近に名高き温泉にして、其質は、鹽類にして無色透明恰も銀を溶かしたるか如し。この地、東南北の三面は、重疊せる峰巒起伏して、西方の一面は迢々たる平蕪に連なり、一條の道路若松町に達す。一溪流あり湯川と稱す。連山の間より出で、滌々としてこの地を洗ふて過ぐ、或は谷に迫りて飛瀑となり又は岩に堰かれて潭となり、以て四近の景色を添へ、圍繞せる山峰の眺望より溪間の景状など、明媚にして閑雅なること各地に冠絶す。浴舎新瀧樓は、構造其他に於いて尤も名聲高し。

久保櫻

(羽前)

延暦年間、坂上田村麿の手栽せしものといふ、始め田村麿の陸奥を巡撫せしとき、土地の豪族久保某の家に寓し、其女「たま」なるものと情交を結びたりき、後將軍京に歸るに及んで、たま、眷戀の情に堪へず、爲に病を發して死にき、後將軍再びこの地に來るや、往年を想ふて其を吊ひ、一枝の櫻を其墳上に手向けしに、これより根を生じ花を開き、以て今日に至れりといふ、幹の周圍は三丈五尺、高さ四丈八尺にして、枝は十六間四方に廣がれる稀世の古櫻なり、花は、單瓣にして微紅を帯び、春風駘蕩の日は、一團の白雲地上より湧くかと怪まれ、士女の來り觀るもの頗る多し。東置賜郡伊左澤村宇蜂屋敷にあり、一に阿玉櫻といふ。

上杉神社

(羽前)

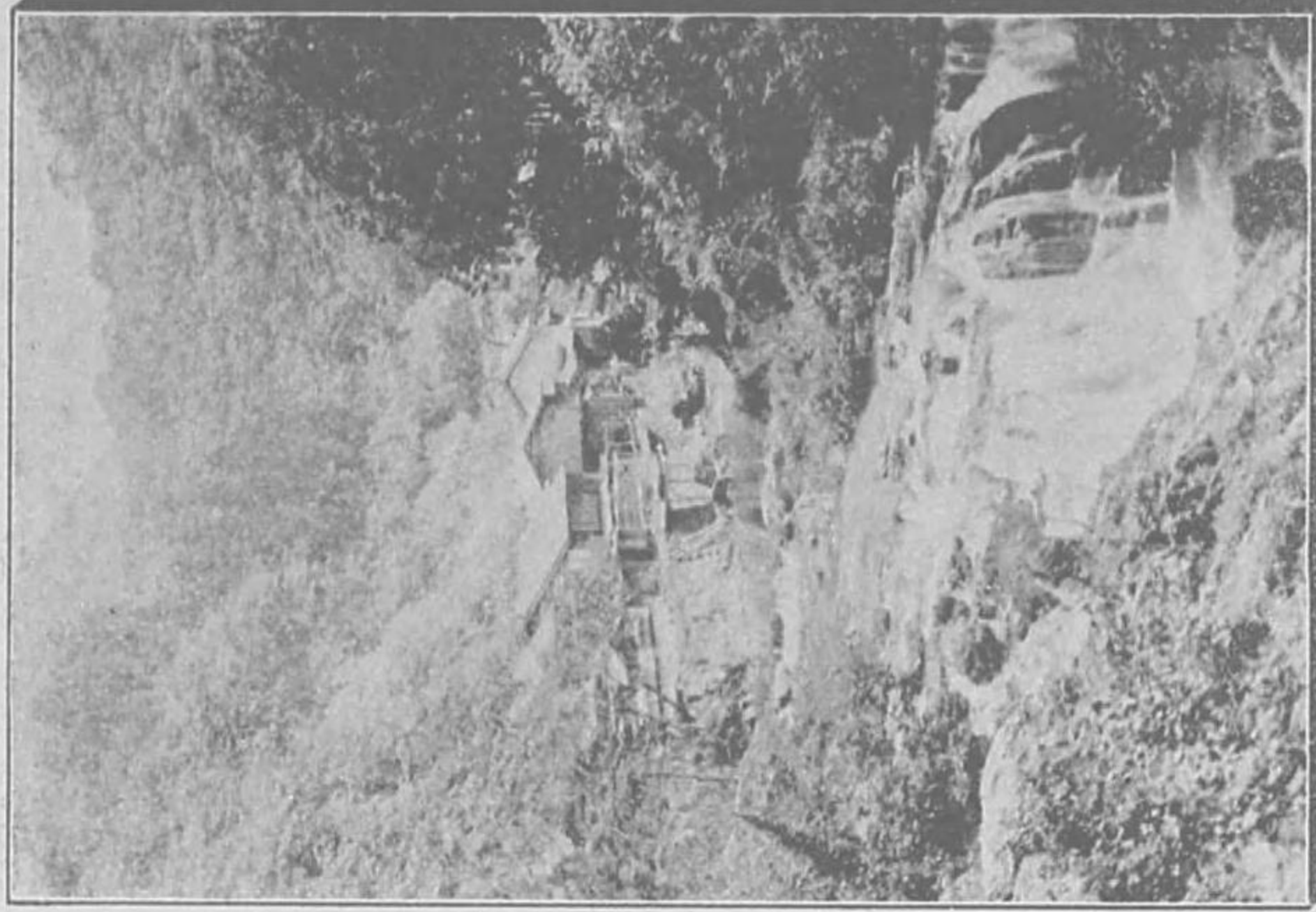
米澤市内なる松ヶ岬公園にあり、園は、上杉氏の故城趾にして、圍らずに濠渠を以てし、境内の風色頗る愛すべし、神社は、園の中央にありて、本社拜殿神樂殿等いづれも莊嚴の觀あり、この社は、上杉謙信、同十世の孫治憲の靈を祠るところなり、謙信は、戰國時代の英雄にして夙に日本武將の鑑として知らる、治憲は、天資英邁にして、治國濟世の績いちらるしく、封内の民其化を仰がざるはなかりき、社前に禮拜して、二氏の治績を追懐するもの多く、今や、縣社として崇められつゝあり、社内の碑は、治憲の治績を録するものにして、岬松館は、社務所と奉公義團の會場を兼ねるものありといふ。

青根温泉翠嶂館

(陸前)

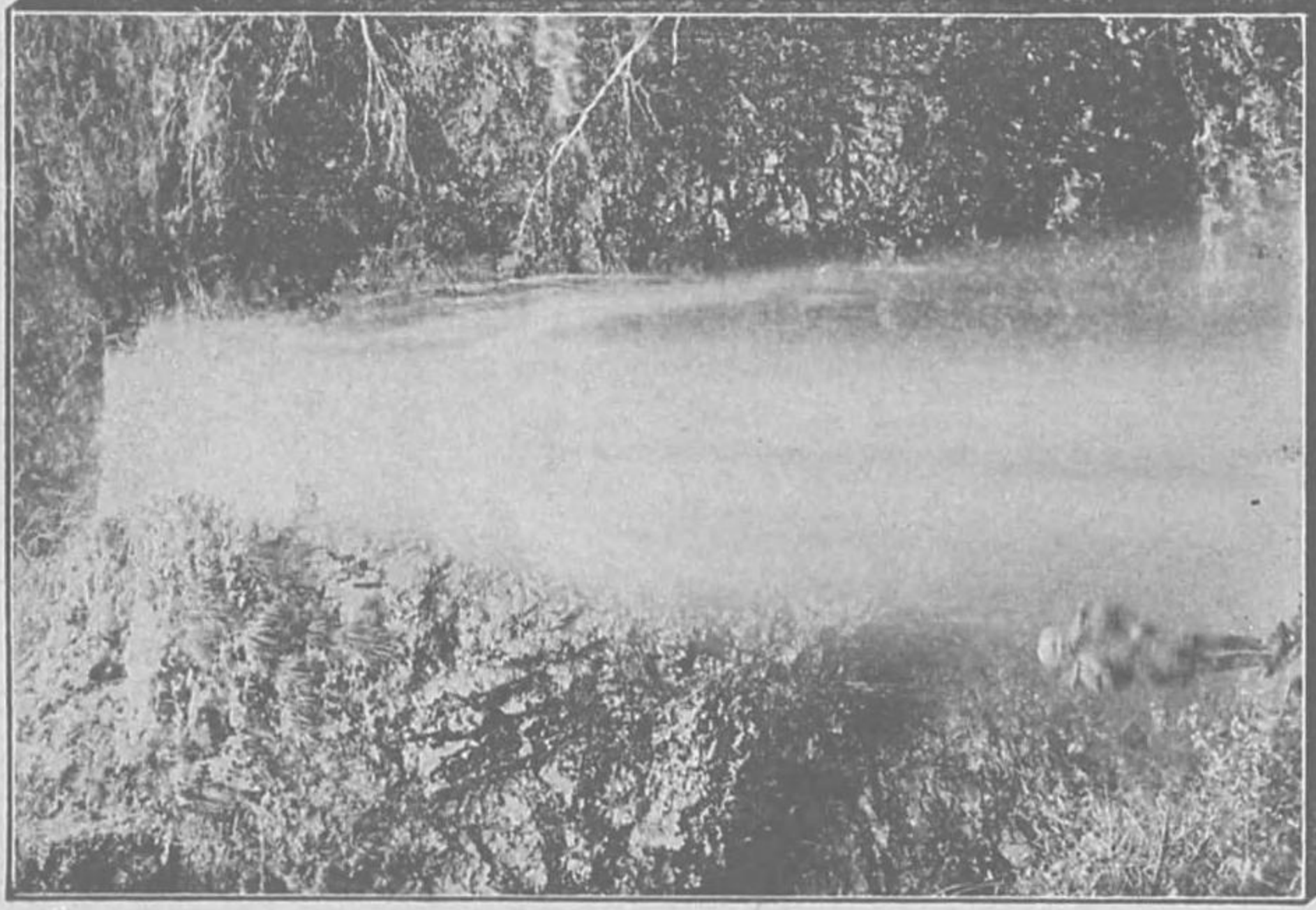
柴田郡川崎村にありて、不忘山の分脈花房山の中腹に位し、海面を抜くこと二千四百尺にして、遠近の眺望極めて絶佳なり、泉質は、鹽類泉にして無色透明なり、大湯には、湯瀧をなして落ち來り、浴池の廣くして湧出量の多きと他に比類なく、入浴中に自在に游泳し得る程にて、其壯快極りなしといへり、浴舎の数は、多からねども、翠嶂館の如きは、規模頗る宏壯にして、客室の構造も清潔にして便利よく、優に數百人を止宿せしむるに足れり、地既に高くして、泉の佳良なること亦た世に稱なれば、保養の爲めに訪ふには、この上もなき温泉場といふべし。

(信代東山温泉) 伏見の瀧



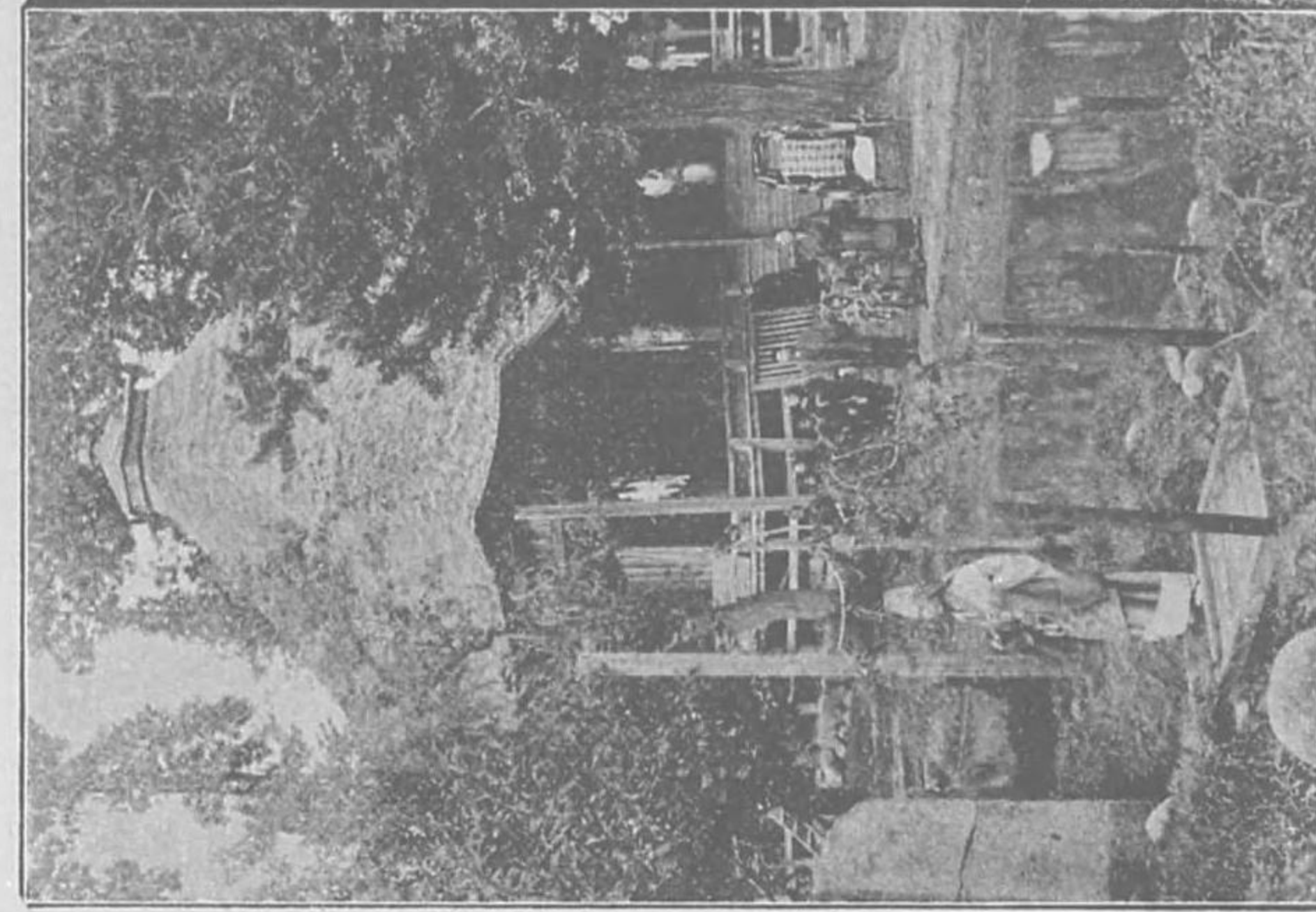
Fu h mi Water-fall at Higashiyama Hot-Springs, Iwashiro.

(羽前山寺) 立石寺藤藏の瀧



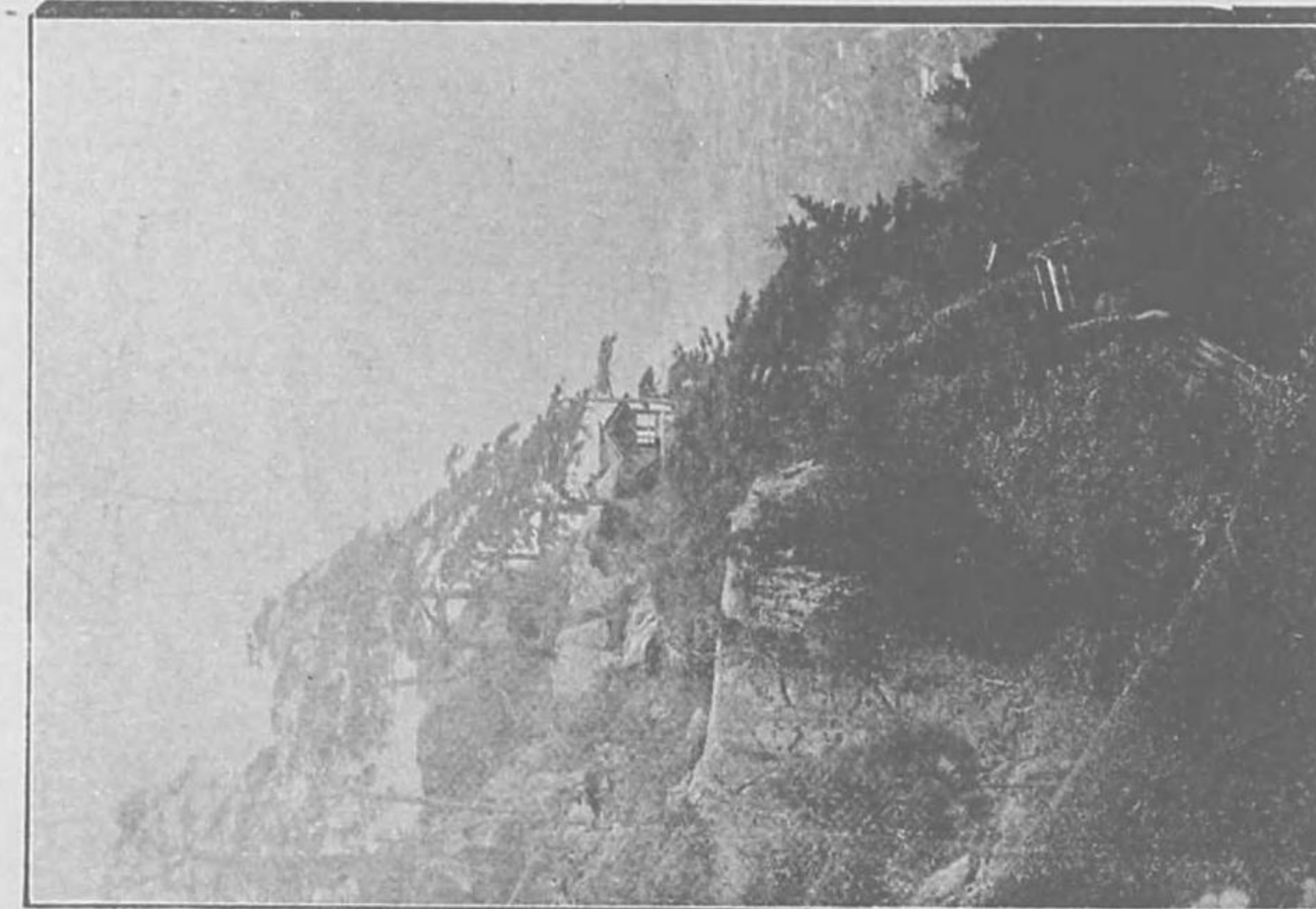
Water-fall of Rishshaku-ji, Yamadera, Uzen.

(羽前) 吉祥院義経の古墳



Perth Monument of Yoshitsune at Kichijō-ji, Uzen.

(羽前山寺) 立石寺釋迦堂及胎内潜り



Shaka Shrine of Rishshaku-ji and it's Natural Tunnel, Uzen.

東山温泉伏見の瀧 (巻)

通例、温泉の湧出するところは、山間の地にあらざるなく、随ふて、景色の閑雅なるもの、相伴ふものなり。東山温泉の如きも其一にして、三面は峰巒を以て圍繞され、一面は平野に接す、その峰巒の間より、一條の清流涇々として出づるあり、これを湯川といふ、迂餘屈曲して村落の間を流れ、岩に激し崖に迫りて、或は飛瀑となり又は澄潭となる、伏見瀧は、同じくこの河系に屬するものにして、一條の素練崖にかゝり、樹茂り苔滑かなるところに、簾々として電響を轟かせ、四近の景色甚だ幽邃にして、自ら仙境に入りし感あり、靈泉に沿して身体の病を洗ひ、更に、この瀑布に遊んで心耳の塵を蕪がば、自ら羽化登仙するの念あらん。

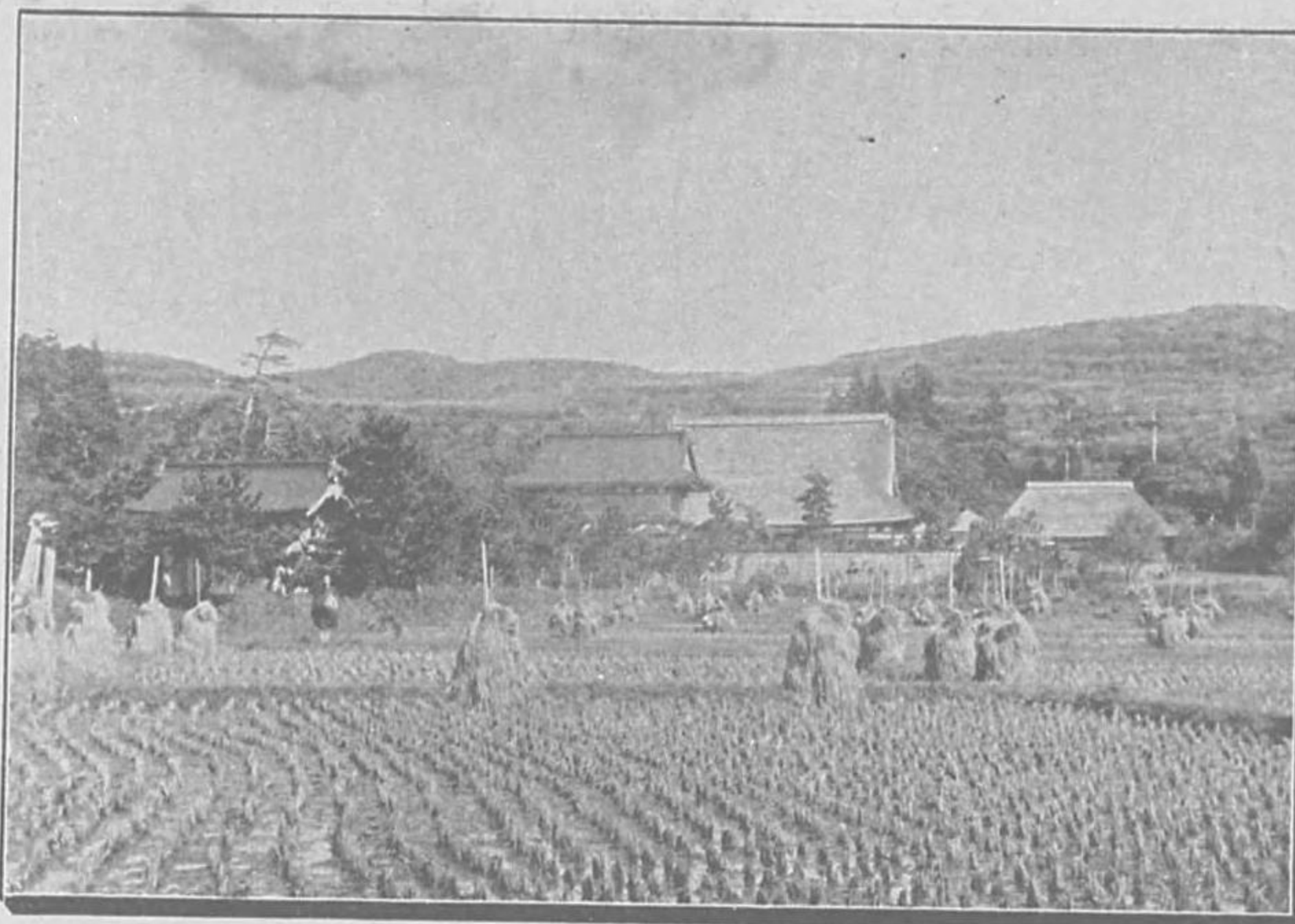
吉祥院義経 (羽前)

聖武天皇の勅願にて開基せられたる、古刹にして、行基菩薩自作の千手観音を安置す、歴代の天朝のつれも尊奉し玉ひ、往昔は、堂塔雲に聳ゆる三十三番札所の第一として、結構壯麗を極めしが、幾多の盛衰を経て、維新の頃より、漸く衰微に赴きしに、晩近政府より保存金を玉ひ、特別の保護を加へらるゝこととなりて、將來また頽敗のことなからんといふ。この寺の境内に、源九郎義経の墳墓あり、義経の末路は、史上に疑惑をさしはさむもの多しと雖も、轍軻不遇に終りしは即ち事實なりとす、人若し、この寺に詣りて其墳墓をばらひ、當年の英魂を吊はひ、自ら、感慨の禁すべからざるものあらん。

立石寺 (羽前)

寶珠山と號す、東村山郡に在る巨刹にして、東奥に風指の靈場たり、貞觀年中、清和天皇の勅願によりて開基せらる。境内の廣さは、五萬八千六百坪に及び、堂塔伽藍の美にして壯大なること、一々名狀すへからず、參差として山嶺に聳在せり。境内の景色は、實に目を驚かすばかりにて、奇岩屋の如きもの、怪崖山の如きもの、諸所に起伏し、洞をなすもの柱をなすもの、千態萬狀奇絶をつくせり、加ふるに、珍樹名木もまた妙ならず、七石と呼ぶる、奇岩と、七木と稱へらる珍樹は、特に世に名高し。境内風景を添ふるもの、別に立石寺の瀑布あり、幽邃の間に一條の素練を飛ばし、水聲涇々、山響り岩谷へて、頓に心耳を一洗するを覺らしむ。

(羽後秋田) 天徳寺



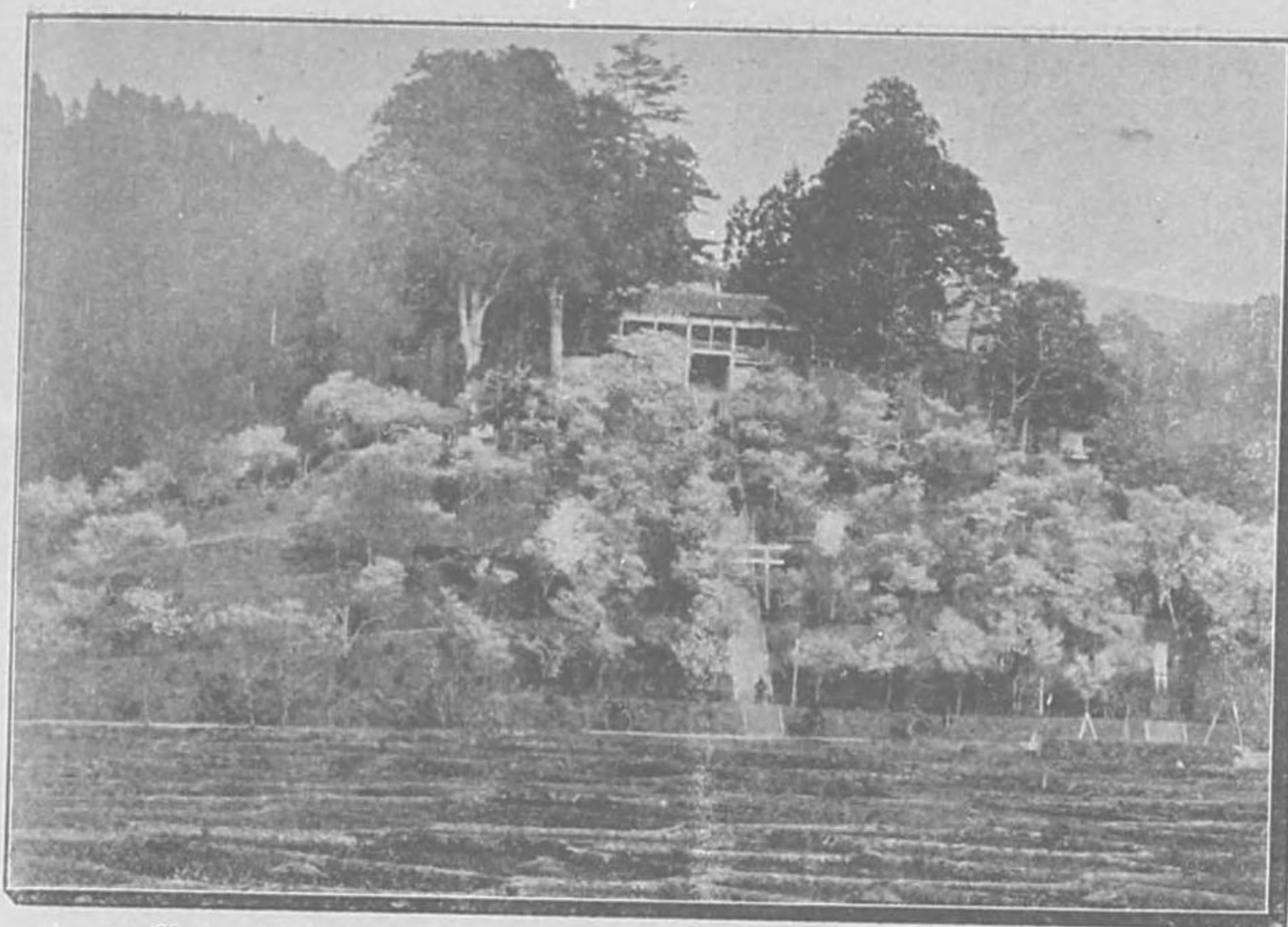
Tentoku-ji at Akita; Ugo.

(羽後) 秋田土崎港



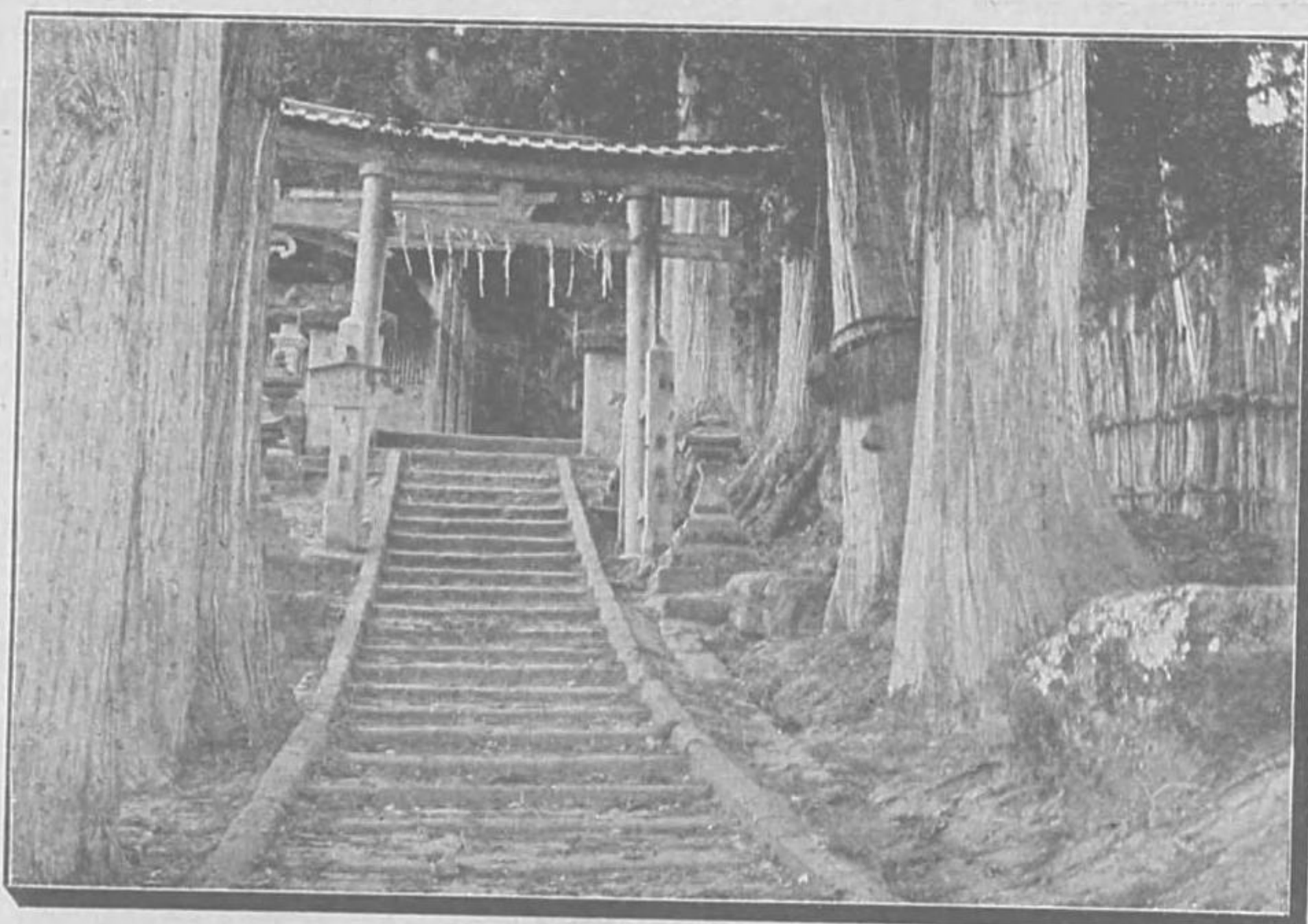
Tsuchizaki Harbor, Akita; Ugo.

(羽後湯澤) 愛宕の櫻



Cherry Trees in Full Bloom at Atago-yama, Yuzawa; Ugo.

(羽後金澤) 八幡神社



Hachiman Shinto-Temple at Kanazawa Ugo.

天徳寺 (羽後)

羽後國南秋田郡旭川村大字泉にありて、佐竹右京大夫源義人が、夫人天徳寺殿菩提の爲に勸請せられしものなり、一時廢絶すること久しかりしが、佐竹義舜の代にいたり、上州藤野郡永源寺の僧伊達なるもの、候の歸依によりてこの寺を再興せり、後佐竹氏封を秋田に移さるゝに臨み、寺を常陸よりこゝに移し、以て今日に至れり、境内廣くして殆んど二千七百坪に及び、清潔にして佳趣に富み、佛殿庫裡、佐竹氏靈廟其他の堂宇多く、いづれも其規模の尋常ならざるを見る。寺の寶物亦た頗る多く、弘法大師手刻の天女像、光明皇后御手寫の法華經、一休筆達摩、兆殿司筆十六羅漢等は、特に稀世の珍品と稱せらる。毎年舊八月一日に大法會あり、又七月十六日には什寶を陳列して、廣くこれを覽せしむ。

金澤八幡社 (羽後)

秋田縣仙北郡金澤町にあり、古松老杉枝を交へて、僅に日光を洩す。この地は、今を去る九百五十年前に、源義家が清原の武衛家術を滅ぼしたる舊蹟にして、後三年の戦に其名を知られたる金澤柵の所在地たり。戦役の終るや、義家こゝに八幡宮を勸請せしもの、即ち現今の神社なり、關ヶ原の亂後、源家の後胤ある佐竹氏、封を水戸よりこの國に移さるゝに及び、この社を奉崇してます。其規模を壯麗にせり、社殿はしばし回祿の災にかゝり當時の殿宇は、輪奐の美なしといへども、山河自然の形勢は、優に千年前の古を回想せしむるに足る、山下に一小流ありて厨川といふ、鎌倉権五郎が、眼を洗ひしといふを以て、川に棲む「かじか」は凡て一眼を眇すと傳説せり、西麓に功名塚あり、山上の田畝には、今日に至るまで、多くの燒米を發掘すと云ふ。

土崎港 (羽後)

御物川口にありて秋田市を隔ること東南二里弱の所にあり。元來羽後は、米穀の殷富を以て世に稱せらる、土崎港は、内地に御物川の水を控へ海に港灣の利便を有するが故に、全縣下の物産貨物は、殆んど全くこゝに集まり、港内には、大小の船舶出入間斷なく、帆檣林立して海を掩ふ、陸上には、二千餘戸の人家魚鱗の如く、其人口一万二千を超え、商業繁昌にして交通の頻繁たること、國內に冠たり、この地古昔は城下にして、應永年中より長く興廢の事蹟を留めしが、佐竹義宜の封をこの國に移さるゝに及び、新に秋田に城を移して、この所には僅に其趾を存するのみとなれり。

七座山天神社 (羽後)

羽後國北秋田郡七度村にあり、舊記によれば、この神の勸請は齊明天皇の御宇にして、河部比羅夫の越國守として舟師を卒ゐて蝦夷を征するに當り、この地の土人よく神徳に化して朝憲を守るを知り、これを用ゐて窮北を征服せしといふ、以て、神威の靈現にして徳化の厚きを知るに足らん、後世に至るも、連綿として祭祀を絶たず、佐竹氏の封をこの國に移さるゝや、主としてこれを尊崇し、近隣の諸侯亦た、幣帛を奉ると屢々なりきといへり。境は、大館町を距ること八里にあり、米代川の清流に臨み、遙に七峰の列峙するを見る、即ち、正面座、烏帽子座、箕座、柴座、三本杉座、松座、大座にして山號の起るところはこれに因づくなり。老樹祠廟を圍みて森嚴の景趣いふばかりなく、勝區として亦た有数の仙境なり。

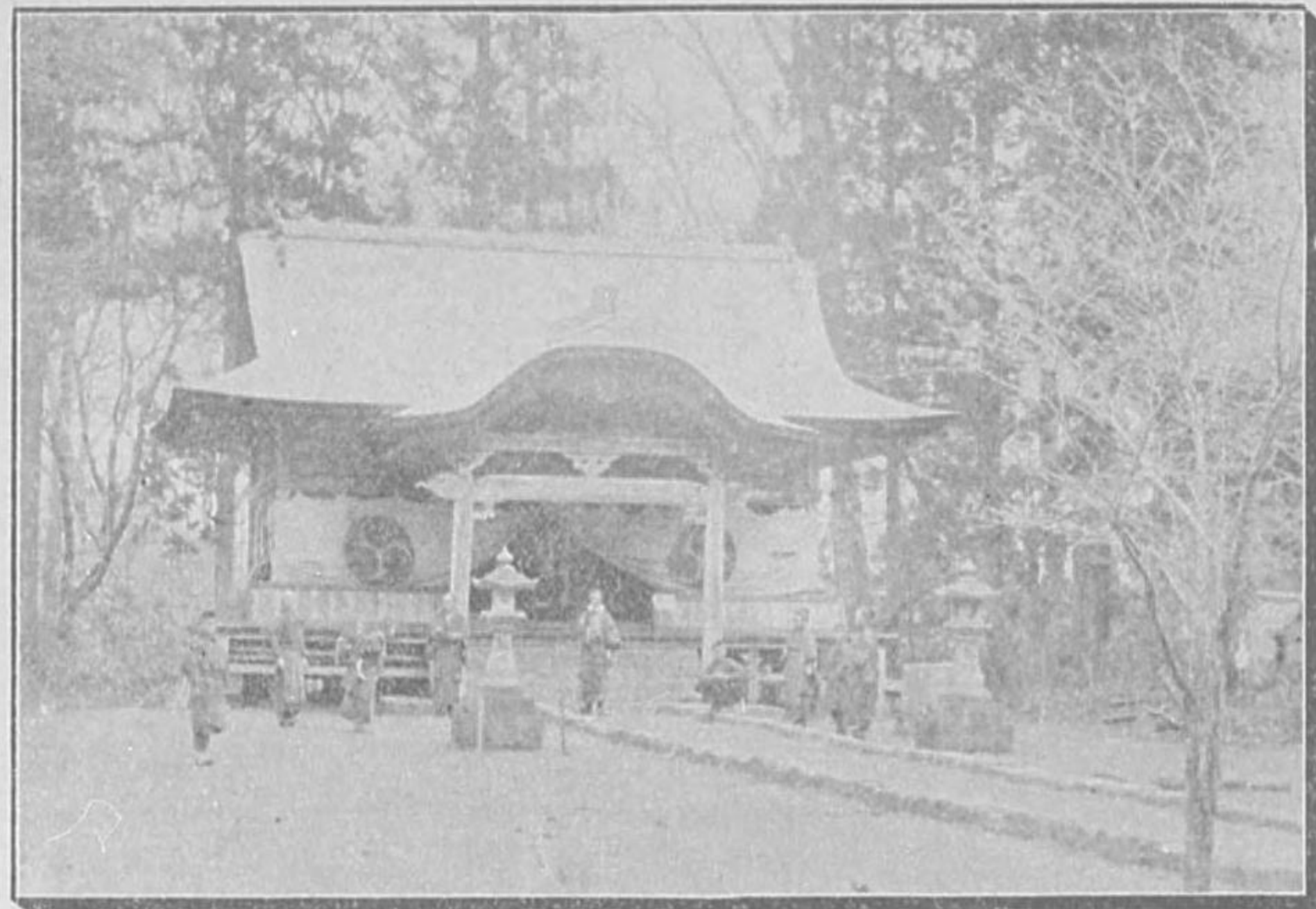
八龍橋 (羽後)

土崎港より板の岐路に出で、三里の砂原を踏んで出戸の北野天満宮に賽し、典農村に達すれば、一條の長橋によりて船越村に連なる、橋の長さ二百八十間、蜿蜒として江流の上に架せられ、遠く之を望めば、未だ雲せざるに何の龍か流を斷つての觀あらむ。これは、有名なる八龍橋にして、橋上の眺望はなほだよろしく、遠近の山光水色ことごとく眸に入り、天然の風景に富みたるは、眞に八龍に駕して空を行くの感あり。この八龍橋は、雄鹿島の絶勝に導く途中にあるものにして、行客をして、先づ其心神を壯ならしむるものなり。

帆掛ヶ島 (羽後雄鹿半島)

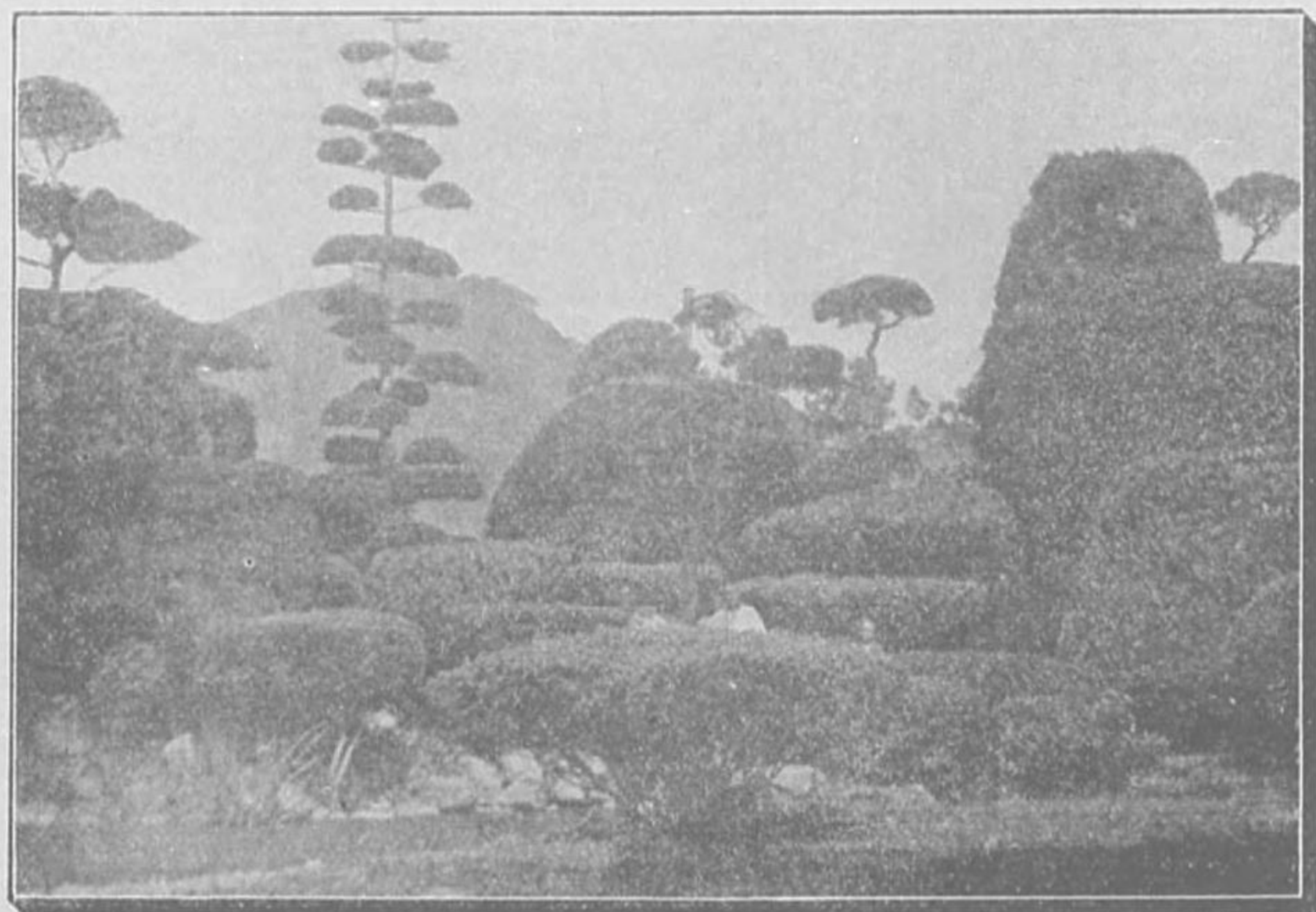
雄鹿半島の景色は、雄偉奇怪にして、看者を驚嘆止まざらしむ、頼三樹三郎この地に遊んで作りし詩句に、男子一披男鹿嶋。松洲始覺屬妖嬈。といへる如く、奇絶壯絶眞に毛骨を悚動せしむるとかや。船を賃して島廻りをなすは、壯中の壯にして、六七月より八月の交、日本海の風波穩なる日を待ちて行ひ得べく、其他は到抵能はずといふ。門前又は小濱より小舟を雇して行くに、先づ眼を驚かさしむるものは帆掛ヶ島の奇觀なりとす、突兀たる巨岩波濤を劈いて直立すると七丈餘、其幅三反許に及ぶ、海波輕々として岩脚をあらひ、飛鳥頂を掠めて飛ぶさまは、宛も、大船の飛帆を揚げて行くか如く、形状の奇怪にして雄偉なること口筆にのべ難しといへり。

(羽後北秋田) 七座山神社



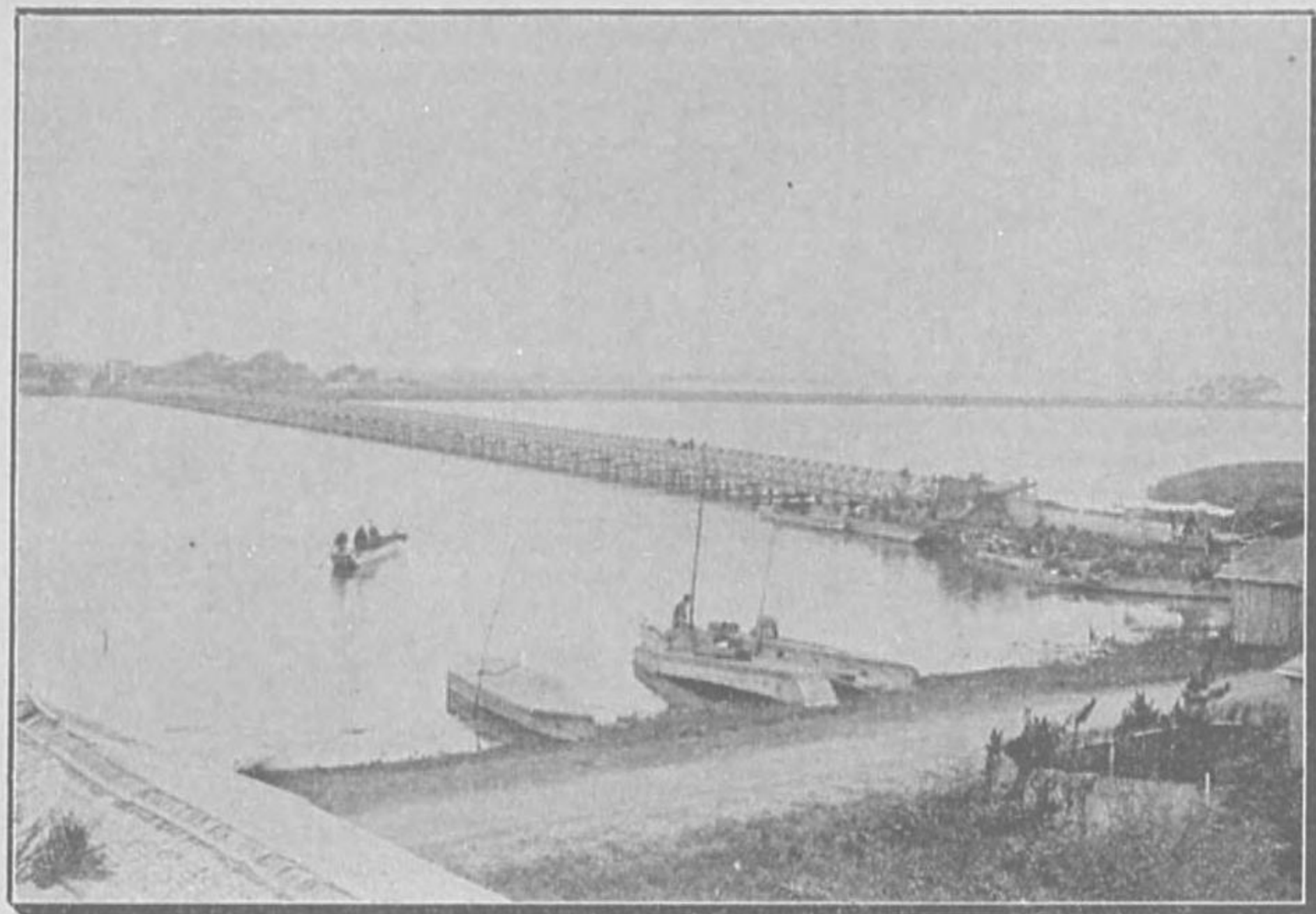
Nanakura-yama Temple at Kita-Akita; Ugo.

(羽後面遊) 千田氏の庭園



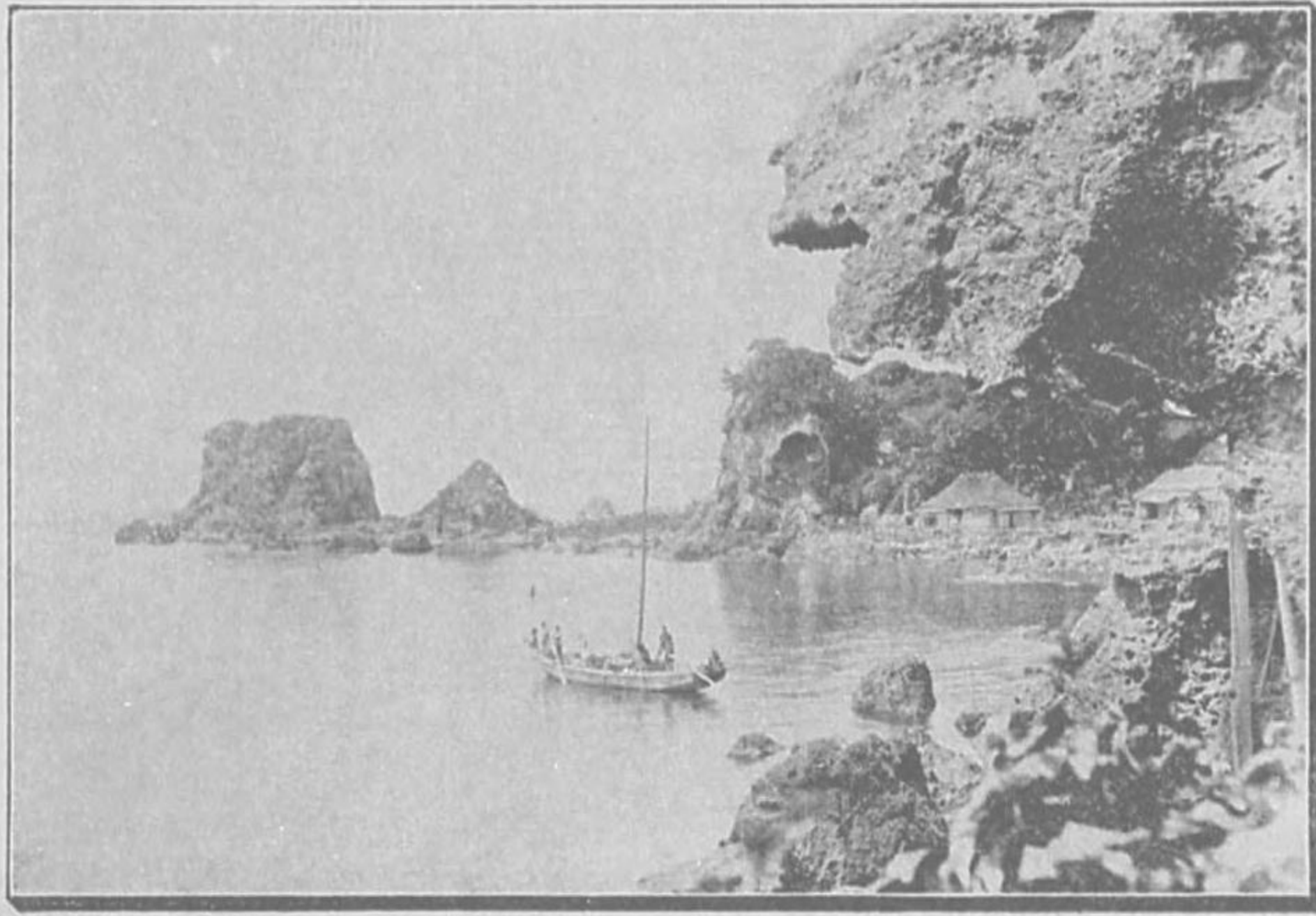
Garden of Mr. Chida at Omokata, Ugo.

(羽後男鹿) 八龍橋



Hachiryō Bridge at Oga; Ugo.

(羽後男鹿) 帆掛ヶ島



Hokakejima, at Oga; Ugo.

(羽後湯澤) 愛宕山より鳥海山を望む



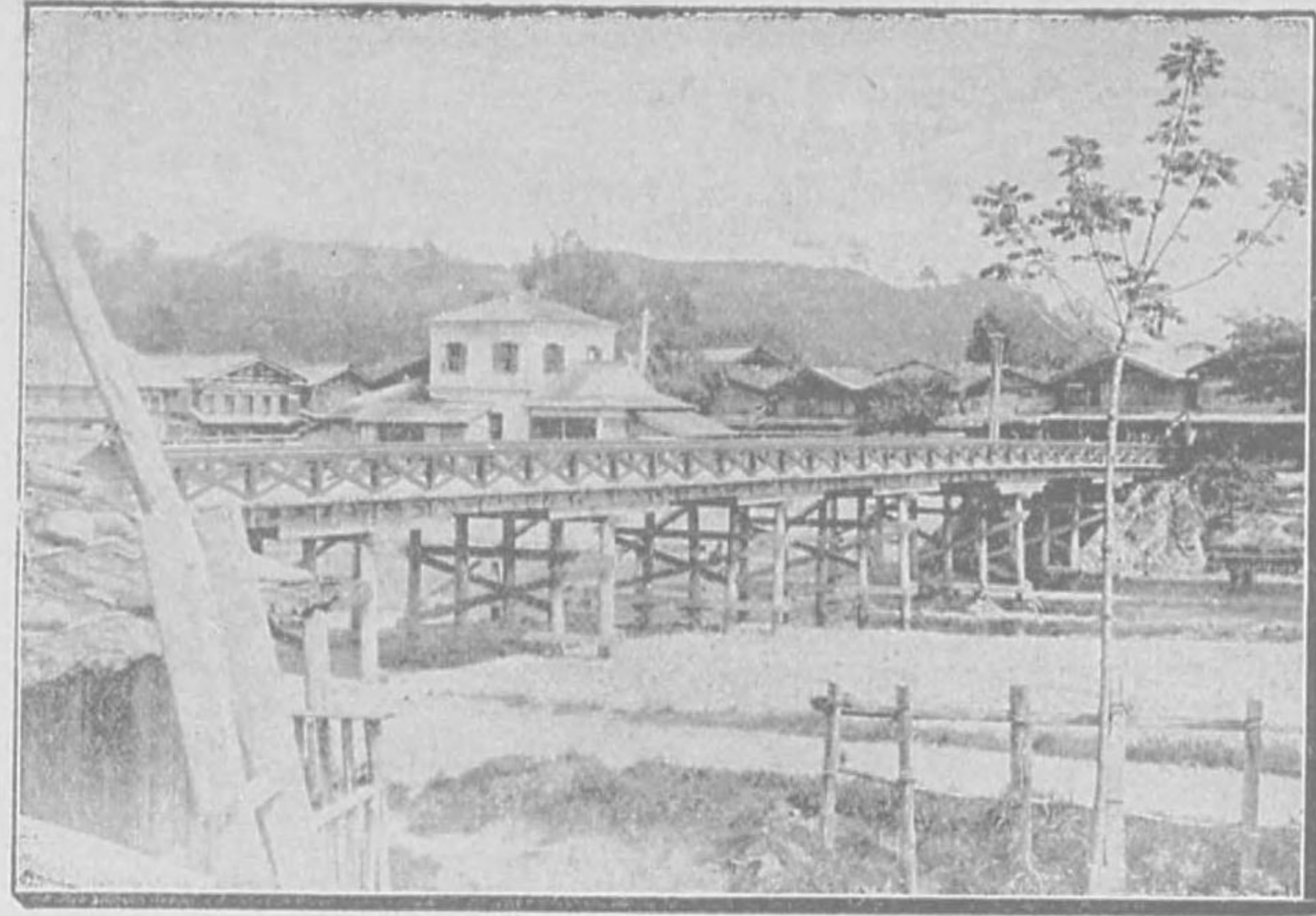
View of Mount Chōkai, from Atago Shintō-Temple at Yusawa; Ugo.

(羽後湯澤) 七夕祭



Festival of the Goddess of Weavers at Yusawa; Ugo.

(羽後横手) 蛇の崎橋



Janosaki Bridge of Yokote, Ugo.

(羽後平鹿) 田植



Rice Planting at Hiraka, Ugo.

愛宕神社 (羽後湯澤)

羽州雄勝郡湯澤町に在り、南は松澤に接し、北は八森山に連絡し、一大崗を形成して、田圃間に斗出す、其道、官道より岐して二條となり、一は市街より東南に入り、神輿坂及び花の關を支分し、直ちに一の坂に達す、之を表門となす、一は郊外より東北に入り、花の戸に達す、之を裏門となす、坂皆な石を以て階をなし、登れば徑路左右に岐して、螺旋形をなす、一は即ち神輿坂なり、其下花の關より岐して、更に右に旋るものを、花見岡と云ふ、高堤百尺、櫻樹滿つ、應さに千を以て數ふべし、四面、亦桃李、躑躅を栽し、菖蒲、胡枝花を植ふ、歷階して山頂に達すれば、則ち二の坂、畏美坂あり、仰見すれば、其高屋南北に亘り、翼然として崖に臨む、扁して棲雲閣と云ふ、即ち神樂殿なり、其他、亭に松琴、廣寒、月華、魁春あり、樓に醉月あり、池に楊柳湖あり、神殿及び拜殿は、之を仰ぐに彌々高く、屹然として神徳の尊嚴を示せり、社境清潔にして緇塵を留めず、松韻灑然、塵襟を洗ひ、風涼爽然煩熱を忘る、花時に至れば、櫻花白雲滿山を罩め、絳霞山麓を圍繞して、清香馥郁、人衣を撲つ、凡て境内の風致、近國容易に比すべきものなしと云ふ、而して此勝景の因て起りし根源を釋ねれば、實に湯澤町の篤志家、

奥山六右衛門

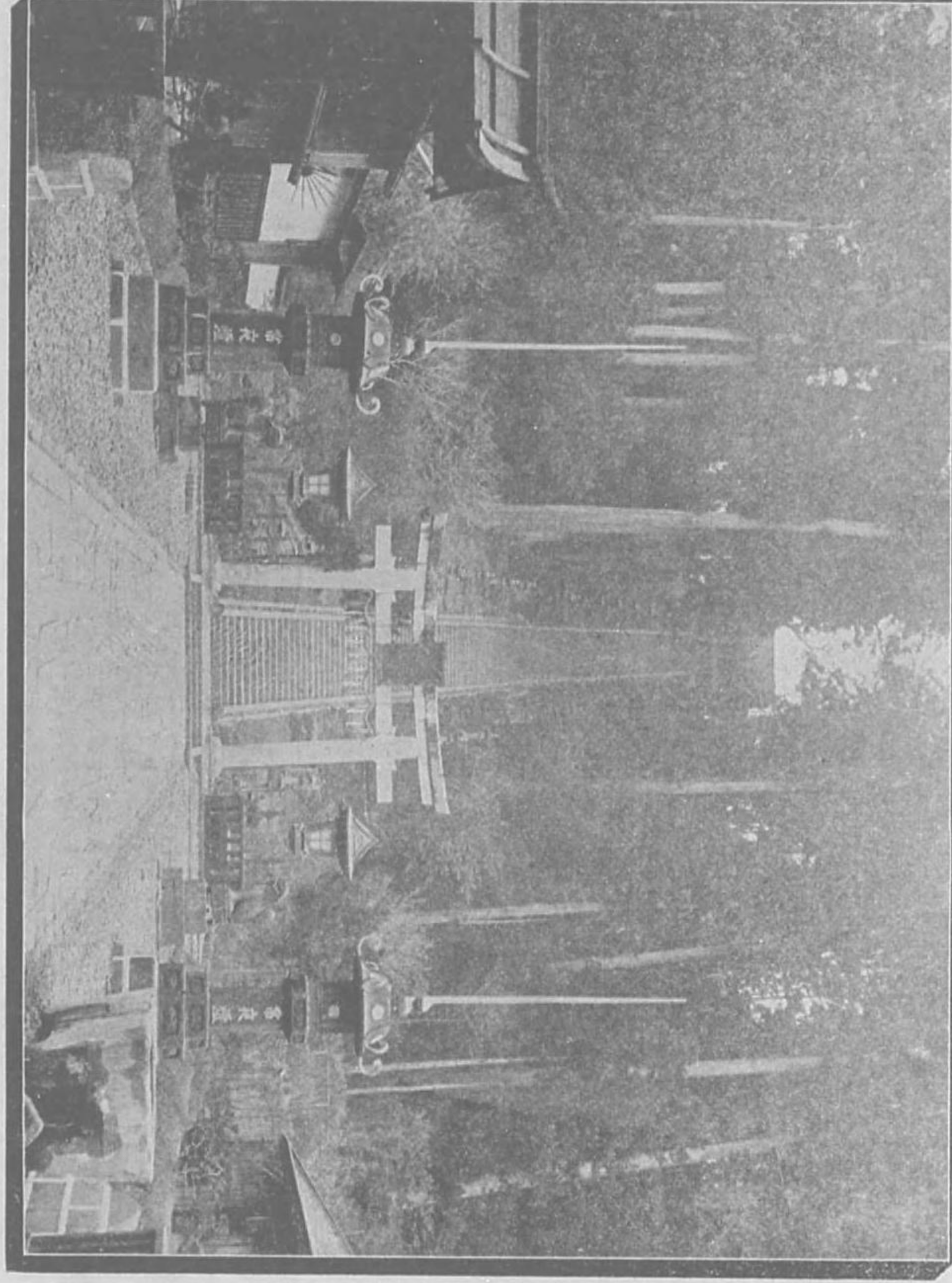
の功績を列叙せざるを得ざるべし、彼は深く當社大神を信仰して、崇敬業に超ゆ、弘化二年乙巳、終に社境近接の地を購ひて之を寄附し、新たに磴路を開きて、櫻樹及び常緑の樹木千種を山腰に連栽し、以て神縁を廣布するの偉業を創始し、其嗣子即ち先代の六右衛門亦其遺志を繼承して、大に資財を捐出し、毎日晨昏昏歸の勞を厭はずして、土功を督し、栽植を監し、寢食を忘れて、只管神徳と勝景とを世に顯揚し、以て乃父の遺業を紹ぐことを期せり、是故に明媚の態日に添ひ清新の趣月に加はり、今は已に三十二勝の名あるに至る、思ふに當社神徳の顯赫と共に、奥山氏父子の功、永く泯滅せざるべき也。

Atago Jinsha.

136 This Shintō temple at Yusawa, Ugo, was quite unimportant until 1845, when, by the exertions of Okumura Rokuemon, who offered a large piece of ground with great numbers of flowering trees and shrubs, it began to enjoy a wide reputation as a beautiful place of worship.

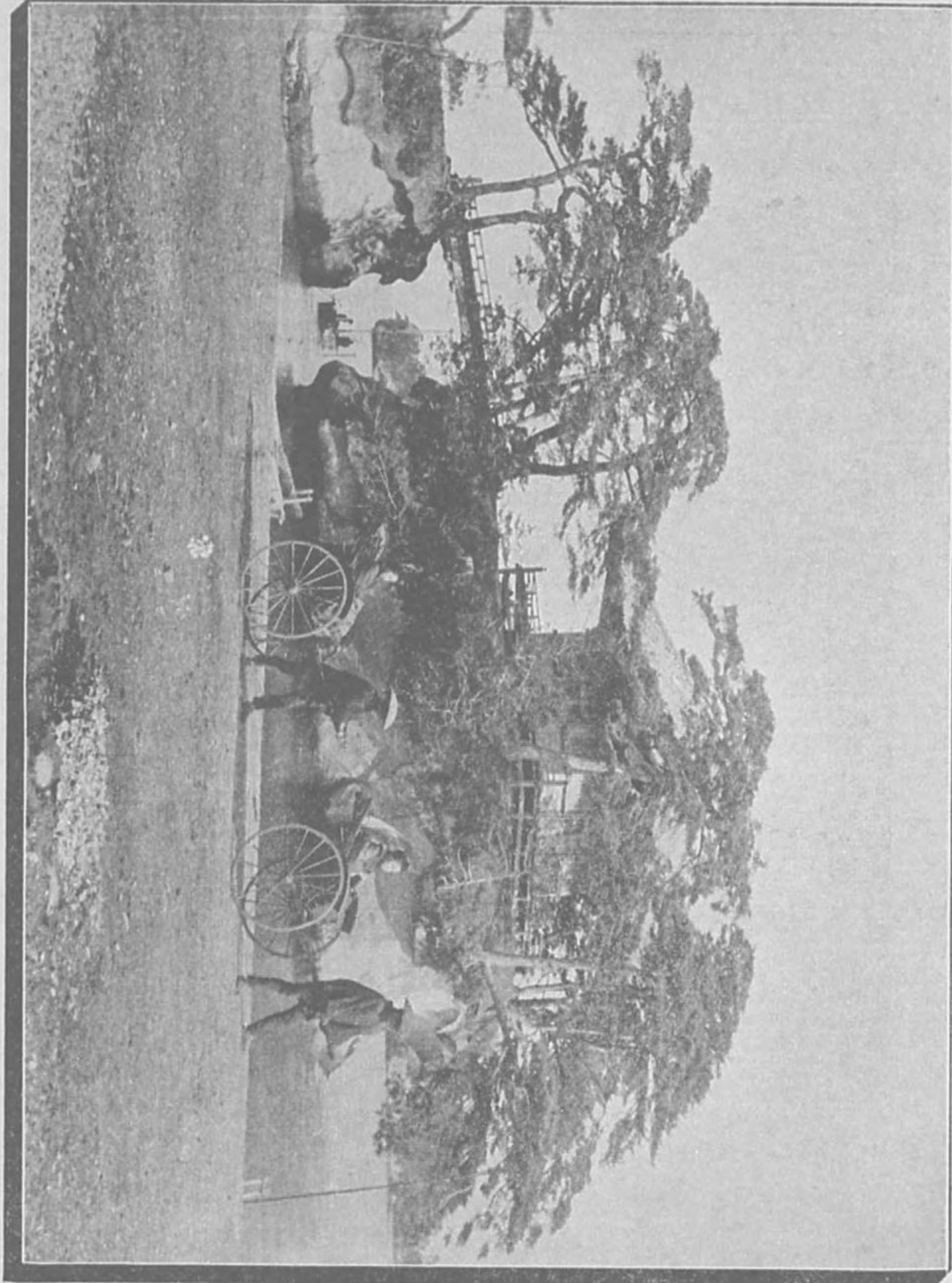
蛇の崎橋 (羽後横手)

秋田縣平鹿郡横手町の中央にありて、横手川に架せられたり、川は水源を陸羽の境より發して、蜿蜒として山間を流れ來り、横手町を貫いてはじめて廣野に出づ、蛇の崎橋は、恰も山と野と分るゝ所に架し、北東には横手の舊城屹として聳れ、清流其下を繞り西南には、曠野直ちに開けて一望千里、遙に鳥海山の富峰に似たるに對す。夏日、夜月圓なるときに方りては、幾百の市民集り來りて涼を橋邊に納れ、橋上橋下、一目の下に當地の風俗を見るべし因に云ふ、陰曆七月の盂蘭盆會には各町競ふて烟火をこの橋下にあぐるゝこと恰も東京兩國の川開きに似たりとぞ。



(陸前) 塩釜神社々前の石段

Godai-dō at Matsushima; Rikuzen.



(陸前) 松島五大堂

五大堂 (陸前松嶋)

松嶋の海濱に、白砂迢々たる砂汀を離れて、碧琉璃の海に臨める小島あり、上に、一字の堂を建つ、これを五大堂といふ。亭々たる老松影を水面に映し、堂宇瀟灑にして恰も書園の如し、附近には、奇岩矯松多く、通舳岬、福浦繪嶋東西にあり。西北は、細波漪々たる灣水を隔て、愛宕、金比羅、紫雲等の翠巒を望むべく、景趣極めて絶佳なり。そもく、この五大堂は五大華像を祀るものにして、大同年間に坂上田村麻呂の創建にかゝるといふ、其後幾多の星霜を経て、伊達氏の治世に及び堂宇の修繕新たになりて、爾來今日に至るも舊觀を改めず、松嶋に遊ぶものは、必ず遊覽すべき景勝なり。

Godai-dō.

This is a small shrine built on one of the many islands of the Group called Matsushima, near Sendai. It dates from about A. D. 800.

塩釜神社 (陸前)

祠は、塩釜町の北方なる丘上にあり丘下より石段を上ること百餘階にして神祠に達すれば、老樹物ふりたるが、鬱々多茂り合ひて、境内の閑適比ふるものなし、宮殿は、其構造極めて壯麗神聖にして、實に東奥第一の神祠なるにぞむかず、社前には、鍍製の燈籠數基あり、中には、幾百年の時代を經過したるものもありとぞ、又た、祠庭にある樺の老樹は、海内に比類なき老木にして、鹽釜標として古人の吟咏にもよるものなり。主神は、左に武甕神を祭り、右に經津主神を奉祠す、毎月十日と申酉の日を祭日とし、三月及び七月の十日は、特に大祭禮を舉行し參詣のもの群集す。祠には、また古來よりの神寶多し。

Shiogama Jinsha.

This is the oldest and most important Shinto temple in the north-eastern part of Japan. It is dedicated to the deities, Take-Mikadzuchi, and Futsunushi. These gods were noted for their warlike exploits, but in some way they have come to be associated with child-birth, and their aid is earnestly sought by expectant mothers.

店服吳崎藤 (町分國臺仙前陸)



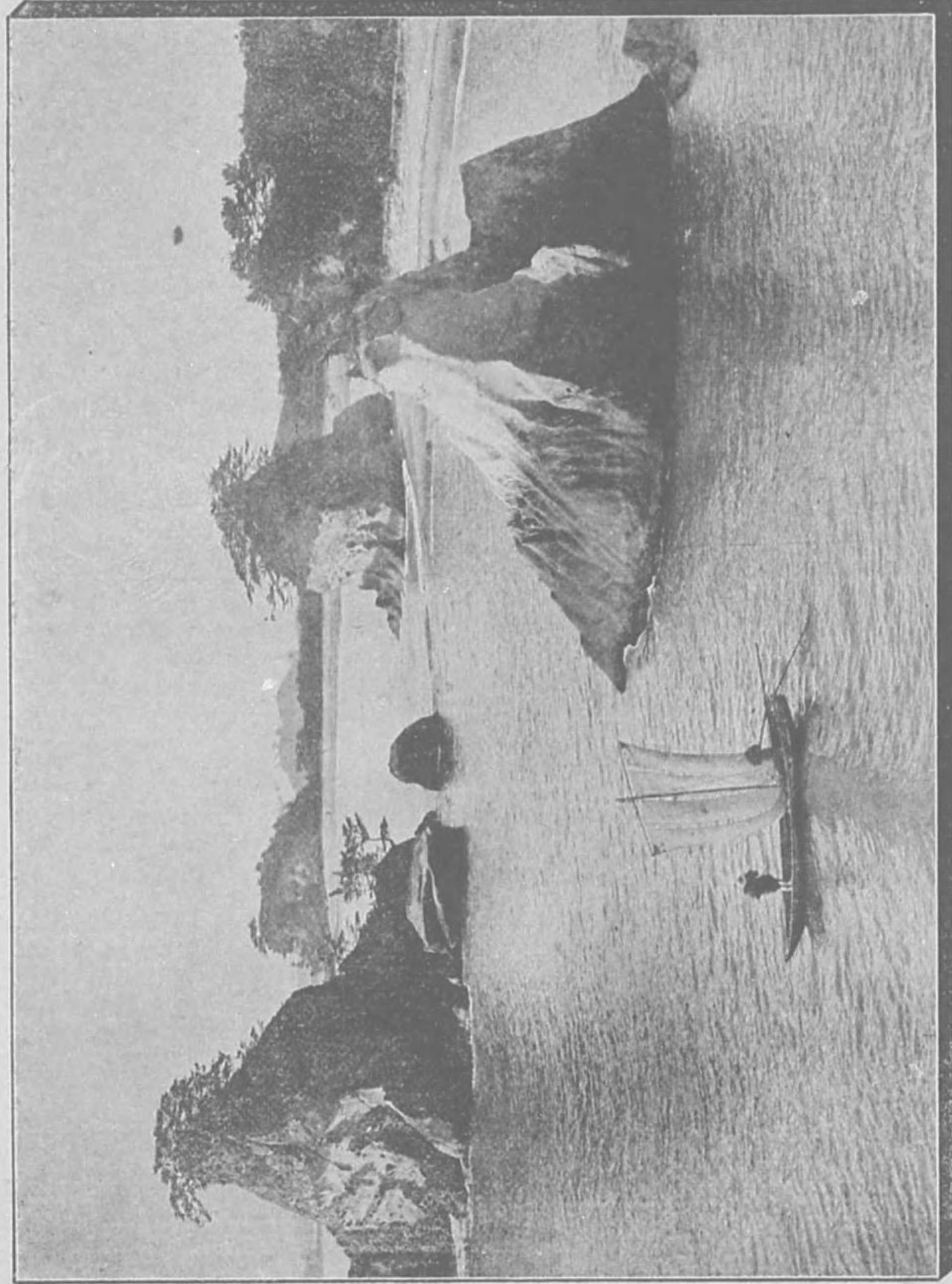
Fujisaki Dry-Goods Warehouse, Sendai; Rikuzen.

Fujisaki Gotoku-ten.
 This shop is situated in O-machi, Sendai, and is one of the most important establishments in that section of Japan. This firm is especially noted for the fine quality of the cloth called Sendaihana. This fabric has been greatly improved within recent years through the skill of the workmen of this firm. Aside from the sales rooms shown in the picture, the firm has a large factory.

東北地方に於て有名な呉服商店にして、仙臺市大町五丁目三番地に在り文政年間創業たり、袴地として最も嗜好の稱ある、仙臺平の機元にして、其需用は、全國各地に到る所に據がり、其販路の大、商運の盛、優に同儕を壓倒せり、殊に近時は、大に茶質を精撰し、且つ染料に改善を加へ、其製織亦益々巧緻の工夫を用ひて、精粗厚薄其宜に適し、硬軟の度合より、耐久の時期に至るまで之を在來のものに比すれば優に一頭地を抽くものたり、殊に店主の誠實なる、數千萬の發賣品中、曾て一點の粗品を交へず、單に藤崎商店の仙臺平と稱へば、人皆信じて之を購入宜なる哉常に宮内省の御用を蒙り商運年と共に興れりと謂ふ、此圖は單に其店舗を示すのみなれども、他に宏壯なる工場ありて、之を攝寫し登載すれば、紙上の光彩を添ふること一段なるべきも、終に其原形を得ること能はざりしは、編者の甚だ遺憾とする所なり。

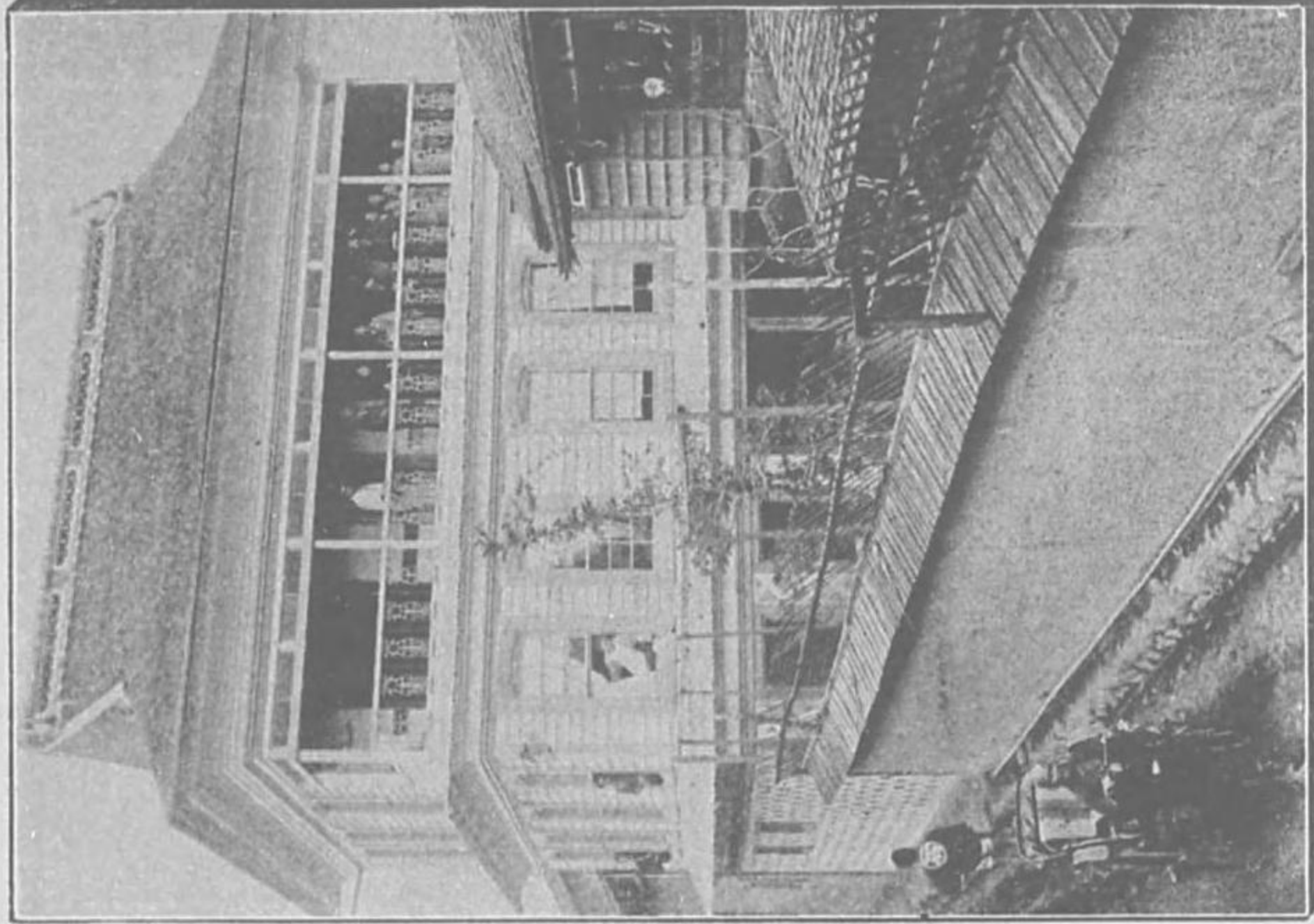
藤崎商店 (仙臺)

(陸前松島) 不老島



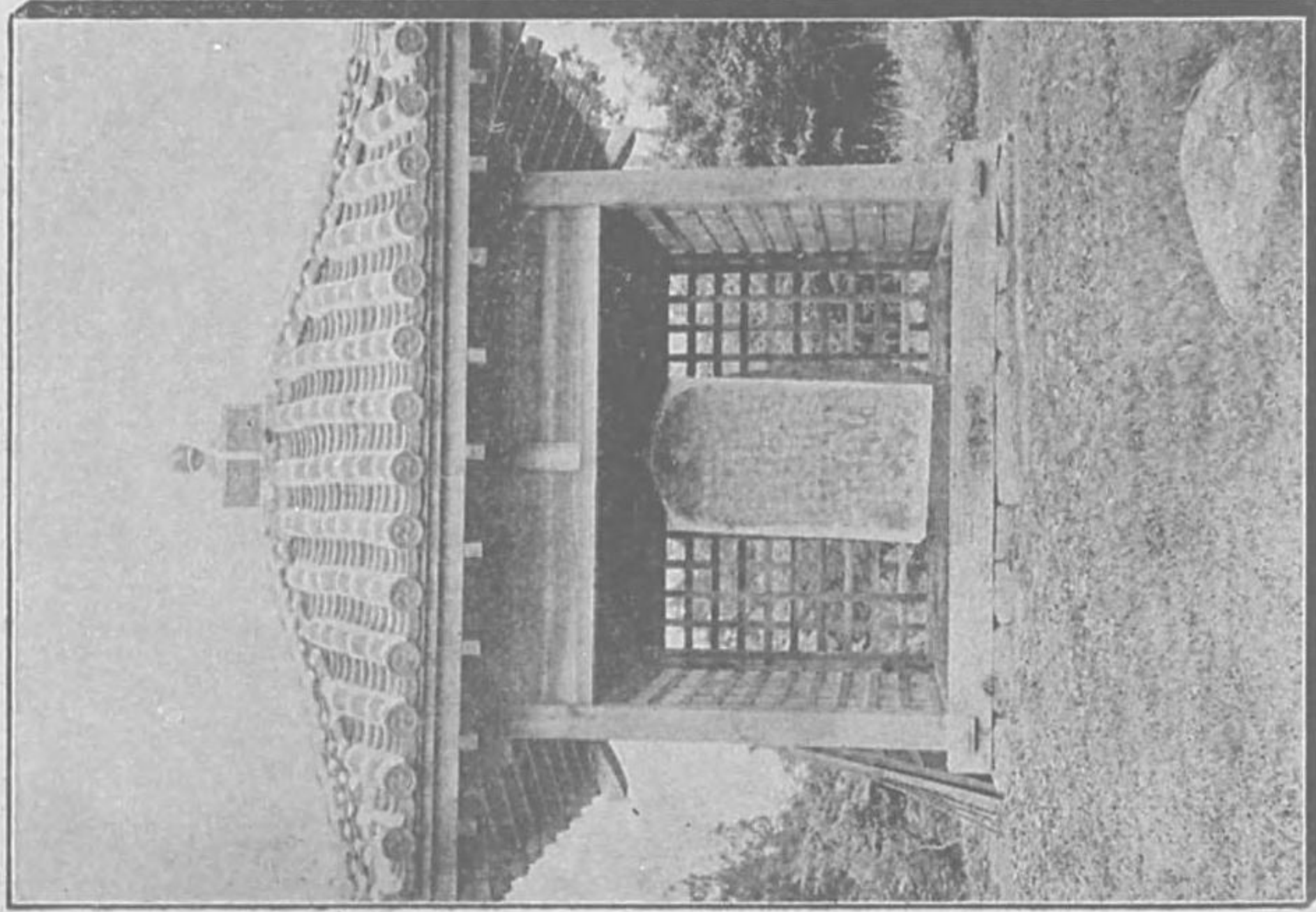
Furō Island at Matsushima; Rikuzen.

(陸中一の關) 石橋旅館



Ishihashi Inn at Ichinosaki; Rikuchū.

(陸前) 多賀城の古碑



Site of Ancient Castle of Taga; Rikuzen.

Furō-tō.

This name might be rendered "The Island of perpetual Youth". Furō-tō is an island of the Matsushima Group. It is noted for its grottoes.

不老島 (陸前松島)

松嶋の餘長は瀆にあり、山脚には波濤寄せ來りて岩石砂土を洗ひ、爲に數多の洞穴をなしその狀極めて奇觀なり、海風怒浪を透り來りてこれに衝突すれば、雷の如き轟聲を發し、全山動搖する感あり、或は、跳躍せる潮水直に洞に入りて、更に、岩背に流れざるもありて、水沫飛散して六月の雪を飛ばす等、心魂の冷なるを覺なしむ。斷崖の壁には天然に佛像を印して形狀尤も奇觀なり、士人呼んで五百羅漢と呼ぶ、昔し伊達綱村この嶋にあそびて、天然の風景人心を仙ならしむるを賞し「不老」の名を興へしも決して謬言にあらざるなり。

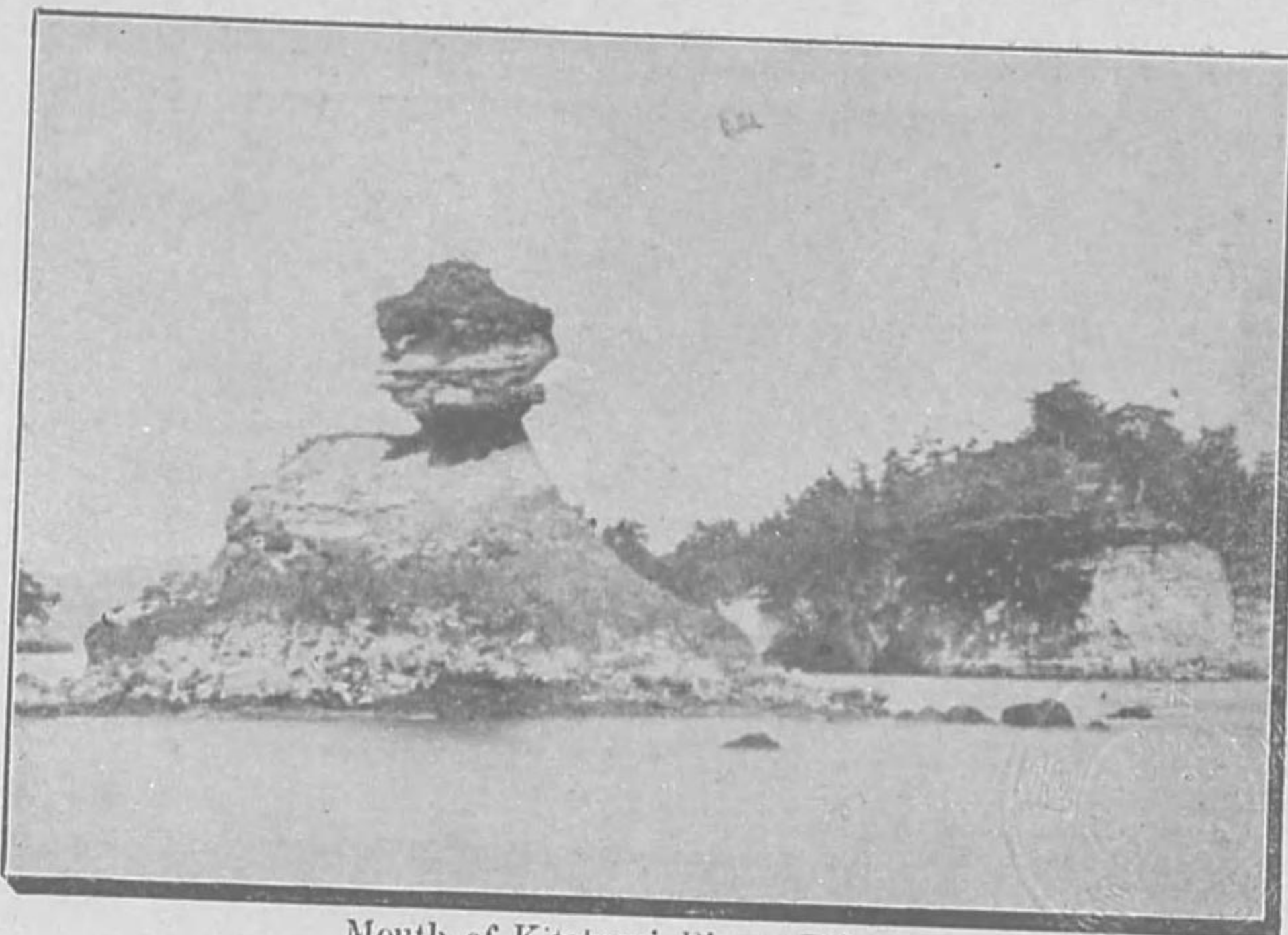
多賀城碑 (陸前)

往昔東國の未だ開けざるときは、東夷の勢猖獗にして禍乱をばく起れり、聖武天皇の御宇に大野東人等東征してこの地に至り、碑を樹て、道路の遠近を誌し、緩急來往の便に供せしもの今も尙現存して、當時の古態を存せり、この碑は、永く土中に埋没して、其所在を知るに由なかりしが、伊達綱村の代に、さる橋梁の石材中より發見して、改めて多賀城趾に建てたるものなり、一千年の久しさを經て、再び世に出でしは事頗る奇とすべく、其碑の幽雅にして、古色あると、文の眞率にして美を得たるとは、いよく以て稱世の碑といふに足る、古記によれば、この碑は多賀城の東門に建てられたるもの由にて、今も、その附近を搜索すれば、往々にして古瓦を發見すべしといふ。

石橋旅館 (陸中一の關)

一の關は、國道の要衝にあたりれる名邑にして、人口六千に近し、市街の北を流る、磐井川に一橋あり、古昔北に萩の庄あり南に萩の庄ありしを以て、今も「萩萩」の名を有せり。この附近には、中尊寺、嚴美、衣川、館趾、其他源賴義征夷の古戰場もすくなからず、旅館は、館をこの町にといひて、附近に行遊するも可なるべし、旅館は其數多し中にて、一ノ關旅館は、結構大にして客を遇すと亦々厚くこの町第一の好旅館なりといふ。

(陸前石の巻) 北上川入口



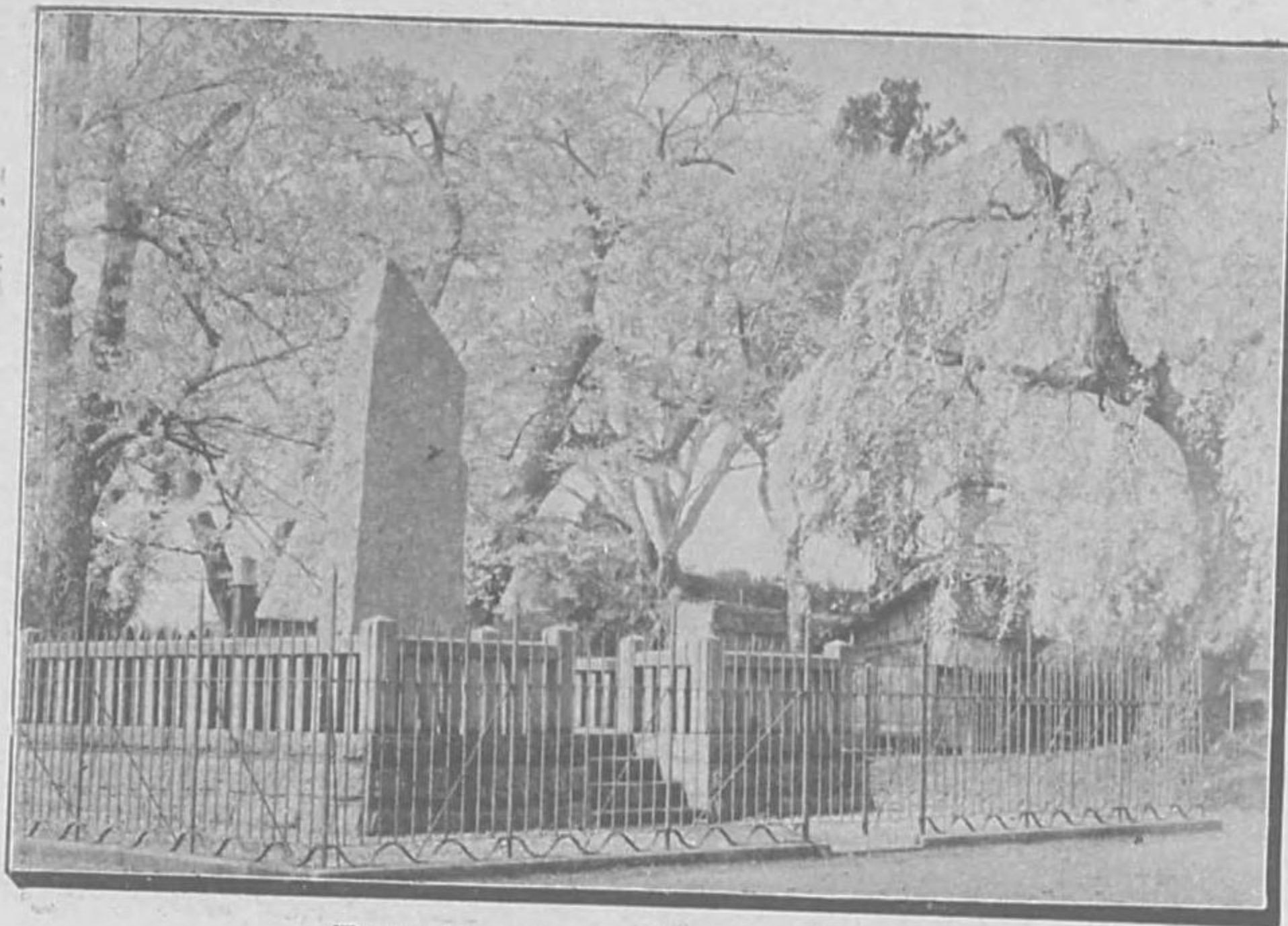
Mouth of Kitakami River; Rikuzen.

(陸前五道温泉) 遊佐旅店



Yusa Inn at Tamatsukuri Hot-Springs; Rikuzen.

(陸前仙臺) 躑躅ヶ岡



Tsutsuji-ga-oka at Sendai; Rikuzen.

(陸前岩沼) 竹駒神社



Takekoma Shinto-Temple at Iwanuma; Rikuzen.

石の巻、北上川の口 (陸前)

滔々として流る、北上川の瀉ぐとこに、一の良港あり、俗語にて知られたる、石の巻は即ちこれあり。人口一萬二千以上に達せる繁華の良港にして、三千に近き人家は、河口の左右兩岸に互りて連れり。北上川は東國に有数の大河にして、舟楫の利を通ずること五十里餘に及ぶ、河口淺しと雖も、人工の方法をこらして、近年や、風波の難お、海より入り來るものも、共に碇泊の利便に頼ることを得べし。交通の便如是なるを以て、河口には船舶の往來頻繁にして、帆檣林立、直ちに岸上の萬家に連なり、商業の活潑隆盛なること、東海岸に指を屈すべき名邑なり、この地は仙臺市を距ること十三里弱、萩の濱をさること水上四里にして、陸中の一ノ關には常に漁船の往復あり、旅客及び貨物の回漕は日を待たずして抄取るべし。

車温泉遊佐旅館 (陸前)

玉造郡温泉村は、著名なる温泉の湧出地にして、名高き温湯八ヶ所あり、就中、車温泉は由來尤も古くして、其地の旅館遊佐與右衛門は、祖先を畠山重忠より出づると傳へられ、文化年中に至り、水車を浴場に設け、温泉を高く懸けて瀑となし、以て浴客の便宜を計りしより、遂に、車湯の稱號を得たりといふ。かゝる舊家なれば、浴舎の設置いたらざるなく、宏大なる建築をなし、上中下の三等に分ちて一般の浴を便にし、室の整頓せること及び器具の清潔完備なること、八湯中其右に出づるものなしといへり。今や、車馬の便開けたれば、往時の如く交通不便の患なく、觀光入浴に意あるものは、安全にこの仙境にあそび、快活なる旅宿に泊して、温泉に身心を洗ふとを得べし。

躑躅ヶ丘 (陸前)

仙臺市の東方にある樂園なり。この地昔は躑躅の樹多くして、花の頃は、を以て衣裳の模様を摺りいだしたりといふ。星移り物かはりて伊達氏の治世にいたり、元祿年中太守綱宗大ひに規模を改めて、櫻花數種を擇んで栽植し、弓馬射的の場を設けて士人の行樂場となせり、亦松、楓等も多く植はられ、今や満丘ことごとく參差たる老木を以て埋めらるゝにいたる。春風輕く丘上にわたりて、櫻花咲き初むる頃は、香雲をらに漲り、秋風一度ひ霜を降せば、紅葉繡錦の幕を列ね、これを綴るに常盤の緑色こき老松を以てするとなれば、其景色の美なるいふばかりなく、遊人絡繹として觀呼の聲丘に滿つ、この丘は上古、坂上田村麿が賊を平けて暫らく兵を屯せしところなりといふ、遊賞の間に古を吊ふも亦た一興なるべし。

武駒神社 (陸前)

承久年間に勧請せられたる古祠なり。祭神は稻荷明神にして、神徳世に傳稱され參詣のもの頗る多し。神社の後方に、峨々たる斷崖ありて、幽暗なる洞窟の削穿せらるゝあり、入口に近づけば冷氣肌を吹くを覺ふ、郷人はこの洞窟を以て稻荷の神室とし、靈威ある老狐を其眞體なりと信じ、これに寶窟の尊名を附して敬畏せり。元と、武隈神社と唱へ來りしが、この眞體の老狐、ひかし一人の小童と姿を變じて竹馬に騎して現れしといふより、今に至るまで竹駒と言ひ敬はせり、社の傍に古寺あり、能因法師の開基なりといひ、竹隈松といへる古木ありて世に名高し。

子持杉神社 (陸前)

登米郡登米町を去ると十八町餘に、鹿嶋神社と呼べる古祠あり、勸請の年月を詳にせざれども、凡そ、九百年前より祀られたるものなりといふ。社の境内に一本の老杉あり、高さ五丈餘亭々として雲を排し、枝葉繁茂して天日を遮ぎる。其根より、十株の兒杉を生じ、其丈の高さ次第に序をなして生長せるさままことに奇觀なりといふ。里人は、これを子持杉と稱し、子なき婦人は、この杉樹を抱持して祈願せば、忽ち懷妊の瑞あり、又た、其木を背にして祈れば、決して懷胎するとなしと言ひ傳へ、常に、多数の參拜者ありといへり。兎も角も、世に珍らしき老杉といふべきなり。この杉の木に故に、鹿嶋神社をば、一般に、子持杉神社と呼びなせり。

巖美溪 (陸中)

一ノ關町の西方三里餘、磐井川の上流にある絶勝なり。元と、五串の溪と稱せしを、文人雅客の雅ならざるを嫌ひ、巖美の字を以て代へたるなりといふ。盤井川の流、このところに至りて、兩岸の間に迫られ、水怒り岩狂ひて、大飛泉をなし、雄濕、雌瀑の二層となりて瀉ぎ下る。其偉觀名狀すべからず。瀧の前面巨岩相對すところに一橋を架す、橋下の水は澄明にして、白砂を敷ふべく、其下に一大磐石ありて、上に數十人を坐せしむべし。飛瀑の近傍は、怪巖巨石從横に乱立して其景狀の雄絶奇絶なるは、東奥第一の奇勝として、木曾の寢覺に劣らずと稱せらる。南崖に碑あり、松平樂翁公の題額にて、掛川藩儒松崎復の撰文を刻し、架橋の由来を述べたり。

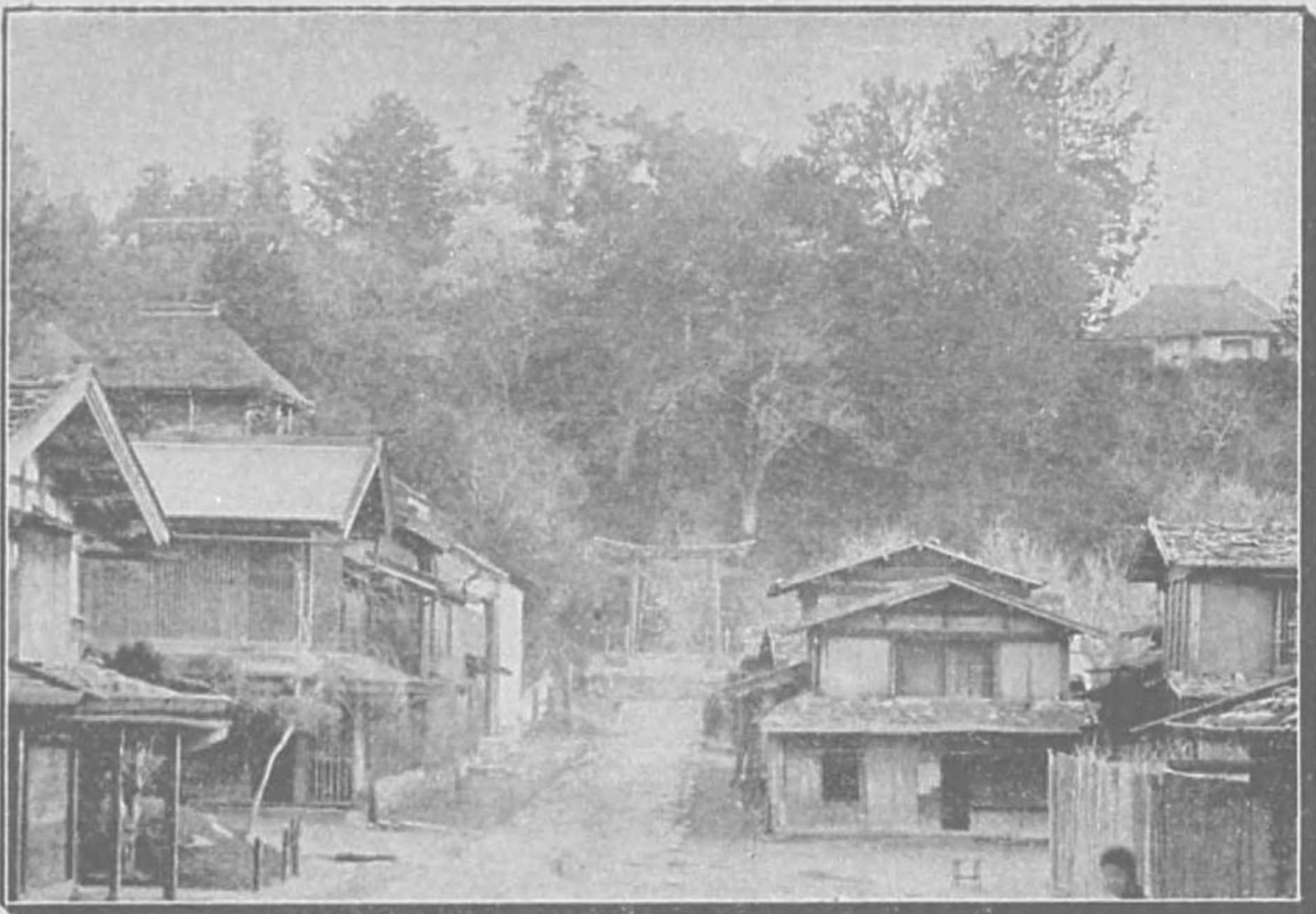
盛岡馬市糶場 (陸中)

巖手縣廳の所在地にして、南部氏の居城ありし盛岡市は、東奥屈指の大市邑にして、其人口三万二千を超え、北上川の長流を控へ、東北鐵道の貫通と共に、運輸交通の頻繁を極めて、百貨市場に幅濶し、仙臺市に亞ける繁華を有して、豪商大賈は却つてかれより多しといふ。元來、南部地方は、日本の冀北を以て稱せられ、牧馬の業古來より盛んなり、馬糶市場は、この盛岡市に於いて開かれ、當日に及ぶや、名駒駿馬ことごとく市場に集まりて、嘶くこゑ空にひびき、鐵蹄の音大地も揺ぐばかりにて、數万の購客群集し、其熱鬧いふばかりなく、伯樂をして過ぎらしむるも、其群を空しうする能はず、趙子昂をして畫かしむるも、其客を盡す能はざるべく、まことに全國に於いて尤も目覺しき馬市場たり。

石割櫻 (陸中盛岡)

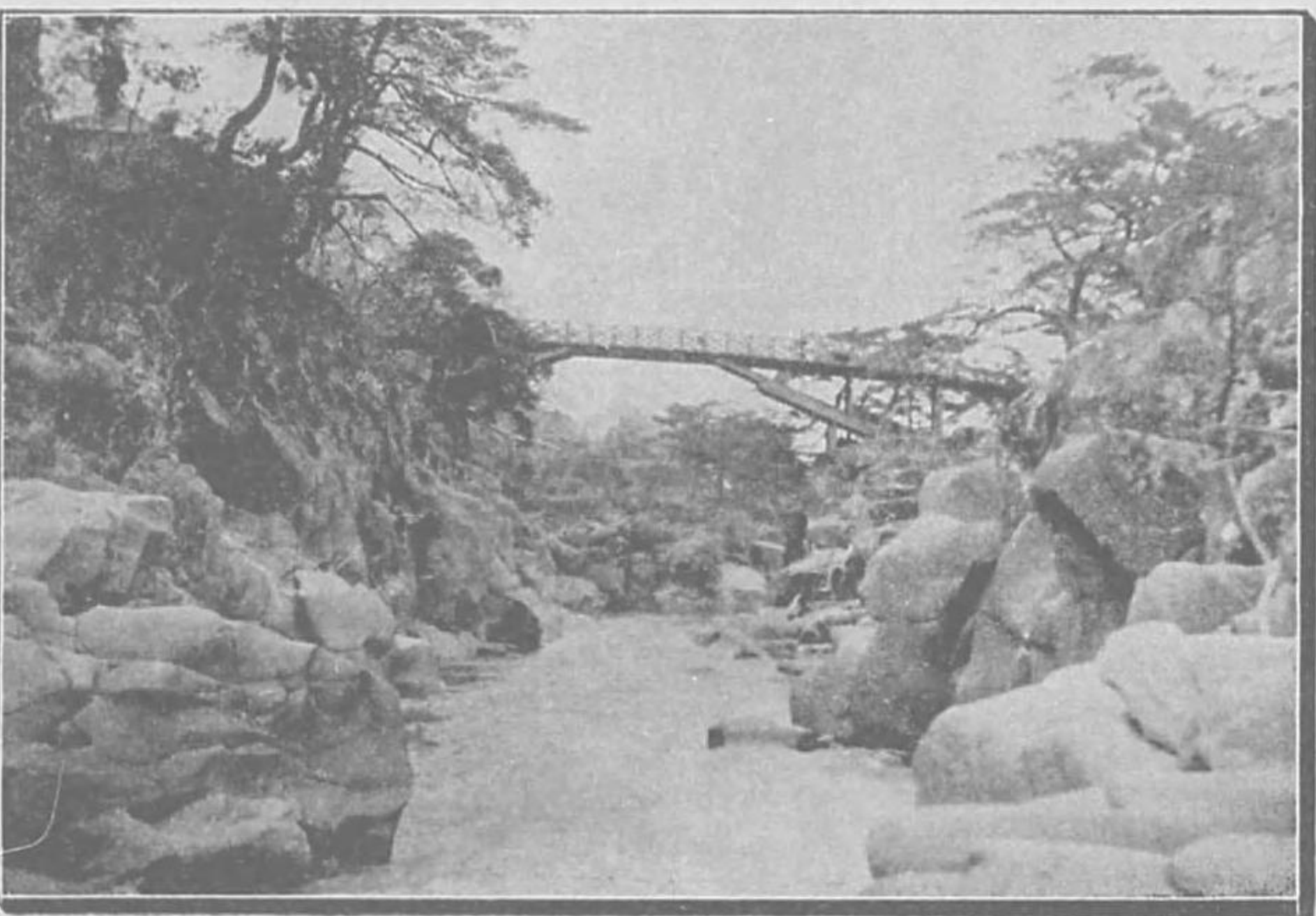
陸中盛岡市内、地方裁判所の門内右側に在り、高さ八丈、長さ貳丈、幅八九尺なる大巖の上に、一樹の櫻生ひ茂りて、根の周り五尺もあるべく、根本より二尺ばかり以上にて、双幹となれり、枝葉鬱葱として能く榮ふれども、巖上に、一の土塊だもなきは奇なり、而して此樹の生長に隨ひて、斯る大石も爲めに二つに割れたり云ふ、市人此巖を呼んで櫻雲石と云ひ木を石割の櫻と稱す、亦一種の珍木なり。

(陸前登米) 子持杉神社



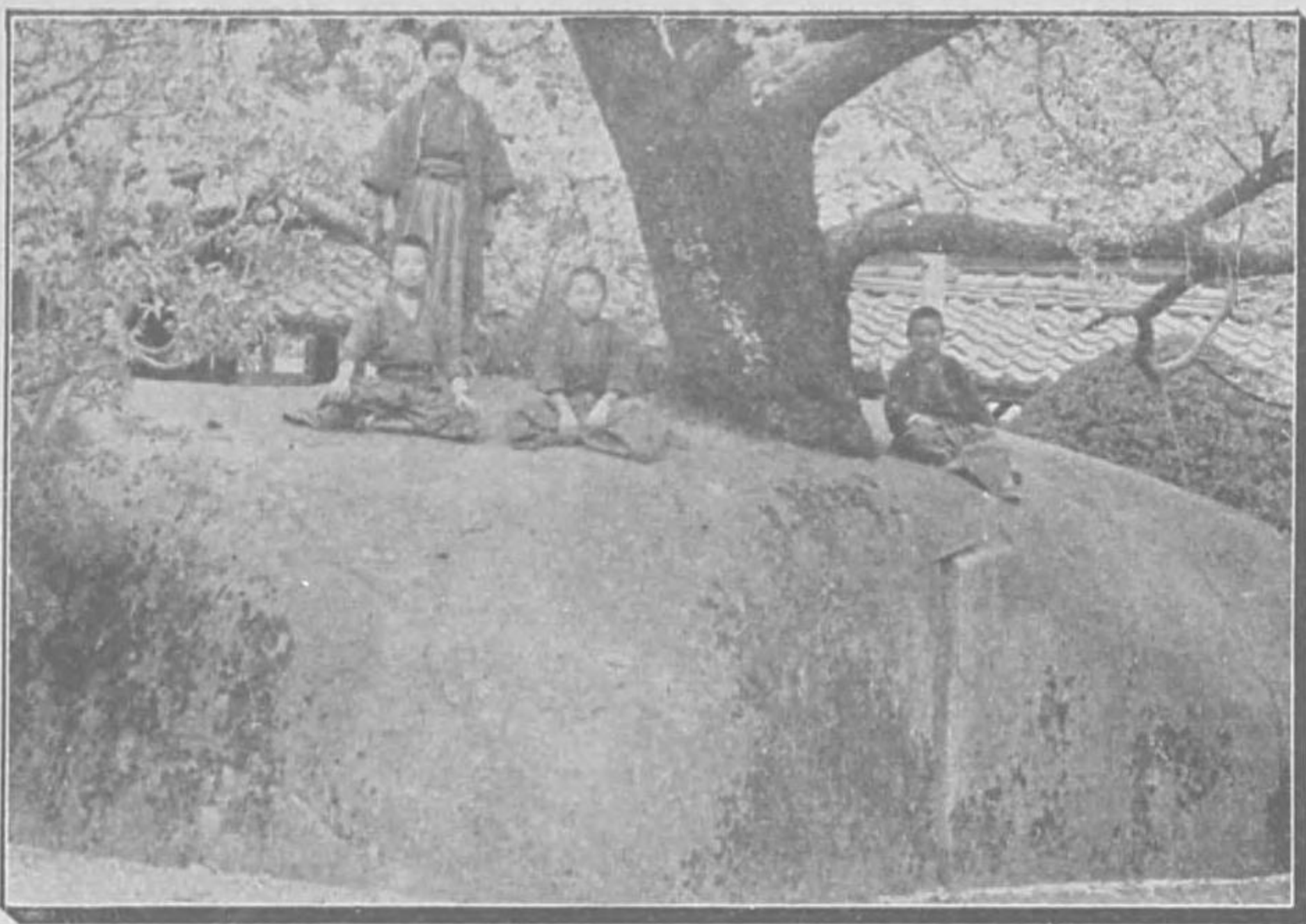
Approach to Komochi-sugi Shinto-Temple, Rikuzen.

(陸中) 巖美溪



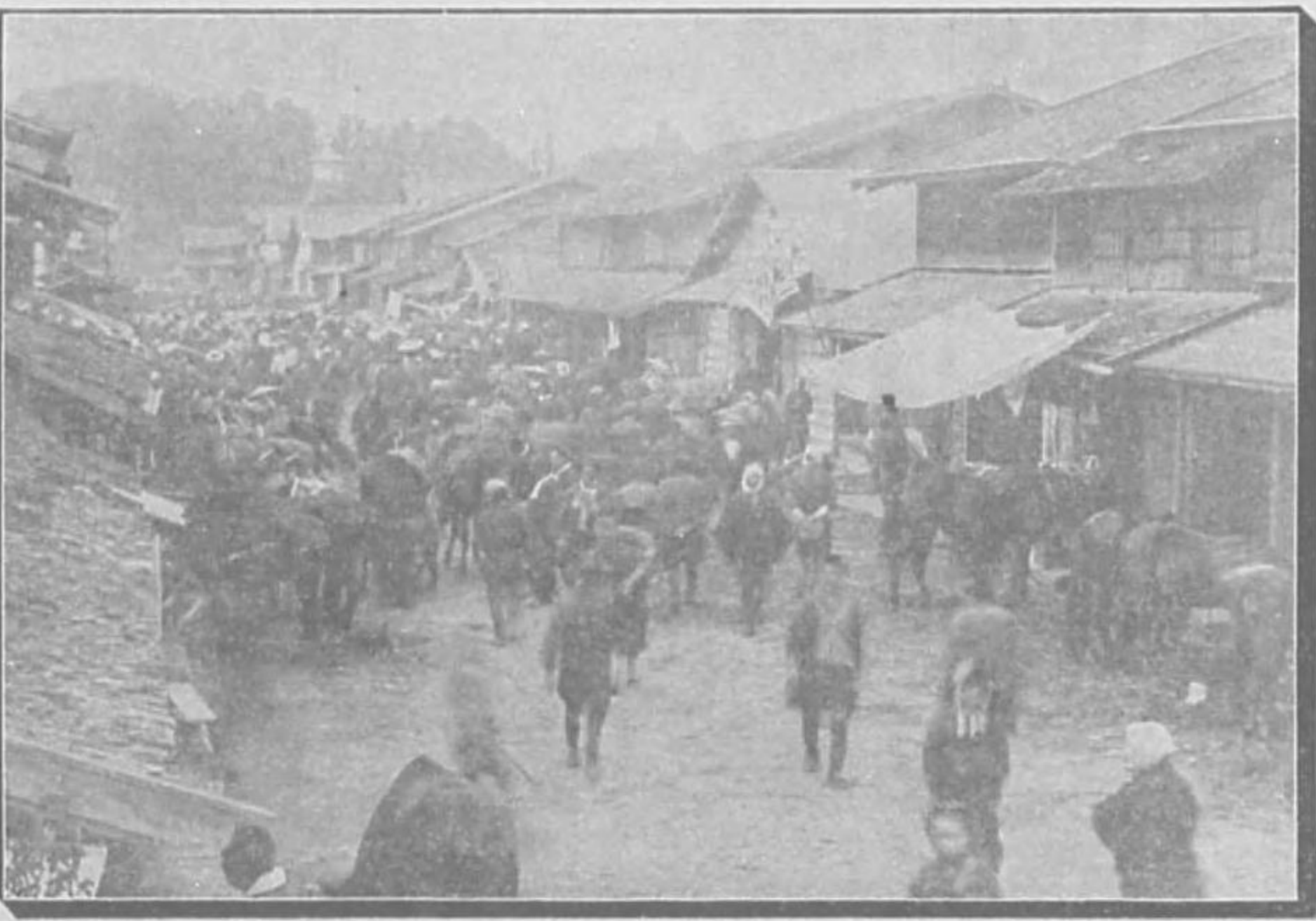
Itsukushi Valley, Rikuchū.

(陸中盛岡) 石割櫻



Ishiwari Cherry-tree at Morioka, Rikuchū.

(陸中盛岡) 馬糶市場



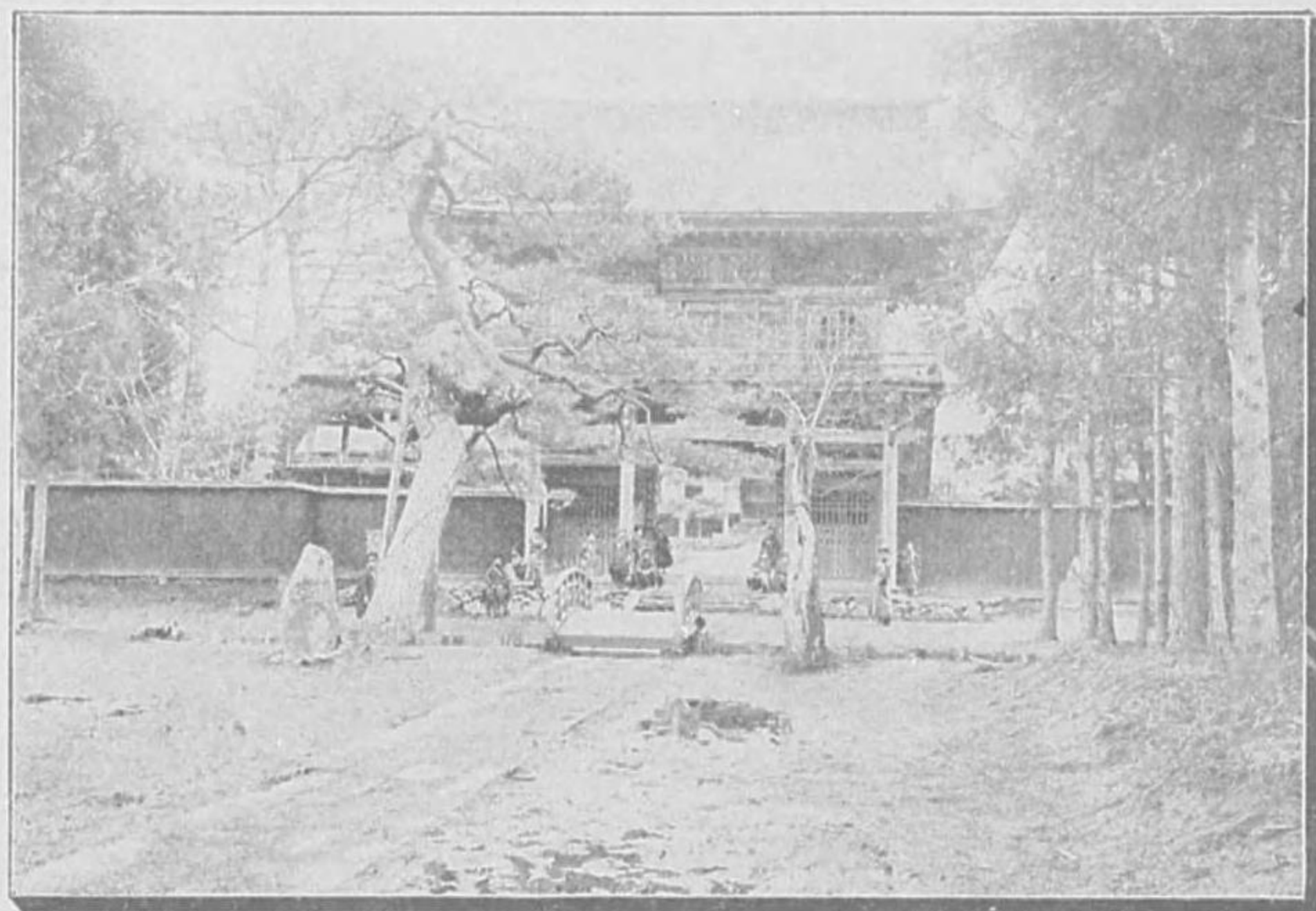
Horse Market, Morioka; Rikuchū.

(陸奥八戸) 當龍神社



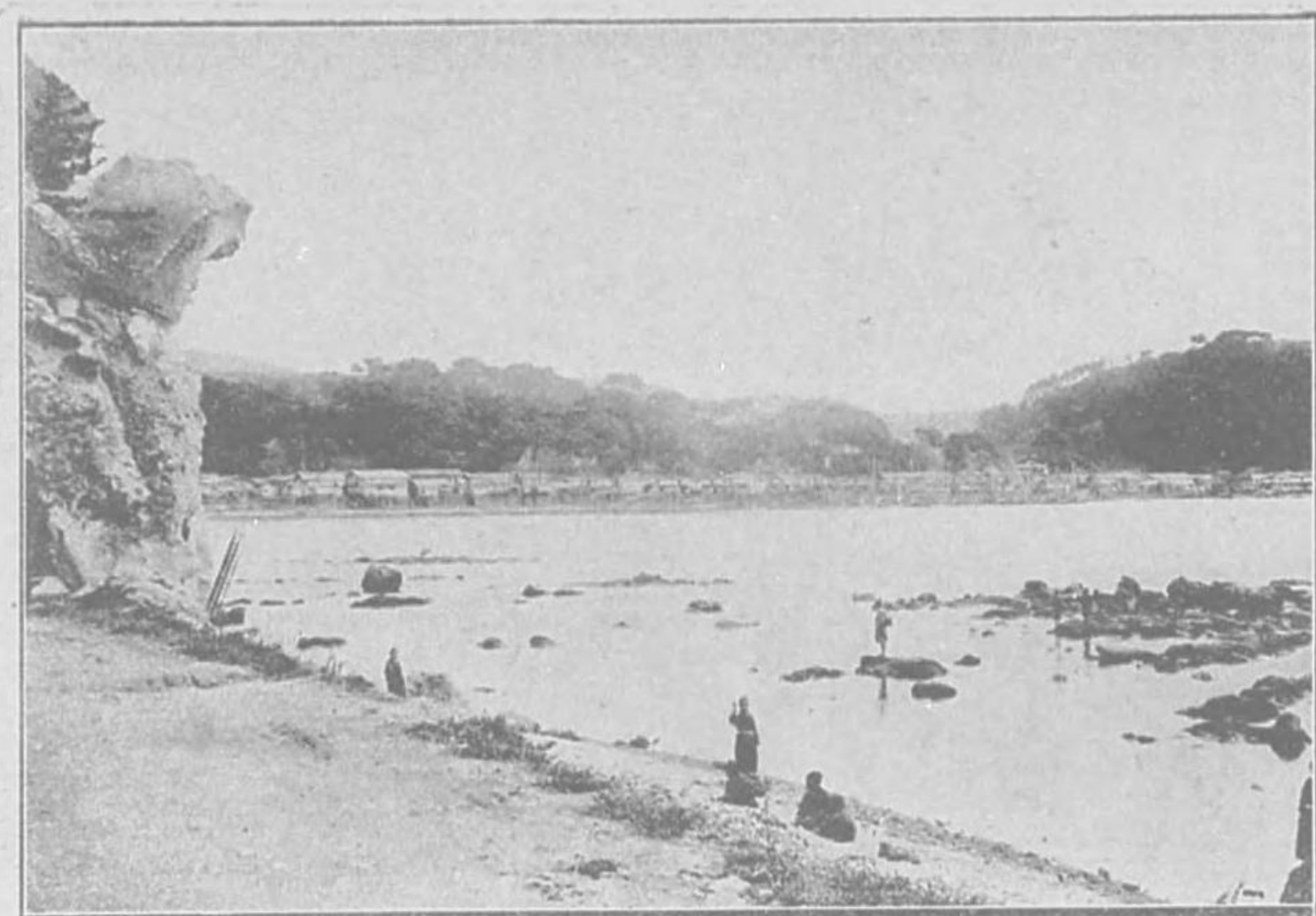
Tōryū Shintō Temple, at Hachinohe; Mutsu.

(陸奥八戸附近) 對泉院山門



Gate of Taisen-in near Hachinohe; Mutsu.

(陸奥) 深浦洞門より海浦灣内を望む



View of Umiura Bay, from Fukaura Grotto; Mutsu.

(陸奥八戸附近) 脱龍洞の溪



Ravine of Datsuryūtō, near Hachinohe; Mutsu.

當龍神社 (陸奥)

青森縣三戸郡八戸町の八幡町にあり、在古より八戸城内に勧請し後、藩の祖先直房、光行の靈を合祀し、寛文六年に今の所に遷座せり、南部家代々共に深く、この神祠を尊崇し殿宇の造營修理等は、凡て藩の費用を以て之に充てたり、されば、殿宇の壯大なるは、近傍に其比なく、境内の清淨にして、神寂びたる、自ら敬虔の念を生ずべし、社の位置は、市街の北端なる、丘陵の上にありて、北に渺茫たる大洋を望み、東西北の二方には、遠近の山嶽ありて、馬淵の大河白布を晒すが如く流れ、風景尤も賞すべし、毎歲八月五日六日に秋季大祭ありて、渡輿式の盛大なるは、近傍に名高きものなりといふ。

深浦洞門より海浦灣内を望む (陸奥)

奥州西津輕郡深浦の洞門と云へるは、明治二十六年、新道開通の時、穿ちたる隧道にして此邊眺極めて暢潤、前には海浦灣の平波を望み、右方には日和見山の丘陵を控へ、有間濱の砂石は、五彩燦爛として錦の如く、圓覺寺の鐘聲は、花鯨沈々として樹間を渡る、其光景の明媚なる、筆舌の能く盡す所にあらずるなり、殊に此地は、上古の都加留蝦夷にして、齊明天皇の即位四年、阿倍比羅夫が舟師を率ひて、齋田淳代、膽振組などの蠻族を討平したりと傳ふる、古代史中有名の遺蹟なれば、探勝、吊古、二つながら妙趣あり、今尚ほ日和見山の四邊には、石器時代の遺物を發掘するもの多しと聞ゆ、有志の士亦事蹟の冥晦を嘆じて、共築園、又は深浦保勝會などを起し専ら考證に力め居れば、遠からずして、これが詳細なる史蹟を紹介するの時期あるべきを信ず。

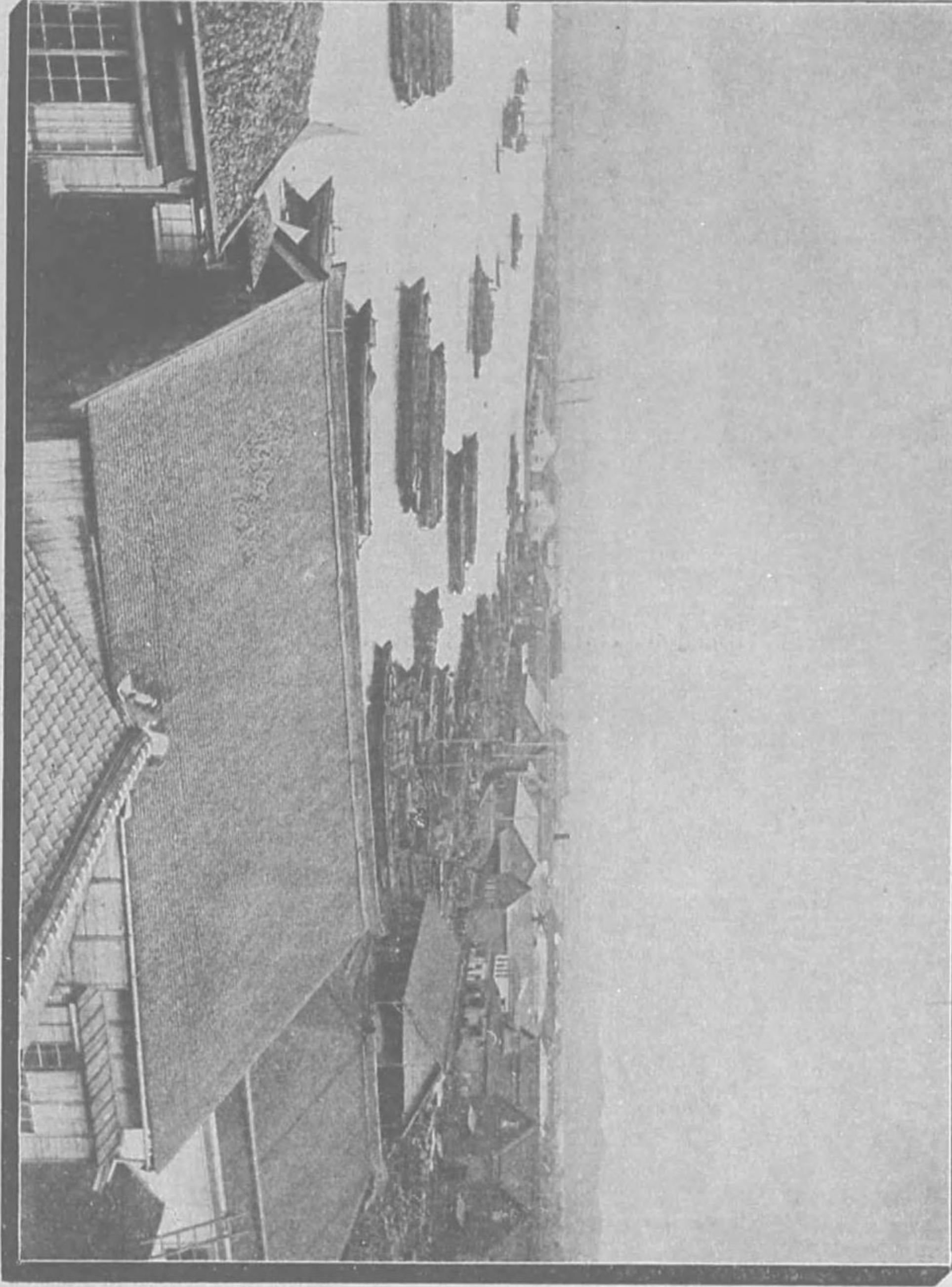
對泉院山門 (陸奥)

建武年間、新田氏の一族たりし左馬之助行親なるもの、この地に漂流し來りて、居所を、南館に構へたりしが、其子孫に至り、祖先の冥福を修めんとて、近傍に一小庵を建立せりこれを當山の創始とし、新井田村の名稱もこのころより始まれり。天文二年に、この小庵を寺澤に移し、八代の孫左馬之助盛政これを開基す、後谷澤に移轉し、南部山城寺源重直によりて中興され、以て今日に及べり、堂宇の壯麗なるは更なり、巍々として聳ゆる山門を仰がば、其昔し、新田氏の孤忠苦節を想はれて、自ら禮拜敬慕の心生ずべし。

脱龍洞窟 (陸奥)

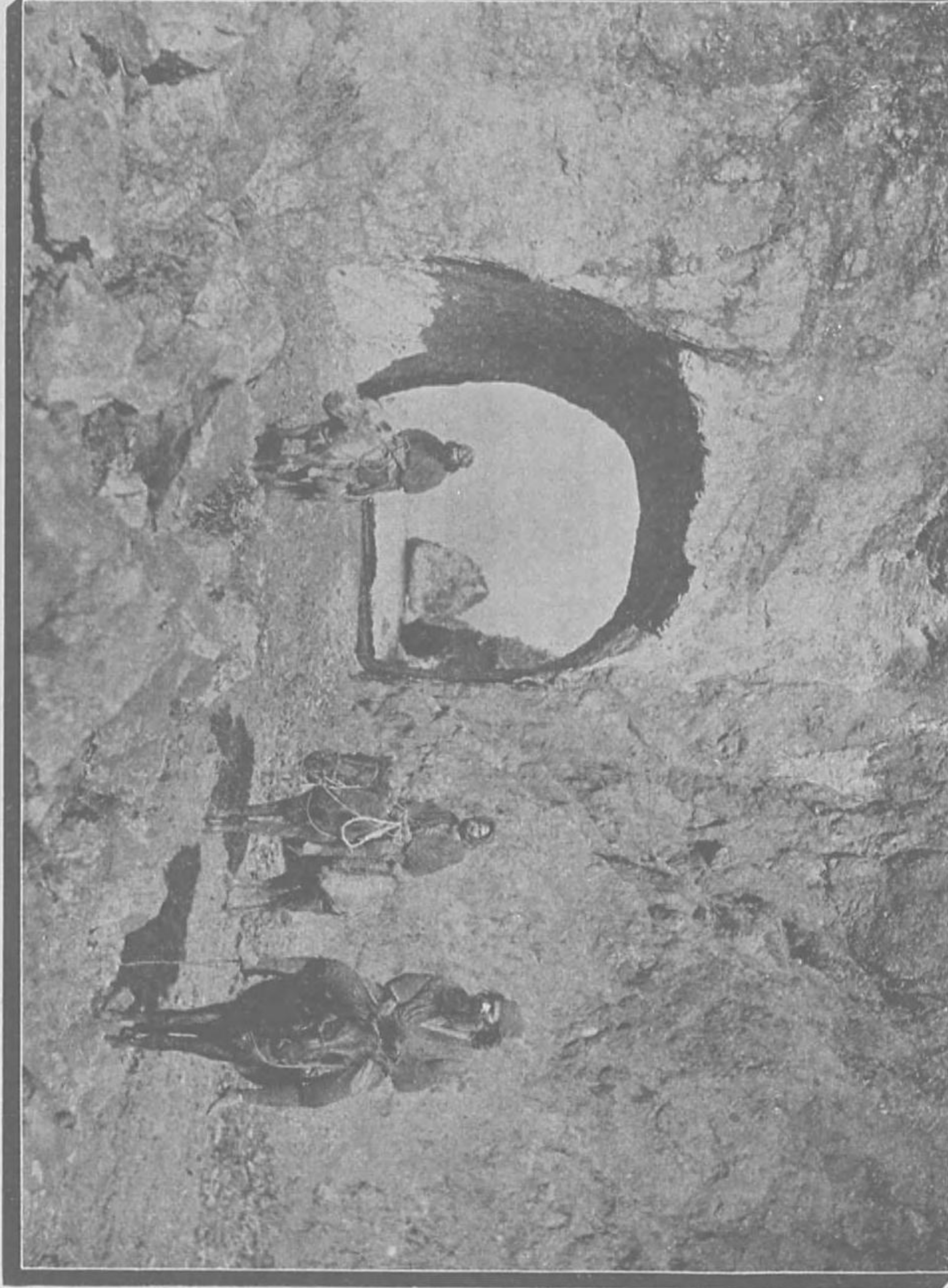
三戸郡八戸町を距ること三里、階上村金山澤にあり、斷崖の直立するもの數十仞、仰いで之を望めば、奇岩怪石將に頭上に墜落せんとし地盤亦た數十丈に連れる大磐石よりなる、溪水は、其上を奔流して、直に洞門を貫き來り、急流白沫を飛ばして洞口より、噴出す長さ凡そ十間、四壁は凡て鱗狀をなし、其觀頗る怪奇なるより、土人は、この處を潜龍の居りし跡といひ傳ふ、洞内には、岩燕群飛し洞外の岩石よりは、奇木生じて、其景の壯にして奇なること心氣をして爽快ならしむ。

Hakodate Harbor, Hokkai-dō.



(北海道) 函館港

Ainu natives at Mororan, Hokkaidō.



(北海道) 室蘭港に於けるアイヌ乗馬の景

Ainu:

The Ainu are the aborigines of the Hokkai-dō. The picture is from a photograph taken at Mororan, then a small village, but now, because of its fine harbor and the railway connection with the interior, a flourishing town. The Ainu population of the Hokkai-dō is not far from 17,000, but it is gradually diminishing. It remains to be seen whether the recent attempts at education will check this decline. It is evident in ancient times, the Ainu occupied a large part of Japan. Many names of places in Japan are unquestionably of Ainu origin, indeed the names of Mt. Fuji is probably the Japanese pronunciation of the name of the Ainu Goddess of fire.

Hakodate.

Hakodate, the chief port of the Hokkai-dō (formerly called *Yezo*), lies on the north side of a peninsula jutting out from the southern end of the island. The harbor presents attractive appearance to the traveler as his steamer rounds the head land, which shelters the anchorage. Hakodate was in former days, one of the five ports open to foreign commerce. It has grown rapidly of late years and now has a population of about 9000.

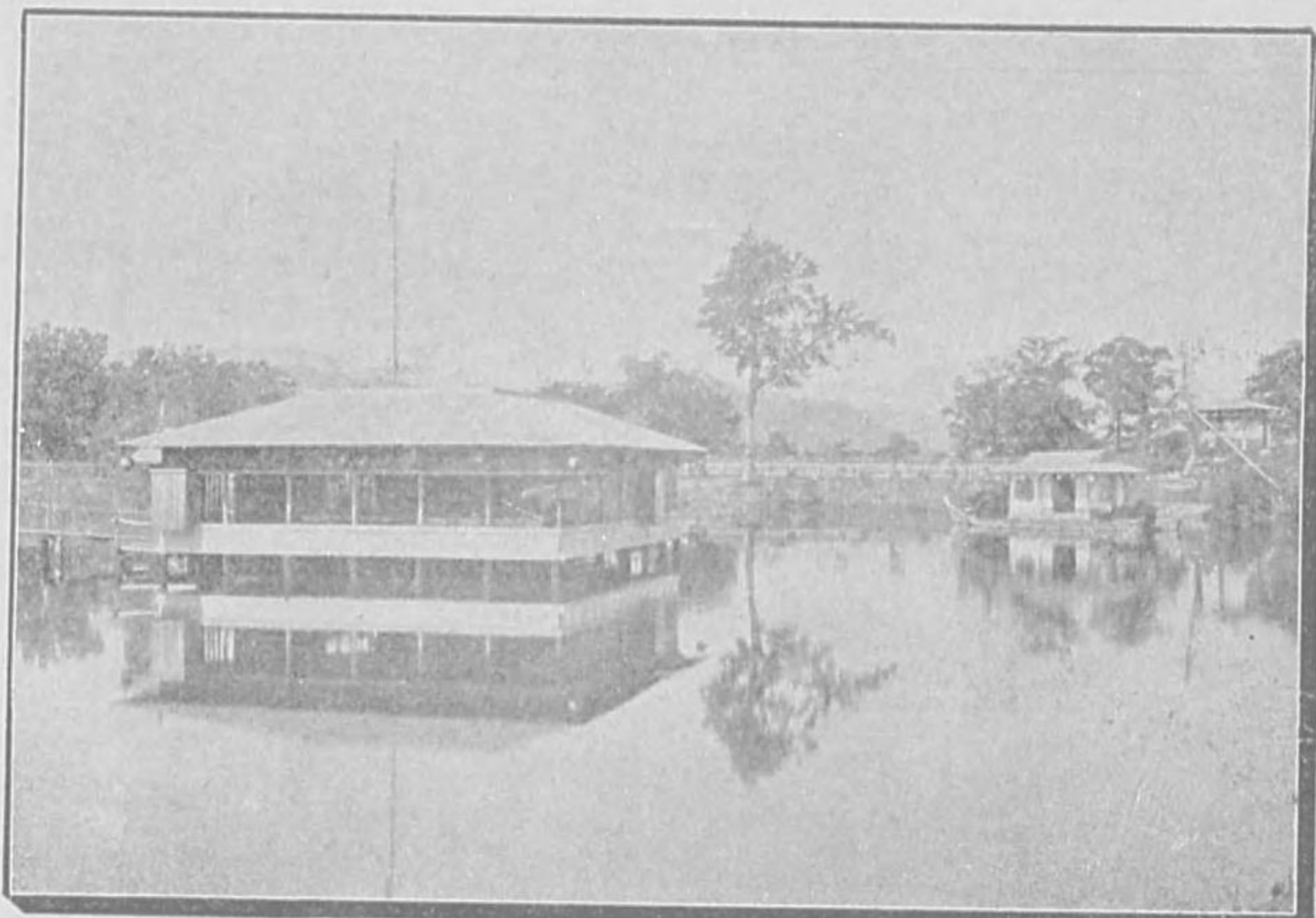
室蘭に於けるアイヌ (北海道)

室蘭港に臨みたる良港なり市街は丘陵によりて建られ諸種の公署より私立の商館頗る多し地勢は沿岸漁業地を控へ鐵道の起點となり加之灣内水深くして大船巨船も自在に淀泊し得べく以て四季の風濤を凌ぐに足る故に近年ますます繁昌を加へて將來いよく多産なりといふ現に戸數千に近く人口三千に垂んとすと以て其景況を推知するに足らん。如星き良港も近年までは荒廢に委せられ僅にアイヌ土人が漁舟を泛ぶるに過ぎざりき四近の大平原は今も尙荆棘に封せらるゝ多きも其開拓せらるゝ速きにあらざるべし。荆棘をられて黍菽の田園となるに伴ひ土着のアイヌ人種も自ら減少して終には其種を絶つに至るべきは從來の跡に徴して明なり優勝劣敗とはいへまな辨むべきにあらずや。

函館港 (北海道)

渡嶋國蝦田郡の西南端にあり、函館山の山脚曳いて海上に出づるところ、一萬六千三百に近き人家、宛も魚鱗の如く重疊せるものを見る、港内の廣さは東西二十二町、南北二里六町に連なり、水は深くして底に砂礫すくなざらぬ錨爪を爬擱するに宜しく、港の背にせる山は、屏となりて風を遮ぎり、北海唯一の良港として、早くより海外の貿易開けたり、港の西端角に辨天砲臺あり、東方曙礁砂洲のある邊に、燈臺船を設け、海面より高さこと三丈六尺にして、港内の奇觀たり。風帆船、和船、泰流船常に出入して、さしもに廣き港内も帆檣の爲めに掩はれ、交通貿易の繁昌、商業取引の活潑なること、日本五港の隨一たるに背かず、市街の整頓利便亦た文明の新利器を供へて、東京横濱にも劣らざるほどなり。

(北海道札幌) 中島遊園



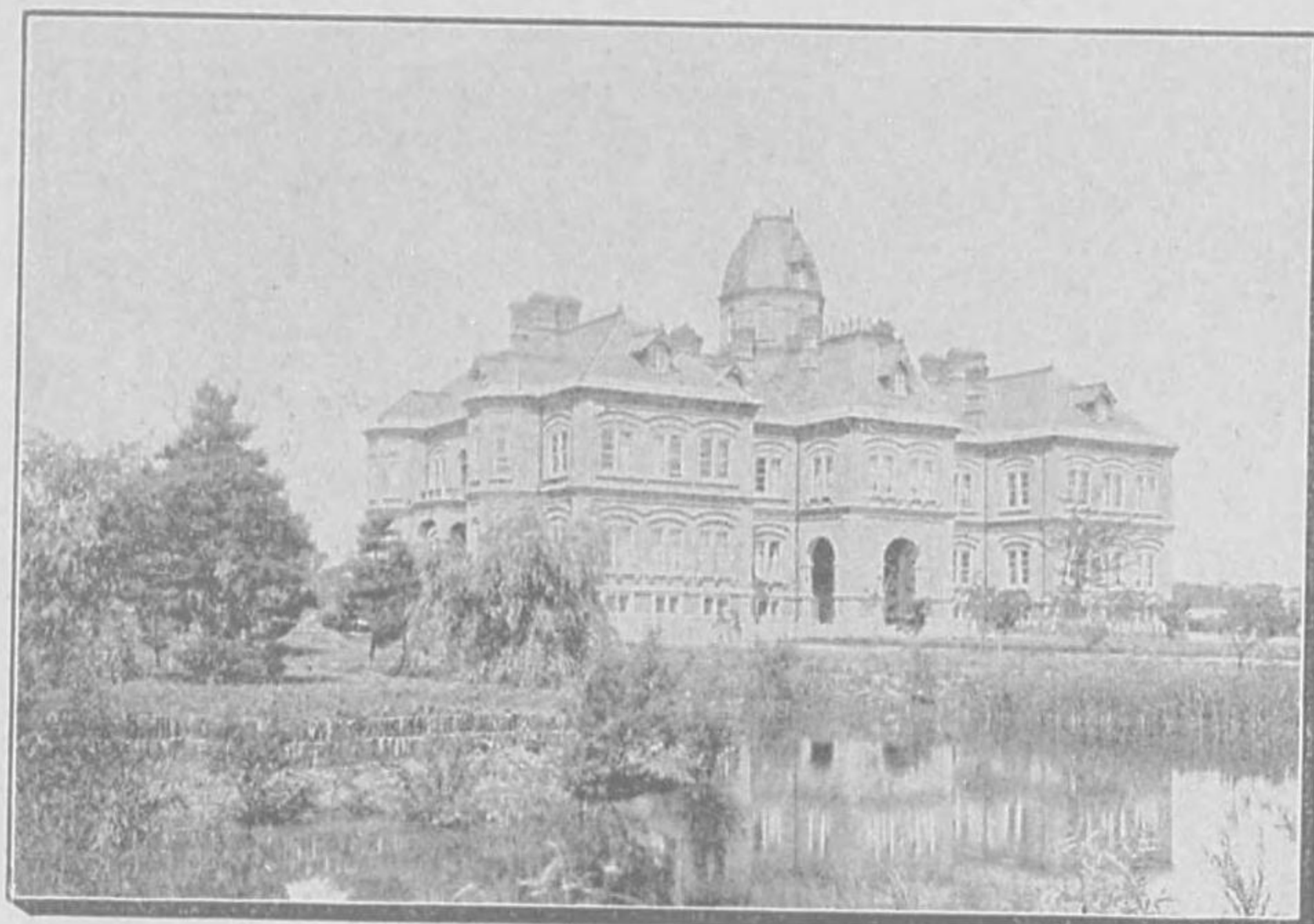
Nakajima Park, Sapporo; Hokkai-dō.

(北海道札幌) 圓山公園



Maruyama Public Garden at Sapporo; Hokkai-dō.

北海道廳



Hokkai-dō Prefecture.

北海道(札幌市街)



Street in Sapporo, Hokkaido.

北海道廳 (札幌)

明治二年この地に設けられたり、當時は、茫々たる原野中の一家屋たりしも、市街の繁華に赴くと共にすく／＼廳務も進捗し、明治九年に至りては、所在、全く市街の觀をなすに至れり。現今の道廳は、札幌市の北二條西六丁目にあり。赤煉瓦を以て築きあげ、石板を以て葺きたる、八角形の巨屋にして、巍然たる壯觀は、北海道の最高府として、大小の政務をとる官廳の威嚴を備へたり。この廳の壯大を見て、其昔し明治二年に、廳の吏員が、白雪を踏み分け荆棘を披きて、漸く官邸を構へし當日を追想せば、恍として夢の如き感あらん。

札幌市街 (札幌)

三十年前は、白雪山河を埋めて僅に熊の蹠痕を留め、春來り夏去り秋となれども、滿目榛莽生ひ茂りて、飛鳥も時に迷入荒野なりしところ、今や、六千に近き人家軒を並べ、三萬四千弱の士農工商朝夕に業務に忙しく、煙筒の煙天にみなぎりて、巨館の高棟雲に聳ゆるとは、滄桑の變も當ならざるを覺て、文化進歩の迅速なるに驚かざるものなけん、この市は、北海道政治商工其他百般の中心にして、鐵道の架設あり、道路の開通あり、商業の繁華は百貨をこの地に輻湊せしめ、北海稀に見る大市街たり、市街の周圍は、迢々たる田園遠く連なりて、嘉禾珍果の收穫多く、たゞ北部にあたりて、鬱蒼として連る深林の影を望むのみ。小樽港より道程九里餘にして、坦々たる大路を通じれば、行旅運輸の便すこぶるよしとす。

圓山公園 (北海道札幌)

札幌の市街を南に去ること二十五町、圓山村の地にあり、この所に札幌鎮守の神祠を建立して、大國魂尊、大日貴尊、少彥名尊の三位を合祀し、社宇甚だ神嚴なり。境内は地高燥にして、清淨なるに樹木深く茂りて、社頭の光景いとかみさびて拜まれ、清趣雅致二つながら富みたる境なり。毎年、六月の十四日より十六日迄は、盛大なる祭典ありて、各戸皆な業を休みて神酒を酌み、旭旗萬戸に翻りて太平和樂の象洋々たり、附近の老幼兒女争ふてこの祠に賽し、神威の前に盛運を祝し、園内の風景に太平を謳歌せざるはなく、歡呼の聲四近に盈つとす。

中島遊園地 (北海道札幌)

札幌區の南方、市街の終るところにあり、老樹茂り合ひて、閑靜幽邃の趣に富み、近年に移植せし櫻樹は、古幹蜿蜒の態なしと雖も、弱枝若梢花を着くる早くして、北地の春色を飾るに宜し。東方は、芳草萎々たる原野を隔て、豊平川の長流を眺め、西方には藻蘆山の翠黛濃にして、直に園に迫るを望む、春夏秋冬ともに遊覽に適し、庶民の筈を曳くもの甚だ多し、園の北方に瓢形の小池あり、岸上には綠樹蒼鬱として、水清く波穩に、また遊覽に適す、この所に瀟酒たる割烹店あり遊覽の客は小憩して北地の酒肴に饜胸を慰むるを得べし、其他、洋風の會館あり物産を陳列して遊覽に供す、後方にある競馬場は有名なるものにして、時に盛大なる競馬の催あり、北海道の原野に飼育されし名馬風をさりて走り、其壯觀夙に世に稱せらる。

豊平館 (北海道札幌)

札幌に尤も名高き西洋料理店にして、其構造は二百餘坪を占むる二層洋館なり、周囲には鐵柵を繞らし、庭園頗る廣く、散步運動をなすに適す、構内には、食堂あり玉突場あり、多人数の集會すべき大廣間、及び、幾多の寢室もありて、洋人の就いて宿するもの多くあり、そも、この館は、去る明治十四年に車駕北海道を巡遊在らせられしとき、行在所に供せんとて、特に構造せしものあれば、其壯大偉觀なるはいふまでもなし、北海道に遊ぶ紳士は、必ず札幌を訪ふべく、札幌を訪ひし上は、一度びこの館にいたりて、北地の珍味を味ひ、更に、庭園に逍遙して、開けゆく治世を謳歌すべきなり。

幌内炭山 (石狩)

北海道は由來炭坑に富む、就中、幌内炭山の如きは、尤も著名なるものにして、空知郡市來知村の東南一里三十町餘に在り、坑區の廣袤五里餘に及ぶ大炭山にして、明治五年六月札幌の人早川某これを發見し、同十二年にいたりて、坑道を開いて坑夫を募集し、諸般の設備全く成就し坑門を開始するに至りしは、同年十二月の末なりしか今や北海道炭鐵會社の有となれりと、其規模の宏大にして、炭の産出の多きは、日本炭山中の最たるものとして數へられ、北海道の富源として尤も名高きものなり、現今、この地は戸數七百を越え人口二千五百に垂んとす、其盛大なると思ふべし。

硫黄釣り上げの圖

我國の火山脈に富みたるは、夙に世に名高きところにして、北海道の千嶋列嶋は、全く火山作用にて出來たるものなりとさへ傳へらる千嶋列嶋を内地に接續する釧路は、火山の所在地として、硫黄を産する多し、從來専ら山系より、採掘せしが、海中にも火山口ありて、其噴出せるもの多量なると發見せられたり、年々に其釣りあげを舉行し、收獲すること巨額に及ぶといふ、一碧の海中に、船を泛べて、可燃物性の硫黄を釣りあげると己に奇なるに、其方法の奇構なるまた驚くべきものありといふ。

夕張の瀧 (石狩)

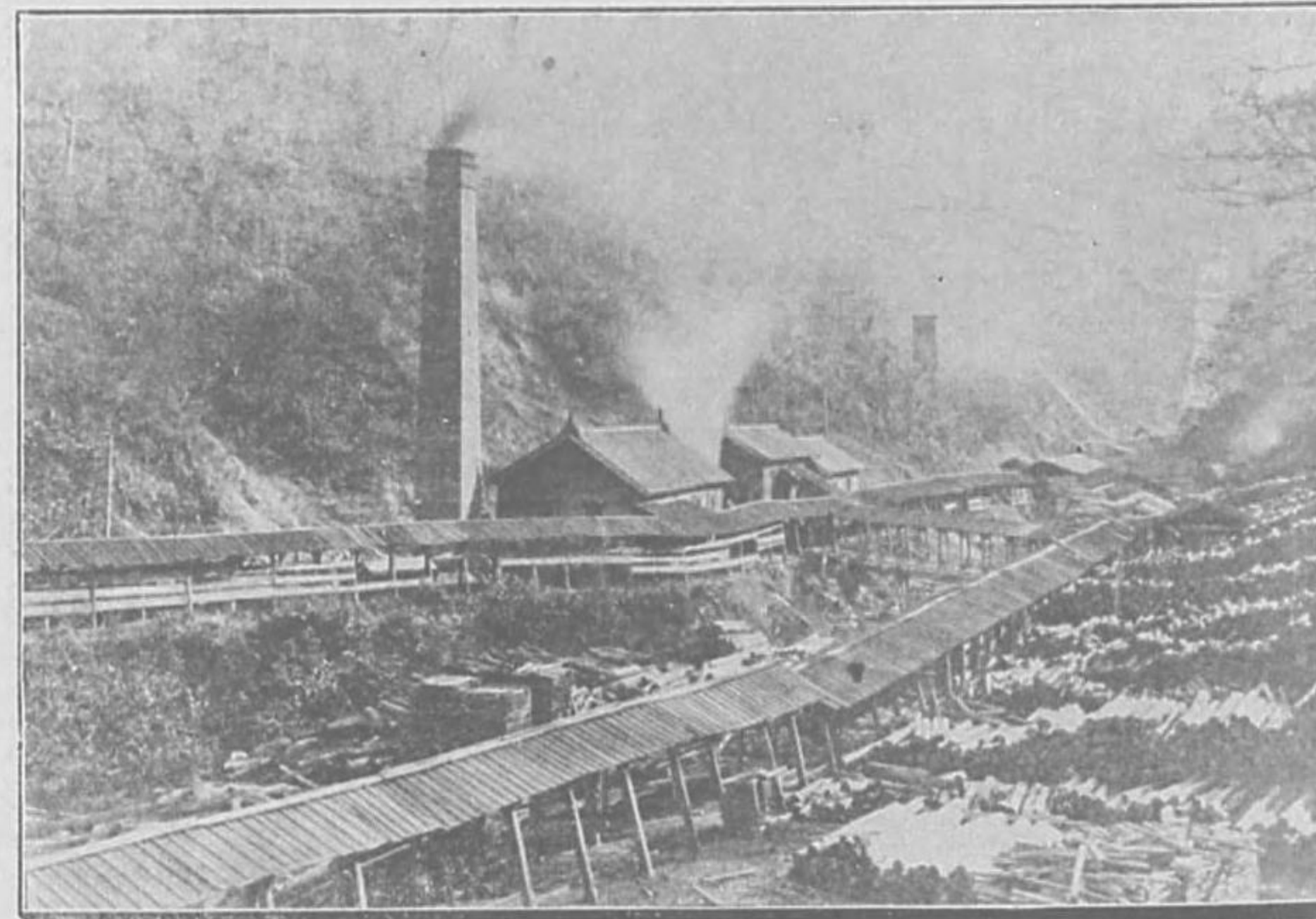
北海道の山河は、雄偉奇抜のもの多く、其壯觀遠く内地に勝るもの尠からず、夕張川沿岸の如きも其一なるべし、夕張川は、源を夕張岳の高峯より發し、炭山の東南部を過ぎ、馬追山の麓を洗ひ、末遂に石狩川に澆く、兩岸は、奇岩怪石突兀として、峙立し斷崖削るが如く、山水の偉觀數ふべからず、夕張の瀧の如きは其一にして、滔々たる大瀑懸崖より直瀉し、山響き谷鳴りて、凄絶肌膚に迫る、近傍には、大石巨岩峙立して、勢きはめて壯絶なるに、樹木山を掩ひて青苔地滑かに、來り訪ふもの、宛も太古の深山に立つ想ひありとす。

(北海道札幌) 豊平館



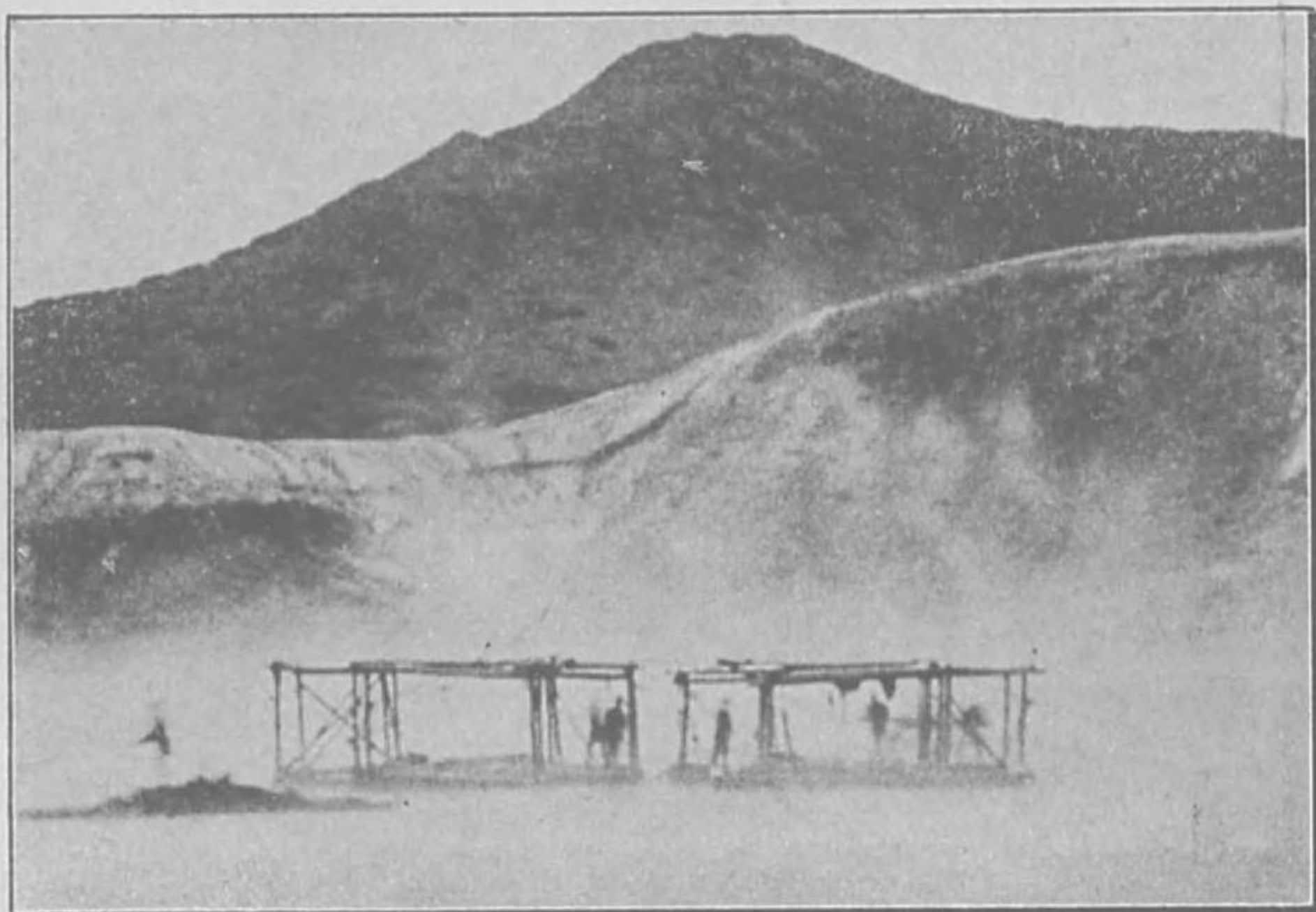
Hohei-kwan Hotel at Sapporo; Hokkai-dō.

(北海道) 幌内炭坑



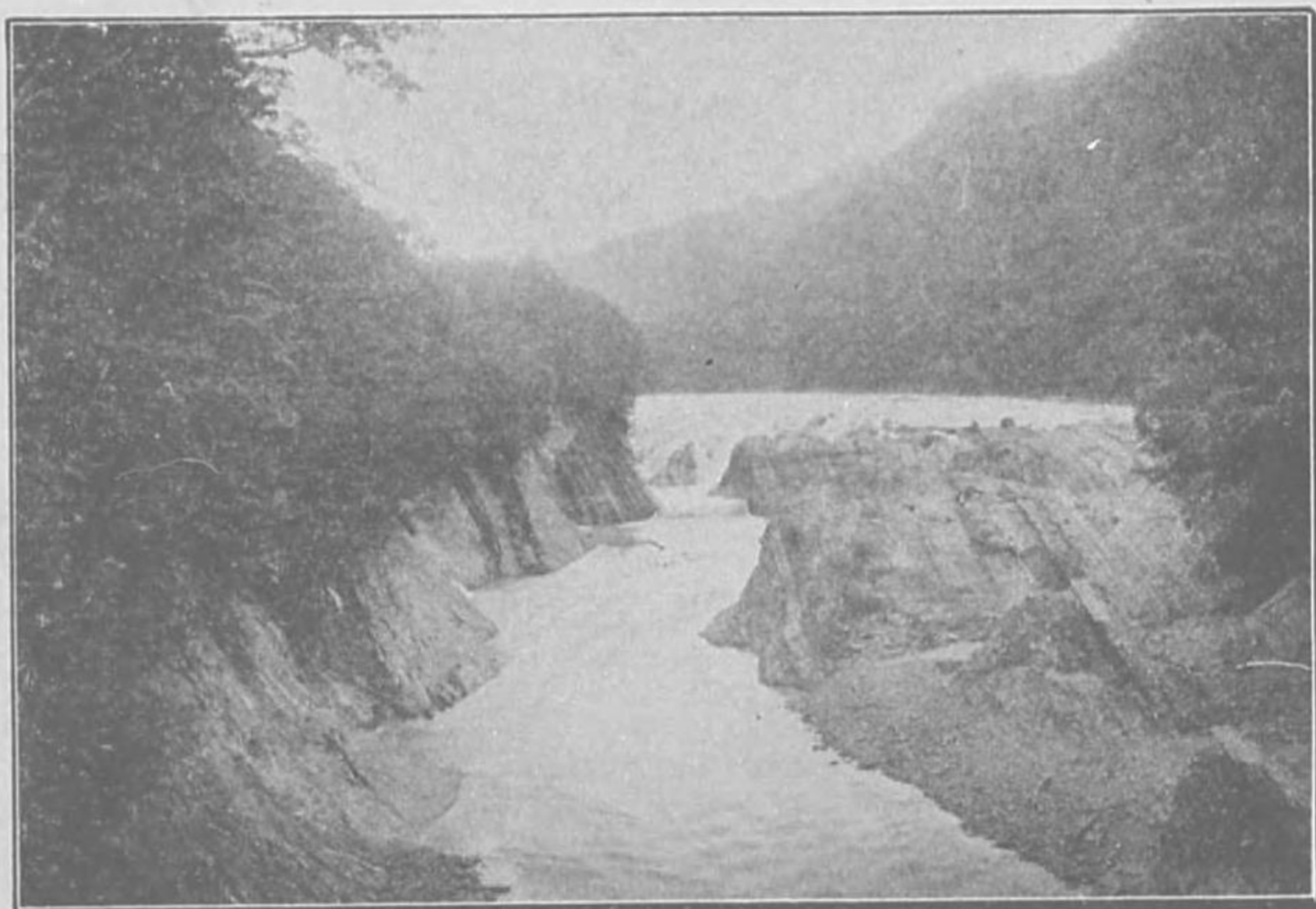
Horonai Coal Mine; Hokkai-dō.

(北海道千島) 硫黄釣上の景



Drawing Sulphur from Mines, at Chishima.

(北海道) 夕張の瀧



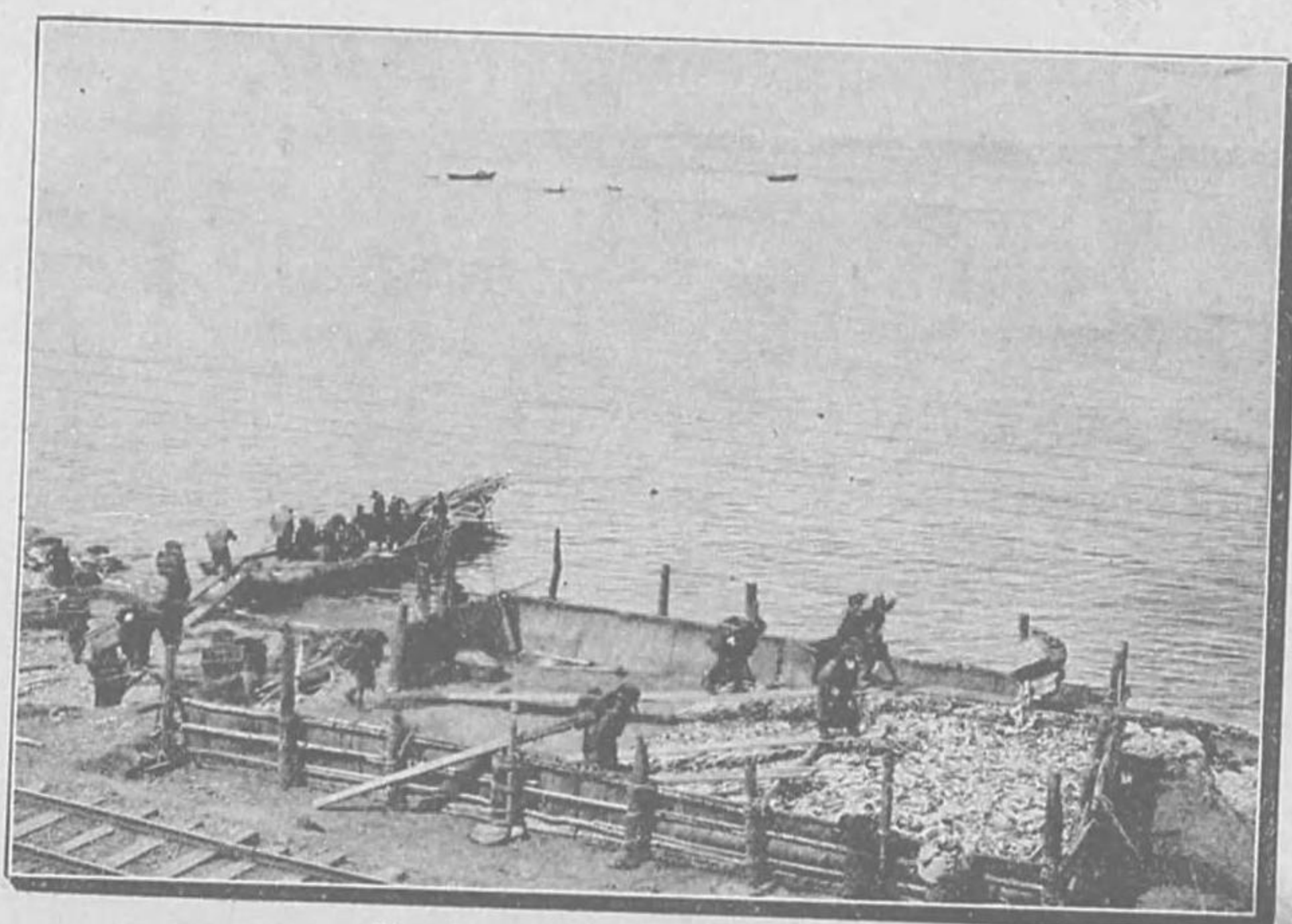
Yubari Water-fall, Hokkaidō.

(北海道) 札幌農學校



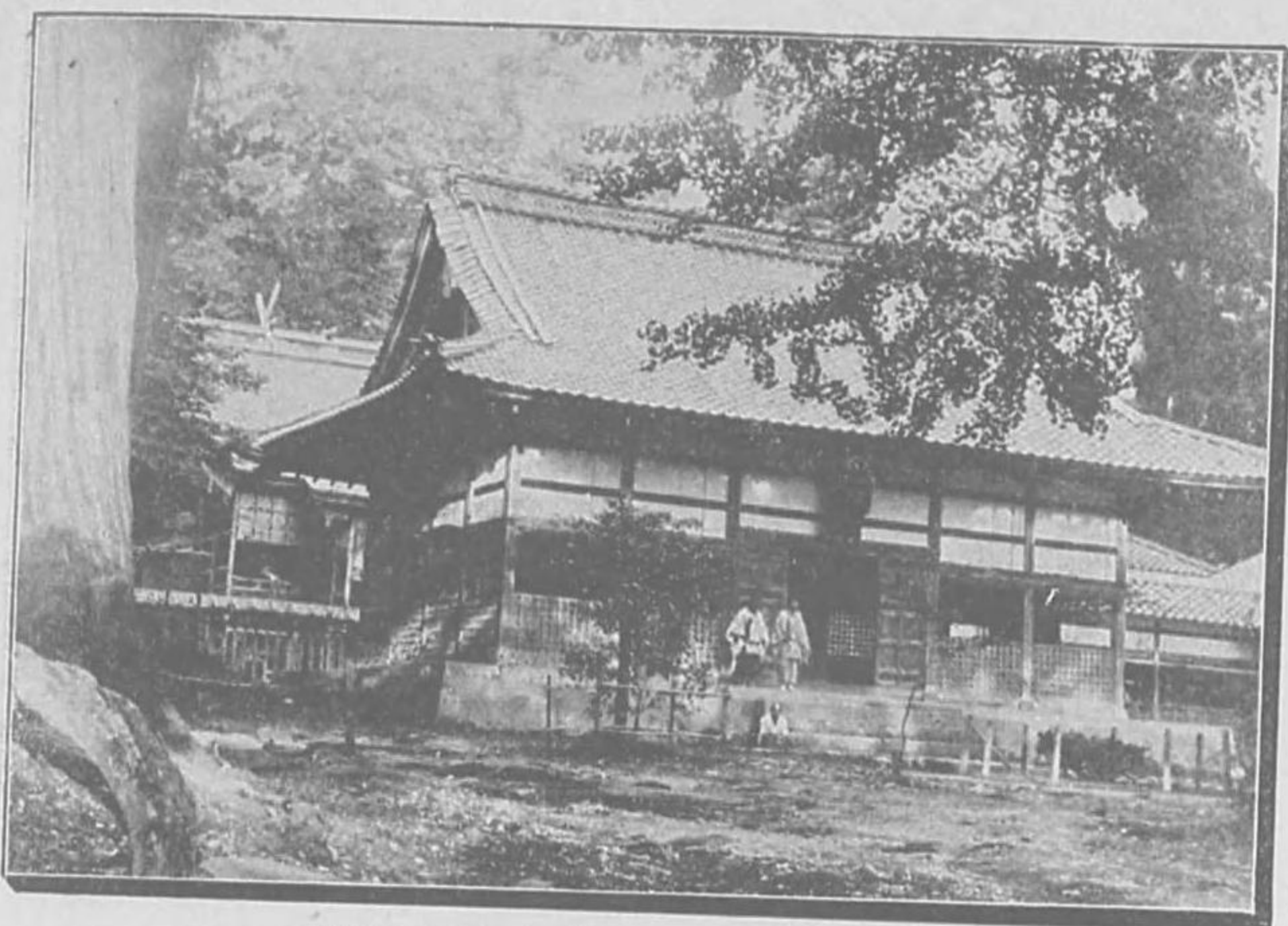
Sapporo Agricultural School; Hokkai-dō.

(北海道) 小樽漁場



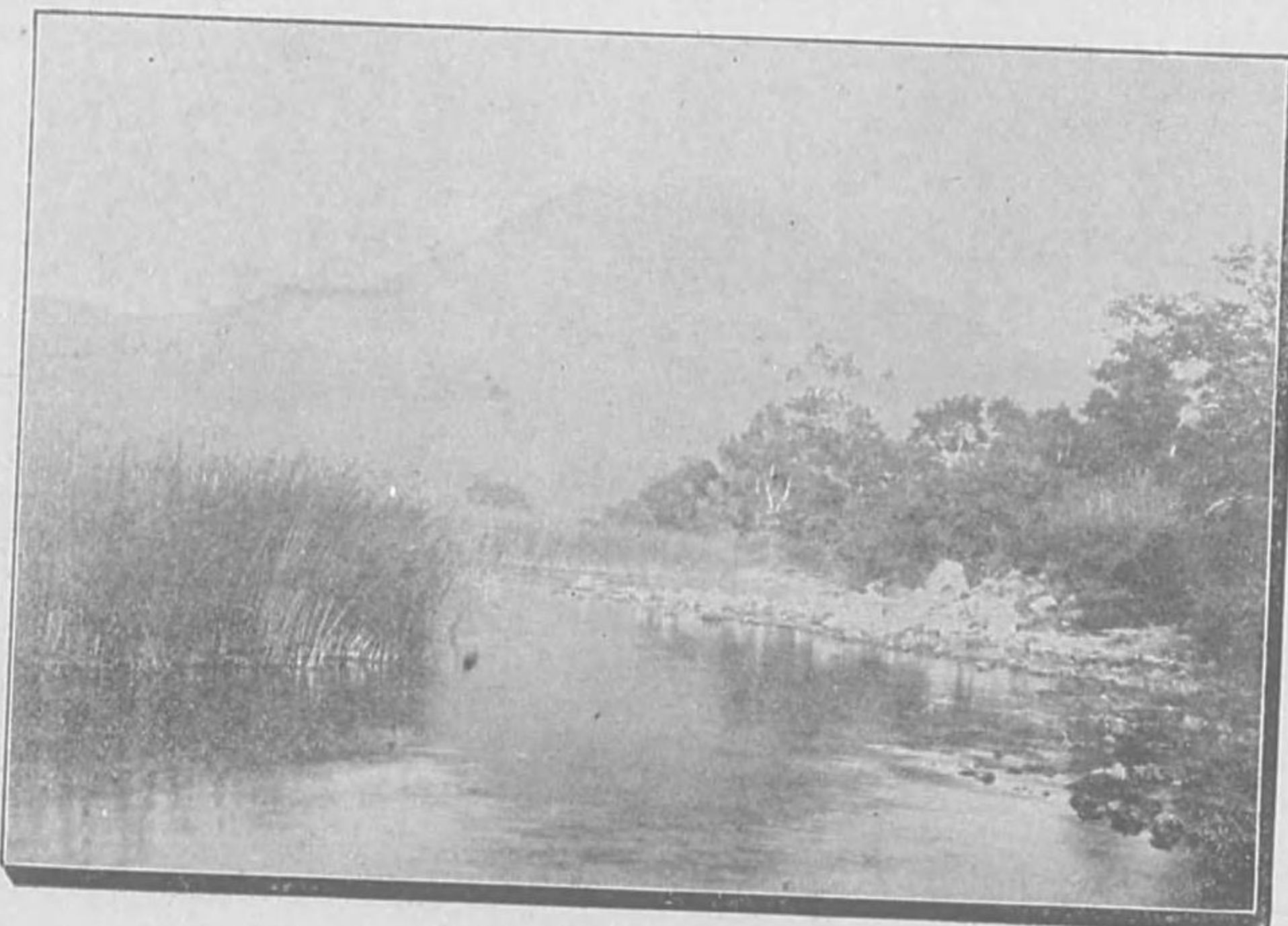
Herring Fishing at Otaru; Hokkaidō.

(加賀) 白山比咩神社



Shintō Temple Shirayama hime; Kaga.

(北海道) 釧路アカン湖



Akan Lake; Hokkai-dō.

札幌農學校 (北海道)

札幌農學校は、札幌區にあり、洋風造りの巨館数棟ありて、規模頗る廣大なり。この農學校は、日本にて、東京農科大學を除ては、尤も嶄新なる學理を教授する高等の學校にして、或點に於いては、農科大學よりも超絶するところ多く、其卒業生は學力と經驗に於いて、夙に世の推重を蒙りつゝあり。校に附屬する農園は、まことに廣く且つ整頓したるものにして、あらゆる植物を試培し、また家畜をも飼養せり、五穀菜蔬の生育したる外に藪として茂れる樹蔭の下に、家畜の三々伍々牧草を食ふさま、いかにも長閑なり、附屬の真駒内種畜所も、規模頗る大にして、講究の學生をして、すこしの遺憾なからしむといへり。

小樽漁場 (後志)

北海道は、日本の寶庫と稱せられ、海陸の產物枚擧するに遑あらず、特に沿海に於ける漁業の盛なるとは、實に驚くべきものあり、後志國小樽附近は、斯業頗る盛んにして、鱈の漁期に至れば、幾萬の魚群海を蔽ふて集まり來り、其漁獲の饒多なるは、殆んど想像すべからざるものあり、海岸一帯は漁船の出入頻繁にして、其漁場に堆積せるもの、全く塙を掩ひつくさん斗りなりといふ。これら多額の漁獲は或は食料として、又は、肥料として治ねく日本全國に供給せらるゝ而巳ならず、大陸に向ふても、其販路を開くほどにて、實に北海道産物の主要なるものなりといへり。

阿寒湖 (北海道釧路)

釧路町より二十一里に、阿寒湖あり、北海道に有名なる噴火山にして、高四千九百五十尺秀麗なる圓錐形をなして天に聳へ、傾斜急峻にして容易く登るべからず、五六合目に至れば、脚下に一面の明鏡を開くものあり、これを阿寒湖とす、阿寒湖は、古代の噴火坑に水の湛へしものにて、周回二十里餘、湖中に四島ありて、急沙、白揚、大小、鳥、雙峰東西に峙ち、峯形湖面に落ちて細澗に搖さ、風景の幽邃なること、中禪寺、蘆の湖に勝るものあり、湖中に魚族多く、オベラエと稱するものは、長四尺にいたるものありといふ、湖邊の名勝亦た乏しからず、阿寒瀧布の如きは高さ三百間幅五十間に及び、其壯觀は那智瀧布に勝ると傳へらる、たゞ、地の北海に僻して、遊覽の客なきを憾とするのみ。

白山比咩神社 (加賀)

元正天皇靈龜二年の勸請にして、後數度の移轉あり、文明十二年に現今の所在地なる、石川郡河内村大字三宮に本社を宮柱をたてたり。本殿は明和七年に建立され、他は、明治十四年以後の建築にかゝる。元延曆寺の支配下にありて、境内の宏潤と共に、四近の繁榮も著しかりしが、明治維新の後に、神佛混淆禁止と共に、境内は、三千八百坪餘に縮少せられたり、されども、古來よりの靈境のこととて、神威の嚴はいさゝかも失はず、境内には、古木老樹森々として、櫻楓亦た多く、參詣の者甚だ多し、附近に、琵琶瀧、歌古瀧の勝景あり、孰れも吟賞に値すべし、全社の祭禮は、千有餘年繼續せる古式なりといふ。

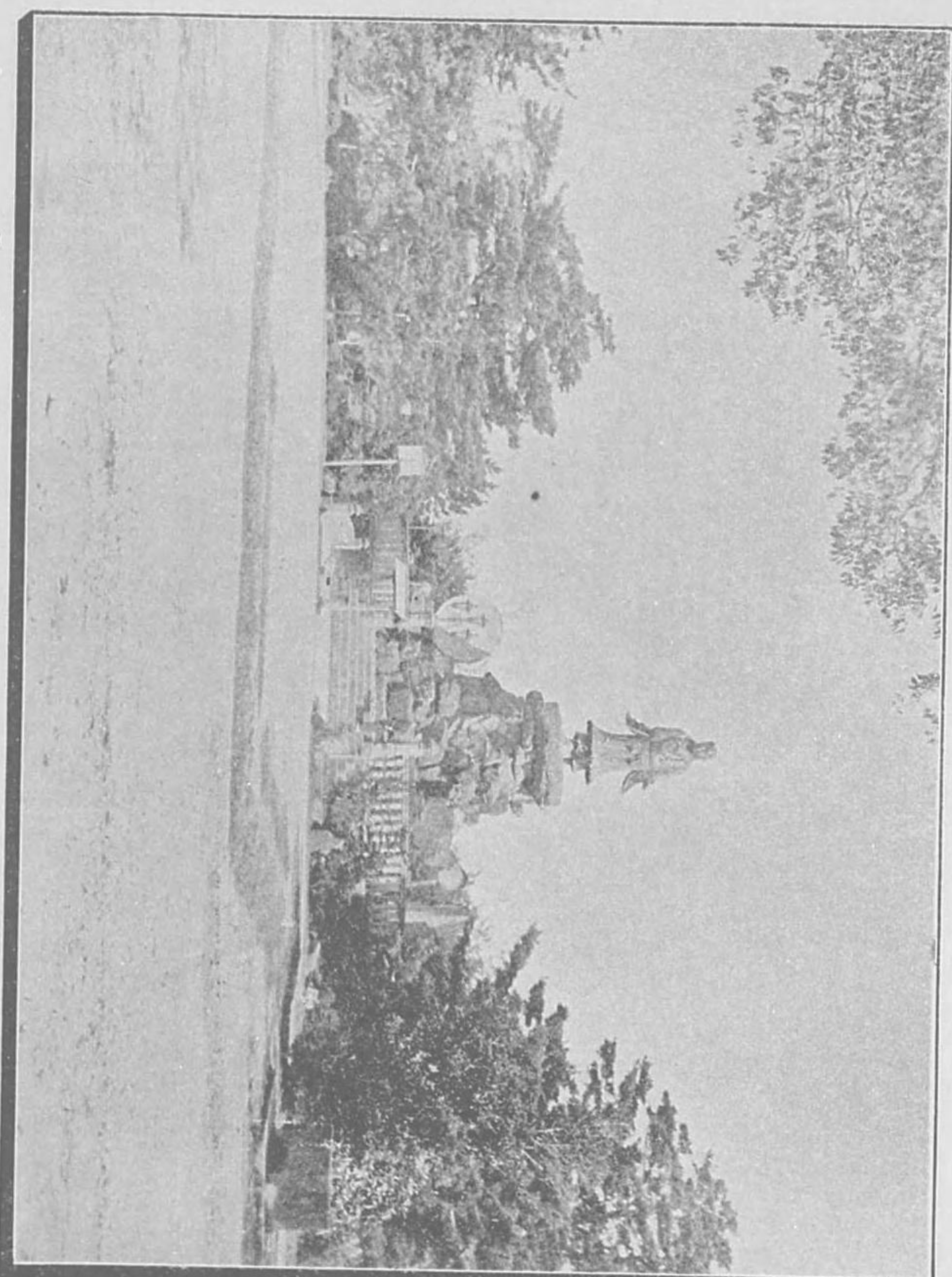
金澤公園 簡覽

舊藩主前田家が文政年間より漸次に經營せし名園にて面積二萬三千六百坪に亘る。規模宏大にして庭園の雅趣甚きるなく日本に有数の大公園にて其面積は經佳なり。園内にある小丘にして櫻の辻路を築きつゝ中央に石造の三重塔を造り四邊には樹を植ふ。七箇の奇形なる石あり配置よく据へおける丘上の眺望は經佳なり。園の中他虹霞橋、虎嘯石等其岸にあり。黃門橋、園内に白龍潭といへる小流ありてこれに架せるものなり一枚の花崗石にて長さ一丈九尺、幅二尺三寸あり橋畔の景色尤も絶佳なり。夕顔亭、茶室めきたる風流なる構造なり名家の扁額を掲げ庭内の木石みな雅致ありこの亭より前面の池を隔て、一帯のかゝるわが松蔭の淵といふ。紀念碑、十年戦役死者の爲に建てしものにて標基の高さ二丈四尺、其上に日本武尊の銅像を安置す高さ一丈八尺三寸なり。柵内に別に石碑を建てて戦死せし石川縣人の忠魂をといひ、其他に紅葉山、博物館、成巽閣、金澤神社、金城靈澤などの壯觀あり。

この園を兼六公園といふは李榕比といへる人が洛陽名園記に六つの佳絶を數へし其の凡てを兼ねるといふ意にて、白川樂翁公の撰びしところなりとぞ。因に曰ふ、この兼六公園と岡山の後樂園及び水戸の偕樂園を稱して、日本の三公園といふなり。

The Public Park at Kanazawa.

This park originally formed a part of the grounds of the Daijyō of Kaga, the ancestors of the present Marquis Maeda. It was the result of many years of careful thought and is esteemed the finest of its kind in the Empire. The true name of the park is the "Kenrokuen". This name may be rendered, "The Park which Combines the Six." There are said to have been six noted parks in China, each renowned for some characteristic feature. This garden was believed to combine the characteristic features of all the six.



(加賀金澤) 兼六公園内日本武尊の銅像

Bronze Statue of Yamatotake-no-mikoto, at Kenroku Park; Kanazawa, Kaga.



(加賀金澤) 兼六公園

Scene in Kenroku Park, at Kanazawa; Kaga.

Akaku Gate of Nishukiji, on Mount Ōiwa; Echū.



大岩山日石寺の阿覚門 (正中)

Water-fall of Rissuhoku-ji at Ōiwa-San, Echū.



日石寺の瀧 (山中大岩山)

Nakoku-ji of Nakoku Village, Kaga.



寺谷那 (村谷那加)

那谷寺 (加賀)

元正天皇の御宇に開基せられた後に花山院の寺に詣りて玉以那智谷坂の二靈場の冠字をとりて那谷寺と名づけ玉へ、天正年間兵火に罹りしを前田利常之を再興せり。境内の風光は北陸に名高く寺門を入りて法堂方丈の前をすぎ茂林蒼鬱たる間を繞りて石路を進み行くときは忽ちにして危峯怪嶺の亂立せるを見るべく全山凡て巉岩斷石より成る。石礎を捨てて山腹に達すれば昂麗觀音堂あり左に白山社を祠るこの邊り山廻せて骨皆な露れ奇觀云ふべからず處々の岩角には佛像を安置し室の正面の孝齋にも二三の塔宇あり。晩秋の頃は楓葉霜た飽きて奇觀更に一層を加へ、行人をして嘆賞おかしむといふ。この寺は眞言宗にして開基の古きより所藏の寶物亦た多しぞ。

Nakoku-ji.
This is a Buddhist temple founded by the Empress Genshō in the early part of the eighth century of the Christian era, though the name was conferred by the Emperor Kwazan about the year 986. It is situated in the province of Kaga and belongs to the Shingon sect.

大岩山日石寺の瀧 (山中)

大岩山日石寺の境を隔ると五町餘に、後慈經ヶ峰より發する溪流斷崖に迫りて飛瀾をなすもの二、右を吹雪の瀧といひ、左を鷹樞の瀧といふ、右なるは直下ると十五丈飛珠を散らして雪を吹くが如し、左なるは直下二十八丈、滔々として岩を打ち崖に衝り四近の山谷皆な鳴動す、盛夏の候も一度この地に遊べば忽ちにして汗乾き少時にして肌粟するを覺ふべし、特に地の幽邃にして閑雅なるを以て六根の塵を洗ひ盡して腔裏自ら清浄なると寺院の靈地なるを相待ちて參詣者をして湯仰の念を起さしむるに足るものあり、この瀧は八景の一として「鷹樞飛瀾」と數へらるゝものなり。

大岩山日石寺 (山中)

聖武天皇の神龜二年に開基せられたる古刹なり。大岩川に架せる雲臺橋を渡り石燈を數へ終れば二玉門ありて境内に達すべし。境内の景色幽邃にして俗塵を絶ち軒行九間、梁間六面の大堂巍然として正面に峙つ、其他に幾多の塔宇ありて不動明王の立像は堂後の岩壁に彫刻せらる行基菩薩の手に成りしものなり、左方に五條の小瀑布ありて詣者の垢離をとるに供ふ。境地の四面は奇岩怪石縱横に起伏し其間に幾多の洞穴を窺察し各名稱を附す、この間を徘徊せば身は倍も仙窟に入りたる感あり、寺の境内を畔んで千巖溪といへるは真に其名に背かざるものといふべし。寺内に八景ありて「蓋松春圃」は其優なるもの、松葉蓋を張りたる如く地を掩ふと方十六間餘なり、境に登臨すれば遠望の景色も亦た甚だ愛すべく信に中趣の絶勝地なり。

金澤城 (加賀金澤)

金澤市の中央に起る一丘陵の上にある。北陸に著しき名城にして戦國の時一尚宗僧徒の築きしものなり、天正年間には前田利家この城に封せられ爾來明治維新にいたるまで代々其居城たり、前田氏の據りしより其規模を擴大にして櫓臺渠溝を増し面積凡そ九万坪に及び、名にし負ふ加能越の太守の居城なれば其雄大宏壯はこゝに説くを用ゐず今も陸軍師團の所在地として天然の要害昔に換らざるも、明治十四年の大火にて昔時の樓閣城櫓等は盡く鳥有に歸したるは信に惜むべしとなす。

伊藤祐賢宅 (越中泊町)

日本國は、到る處に温泉の湧出するもの多く古來より、湯治といふとは、一般の常套語となりて、疾病のもの、必ず唱ふるものなりき、されば、各地ともに、温泉の湧出するところは、舊くより世に知られ、従ふて、其地には、名家の存するもの少なからず。小川温泉の泊町なる伊東祐賢の如きは、其著しきものにして、邸宅の宏壯にして規模の大なるといふを待たず、内部の裝飾尤も意を用ゐられ、庭園泉石草木の配置など、一々完からざるなく、近傍に無双の佳宅たり、往年、聖駕の北地を巡幸ありしとき、特に行在所に宛てられしは、主人の恐懼悦びかざるところにして、又以て、其邸宅の尋常一様にあらずるを推知すべし。

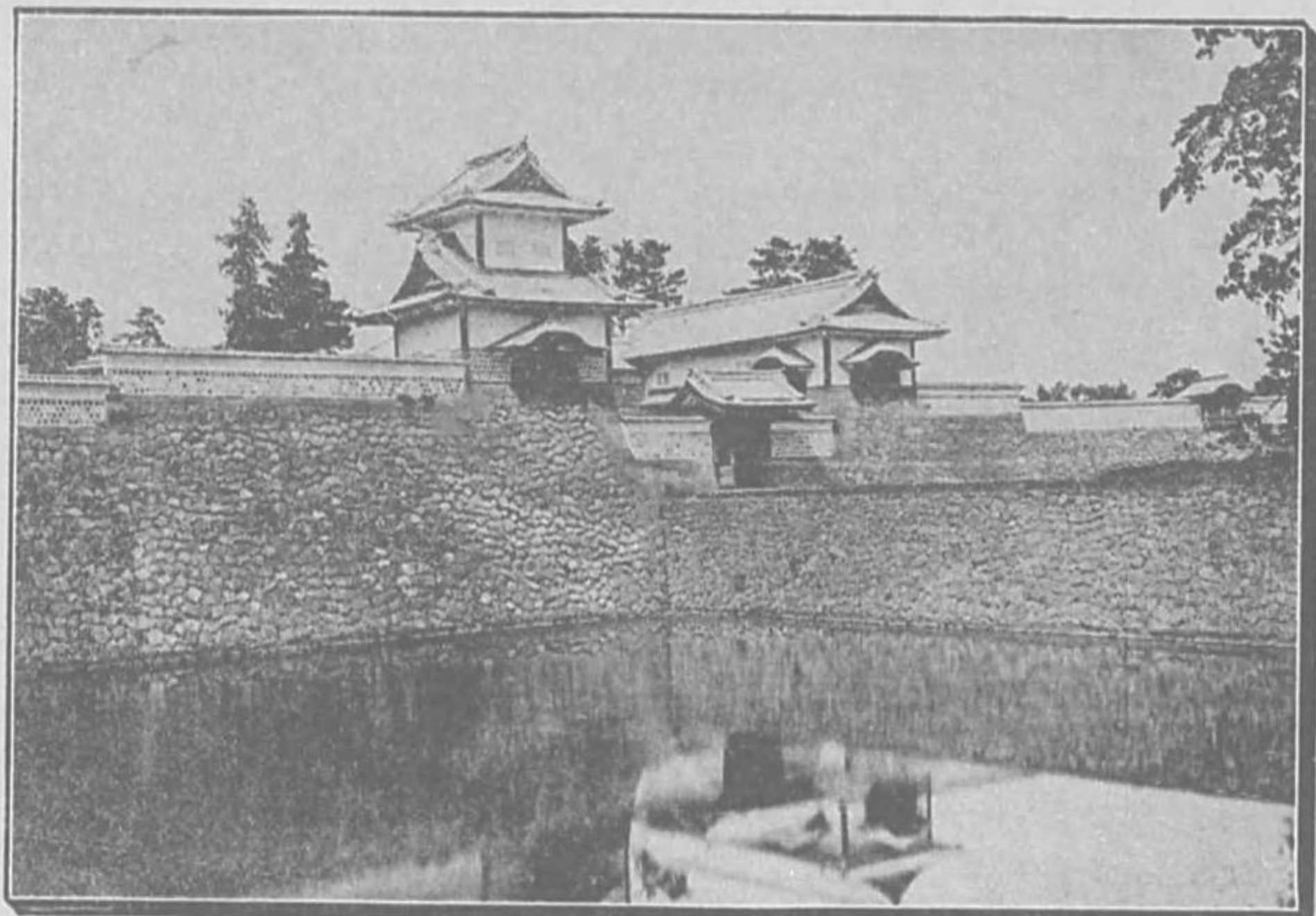
俱利伽羅峠 (越中)

彌波山飛びこゝり行きてあけたらば松のさ枝に夕さらば月に向ひて。といへる彌波山は即ちこれなり、加賀越中の國境に當り峰高くして谷深くまことに無双の峻山たり、昔時泰澄禪師錫をこの山にどめて俱利伽羅明王を祈念せしより今の名を附せらるゝに至れり、このところは歴史に名高き源平の古戰場にして平家の大軍が木曾義仲の爲に撃破せられ七萬餘騎の大軍千丈の深谷に逐ひ落されて岩角に劈かれ崖上に碎かれ残り少く討ちなされし古蹟なり、今に至りても峭直なる峰、幽深なる谷には當年の恨を立ち籠めて雲霧澎湃として動搖するを見るべし、東に下れば彌波の關の舊趾ありて蕭條たる風物以て旅客の詩情を惹くに足る。

小川温泉薬師堂 (越中)

元和年間、樵夫武左衛門なるものあり、一日薪をとりて薬師平にありしに、山間に蒸氣の上騰するを認め、其地を穿ちしに、温泉湧出せしより、始めて世に知らるゝに至れりといふこの地に、一字の薬師堂ありて、薬師如來を安置し、其堂宇や、見るべきものあり、湯は、祠畔より湧出するものを、樋によりて浴槽にみちひき、以て入浴の便にす、泉質は炭酸泉にして、別に新湯と稱するものは、後年に發見せられしものにて、泉質は、鹽類泉あり、この地は、小川の上流に臨みて風景に富み毎夏浴客群をなすと云ふ。

(加賀) 金澤城



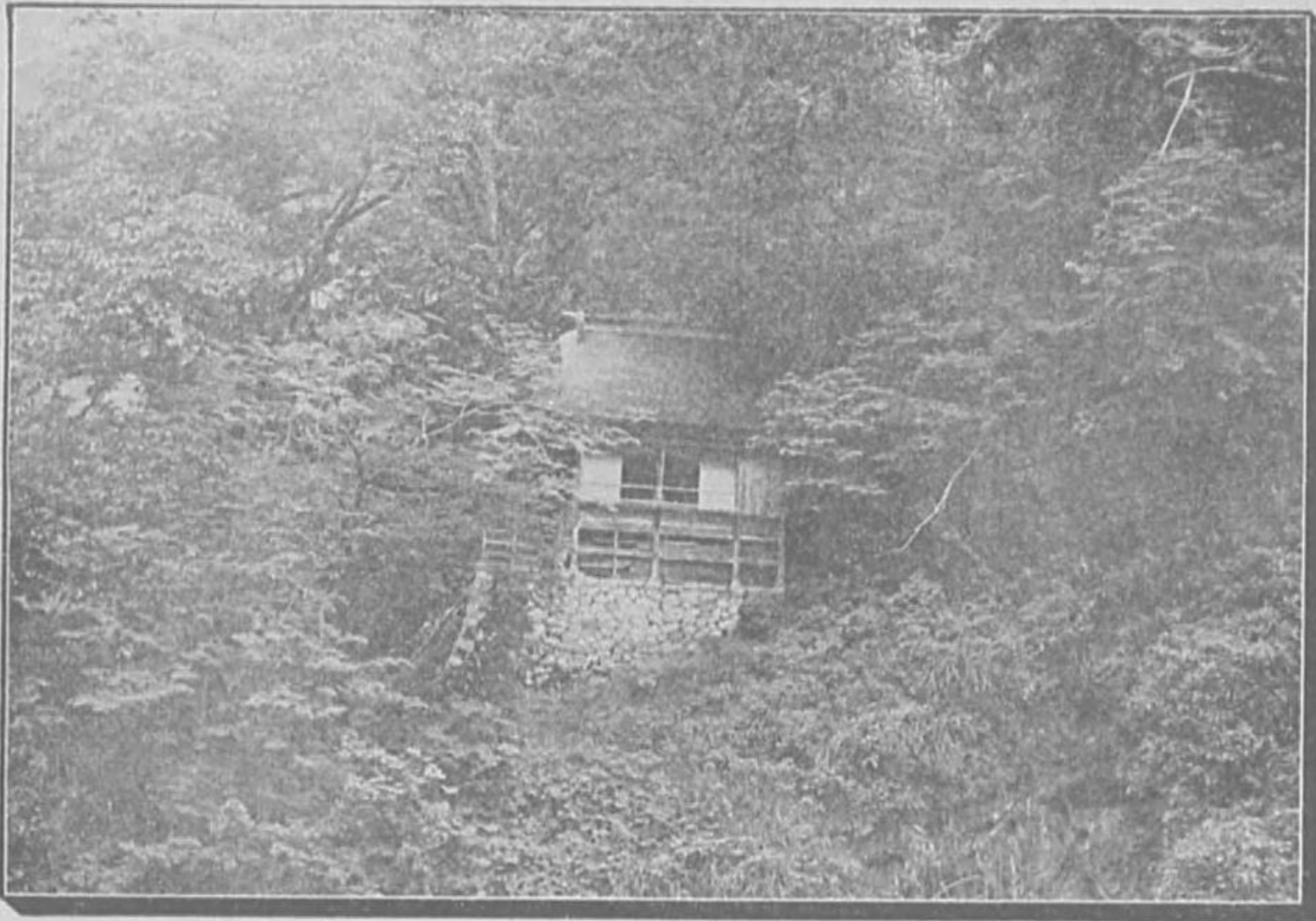
Castle of Kanazawa, Kaga.

(加賀) 俱利伽羅峠



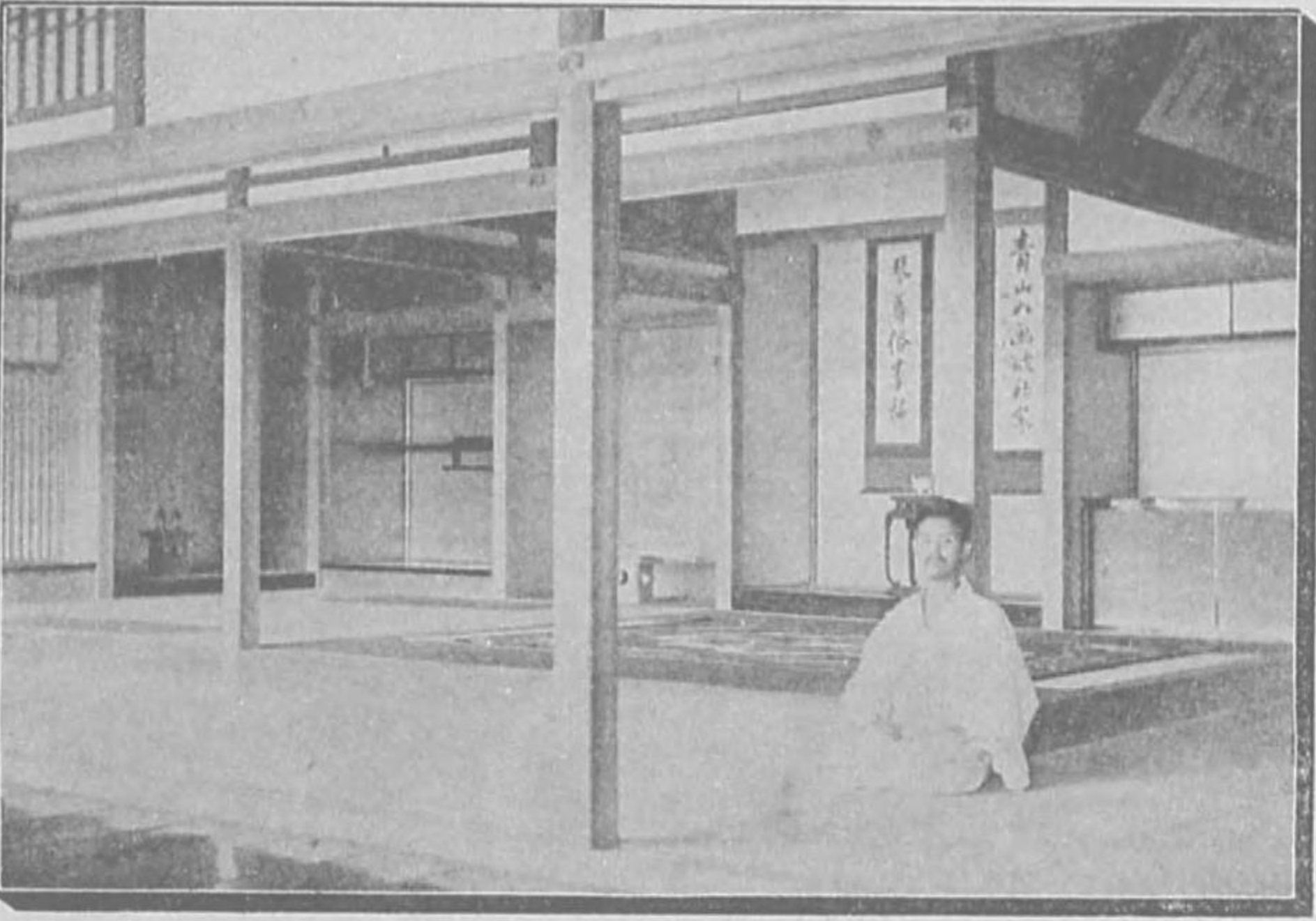
Kurikara Pass, Imaisurugi District, Kaga.

(越中小川) 薬師堂の紅葉



Maples of Yakushi-dō at Ogawa Hot-Springs, Etchū.

(越中) 伊東旅館客室



Guests' Chambers of Ito Hotel at Ogawa Hot-Springs; Etchū.

景遠舎學恒有(村倉板後越)



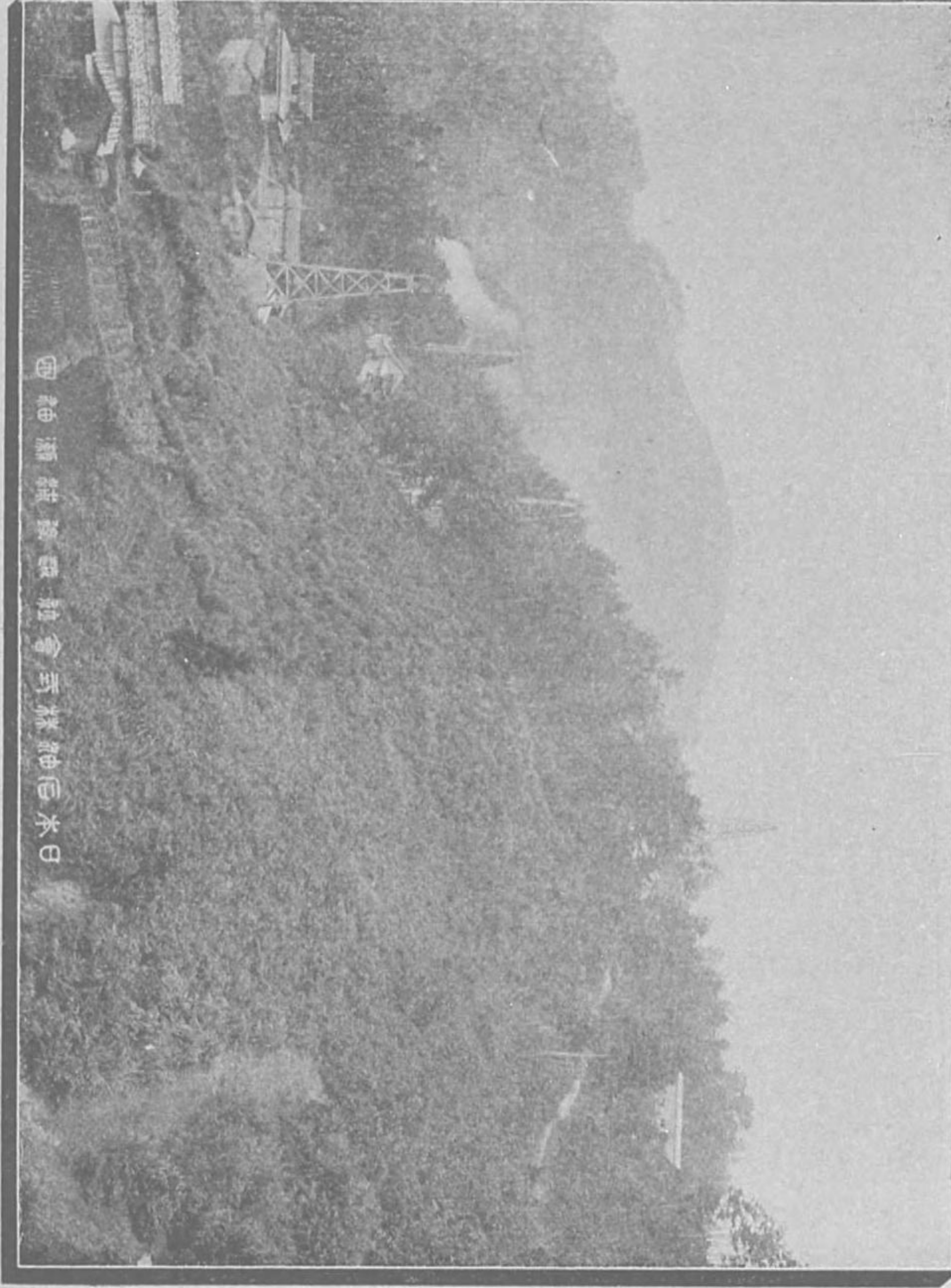
Yūko School at Itakura-mura; Echigo.

有恒學舎 (板後倉村)

有恒學舎は、新潟縣越後國中頸城郡板倉村大字針にあり、明治二十九年、土地の豪農増村度次の獨力創設する所にして、主として、中人以上の者の爲めに、實務的の高等普通教育を施すにあり、本科及び高等科の設けあり、外に農業、經濟、政治、法律等の大意を教授し。學校の性質は、獨逸の實科中學と甚だ相似たり。舎主は創立者之に任じ、教員には學士以下數名在職して、熱心に教鞭を執れり。校舎は針の東北茫々たる田野の中にあり、土地高燥にして、妙高、火打、南葉の諸峰屹然として前に聳え、根越山、達野山、連綿として後に連り、南は熊川の清流を隔て、翠色滴る箕冠山に對し、北は沃野遠く開けて、眺望の絶佳なること、郡中稀れに見る所なり。校舎は本校、寄宿舎、食堂、門舎、物置等凡そ六七棟あり、輪奐の美なき、素朴の中に自ら雅致あり。書籍器械皆備りて、教授に些の遺憾を覺えず。生徒の運動中、最興味あるものは雪合戦にして、嚴冬には、積雪七八尺に及び、平野一面堅く凍りて坦砥の如く、蓋し雪國の一大奇觀なり。此學舎は創立、維持、管理とも皆舎主一己の力に成る、彼は年齢僅に三十、學深く、行篤く、郷黨夙に其風を仰ぐ、今や此學校を興し以て地方文運の振張を謀る、眞に賞すべきなり。

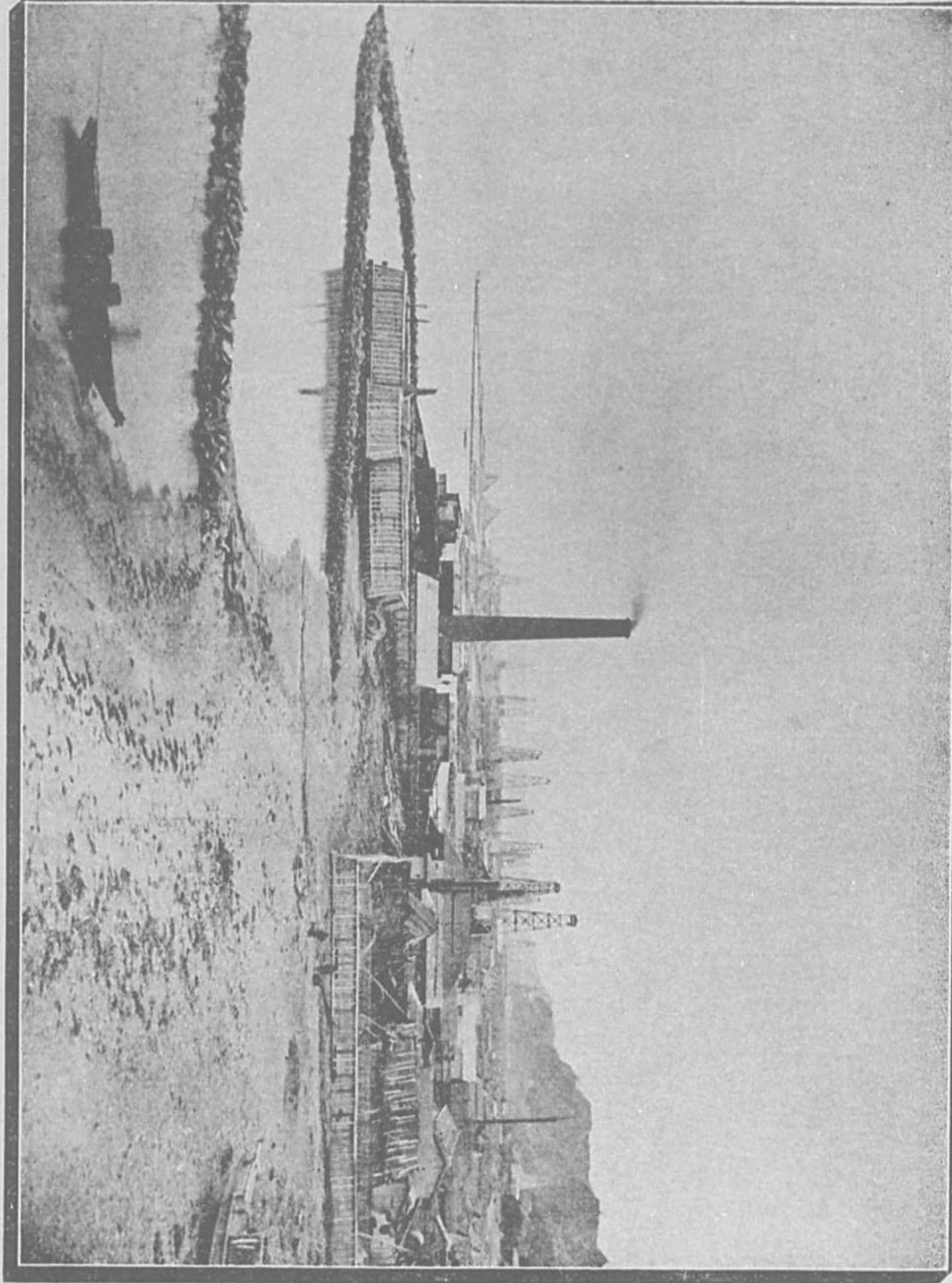
Yūko Gakusha.

This is a private school under the patronage of a wealthy landed proprietor, Masumura Keiji. It is situated at Hari, Naka-Kubiki-gōri, Echigo, and is organized as a "Middle School"; but in addition to the middle school courses, instruction is given in agricultural science, politics and law.



(越後相崎) 日本石油會社浦瀨油田

Japan Petroleum Oil Works at Kashiwazaki, Echigo.



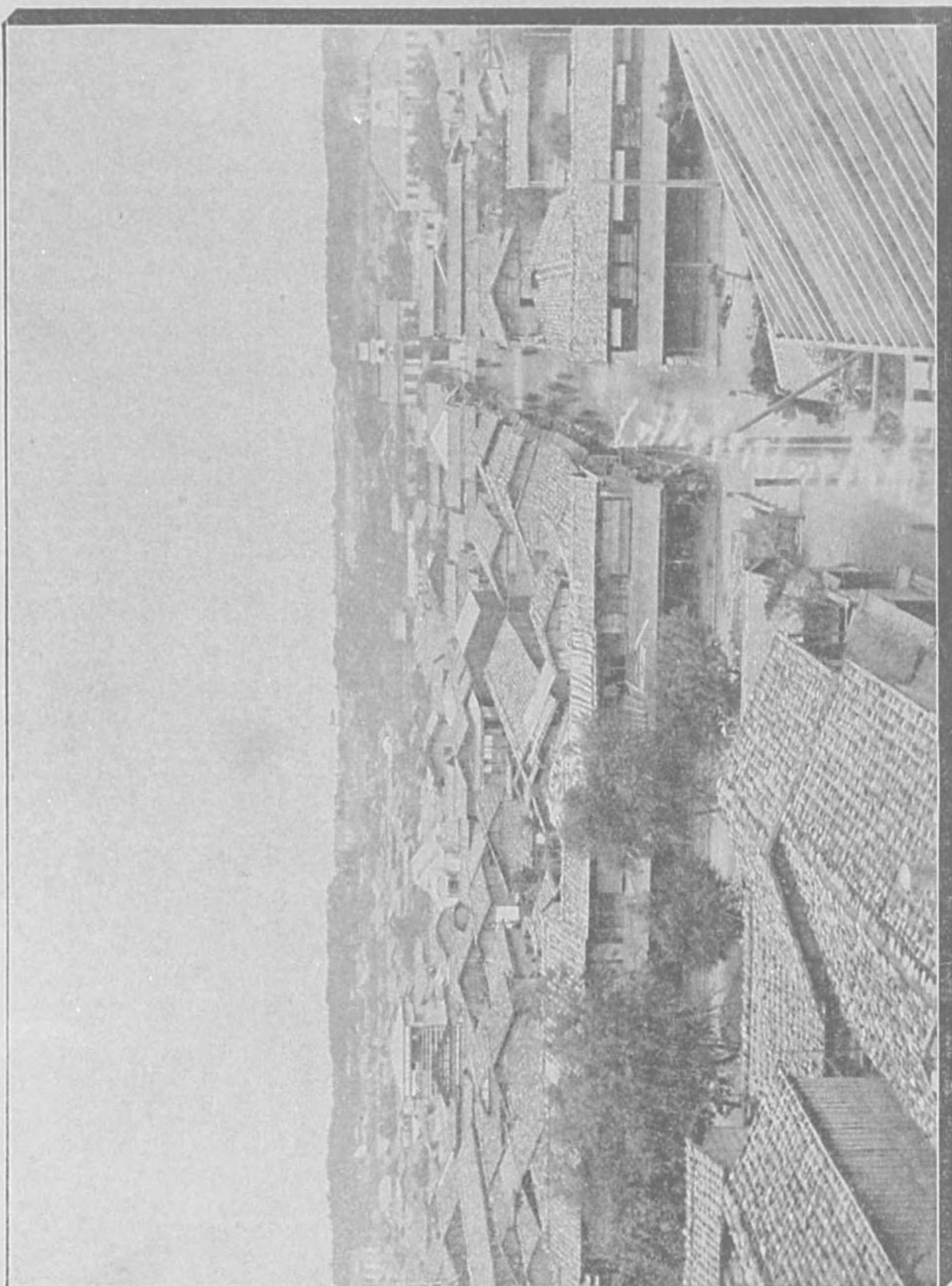
(越後相崎) 日本石油會社の全景

日本石油會社 總論

明治二十二年二月、越後國三島郡尼瀨町の西端海濱、僅かに數十萬坪の鑛區を、十五萬圓の資本を以て創立したるものなりしが、爾來日に月に業務の擴張を圖り、或は重役技師を派遣して米薩諸國の油業を調査し、或は米人を聘して採油の事に従はしめ、或は數多の技手を養成して技術を訓練し、或は附屬鐵工所を起して機械の改良製作を計り、或は一大新式の製油所を設けて燈油並に機械油を精製し、苟も所業の發達に資すべきものは、一として遂行せざるなく、漸次社運の進歩に務めて、今は己に資金二百五十萬圓、鑛區五十萬坪を有するの、一大會社とあるに至れり、爾來益々其歩を進めて、吾國内地の需用は勿論、廣く東洋各國に燈油、機械油を供給するもの、亦、甚だ速きにあらざるべきを信ず、茲に掲載せるは、同社所有の鑛區中、尼瀨、浦瀨、兩油田の一部を撮影せるものにして、前者の産する所は、燈油製出の原料として、品質の良好、殆んど全國其比を見ず、尙ほ其副産物として、良質の黃蠟を製出すべしといひ、後者の産する所は、燈油並に諸種の機械油を製出するに、尚ほ稀有の好料なりと稱す、同社の商標蝙蝠印は、今や江湖需用者の稱賞を博し、各地到る所に噴々たり。

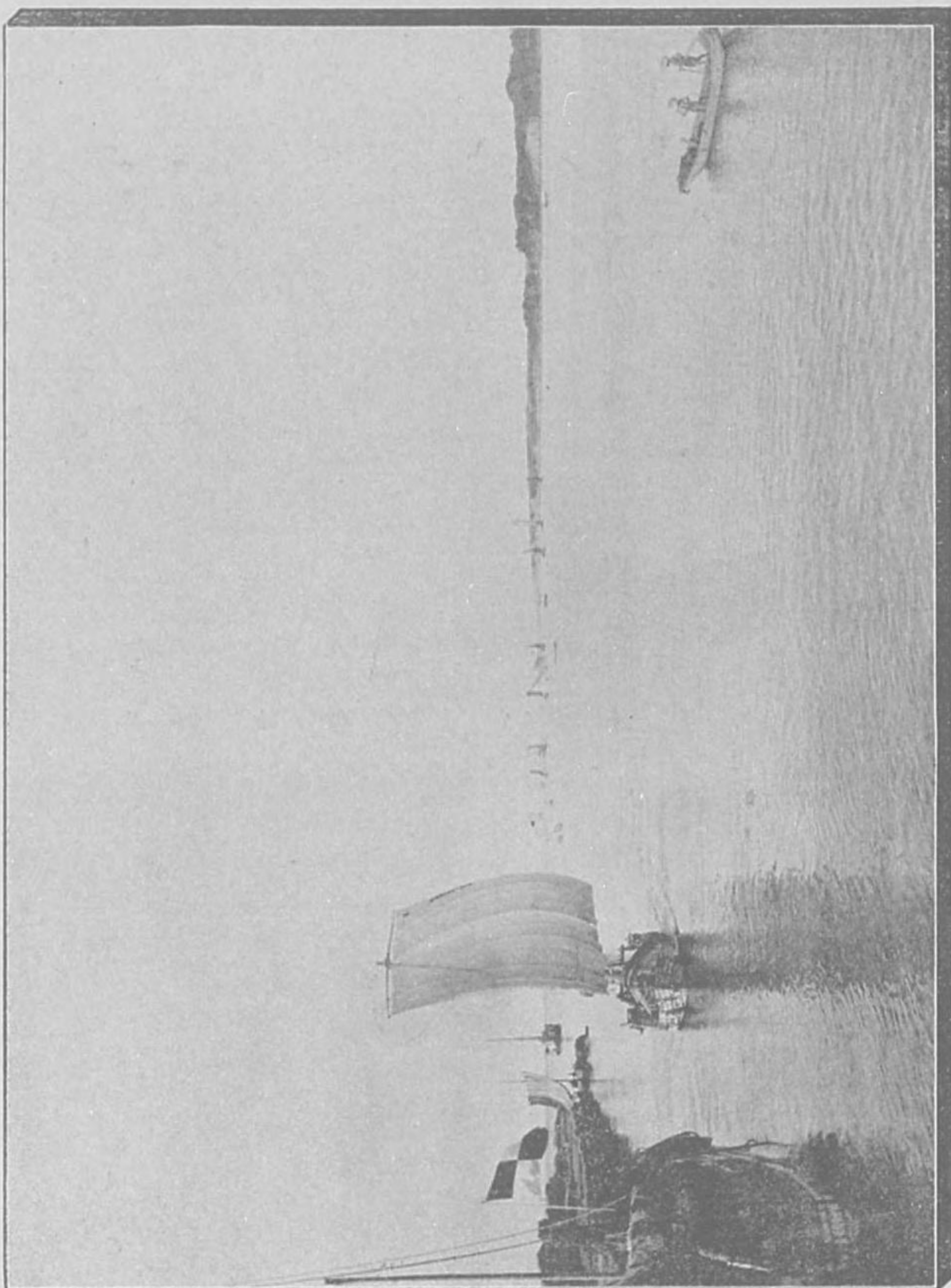
The Japan Petroleum Company.

Since this Company was founded, in 1888, its capital and business have been gradually increased until it is now one of the largest in Echigo. The trade-mark is a bat (*Komori*).



Niigata Town, Echigo.

町中景(後)



Niigata Harbor; Echigo.

築港(前)

新潟市街 (後)

洋々たる信濃川の運次来りし泥土堆積して一の砂洲を作りたるに明暦、萬治を経て次第に人口を増加し現今は一萬以上の人家櫛比するに至れり。市街は商業繁榮にして、街路濶渠縦横に通じ古昔より七十二橋の稱ありしが今や二百九十三橋を數ふるに至れり萬代橋といへるは信濃川に架せるものにて長さ四百廿八間あり明治十九年に架設せらる。特に本市は縣廳其他諸官衙の所在地なれば自ら土地も繁華を加へ白山神社、新潟公園、招魂社、日和山などの遊藝地附近にありて四時の娯樂を得るに難からずまことに北陸有数の大市たり。

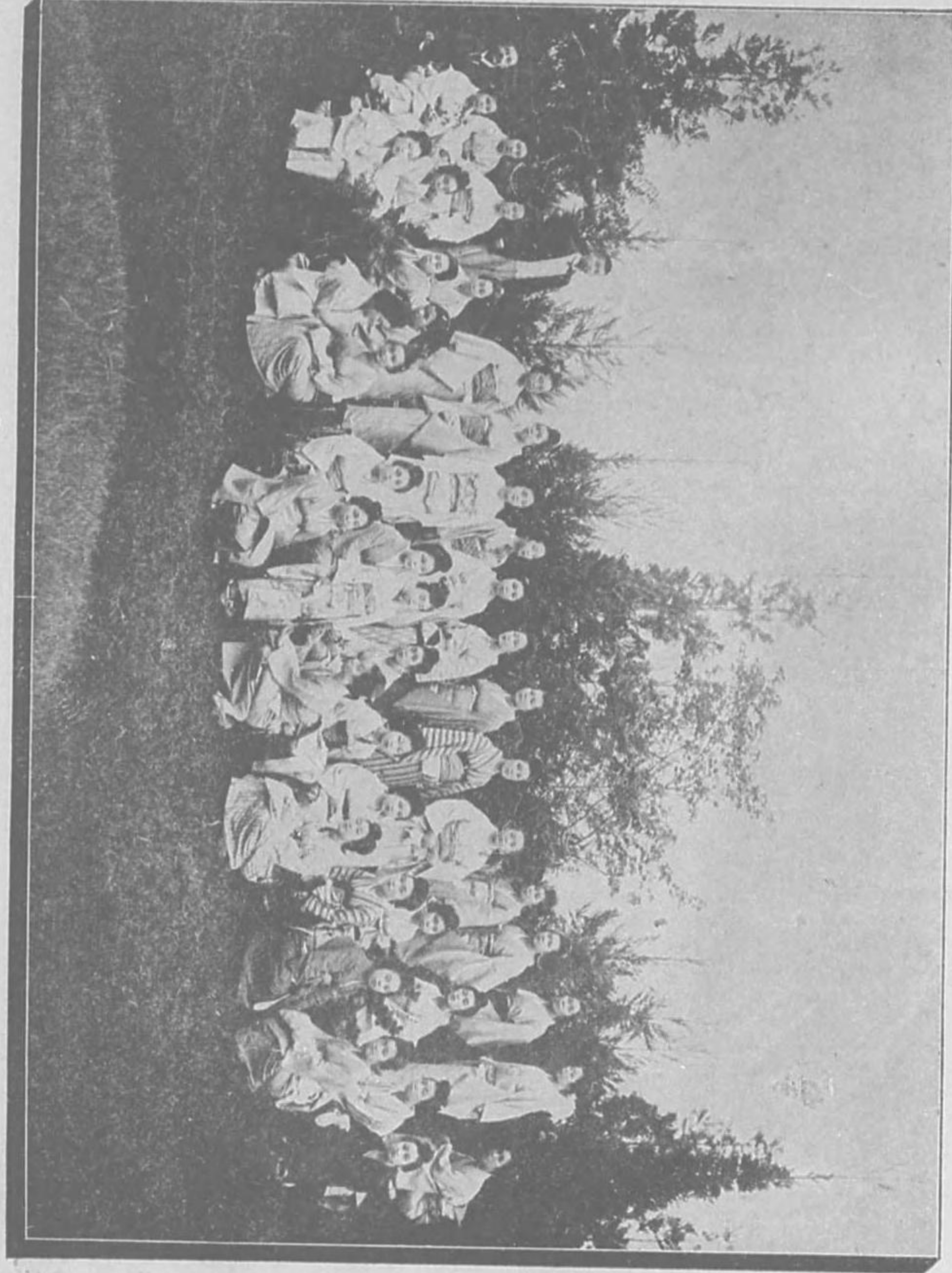
新潟港 (後)

信濃川の注ぐところなり、東西四町南北十八町にして水深は一俣四尺乃至五俣なり、天然の形勢は敢て良港たるに適せざるも日本海岸は濶薄に乏しく且つ五港の一として開港されしを以て船舶の出入頻繁にして埠頭常にぎはへも。港内の風景は絶佳といふべからざるも四郷の賑況自ら活圖をひらき船客を羣ばしむるに足るべく、西岸丘上に立てる燈臺は船舶の針路を示すと共に又た多少の景趣を添ふるものゝ如し、西南は直ちに新潟の市街に連なる。

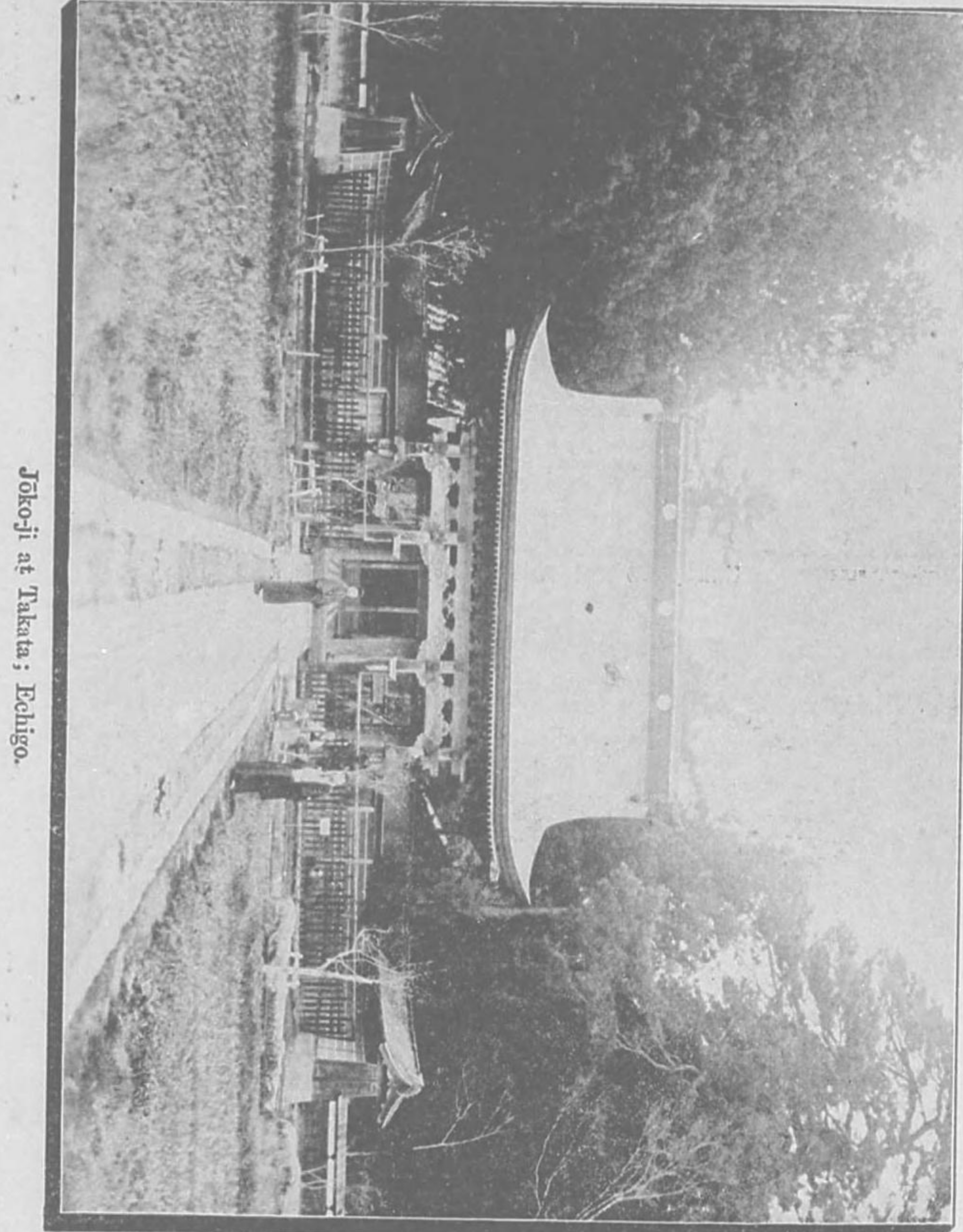
Niigata Harbor and Niigata City.

Niigata is really the lower course of the Shinano River. A bar at the mouth of the stream barely allows the entrance of vessels of very light draft, and that only in favorable weather and at high tide. Larger craft must lie in the open roadstead, or seek shelter at Sado Island, some thirty miles off the coast. Still, as there are no good harbors on the north-west coast, Niigata was chosen as one of the five open ports under the old régime. The foreign trade has been trifling, and there have been but one or two foreign residents aside from the missionaries.

The city is built on sand brought down by the Shinano River, which has been thrown back by the sea along the coast making dunes, a narrow, opening having been maintained by the force of the river current.



(越後高田) 總路の淨女



Juko-ji at Takata; Echigo.

(越後高田) 本願寺別院淨興寺

高田別院 (總路)

越後は、真宗の開祖親鸞上人が、嘗て流されしところとて、舊藩頗る多く信徒の數亦た本邦に冠たり、されば、到るところに大刹巨寺すくなくならず、高田町の寺町通りより、一條の道路敷くに切石を以てし、其つくる所に巨刹の聳ゆるものあり、こは、越後本願寺の名を以て知られたる、大谷派の高田別院にして、同町に在る淨興寺と相對すべき大寺なり、この別院は北國に於ける東本願寺末派を支配するものにして、其住職は、本寺より派遣するを例とす、山門堂塔いづれも宏壯にして、自ら詣者の信仰心を深からしめ、境内亦た清淨なり。

Takata Betsuin.

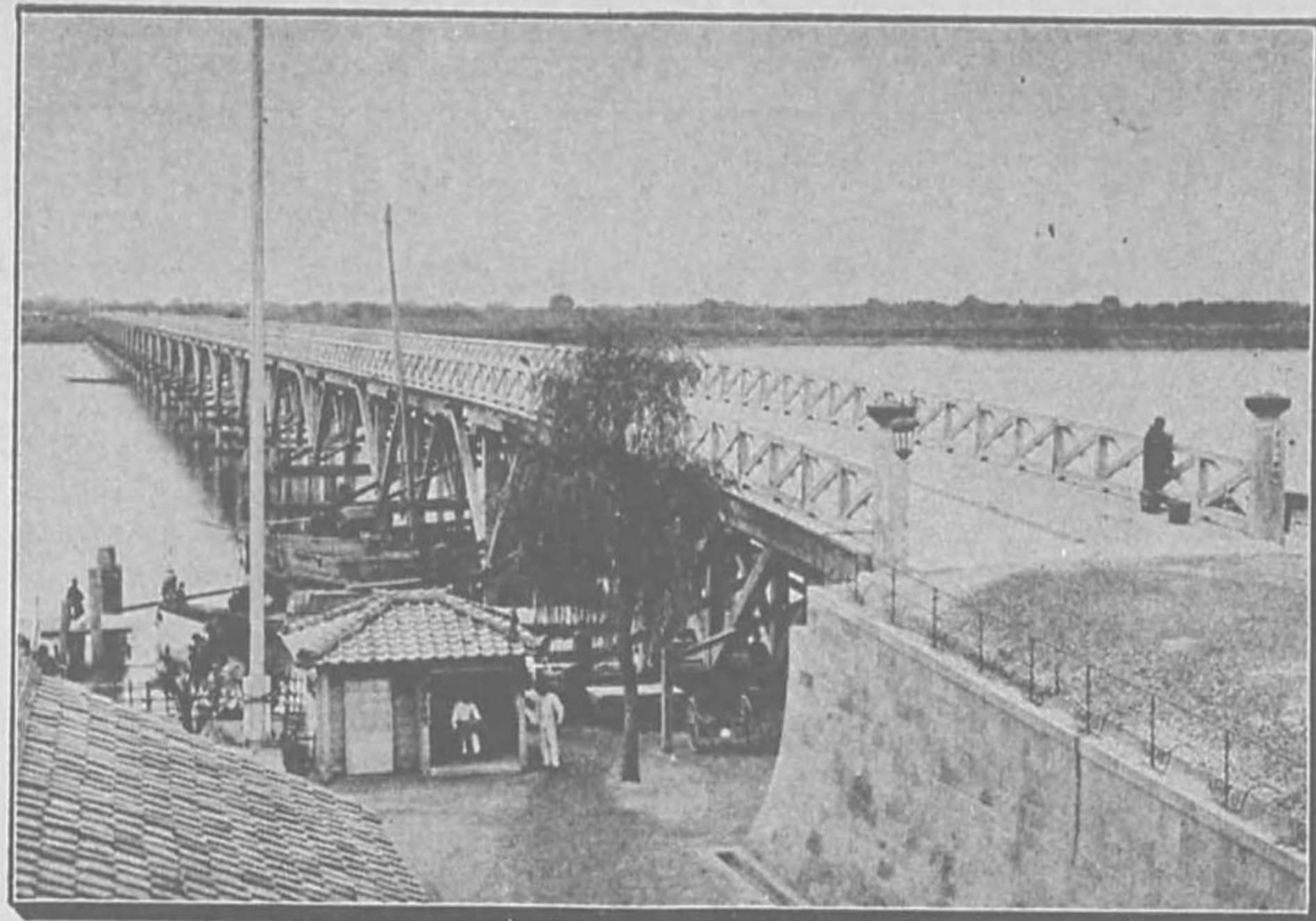
This is one of the two largest Buddhist temples in Takata, Echigo. It is accessory to the Higashi Hongwan-ji while its corresponding temple, Joku-ji, represents the Nishi Hongwan-ji. To this district, Shinran Shōnin, who was the founder of this sect, was banished, and his followers are very numerous to this day.

高田藝妓 (總路)

昔しより越後おんなに江戸男と、世に持囃されし江戸っ子も、今は地方人に殊を奪はれ、紳士紳商と云へるもの、自用車に靈氣揚々と、八百八町を駆け廻る世の中となりては、江戸男の價値も、年々に下落するの心地なすなる、左れば越後女に至りては、越の白雪踏みつけて、色香争はんと出で来るものもなく、咲き乱れにし百花壇を、蹂躪らんとするものもなければ、いまだに當年の花を保ちて、年々歳々、美を増し艶を競へるさは、げに北地の異彩にして、こゝに寫せる三十餘人は、就中其粹を集めしものなり、嚙齧蜂腰、其態度の優劣如何は、これを觀者の眼光に委せんのみ。

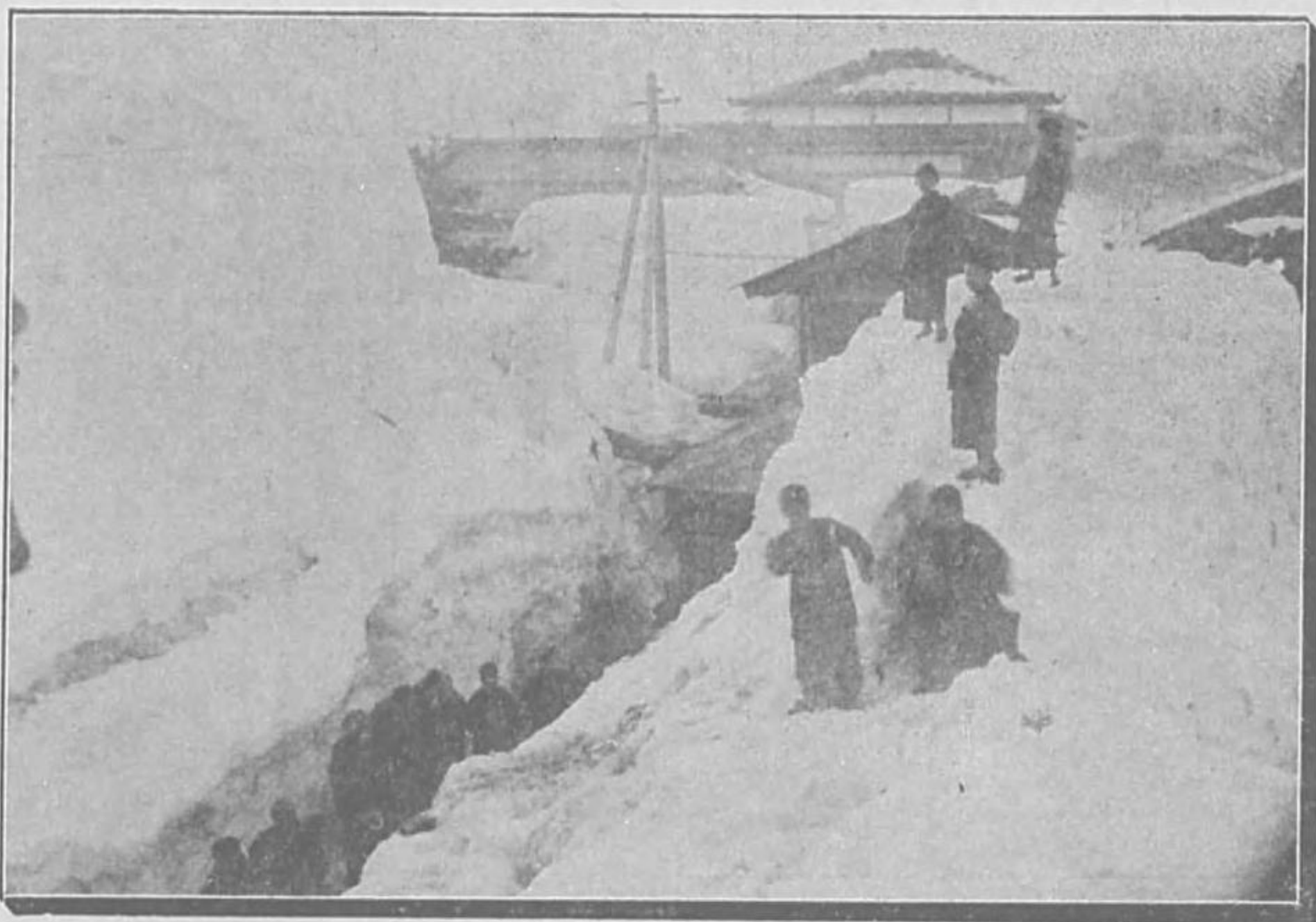
- 新太田屋内。小しん 丸助 美代吉 鈴吉 小今
- 新玉屋内。小つる 小さん 繁松 桃太郎
- つな子
- 竹内方。あい子 小福
- 内山内。万歳
- 富久榮屋内。久米八 富松 やつこ 力彌 金八
- 浦野方。小とみ 金太 駒助
- 今井内。松吉 竹松
- 瀧川方。福松 高助
- 早川内。小よし 小染 米吉 小千代 豆子
- 内。久子 ちやら 助今 助

(越後新潟) 萬代橋



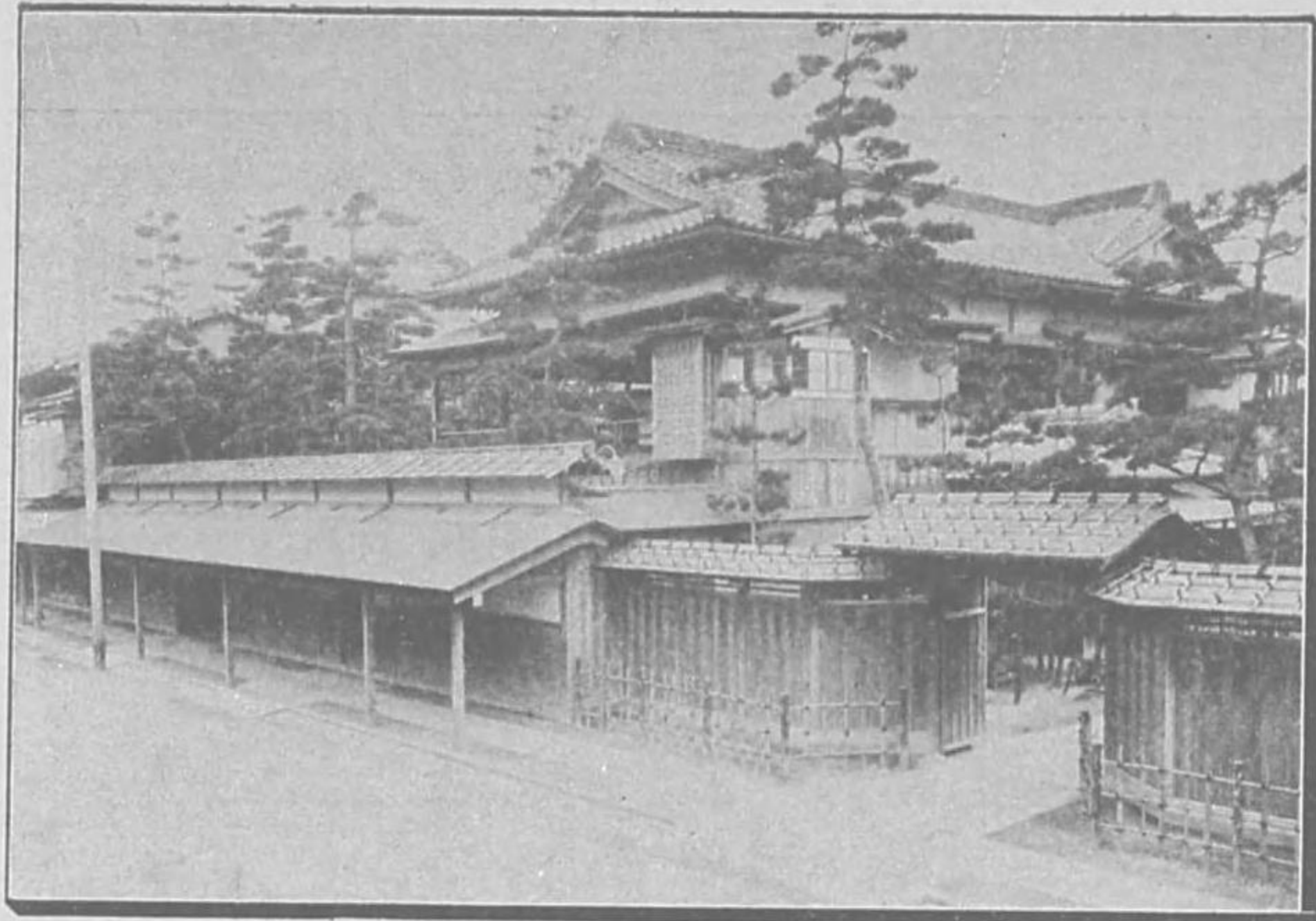
Bandai Bridge at Niigata; Echigo.

(越後) 長岡の積雪



Snow Scene in Nagaoka; Echigo

(越後新潟) 鶴揚樓



Kakuyō-rō Tea-House at Niigata, Echigo.

(越後直江津) 松葉館旅店



Matsuba-kwan Inn at Naoetsu; Echigo.

萬代橋 (越後新潟)

新潟市は信濃川の注ぐところにして水運の便多く、大小の溝渠縦横に通じて二百に近き橋梁は各所に架せらる。就中、萬代橋の架せるところは信濃川の幅廣くして滔々たる流れ漸く海に入らんとする故に、其長さも四百二十八間、幅四間に達し北陸第一の長橋として其名高し。船よりこの橋を望めば恰も飛虹の横はる如く車馬絡繹して景色さふべからず。橋上に立ちて眸を放てば信濃川の長流一碧藍の如く往來の船舶參差として相連なり岸上の萬家凡て畫圖の如し。この橋は明治十九年に造營され新潟市と中蒲原郡沼垂を連続せしむる要路に當れり。

鶴揚樓 (越後)

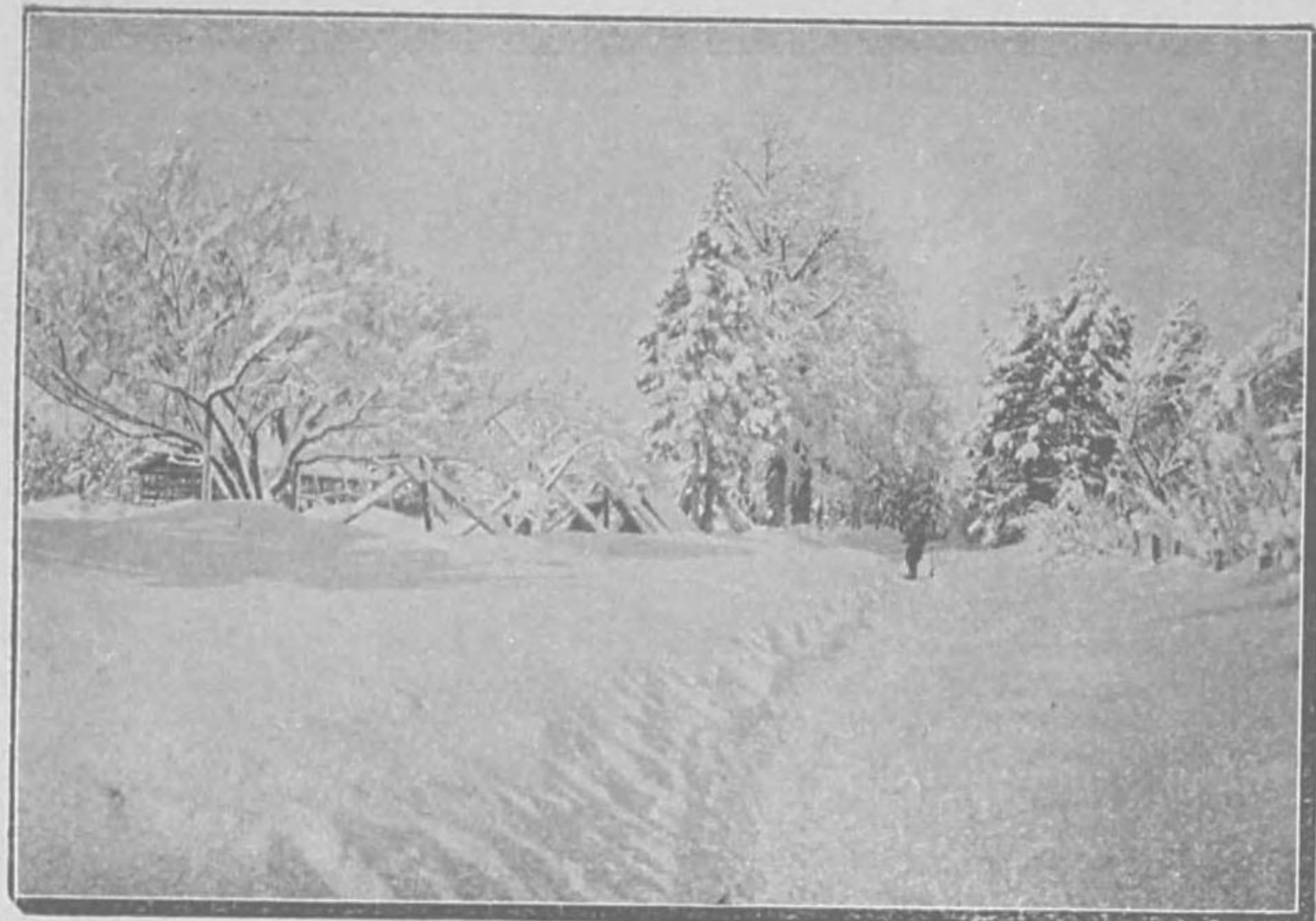
新潟は北越の大港として、其繁華は他の郡邑にゆづらず、就中、古町通りは、この市の花ともいふべく、鶴揚樓開軒を並べて、歌舞の聲亦た盛んに、洋々として四時春の如きもあり、鶴揚樓は、この町にある大屋にして、三會の通稱を以て其名世に高し、建築の高大なるは、嘗り新潟市の第一といはるゝのみならず、これを北陸の白眉と稱するに足るものあり畫欄つらなり、彩檐をびえ輪奐の美規模の壯と相適ひて、結構壯麗樓の名に背かざるものあり、北越は、由來美人多しと稱す、而して、北越の美人は、其粹をこの樓にあつめ名眸皓齒の紛として樓に盈つるは、吳宮越殿の昔もかくやと想はしめ、風流の士にして、この市に遊ぶものは、概ね、この樓の春風に吹かれざるはなしといふ。

長岡雪景 (越後)

古志郡長岡町は、信濃川の東岸にある市邑にして、人家稠密にして、商業繁昌の名あり、越後は、古來雪國の稱ありて、冬期にいたれば、其奇觀目を驚かすものあり。紛々たる鷲毛連日飛び散るや、一望白皚々として銀世界と變じ、丘陵山嶽すべて白堊を以て塗らる、殊に、其市街を掩ふや、滿望一様に白玉の亭棚となり、たゞ、高低によりて、大家と小屋を區別するに過ぎず、若し夫れ、日光の之に映するにいたりては、玲瓏として銀瓦を連ねたる如く、四千に近き人家は、凡て、水晶宮の並立せるものなり、美觀壯景暖地の人の想像にだも浮まざるものありといふ。

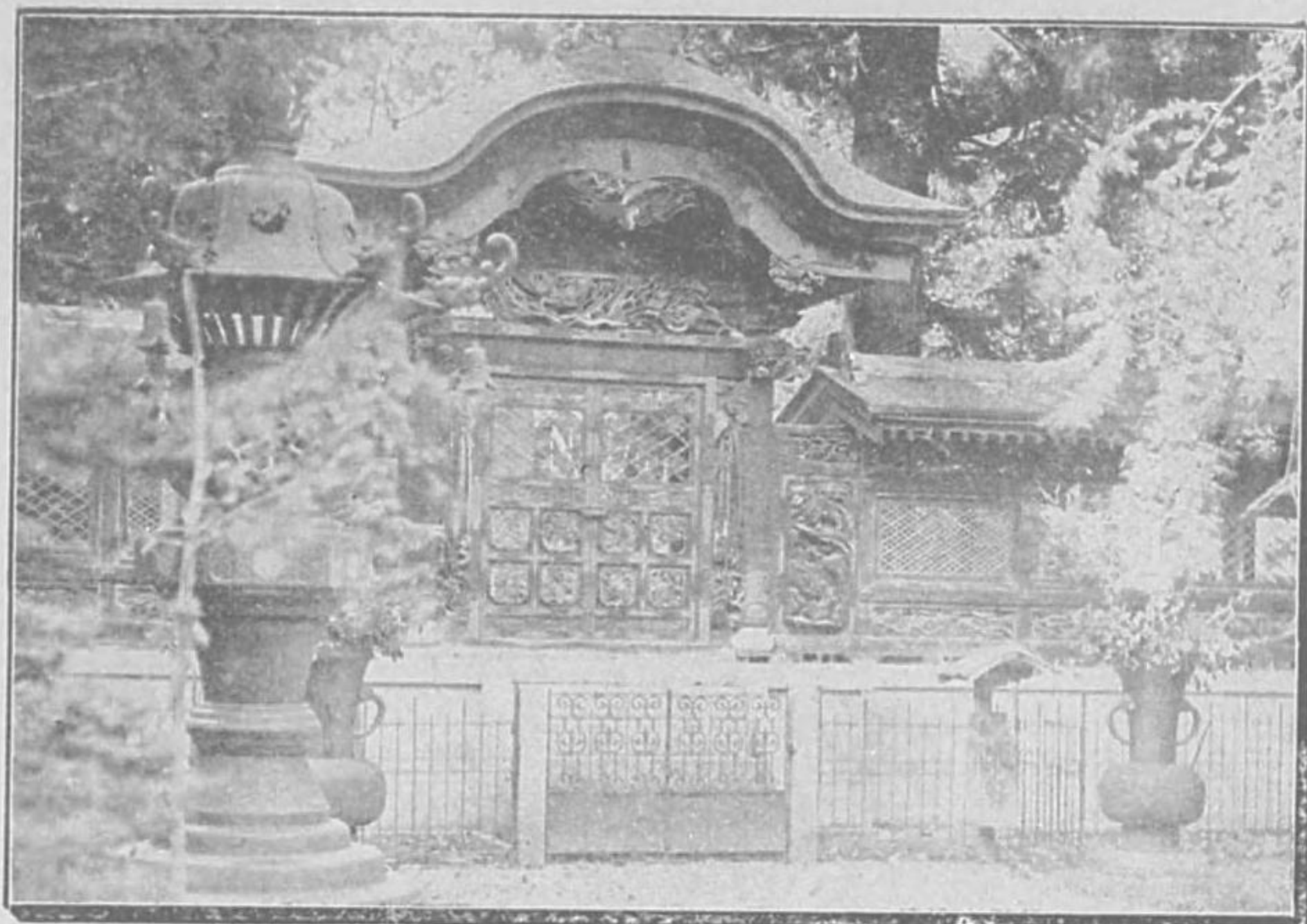
松葉館 (越後)

中頸城郡の北端の海岸に直江津港あり、北陸の要津として、其名世に知られ、日本海を航行する大小の船舶は、概ねこの港に寄らざるはなく、特に、陸路には鐵道の通せるありて運輸交通の利便多く、市街比年擴張され、商業ますます繁榮に赴けり。松葉館は、この地にある第一の旅館にして、舟より上るもの、陸より來るもの、概ね足をこの館に留めざるはなし、館の構造は頗る大にして、旅客を厚遇することも深く、器具等凡て清潔にして、旅客の爲めには、無上の樂園たり、船より上るものは、船路の疲れをこの樓上に慰むるを得べく、陸より上るものは、先づ瀟洒なる室に安坐して、北海の鮮魚に快よき杯をふくむとを得ん。



Snow-Storm in Takata; Echigo.

(越後) 高田の雪景



Nōkotsu-dō of Jōk-ji at Takata; Echigo.

(越後高田) 淨興寺納骨堂



Chimei-dō Hospital at Takata; Echigo.

(越後高田) 知命堂病院



Kōyō-kwan Hotel and Garden, Takata; Echigo.

(越後高田) 高陽館庭園

高田の雪景 (越後高田)

越後の地勢は、南方は連山を以て圍はれ、北部は海岸に向ふて次第に低きが故に北風寒を送りて古來より「雪國」として知らる、國內にても中頸城郡は雪尤も深く郡の大邑たる高田の如きは冬期は殆んど雪を以て埋めらるゝはきなり。冬に至れば六千に近き滿街の家屋は雪を以て掩はれ玉樓瓊舍と形容せんよりむしろ白皚々たる小丘の起伏せりと云ふべきほどにて街上も全く埋もれて行人は皆な兩側にさし出でたる軒下を往來するのみ、元日の初日影もたゞ雪の銀世界を照らすのみ、と古人の云ひし如く凡て其趣味を異にせるも一方より見れば奇觀の一なるべし、積雪は丈にも餘るとあり昔時は高田城下に角木を建て、雪の深淺を計りしといふ雪竿といひしはこれなり。

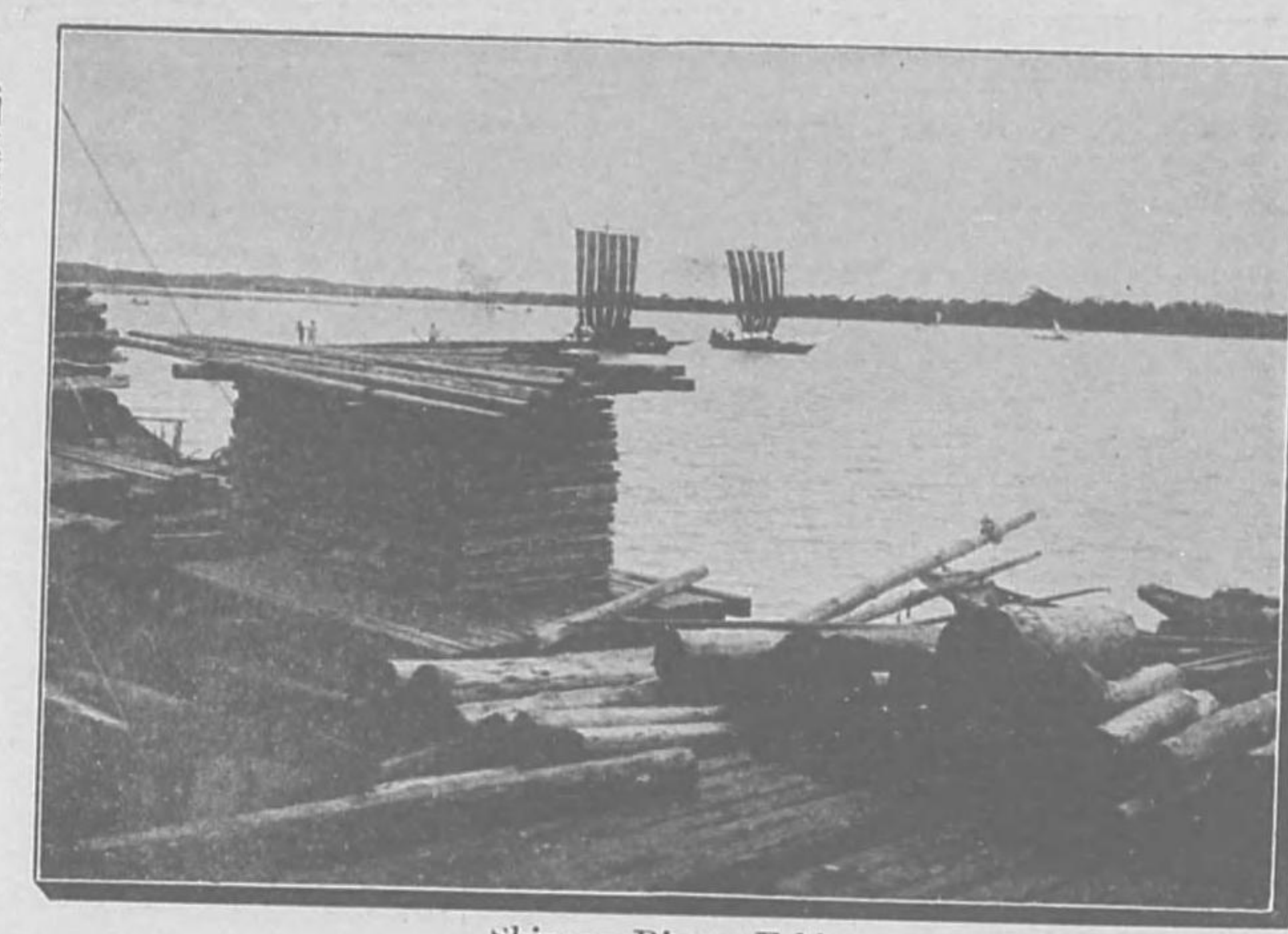
淨興寺納骨堂 (越後)

中頸城郡高田町寺町にありて、寺號を淨興寺といふ。始め、親鸞上人常陸の笠間在に稻田禪坊を草創せしを、屢移轉の後に、終にこの所に定めしものにて、本堂は、桁行十七間梁間十六間の大伽藍なり、其他の堂塔皆な宏大なるものにて、拜堂は、開祖親鸞上人の靈廟を遙拜する所なり。はじめ、第二世の善性上人といへる僧、開祖の頂骨と傳法の遺書をこの寺に藏せしより、世の信仰するもの次第に多く、現今も、拜堂の前方に石窟を設けて、その遺骨を歛め、唐門玉垣いかめしくこれを圍めり、かゝる由緒ある寺院なれば、參詣の信者常に絶ゆることなし。

高陽館 (越後高田)

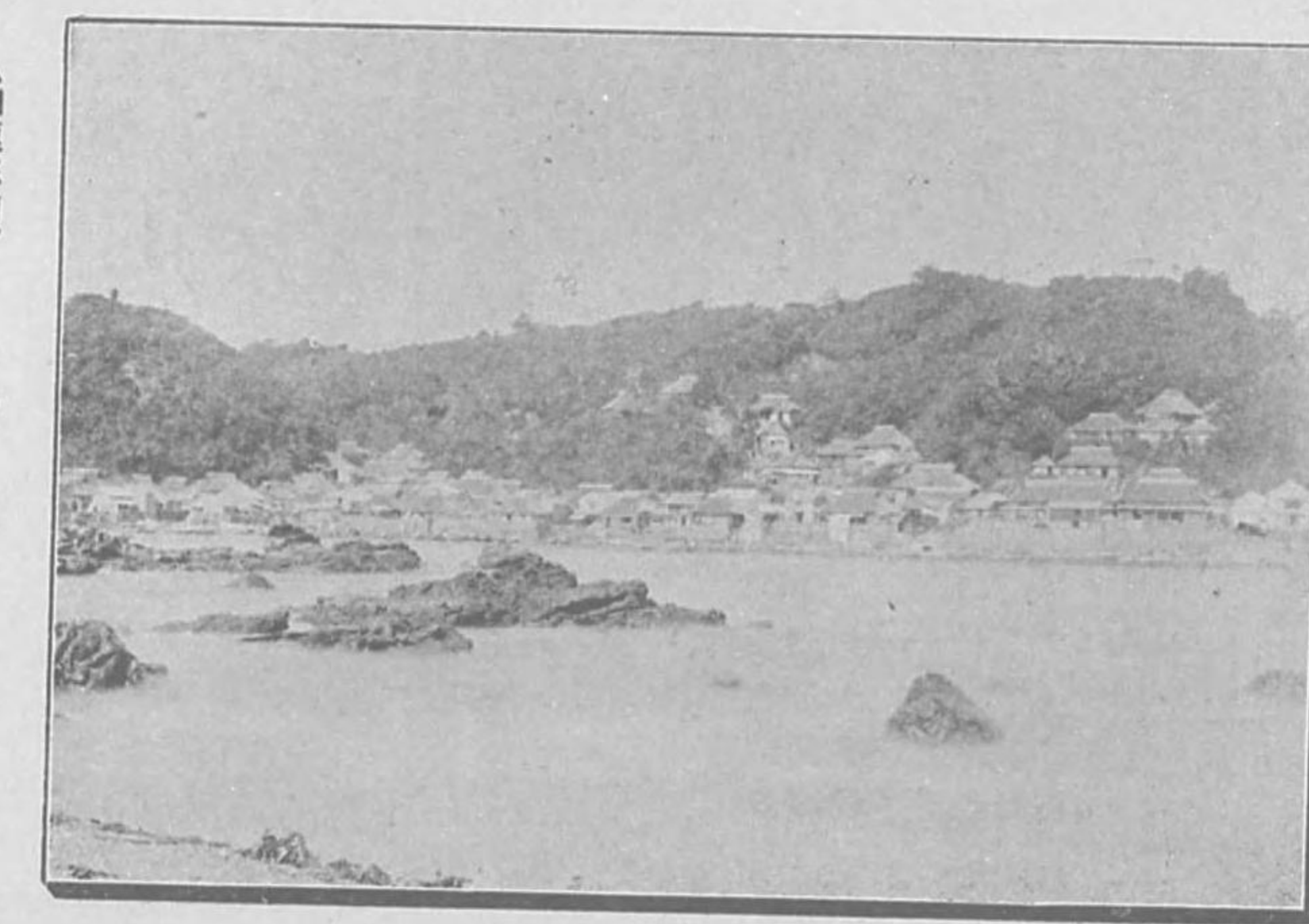
越後國高田桐生町に在り、同地第一の旅館にして、兼て割烹の業をも營む、凡て同地に於ける、宴會集會の大なるものは、常に此家に於て行はれ、東京より來遊する紳士、紳商、亦皆此樓に宿泊するを常とすと聞く、家は四面蔭蔚たる樹林を以て圍まれ、樓閣宏壯、房室の排置亦其宜しきを得清潔雅にして愛すべく、樓上より望めば、金谷山雲煙模糊の間に見はれ、恰かも空中薄墨を引きたらんが如く、天然の景光已に備はれるが上に、店主の好尚に成れる庭園の風致、亦閑雅にして幽逸、一泊人をして歸るを忘れしむるものありと云ふ北越の旅館としては、洵に有數の建築と謂ふべし。

(越後) 信濃川歸帆



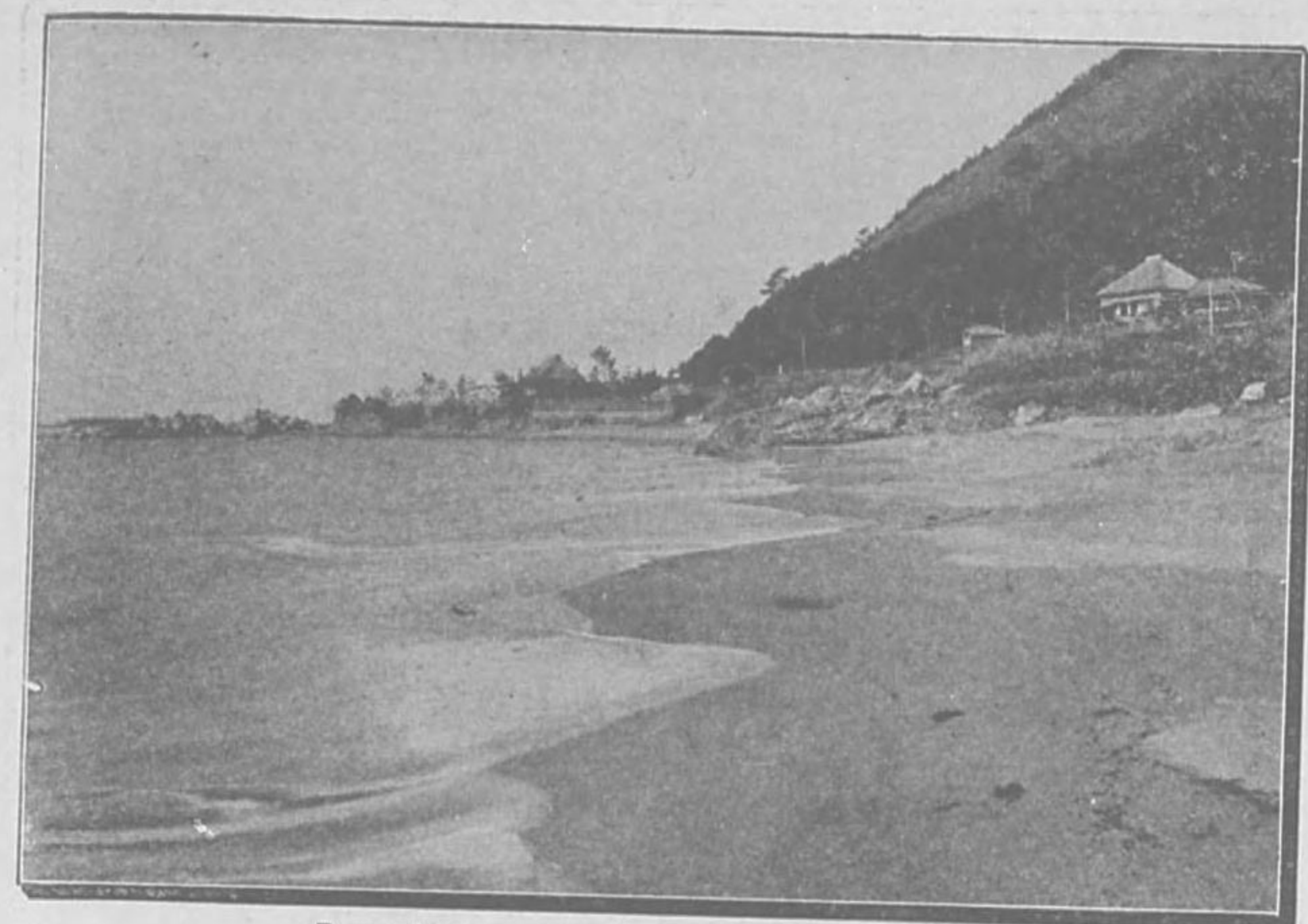
Shinano River; Echigo.

(伊豆) 須崎港



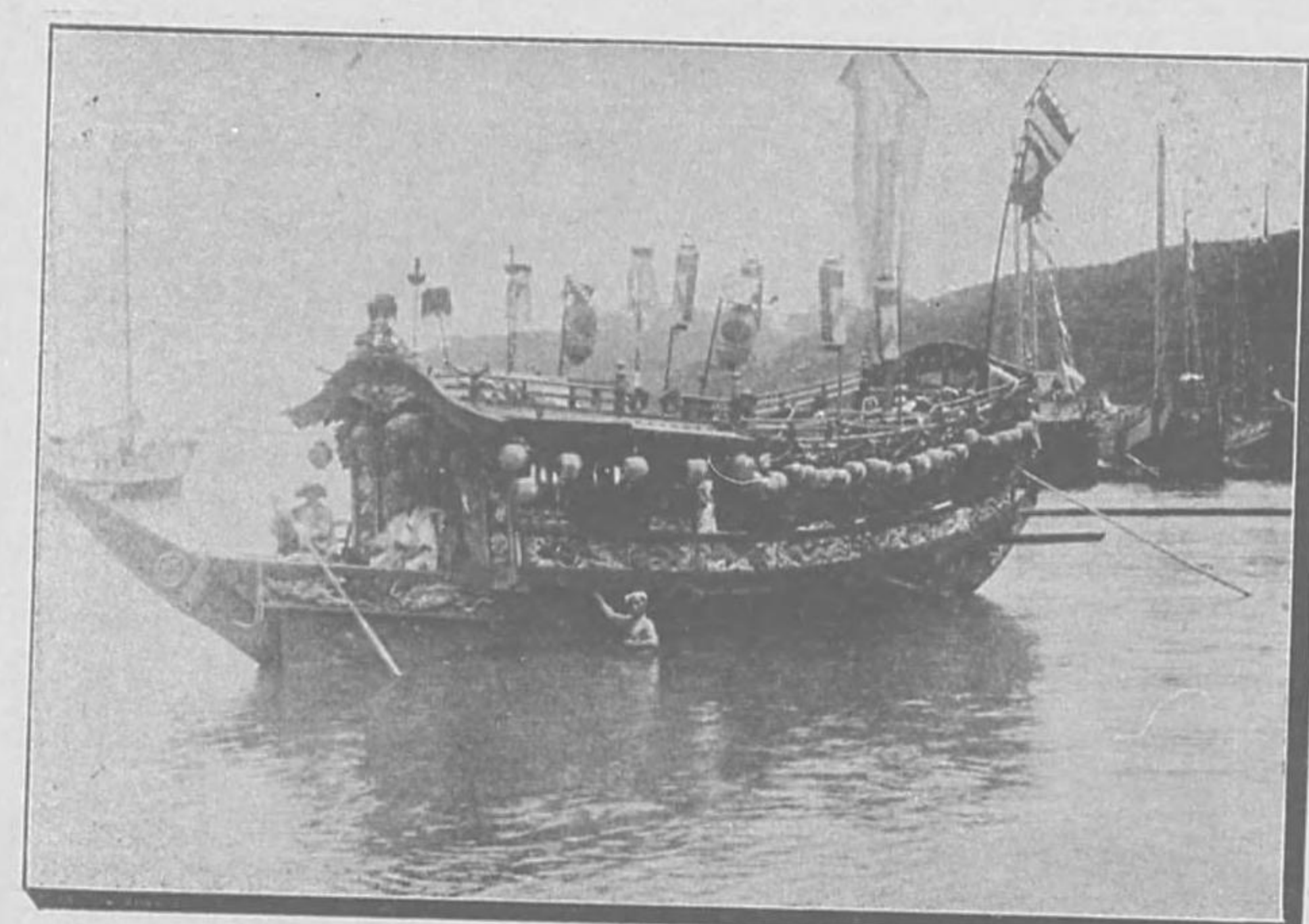
Susaki Harbor; Sagami.

(相模葉山) 御用邸遠景



Imperial Country-house. Hayama, Sagami.

(相模三浦) 船祭



Boat Festival at Miura; Sagami.

信濃川の白帆 (越後)

我日本國は、中央に東より西に奔れる山脈ありて、地勢南北に隘きを以て、國中に大河流なし、たゞ關東に於て利根の長流あり、これと相對して北陸にあるを信濃川とす、信濃川は源を信州に發し、はじめは千曲川と稱し、激流崖を嘯み岩を轉ず、越後に入りてより水勢漸く緩に、海に入らんとするに至りては、穩波洋々として舟楫の便利すくならず、竟に新潟港に注ぐ、全長殆んど四十里に達せり而して水運の通ずる數十里なり、兩岸は灌漑の便ありて加ふるに地味豊腴あるを以て、農耕の道大に發達せり、沃野漫漫たる間に白帆點々として風に孕み、忽ちにして綠樹の影に入り須臾にして、參差たる屋舎の間に見ゆる景狀は恰も畫圖の如く、座に郷富み民饒ふの象を想はしむるに足る。

須崎港 (伊豆)

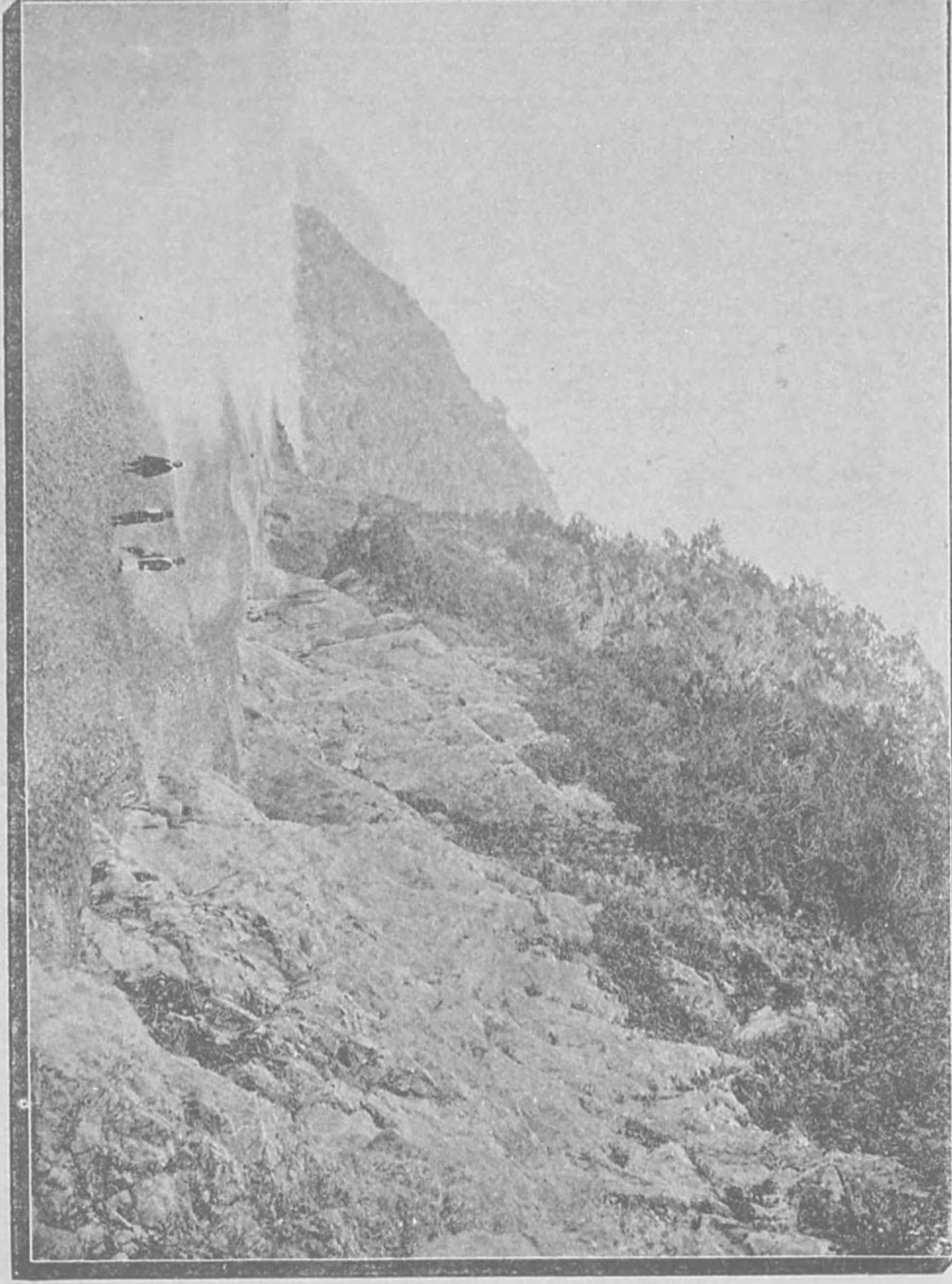
伊豆は、海洋中に斗出せる大半嶋にして、相模、遠江の荒灘を控むるも、海岸に良港少なきは、航海者の遺憾とするところあり、而して、僅にこれを充たすものは、下田、須崎の二港ならん、須崎港は、賀茂郡濱崎村にありて、北に爪木崎の斗出せるあり、灣は、東西五町、南北二町に及び、其内城廣からざるも、地、南方に向ひて、風波を避くるによろしく、水深五仞餘にして、以て、船舶の碇泊によろし、されば、近海を航行するものは、この港を以て、伊豆沿海の好泊所とするが故に、陸地の便少なきにも關らず、常に繁榮せりといふ。

葉山御用邸遠望 (相模)

湘南は、由來風景の明媚を以て名あり、三浦半島の西海岸は、特に其ゆたかなるを見る、横須賀鐵道線の逗子驛に下車し、逗子海水浴場の南端なる、山角をすぐれば山海の光景一幅の畫圖を開くを見る海波寄せ來りて砂濱に迫るところ、岩石所々に起伏し、白砂一帯弓形を畫して、磯松の影千歳の翠を滴らす邊に高壯なる殿宇の巍々として海に臨んで聳ゆるものは、即ち葉山御用邸にして、其景恰も龍城の、この所に現出せしかと怪まる、この地は、海に面し山を控へて、氣候溫暖にして尤も人身に適するより、常に、東宮殿下の御滯在所に充てられ、風景の明媚も、爲に一層を加ふるものあるを覺ふ、海上に點在せる名島は、南方にある長者ヶ崎の岩根と共に、千代に動さなき瑞景を添へ、富士の峯、函根の山も、共にこの濱に向ふて揖する如く、勝慨筆舌のつくすべからざるなり。

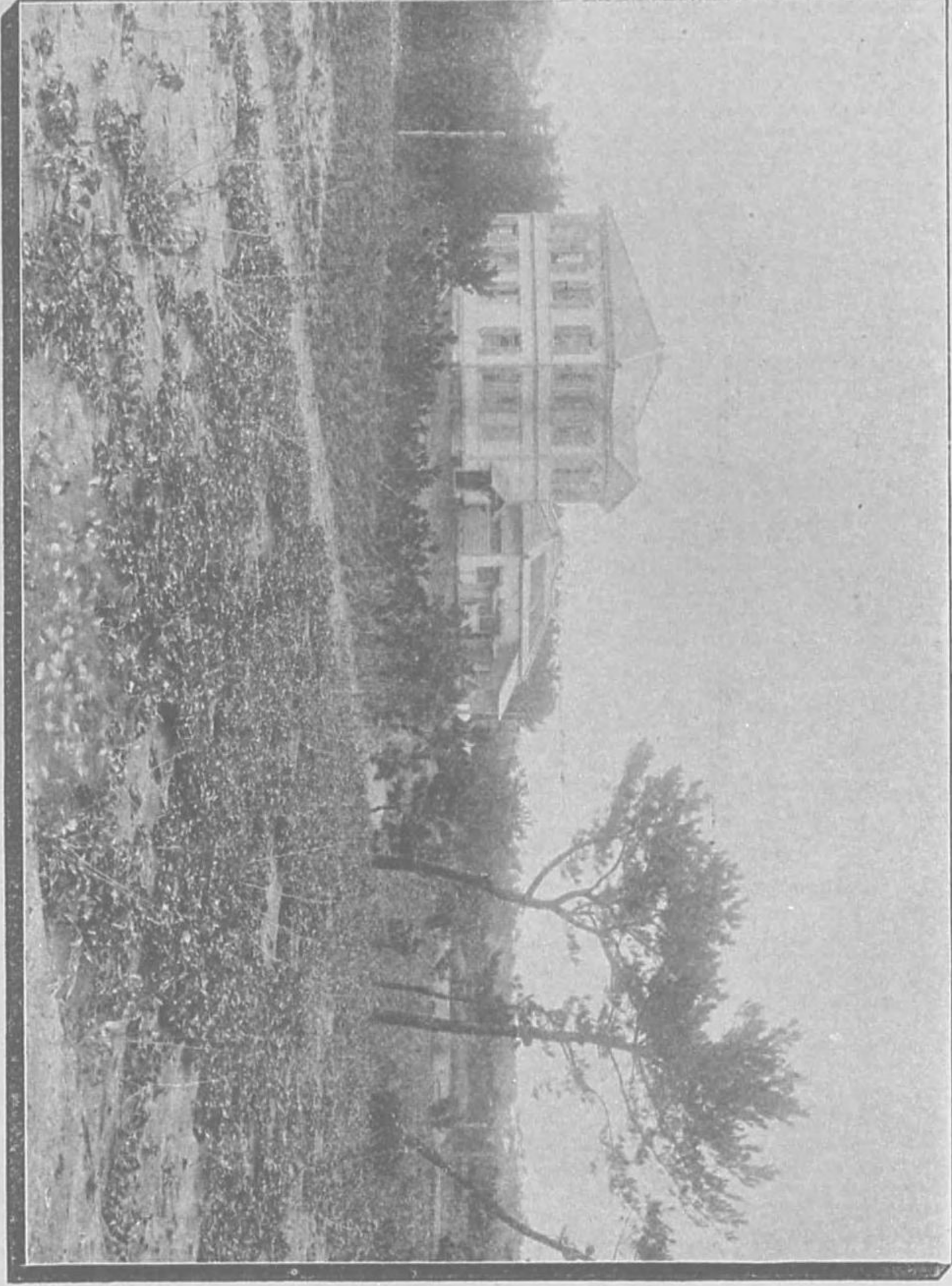
三浦船祭り (相模)

三浦半嶋は、本邦有數の漁業地にして、其尤も盛なるは、三崎町なりとす、三崎は、この半嶋の尖端にありて、後方に丘阜を背ひ、前に小海峽を隔て、城ヶ嶋と對し、漁業の盛んなること實に驚くべく、港頭には、數多の漁船廣集して、腥風常に全町を吹く、船祭りはこの地の有名なる祭禮にして、この日は、一般に其業を休み、壯夫等裝をこらして、港頭に集まり、千態萬狀の奇觀を呈し、大小の漁船は、船印を押立て埠頭に集まり、其狀すこぶる盛大なりとす。



(越後) 親不知の險路

Nanko-in Hospital for Convalescent Invalids at Chigasaki, Sagami.



(相模茅ヶ崎) 南湖院

南湖院 (相模茅ヶ崎)

相州三浦郡茅ヶ崎に在りて、東京駿河臺東洋醫院長高田耕安の病院にして、此院實に其支院たり、地域凡て一萬坪、瓦屋巍々萬松茂樹の間に聳立し、西には富嶽の突兀天を衝くものあり、北には大山、高麗寺等の高峯あり、殊に停車場を距ること甚だ近く、又海水浴場の設ありて、人員輻輳戸數増加、今は殷賑なる一都府となれり院は海濱を去る數町の地に在りて、東に烏帽山岩、江之島等の觀あり、銀鬚起伏雪の如く、撒瀾花の如き間、萬船往來の絶へざるさま、極目無涯、眞に水天一髮の景あり、氏の嚴父、増山守正詩あり、曰く

茅海濱頭興味。長松西砂自養心勝。銀鬚高捲成雷。吼千里風光無盡藏。
茅海風光興不窮。翠松銀浪卷天工。西眺富嶽東江島。萬景鐘來一目中。

Nanko-in.

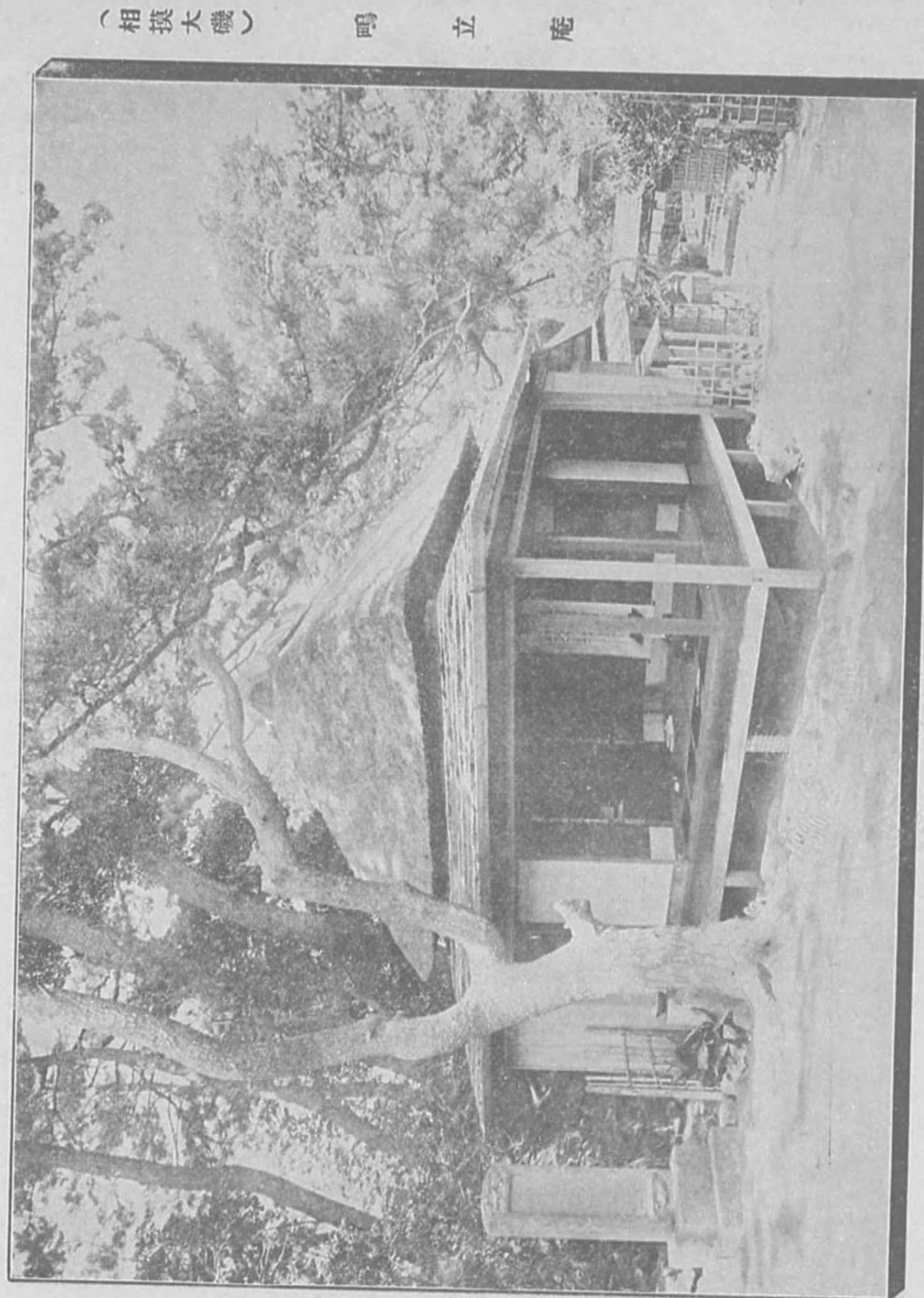
This is a hospital for convalescents at Chigasaki on the Tokai-do about fifteen miles from Yokohama, in the midst of beautiful scenery. It was established by Dr. Takata a few years ago. Chigasaki has of recent years become a popular watering place.

Oyashirazu.

Oyashirazu is the name given to the narrow passage along the beach, opposite the island of Sado, on the west coast of Japan, in the province of Echigo. It extends for some seven miles and was formerly regarded as very dangerous, hence the name, which may be translated "Not knowing even one's parents"; for it is said that squalls sometimes drove the sea so suddenly upon the beach as to make escape difficult, if not impossible, leaving the traveller in time to think even of his filial duties.

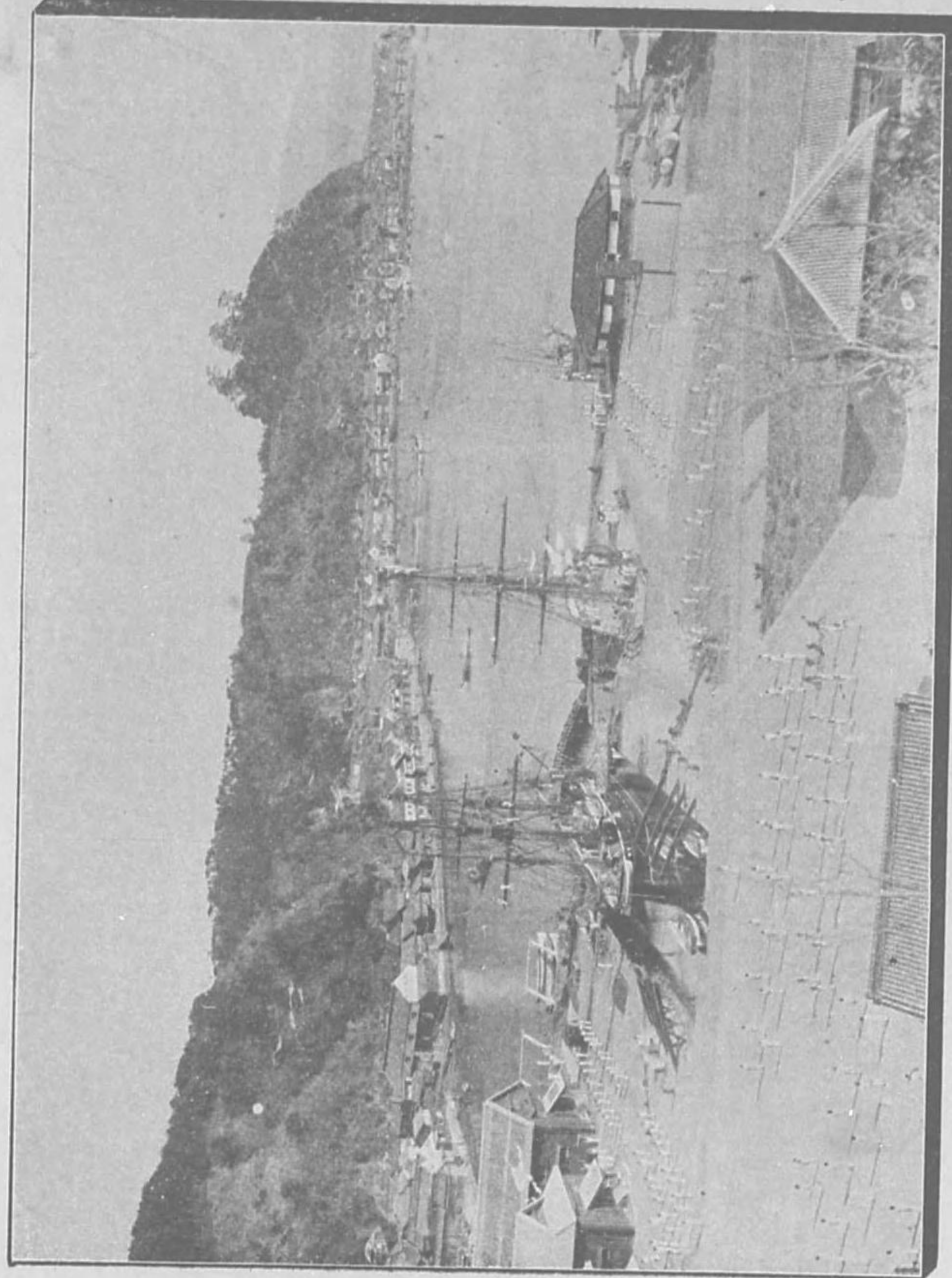
親不知 愈々

斷崖高く水に瀕して峙ち白砂一條通縮として二里に及ぶ、海を隔て、佐渡嶋の素磔を望み雲水天に接するところ飛帆依稀として斷雲に入る極目の風光甚だ佳なり、この地は昔時は木曾の邊通と並稱せられて日本有名の險路といはれ、怒濤道に迫り沙汀を打ちて斷崖に激し行通の旅客爲に海中に捲き去らるゝもの多かりしとぞ、今日は砂汀遠く波打際ほのびて風波の日も如きは危険なし。崖の諸所には人工もて剣り造りたる岩穴ありこれは昔時行者か波に襲はれしとき走りて難を避けしところなりと云ひ傳ふ、危険に迫りたるとき父子相觀る邊なかりしとて今も尙親不知子不知の顔と唄へらるゝも、危険の實は全くなく風光の明媚と眺望の壯觀の女長へに旅客の目を樂しませしむ。



(相模大磯) 鳴立庵

Dock at Yokosuka; Sagami.



(相模) 横須賀造船所

鳴立庵 (相模)

相州大磯の西端、國道の左傍に在り、西行法師が「心なき身にも哀れは知られけり鳴立庵の秋の夕暮」と詠したる古跡にして地は一堆の邸屋をなして、古松蟠踞し、南方相模洋を瞰みて、風光佳絶なり、邸上には西行堂あり、左側に虎子堂あり、其傍らに在るもの即ち鳴立庵にして、寛文年間、小田原の佛土崇雲の營み建る所なり、後ち伊勢の隠士三千風、此庵に閑居して、鳴立の碑を建つ巷に西行真筆の色紙、竹杖、西行法師の古木像、古筆諸名家の詩歌帖等を藏し。客の望みに應じて二龕に供ふ、虎子堂には、遊女大磯の虎が圓緋衣の像を置き、西行堂にも、亦西行法師の木像あり、何れも皆古の料たるものなり、大磯停車場より、距離八町にして達するを得。

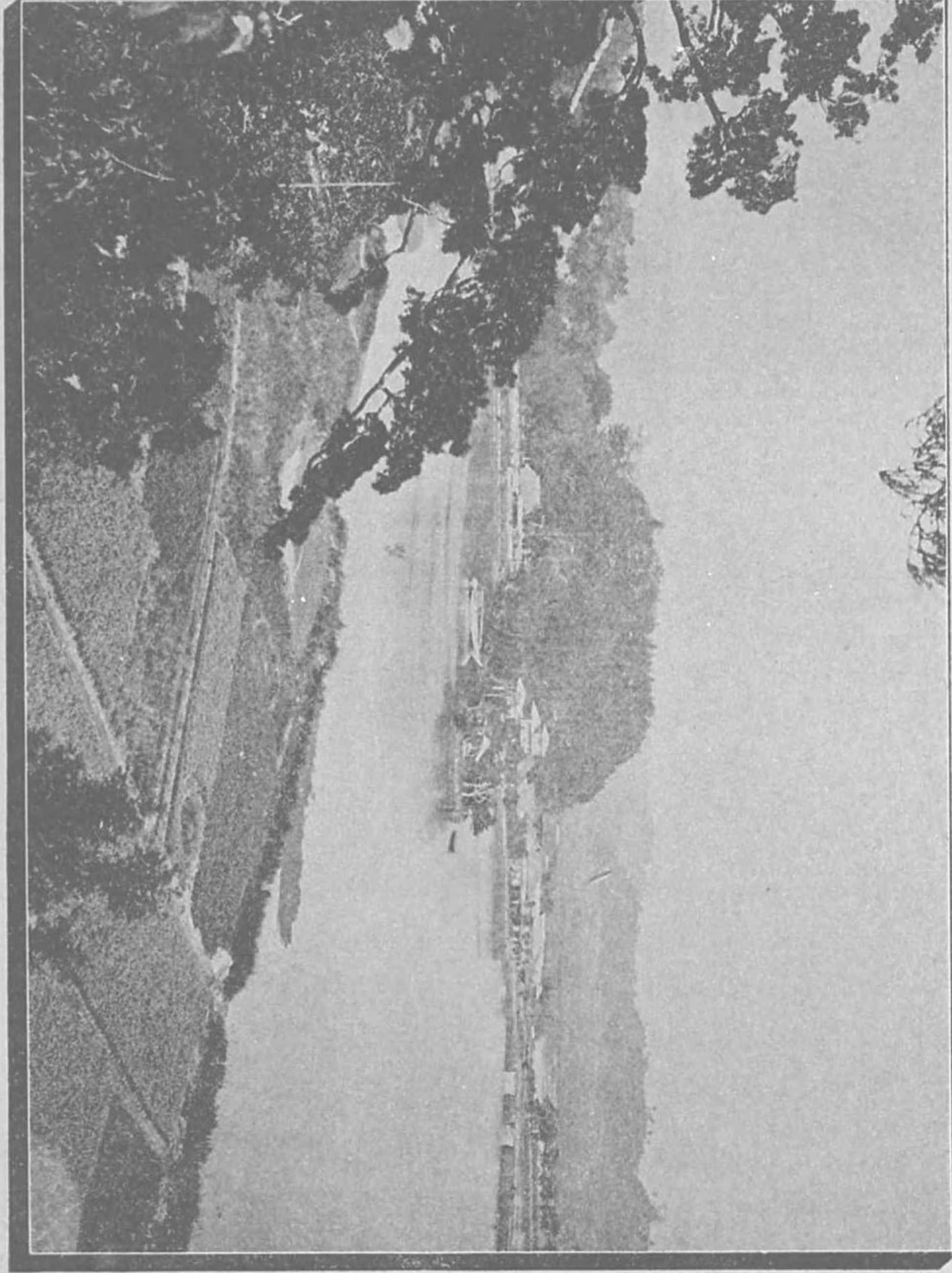
Shigitatsu-an.

This is a building at the western extremity of the village of Ōiso, which was built in memory of Saigyō Hōshi, a famous poet-priest, who lived some seven hundred years ago. There is connected with Shigitatsu-an a small shrine called Saigyō-do which contains a statue of the poet.

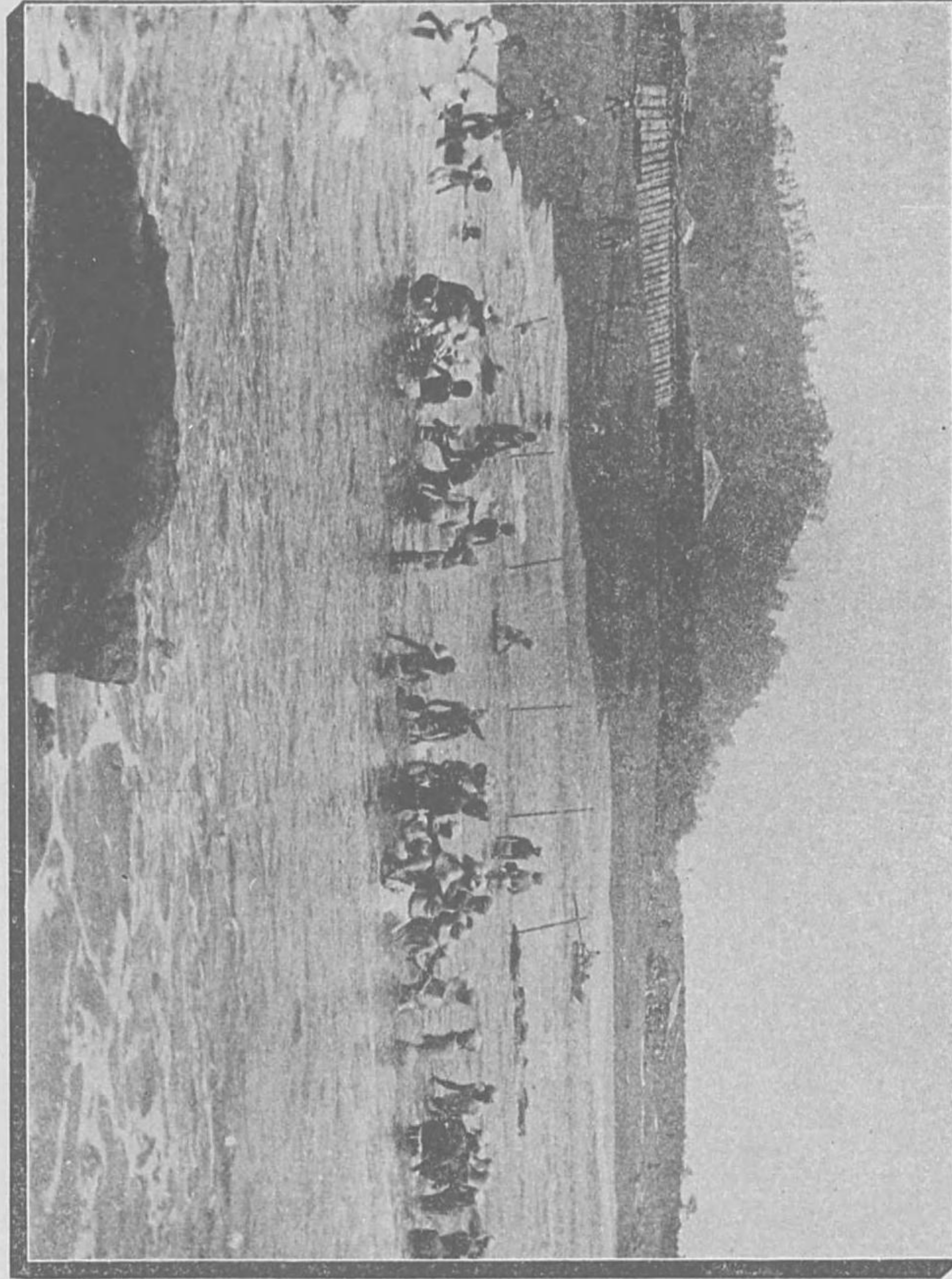
横須賀造船所 (相模横須賀)

相州三浦郡横須賀町に在り、同町は昔時僅かに二十戸ばかりの寒村なりしが、慶應元年、幕府此地に造船所を設置せしより、戸數頓に増加を來し、今は市坊十六の多きを有し、戶數三千、人口一萬五千有餘、一時寄留のものを含算すれば、其數三萬の上を越ゆるに至れり、造船所は、今、海軍省の所轄に屬し、規模頗る宏大にして、船渠の如きは、大小三ヶ所工場は鐵船製造場、鑄物場、煉鐵場、組立場、製鐵場等の數棟に分れ、凡て此地に遊ぶもの、其工場の總覽を請はざるもの稀なるに至れり、其他鎮守府屯營砲臺などありて、海國男兒の觀覽を經べきもの頗る多ければ、汽車の便を藉りて此地に遊ぶも亦、一人の深興なるべし、地は東京を去ること三十哩、横須賀よりは二十二哩、汽車に搭すれば僅かに數時にして達するを得べし。

The Yokosuka Dockyard.
This dockyard, the largest in Japan, belongs to the Imperial Navy. It comprises three docks and the necessary shops and appliances for executing all kinds of naval construction and repairs.



(武藏) 金澤の瀬戸



(相模) 大磯海水浴

大磯海水浴 (相模)

大磯は相模國海老原郡に在りて、延喜の昔より今に傳はり、東海道中有名なる驛路なり、此地に海水浴場を設けたるは、明治九年を始めとし、時の軍醫總監松本順氏の首唱する所に係ると云ふ、但見る海岸に巨礫床をなし、砂濱左右に連りて一小岬角を作れる處、館を構へ、閣を設け、以て浴浴の場と爲し、兼て浴客宿泊の便に供す、抑も此地海水浴場の起りしより、繁華舊時に幾倍し、夏季に至れば遊客實に五萬以上に及ぶと云ふ、感々なりと謂ふべき也、海濱は長汀東西に逶なり、近く江の島を觀、遠く富嶽を望み、房山、豆峰、左右に雙出して二大灣を爲し、風色宛から書くが如く、亦、觀光の勝地なり、古へ小餘線の磯と稱せしものは、恐らく此地なるべしと言へど、考證甚ださだかならず。

Oiso.

This is a favorite watering place situated on the seashore about forty five miles south-west of Yokohama. Many of Japan's most distin uished men have villas here.

金澤瀬戸 (武藏)

武州久良岐郡金澤村に在り、南西北の三方は巨嶽を環らし、東一匝は海に頻し、近く野島、夏島の小島嶼を望み、遠くは房總の峯巒と相對し、山背く水滄くして風光絶佳の地なり、此地に所謂八景なるものありて、洲崎の晴嵐、瀬戸の秋月、小泉の夜雨、乙鱈の歸帆、稱名寺の曉鐘、平瀧の落雁、野島の夕照、内川の暮雪を併稱す、此等の形勝、昔方二里許の間に在りて、同所の近傍、大字町屋の東北なる、總筆山の上にある、名も能見堂の畔より之を見れば、八勝全く一時の下に撰まらり、其絶景言ふべからず、又、同所を距る七八町の處に飛石山と謂へるありて、山上金羅院なる古刹あり、此處より瞰望すれば、八景の外、更に能見堂をも併せ見ることを得べきが故に、境内に丸觀亭なるものを設けたり、此地本と遠望に宜しく、近づきて之に臨めば、却て雅致を失ふものなるを以て遊客は常に能見堂、及び九觀亭に登るを可とす。

Kanazawa.

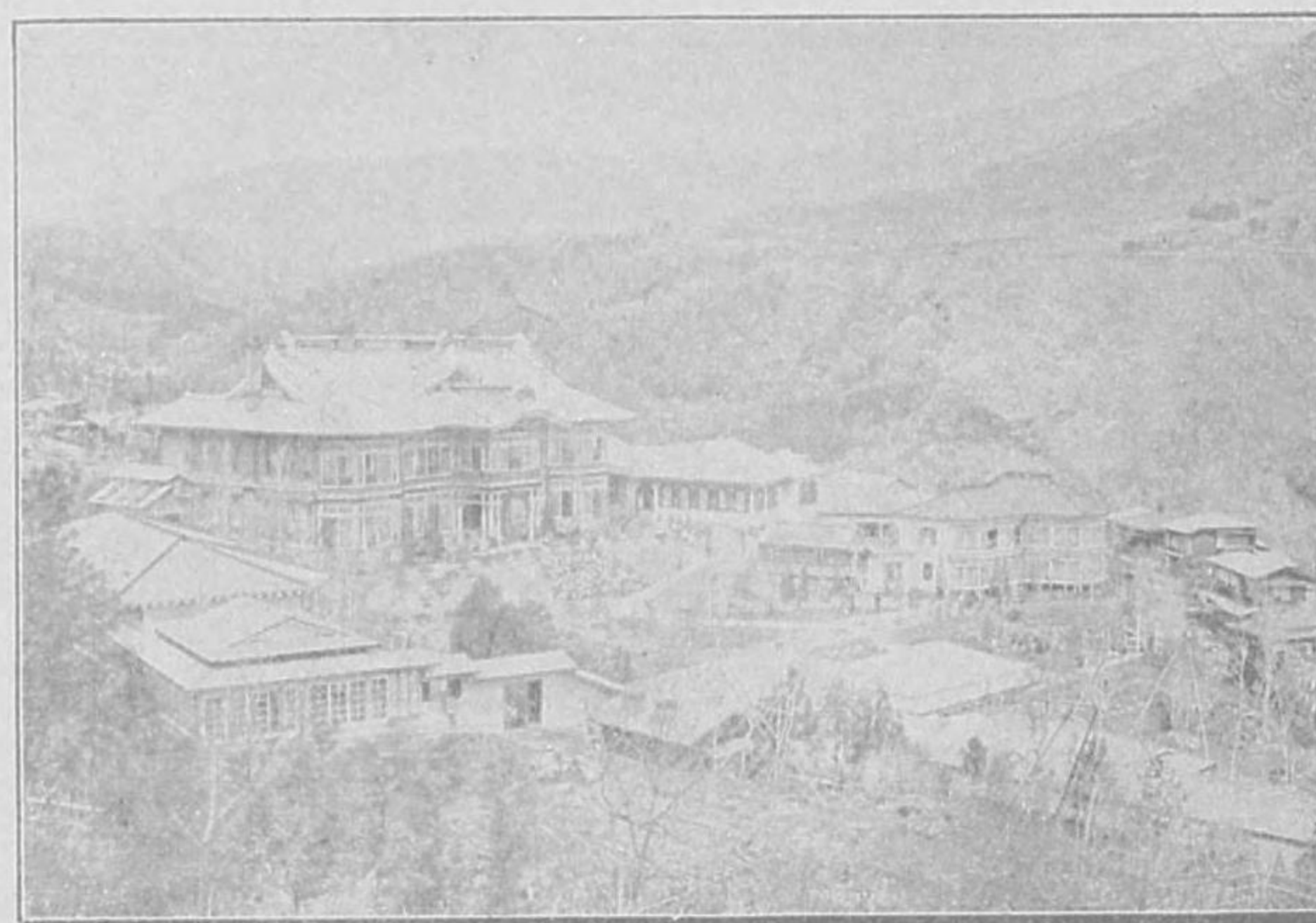
Kanazawa is a lagoon-shaped bay about seven miles from Yokohama. It is one of the most beautiful spots in the vicinity of Tokyo.

(相模箱根) 宮の下の雪景



Miyanoshita in Winter, Hakone; Sagami.

(相模箱根) 富士屋ホテル



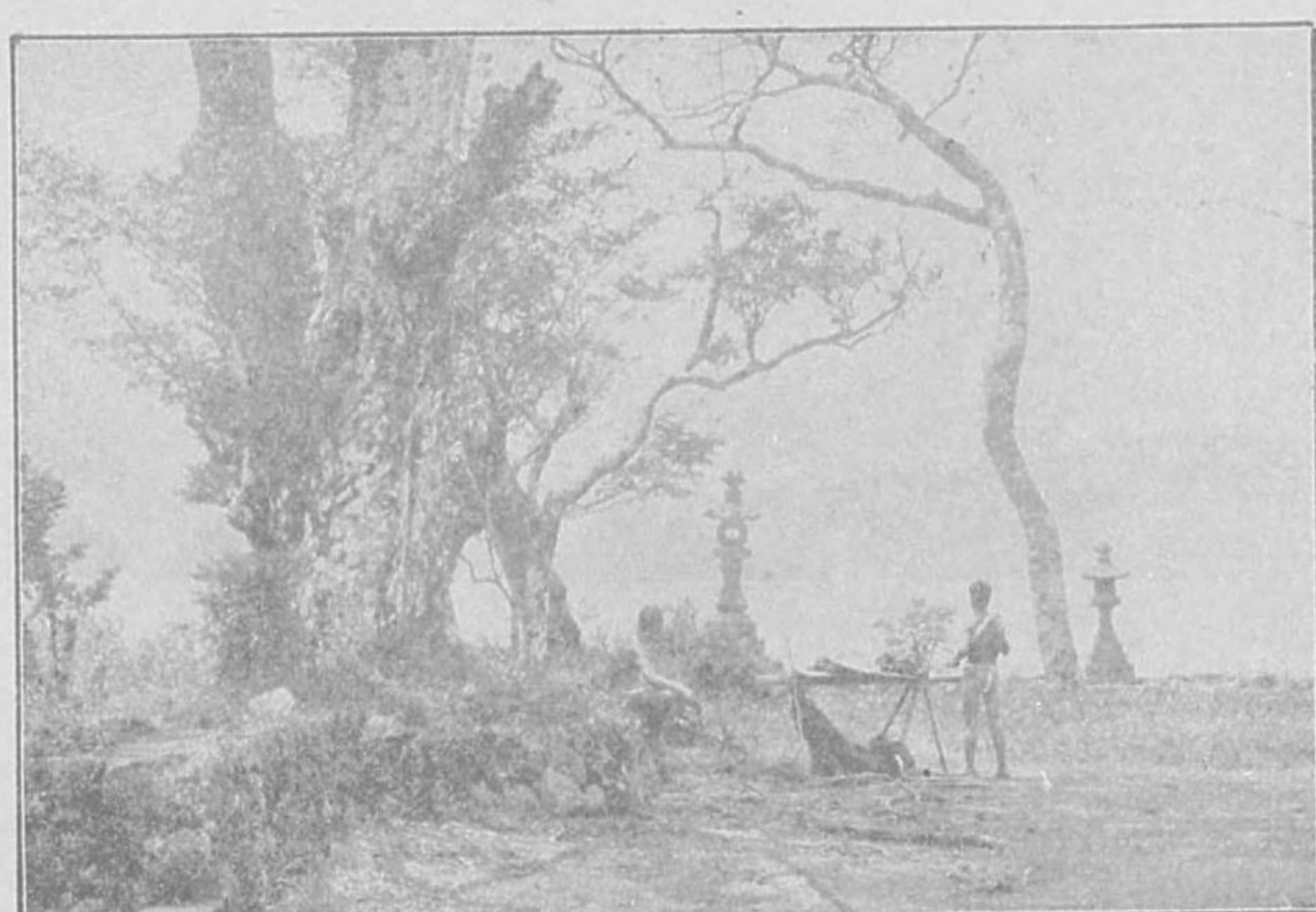
Fujiya Hotel, at Miyanoshita; Sagami.

(相模箱根) 塔の澤



Tō-no-sawa; Hakone, Sagami.

(相模箱根) 芦の湖



Lake Hakone; Sagami.

箱根宮の下温泉 (相模)

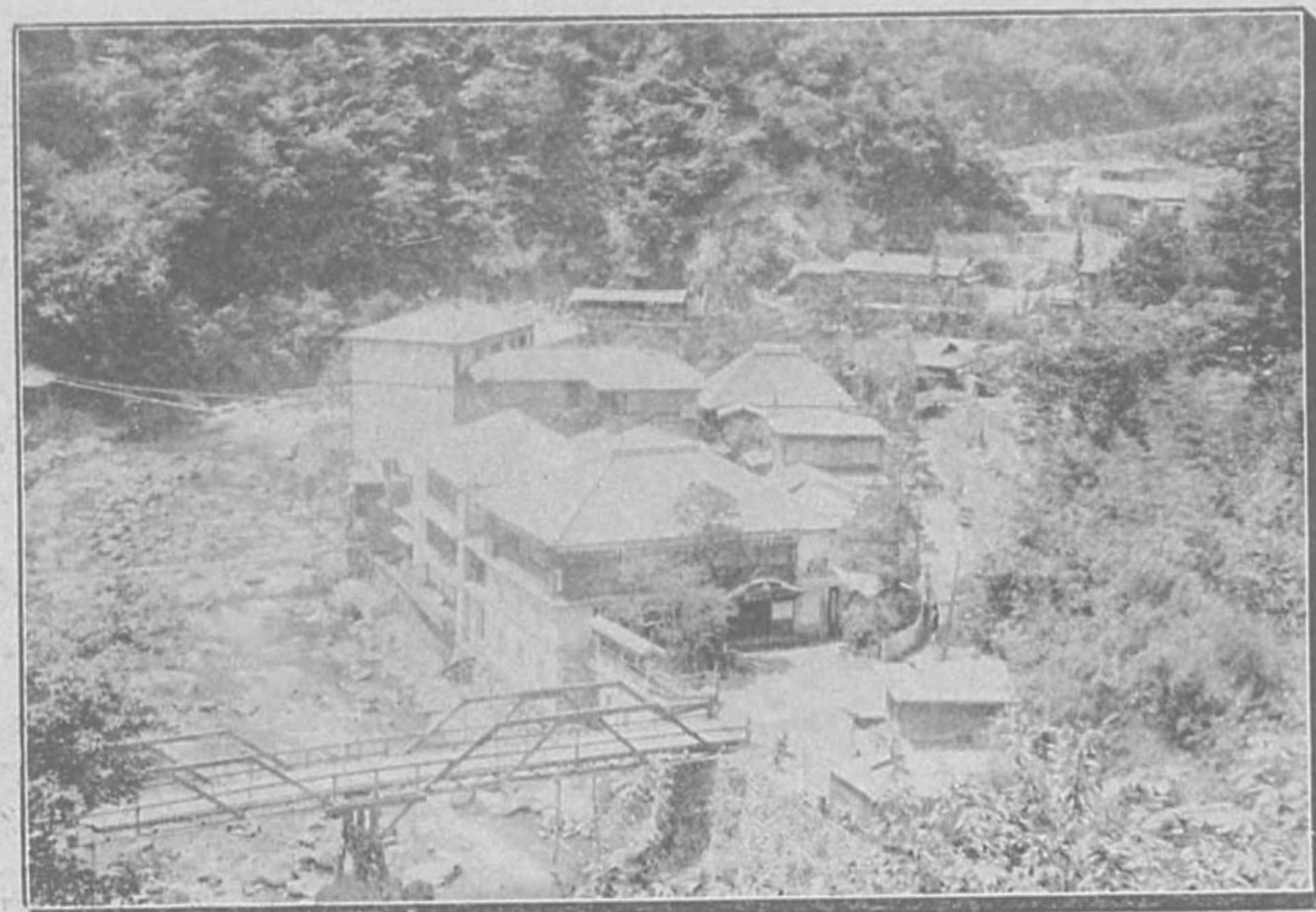
相州箱根湯本より、一里二十町を隔てたる、底倉村字宮ノ下に在り、地は海面を抽くこと一千二百二十三尺、南西北の三方は群山圍繞し、東方巒峯の盡る所より、遙かに相模灘を望み、箱根七湯中最も風景に富み、且つ最も繁昌を極むる地なり、温泉の湧出するもの都て五所、即ち三日月湯、熊野湯、吉田湯、麗新湯、明治湯にして何れも、無色透明の弱性塩類泉なり、此地には郵便電信局あり、巡査派出所あり、新聞縦覧所、貸本屋、楊弓店、寫真舗を始めとし、竹細工、挽物細工、其他の箱根名物を販賣する商店多く、浴客消閑の具、一として備はらざるはなし、温泉宿は富士屋、奈良屋を以て最も大とす。

箱根蘆の湖 (相模)

湯本の温泉場より、崎嶇たる坂路を登りつくとせば、四面山岳を以て圍繞されたる中に、一碧藍を湛へたる如き湖水を見るべし、之を蘆の湖とす、東西二十町十五間、南北一里二十三町、周回四里卅町の大湖にして、其深さは四十仞に達すといふ。形状恰も瓢の如く、北にいたり迫りて川となるものは、即ち早川なりとす、四面皆山にして、東方に冠ヶ嶽、駒ヶ嶽峙ち、北に金時山あり、西方遙かに富士山の温容を見る天晴る、時には、岳影さかさまに湖上に落つることあり、これを、箱根の逆富士として、夙に雅人の吟咏に入る、東南岸に箱根驛、元箱根宿あり、箱根離宮はその中間の突出せる地角にあり、湖上の風光の佳なるは、こゝに筆にするに及ばざるべく、又筆にするも萬一をも寫すと能はざらん。

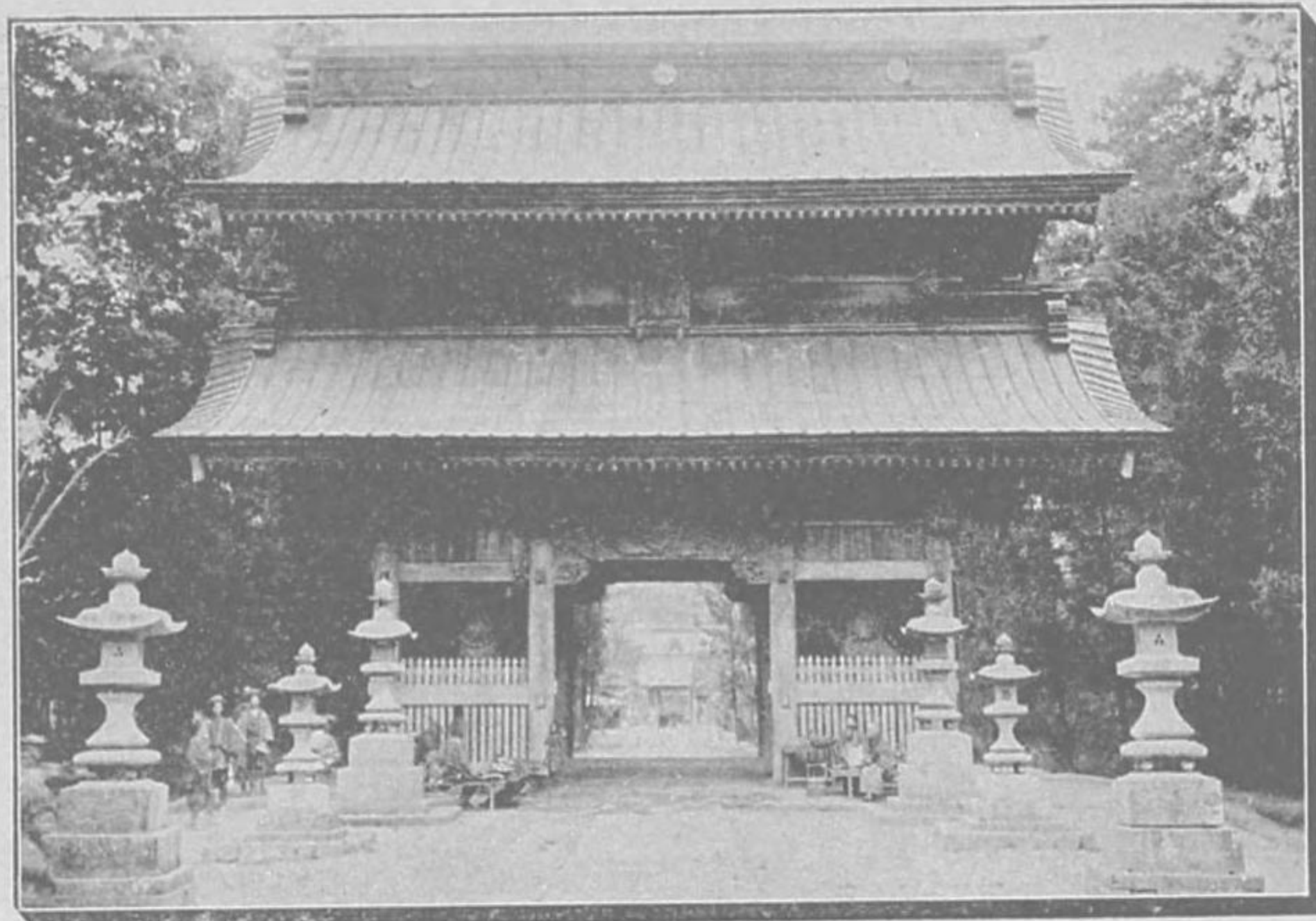
箱根塔の澤 (相模)

相州足柄下郡早川の岸に在り、東海の國道に衝り、是より以西は道途漸く峻を加へて、以て、箱根峠に達す、其里程殆んど三里に亘れり此邊温泉の湧出頗る多く、古へより箱根七湯の稱あり、塔の澤、亦、其一にして、七湯中最も形勝の幽雅を以て聞ゆ、地は三方に丘陵を繞らし、早川の急流其中央を串き、勝驪山は玉の緒橋畔に峙立して、風光極めて絶佳なり、湧泉は五ヶ所ありて、之を玉の緒、塔の澤、一の湯、元湯、上湯と云ひ、湯は單純泉にして、温度は攝氏の四十三度より四十七度の間に在り、近來外人の來りて此湯に浴するもの多きより、旅館は大抵其半ばを洋風に擬して以て内外両客の便を圖れり。



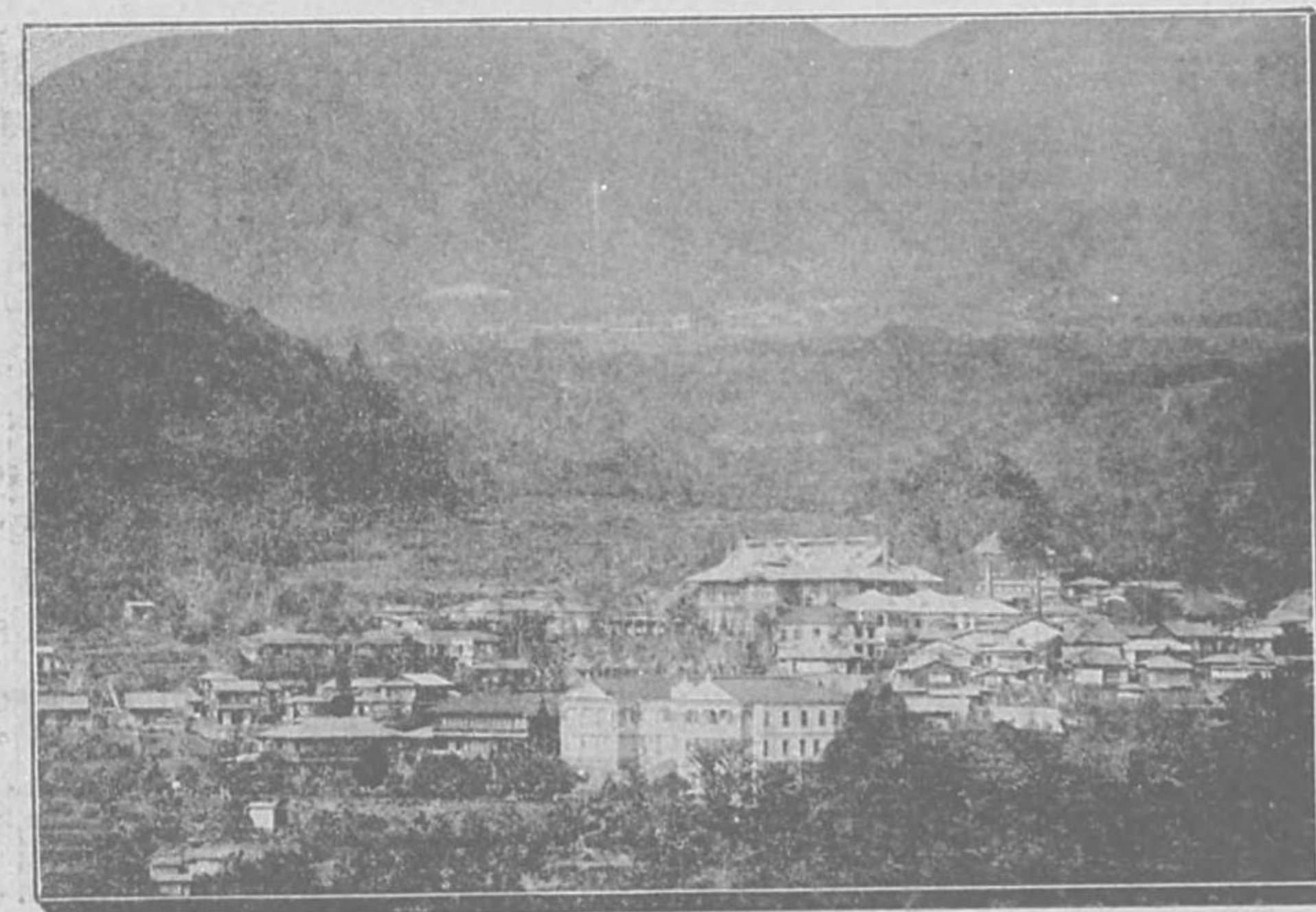
Tonosawa Hot-Springs; Hakone, Sa ami.

(相模箱根) 塔の澤温泉場



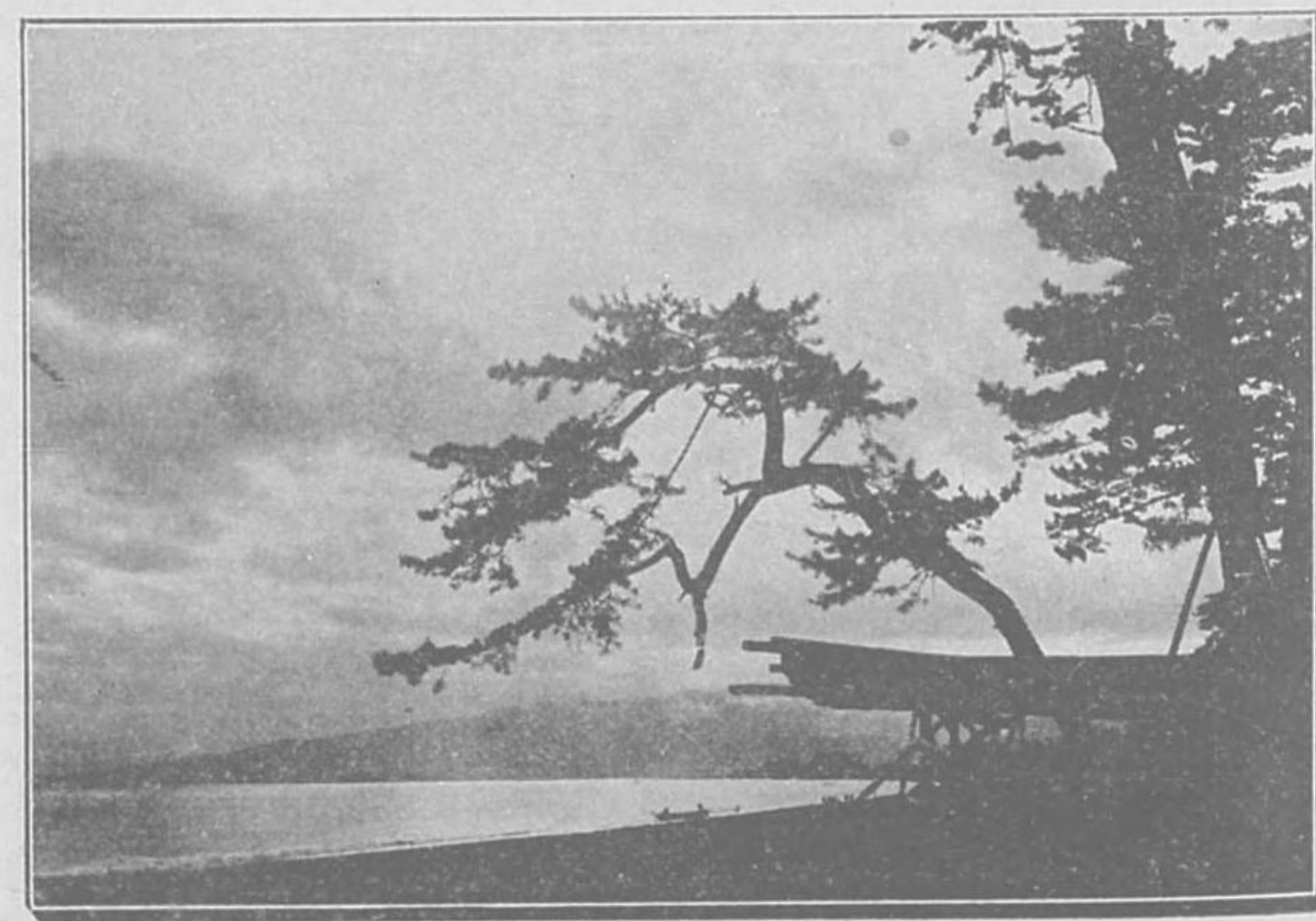
Kwanki-in at Menuma; Musashi.

(武蔵妻沼) 喜院



View of Miyanoshita; Sagami.

(相模) 宮の下全景



Sunset at Kōdzu; Sagami.

(相模) 國府津の夕陽

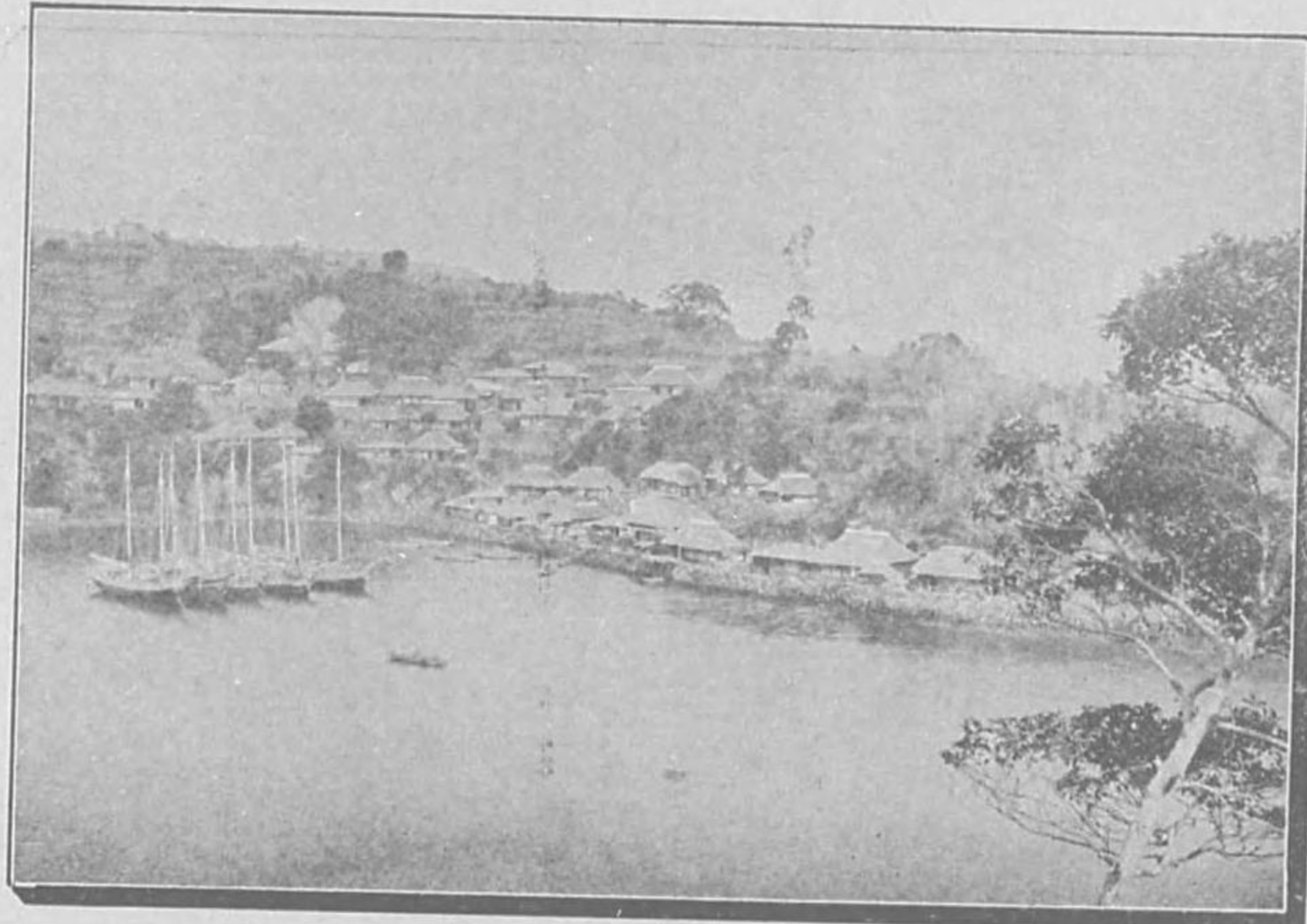
歡喜院 (武蔵)

武州大里郡妻沼村に在り、建久八年の創建にして良應僧都の開基なりと傳ふ、境内凡を二千坪、中央に本堂ありて、本尊不動明王を安置す、明治六年の再建なり、別に護摩堂、客殿庫裡書院などありて、更に街衢を隔てたる北隣に、聖天堂あり、境内凡を六千坪、中央に本殿ありて、歡喜天を祭る、像は黄金にして、齋藤實盛の子、實長の奉信せしものなりと云へり、本殿は東に面し、前に貴總門、中門、二王門あり、北境に池泉を穿ち、池中に一丘ありて、辨天の祠を鎮す、毎歲三月十七日及び九月二十日の兩日、本殿に於て祭典を舉ぐ、信徒の來賽するもの塔の如しと云ふ。

國府津夕陽 (相模)

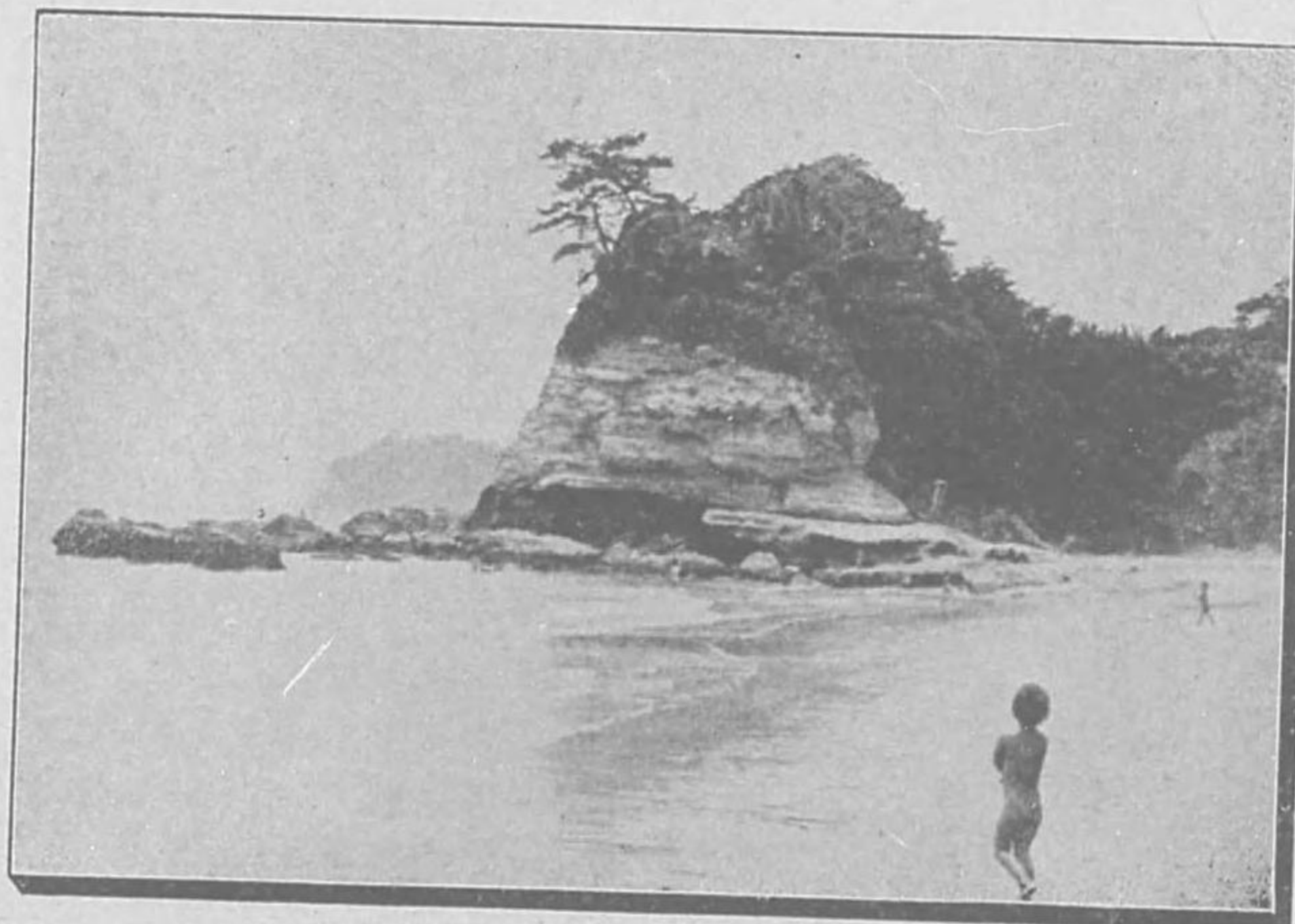
國府津は、東海道鐵道の停車場所在地にして箱根温泉に赴くもの、及び伊豆の熱海、伊東等に遊ぶもの、皆こゝにて下車するところなり、南は、海に面して北に山を負ひ、氣候温和にして尤も海水浴に適す。海濱に一小丘ありて、これを唐澤の岡といふ。風景甚だ佳なり、夕陽既に西山に入らんとして、斜照の海濱を照らすときとなれば、海水浴樓の瓦光きらめきて、松樹の影長く山腹に曳き、蒼然たる暮靄は、唐澤の岡をこめて、模糊として海面に連なる、紅の波くたくる砂濱には、漁舟の歸り着きしあり、夕日影かゝれる木々の梢には、流車の烟白く残る、其の景の幽にして趣あるは、恰も、一幅の畫圖を開きしか如しとぞ。

(相摸) 眞鶴港



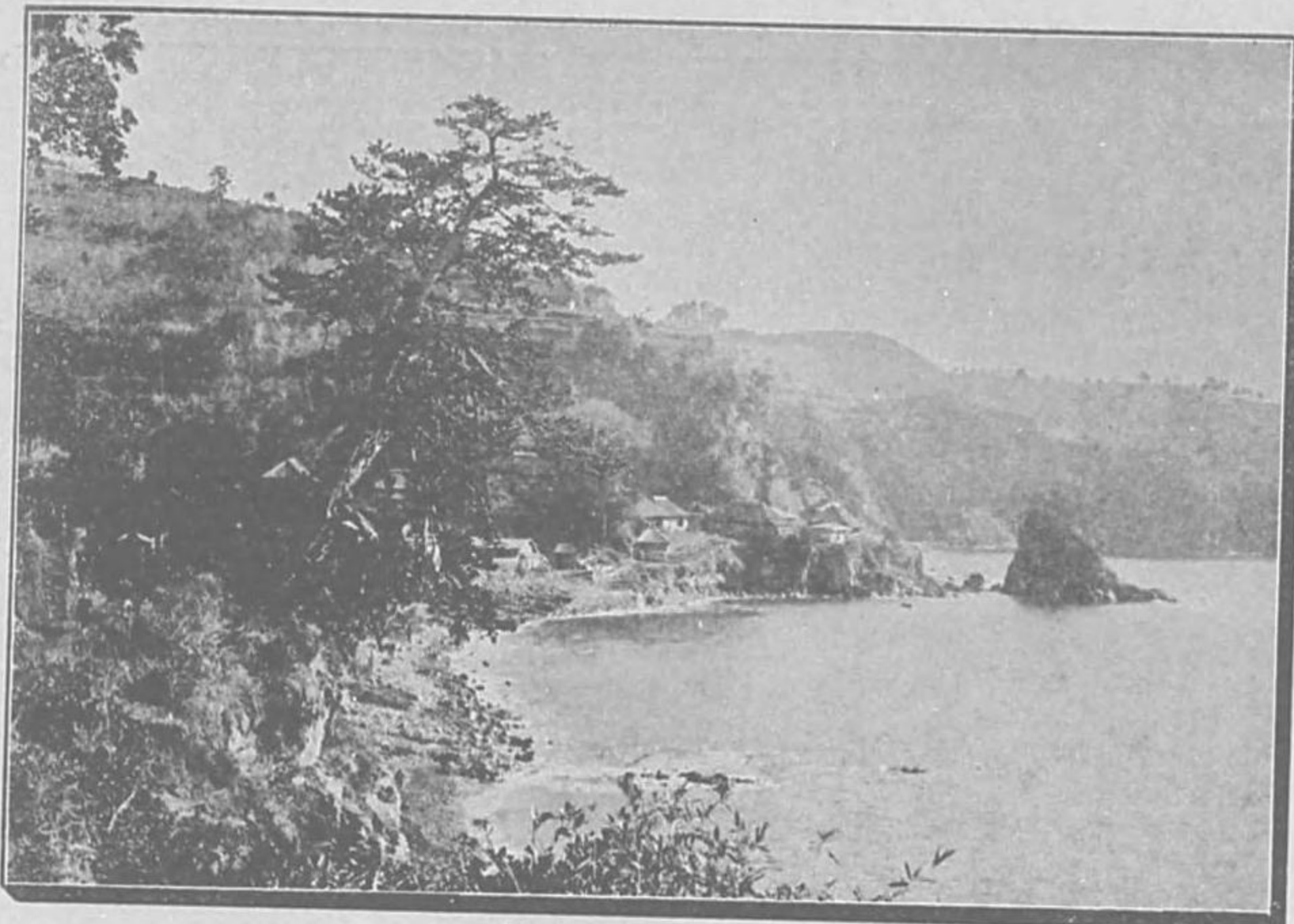
Manadzuru Harbor; S gami.

(相摸) 稲村ヶ崎



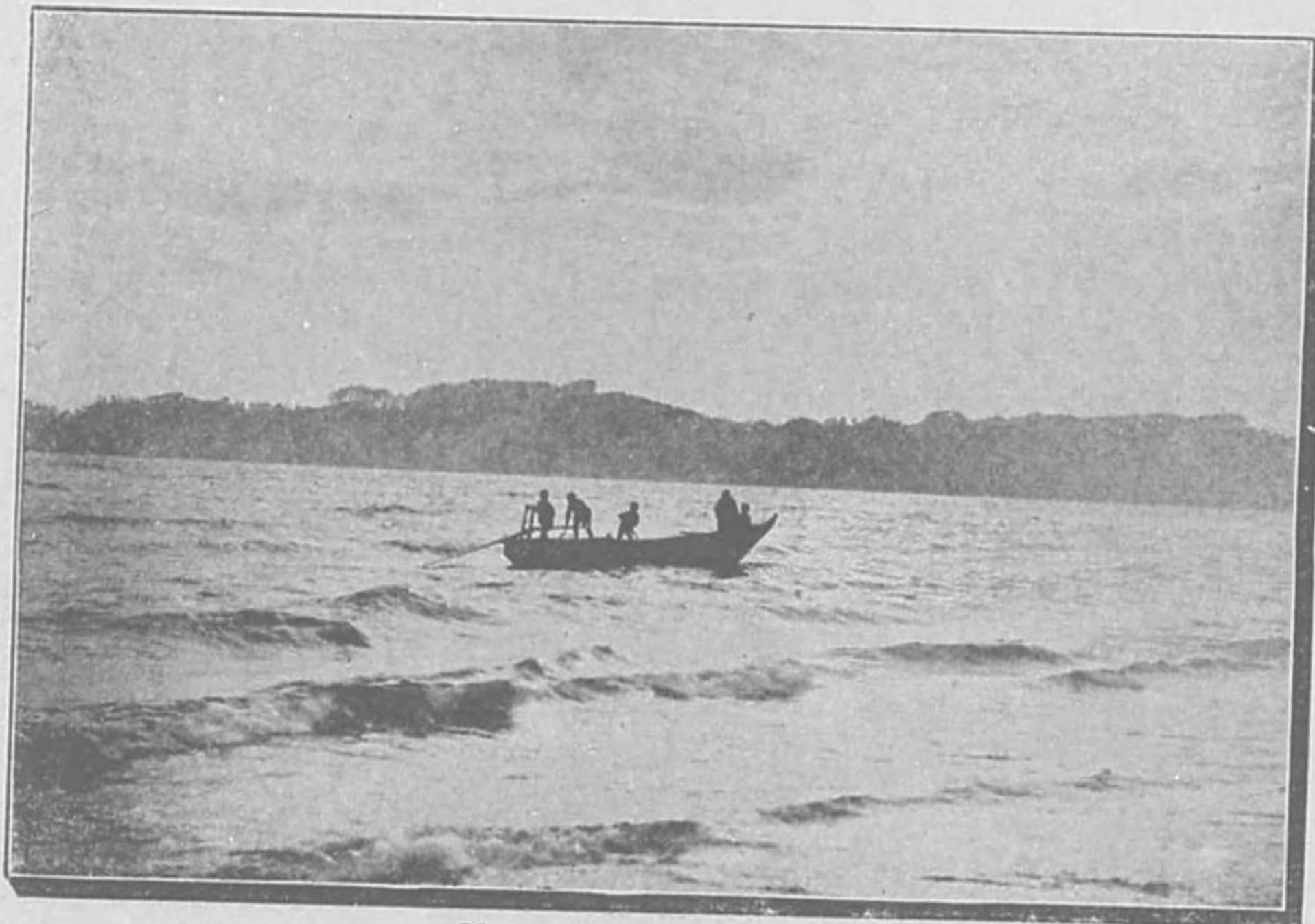
Inamura-ga-saki, Sagami.

(相摸) 福浦遠望



Fuku-ura; Sagami.

(相摸) 由比ヶ濱



Yui-ga-hama; Sagami.

眞鶴港 (相摸)

足柄下郡の海岸に、一葉の岬角長く海中に斗出せるものあり、こは眞鶴岬にして、昔し治承四年に、源頼朝石橋山に敗れ、土肥岡崎等の郎黨を伴ひて、夜に乗じて海上に通れしは、實に、この岬端よりせしなり。眞鶴港は、この岬邊にあり、以て大船巨船を入るゝに足らざるも、豆相沿海を航する帆船等は、錨をこの港に投ずるとあり、特に地の山を負ひ海に面して、風景の勝に富みたるは、尤も愛すべくして、相模洋の片帆は、遙かに震める青螺を破りて駛り、漁舟の勇ましく漕ぎ歸るなど、心神の爽快なるいふべからず、近年この附近に海水浴場の設けあり、片帆に乗じてこの港頭の上陸し、以て風景の明媚を訪ふも、亦た一興なるべし。

稲村ヶ崎 (相摸)

相州鎌倉阪の下の南、海中に斗出せる岬角の名にして、獨り風光の秀麗なるのみならず、歴史上有名な古蹟なり、地は後ろに靈山ヶ崎の丘陵を負ひ、前に渺茫たる滄海を望み、海濱には、危巖險礁突兀として、或は起ち、或は伏し、西は七里ヶ濱の沙磧を経て、江の島と相通じ、近境、貴顯紳士の別墅多く設けらる、其西に形ち稲村に似たる岡阜あるを以て、之を稲村ヶ崎と稱するもの乎、元弘三年五月廿一日、新田義貞、北條高時を鎌倉に討せんとし、此處より軍勢を進めしに、斷崖直ちに海に接し、道狭くして容易に進攻し難きを以て金装の佩刀を龍神に捧げて、退潮を禱り、其加護によりて、終に凱旋の功を収めたるは、史を讀むもの、皆熟知する所なり。

福浦遠望 (相摸)

伊豆と三浦の二半嶋、東西に斗出して、一の大灣を抱き、この間に、湘南の名所勝區を散在せしむる妙からず、福浦の如きも其最も佳絶なるもの、一なり。浦上の波濤かにして鏡の如く、白砂透迤として、海鳥浴に飛び、飛帆時に細漣を破りて駛る、半嶋の黛色は遠く、一髪をひく如く、繪の嶋の仙島、鳥帽子嶋の危岩又た眸中に入るべし。夫れ、湘南の海岸は、交通の便尤も開けて、東よりするものも西よりするものも、容易に杖をこの境に曳くを得べし、されば都市の熱鬧を厭ひ多くは、この間に集まる、福浦の波と、磯吹く風は、この目的に向ふて尤も適當せるものならんか。

由比ヶ濱 (相摸)

鎌倉八幡宮の社前を去ると五町餘、東は飯島より、西の方靈山ヶ崎に至る、一帯の海岸をいふ、砂白くして松青く、西には、遙に稲村ヶ岬ありて、岬角の危岩に波の碎くるを望むべく、東には、逗子、葉山等より三浦半島西海岸の景色に對す、前面は、相模洋の海波遠く連なりて、飛帆の影とくに雲に入り、後方には、田畝をへだて、連山屏の如く繞る、風光の明媚なるといふばかりなく、貴顯紳士多く別墅を構へ、また海水浴場の設けあり。この濱は、鎌倉幕府のころ、源頼朝が兵馬を訓練せしところにて、代々の武將亦たしばしばこれを試みたりといふ、海濱に行立せば、松濤の聲おのづから戰馬馳驅の音をさく思あらん。

箱根町 (相模)

相州箱根山上に在りて、東海國道に當り、蘆の湖の南岸に位す、北は湖水を隔て、駒ヶ嶽と相對し東北には三子山あり、南に日金山あり、西には富嶽を仰瞻し東西山嶽の盡る所より、遙かに相模洋を望むなど、其絶勝言ふべからざるものあれども、秋季は時として深霧の爲めに、此の風色を妨げらるゝことありと云ふ、昔は此地に關門を設けて、行人の來往を檢し、箱根の關と云へば、日本第一の嚴めしきものなりしが、維新革命と共に廢滅に歸し、今は僅かに其墟址を留むるのみ、町内には旅店多く、夏季に至れば浴客群集して其雜沓名狀すべからず、人口は七百有餘、戸數は二百六十あまりなりと言へり。

箱根堂ヶ嶋温泉 (相模)

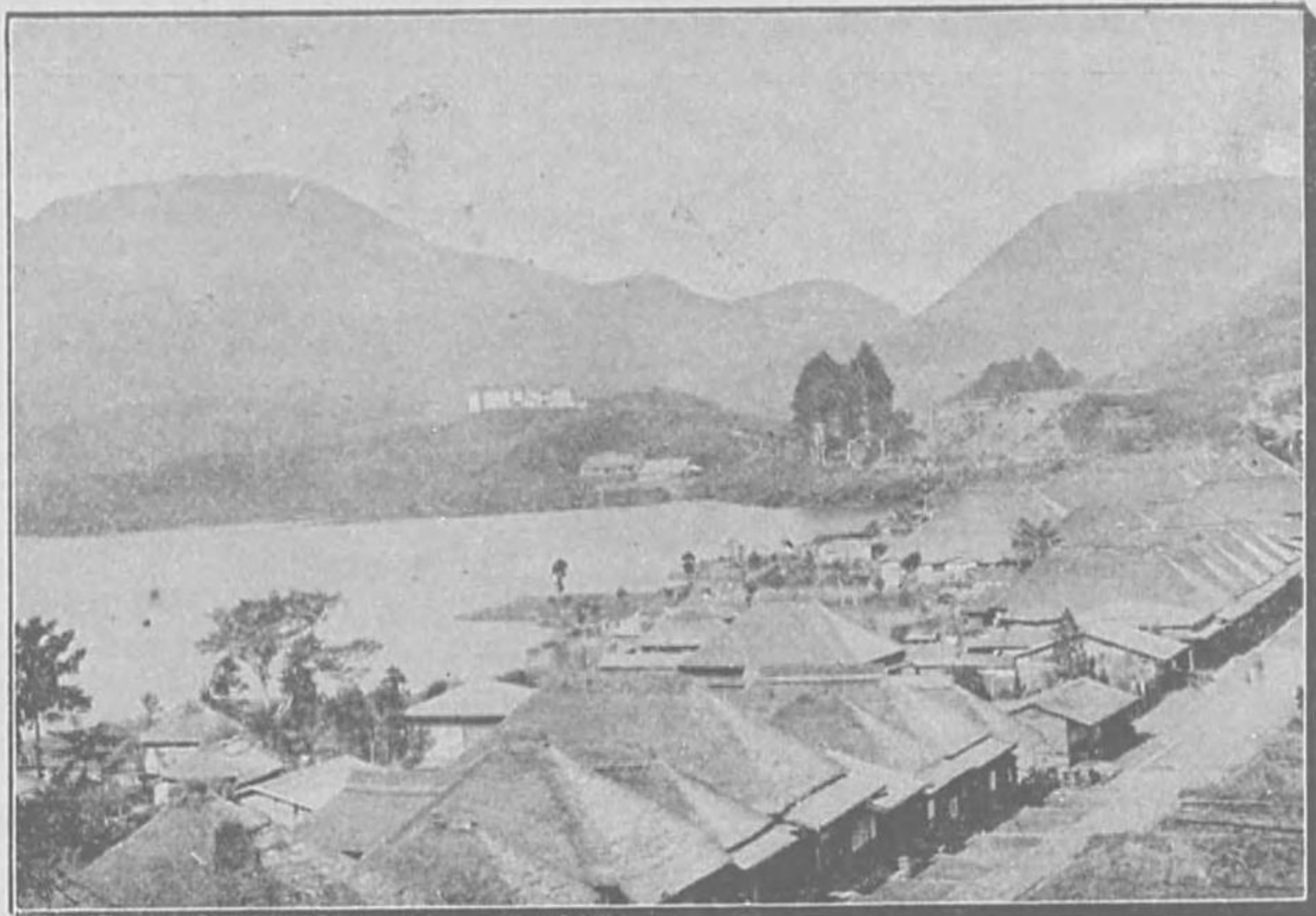
箱根宮ノ下より降ること五町、早川の南岸に在り、土地低濕にして桶盆の如く、鬱樹四方に繁茂して、翠蔭常に天日を進り、遠望の觀に乏しと雖も、亦最も深邃を極め、夏日は殊に爽涼なり、温泉は三所にして、夢想湯、藥師湯、神仙湯と稱し、何れも單純泉なり、中にも夢想湯は、夢想國師の發見に係れりと傳へ、今尙は村内に國師の堂、及び坐禪石あり、旅舎は近江屋、大和屋、江戸屋の三戸にして、別に平松某氏の別荘あり、其庭内にある調の瀧は、高さ十五丈、幅五尺、形も數條の弦を懸けたるが如く、水聲亦琴音と相似たるを以て此名ありと言傳ふ、別に此地と宮の下との間にも、瀑布ありて、木葉隠の瀧と稱し、共に山中の絶勝を以て稱せらる。

小田原町 (相模)

相州第一の都會にして、舊と大久保氏の城市たり、東西十六町、南北十三町、市坊十九を有し、南方は海に類して、沙清く、波穩かに形勝明媚、海に海水浴場に適し、西北は丘陵を繞らし、今尙は丘上に城跡あり、中央の街衢を幸町と云ふ、商店旅亭軒を並べ、足柄下郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信などの公廨、皆此とこに在り、海濱には、海水浴の旅館嶋盟館ありて、之に隣れるは伊藤侯爵の別業滄浪閣なり、有名なる外郎の發賣本舗は、驛の中央にありて、屋號を虎屋と云ひ、外郎の名を透頂香と稱す、此家は古來名た、る薬店にして、軒に入棟造りの屋根を設け、海道往來の旅人、幾んど之を知らざるもの希なり、又此地は、古への英雄伊勢新九郎長氏が、雄を關八州に振ひたる基業の塲所なること史を讀むもの、諳んずる所なるべし。

足柄鐵橋 (相模)

東海道の鐵道に駕して、山北驛に着し、それより漸く函嶺の峻に入る。一條の溪流兩山の脚を洗ふて奔流し、岩に激し崖に迫り、其景色甚だ壯なり、流車は、この溪流に沿ふて逆過す、或は右し或は左し、蜿蜒として蛇行する毎に、溪流の上に乗せる鐵橋を行く、萬雷脚下に轟くとき、首を車窓より出して瞰視すれば、激流橋脚を噛み、餘沫迸つて白霧を散す過ぎて首を回らせば、鐵橋の横たはれるは、恰も虹霓の谷を斷つが如く、奇觀壯景いふべからず。若し、東海鐵路の絶勝を説くものあらば、必ず指をこの足柄山中の鐵橋に屈すべきなり。



Village of Hakone; Sagami.

(相模) 箱根町



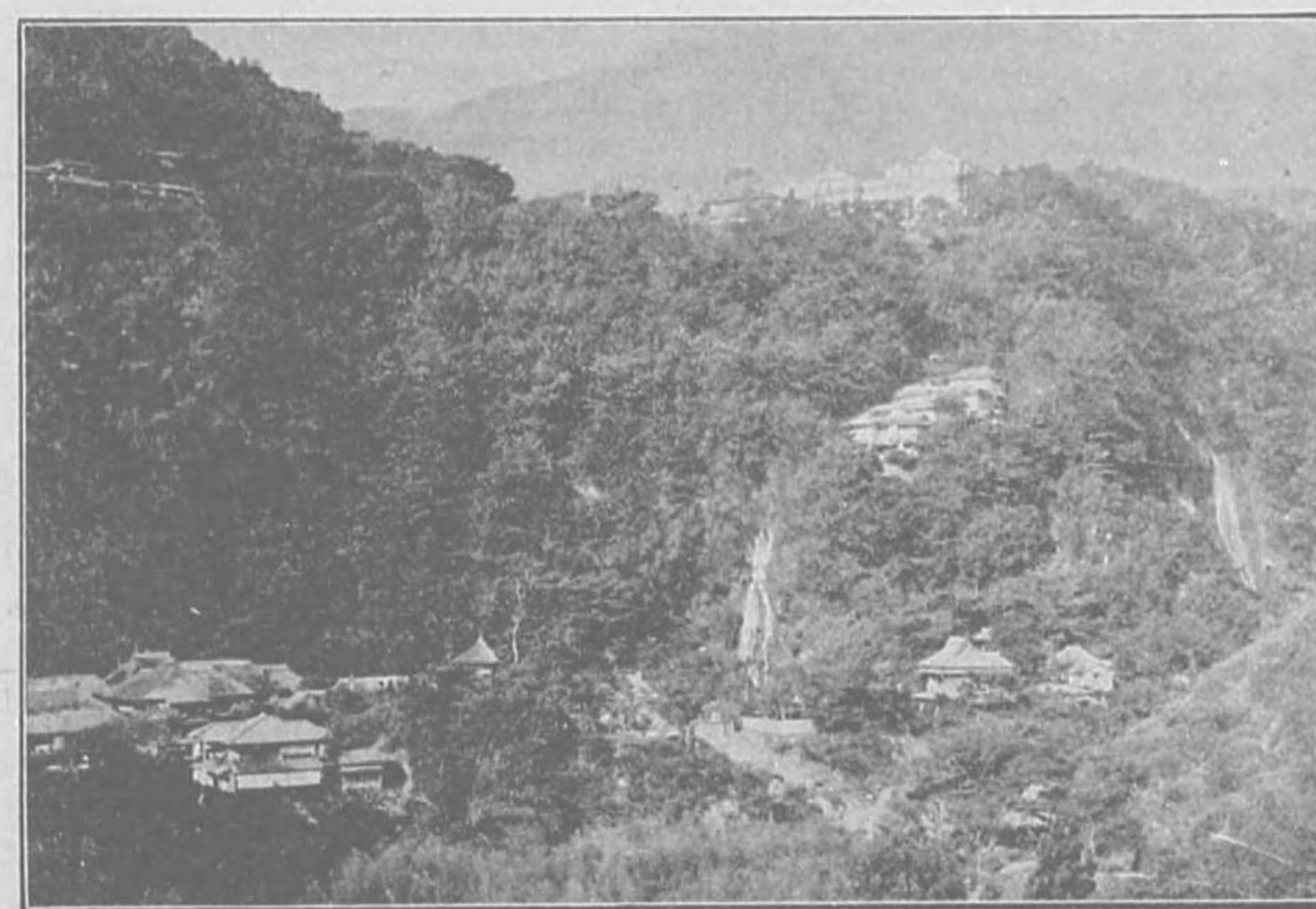
Town of Odawara; Sagami.

(相模) 小田原町



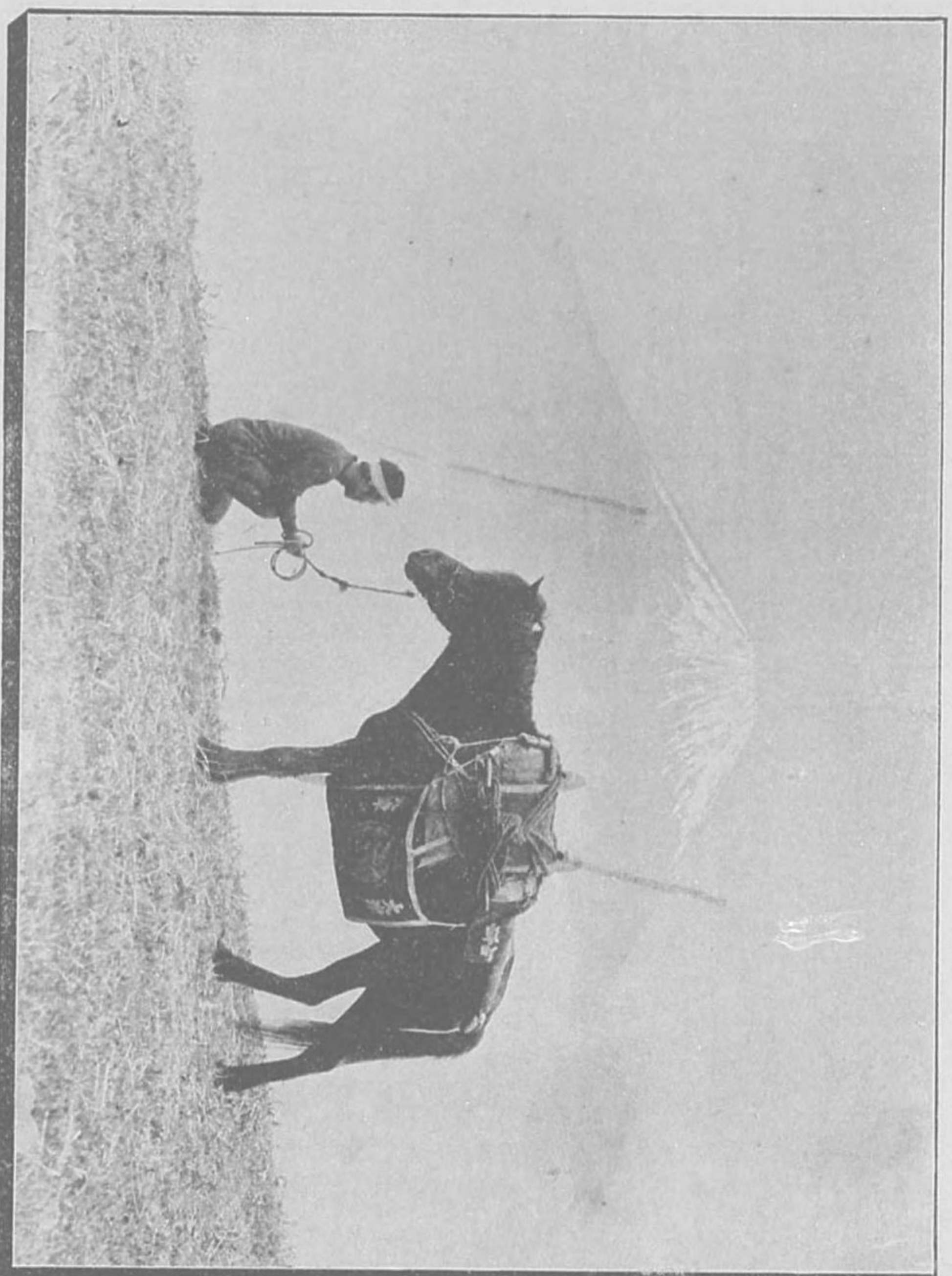
Iron Bridge No. 5, in Hakone Mountains; Sagami.

(相模) 東海道足柄ヶ嶋五鐵橋



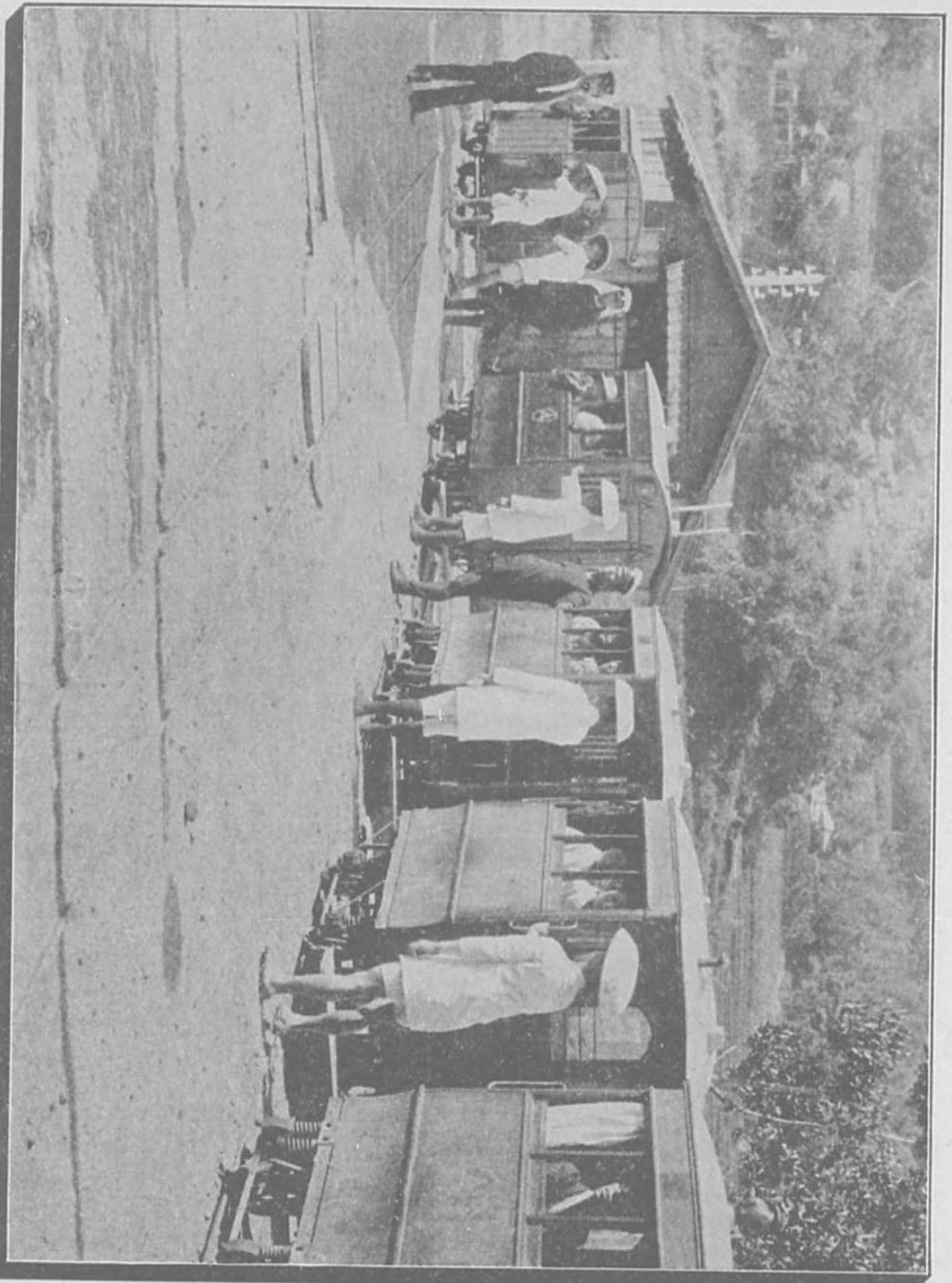
Dōgashima Hot Springs, Hakone Sagami.

(相模箱根) 堂ヶ嶋温泉



Otome-ge; Suruga.

(駿河) 乙女峠より富士を望む



Man-power Railway Cars Between Odawara and Atami; Iizumi.

(伊豆) 人車鐵道(豆相人車鐵道株式会社)

Otome Pass.

This Pass is on the old route from the Gotemba Station of the Tokaido Railway to Hakone. The road leads the traveller through a most beautiful district and opens to him a great variety of scenery.

The "Jinsha" Tramway.

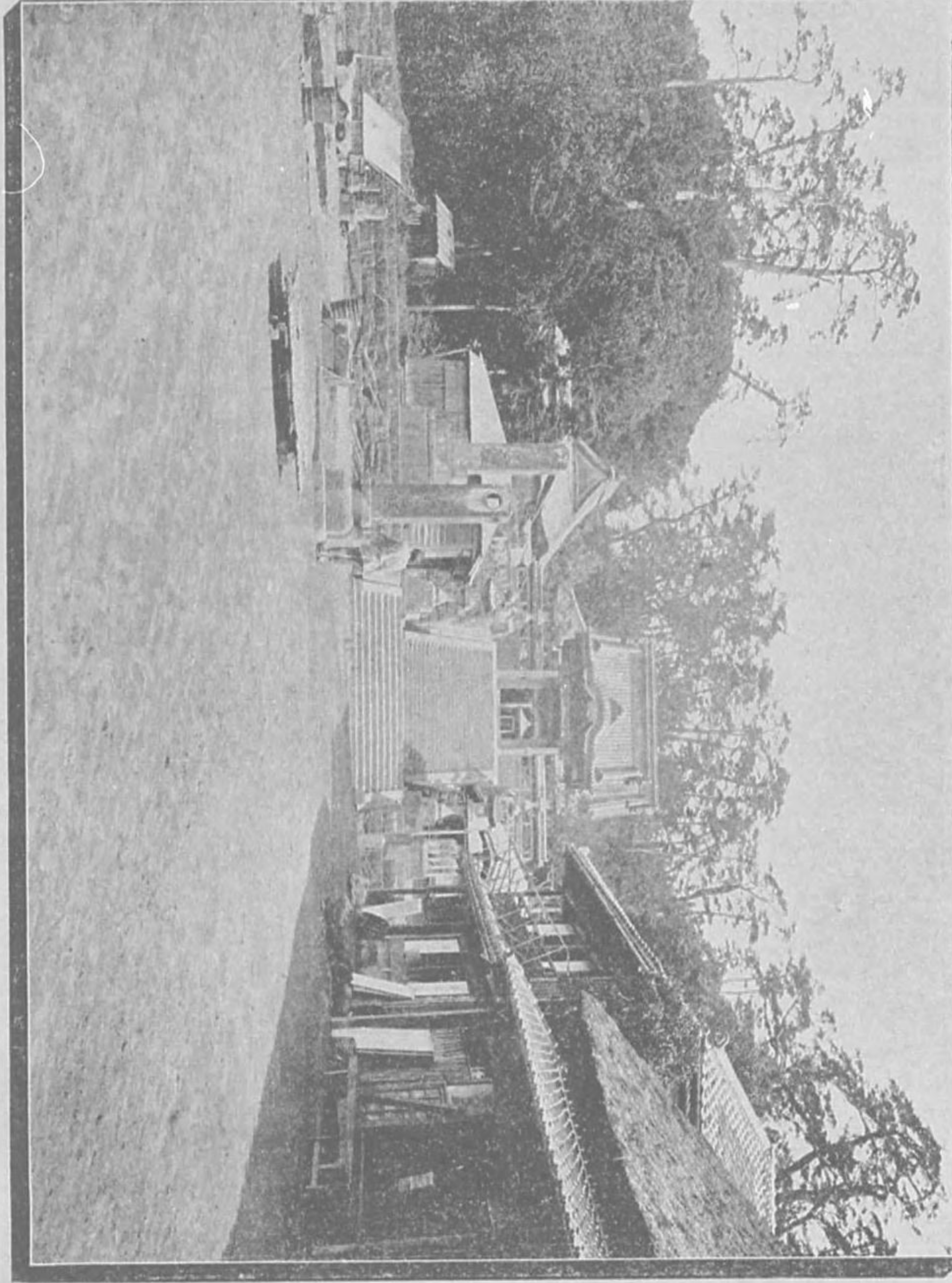
The Jinsha (man-carriage) Tramway connects Odawara and Atami, the San Remo of Japan, a distance of some seventeen miles. The tramway transports both passengers and freight. The Journey occupies four hours.

乙女峠の富士 (相模)

相州箱根より、駿州御殿場に通ずる山路を乙女峠と云ふ、金時山の一脉にして、冠ヶ嶽、駒ヶ嶽など、其近傍に峙立し、蘆の湖、仙石の原なども、亦程遠からず、洵に觀望の勝區を占めたり、此地より富士を望めば、白雪巖々映光を映射し、宛然銀鳳を倒さに懸けたるが如く、其景致得て言ふべからず、探勝の士は、先づ蘆の湖の水面に映する、逆さ富士を一見して、湖中の巖に二酌を試み、早川の鮎を行爵に裝ひ、湖尾温泉より歩いて此に至り、岩上に踞して行厨を開きつゝ、正立せる富峯に對して、一酌を試むるを可とす、彼れは湖面の逆さの影、此れは山上の正さ形、其變轉の妙、洵に言ふべからざる快味あらん。

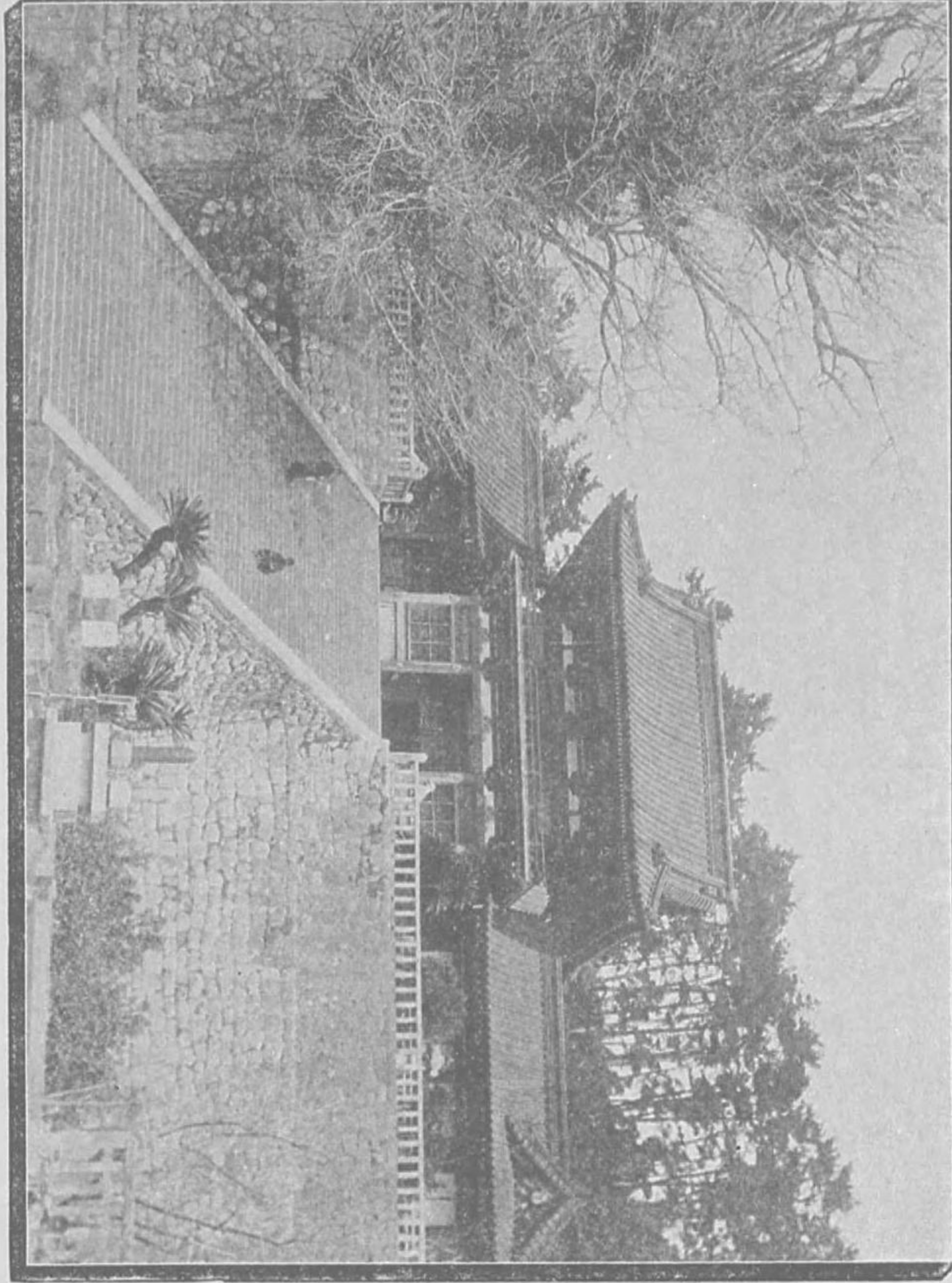
國府津驛より小田原に着せば熱海温泉に通ずる人車鐵道の敷設あり車輛は上等、中等、下等に區別し、下等は六人の定員とす。乗り込めば、左右前後に、一人り宛の若者、轎に肩をかけて、曳聲出して推し進び、勻配急なる處にて、押し上げ下り坂に向へば、惰力の衰へざるかぎりは、いさゝかの坂をも下り行く、石橋山の麓をすぎ、真鶴崎を弓手に眺め、吉濱に下車して、山路に分け入れれば湯ヶ原あり、伊豆山の温泉に一体みして、日金山に上るも興あらん、やがて、初島の影近うなるほどもなく、身は安全に熱海の仙境に在るべし。こゝに乘車賃金表を掲げんに、小田原熱海間にて、下等賃金六十錢、中等は五割をまし、上等は下等の二倍なりとぞ、發車時刻は、東海道鐵道に、國府津小田原間の馬車と接続するものにて、七里許の行程を四時間足らずにて到着すべし。

相模人車鐵道 (伊豆)



(相模片瀬) 龍口寺祖師堂

Hachiman Temple of Tsunagi-oka, Kamakura; Sagami.



(相模鎌倉) 鶴ヶ岡八幡宮

The Temple of Hachiman at Kamakura.

This temple was founded by Yoritomo, the first Shōgun, A. D. 1193. Kamakura was the residence of the Shōguns for more than two hundred years, but there remain to-day few traces of its former glory.

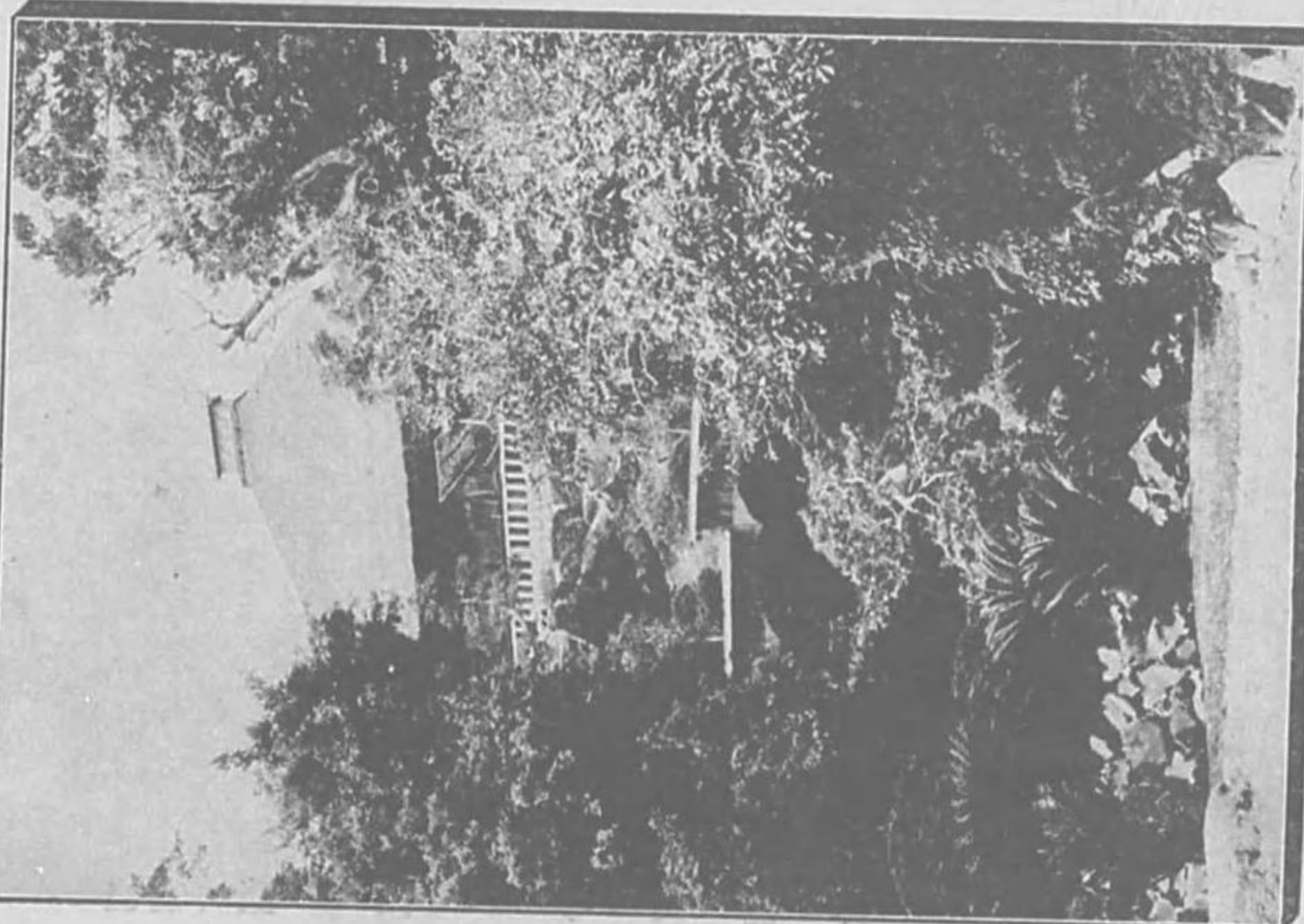
Soshi-dō at Katase.

This is the temple built to commemorate the miraculous escape of Nichiren, the founder of the Hokke sect of Buddhism, who had been condemned to death. The sword of the executioner broke before it touched the neck of the saint. His sentence was then committed to banishment to the island of Sado. This miracle is assigned to the year 1271 of the Christian era. The temple was built on the same spot about twenty years later.

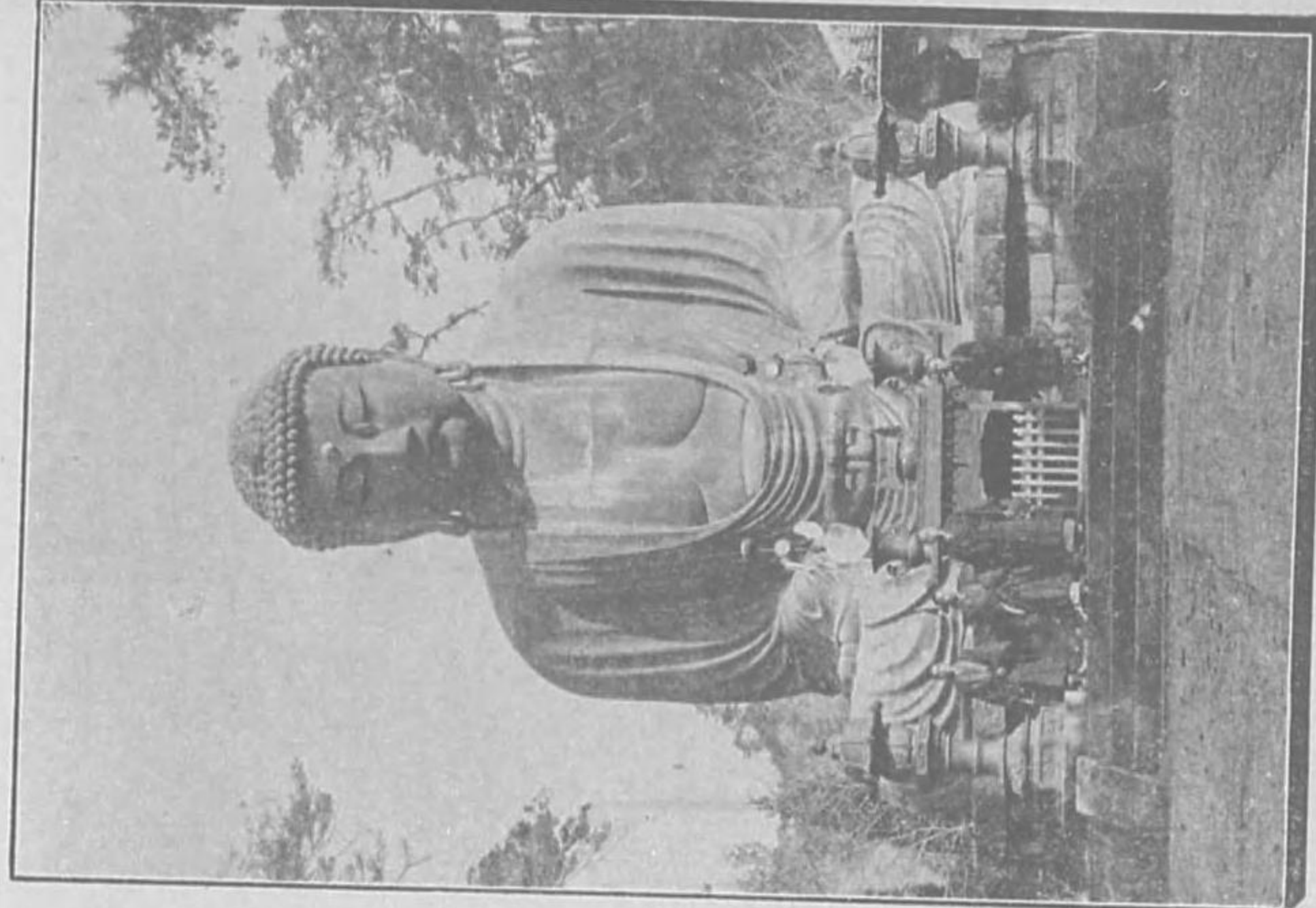
相模鎌倉鶴ヶ岡八幡宮 (相模)
和州鎌倉雪の下に在り、國幣中社にして、應神、神功、大伴
姫の三神を祀る、此宮は、康平六年、源賴義の勸請にして、
初め由比ヶ濱子鶴ヶ岡に在りしを、建久四年、源賴朝之を今
の地に遷せしなりと云ひ、今も尚鶴ヶ岡八幡宮の舊稱を費用
せり、賽路は由比ヶ濱より通じ、途中一の華表、二の華表あり
りて、社地には正面に神樂殿あり、又、石階の下には下の宮あり
隣には白旗宮あり、源賴朝の靈を祀る、本社は高く石階の上
に在りて、鐵門回廊を以て之を圍ひ、良恕法親王親筆の扁額
を掲ぐ、社尊清酒にして饗應を留めず、神威顯る高さを覺ゆ、
石階の左側にある大銀杏樹は、承久六年、阿闍梨公曉が源實
朝を殺したる處なりとして、古へより人口に膾炙せり、其他、
社地には蓮池あり、陰石、踏石、などありて、神寶も頗る多
く、今は一々之を詳述するに違わらず。

龍口寺祖師堂 (相模)

相州鎌倉郡片瀬村字龍ノ口に在りて、俗に片瀬の祖師堂と云
ふ、弘安年間、日蓮上人の弟子日法等の創建せし所にして、
寺域二千二百九十八坪を有せり、此寺は名にし負ふ龍ノ口
法難の遺跡にして、頃は文永八年の九月、祖師日蓮上人が、
將に斬首せられんとしたる時、法華經の功德に由りて、種々
の奇瑞を現はし、不思議に其難を免かれたりとも傳ふる、絶大
の舊蹟なれば、信徒遠近より來賽するもの引きも切らず、殊
に毎歲九月十二二の兩日には、大法會の執行ありて、善男
善女堂前に群集し、題目を唱ふる聲四隣に徹す、堂には日蓮
上人の像を安じ、内陣には敷草石あり、境内西隅には土牢の
跡あり、共に法難の遺址として、史家の考證くさくあれど、
頗はしければ畧しつ。



Kwannon Shrine at Hase, Kamakura; Sagami.

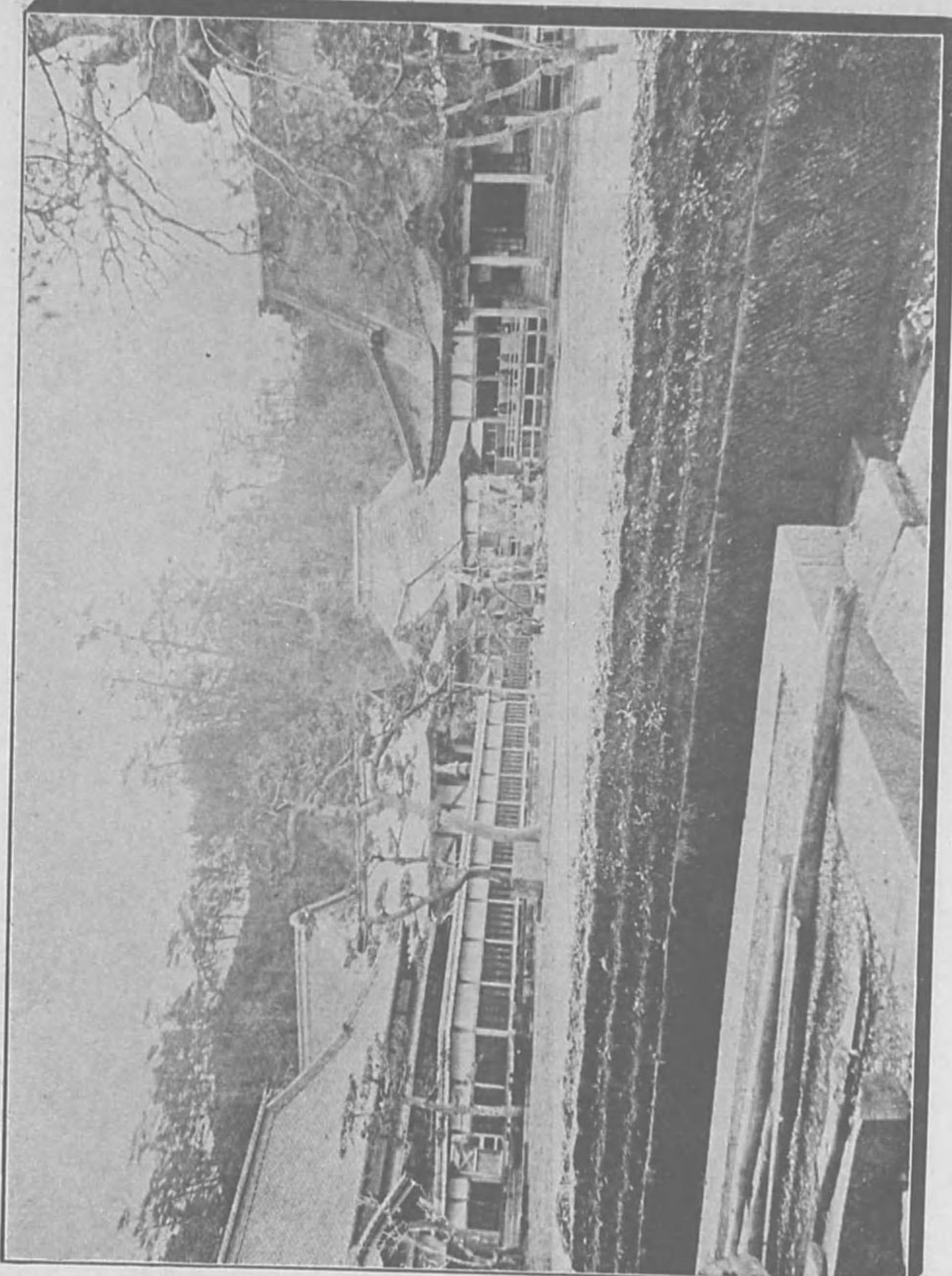


Daibutsu at Kamakura; Sagami.

音 龍 の 谷 長 (相模鎌倉)

佛 大 (相模鎌倉)

Kwomyō-ji at Kamakura; Sagami.



内 門 山 光 明 寺 天 照 山 (相模鎌倉)

光明寺 (相模鎌倉)

寛治年中、北條時頼の建立せしものにて、元と佐介ヶ谷にあ
り、時頼の兄經時の開基せしものなり、始め蓮華寺を稱し、
後靈夢に感じて、光明寺と改稱す。第一世の導師は良忠禪師に
して、天台を研究して後に淨土教に歸依し、鎮西に下りて其
奥義を究めたる名僧なりしとぞ。寺は、鎌倉亂橋材木座の南
端にあり、前は海に對して、後方に山を負ひ、境内清静閑靜
にして、頗る風景に富む。堂縁に上りて見渡せば、由井ヶ濱
は逶迤として、遙に稻村ヶ岬に連なり、洋々たる相模洋の海
面、起伏せる波浪を送り來りて、砂汀は白晝を躍らす如く、
漁舟の風に存んで、漁歌の聲たもしく小坪をさして映り來
るなど、坐に心神をして清爽ならしむ。後方の山は、綠樹蒼
鬱として僅に日光を洩らし、幽邃の風致寺院の莊嚴を添へて
自ら脫俗の感あり。

長谷の觀音 (相模鎌倉)

相州鎌倉大字長谷に在りて、鶴ヶ岡八幡宮より、西南凡そ半
里を隔てたる所に在り、海光山長谷寺と號し、坂東巡禮第四
の札所にして、天照山光明寺の末派なり。本尊は身長二丈六
尺の十一面觀世音にして、佛工春日の作に係り、和州長谷寺
の觀音と同本なりと傳ふ。堂南別に如意輪觀音、勢至菩薩、
聖德太子、和州長谷寺の開山徳通上人等の像を安す、勢至の
像は、元と皇山重忠の持佛なりしを、後世當寺に寄附したる
ものなりと云ふ。寺は岡阜の上に在りて、礎下池塘のあり、
風色幽邃、景趣言ふべからず。石燈を上りて寺門に達し、堂
前より四顧すれば、眺曠亦頗る廣濶、境域甚だ大ならずと雖
も、亦當年新府の遺蹟たるに恥ぢざるものあり。

鎌倉大佛 (相模)

相州鎌倉鶴ヶ岡八幡宮より、西南凡そ半里にして、寺あり、
號して大蔵山淨泉寺と曰ふ。淨土宗光明寺の末派に屬せり、寺
域の正面に、青銅の盧舍那佛あるは、即ち所謂鎌倉大佛にし
て、堂宇なく、雨覆なき露佛即ち瀟佛にして、長三丈五尺、膝
廻り横五間半、腹内に觀音六體、阿彌陀三尊を安置す、相傳
ふ、昔し聖武天皇、國分寺の舊地を下して、大佛を建立せし
めり。後世大佛殿の古礎六十餘石を存せりと、又寛元年、
身長八丈の阿彌陀佛を安置せしよし聞ゆれど、今は二像とも
に顛倒頽廢し、現時の像は、建長四年の鑄造に係るものなり
と云ふ。鎌倉遊覽の士は、必らず車を拵げざるべからざる名
蹟なり。

Kwomyō-ji ("The Temple of Light")
is situated at Kamakura. It was founded
by Tokiyori of the Hōjō family about A.
D. 1250. It belongs to the Jōdo sect of
Buddhism.

建長寺 (相模鎌倉)

相州鎌倉停車場の西敷町、小袋阪の中腹に在り、禪宗にして、巨福山と號し、鎌倉五山の第一なり、建長元年、北條時頼創建、宋の僧大覺禪師を開祖とす、寺域五千餘坪、東に外門及び總門あり、其額巨福山の三字は、寧一山の筆にして、巨の字に一點を加ふ、人呼んで百貫點と曰へり、總門の内には山門ありて、構造皆宋の寺門に摸し、其宏壯奇古、他に比を見ず、山門の樓上には、古へ十六羅漢ありしが、今は其半を存するのみ、山門の正面に佛殿ありて、應行作、長一寸五分の地藏尊を安ず、其東に觀音堂、及び浴室あり、堂後に佛光塔開山の碑あり、西は一堆の丘陵にして末院あり、後山には、開山座禪窟、一遍上人座禪窟などあり、又寺寶頗る多く、中にも開山所持の圓鑑の如きは、古雅最も愛すべきものありと云ふ。

圓覺寺山門 (相模鎌倉)

鎌倉建長寺の西南に在り、同地五山の第二に列し、禪宗にして、瑞鹿山と號す、弘安五年北條時宗の創建にして、宋の僧佛光禪師を開祖とす、寺域一萬七千餘坪、南に總門ありて、宋の寺門に摸擬し、後光嚴天皇宸筆の額を掲ぐ、本尊は寶冠の釋迦牟尼佛にして、佛殿に安し、同天皇の宸筆、大光明寶殿の五字の額あり、又佛殿の西北五六町の處に開山塔あり、北條貞時の建立にして、佛牙の舍利殿なりしを、後ち開山塔とし、佛光禪師の木像を安置す、其他、方丈あり、佛日庵あり、宿龍池、妙香池、坐禪窟、虎頭岩の如き、皆境内にあり、又寺寶としては、有名なる佛牙の舍利、北條氏歴代の書、足利尊氏自筆の法華經、南山自贊の畫像、開山所持の硯などありて、何れも尙古家の鑑賞する所なり。

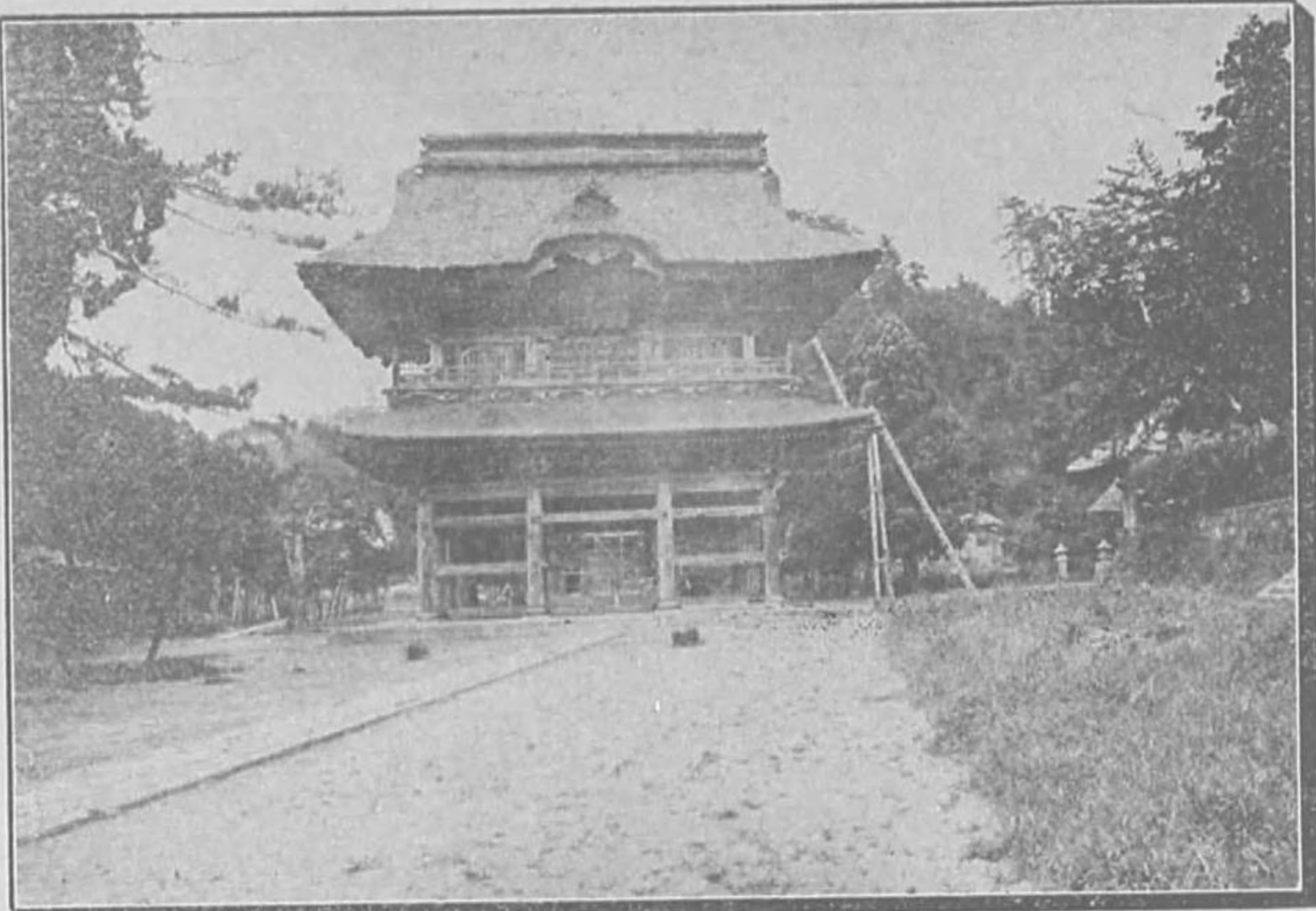
烏帽子岩 (相模)

大磯の海岸に立ちて、遙かに海上を見渡せば洋々たる海中に、兀として聳ゆる巨岩の影を認むべし、こは、有名なる烏帽子岩にして、一に姥ヶ島といふ、巖々として峙てる巨巖は寄せ來る波濤に對して屹立し、相模洋の波面を破りて、恰も怪神の怒立せんと相似たり、附近には、暗礁起伏し、潮流盤渦して常に波濤を湧起し、岩脚に激して白沫を散らすさま、其壯觀心膽を寒からしむるものありとぞこの附近には、魚族常に群をなして集まれども、漁舟も容易に接近する能はず、ひとり海鳥の翔翔して、好箇の休憩場となすのみにて、其の趣さも亦た、爲に一層の奇觀を添ふるとかや。

江の嶋洞穴 (相模)

古への岩屋辨天にして、相州鎌倉郡江の島の北岸にあり、洞口は海に面し、濶さ方一丈餘窟孔より歩いて、入ること四十間に至れば、道左右に岐れ、一を胎藏界、一を金剛界と云ひ、奥に兩部の大日如來を安ず、是より洞穴愈々容く、人其奥を探らんとするも、終に盡る所を知らずと云ふ、江の島に遊ぶものは、奥津の宮より西に下り、崖に沿ふて左に折れ絶壁の上、僅かに歩武を運ぶに足るの危道を踐みて、漸く此の靈域に達するを得べく、洞の入口に至る半丁ばかり前よりは、斷崖終に歩すべからざるにより、棧を架して通路を設くるなど、其危険にして妙趣あると、筆舌の能く盡す所にあらず、殊に其周邊は、悉く怪巖奇石のみにして、亦綠樹の目を遮るものあることなく、前には杳渺たる相模洋の洪濤激波を望むさまなど、全然北宗派の畫圖の如し。

(相模鎌倉) 建長寺山門



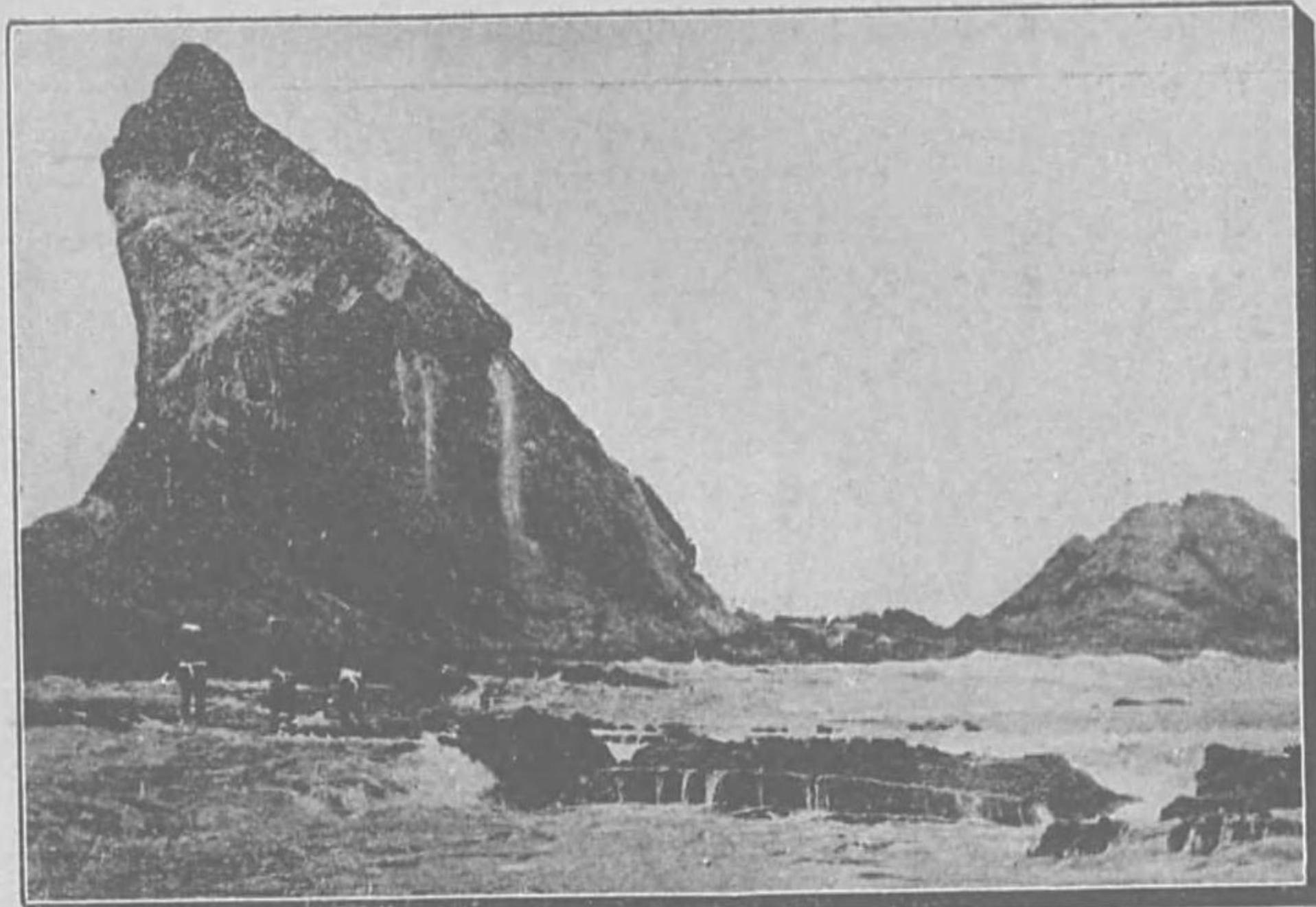
Gate of Kench-ji at Kamakura; Sagami.

(相模鎌倉) 圓覺寺山門



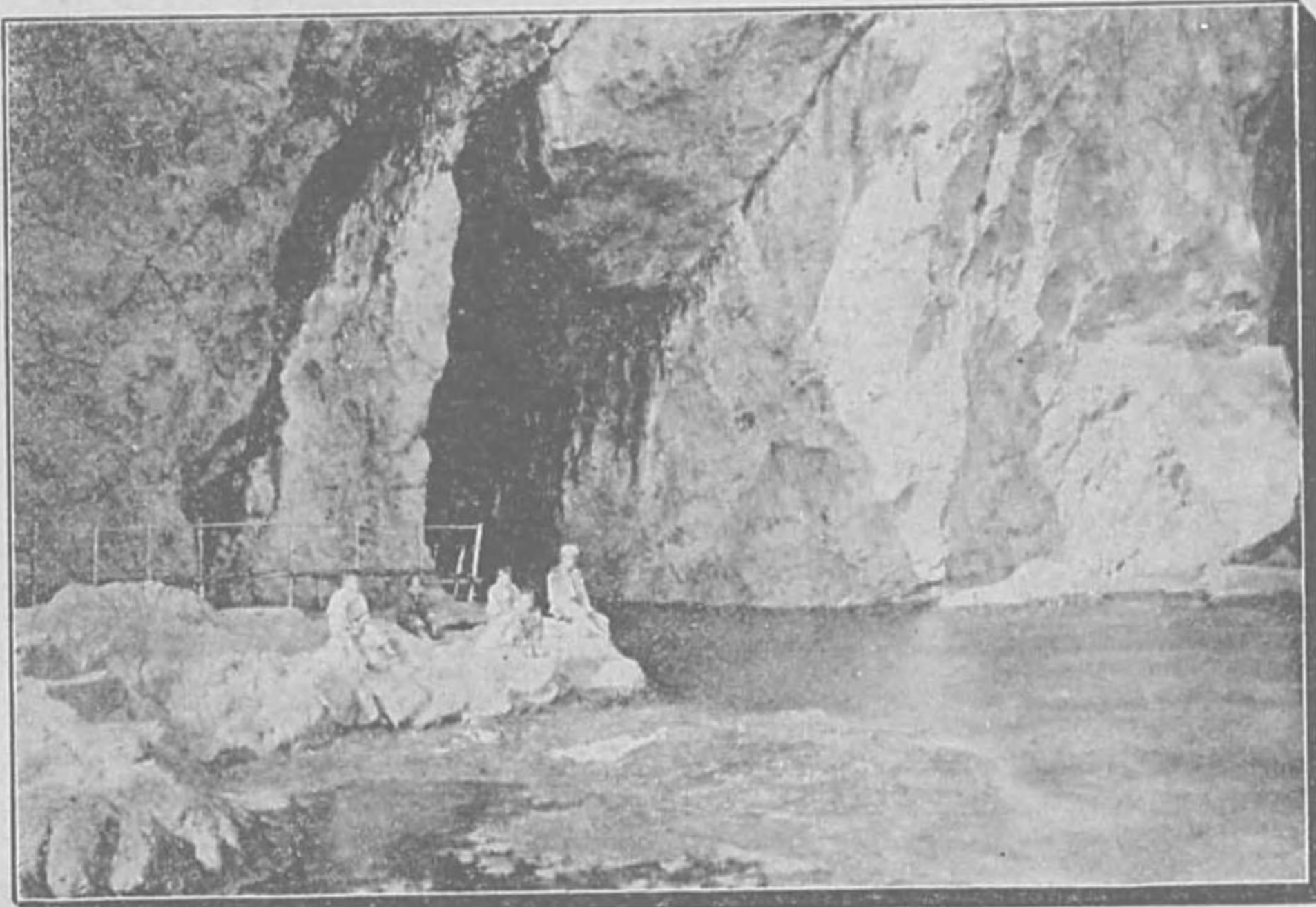
Gate of Engaku-ji at Kamakura; Sagami.

(相模) 烏帽子岩

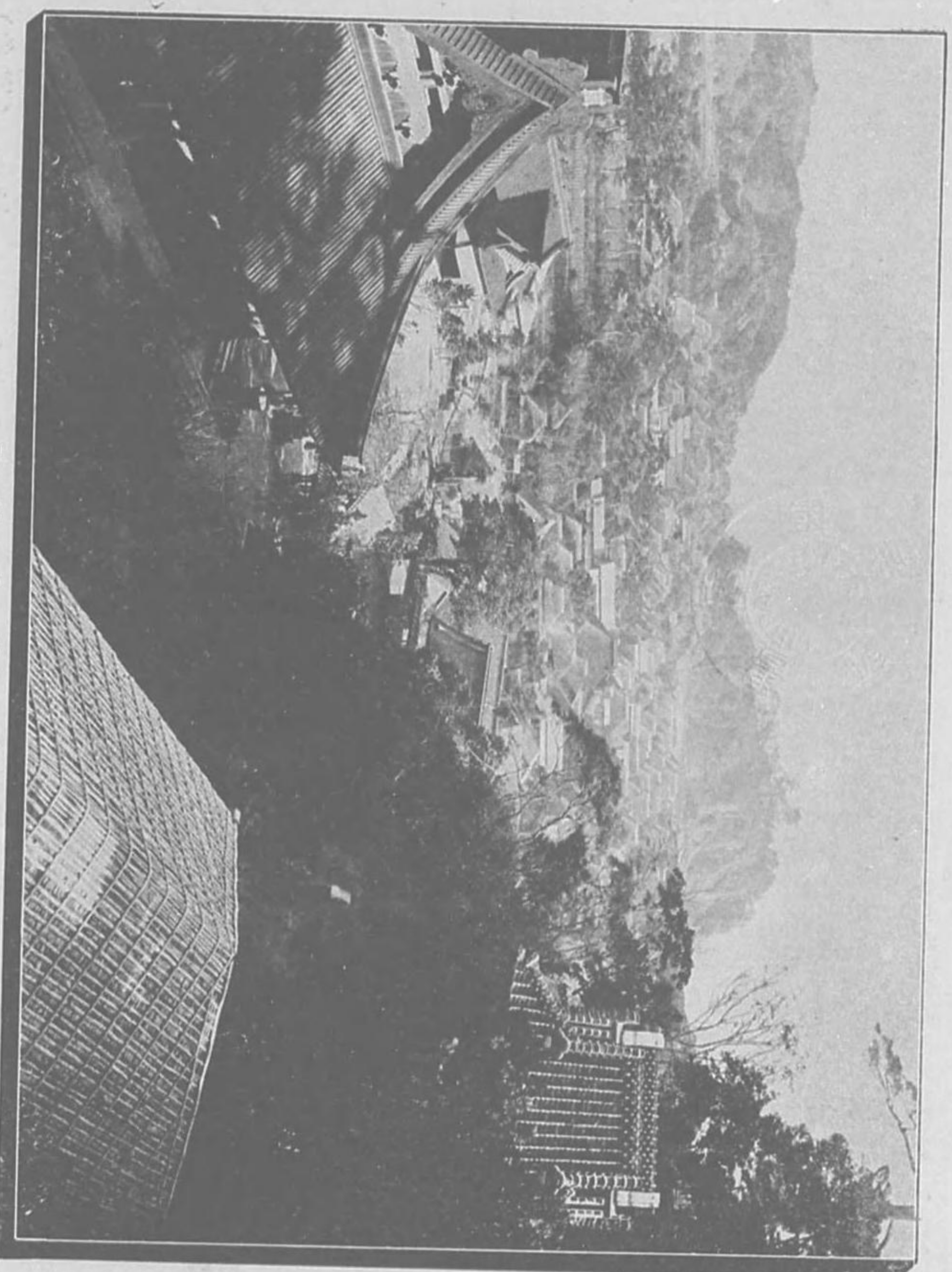


Eboshi Rock, Enoshima; Sagami.

(相模) 江の嶋洞穴

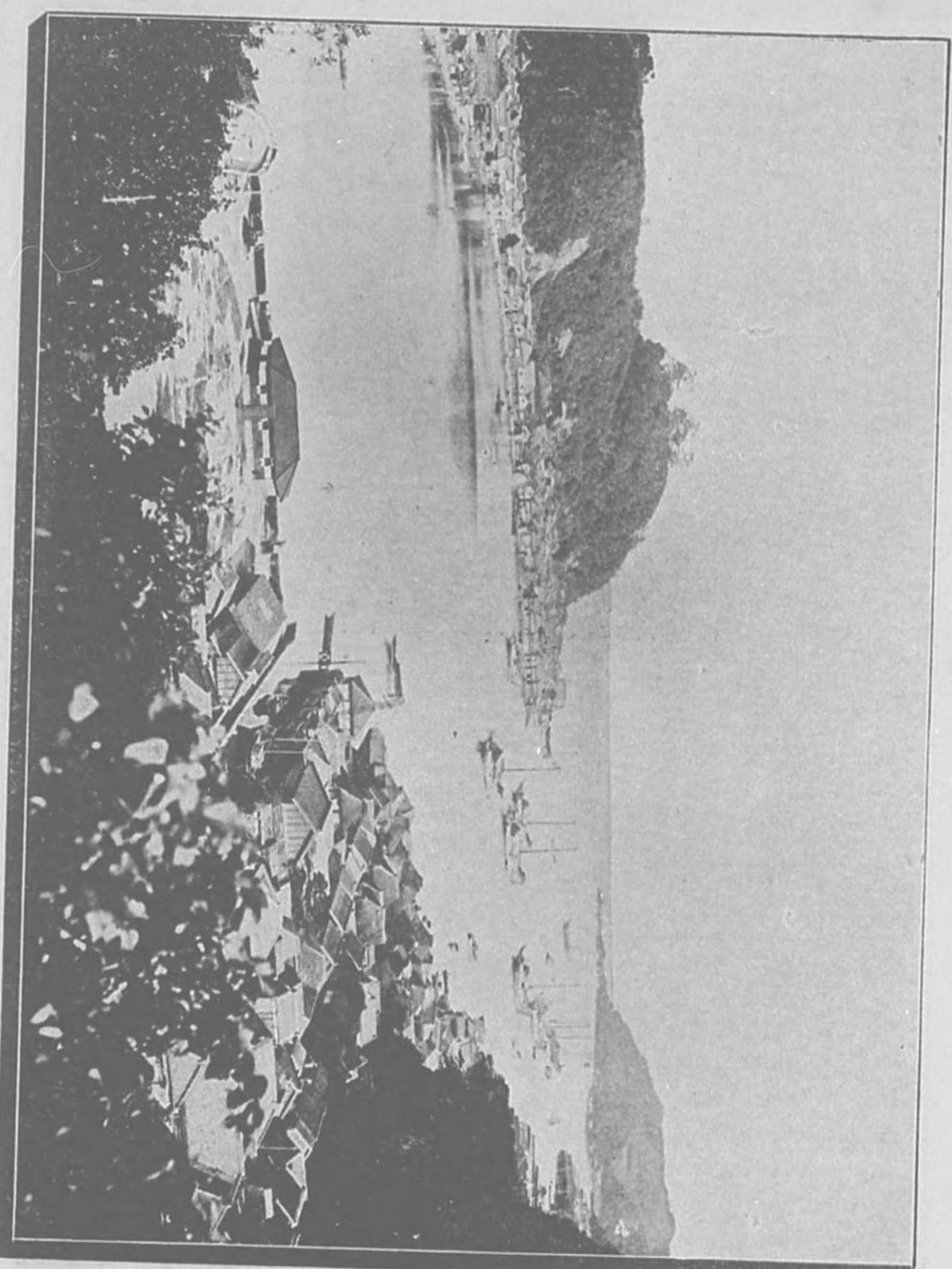


Water Cavern at Enoshima; Sagami.



Enoshima, from Katase; Sagami.

(中張片瀬)龍口寺より片瀬江の島を望む



Uraga Harbor; Sagami.

(中張)浦賀港

浦賀港 (中張)

相州三浦郡に在りて、横須賀港を距ること南方二里、港灣濶の如く淺入し、其兩岸に人家櫛比す、右へより船舶の碇繋所なり、市坊十四、戸數二千餘、人口二萬三千に達す、港灣は南北に長く、深さ五舟より十舟に至り、幕政の頃、已に此地に盛船所の設けあり、安政年間、米國の水師提督ペリリーが軍艦を帥以來つて、通好互市を求めしは此港にして、爾來近世史上の一名蹟となれり、公廳には町役場、警察署あり、祠廟には走水神社あり、又其北半里、大津村の海濱は、海水浴に適し、旅館大津館ありて、夏季に至れば浴客群集す、港内出入の漁船は、一ヶ年平均一千二百二十餘艘、風帆船六百六十艘、和船五千三百四十艘に及ぶと云ふ、盛なりと謂ふべし。

江の島は、古く繪の島と書し、其景光の優雅なる、洵に繪の如きより、斯くは名付たるものなりとぞ、全島は、皆巖石より成りて、斷崖絶壁行を繞り、巖上には老樹鬱茂し、蒼翠蔚さに滴らんとする有様、遠望の景已に妙なるに、携て加へて、箏障の眺望快勝なる、宮嶽、函嶽は突如として西に峙ち、大島の火山は、勃然として海上に浮か、四面、皆、互相厚の風景を占めて、山海の眺め二つながら奪ね備はるるを、洵に一個の小仙臺なり、島は相州鎌倉郡片瀬の海濱を距ること五町、退潮の時は一條の砂路を踏み徒歩して以て達するを得べし、此圖は、片瀬より島を望める、景光の一斑にして、觀塞せる全島の風姿を示さんが爲め、態と此には掲出したるなり。

片瀬より江の島を望む (中張)

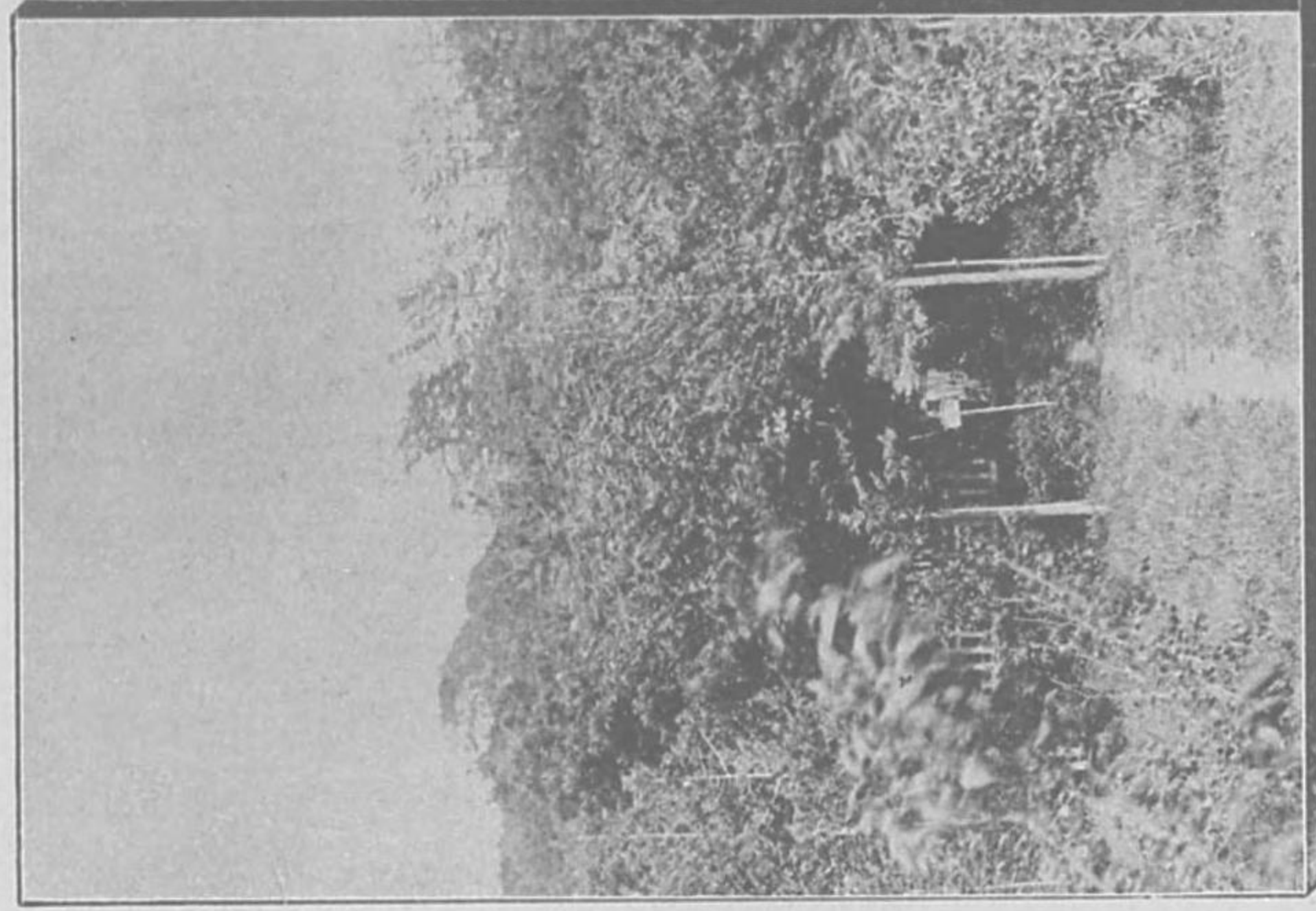
Enoshima, not far from Kamakura, is too well-known to need description here. The picture represents the view of the island as seen from the village of Katase.

Enoshima.

Uraga is a small town about fifteen miles south of Yokohama. It has a population of 13,000. It is the place when Commodore Perry negotiated the first treaty between Japan and the United States, and hence it might well be called the birth-place of New Japan.

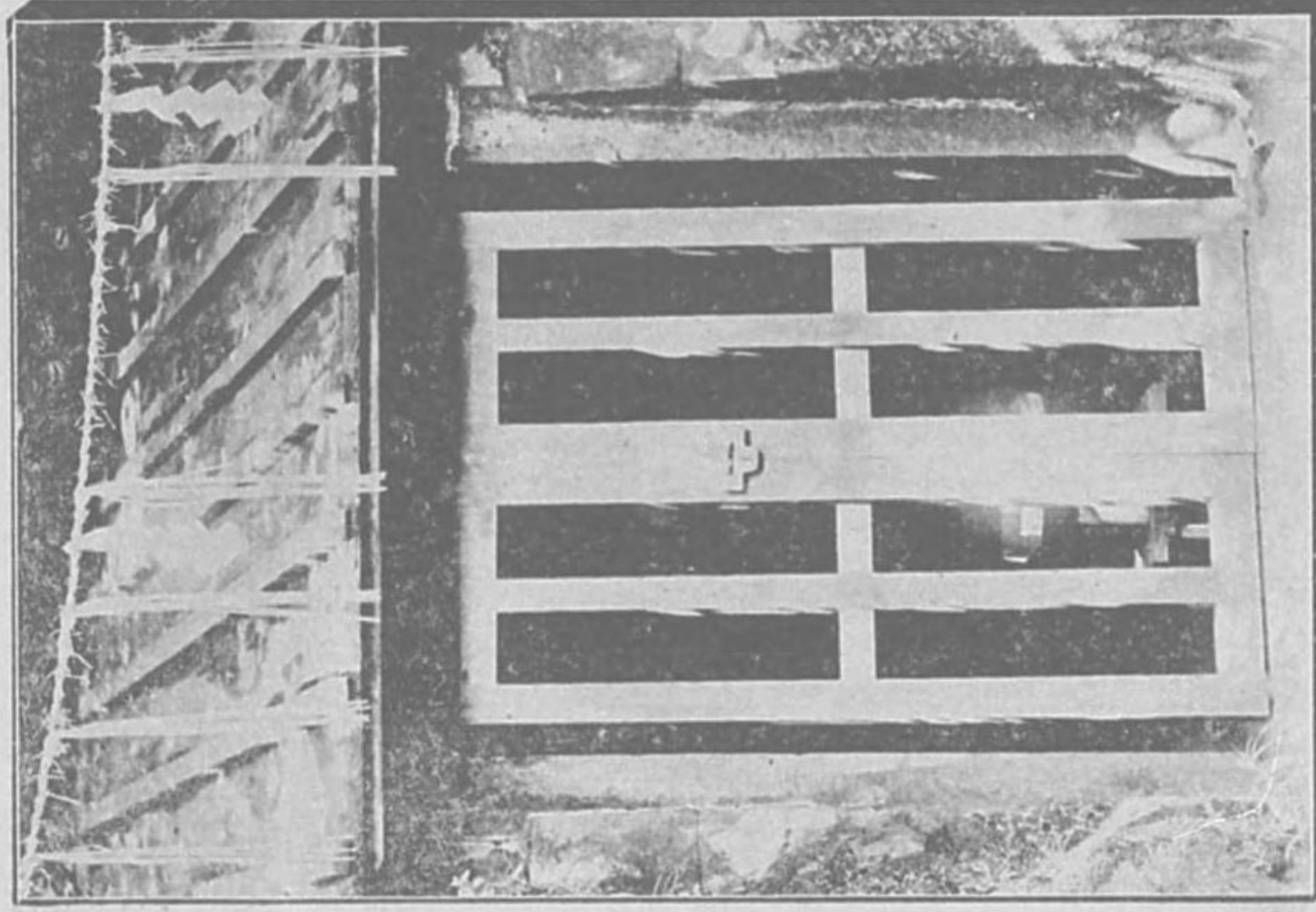
Uraga.

(相模鎌倉) 二階堂靈屋及御首捨場



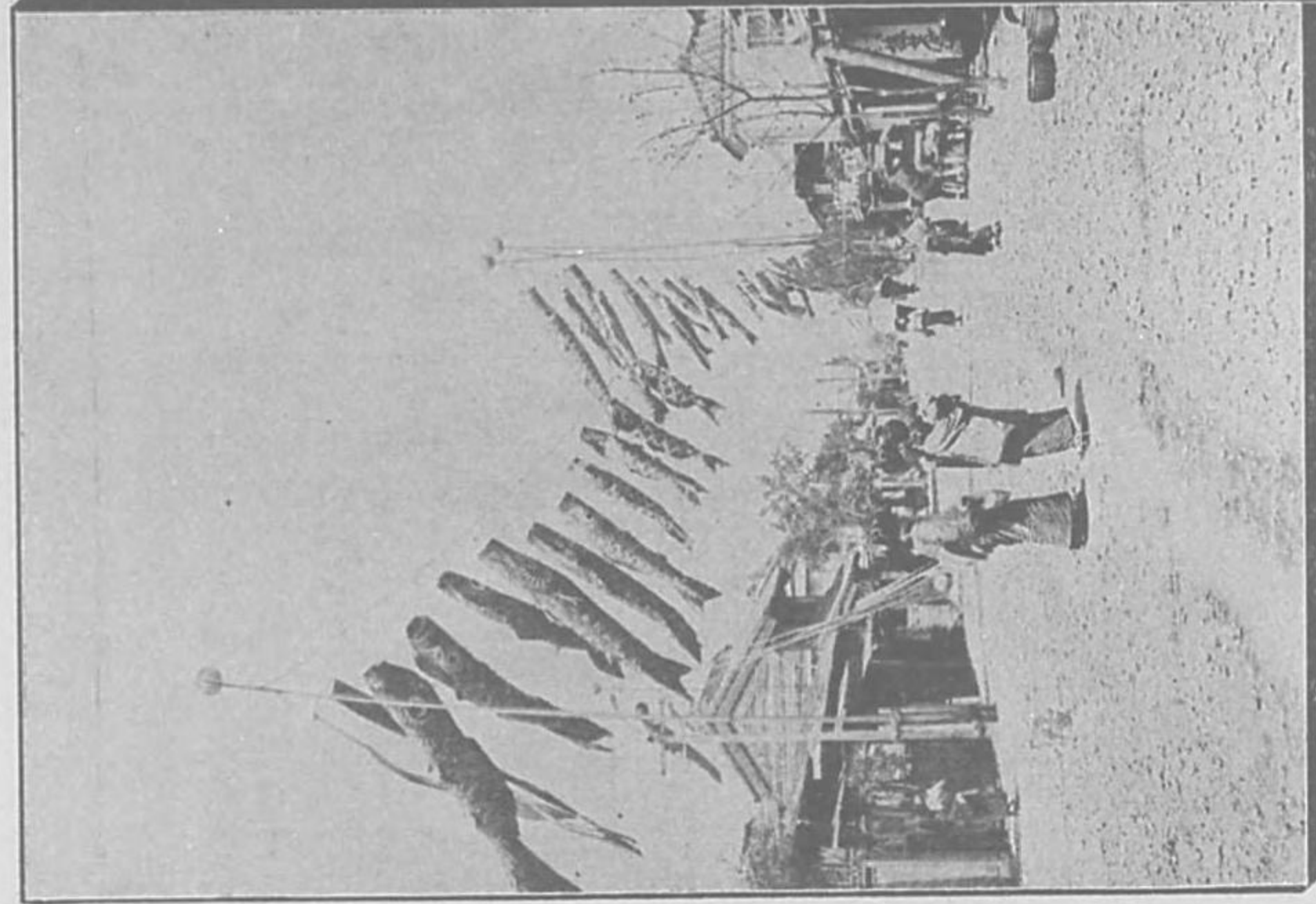
Cavern of Nikaidō at Kamakura; Sagami.

(相模鎌倉) 大塔宮土牢



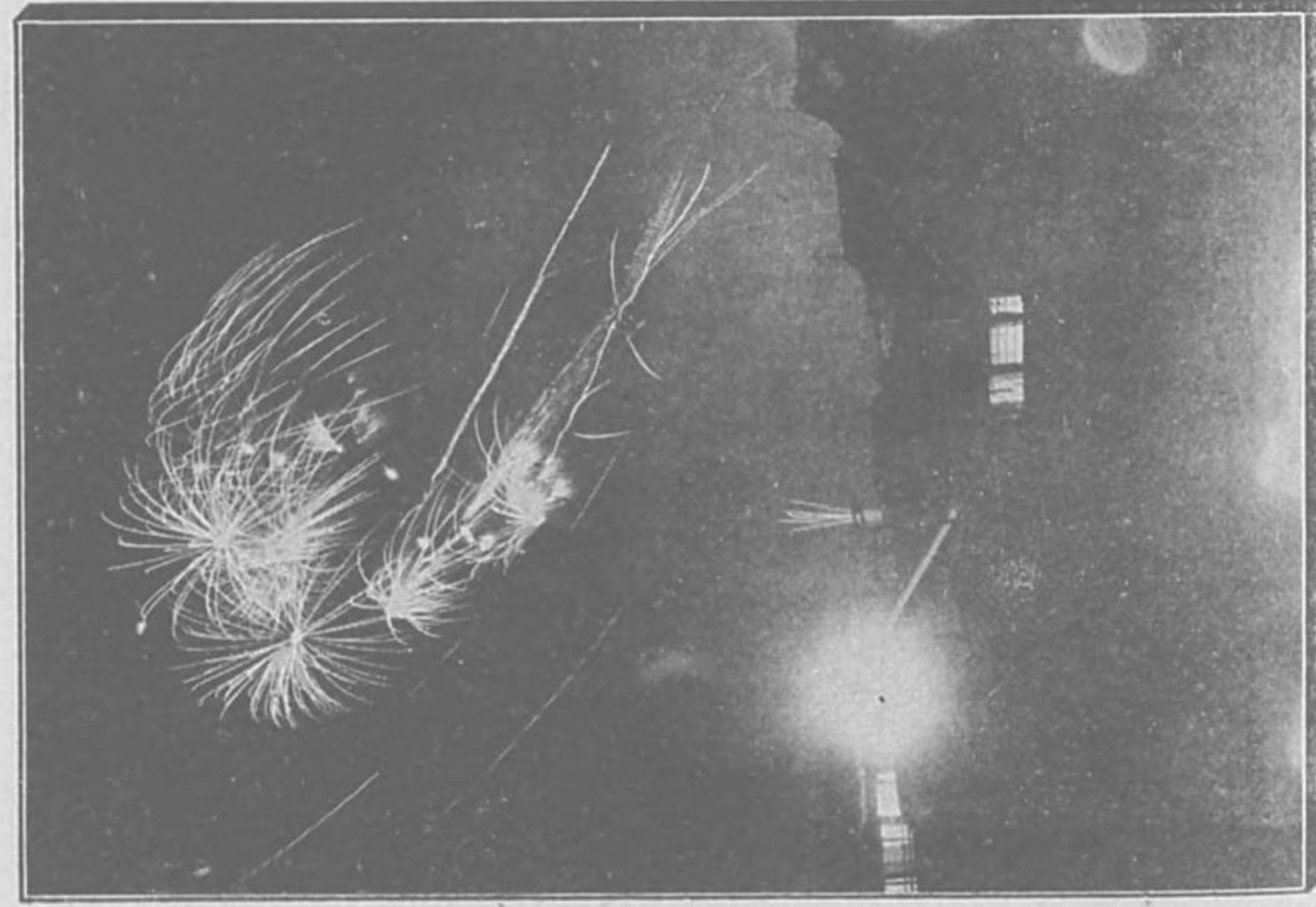
Cave-Prison of Prince Ōtō at Kamakura; Sagami.

五月の繪



Boys' Holiday in May.

花火

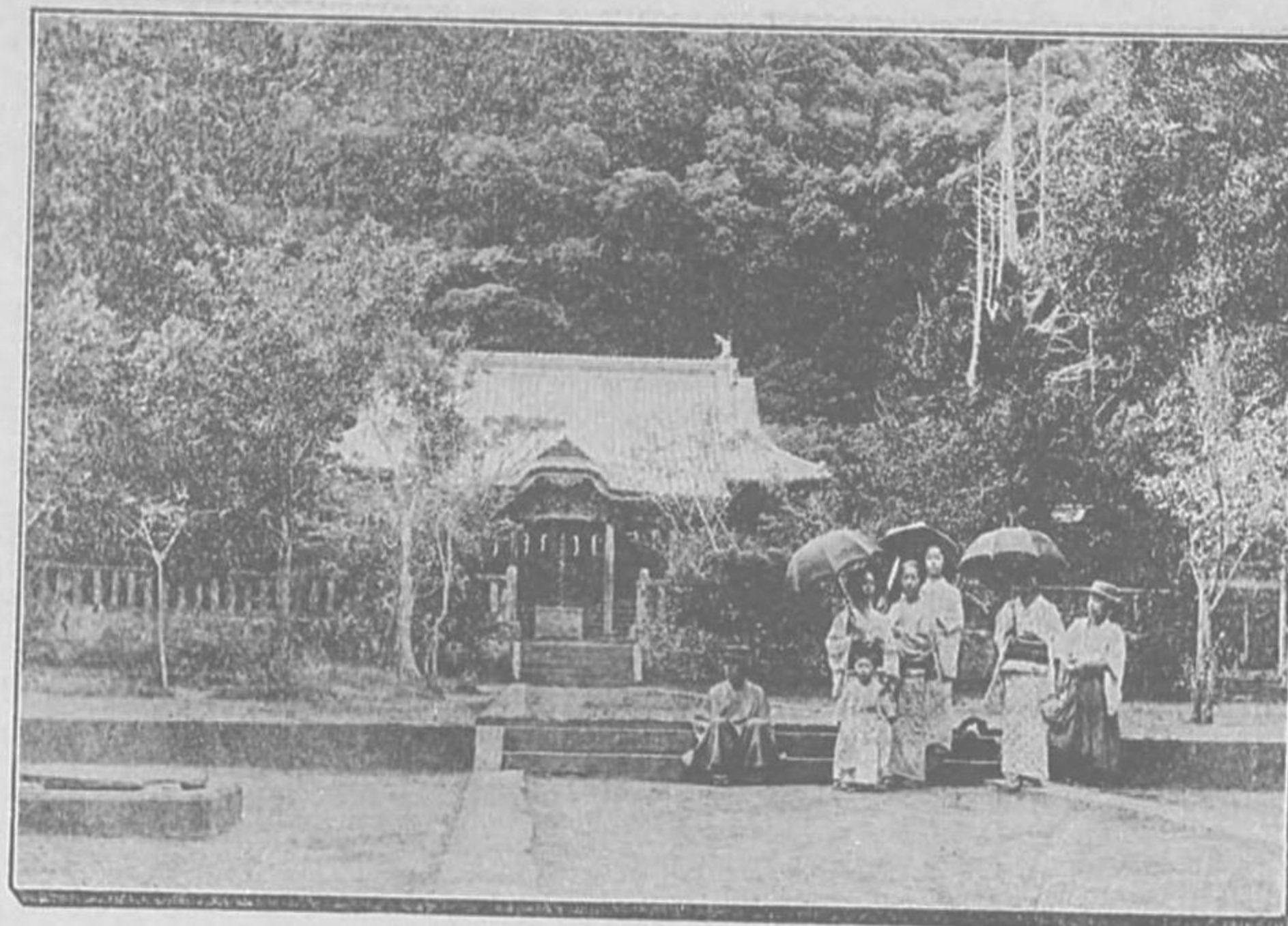


Fire-works.

大塔宮土窟 (相模)

鎌倉なる二階堂の山畔にあり、窟は、中部二段となり、濶さ八疊敷ばかりにて、前面に板圍をなし、常に人の入るを許さず。そもこの土窟は、建武の昔し、足利氏が、大塔宮護良親王を幽せしところにして、賊豎淵邊義博が、毒刃を揮ひて神威を犯せしところなり。樹木蔚々として洞口に掩ひかかり、紫苔血の如く滑にして、惨悽の氣肌に迫る。夫れ親王の忠孝英武に任せしことは、歴史の去るすところなり、今この土窖を拜して、賊豎か弒逆を恣にせし當時を想へば、熱涙眼に滿ちて、感慨腸を斷つの念あり。宮前には、鎌倉宮ありて親王の英魂を祀れり、祠堂金碧の彩なきも、素朴清淨にして、恭敬の念を起さしむるに足る。鎌倉に遊ぶものは、必ずこの祠に詣りて土窟を拜し、以て忠君の大節を發揮せざるべからざるなり。

(伊豆) 伊豆山権現神社



Gongen Temple at Idzusan; Idzu.

(相模鎌倉) 七里ヶ濱



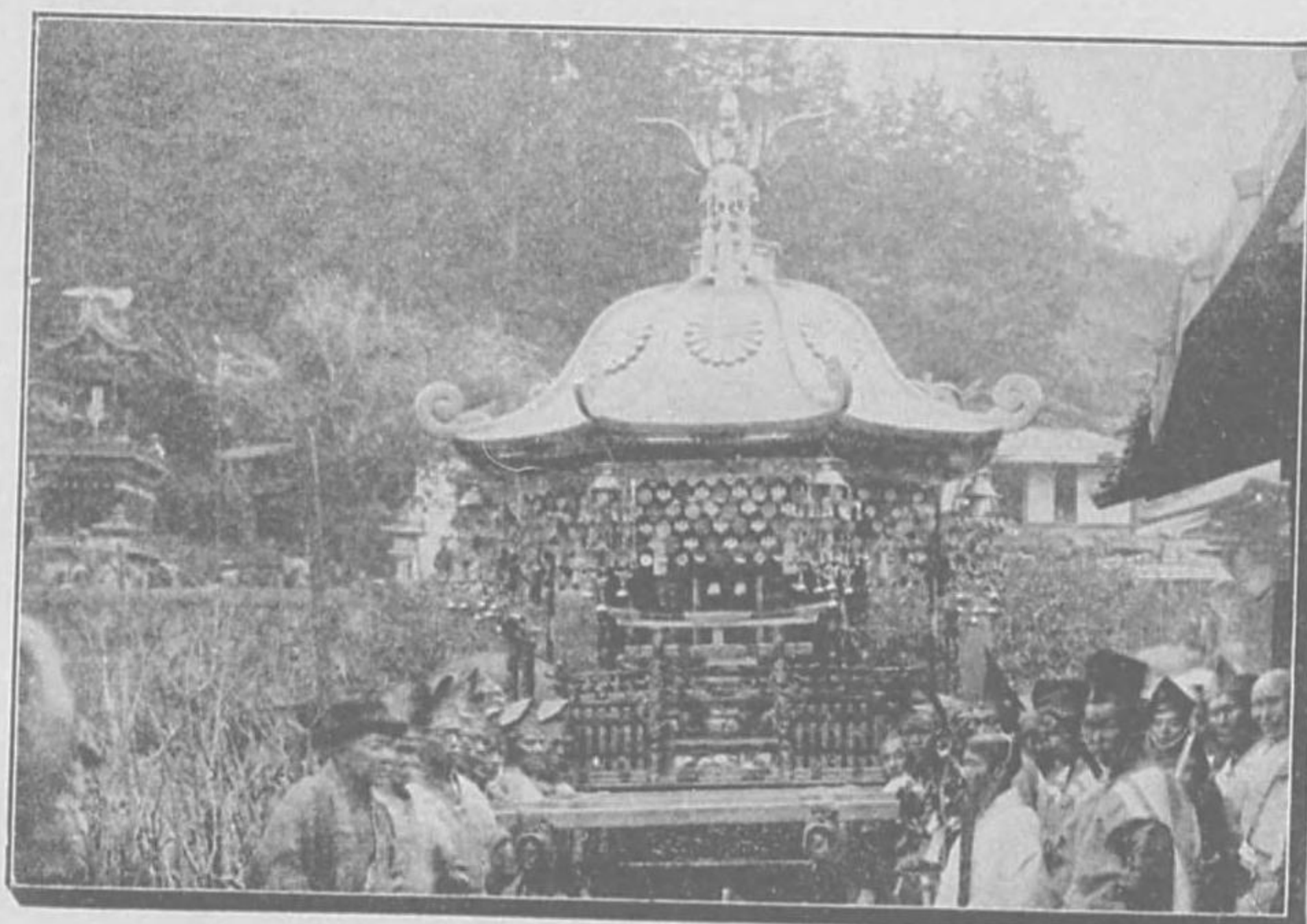
Shichiri-ga-hama; Sagami.

(相模) 江の島



Enoshima; Sagami.

(飛騨高山) 八幡社祭禮



Town of T. kayama; Hida.

伊豆山神社 (伊豆)

小田原より海岸をたどりて、將に熱海に近からんとするところに、伊豆山温泉あり、このところに、一條の磴道高く山腹に上りて通じ、上に神祠の建つありて、駒遇實智神をまつる。承和三年の勸請にして、古來は、關東の總鎮守たりしも、現今は、大に衰頹の模様あり。されども、地幽にして眺望に富み、巨樹老木多く立ち連なりて、自ら神祠の莊嚴を添ふるものありて、其神寂ひたること、さふべからざるものあり。社地は古へ、古々井の森と稱して、時鳥を以て名高かりしと云ふ。

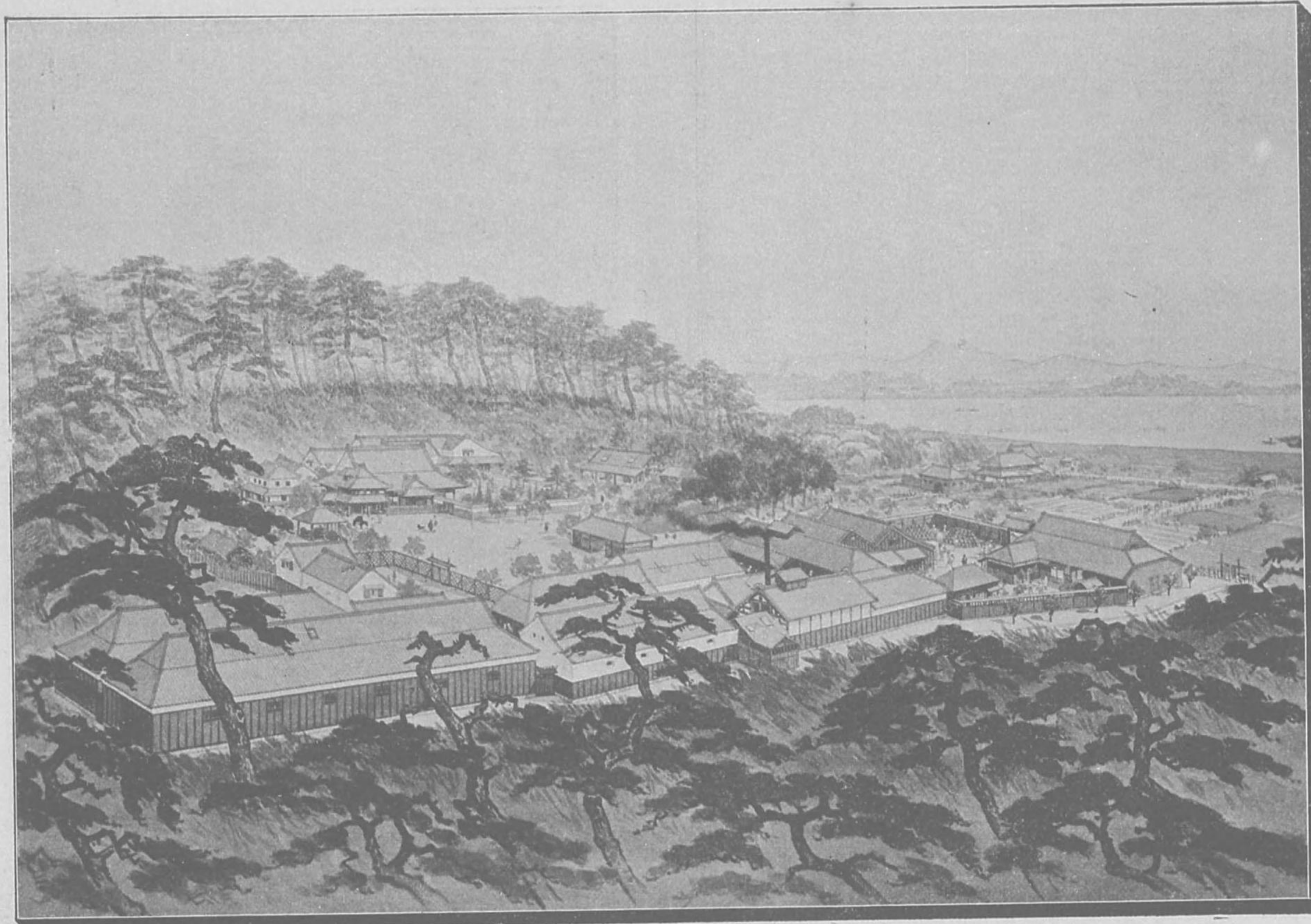
高山市街 (飛騨)

大野郡にあり、飛騨の國の中央にありて、一個の小都會をなせる名邑にして、市坊の数は三十五、戸數四千戸に近く、人口一萬七千に垂んとする繁華の地なり。町内には、郡役所、裁判所、警察署、等より、其他の諸官衙もありて、名社巨刹も數多く、市街家屋の体裁は、其外形は美ならずと雖も、大賈巨商頗る多くして、生絲の販賣甚だ盛んに、道路の通せるもの孰れも善良なれば、運輸交通のことも、遺憾なく、實に國中の最も繁華なる都市たり。この地は、岐阜縣廳を去ること三十三里にして、近國の町市より、孰れも十數里あるも、其繁華如きは、畢竟製絲其他の事業の盛んなるに外ならずといふ。

七里ヶ濱 (相模)

相州鎌倉郡腰越津村、大字津村に屬す、鎌倉阪の下より、腰越に至る海濱の名にして、寶徳二年四月、足利氏、兩上杉氏と鎬を削りたる古戰場なり、其長さ關東道程七里に相當するを以て、此名ありと言傳ふ、道の北邊には日蓮上人袈裟掛の松あり、又途中に行逢川と云へるあり、上人龍の口にて斬に處せられんとしたる時、法華經の功力によりて種々奇瑞を現はしたるより、太刀取の役人驚きて、之を鎌倉へ急報せしめたる使者と、北條時頼が遣はしたる赦免の使者と、此川にて行逢ひたるが故に名くと云ふ、此地山を負ひ海に枕み前には漫々たる萬頃の洪波を望み、後ろに突兀たる千仞の青嶂を控ふ、風光極めて雄快なり。

社 會 式 株 造 釀 油 醬 菱 上 (崎 鳩 陸 常)



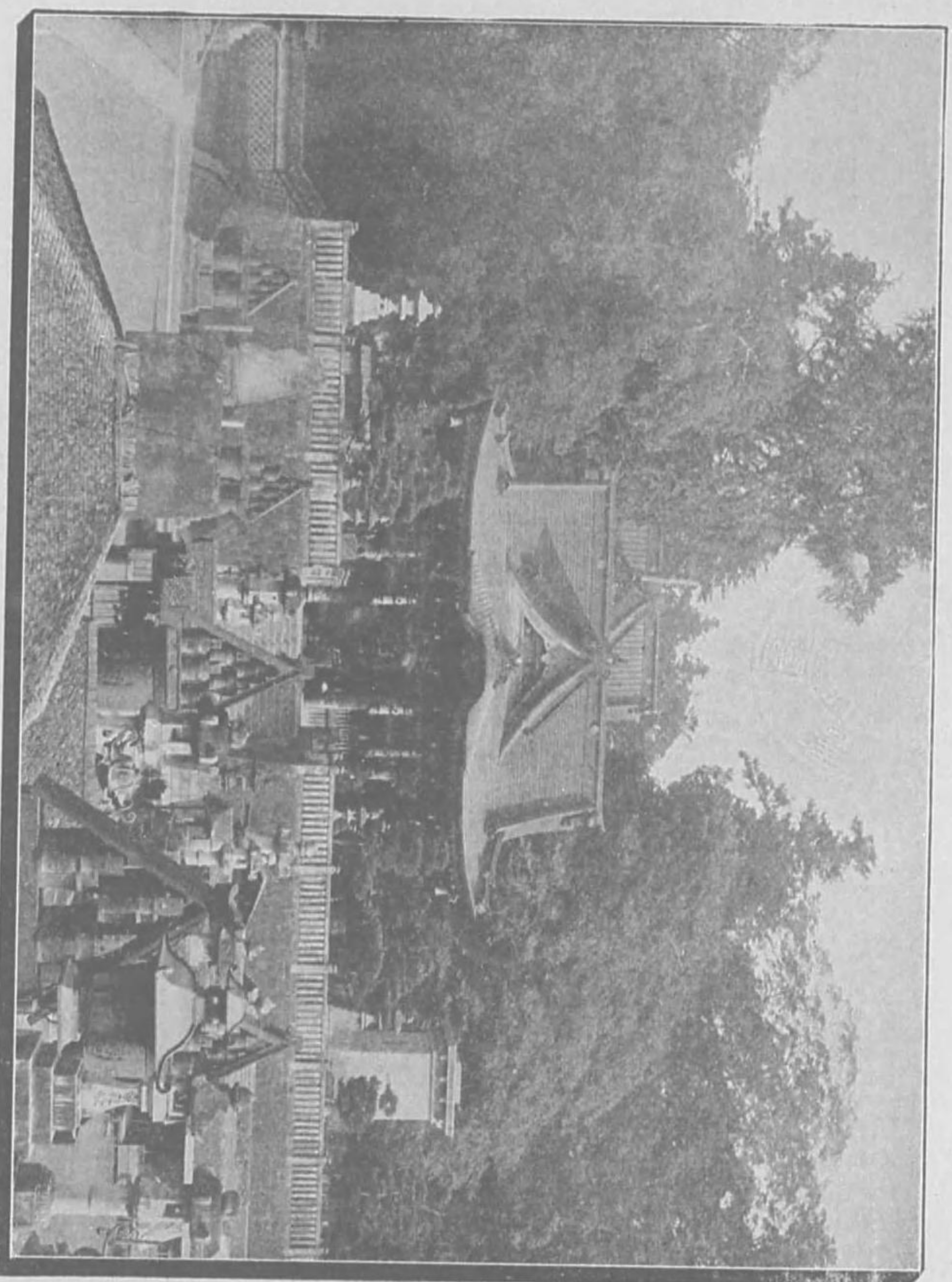
Jōbishi Shōyu Manufactory ; Hatozaki, Iidachi.

The Jōbishi Soy Factory.

This establishment was founded in 1621 in Hatozaki in Ibaraki Prefecture. It is now in the hands of the eighteenth generation of the founder's family. All modern improvements have been introduced and every effort is made to secure the best quality of soy. The highest medals have been received at the Imperial industrial exhibitions in Japan and also at the recent Paris Exposition. It has an agency in Kakigara-chō, Tokyo.

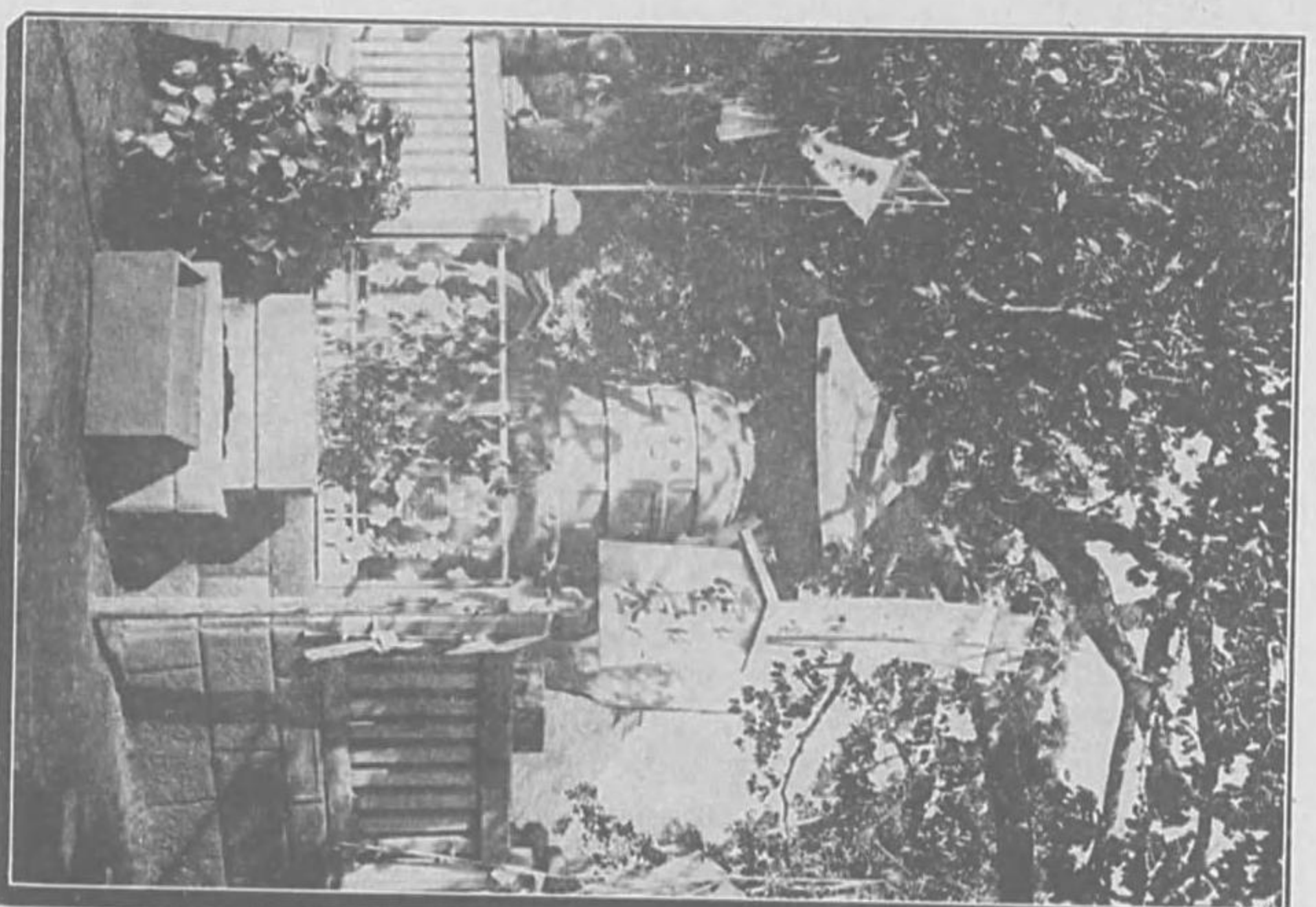
上菱醬油株式會社 (常陸)

常州稻敷郡鳩崎村に在り、今を去ること二百八十二年、即ち元和七年の頃、茨城の豪農關口八兵衛、始めて暗赤褐色の醬油を製す、其味甘鹹宜しきに適し、香氣亦爽快にして、最も日常の調理に副へるより、近俗争ふて之を沽ふ、八兵衛乃ち之を上菱醬油と名け、大に其製法を精撰し且つ其製額を増加して、廣く之を海内に鬻ぎ、終に之を子孫に傳へて、世襲の家業となすに至れるもの、是れ此の醬油の濫觴なり、十八世にして當主八兵衛に至り著しく其製額を増殖し、其品位亦一段の改良を加へたるより、市價頗に昂り、今は同地類品の中、最も優等の地位を占むるに至れりと云ふ、明治廿九年、益々其製額を大にし、事業の伸張を圖らんことを期して、之を會社組織に改め、名を上菱醬油株式會社と命じて、宏壯なる倉庫を築き、嶄新なる器械を裝置し、其製法は、理學士を常備して、改善する所動からず、就中麴蘖の製造には、一新機軸を出しつゝ、ありと傳ふ、今や製額の巨多なること、全國之に匹敵するものなく、殊に明治十六年以來は、之を外國に輸出して、大に外人の賞讃を博し、年々其販路を高めつゝあり、之を原料として製したる、鳩ソース、亦香味共に可にして、敢て舶來品に譲らざるの評あり、二品皆内國勸業博覽會に出陳して、一等若くは有功の賞牌を領するもの數次、殊に上菱醬油は、之を佛國巴里大博覽會に出して、銅牌を受領せりと云ふ、支店は東京日本橋區區船場一丁目に在り。



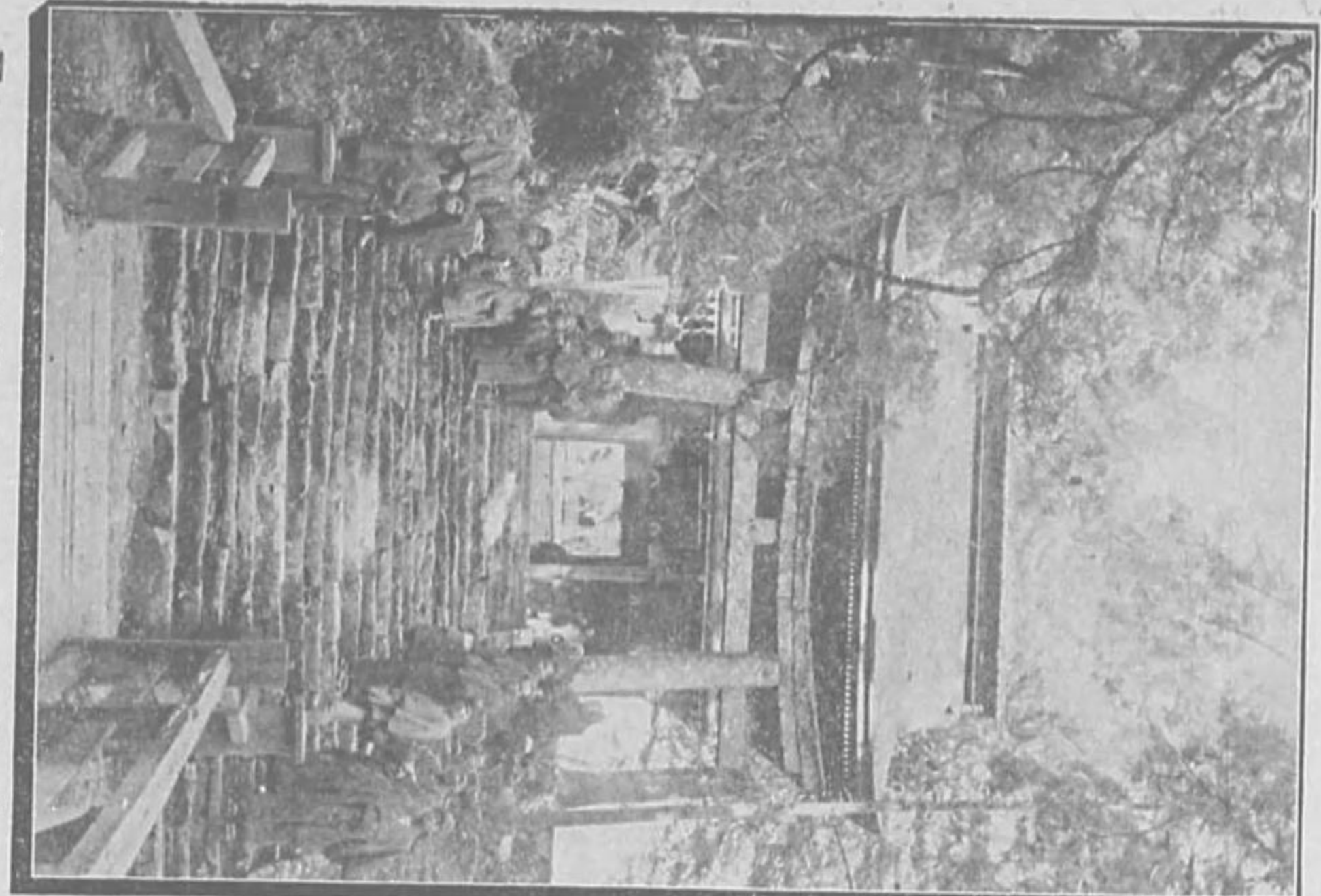
(下總) 成田山不動堂

Chief Temple of Narita-san; Shimooza.



(下總) 宗吾靈堂

(常陸多賀郡) 花園神社の正面



Hanazono Shinto-Tempel; Toga Gouri, Hiakochi.

Temple Dedicated to Sakura Segyo at Sakura; Shimooza.

成田山明王院 (下總)

總州下埴生郡成田町にあり神護院新勝寺又成田山明王院と號す、有名な成田の不動堂是なり、本尊は身長六尺、弘法大師の作にして、元々城州高堆山護國の本尊たりしが天慶二年、平將門の亂を起せし時、當國の高徳寛朝僧正、此像を奉じて爰に來り、勅を奉じて調伏の法を修せり、後繼ばくもなくして、將門謀に服せしかば、寛朝身之を奉じて再び京師に歸らんとせしに、像の重量俄かに加はり、且つ其履屨夢ありしより、終に永く此地に留めて、新たに伽藍を營むに至りしと云ふ、寺域幾んど四干坪老杉古柏蒼蔚として途を夾み森々たる光景人をして轉た崇慕の念を生ぜしむ、石燈を歩して二王門に至れば、左右に辨天祠、通殿院、祖師室、大師堂、彌陀堂、正福院等あり、門を過ぐれば靈池あり、更に歩いて石階を上れば、本堂ありて不動尊の靈像を安んず、其他接待處、鐘樓、寶塔、經藏、額堂、奥の院、光明堂等あり、堂宇は何れも五彩爛然、結構雄偉にして、座ろに神徳の高きを想見せしむ、實に東國屈指の靈場なり。

Narita-san.

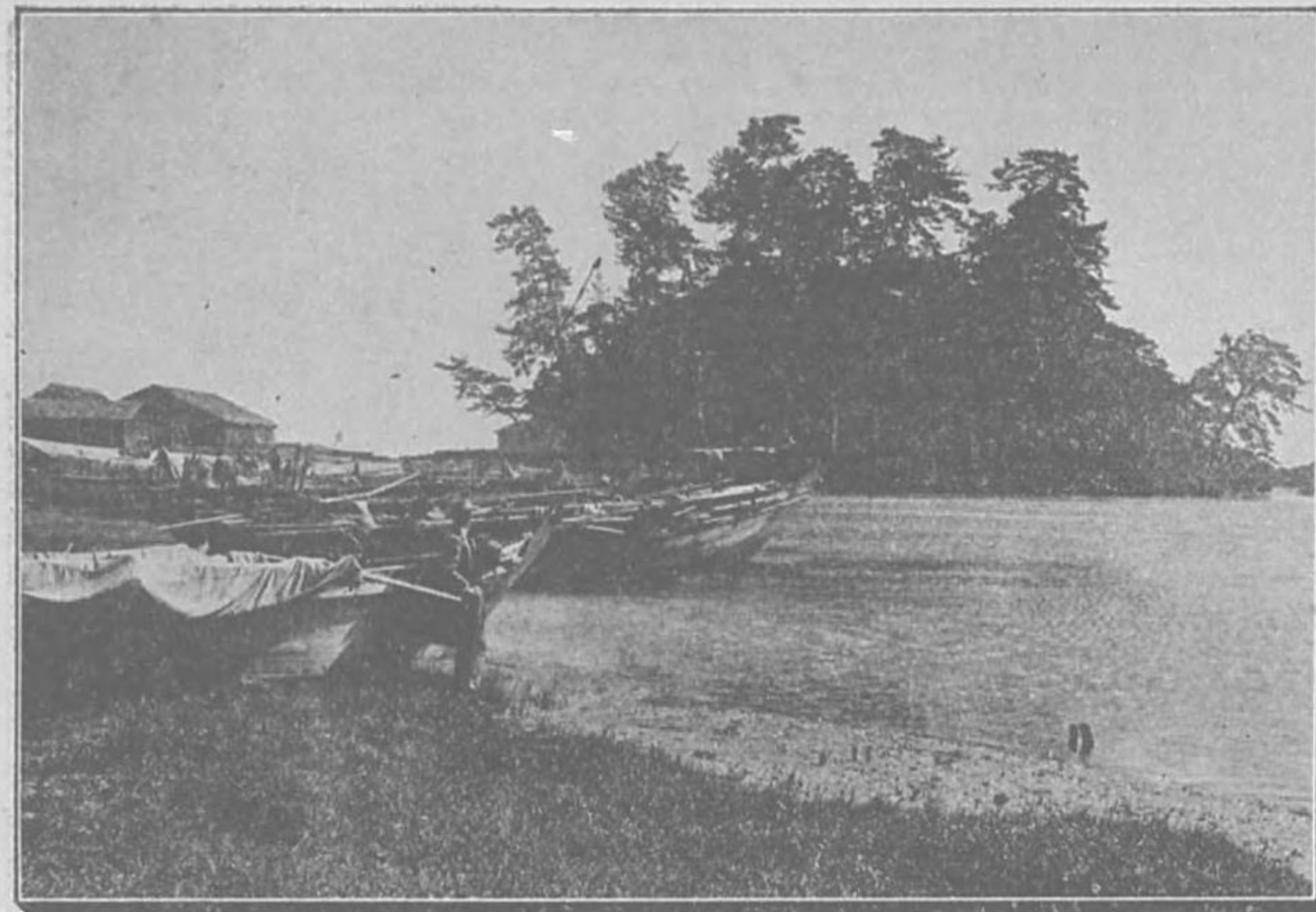
Narita-san is a temple of the Shingon sect of Buddhism, situated in Shimooza about twenty-five miles east of Tokyo. Here is to be found the famous statue of Fudo by Kobō Daishi. The statue was brought there nearly a thousand years ago, at the time of the rebellion of the notorious Masakado, the solitary instance of an uprising against the Imperial rule. This transfer of the statue was effected by the priest Kwancho, with the hope of securing the aid of the divinity in suppressing the revolt. At festival seasons, this temple is thronged with worshippers, when alone the statue is exposed to view.

花園神社 (常陸)

多賀郡華川村の花園山に鎮座し、平城天皇の大同年間、田村將軍の創建せしものなりといふ。社域千六百坪餘、崇巒高く聳れて、溪谷深く、老樹鬱々として天目を掩ひ、其寂澗幽靜なること、殆んど神仙魅翹の境に入りしかと疑はる。社下に大北川の流ありて、七間際の神橋を架し、これを渡りて社地に入れば、社宇莊嚴にして、威靈自ら人をして襟を正さしめ、他の堂塔未だつれなき宏壯ならぬはなく、人の呼んで小日光といふも過言にあらず毎年四月八日には大祭ありて、近郡の參詣者群集し、隨る雜間を騒じといふ祭神は、大物主命、大山咋命、大山祇命の三柱なり。

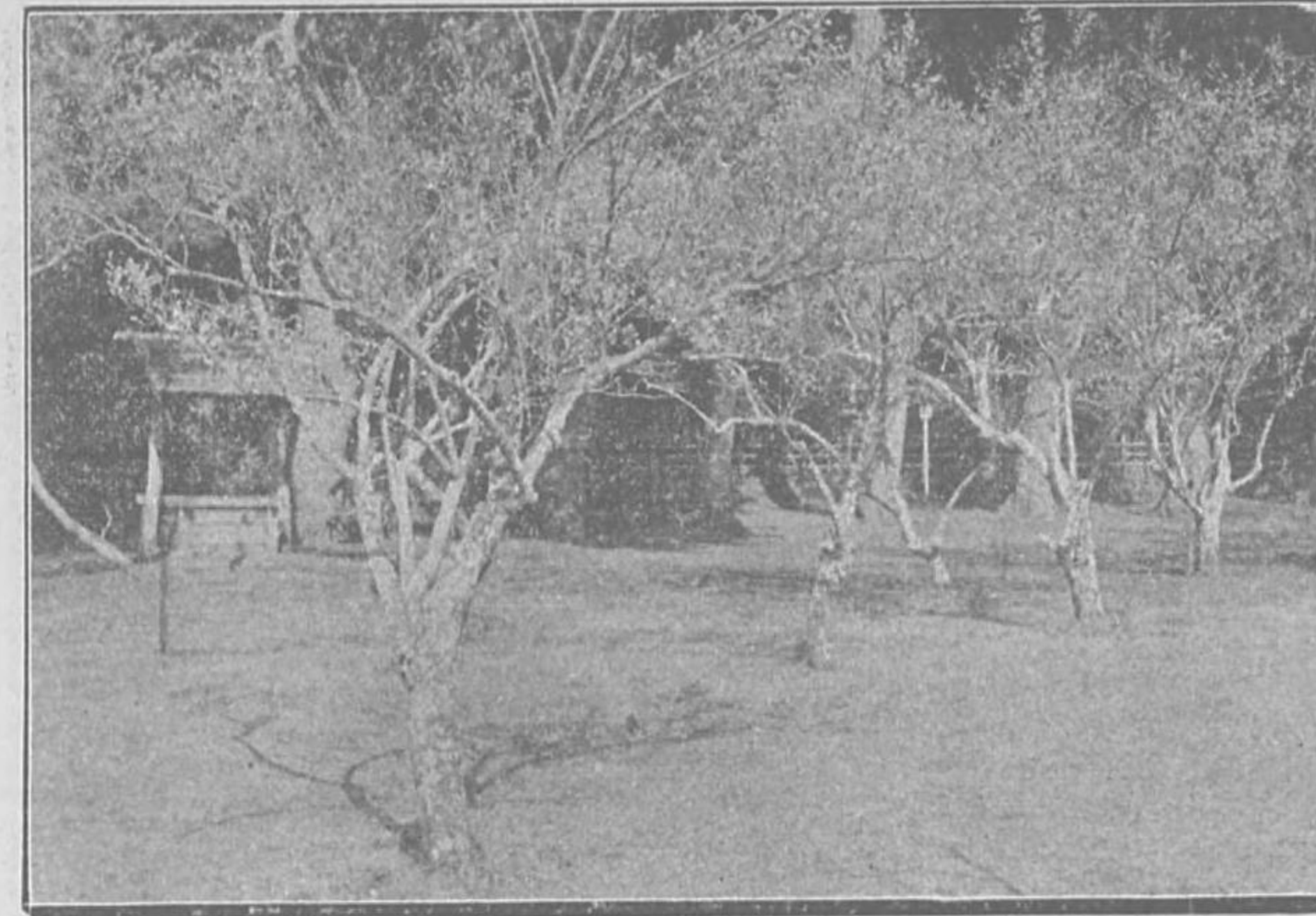
宗吾靈堂 (下總)

印旛郡公津村字臺方にあり、義民として兒童走卒も其名を知る木内宗吾の遺骸を埋葬せしところにて、墳域凡そ二千坪餘、靈堂の奥の院には墓碑ありて、宗吾の院號法名を刻し其側に、父と共に殺されたる兒童の墳ありて相并ぶ、大法會は、毎年八月三日にして、この日は、宗吾が、有司の毒手にかゝりて磔殺されし忌日にして、遠近の來り賽するもの靈の如く、皆な其壯烈を感じて涕泣禮拜せざるものなし、境内には、供養堂、念佛堂、五靈堂、大師堂、額堂等あり、建築宏壯ならずと雖も、義民の神靈の所に安んせらるゝを想へば、自ら襟を正すを知らじ、睡底に暗涙の浮むを覺ぶべし。



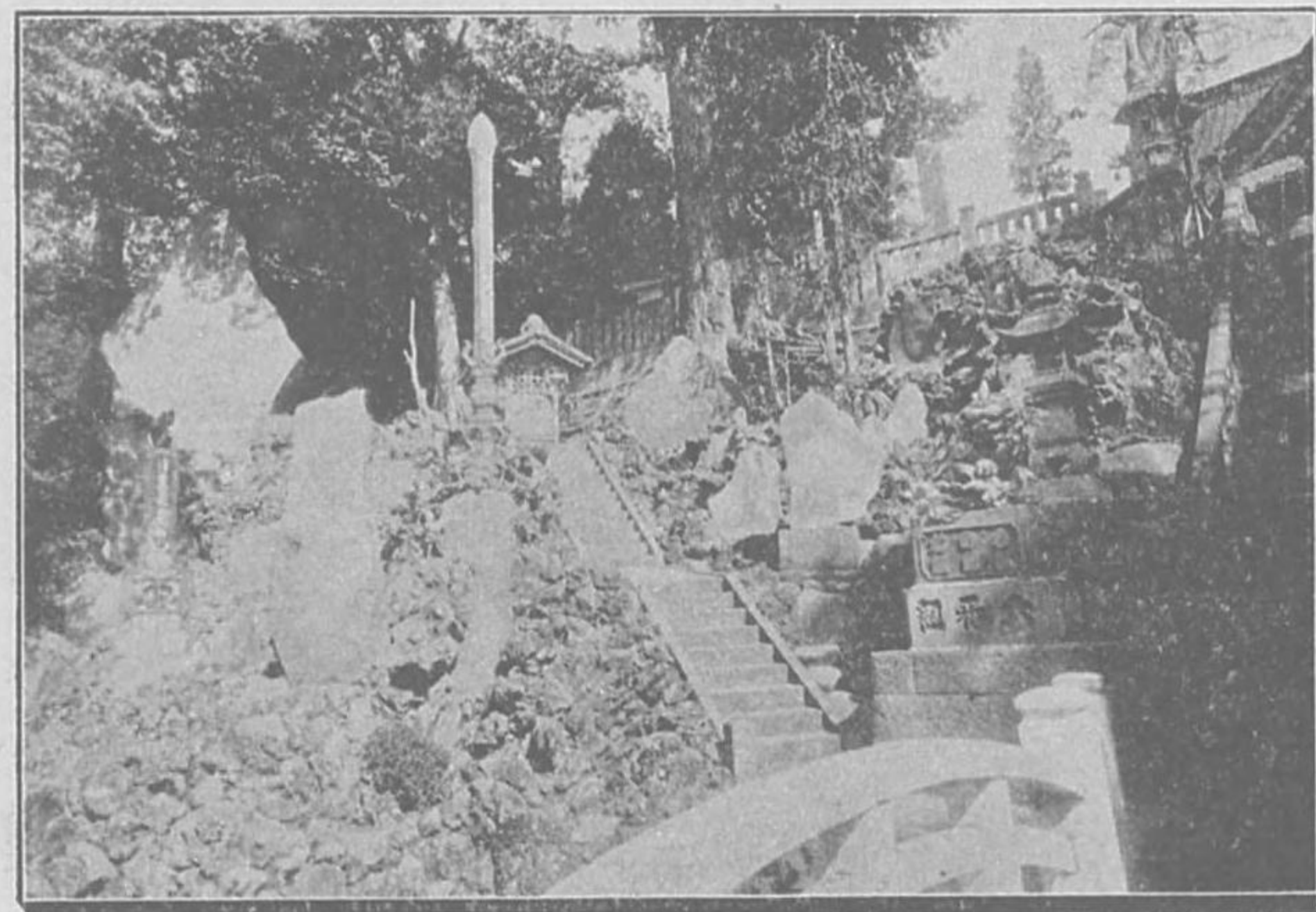
Tenpi-zan; Hitachi.

(常陸磯原) 天妃山



Plum-trees in the Public Park at Mito, Hitachi.

(常陸水戸) 公園の梅林



Monuments to Thirty-Six Youthful Acolytes of Fudō in Narita; Shimoosa.

(下總成田山) 三十六童子の入口



Shrine containing images of thirty-six attendants of Fudō at Naritasan, Shimoosa.

(下總成田) 成田山三十六童子

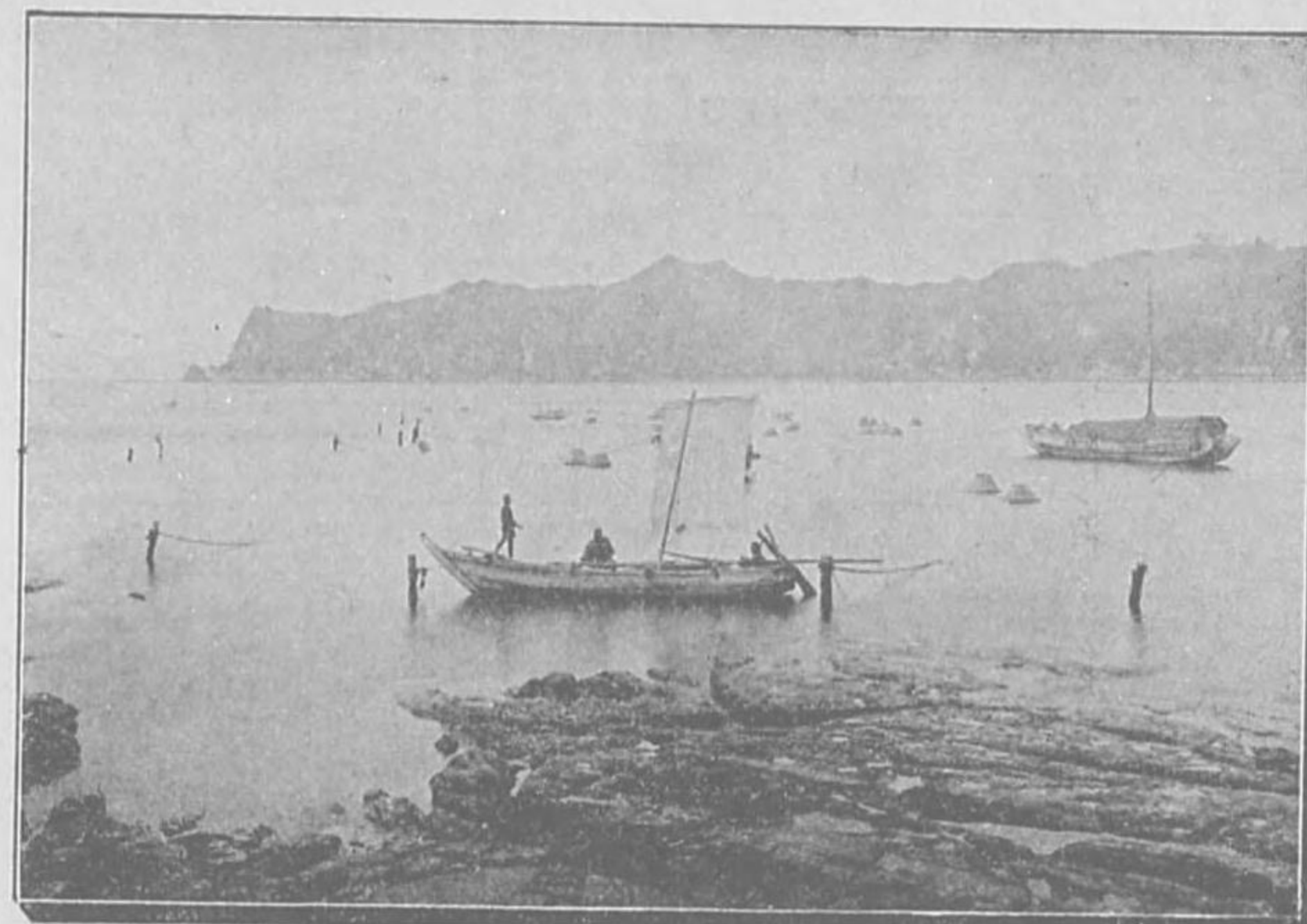
水戸梅林 (常陸)

水戸梅林は、第一公園内にあり、この園は、舊藩主徳川齊昭の造營せられたるものにして、舊名を借樂園といひ、一に常盤公園と稱す、地は一堆の丘陵にして、面積三萬坪にちかく、東門より入れば、一面の芝生を布きたらん如く、數千株の梅樹をその間にうねらる、老樹は少なしと雖も、幹枝様訝として已に仙姿を供へ、苔鮮皮膚を封じて、景趣掬すべし、花時にいたれば、一葉の白雲園にみながら、香積郁として風に散じ、老幼兒女の來り觀るもの絡繹として絶えず、近年、鐵道の通せしより、都門の客亦たこれを訪ふもの多し、まことに、關東に於ける梅園の尤も佳なるものとして、先づ指を屈すべきものならんか。

天妃山 (常陸)

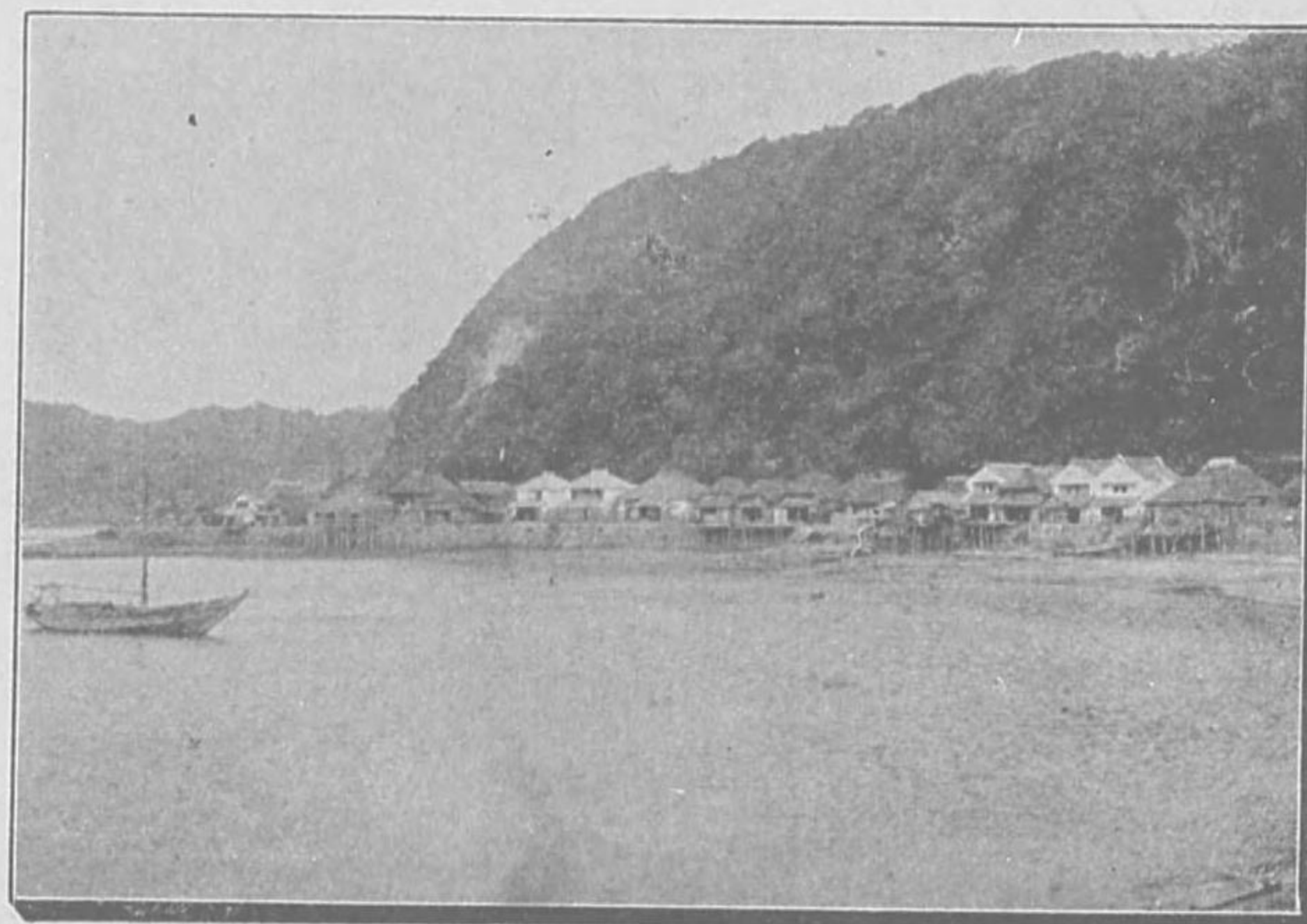
多賀郡大北川の河口に、流を破つて屹立せる嶋にして、高さ五六丈、周圍三町許りあり。巖奇石峩々として聳へ、老松亭々として生長し、或は石罅を排して立ち、又は、石根に倚りて蟠る。崖下には、河流滔々として寄せ來り、白波躍り銀浪碎け、其風景の佳なることいふべからず、北方の嶋脚には、砂石堆積して、一徑の陸地に通ずるあり、上に、天妃の廟あり、古雅にして清趣あり、これ嶋名を天妃山といふ所以ならんか、この山は、古昔に、折藻山と呼ばしものにて、風土記にも、稀なる名勝として載せられたり。

(安房) 鯛の浦



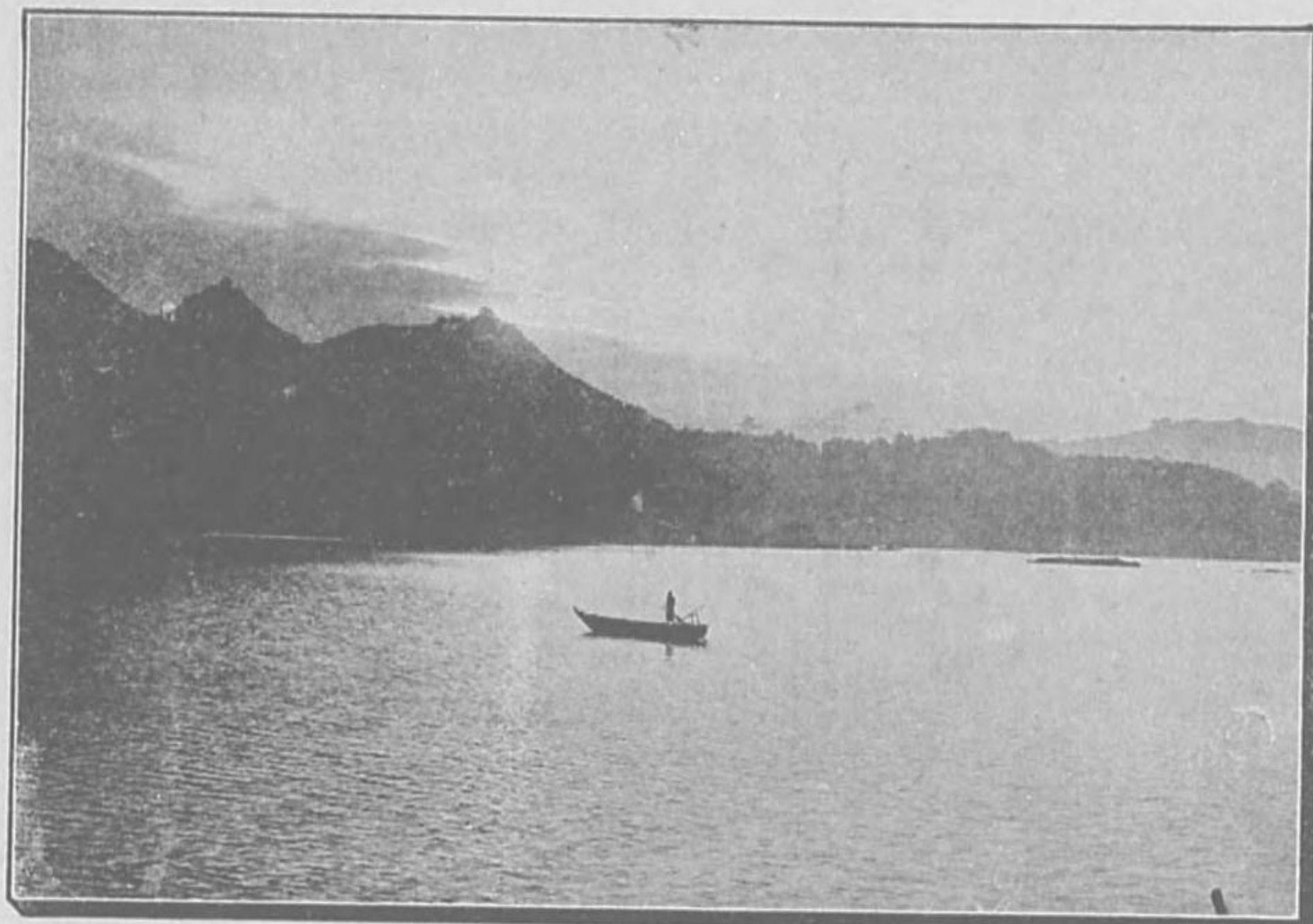
Taino-ura; Awa.

(安房) 小湊海邊



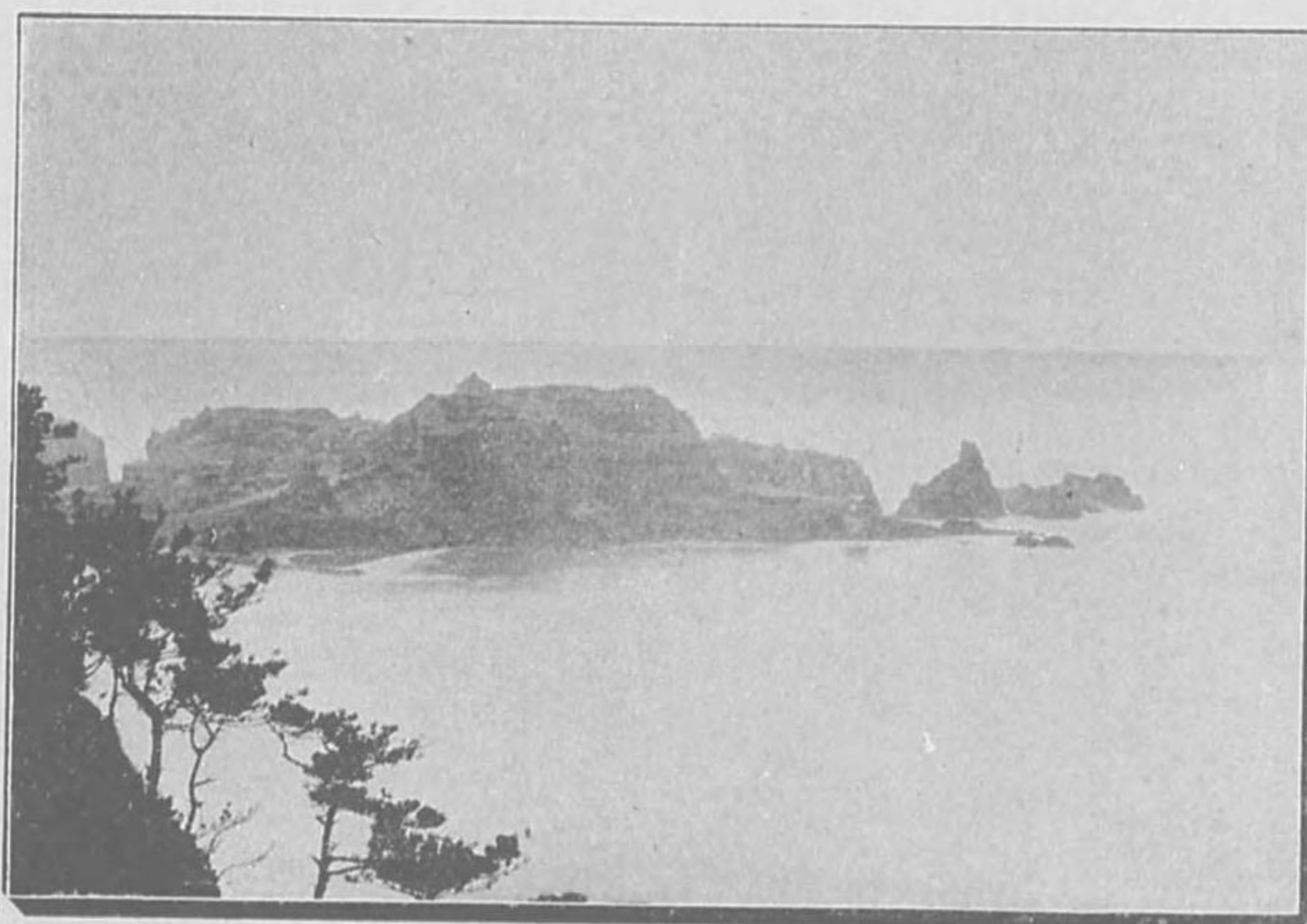
Kominato Beach; Awa.

(駿河) 静浦の朝暁



Sunrise at Shidzu-ura; Suruga.

(下總) 銚子の大岩



Great Rock at Choshi; Shimosa.

銚子大岩 (下總)

銚子は、利根河口の良港にして、船舶の出入するもの甚だ頻繁なり、港の海に開くところ危岩亂礁錯綜して、怒濤碎浪湧起し、港に入る諸船は、必ず、一の岩、二の岩と稱する大岩石の間を通過せざるべからず、二岩の距離僅に五十餘間に過ぎず、巖として港門を扼せり、其他にも、權九郎、上横根、下横根、段原等の諸岩礁ありて、風伯一度び怒れば、船舶又たこれを犯す能はずといふ。たゞ、かゝる險惡の場所は、風景の壯觀に富むとて、この間を展望すれば、神壯に氣の昂ると、いふに堪へざるものあり。若し、犬吠崎を一廻して、長者ヶ鼻、犬若島などの壯觀を眺めんか、巨岩、大石紛々として亂立錯横し、鬼哭し神驚く大壯觀に接せん。

小湊海邊 (安房)

房州の海岸は、夙に風景に富むを以て其名高し、特に、小湊附近の海岸にいたりては、其尤も佳なるものなり、岩あり小島あり、或は海水灣入して小潭をなし、又は、洲嘴ながく曳いて岬をなす、鯛の浦は、小湊山の東麓にありて、日蓮上人の時よりして、漁魚を禁じれば、近海の鯛族このところに集まりて、恰も庭池の鯉魚に於ける如く、遊覽のもの船を泛ぶるもの多し、蓮花潭と稱するも、この附近にありて、日蓮降誕のときに、此の海邊に蓮花を生せしと傳へらる、凡て一帶の風光閑雅と壯大とを盡して備はらざるなく、觀客をして、神遊き魂馳せしむるものすくならず。

鯛の浦 (安房)

房州の沿海は、奇勝を以て名高き所多し、小湊山下の鯛の浦の如きは、就中、尤も稱するに足るものならんか。鯛の浦は、妙の浦の訛稱なり、昔し、日蓮上人この浦に漁獵するを禁せしより、今日にいたるも之を固守するが故に、魚族群をなして集まり來り、數多の鯛魚恰も盆池の鯉魚の如く游泳す、旅客のこの地に來るもの、小舟を舥して浦上に泛び、小魚などの餌を投ずるときは、紅鱗忽ち舷側に集まり來り、争ふて跳躍游泳するさま甚だ奇觀にて、中には、四五尺に達する大鯛もありといへり。けに、其景狀の世に稀なるは、浦の名を「妙」と呼び、又は「鯛」といふも、共に虚しからずといふべきなり。

静浦の朝暁 (駿河)

富士の麗嶽天半に峙ち、儼として駿州沿海の風景を支配するを以て、到るところの津々浦々は、争ふて明媚の景を粧ひつゝあり、静浦の如きも其一にして、境は、沼津町より程遠からず、一帶の明浦恰も畫圖を披きたるか如く、浦上の景色はいふを待たず、遠望の閑豁にして秀佳なるは、心神を恍然たらしむるものあり、朝暁東山の上に出づる頃、衣袖を浦風に飄して砂濱に立てば、漫々たる海上、淡霞の幕漸く落ちて、細澁黄金の彩光を布き、未だ薄暗き山影は、忽ちにして蒼く、忽にして紫に、旭日三竿に至るや、山容漸く明にして漁戸簾舎の烟濃かに、白帆の一艘二艘漕ぎ出で、欸乃の聲微に浦上に聞こゆるなど、心爽に氣清さといふべからず。浦上には海水浴舎の設けありて遊觀の客を待つもあり、實に附近の一仙境といふべし。

香取神宮 (下總)

神武天皇の御宇に勸請せられし古祠にして、
官幣大神に列せらる、祭神は、武甕槌神、天
屋根尊、姫神の三柱なり。本社々殿の宏壯に
して古雅掬すべき、社域の廣潤にして神寂び
たる、孰れも敬虔の念を生ぜしめざるなく、
附近の風光亦た畫圖の如し、この社は、鹿島、
息栖、の二社と共に、關東の三社として世に
名高く、特に、名勝古蹟に富みたることは、
他の二社に勝るものあり、社後に於ける櫻の
馬場には、櫻樹立ちしげりて、眺望亦たよろ
しく、十六島の風光を一目に眺めて、更に常
陸の潮來を望むなど、關東無双の神地たる名
に背かず。

誕生寺 (安房)

房州長狹郡小湊の山麓に在り、日蓮上人誕生
の地として、有名なる靈蹟なり、地は、山を
負ひ、海に臨み、境内瀟灑にして、廣袤五千
一百四十坪、山門を入れば、石壇の上に誕生
堂あり、中央に祖師堂及び本堂ありて、本尊
十界の木像を安す、此諸尊の像は皆蓮慶の作
にして、水戸黄門光國の寄贈に係る者なりと
云ふ、祖師堂には新藤生の宗祖と稱する、日蓮
上人の靈像を置き、別に境内に臚列する堂宇
には、龍王堂、妙見堂、大田堂、朝師堂、鐘
樓、方丈、庫裡などありて、有名なる誕生水、
亦院内に湧出す、此水は上人降誕の時、其父
貫名重忠の門前より噴出したるものなりと傳
へ、今に至るまで、尚ほ滾々として流れて止
まず、清澄なること玉の如し、堂後より山上
に登れば、海山の勝一目の下に據まり、爽快
言ふべからず、眞に僻境の一名區なり。

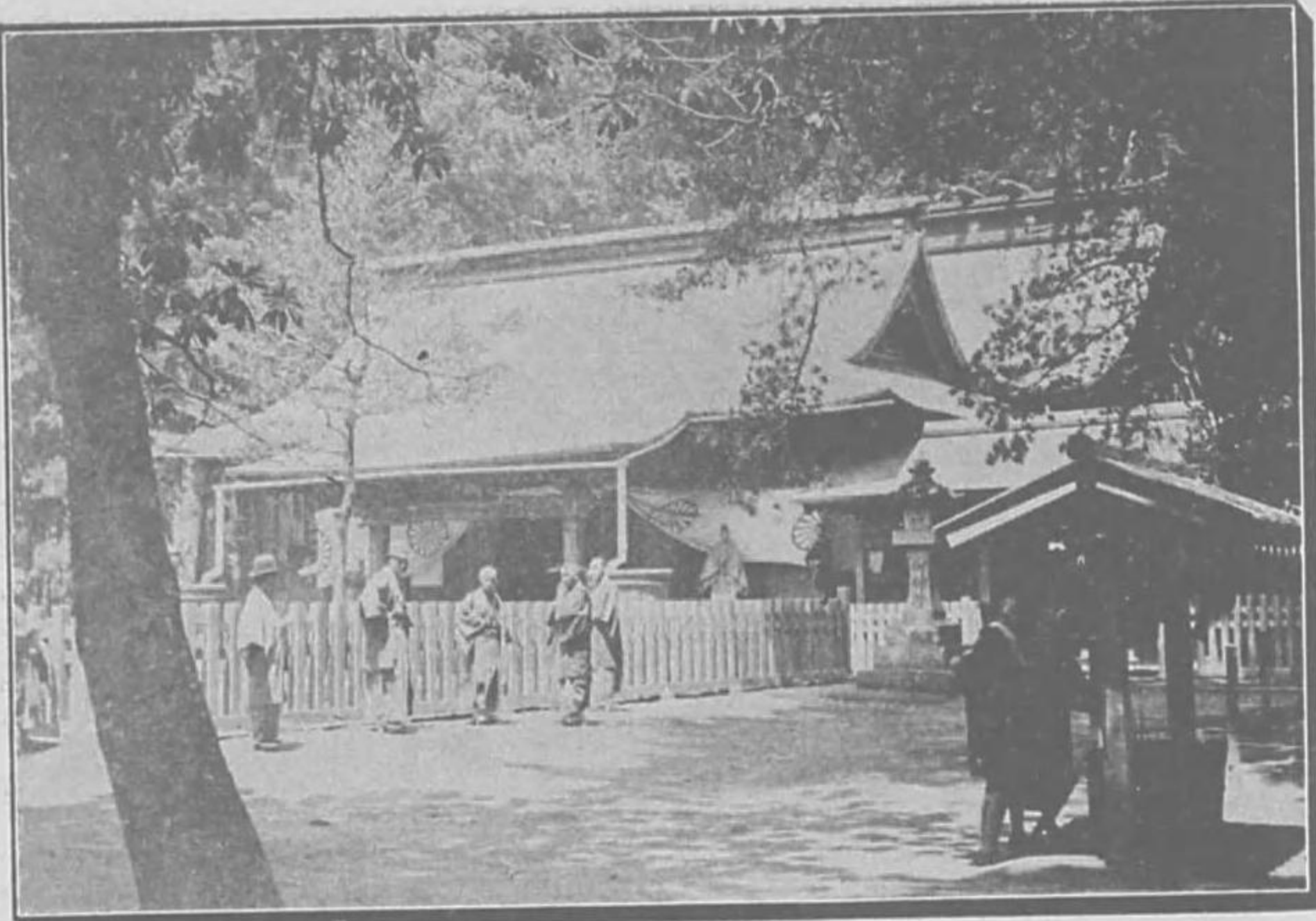
清澄寺 (安房)

長狹郡天津町の北方一里廿町餘なる、清澄山
の頂上にあり、太古の時已に祠堂の建設あり
しも、其後頽破に歸し、孝仁天皇の御宇にい
たりて之を再建し、千光山金剛院清澄寺と
號せり。寺域一萬五百坪餘に及び、松杉蒼鬱
として中庭に聳へ、周圍四丈八尺に及ぶもの
もあり。本堂は結構壯大にして、葺くに銅瓦を
以てし、十五間四面の大堂あり、其他の堂塔
またすくなくならず、相連りて、山頂に一の招
提境を開けり。元來、清澄山は、房州第一の
高峯にして、遠近風景ごとく眼中に網羅
すべく、一度び登臨して寺境に遊ばば、身の
羽化して天上にあるを覺ふべし、寺院の近傍
には旅館商店の來り業を營むありて、又た山
間に別乾坤をなせり。

圓福寺 (下總銚子)

聖武天皇神龜五年の春、漁網にかゝりて海中
より出現せし觀音菩薩の尊像を安置す、弘法
大師の開眼せられし緣起あり、阪東三十三ヶ
所中の一靈場として、古來より上下の信仰淺
からず、一千餘年の間、法燈綿々として東海を
照らせり。境は、銚子港市街の中央にある高丘
の上にありて、巍然たる觀音堂の構造甚だ莊
嚴なり。眺望の絶佳なるは近郷稀に見る處に
して、東南は、丘陵を隔て、東海を背にし、北
は利根川の大江に臨んで、遠く常陸の原野山
岳に向ふ、銚子港の市街は、東南西の三方に見
るべく、白雲粉壁恰も氣樓の如し、この地は、
東國に著名なる港なれば、出入の船舶絶ゆる
時なく、帆檣林立して海を掩ひ、白帆を揚ぐ
るもの、黒烟を漲らすもの、一碧十里の波を
破りて往來するさま、實に無双の光景なり。

(下總) 香取神宮



Shintō-Temple of Katori; Kadzusa.

(安房) 誕生寺 眞門



Side-gate of Tanjō-ji Temple, Awa.

(安房) 清澄寺



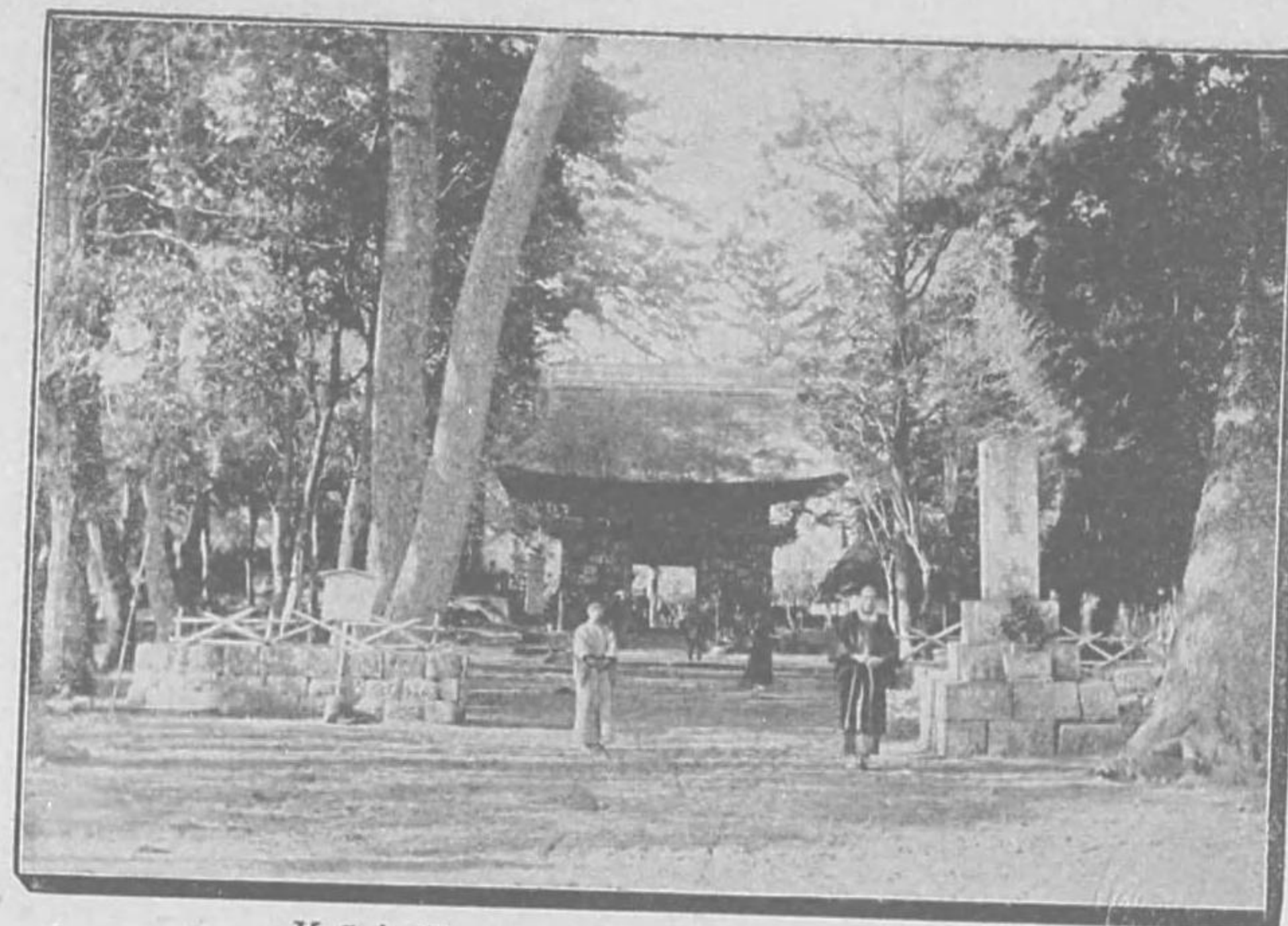
Seichō-ji; Awa.

(下總) 銚子圓福寺



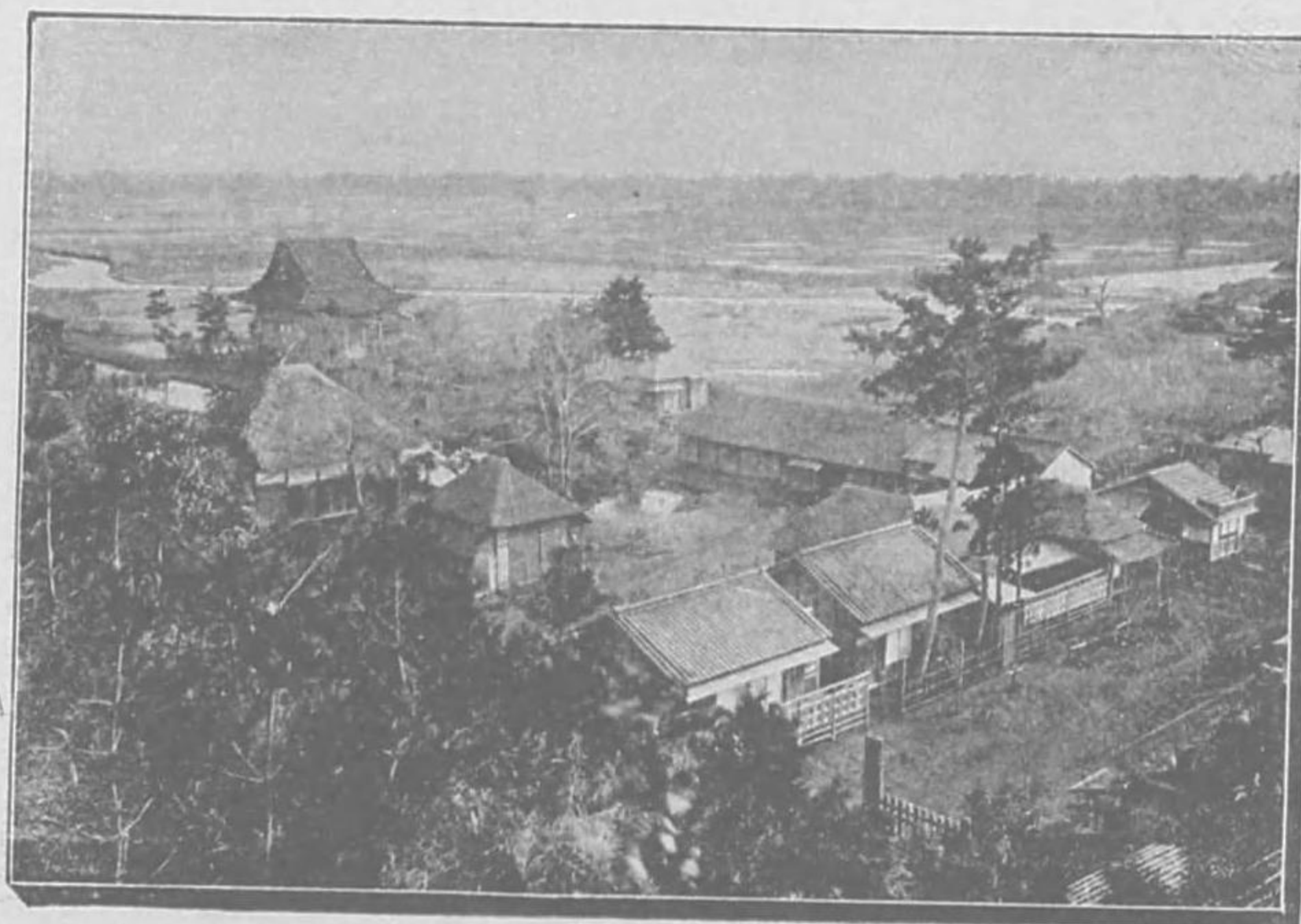
Empuki-ji Temple at Chōshi, Shimoosa.

(安房小松原) 鏡忍寺



Kyōnin Temple at Komatsubara, Awa.

(上總重間) 手古奈の社



Shintō-Temple of Tekona at Mama; Kadzusa.

(安房) 千倉鑛泉



Hot-Springs of Chikura, Awa.

(上總) 千葉寺觀音堂



Kwannon Shrine of Chiba-dera, Kadzusa.

鏡忍寺 (安房)

東條附近の小松原にありて、日蓮上人の舊蹟なり、日蓮の幼時に當り、清澄寺にありて天台の教義を脩むるや、深く師の望をかくるところなりしが、壯に及びて鎌倉に遊び、再び寺門を叩きしとき、衆僧之を請じて教をきしに、日蓮は、自家の所見を陳して、忌憚なく真言亡國論を主張せり、清澄の檀越たりし東條左衛門景信いたく憤りて、これを殺さんとて、遂に、日蓮の出路を要して、これを掩撃せり、其從弟二人を害し、日蓮亦た眉間に負傷せり、されども、幸に危難を脱して、勇氣ますます加はり、法を説いて止まざりき、この危難の起りし地は、即ち小松原にして、鏡忍寺は、後人が祖師渴仰のあまりこの地に建立して、以て當年の紀念とせしものなりといふ。

千倉鑛泉 (安房)

房州は、一の大平嶋の嶋角にして、氣候温和にして、夏は冷しく冬は温暖なれば、往訪の客常に絶ゆることなく、海岸の名勝仙區すこぶる多し、千倉鑛泉は、朝夷郡贖村、大字南朝夷にあり、鹽類泉にして、慢性消化器病、呼吸氣加答兒、腹腔内の諸炎、水脈腫、皮膚病等に効ありといふを以て、浴客常に絶ゆる時なし、温度は、攝氏の二十四度許にして、山間より湧出し、浴舎の構造宏壯ならずといへ共、氣候よく土地清浄なるを以て、一浴するに價値あり、且つ、魚米に富む故に、攝生保養の途も欠くるとなかるべし。

眞間手古奈の祠 (下總)

總州東葛飾郡繼橋の東に在り、祠後の老松は、即ち手古奈の墓表ならんと云へり、手古奈の事に關しては、諸説紛々、其考證甚ださだかならざれども、萬葉集の和歌、其他に依つて之を按ずるに、手古奈は、此地貧家の女にして、天成の麗質、粉粧を假らずして自ら嫵媚たり、是を以て世間好色の男子、眷戀書を通じて、片情を許さんことを求むるもの甚だ多きも、手古奈皆之を肯せず已にして人生の泡沫夢幻なるを感じ、身を眞間の入江に投じて死したりと謂へるもの、最も眞に近きが如し、文龜元年、弘法寺の僧日與、靈告を蒙りて此祠を建營し、爾後毎年其日を以て祭りと定むる、今も婦人の安産を祈り、小兒の痘瘡に罹るもの、之に立願すれば必ず奇驗ありと傳へ、崇敬參拜するもの頗る多し。

千葉寺 (下總千葉)

聖武天皇の和銅年中、行基菩薩の奏上により親しく勅額と勅選の寺號を賜はり、花山院法皇阪東卅三ヶ所の靈場を定め玉ひしとき、其第二十九番に當れり、中古千葉家累代の香花寺となり、徳川氏の治世に及び、重ねて堂宇修繕改築のとあり、後回祿の災にかゝりしを、文政年中高照上人これを再建せり、如是く古來より由緒正しき靈場なれば、伽藍殿堂自ら莊嚴にして、不可云る敬崇の念を生ぜしむるものあり、殿堂の四圍は鬱蒼たる深林を以て圍まれ、白日静にして禽鳥の聲梵磬と和し、世塵のたるとなき招提境たり、庭内にある公孫樹は、珍らしき古木にして、枝葉盛んに繁茂し秋時には、黄雲の殿前に下りしかと怪まあり、千葉町を東方にさると、廿町餘の丘上にあり。

富士淺間神社 (駿河)

静岡市の北、賤機山の南麓にあり、惣社の名を神部神社といふ、延喜元年、勅願によりて富士本宮の分霊を奉遷して、淺間神社と稱したり。社殿は丘陵の上にあつて、三條の石燈を通じて登り拜すべし、神社の規模高壯にして、樓閣には、名匠の手になれる彫刻物を裝置し、其精緻巧麗にして、輪奐の美なる、人目を眩すものありて、東海第一の華麗といふも誇言にあらず。境内は、一に青葉ヶ岡と稱し、綠樹枝を交へて青苔滑に、春の櫻花、秋の紅葉ともに絶景なり、境内の池には鯉鮒の屬游泳し、諸所に、喫茶店、大弓店などありて、休憩娛樂の具亦た備れり、祭日は、毎年三月三日にして、四月五日には、舊式廿日會祭と唱へて、舞樂の催などあり、遠近の参詣人群集すといふ。

沼津の富士 (駿河)

駿州駿東郡の南端に位し、東海國道中屈指の驛次を沼津と云ふ、廣袤方十九町、土地平坦にして、北に愛鷹、富士の諸山を負ひ、南は駿河灣に面し、狩野川東より來り、驛の東南境を劃りて海に注ぐ、氣候温和にして、空氣清良、山海の風光極めて佳にして、市街亦股賑なり、昔は此地に城池ありて、三枚橋城と曰ひ、或は觀瀾城と呼び倣して、今川義元より武田氏に傳はり、徳川氏に至りて、松平康親、中村一氏、大久保忠佐等、交々封を受け、後ち水野忠友之を修築して此に居りしが、王政革新に際して廢城となり、今は悉く宅地と變せり、此圖は、同地より富士を望みたる眞景にして、土壌相距ること遠からざるが爲め山嶺より山腹に至り、殆んど其全部を見るを得べく、白雪玲瓏暎光と相映發する有様、洵に海道第一の美觀たり。

大東館 (駿河靜岡)

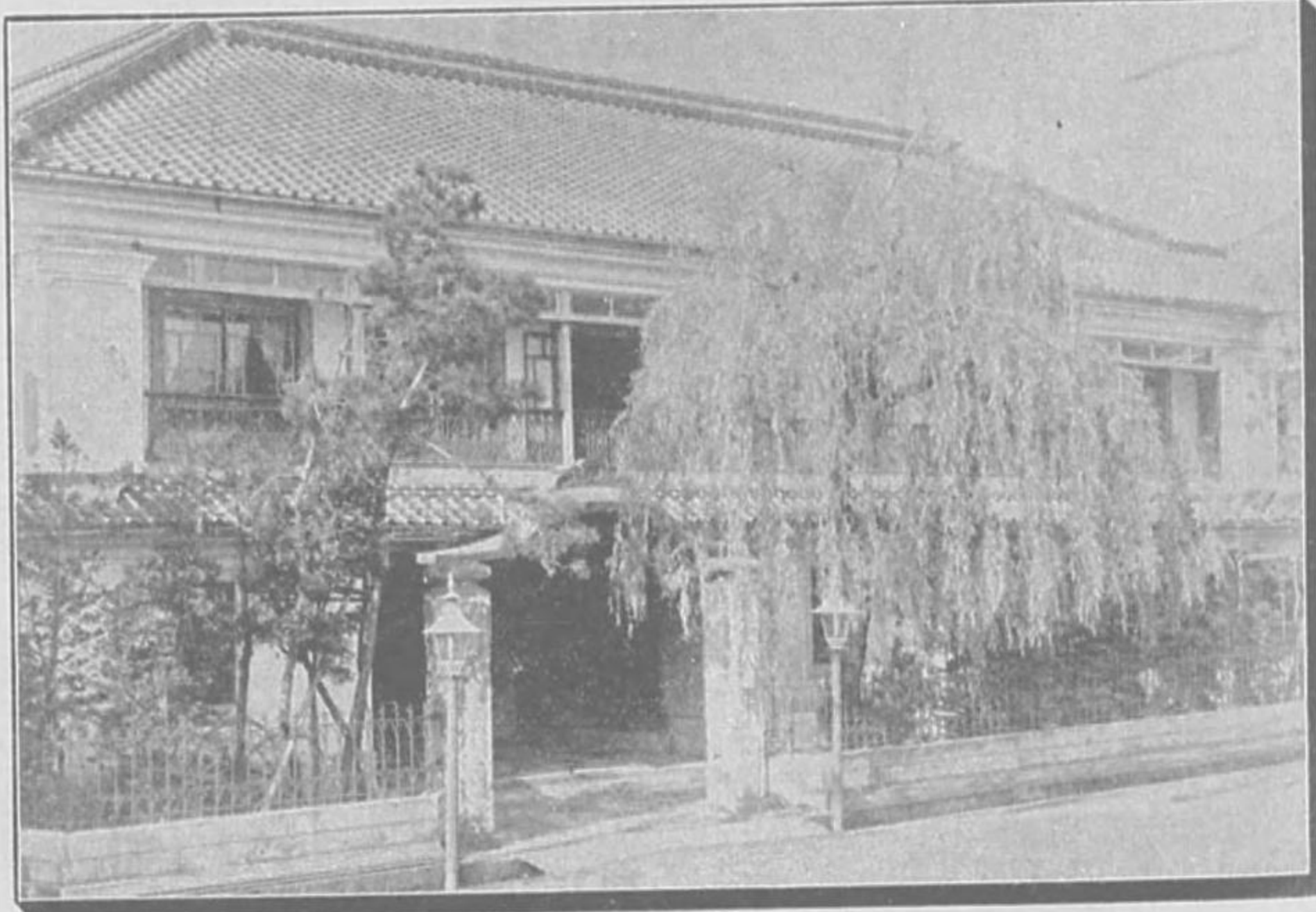
静岡市は、駿河の大邑にして、人口四萬人に近く、東海道屈指の地なり。交通運輸の便利なるより旅客貨物の往復頗る頻繁なり、旅客のこの地に入るものは、先づ足を大東館に留むるを例とす、大東館は、この市に於ける第一流の好旅館にして、建築の宏壯なるはいふまでもなく、客室の清潔にして便利なる、待遇の親切にして器具の瀟洒なる、共に世に好評あり、この好旅館に宿泊して、或は駿府の古城趾を訪ひ、賤機山の風景を賞し、富士淺間の社に參詣するなど、其他附近の名勝舊蹟を訪はば、旅路の鬱を散するは勿論、又身の塵俗中にあるを忘るべし。

(駿河靜岡) 富士淺間神社見拜殿



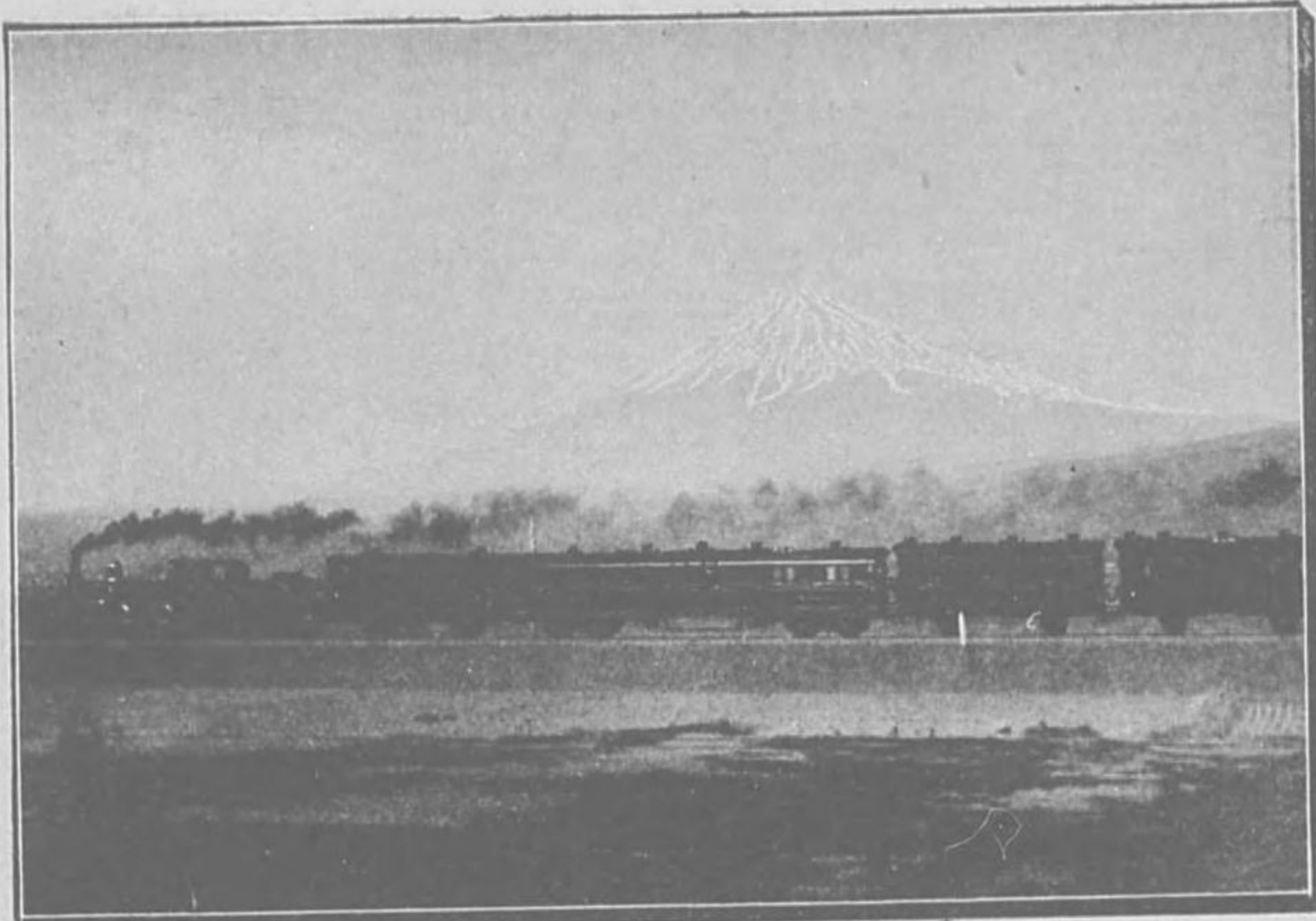
Worshipping Room of Sengen Shintō-Temple at Shidzuoka, Suruga

(駿河靜岡) 大東館 旅店



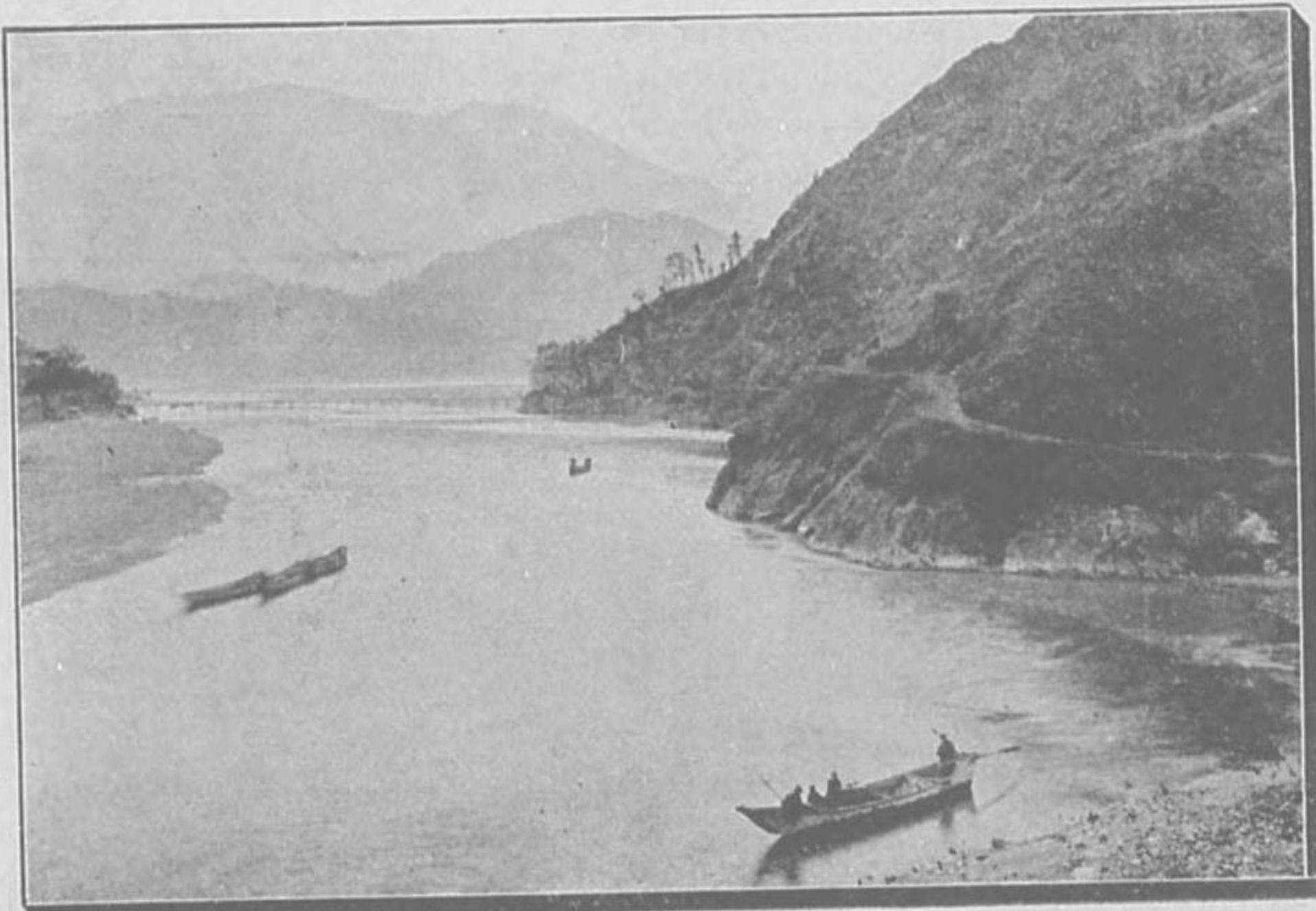
Dai-ō-kan Inn, Shidzuoka; Suruga.

(駿河) 沼津より富士を望む



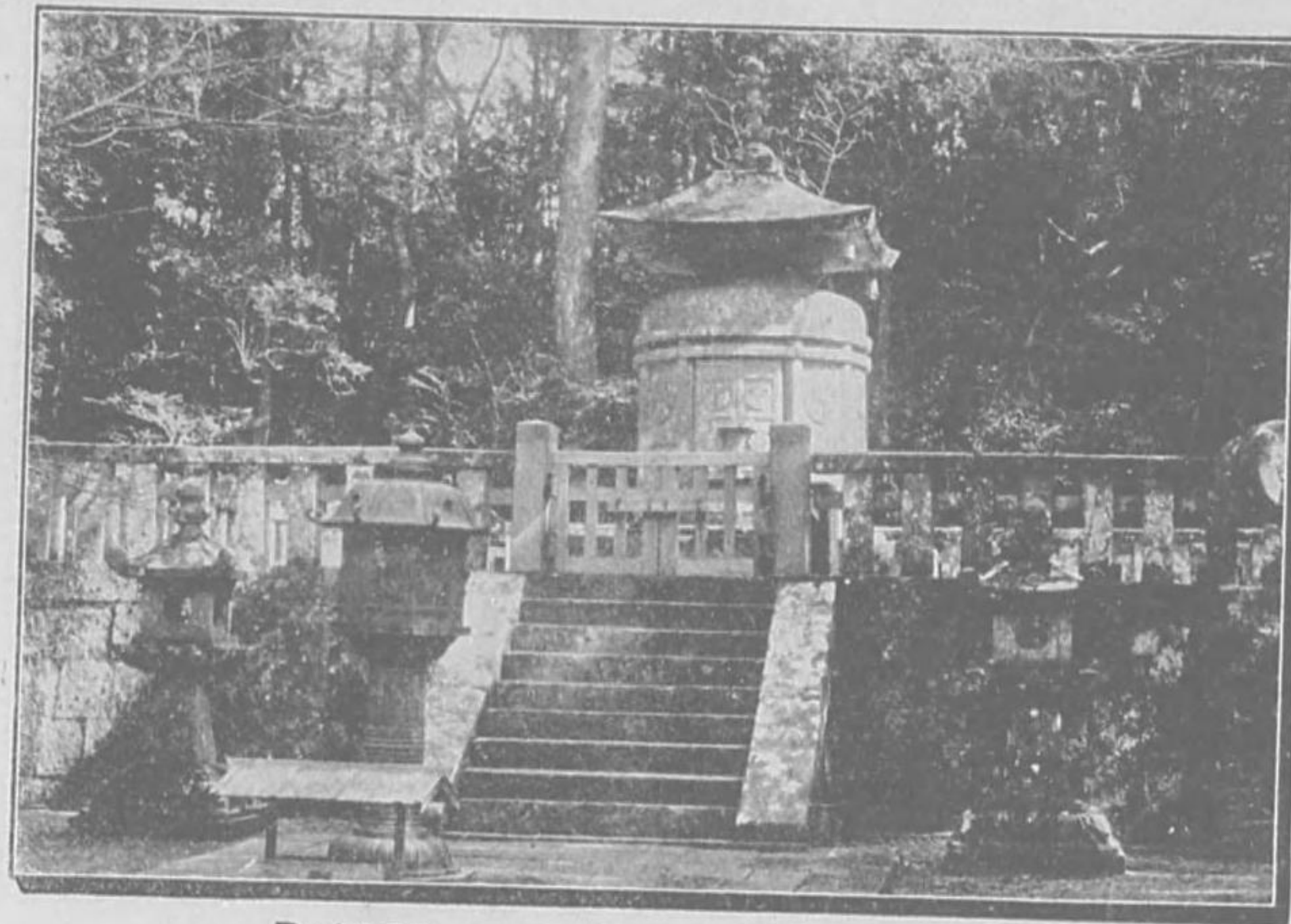
View of Fuji-no-yama, from Numadzu; Suruga.

(駿河) 富士川



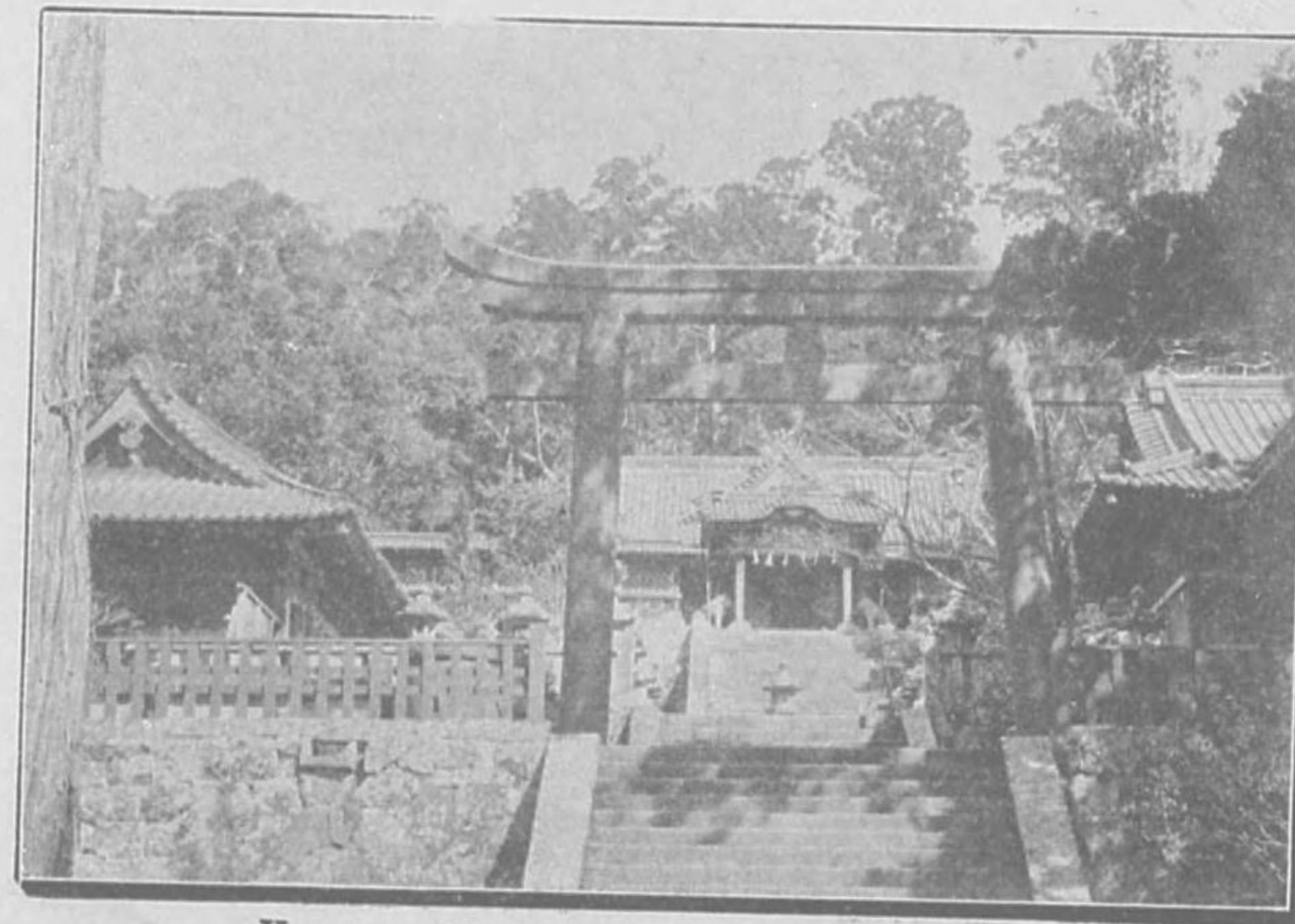
Fuji River; Suruga.

(駿河久能山) 東照宮 神廟



Burial Monument of Ieyasu; Kunō-zan, Suruga.

(駿河久能山) 東照宮 唐門



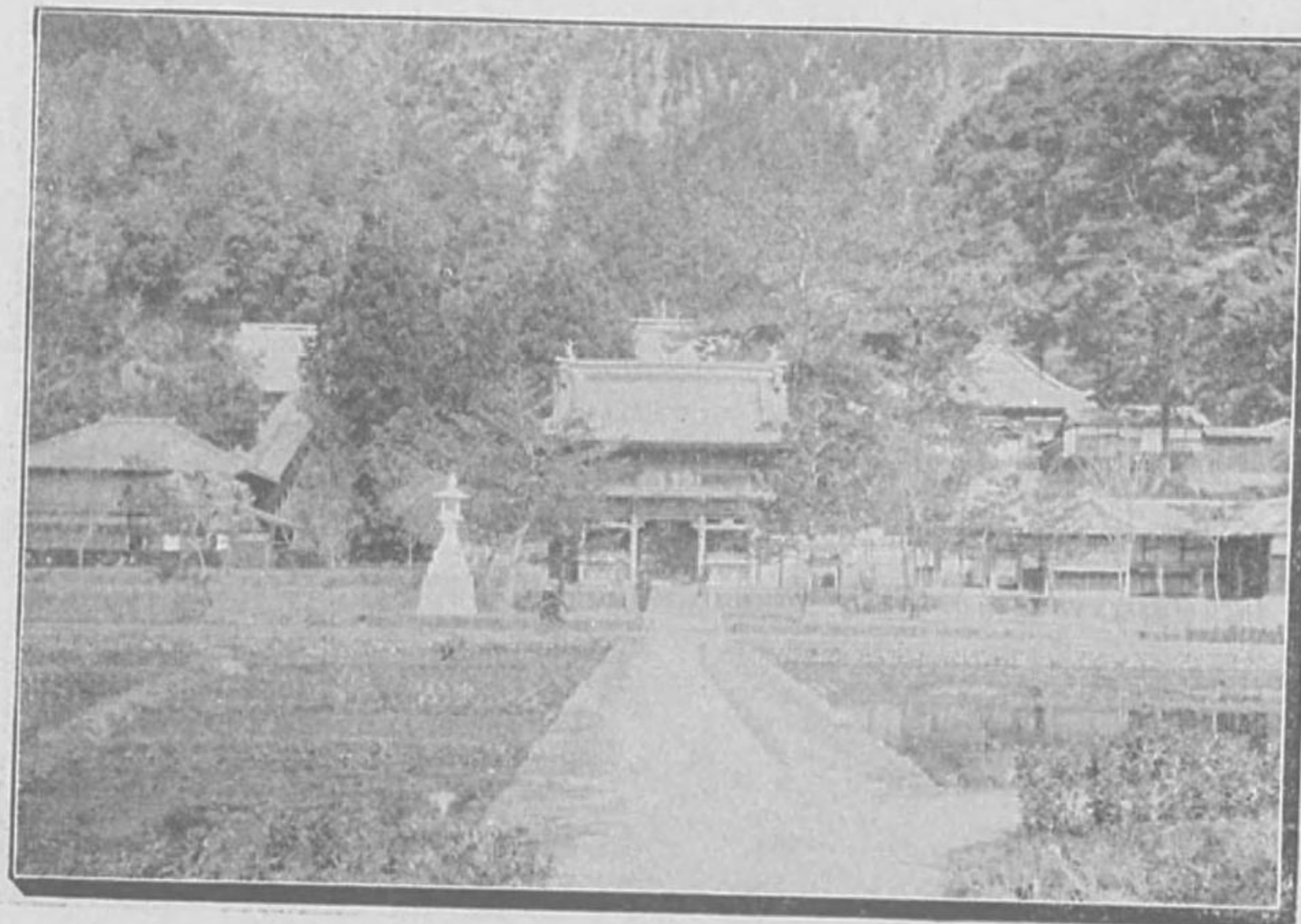
Karamon of Ieyasu Temple; Kunō-zan, Suruga.

(駿河) 清見寺



Seiken Temple, at Okitsu; Suruga.

(駿河靜岡) 大岩臨濟寺



Rinzai Temple; Ōiwa, Shidzuoka.

久能山東照宮

(駿河靜岡)

駿州清水港の西南一里半、久能村久能山の上に在り、別格官幣社にして、徳川家康の靈を祀る、古へ此地に、久能寺と謂へるありて、養老年間、行基僧正、自作の觀音を安置して、本尊となせしと傳ふ、元和三年、徳川家康の遺骸を山上に葬り、墓前に一祠を建立せしが後ら其遺骸を日光山に移すに及び、祠を東照宮と稱して、猶其靈を留めたり、山の南麓より、石階を踏ること十七磐、始めて外門に達し、尙ほ攀登すること十數町にして、社前に抵る、尙金門の裡、靈祠深く鎮し、鍍するに金銀を以てし、燦然人の眼を射る、境内には、勅額御門、社務所、神廟、唐門、鼓樓、神樂殿、神饌所などあり、山上の眺望、亦頗る秀麗にして東北に富嶽、田子の浦あり、清見湖、三保の松原、亦眼下に俯瞰すべく、豆相の青巒、外洋の白波、一として好畫題ならざるはなし。

清見寺

(駿河)

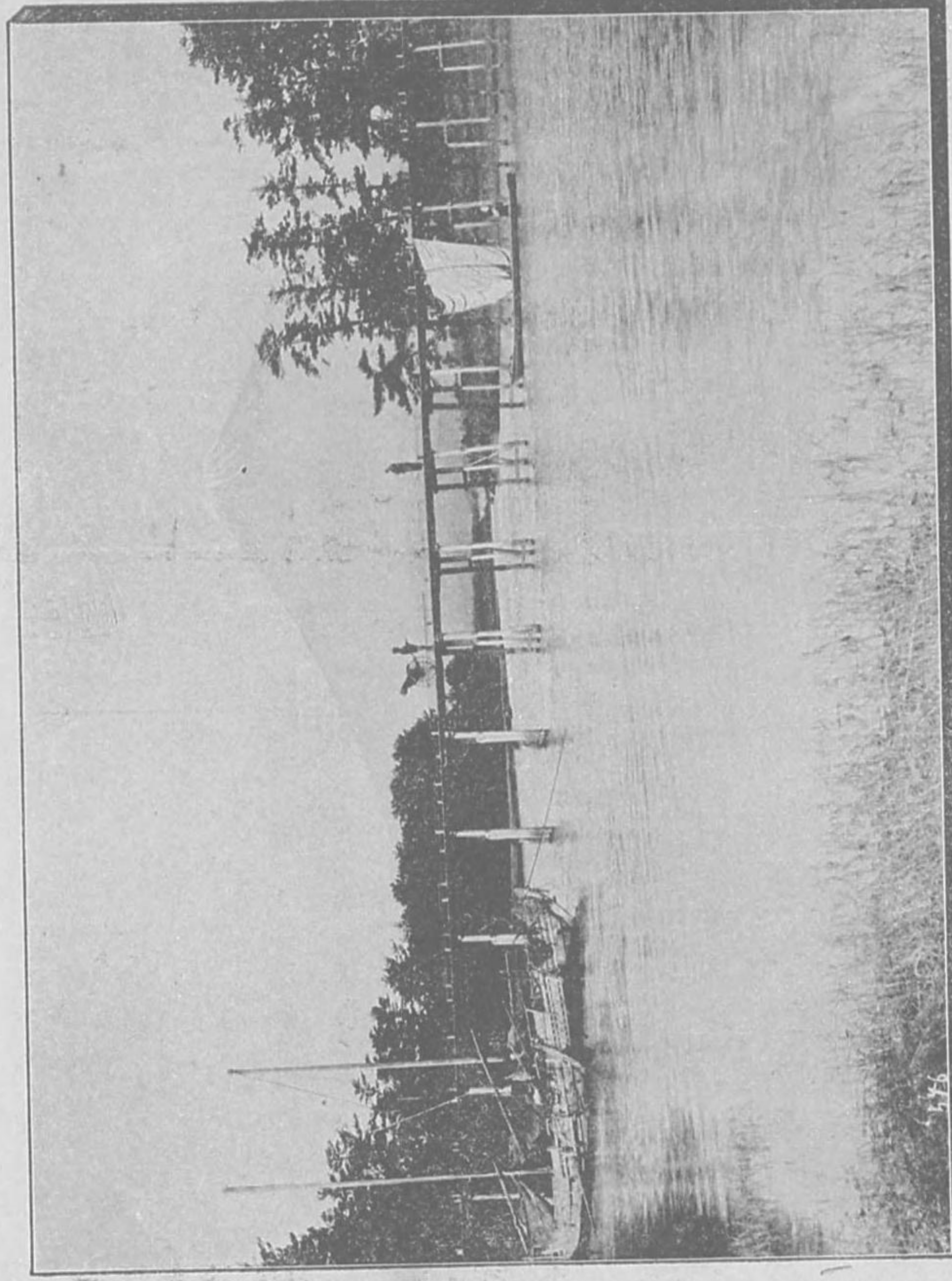
駿州庵原郡興津町に在り、禪宗にして、初め浮見長者の開基に係り、足利尊氏將軍たりし頃、其廢れたるを興し、嘉吉二年、今川氏親、僧明元を招きて中興の開山とす、寺域三千坪、本堂に觀音の像を安し、客殿に尊氏の像を置く、境内には臥龍梅、垂絲梅、四君樹、九曲泉、虎石、龜石などあり、寶物の重なるものは、平清盛所用の見臺、猿面硯、曾氏畫贊地藏の像、辨慶筆大般若經、利久所持涙の茶杓等にして、其寺門の在る所は、古へ清見ヶ關の舊趾なりと傳へ關に用ひたる、突棒、差股、銀りの三具は、今尙ほ秘藏して、寺内に在り寺門より望めば、眼下に三保の松原あり、富士愛鷹、龍爪、久能の諸山、亦指顧の間に在りて、風致快絶、畫圖も尙ほ及ばざるが如し。

大岩臨濟寺

(駿河)

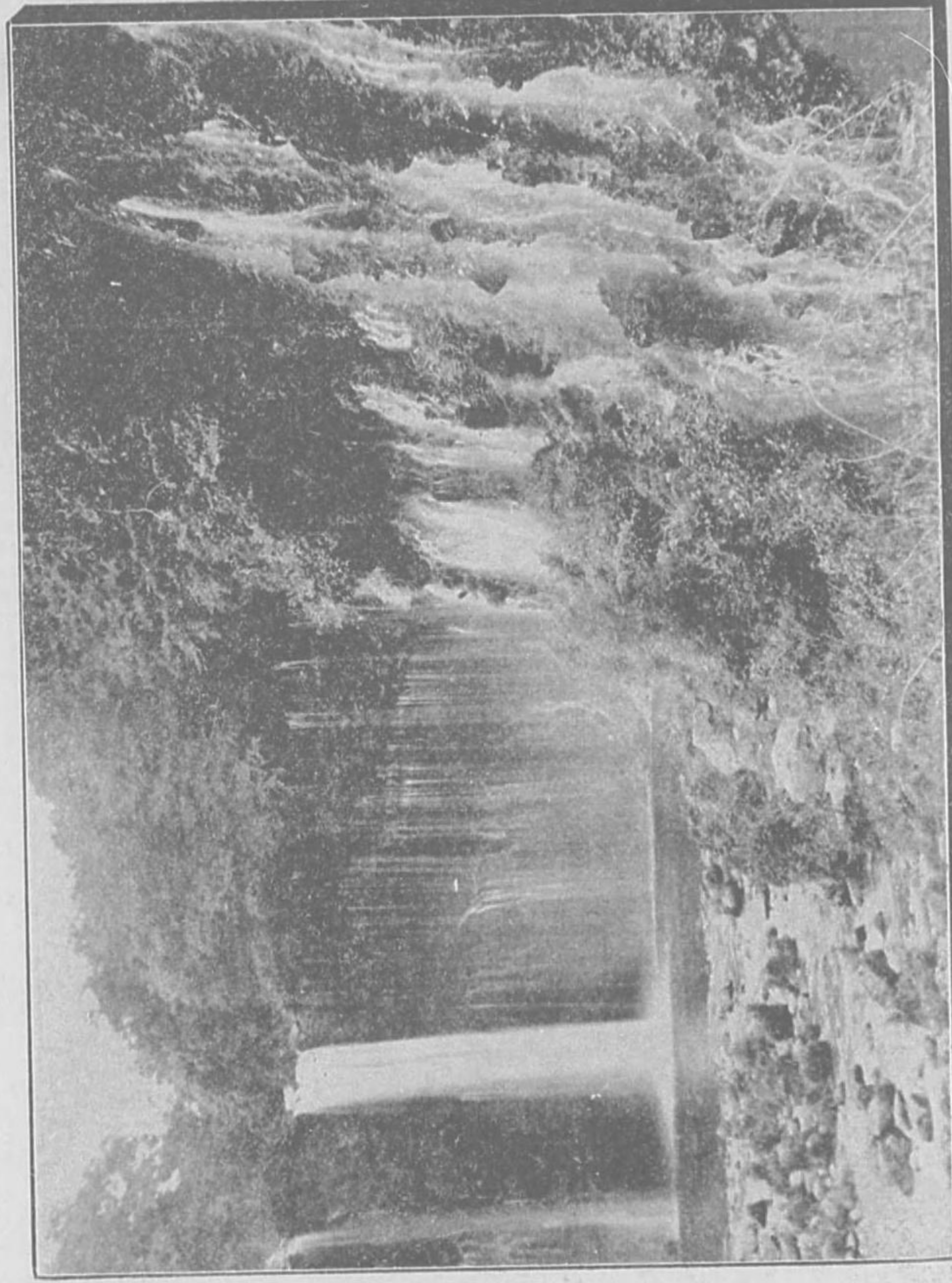
靜岡市の近傍、賤機山の東北にあたる安東村にあり、禪宗臨濟派の總本山にして、天文年間國守今川義元が、本光國師を歸依して創立せしものなり、爾來、世の尊奉淺からず、現今の方丈は、天正の頃、徳川家康が、勅命を奉じて建立せしものなりといへり。寺域頗る廣くして、堂塔、庫裡、山門等いづれも宏大ならざるはなく、本尊の阿彌陀佛は、佛工春日の作なりといふ。家川家康の幼時に、時の住職に就て讀書せして、書院は、四疊半の小室にして、天井には、探幽の龍の畫あり、この寺は、今川氏に縁故ありしとて、氏輝の墳墓あり、又本堂を去ると二町ばかりに、今川義元的首塚あり、傍に小堂を建て、其位牌を安置せり。

(駿河) 田子浦より富士山を見る



View of Fuji-no-yama, from Tagonoura, Suruga.

(駿河) 富士白糸の瀧



Shiraito Water-fall, Fuji, Suruga.

田子の浦 (駿河)

駿州の東方海濱に在る最も著名の勝區にして同國駿東郡田子浦より元吉原の二村に亘れる海濱の總稱なり古歌には田龍、又は田兒、若くは多瀧と書し其名稱區々に涉れり、今其形勝の一斑を擧ぐれば、青松一帯白沙と交はり、北は芙蓉峰の巍然屹立、雲霄を摩せんとするを望み、西には三保の松原長く海上に斗出するのみ、南は香渺たる太平洋を瞰み、山海の光景両つながら相備はり、古來東海道中第一の絶勝を以て稱せらる。浦の東方一本松の海濱に奇石あり、高潮の時と雖も海水此石以北の陸地に浸入することなきを以て、稱して要石と曰ふ。由來、是地は萬葉以後、古人の題詠に入るもの頗る多く、中にも山邊赤人の

田子の浦の打いて、見ればましろにそ
富士のたかねに雪はふりつゝ、
の歌の如きは百人一首の撰にも入りて、兒童走卒も亦昔口にする所なり。

Tago-no-ura.

This is a bay south-west from Tokyō, near the foot of Mt. Fuji which it affords. It is near the Suzukawa Station on the Tokai-dō Railway.

白糸の瀧 (駿河)

駿州富士郡白糸村大字原村の北に在りて、高さ八十七尺、幅七十二間、其最も大なるものは、雄瀧、雌瀧にして、小なるものに至りては、其數無量、宛かも數千の小管より噴出するもの、如く、又幾千條の白糸を斷崖に吊したるが如し、白糸の名、蓋し此の奇觀より出で來るもの乎、瀑の傍らには、紫藤、躑躅、楓の類叢生し、花季、又は紅葉の時節に至れば、花影葉色、水光と相映發し、美觀言ふべからず、側に碑ありて、加茂季鷹の

時知らぬ雪解の水が神代より
とほに落來るまら糸の瀧
と云へる一首の和歌を刻せり、瀑水は源を猪の頭より發し、末流は芝川に入る。

Shiraito Falls.

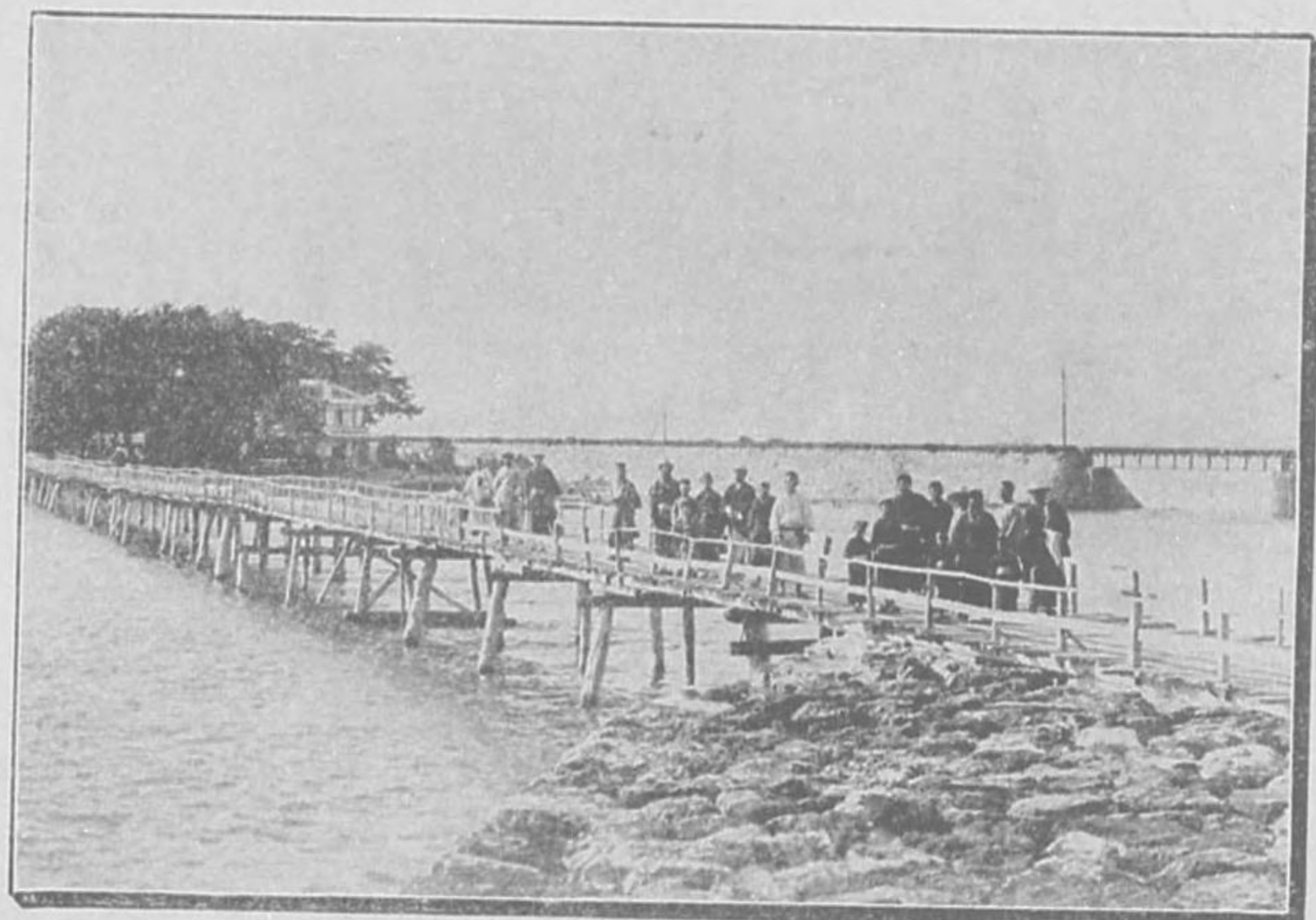
Shiraito Falls ("White-thread Falls") are near the village of Shiraito in Fuji-gori. They are only 87 feet high, but are said to be 430 feet wide. The water blows into the Shiba River. The falls are about twelve miles from the Suzukawa Station of the Tokaidō Railway. It is convenient for those ascending Mt. Fuji to visit these falls on their return journey. If this course be taken, the journey from Shiraito to Omiya may be by stage, and from Omiya to Suzukawa by a tramway.

(駿河) 富士川より富士山を望む



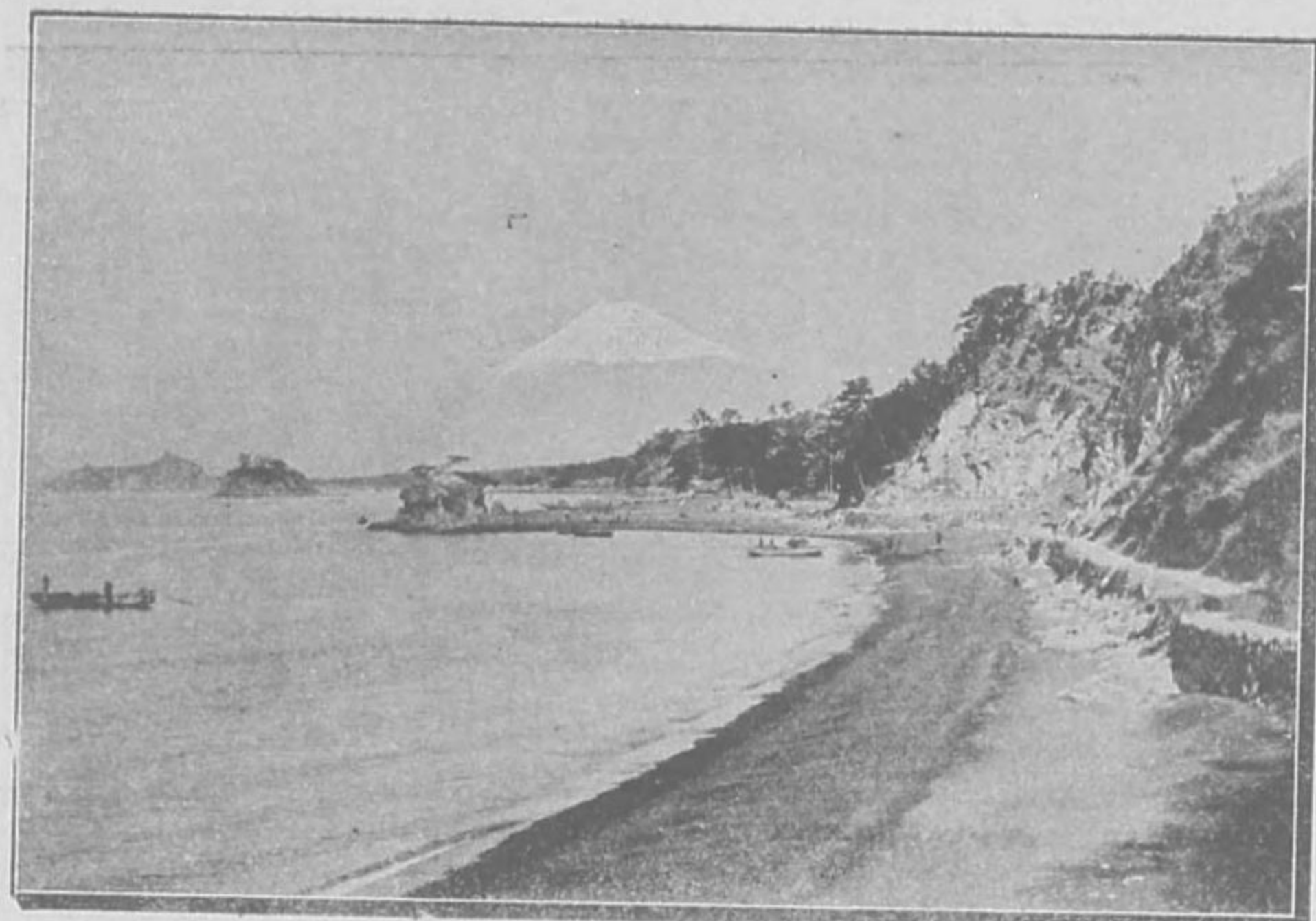
View of Fuji-no-yama from Fuji River, Suruga.

(駿河) 舞阪天鳴 若荷屋旅館支店



Myōga-ya Hotel of Benten Island at Maizaka, Suruga.

(駿河) 江の浦より富士を見る



Fuji-no-yama viewed from Enoura, Suruga.

(駿河) 興津海水浴場



Watering Place at Okitsu, Suruga.

富士川より富士を望む (駿河)

甲斐の笛吹、釜無、蘆の三川、合して一となり、南流駿河に入りて、富士、庵原二郡の界を疏し、内房村にて富士郡の芝川を容れ、蒲原町の東に至つて海に入るもの、名けて富士川と曰ふ、國境より河口まで凡そ五里、潤さ五町餘、湍流迅速、羽前の最上川、肥後の玖摩川と共に、三急流の稱あり、慶長年間、徳川家康川を疏鑿して、甲斐に湖る水路を開き、今は、同國峽ヶ澤より、日々通船の便ありて、途中、屏風岩、藤橋、俵名等の奇勝を見るを得べく、又河心より富士を望めば、砂礫一帯水際に連り、田子の浦邊の松原を隔て、高く玉芙蓉の屹然雲表に聳ゆるを観るを得べく、山の裾より、頂上まで、其全身を顯はしたる、美景壯觀、得も言はれざる有様あり、其眺望田子の浦と相伯せりと云ふ。

若荷屋旅館及支店 (遠江)

東海道は、風景の絶佳なる勝區すくなくならず、遠州濱名湖の風景にいたりては、その尤も優れたるものにして、千間餘の濱名橋は、透迤として虹の如く、波穩にして水清く、島影參差として白鷗の眠りしづかに、遙に芙蓉峰の巍々たるを望み、遠く七十二灘の洋々たるに對し、こゝに遊ぶものをして、神馳せ魂逝くの思あらしむ、旅館若荷屋は、この勝地にありて、専ら世上の紳士驛客を待つものにして、室清くして應接厚く、無比の好旅館たり、特に、舞坂町辨天島にある支店は、二層の高樓にして、空氣の流通によろしく、四近の眺望に富み、更に海水の温浴場を設けたれば、仙境中の仙境といふも不可なく、樓の名に、天高氣清の四字を冠したるも、まことに其實と背かずといふべし、本圖は舞阪支店の遠景なり。

興津海水浴 (駿河)

東海道鐵道の興津停車場を隔ること七町、興津宿の海濱にありて、海岸に、巍々たる大厦高樓を構へ、海水温浴場を設け、海には、巨岩天然の防堤を作りて、波浪を遮るため、夏日游泳に危険なく、婦人小兒も安全に水浴するを得べし、地勢は、一葉の白砂汀にして、奇岩怪石其間に峙ち、南には、三保の松原あり、東に御料地の森林ありて、翠色滴らんとするが如く、富士山、愛鷹、久能、賤機等の諸山は、皆な指顧の間に望むべく、山光の明媚にして水色の鮮妍たること、海道屈指の海水浴場にて、冬の避寒、夏の避暑には無上の樂土として、來り遊ぶもの群をなすといへり。

富士本社 (駿河)

八采玲瓏の芙蓉峯元として東海の天に聳へ、海面を抜くこと一萬二千三百七十尺、山容の偉麗にして、雄大の風景に富むこと、風に五州に傳稱せらる、山頂の淺間ヶ嶽に、一字の神祠ありて、木花咲耶姫を奉祀す、即ち、富士山本宮奥の宮にして、山の威靈を仰いで登山するもの、この祠前に禮拜して、六根の清淨なる誓はざるものなく、其傍に、講中信徒の籠所ありて、都良香の撰みし富士山記を刻せる石碑亦た其側にあり、祠宇は巖石によりて建てられ、元より宏壯偉麗の觀かしと雖も、注連繩をかめしく張りわたされて、一種ふべからざる神威の、祠頭に表示せらるゝを感ずべし。

勝沼町及祝村葡萄園 (甲斐)

大黒天印甲斐産葡萄酒の製造所が、年々數千石の美酒を醸造する原料は、この葡萄園より供給さるゝものなり。甲州の葡萄栽培に適せるは、三百年來其名聲を博して、果實としての販路も莫大なるものなりき、明治十年以降、佛國より、イサベラ、コンコルド、カトウパ等の良種を取寄せ、益其栽培を奨励してよりこの祝村附近は、葡萄の良園となりて、見渡すかぎり、葡萄棚野を掩ふて、夏時繁茂の際にいたれば、奇觀目を驚かすばかりなりといふ、この園より採集さるゝ葡萄は、大黒天印葡萄酒の原料となり、餘れるは各地の市場に上りて、衛生的の好果物となり、其収獲の利益は近來よく加りたりといふ。如是き結果は、甲斐産葡萄酒醸造元なる宮崎光太郎の功勞として、園の各持主より、先年同人に感謝状と金杯を贈進したる由なり。

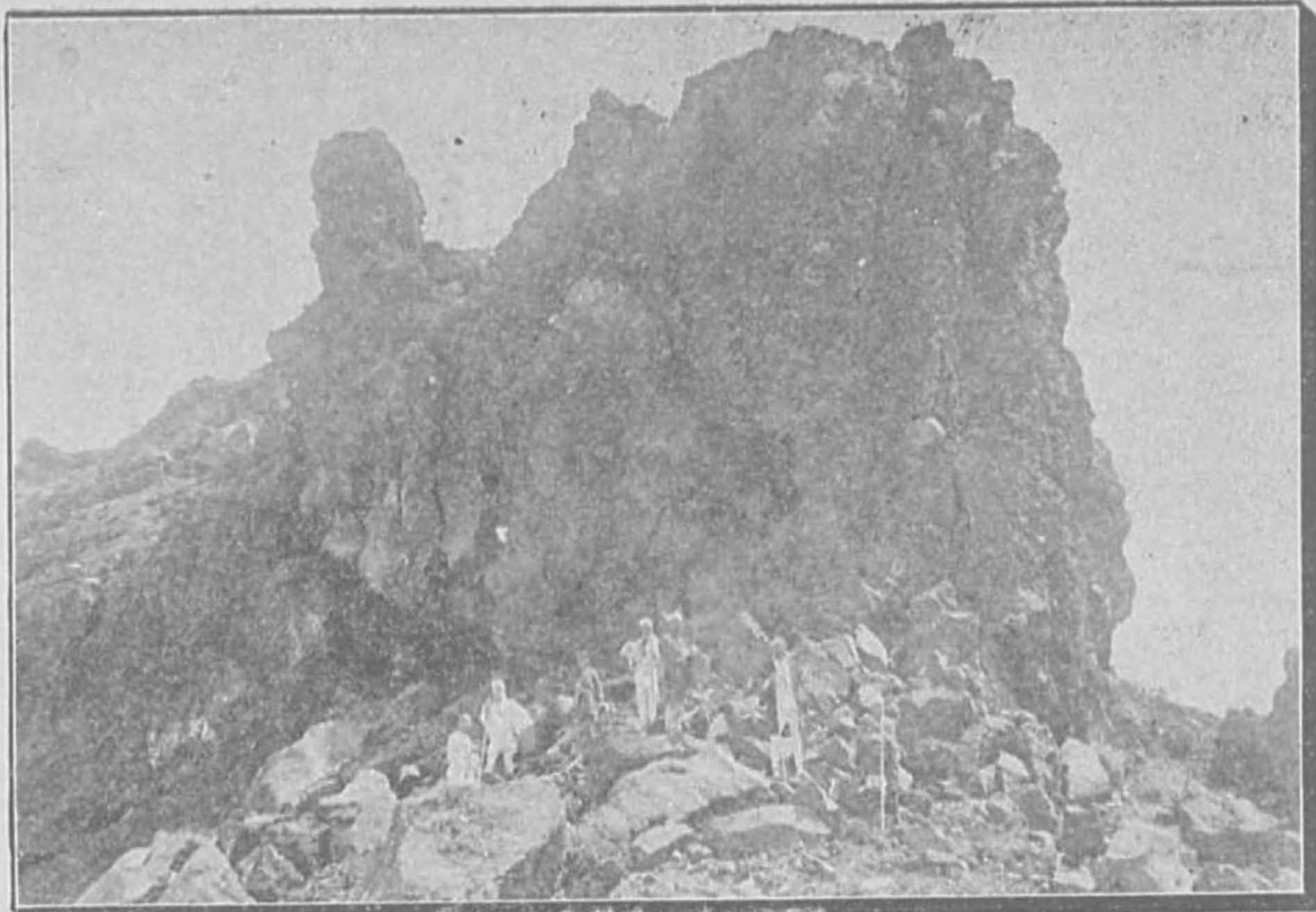
白山ヶ岳 (駿河)

富士山の絶頂に峙つ峰巒の一にして、巉岩磊々として峰腰を繞り、白雲とくに尖角を掠めて去來す、其峭絶偉絶なること筆紙の盡すべしにあらす、元來富士山は、一箇の休火山にして、山頂には、直徑凡そ十二三町に及ぶ舊噴火口ありて、所謂八采の芙蓉をさせる丘岳は、其周圍に並峙せるものあり、富士の名岳たるは、世界億民の等しく唱ふところ、而して、山嶺に於ける奇觀偉景は、これ等の小峭峰によりて呈せらるゝものにて、白山ヶ岳の如きは、即ち、其一に數へらるゝものなり、富嶽を詠せし詩文多し、秋玉山の詩曰、帝掬崑崙雪、置之扶桑東。突兀五千仞、芙蓉插碧空、頼山陽これを翻して曰く、帝掬芙蓉雪、抛作崑崙山。雪汗即黃河。却向東海遠。

甲斐産葡萄酒醸造所 (甲斐)

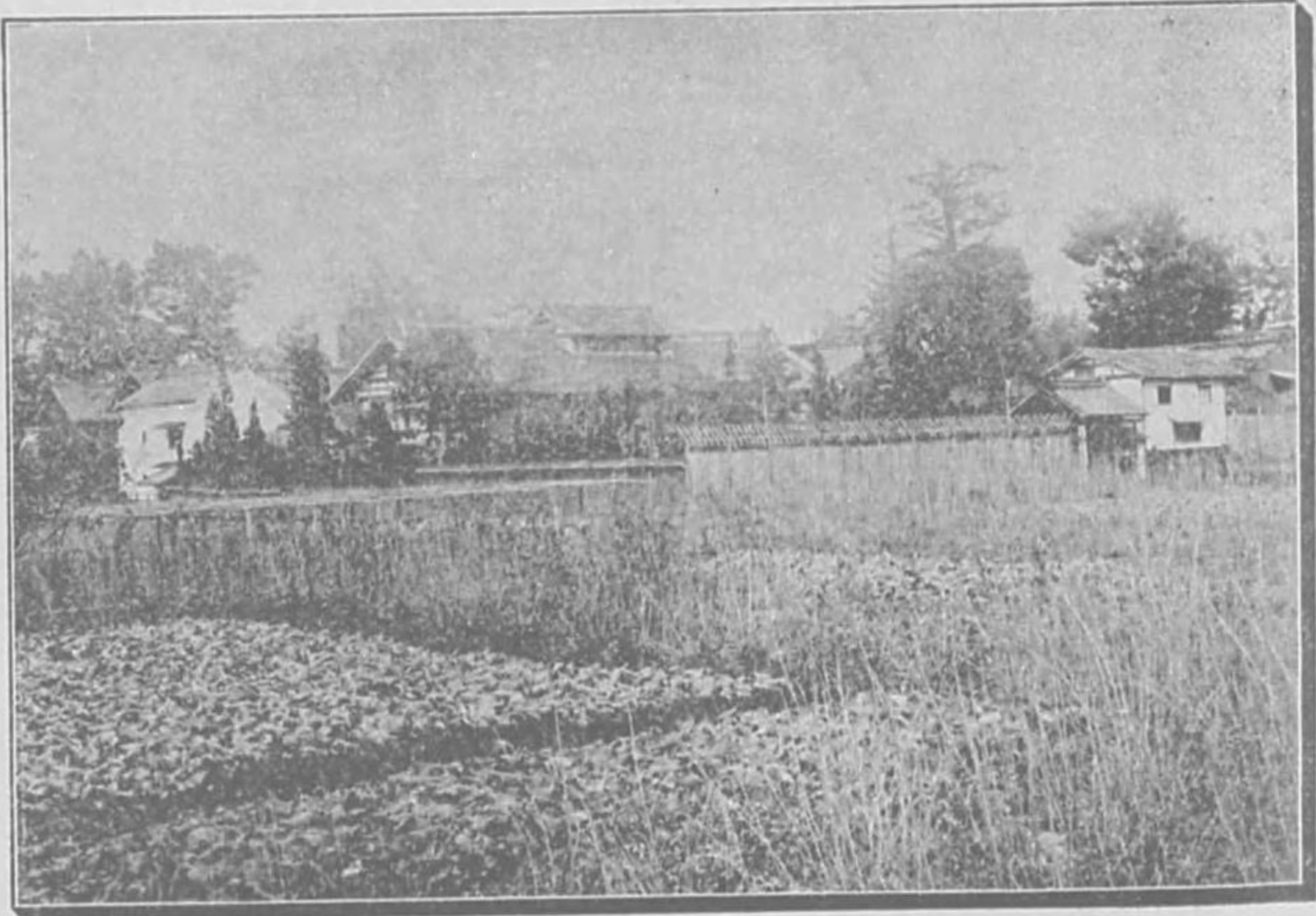
山梨縣東八代郡祝村にあり、明治十年土地の有志者發起して葡萄酒醸造會社を起し、傳習生を佛國へ派遣し、十二年より醸造に着手したるも、其成績の不良なりし爲め、十六年に至り中止したり、然るに、現時の醸造所持主ある宮崎光太郎は、大にこれを憤慨し、獨力を以てこれを再興し、苦心慘憺の上にて、醸造法其他の改良を施し、明治廿一年東京市に販賣店を設けて、經營に盡力せし効果空しくならず、品質次第に醇粹となりて、諸醫博士の高評を博し、一躍して帝國醫科大學の用品に充てられ、續いて宮内省よりも御用の用品に蒙るに至れり、今や、大黒天印甲斐産葡萄酒の名聲は全國にひびき、衛生的好飲料品として海外よりの輸入品を壓倒し、事業ますます々々擴張されつゝあり、其醸造高も年々三千石に達すといふ。

(駿河) 富士頂上白山ヶ岳



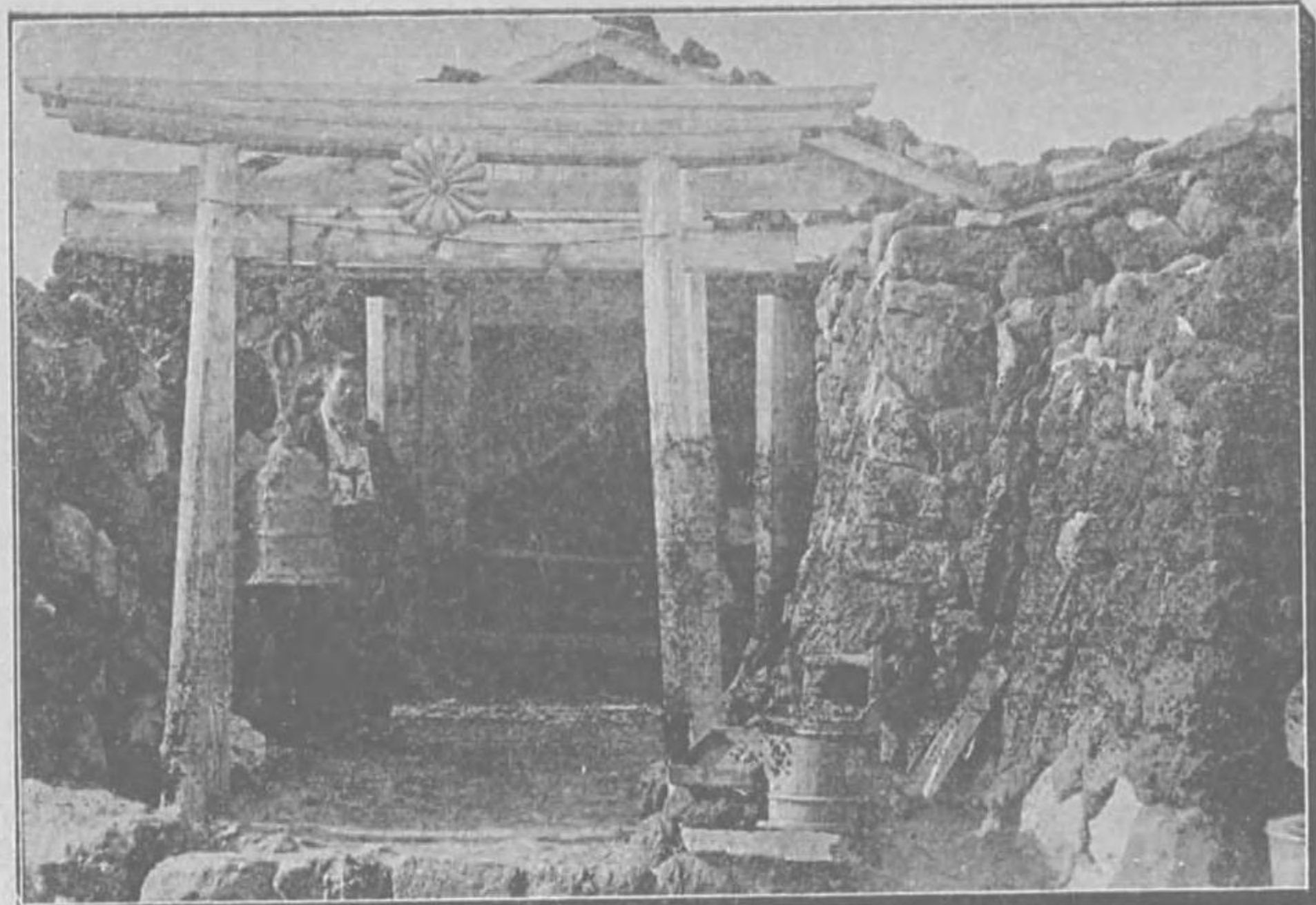
Hakusan-ga-take on Fuji-no-yama; Suruga.

(甲斐祝村) 大黒天印葡萄酒醸造所



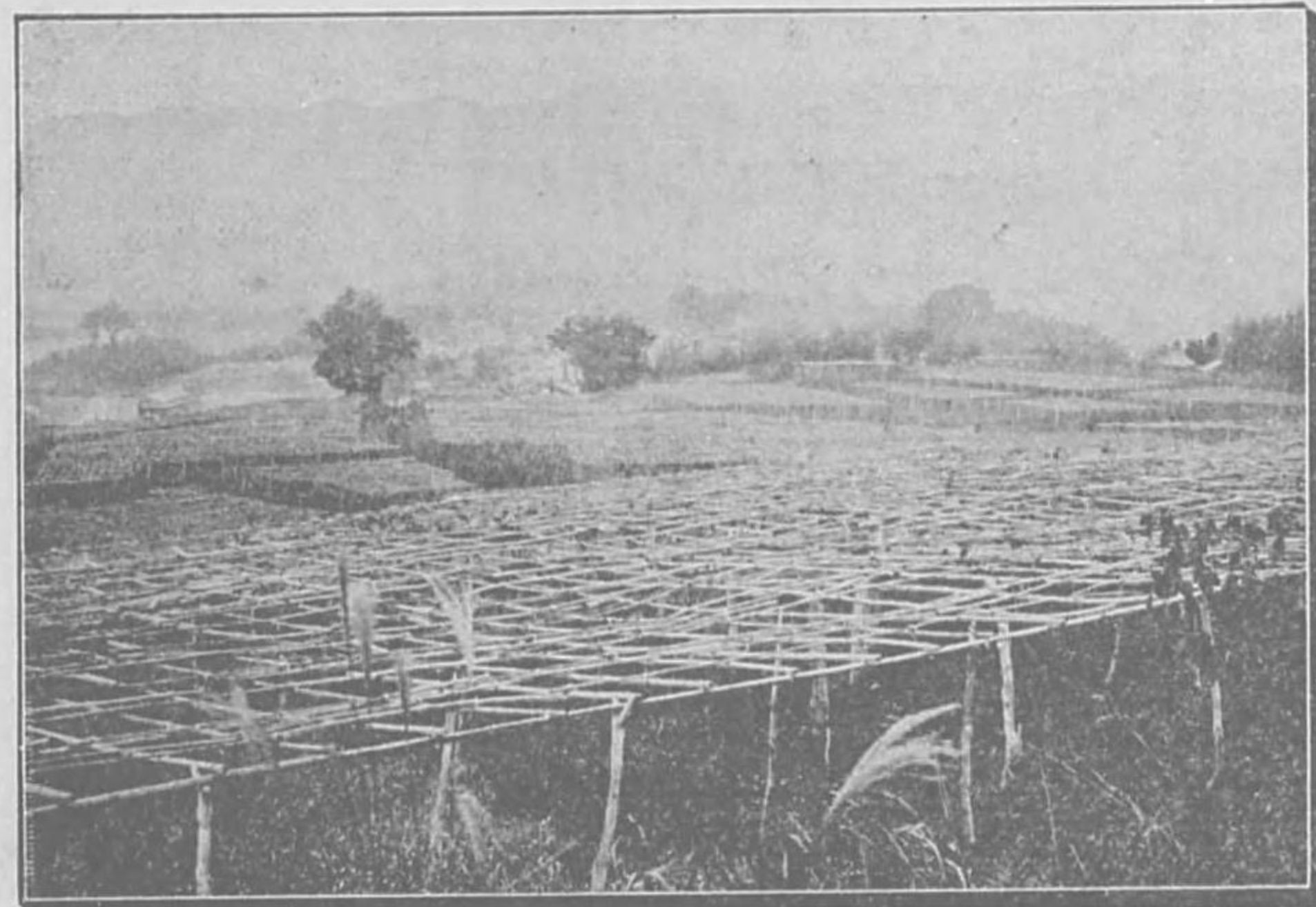
Daikoku Brand Wine Distilling; Kai.

(駿河) 富士山本社



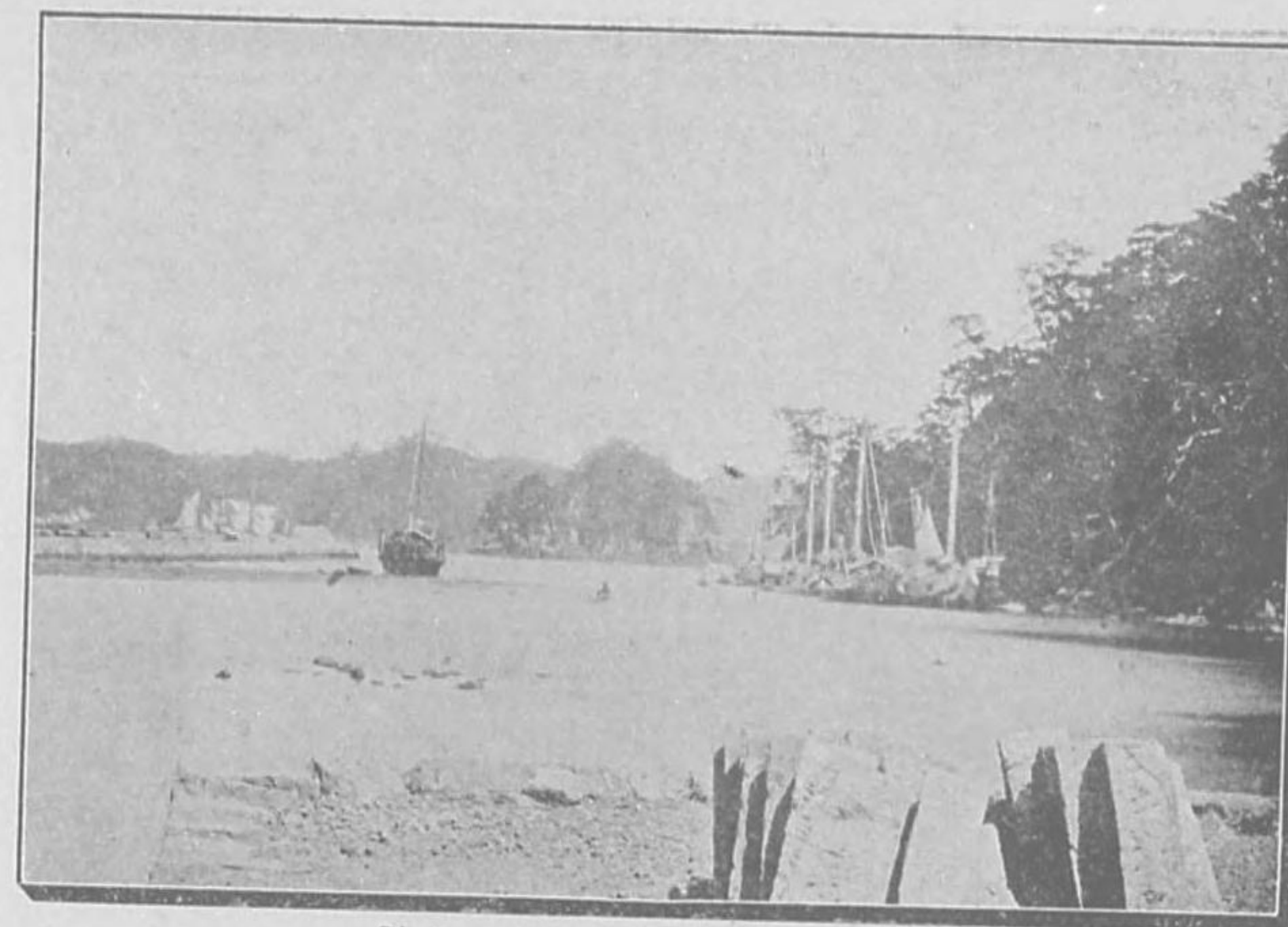
Head Quarters of Fuji Shinto-Temple; Suruga.

(全勝沼町) 全原料栽培園



Vineyard of Daikoku Brand Win. Distilling House.

(伊豆) 下田辨天祠遠景



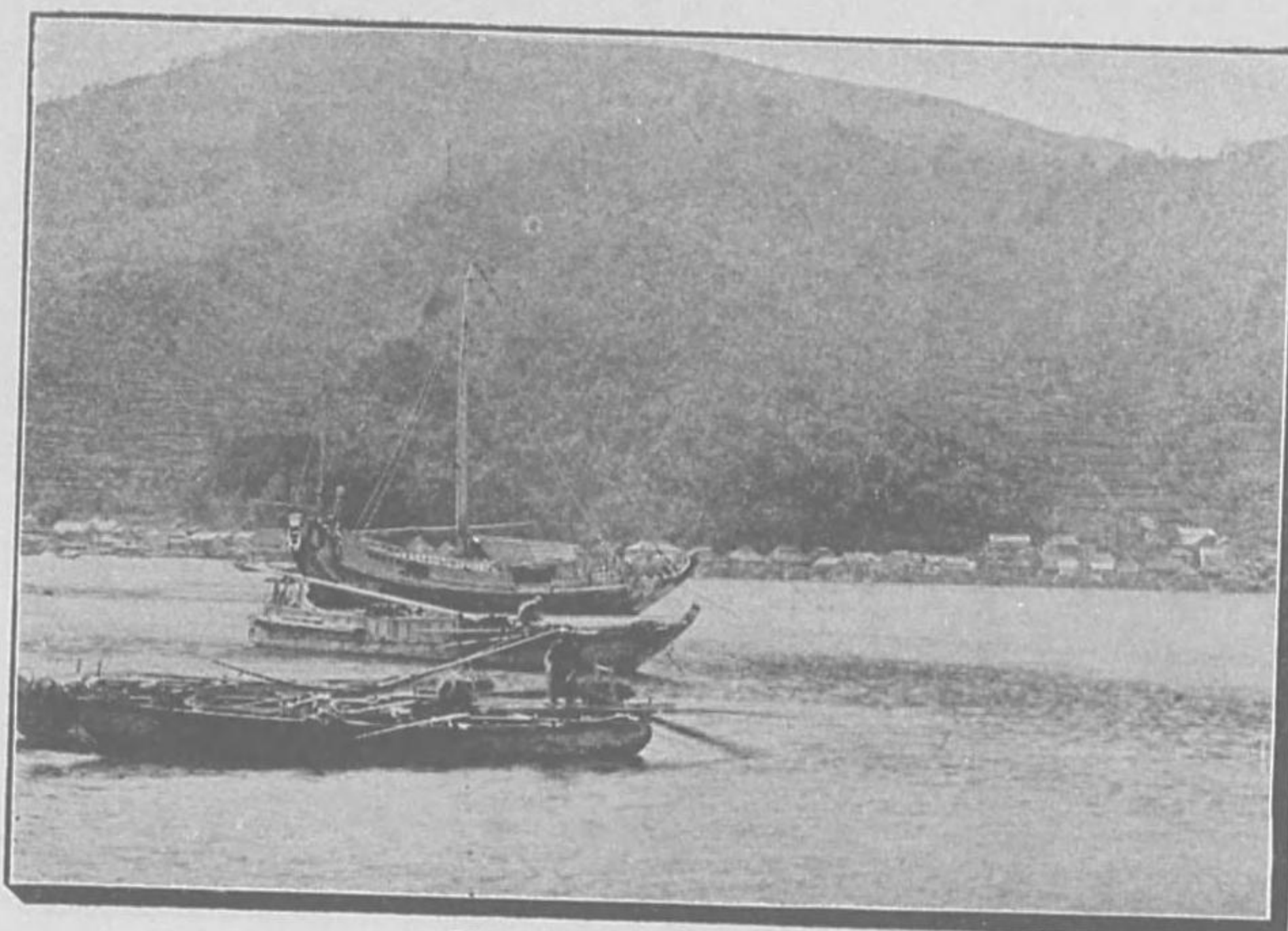
Shrine of Benten at Shimoda; Idzu.

(伊豆菟山) 北條時政木像



Wooden Image of Hōjō Tokimasa; Idzu

(伊豆) 戸田港



Heta Harbor; Idzu.

(伊豆菟山) 北條時政の墓



Tomb of Hōjō Tokimasa; Idzu.

北條時政の像及墳墓

(伊豆)

豆州は、源氏起業の地にして、到るところ感慨の府多し。田方郡菟山村の如きも其一にして、長祿年中伊勢新九郎長氏この地に崛起してより代々樞要の地となり、山勢地状自から行人の目を惹くものあり。天守君山願成就院金鶴林寺は、この地の字北條にありて、北條時政の木像を安置す、時政の人となりは、世論概ね老奸猾賊を以て排斥せざるなきも、源氏創業の事が、其手腕に頼りしもの多きを見れば又一世の傑物たるを失はず、この木像に對すれば、自ら不可云底の感生せん、寺前の畝中に、一基の墳墓あり、これ、其遺骸を葬りしてふ跡にして、離々たる草の附近に茂れるは自ら憑吊の念を深からしむ。

戸田港 (伊豆)

沼津町を距ること南方四里半、戸田村の海岸にあり、灣の入口狭くして、恰も囊を括りし如く、水深く波穏にして、船舶の碇泊によしこの港は日本の造船術に關係深きものにして其由来を尋ねるに、安政元年、魯艦下田港附近に難破せしより、乗組提督アーチャチン、この港の船渠に適せるを以て、幕府に乞ふて修繕の爲めに寄港せんとせしに、途中再び風破に遭ふて沈没せり、提督以下は、この港に上陸し、地の船匠を指致して、スクーネル形の船一艘を造り、乗じて歸國せり、この時に船匠等は始めて西洋形の船を造ることを學び、其後幕府の爲めに數艘を造り、後に、其技に上達して、我國造船業の魁首となりしもの多し、明治廿五年アーチャチンの遺女この地を訪ひ來りて、金圓をのこして紀念の意を表せしといふ。

下田辨天 (伊豆)

伊豆半島は、太平洋に斗出せる陸地にして中央に天城嶺の雲に聳ゆるあり、山系逶迤として全國に亘り、溪間、奇峰數處に迫あらず南方に開きたる山裾の極まるところは、即ち下田港にして、州の風景もここに盡く、港内の風波穏にして鏡の如く、小島岬角錯出紛在して、真に一幅の畫圖たり、下田辨天はこの地に鎮坐する鎮守にして、境内の幽にして靜なるは、近傍稀に見るところなり、概ね風光の明媚なるところには、必ず神祠の存するあるは、全國到る處皆然り、この下田港が伊豆半島の南端に在りて、山を控へ水に臨み瀟酒にして濛濛なる佳景に富むは、妙音天女の祠堂を設ぐるに、尤も相應しきを覺ふ、觀風の旅客は、必ず祠前に賽して、松籟の琵琶を彈ずるを聴くべきなり。

熱海海水浴 (伊豆)

熱海の温泉を以て名高きは、冷なく世人の知るところなり、而して、夏日に至れば、更に海水浴ありて、避暑の客を満足せしむ、熱海の海岸は、砂白く水清くして、南風波を起すも高からず、海水碧を湛ふるも深からず、海水浴場として屈強の滴場たり、特に、風景の絶佳なるは、稀に見るところにして、後方には巍々たる白壁粉塗を隔て、緑樹まげさ山あり、前面は、波路はるけく相模洋に連なりて近く初島の温谷を望み、近く大島の翠黛と三浦半島一帯の青螺を眺むべし、この風景に對して、身を清波に投せば、炎熱と共に胸中の塵をも洗ひ流して、自ら仙境に遊べる心地すべし。

兒ヶ淵

豆州は、源頼朝が熱伏時代を經過せし土地にして、諸處に古蹟多し、伊東は、其昔し伊東祐親の住せし處にして、頼朝のこの處にありしとき、其女八重姫と情交を通じて、千鶴丸といへる兒を擧げたり、然るに、祐親は平家の忠臣たりしか故に、深く之を憤り、臣下に命じて、其兒を海岸より水に投せしめ、その處を今に兒ヶ淵と稱す。碧潭を湛へて波浪を覺ゆ、崖に激し形勢慘として、冷氣肌に迫るを覺ゆ、渦まき波浪は、そのひかし可憐の嬰兒を投じたりし怨を告ぐるが如く、自ら感慨の胸中に生ずるものあらん、この淵を「屈が淵」といふ、或は「恩ヶ淵」ともいへり、頼朝が八重姫と密會せして「日暮の森」もこの附近にありといふ。

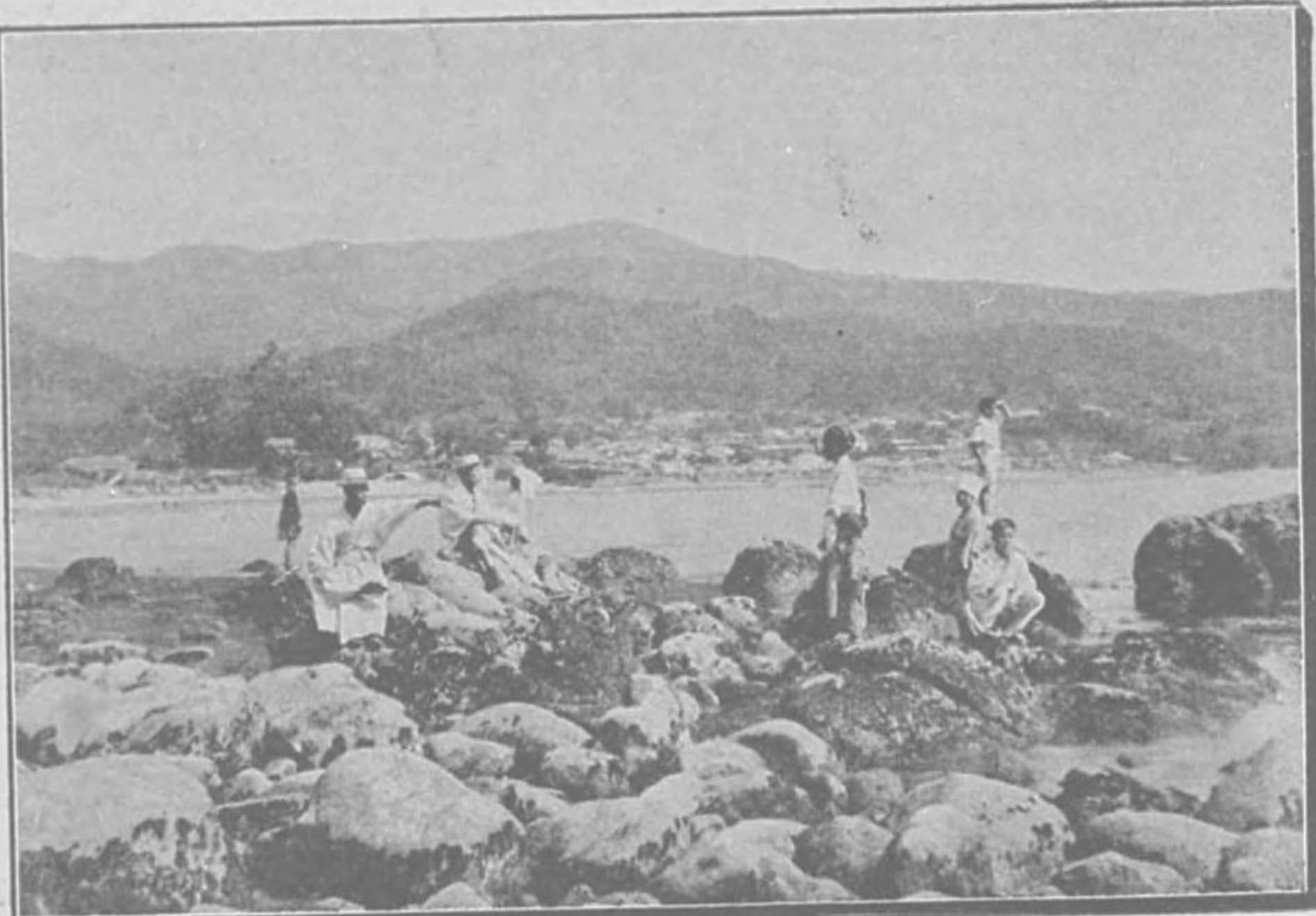
熱海大湯 (伊豆)

地文學上に「ゲyser」と稱するものは、地中より時を定めて熱湯を噴出するものにて、我國にては、たゞ熱海の大湯と稱するもの一あるのみ、大湯は、晝夜三回一定の時を以て噴出する而已にして、他は、靜穩なるものなり、時に稍々長時間湧出するあり、その時は、概ね十二時間に亘る、假りに、午前五時に湧出すれば午後五時に至りて休み、それより、十二時間靜止して一滴を出さず、其後に至りて漸々舊に復して、遂に平日の如く一定の時間に復す、湯の噴出する始めは、岩石の間より、泡沫の如く湧き出で、漸くにして沸騰するに至れば、雷の如き聲を發して噴起し騰々たる蒸氣と共に熱湯を迸出す、人之之に近づけば危害あるを以て、今は柵を設けて近づくを禁せり。

熱海町 (伊豆)

日本に温泉多きも、春夏秋冬を通じて浴客の群集するものは、熱海に若くはなし、この地は、三方山を以て繞らし、東南の一隅のみ海に面して開きたるを以て、冬は、西北風及び北風の寒威を吹き送るを拒ぎ、夏は、涼風南より來るによろし、故に、冬は暖に、夏は涼しく、加之に、靈泉のあるありて、地を掘ると數尺なれば、到るところに温泉の湧出するを見るべし、真に天然の樂境にして、保身養生の好仙境たり、且つ、己に山を負ひ水に臨むを以て、風景の絶佳なる其比なく、今や、戸數五百戸以上に及び、各温泉宿は、敬層の高樓を構へて輪奐の美を極め、貴顯紳紳亦た別墅を設けて、遣閑の場所とせり、其繁華なること、まことに豫想の外にありとす。

(伊豆) 熱海海水浴



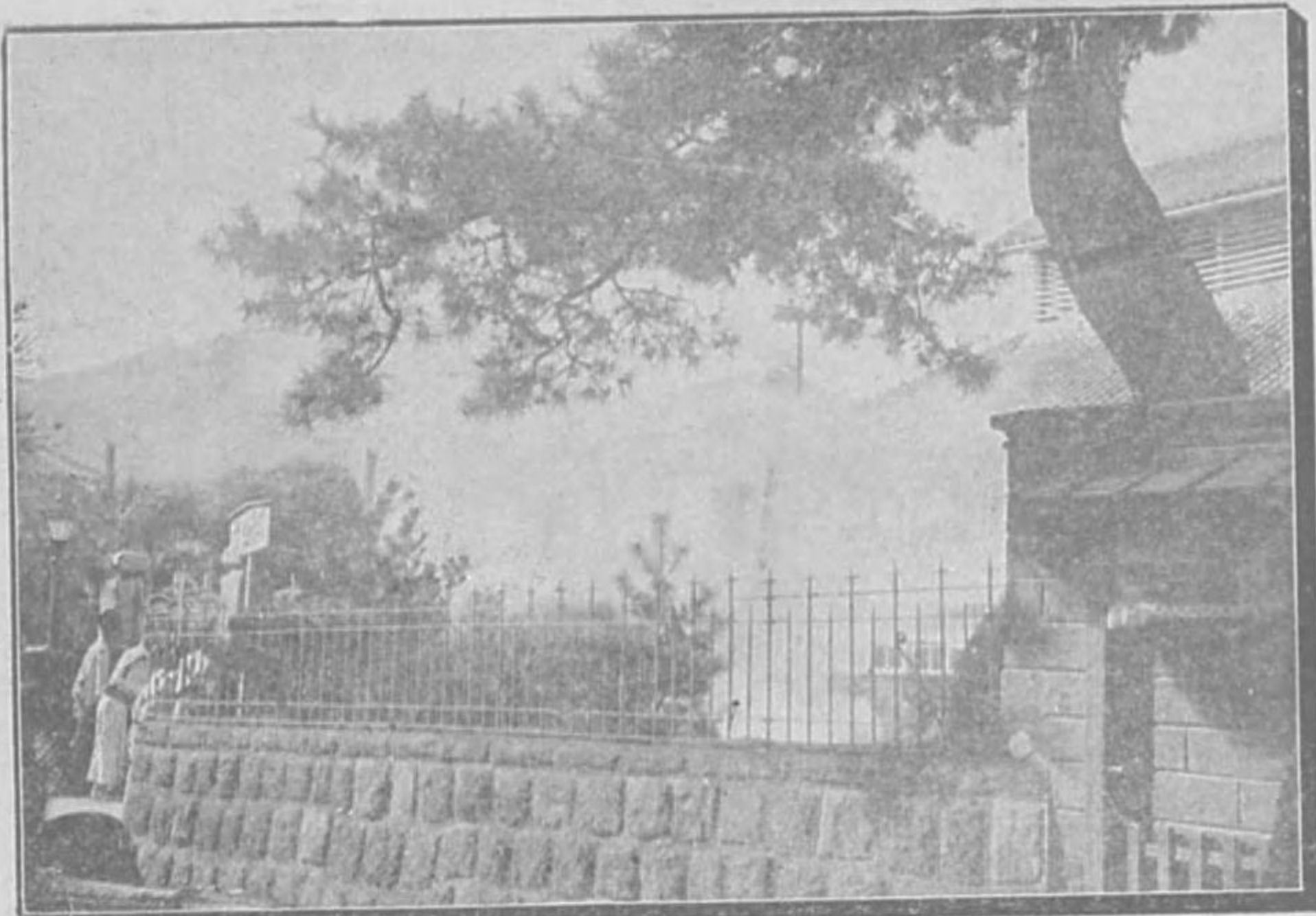
Sea Beach at Atami, Idzu.

(伊豆伊東) 兒ヶ淵



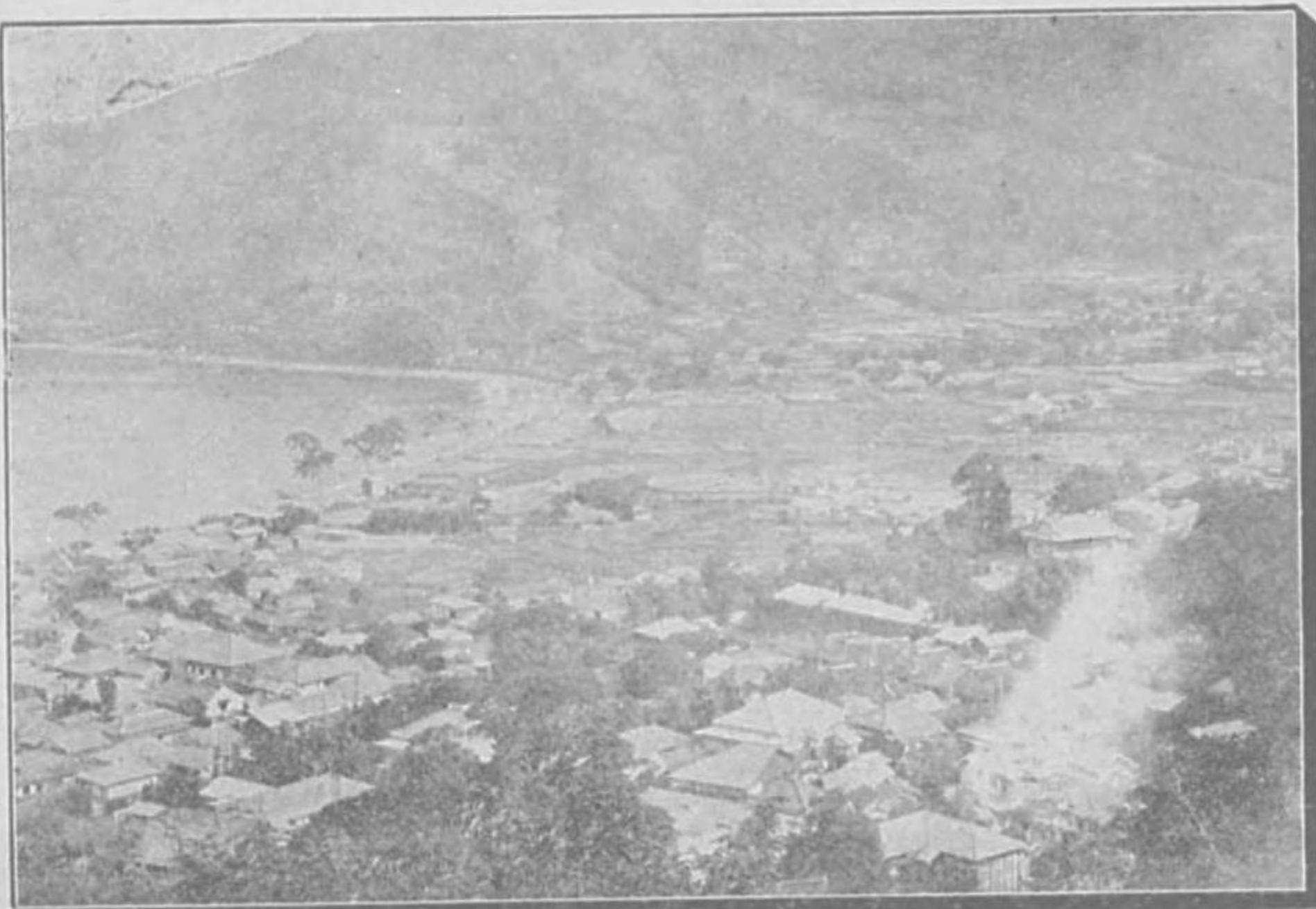
Chigoga-fuchi at Itō, Idzu.

(伊豆熱海) 源泉の沸騰



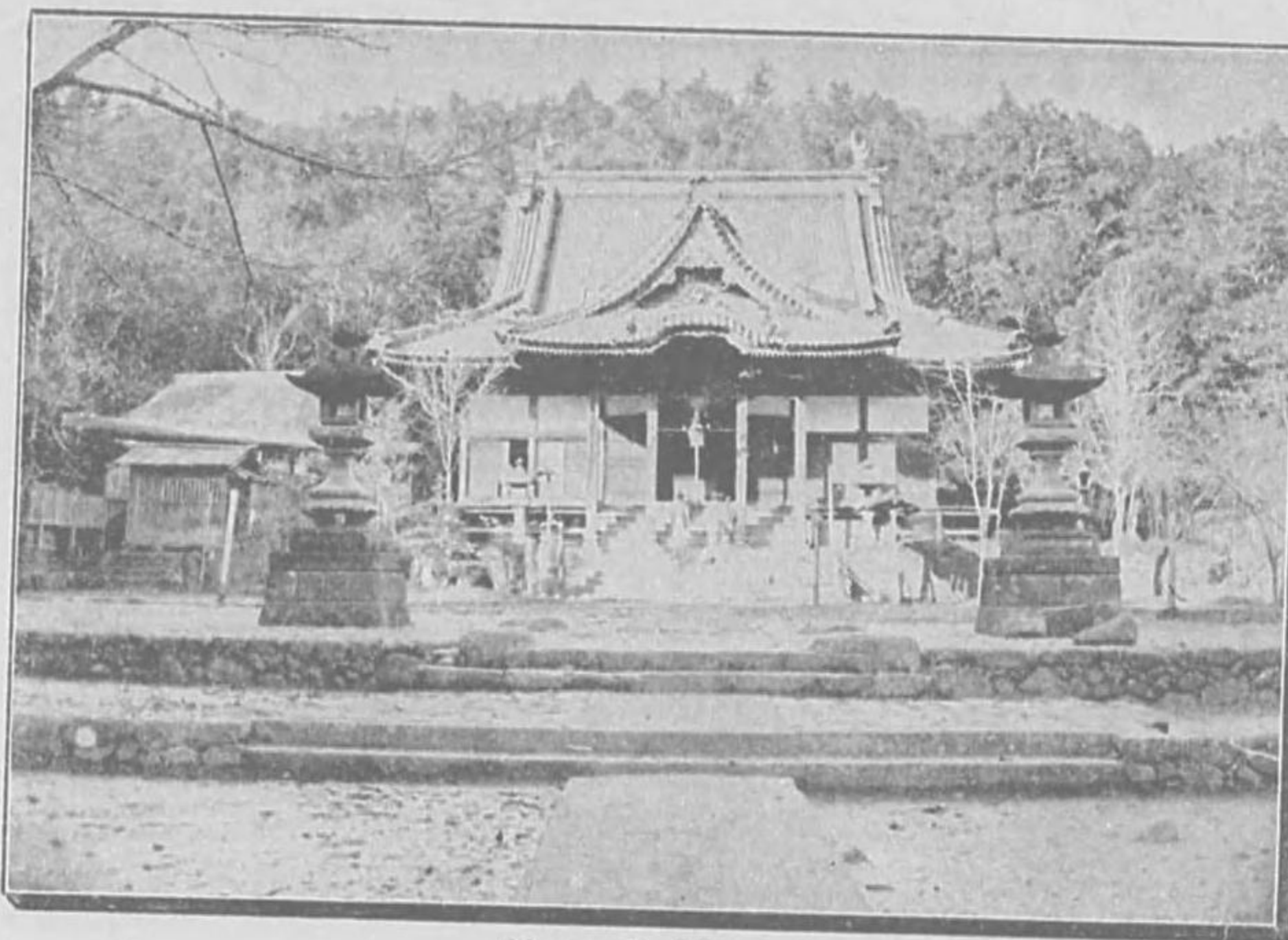
Geyser at Atami; Idzu.

(伊豆) 熱海温泉場



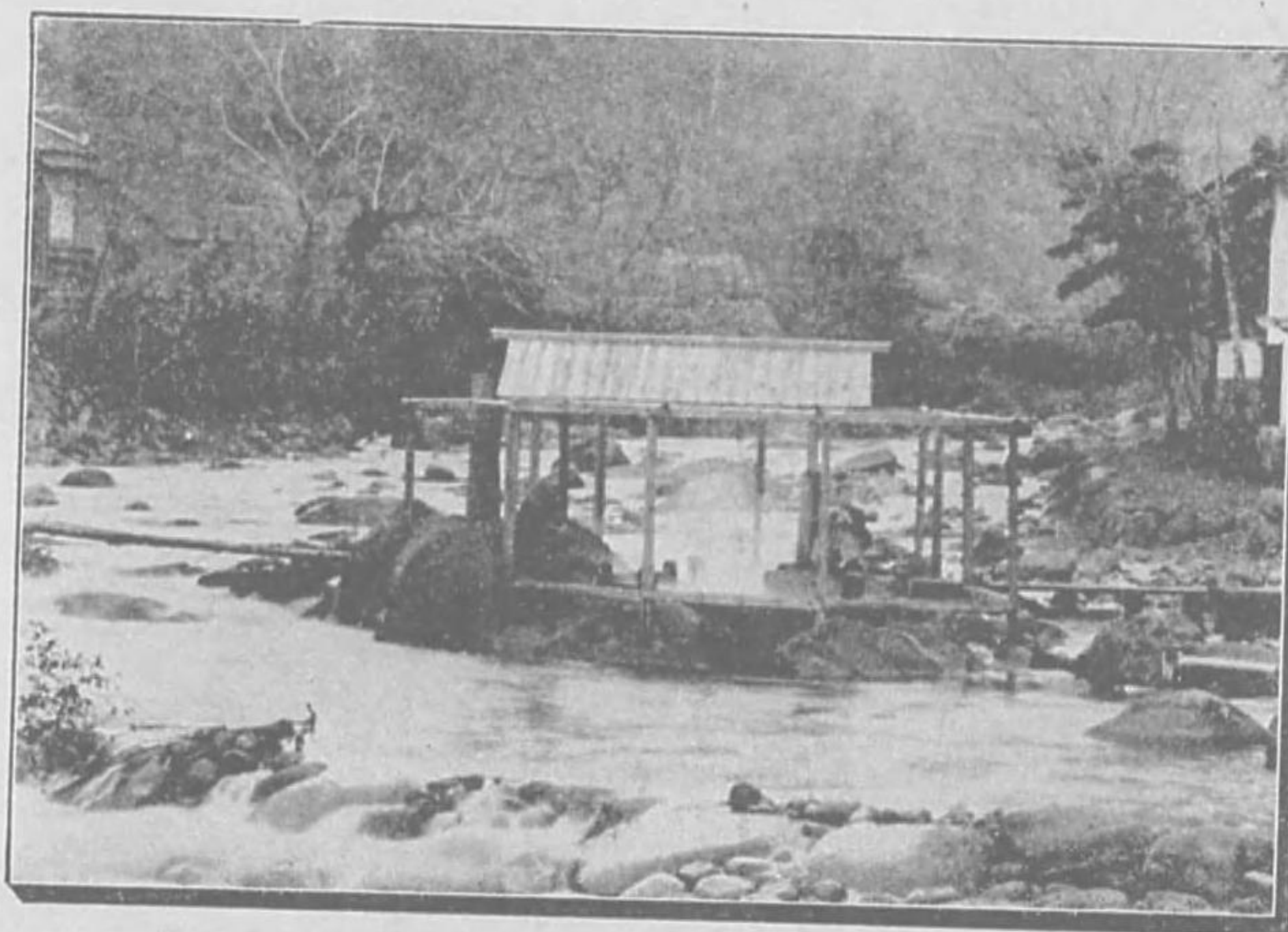
Atami Hot-Springs; Idzu.

(伊豆) 修善寺



Shuzen-ji, Idzu.

(伊豆修善寺) 獨鈷の湯



Dokko Hot-springs at Shuzenji, Idzu.

(伊豆修善寺) 源頼家の墓



Tomb of Yoritomo at Shuzenji; Idzu.

(伊豆修善寺) 源範頼の墓



Tomb of Noriyori at Shuzenji; Idzu.

修善寺

(伊豆修善寺)

君澤郡修善寺温泉場所在地にあり、大同二年に空海上人の創基せる古寺なり、境地閑靜にして堂宇古雅、自ら佛陀の靈境たるを想はしむ、この寺は、建長年間に至りて、宋人劉蘭といへる僧渡して、その住するところとなり、それより、宗旨を改めて臨濟派曹洞宗となれりといふ、修善寺の名は、歴史に記載せられて名高きものにて、源範頼の自殺し、頼家の弑されしも、共に、この寺なりしといふ、寺に寶物多し、尼將軍平政子の奉納せし宋判の放光般若波羅密を經、空海の傳へし、香爐、日蓮自筆の法華經、等あり、又、北條早雲、豊臣秀吉の自筆をも藏せりといふ。

源頼家の墓

(伊豆修善寺)

修善寺温泉の境を貫いて、桂川の清溪ながる、川の南方に三洲園あり、昔し、平政子この地に登り、明月を指して夫頼朝を追懐せりといふを以て、指月の岡の稱ありき、指月殿といへる、小堂今尙ありて其近傍に頼家の墳墓あり、頼家は、源家の嫡流にして、かの政子の爲に擯けられ、時政の毒手にて弑されしものなり、政子が月を望んで夫を慕ひし心は、夫の遺児たる頼家に向ふて輝かざりき、今や、この丘上の、指月殿の小宇は、薄命なる小將軍の墓と共に存せり、來り訪ふもの、誰か感慨なからんや、この地は、久しく荒廢して、荆棘の封ずるところとなりしを、近年里人を、披きて一の遊園地となせり。

獨鈷の湯

(伊豆修善寺)

豆州温泉中、最も幽靜の趣に富むもの、實に修善寺を推して第一となす、此地は大同年間に方り僧空海一寺を創して修善寺と號せしより終に村名となれりと傳ふ、地形南北に山を負ひ東西僅かに通じ、恰も藥研の底の如し、桂川中央を縦斷し、温泉河中に湧出す、故に又湯川の稱あり、奇巖中流に起伏し急湍之に激して飛沫を迸らす有様、眞に奇觀なり、湧泉の數多きが中にも、獨鈷の湯は川の中流に湧き、磐石を穿ちて湯槽となし、板を以て其中を劃し、以て冷湯温湯を分ち、岩上に獨鈷形の石標を建てたる、是れ其名の出所にし、天明年中、修善寺の住僧大鼎和尚の創建する所なりと言へり、虎溪橋、渡月橋など、名勝の記すべきもの多けれど、今は畧しぬ。

源範頼の墓

(伊豆修善寺)

伊豆は、到るところ、感慨の地多く、修善寺の如きは、其隨一たるものなり、桂川の南北にあたりて、一碑の存するものあり、傳へいふ源範頼の墳墓なりと、範頼が、京に義仲を亡ぼし、西國に平氏を伐つや、蒲冠者の勇名は一入白旗の色を鮮明にしたりしも、乱平ぐや頼朝の猜忌に觸れて修善寺に幽せられ、梶原景時の爲に攻められて、遂にこゝに自殺したるぬ、叔姪同じく同じ寺内に死して、墳墓亦た相近し、黄泉相見て應に痛哭すべきなり、墓石は、荆棘に埋没し了せざるも、源家一雄將の墓としては、自ら凄寂を感せしむるものあり、修善寺に行くもの、正に墓前に英魂を吊ふことを忘るべからず。

下田港 舟田旅店 (伊豆)

伊豆半島の南端に下田港あり、維新前には、外國船の寄港せしとありて、世にも名高き海灣たり、伊豆半島は、相模洋、遠州灘を左右に控へたる一大突出にして、港は其最南端にある故に、船舶の出入頗る多く、商業殷盛にして交通の一大要樞たり、市坊の数は十八に及び戸數千戸に近く、人口四千に達すといへり、船客のこの地に入るものは、先づ上陸して航路の嚮を慰めんと欲するもの多く、數多の旅宿は、これ等の爲に設けらる、就中舟田旅店は、其最たるものにして、構造頗る大にして、客を遇することも厚く、旅客の尤も満足するところなりといふ。

上船原鈴木旅館 (伊豆)

君澤郡中狩野村大字上船原にありて、泉質は鹽類泉なり。この地は、道程の不便なる爲めに、浴客の至るもの尠なく、年々一千人を超へずといふ、旅館鈴木某はこの地の巨屋にして、以て紳縉豪客をも宿せしむべし、通例、温泉場の交通便利なるものは、浴客群集して、境の静閑を破るものなり、この地は、僅に道路不便なる爲めに、この煩なく加之に、鈴木旅館の如き好宿泊所あり、靜かに讀書を試み、又は、自在に風景を獨占せんとするものに向ふては、世に得難き場所なるべし。

芳名館 (伊豆)

田方郡上狩野村の吉奈温泉にある旅館なり、吉奈の地たる、天城山の北麓にあり、峯巒峩々として三面を圍み、吉奈川の清流涑々として貫流す、景色の明媚にして、四境の閑靜なること、近傍の温泉場に冠たり。傳へいふ、昔時行基菩薩この地に錫を止め、堂宇を建立して、釋迦佛及び藥師如來の尊像を安置してより、靈泉湧出して萬病を癒やすにいたれりと、今の醫王山善名寺は、即ちその跡なり、芳名館は、この佳境にある旅館の尤も完全なるものにして、客室の構造より、諸器具の備へ付けに至るまで、夙に、江湖の喝采を博しつゝあり。

山田旅店 (伊豆伊東)

伊東温泉は、賀茂郡の海濱にありて、三面山を負ひて、一面は海に臨み、氣候溫和にして夏冬ともに人身に適す、温泉は、諸所に湧出し、猪戸は尤も有名なり、往昔兼葭茫々として茂り合ひし中より湧き出でしに、負傷したる野猪のこれに浴せるを見て、初めて其効能あるを知り、因て猪戸と稱せりと傳説す、浴戸は甚だ多きも、山田旅館は、其結構附置に於いて、この温泉中の尤なるものなりといふ、この地熱海を去るとあまり遠からぬも、途の便利ならざるより、往々訪ふもの稀なりしが、近來にいたりて、漸く其數をまし特に冬期は、寒氣を避くると共に、附近の山中に狩獵を試みんとて、往々浴するもの頗る多數を加へたりといふ。



Funada Inn at Shimoda; Idzu.

(伊豆下田) 舟田旅店



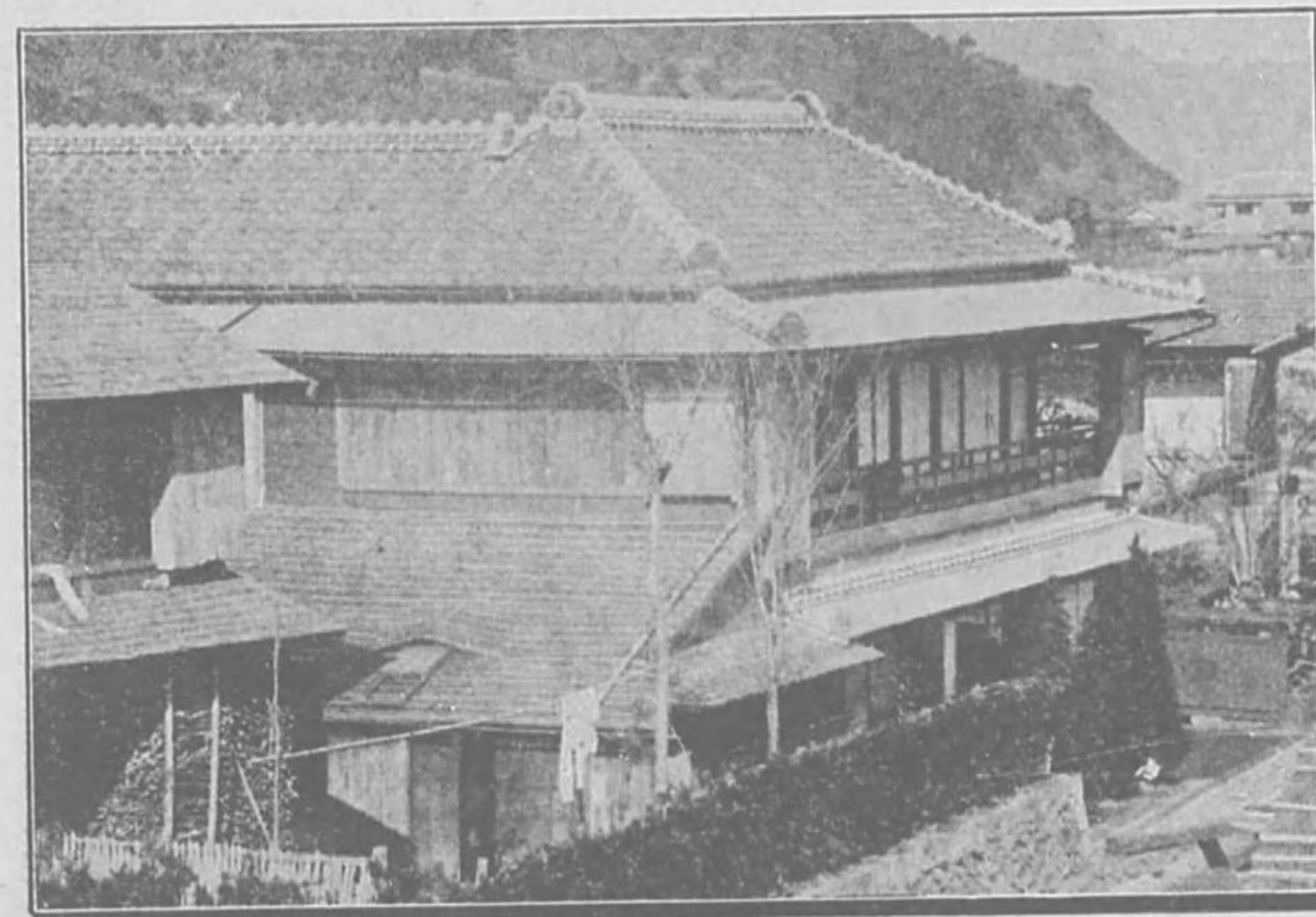
Suzuki Inn at Kani-Funwara Ho Springs; Idzu.

(伊豆船原温泉) 鈴木旅店



Yoshina-kwan at Yoshina; Idzu.

(伊豆芳名) 芳名館



Yamada-ya Inn at Ito; Idzu.

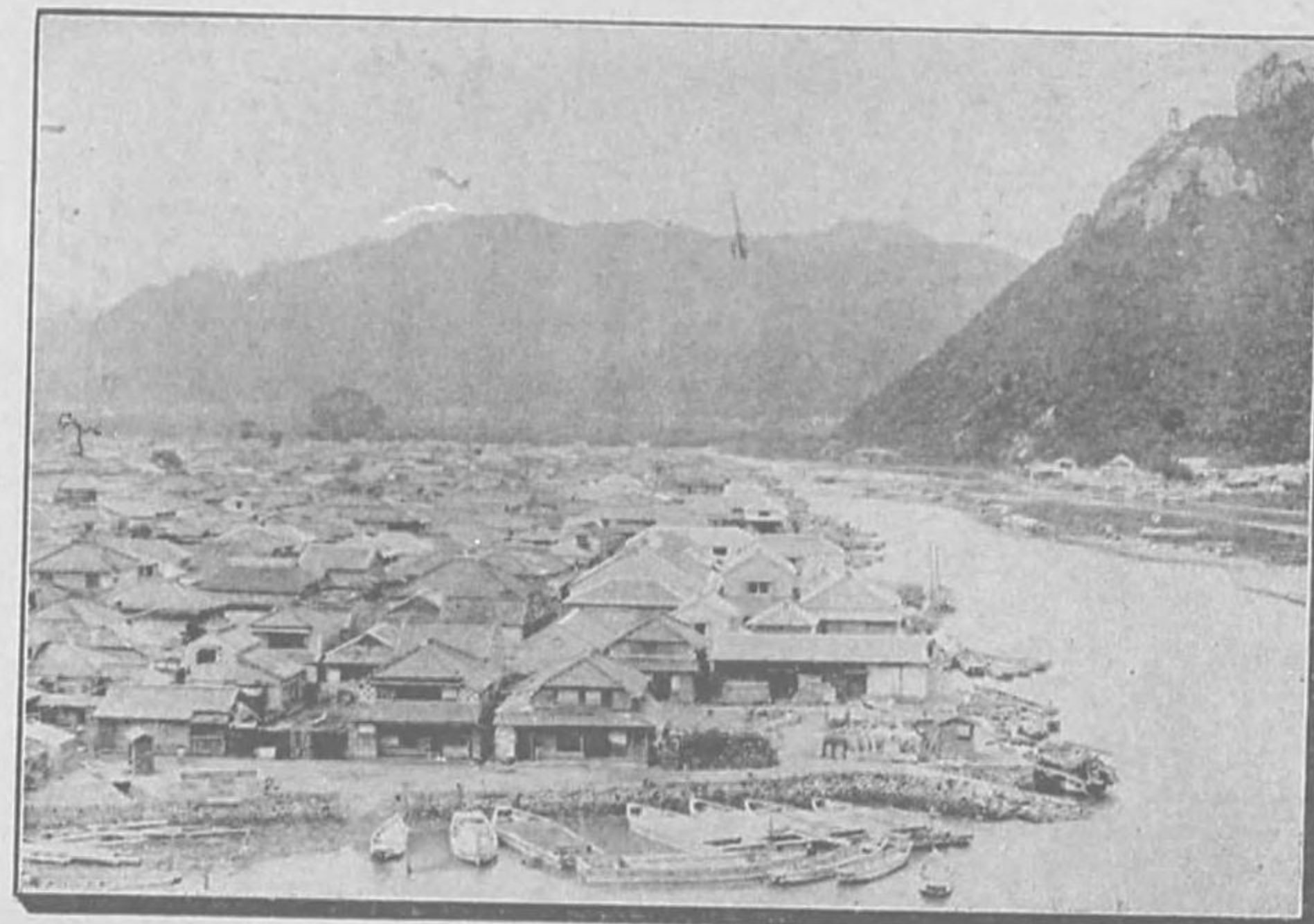
(伊豆伊東) 山田旅店

(伊豆玉泉寺) ヘルシー一行米人の墓



Tombs of Foreigners attached to the Perry Expedition.

(伊豆) 下田海岸



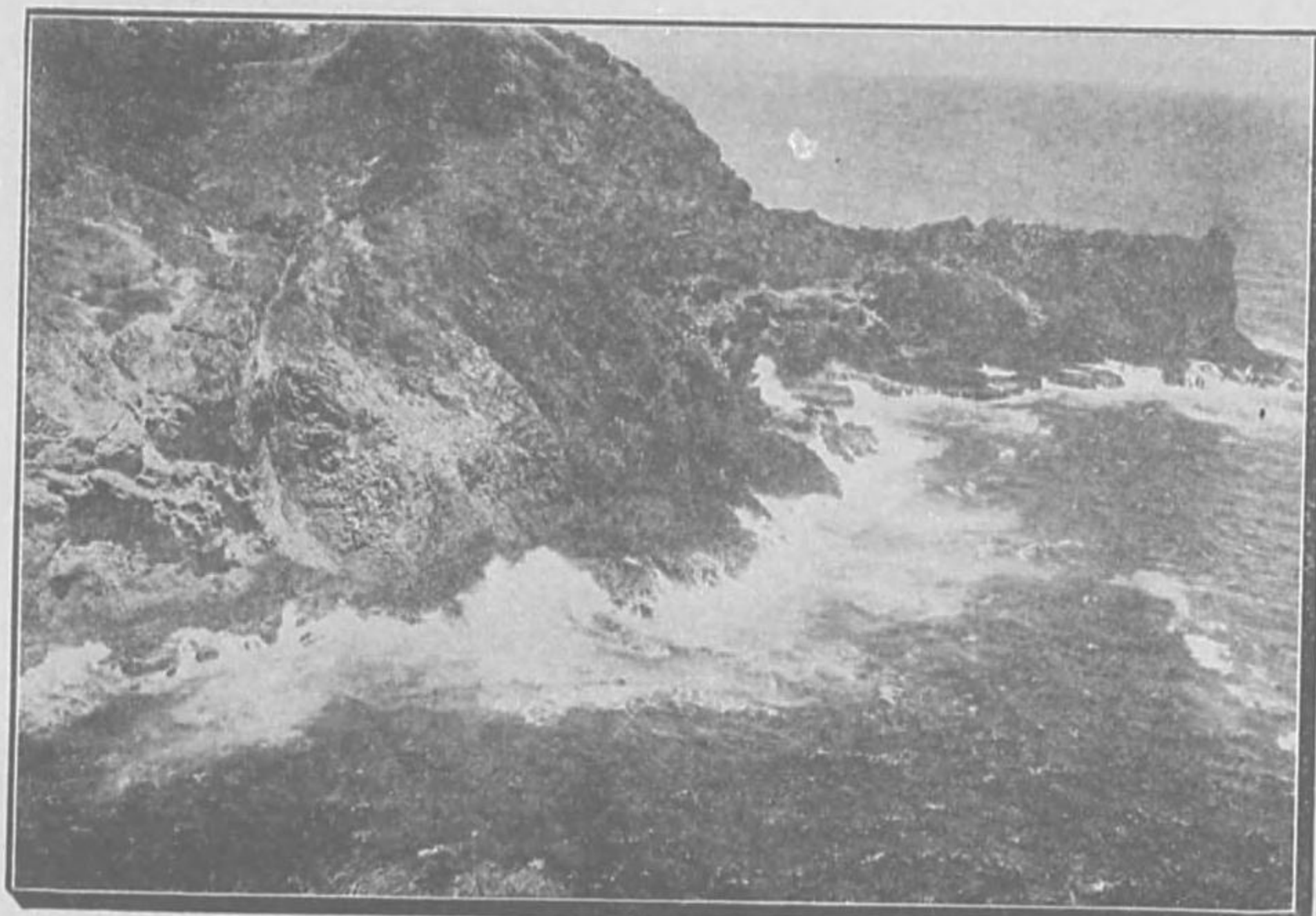
Shimoda Harbor; Idzu.

(伊豆鳥島) 信天翁群集



Cluster of Albatross at Tori-jima; Idzu.

(伊豆小笠原島) 母島



Iiaha Island of Bonin Group, Idzu.

玉泉寺米人之墓

(伊豆柿崎村)

夷人の黒船でふ叫聲が、上下の人心を驚殺せし嘉永年間に、好意を以て専ら開發誘導に勉めしは、米國人なりしとは、夙に世人の知るところなり、この米人中にて、當時我國に渡來せしもの、不幸にして病死したるものあり玉泉寺は、この死者の遺骸を葬りし寺にして其墳墓今日に至るも現存せり、萬里の異域に屍を埋むるに己に哀むべし、而して、これが、我國に對して友誼と仁義を以て對し渡來米人の最先者たるを懷は、更に感慨の切なるものあり、志ある人、若し節をこの地に與くとあらば、寺門を叩いて、其墳墓を掃ふも亦た日本男兒の面目ならん。

小笠原島の内母嶋

(伊豆)

日本の領土の最南端の海上にある大島にて、東京を去ると、海上二百二十二里許、父嶋と母嶋は、小笠原群嶋中の最大なるものにて、他の小嶋九十に垂んとす、母嶋は、就中、開けたるものにて、農耕漁魚のとも亦た發達せり、嶋はかく本州を離れたる海上にあるを以て、無人の境として長く傳へられしが、文祿年中、小笠原貞頼これを檢出し、因て氏を以て島とせり、地は、熱帯に近きを以て、植物の有様など内地と趣を殊にし、風土の形勢自ら異様なり、今や島廳ありて之を管理し、人口亦た増加せり。物産には、于鮓、棕櫚、レモン等あり。

鳥島の信天翁

(伊豆)

南洋の群島中に鳥島といへるありて、海鳥の一種なる信天翁多く棲息す、海岸などの岩上には、この鳥群居して羽を思ひ、糞堆積して恰も白堊の大塊を見る如しといふ、この鳥は形状の大なるにも似ず、甚だ遲鈍にして人を恐れず、故に、捕獲者は、容易に棍棒にて撲殺すといふ、難船者が孤島に上陸したるとき、この鳥を撲殺して、飢を凌ぎ(肉は元より美ならず)其筋を抜いて釣糸とし、其毛羽を集めて寒を凌ぎ、蓆に用ゐるなどは、しばしば傳聞するところあり、今日はこの鳥の捕獲に従事するもの多し、そは、その長大なる羽翼と、柔軟なる毛羽を獲んが爲なりとぞ。

下田海岸

(伊豆)

船に乗じて、東は相模洋の海波を凌ぎ、西は遠江洋の波濤を破り、漸く伊豆の南角に近づけば、一帶の沿岸風光自ら殊なるものあるを見ん。益々近づけば、山青く水穏かに、海岸には岬角錯出して、樹木の影水に落ち、遂に烟波靜なる灣口に向ふべし、灣口には、小島の松樹を負ふて立てるあり、奇岩の青を粧ふて峙つあり、海鳥翼を張りて飛び、飛帆風に孕んで走る、風景の佳いよ、佳なるべく、其間に、楯比の人家、白堊瓦光相映するものは即ち下田港ありとす。思ふに、昔し米國の使臣をのせて入りし船は、はじめて錨をこの港頭に投せり、當時の外國人は、けだしまづこの風光に打たれて、日本國土の美を嘆賞したるならんか。